

厚生労働行政推進調査事業費補助金

(障害者政策総合研究事業)

医療計画、障害福祉計画の効果的なモニタリング  
体制の構築のための研究

令和元年度 総括・分担研究報告書

研究代表者 山之内 芳雄

令和2(2020)年 4月

# 目次

## 総括研究報告

医療計画、障害福祉計画の効果的なモニタリング体制の構築のための研究 山之内 芳雄	-----1
---	--------

## 分担研究報告書

1. 第6期障害福祉計画策定に向けての地域包括ケアの成果目標の検討、医療計画に資するデータベース作成 山之内 芳雄	-----13
2. 第7次医療計画の統合的指標に関する検討 臼杵 理人	-----17
3. 効果的でわかりやすい精神保健福祉資料の改善 吉田 光爾	-----23
4. 精神病床における行動制限に関する検討 山之内 芳雄	-----35
5. 届け出病棟ごとの客観的で検証可能な重症度等の把握 米田 博	-----88
付録 (精神病床における行動制限に関する検討)	-----100
研究成果の刊行に関する一覧表	-----398

令和元年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金（障害者政策総合研究事業）  
「医療計画、障害福祉計画の効果的なモニタリング体制の構築のための研究」  
総括研究報告書

研究代表者 山之内芳雄 （国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所）  
研究分担者 臼杵 理人 （国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所）  
吉田 光爾 （学校法人東洋大学ライフデザイン学部生活支援学科）  
米田 博 （学校法人大阪医科大学医学部総合医学講座神経精神医学教室）

研究要旨：

平成 28～30 年度に行われた「精神科医療提供体制の機能強化を推進する政策研究」等で構築した、総合的な精神科医療実態把握のためのデータセットの作成と、地域医療計画の進捗管理に資するツール作成に関して、それらの普及と見直しを図りつつ、令和 3 年度からの第 7 次医療計画見直しと第 6 期障害福祉計画の策定に向けた諸課題に対応した。以下 5 つの研究分担班において、上記課題に取り組んだ。

A 班: 第 6 期障害福祉計画策定に向けての地域包括ケアの成果目標の検討、医療計画に資するデータベース作成

本分担班の成果目標は、第 6 期障害福祉計画において具体的な成果目標となり得る指標を提言することと、医療計画に資するデータベースの作成、必要な見直しを図りつつ行うことであった。障害福祉計画の成果目標指標は、班会議の中や各関連団体・精神保健医療福祉分野のステークホルダー等と意見交換を行い、障害福祉計画の目標となる指標の提案を行った。630 調査の改訂は、Excel マクロを搭載した調査票の開発など、昨年度までの調査票にさらに技術的な更新を図り、より効率的で正確なデータ収集に努めた。結果として、第 6 期障害福祉計画の成果目標指標の一つの案として、班会議の中で「精神障害者の精神病床から退院後 1 年以内の地域における平均生活日数」の考え方を示した。また、630 調査の改訂は昨年を上回る回答を得、一定の質を担保しながら集計から公表までのさらなる迅速化を行った。

B 班: 第 7 次医療計画見直しに向けた統合的指標に関する検討

第 7 次医療計画における精神疾患の指標例は、100 を超える指標数の多さや構造の複雑さ等から、指標の解釈・活用が困難であるとの課題が指摘されてきた。そこで、これらの課題についての論点整理を行った。また、抽出された論点に対して専門家的見地からの議論を行い、第 7 次医療計画中間見直しへの提言（指標の考え方の整理、現状で活用困難な指標の削除・変更、重点指標の変更、国の事業に基づく拠点機能に関する指標の追加）を取りまとめた。更に、今後の第 8 次医療計画に向けて、予防・治療・地域支援の三つのステージから成る、指標例素案の作成を行った。

C 班: 効果的でわかりやすい精神保健福祉資料の改善 ReMHRAD の開発に関する研究

平成 28～30 年度「精神障害者の地域生活支援の在り方とシステム構築に関する研究」における、市区町村による精神保健医療福祉資源整備進捗の Web データベースシステムの

構築に関する研究成果を活用し、より洗練された形での「見える」化システムを開発することを目的とし、Regional Mental Health Resources Analyzing Database (ReMHRAD)を開発した (<https://remhrad.ncnp.go.jp>)。前年度までに開発されたコンテンツを整理し、①第7次医療計画における「精神疾患の医療体制構築に係る現状把握のための指標例」の表示、②630調査で把握された精神科病院への入退院者の状況、③地域包括ケアのための資源の状況(訪問看護・障害福祉)、④社会資源マップの4つの内容で表示した。なお、ReMHRADの市区町村の精神障害保健担当課における認知度は約5割を超え、徐々にではあるが認知度が高まっていることが推察された。

#### D 班: 精神病床における行動制限に関する検討

本研究は、精神病床における隔離・身体的拘束件数が増加していることを受け、身体的拘束ならびに隔離の増加要因を探索すべきという要請に基づき行われたものである。その増加要因を探索するためには、現在のみならず過去の隔離・身体的拘束に関しても調査する必要があることから、本研究では令和元年を基準とし、10年前の平成21年もしくは5年前の平成26年の隔離・身体的拘束に関して、件数のみならず、診療録に記載のある年齢・性別、主診断、病棟入院料、指示期間、精神保健福祉法における隔離・身体的拘束の要件(該当要件)に関して調査を実施した。また、同時に隔離・身体的拘束を削減させるための組織的な取り組みを調査すべきであるとの意見に基づき、令和元年11月末より、全国の精神病床をもつ医療機関を対象に本調査を行った。

全国の精神病床を有する医療機関1,625施設を対象に調査協力依頼し、313施設(19.3%)から回答を得た。隔離・身体的拘束指示患者増加に影響すると考えられる属性因子の1つとして、急性期系の病棟入院料を算定する病床の増加が挙げられた。しかしながら、特に平成21年と令和元年の比較はサンプル数が少なく、結果を一般化することが困難であると考えられたため、参考データとして記載するにとどめた。そして、隔離・身体的拘束は本調査の調査年(平成21年もしくは平成26年)より以前の方が顕著に増加していることが630調査の件数の推移から明らかになっており、今回調査した10年前以前の大幅な増加時期については本調査の対象に含まれていない。5年以上前の診療記録の保管義務はないことから、遡って調査が可能な最大の期間を10年前として実施した調査であったが、過去のデータを遡って増加要因を明らかにするという目的で行われた本調査デザインの制約は大きかったと考えている。一方で、患者属性のみならず該当要件・期間を総合的に調査できた初めての調査でもあった。

本調査の結果、深夜0時でも開放観察されていると思われる事例が全体の1割弱みられ、正午では少なくとも1/4以上が開放観察とみられる状況であったことが推察された。隔離・身体的拘束の指示期間においては、隔離・身体的拘束の1/2以上は1週間未満であるが、1か月以上の指示期間の患者も1割以上いることも明らかとなった。

今後、急性期型治療の普及、身体合併症を持つ高齢者の増加、精神保健指定医をはじめ医療人材不足の中、現場の運用努力だけに頼らない、さらなる検討が求められよう。さらに、こういった医療環境の変化は精神病床だけの問題でもないと思われる。本調査の実施までの会議の間に議論にもあがった一般病床も含めた検討も今後必要であると考えられる。

E 班: 届け出病棟ごとの客観的で検証可能な重症度等の把握

現在の精神科入院医療は、平成 22 年度からの GAF の導入以後「患者の重症度に応じて相応の診療報酬が支払われる」という前提に基づいているにも関わらず、現状の重症度指標は GAF や入院形態など、医療側が主導的に選択できる指標とならざるを得なくなっている。それは重症度を妥当に表現しているかどうか検証されていない。これを受け本研究では、精神科領域における重症度の「指標」はもとより「定義」自体を見直し、客観性・妥当性・計測容易性・検証可能性等を考慮したうえで、医師だけでなく看護・介護等も含めた重症度評価の指標策定を目的とした。一般病棟における重症度・医療・看護必要度を踏まえたうえで精神科独自の重症度指標案の策定に取り組んだ。結果、「重症度」を統合的に考えることには限界があり、あくまで適切な医療資源の分配の立場に立った指標案の検討を行った。策定した指標案については、客観性・妥当性・計測容易性・検証可能性などを臨床研究にて実証せねばならず、それが実行されれば 実用性を検討したうえで、それらを踏まえた提言を行っていくことになっている。

アドバイザー (五十音順)

中島 豊爾 地方独立行政法人岡山県精神科医療センター  
村上 優 独立行政法人国立病院機構さいがた医療センター  
森 隆夫 医療法人愛精会あいせい紀年病院

研究協力者 (五十音順)

青木 達之 医療法人社団青樹会青和病院  
赤羽 華珠 国立精神・神経医療研究センター  
阿部 未怜 日本アイ・ビー・エム株式会社  
尼子友香理 日本アイ・ビー・エム株式会社  
新垣 元 医療法人卯の会新垣病院  
安西 信雄 帝京平成大学大学院臨床心理学研究科  
臼田謙太郎 国立精神・神経医療研究センター  
江澤 和彦 日本医師会  
大江 浩 富山県新川厚生センター  
大下 知樹 株式会社アクセライト  
大塚 恒子 一般財団法人仁明会精神衛生研究所  
大橋 りな 日本アイ・ビー・エム株式会社  
大村 重成 医療法人緑心会福岡保養院  
岡山 達志 国立精神・神経医療研究センター  
奥村 泰之 公益財団法人東京都医学総合研究所  
萱間 真美 学校法人聖路加国際大学大学院看護学研究科  
吉川 隆博 学校法人東海大学健康科学部  
桐原 尚之 全国「精神病」者集団  
櫻木 章司 医療法人社団桜樹会桜木病院  
澤田 智彦 日本アイ・ビー・エム株式会社

嶋森 好子 学校法人岩手医科大学看護学部  
 杉山 直也 公益財団法人復康会沼津中央病院  
 瀬戸屋 希 学校法人聖路加国際大学  
 竹子 清楓 日本アイ・ビー・エム株式会社  
 竹島 正 川崎市精神保健福祉センター  
 月江ゆかり 国立精神・神経医療研究センター  
 野田 龍也 公立大学法人奈良県立医科大学医学部  
 橋本 壘 国立精神・神経医療研究センター  
 原田 元気 株式会社アクセライト  
 平田 豊明 千葉県精神科医療センター  
 藤田 潔 医療法人静心会桶狭間病院藤田こころケアセンター  
 古野 考志 国立精神・神経医療研究センター  
 三宅 美智 学校法人岩手医科大学看護学部  
 宮田 量治 地方独立行政法人山梨県立病院機構山梨県立北病院  
 八尋 光秀 西新共同法律事務所  
 杠 岳文 独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター

#### A. 研究目的

平成30年度から始まった第7次医療計画・第5期障害福祉計画において、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築が掲げられ、指標案や目標値等が定められた。これらを推進するために、平成28～30年度「精神科医療提供体制の機能強化を推進する政策研究」等で精神医療・障害福祉に関する総合的なデータセットとして新精神保健福祉資料を公表した。

多様な精神疾患に対応した医療連携の必要性や退院後の安定した地域生活維持が把握できるようなデータを示すことができたが、それらを容易に把握できるようなデータの見せ方や集約方式に課題が残った。また、地域包括ケアシステムの構築には、保健・医療・福祉それぞれの役割とそれらの連携が必要であるものの、現在の指標では1年以上入院患者数や新規入院後の退院率といった医療関連指標のみが障害福祉計画の目標値になっている等、それらを妥当に表しているかについても課題が生じた。

また、これら疫学的な集計データだけでは、精神医療のケア負担や医療安全に配慮した適切な需要が測れず、患者の重症度や行動

制限に関するデータの補完は、今後の精神医療政策の立案上必須のものである。行動制限のデータにおいては、身体的拘束の近年の増加に対する課題の抽出と対応方策についても求められている。

これら、精神医療の外形を俯瞰できるデータに、医療内容を表現できるデータを補完することにより、モニタリング可能な精神医療にも対応した地域包括ケアシステム構築に資することを目的とし、以下の5つの分担班で研究を行った。

A 班: 第6期障害福祉計画策定に向けての地域包括ケアの成果目標の検討、医療計画に資するデータベース作成

B 班: 第7次医療計画見直しに向けた統合的指標に関する検討

C 班: 効果的でわかりやすい精神保健福祉資料の改善 ReMHRAD の開発に関する研究

D 班: 精神病床における行動制限に関する検討

E 班: 届け出病棟ごとの客観的で検証可能な重症度等の把握

#### B. 研究方法

現在の医療計画指標例の課題については、

検討の重点課題として、1)自治体が理解しやすく、活用しやすい指標とすること 2)多すぎる指標を整理していくこと 3)整理において一定の方向性を示すことを提示し、その上で班会議による議論を複数回行い、抽出された論点を取りまとめた(B班)。今後の第6期障害福祉計画において具体的な成果目標となり得る目標指標を提言することについては、「医療・保健・福祉の連携状況を総合的に把握できること」と「各都道府県が目標としてわかりやすい指標」を重視して班会議などで議論を行った(A班)。

630調査の改訂については、昨年の630調査の調査票をベースとしつつも、精神医療審査会項目の修正、「精神病床をもつ医療機関用調査票」において、令和元年6月退院者の転帰に関する調査の追加、「精神病床をもつ医療機関用調査票」において医療機関内にて集計表の形式にしたものが提出できるようシステムの改良等の修正追加を行った(A班)。

これら結果を示す Regional Mental Health Resources Analyzing Database (ReMHRAD) に関しては、平成28～30年度「精神障害者の地域生活支援を推進する政策研究」で開発されたが、その研究成果を活用しつつ、分担研究者と協議の上、より視覚的に把握しやすいデータベースシステムを構築した(C班)。またこれらの活用を目的に、自治体職員、精神保健福祉センター等への研修活動を行った(B班)。

精神病床における行動制限に関する検討では、精神病床における隔離・身体的拘束件数が増加していることを受け、隔離ならびに身体的拘束の増加要因を探索するために、現在値である令和元年と、過去である平成21年もしくは平成26年の6月に精神病床に入院していた隔離・身体的拘束の指示が出されていた患者を対象に、その属性、精神保健福祉法における隔離・身体的拘束の要件(該当要件)、期間、隔離・身体的拘束を減少させるための組織的取り組みを調査する目的で、令和元年11月末より、全国の精神病床をもつ

医療機関1,625施設を対象に調査協力依頼し、「精神病床における隔離・身体的拘束に関する実態調査」を行った(D班)。

最後に、届け出病棟ごとの客観的で検証可能な重症度等の把握においては、限られた医療費が適切な形で医療機関に分配されるために、重症度の「指標」はもとより重症度の「定義」自体の見直しを行い、重症度指標の前提と方向性の確認を行った。そのうえで、精神科重症度指標の「項目」と「指標内容」に関する具体的な案を練った。その際に一般科における重症度、医療・看護必要度を取り入れるという点に関して、精神科における運用性や必要性について議論を重ね、一般科における重症度、医療・看護必要度項目と精神科独自の重症度指標案を融合した案を作成した(E班)。

(倫理面への配慮)

「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を念頭に置き、個人情報保護等について十分に検討した上で、調査事務局として調査を企画・実施した。なお、630調査は「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」には該当しない研究のため、付議不要の調査・研究であるという回答を、国立精神・神経医療研究センターの倫理委員会より得て実施している調査である。

## C. 研究結果

現在の医療計画指標例の課題については、精神疾患は他疾患と比較して「疾患概念が多様であり、政策的なニーズも多岐にわたること」が指摘された。そのため、他医療計画や地域医療構想との整合性は考慮しつつも、精神疾患特有の現状を鑑みながら、「第7次医療計画中間見直しにおける目標」と「第8次医療計画に向けての目標」に分けて議論を行った。

「第7次医療計画中間見直しにおける目標」として、研究班で議論を行い、以下のように取りまとめを行った。

① 指標の考え方を整理し、かつ地域医療計画において活用しやすくするため、各指標の考え方（診療提供機能、医療高度化、拠点機能）を示し、医療高度化・拠点機能と、国の事業の関係性を明示してはどうか。

② 現状で活用困難な指標（深夜・休日に初診後に精神科入院した病院数、深夜・休日に初診後に精神科入院した患者数）を削除・変更してはどうか。

③ ①の考え方に即し、新たに活用可能な指標、特に地域の医療高度化に資するような拠点機能に関する指標（依存症治療拠点機関数、依存症専門医療機関数、摂食障害治療支援センター数、てんかん診療拠点機関数、等）を追加してはどうか。

④ ①の考え方に即し、重点指標をより活用しやすい指標に変更してはどうか。

「第8次医療計画に向けての目標」として以下の5つの考え方が提案された。

1) ストラクチャー、プロセス、アウトカムの連続性を、より明確にすべきではないか。

2) 指標数については多くとも50個以内におさめるべきではないか。

3) 「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」の推進を鑑み、大枠を「予防」「治療」「地域支援」に分け、保健・医療・福祉の流れの重要性を強調すべきではないか。

4) 「治療」は、これまでの議論における「医療提供機能」「医療高度化」「拠点機能」の考え方をもとに、「アクセシビリティ」「専門医療」「特に必要な分野の精神医療」の、3つに整理してはどうか。

5) 「多様な精神疾患等へ対応できる医療体制の充実」においては、多様な精神疾患等への対応が重要であるとの方針は残しつつも、自治体が必要な指標をより選択しやすくすべきではないか。

そして、これらの考え方に基づき、今後の議論の叩き台となるべく、第8次医療計画における指標例の素案を作成した。

今後の第6期障害福祉計画において具体的な成果目標となり得る目標指標を提案するこ

とについては、1)第6期障害福祉計画策定に向けての地域包括ケアの成果目標の検討にて検討を行った。その結果、第6期障害福祉計画においての具体的な成果目標案の一つとして、「精神障害者の精神病床から退院後1年以内の地域における平均生活日数」という考え方を、班会議の中で提案した。この指標は1年間(365日)の間に、精神科も含む病院のベッド以外で生活できた日数をカウントするものである。この指標は、実日数の平均が都道府県ごとに算出されるために比較もしやすく、全都道府県のなかでの位置づけもわかるため、目標としやすい指標であると考えられる。

630調査の改訂については、基本の調査方法は例年通り行ったため、ほぼ例年通りの結果が得られた。令和元年度に収集したデータは全国47都道府県、全国20政令指定都市すべての自治体、全国の精神科・心療内科を標榜する医療機関:6512施設(精神病床を有する医療機関数:1577、精神病床をもたない医療機関数:4935施設)、全国の訪問看護ステーション:7464施設であった。回収率については、自治体票は100%、病院票は精神病床を有する医療機関が98.0%、精神病床をもたない医療機関が60.7%、訪問看護ステーションが66.5%であった。この結果は平成29年度、平成30年度をわずかながら上回るほぼ同等の結果であった。各調査票の結果は「精神保健福祉資料」として国立精神・神経医療研究センターのHPから閲覧でき、都道府県・政令指定都市別に調査項目ごとのクロス集計された調査票をダウンロード可能となっている。

また、630調査で得られたデータを地理情報も含め、視覚的にわかりやすく示すべく、地域精神保健医療福祉社会資源分析データベース(Regional Mental Health Resources Analyzing Database: ReMHRAD)にも活用し、地図上に反映した。主に以下の4つのタブにわかれたコンテンツに再構成した。

1) 多様な精神疾患の指標(医療計画)

ReMHRADでは、「精神保健福祉資料」のデータを二次利用し、各都道府県における指標



状況を閲覧できるようにした（なお本データベースの情報は全て匿名化された公表データの二次利用である）。

サマリーの画面では、指定した都道府県において算出された指標の状況を総覧できる。領域ごとに色が塗られており、全国の都道府県を数値の多寡に応じて分布させた場合、下位四分位以下、上位四分位以上であった場合には、パネルの色が、青から赤へとグラデーションで濃くなる様式になっている。このマトリックス表を見ることで、指定した都道府県が、全国と比較した場合に、どの指標で偏りがあるのかわかるようになっている。さらに各都道府県内において各指標の状況を、二次医療圏域毎に閲覧することもできる。ReMHRAD では地域内のより詳細な情報を表示し、対策を講じるべきなのか検討するための材料を提供した。

## 2) 入院者の状況

このタブでは「630 調査」で把握された精神科病棟への入院者の状況についてのデータを二次利用し、(1)患者の入院前住所地および(2)病院の所在地をもとに表示した。「患者の住所ベースで表示」を選択した場合、患者の入院前の住所地の住民が、どのエリアの精神科病院に630 調査時点で入院しているかを表示することができる。例えば精神科病院をもたない東京都江戸川区の住民が1年以上入院している場合、どこに入院しているのだろうかをわかるようにした。「病院の所在地ベースで表示」を選択した場合、指定したエリアの精神科病院に630 調査時点で入院している患者が、どの市区町村から入院しているか、を表示することができる。例えば東京都八王子市の病院に1年以上入院している患者は、どこから入院してきているのだろうかをわかるようにした。このようにReMHRADを活用することで、退院支援の際に連携すべき市区町村を具体的に把握することが可能になった。

## 3) 地域包括ケアのための資源の状況（訪問看護・障害福祉）

「630 調査」及び独立行政法人福祉医療機

構(WAMNET)「障害福祉サービス事業所情報」をもとに、訪問看護ステーション・障害者総合支援法上の各社会資源の多寡を表示した。こうした表示は、訪問看護ステーションおよび障害者総合支援法の各種サービスについて表示可能であり、障害福祉計画の立案や、地域課題の把握の基礎資料として、活用されることが期待される。

## 4) 各社会資源のマッピング

1.~3.のデータに日本医師会 地域医療情報システム (<http://jmap.jp/>) の情報を加え、精神医療保健福祉に関する社会資源を、実際の位置情報をもとに地図上にマッピングした。社会資源のマップは、地域での偏在を把握するためにも有用である。また行政資料や、社会資源を紹介する支援場面などでしばしば活用されるが、自治体や支援機関が個々に独自にまとめるのは煩雑な事務作業を要する。自治体内の情報のとりまとめや、臨床活動での活用、また利用者や家族が近隣の社会資源を探す際にも利用されることが期待される。

またこれらの活用を目的に、自治体職員、精神保健福祉センター等への研修活動を行った。「精神保健指導課程研修」として、令和元年7月7日と10月4日において、それぞれ研修を実施した。精神保健福祉資料の活用手法として、精神保健福祉資料の構造、ReMHRAD の使い方、訪問看護データの見方とデータの紹介、医療の高度化と地域包括ケアの考え方等について講義が行われた。また、事前に配布した課題に基づき、自治体ごとの地域におけるデータの確認と解釈に関する演習を行い、各自治体からの参加者はその結果を発表して共有した。また全国精神保健福祉センター長会の協力を得て、「地域精神保健医療福祉の企画立案におけるReMHRAD等の活用に関する研究会」を計画したが、新型コロナウイルス感染症対策にて各種会議の実施が困難となったため、本研究会についてはやむを得ず中止となった。

全国の精神病床をもつ医療機関に対して行った「精神病床における隔離・身体的拘束に

関する実態調査」では、313 施設（19.3%）から回答を得た。その結果、隔離・身体的拘束指示患者増加に影響すると考えられる属性因子の1つとして、急性期系の病棟入院料を算定する病床の増加がみられた。平成21年と令和元年の比較はサンプル数が少なく、結果を一般化することが困難であると考えられたため、参考データとして扱っている。隔離・身体的拘束は本調査の調査年（平成21年もしくは平成26年）より以前の方が顕著に増加していることが630調査の件数の推移から明らかになっており、今回調査した10年前以前の大増大時期については本調査の対象に含まれていない。

本調査の結果、深夜0時でも開放観察されていると思われる事例が全体の1割弱みられ、正午では少なくとも1/4以上が開放観察とみられる状況であったことが推察された。隔離・身体的拘束の指示期間においては、隔離・身体的拘束の1/2以上は1週間以内であるが、1か月以上の指示期間の患者も1割以上いることも明らかとなった。

最後に、届け出病棟ごとの客観的で検証可能な重症度等の把握においては、まず定義を恣意性・客観性をふまえ「患者にかかる人的コスト」とした。ただし、本研究では、各医療機関が重症患者に「適切な医療がなされたか否か」「効果があったか否か」「分配された資源が適切に使用されたか否か」という視点は取り扱わず、あくまで「重症度の定義および指標の見直し」のみに焦点を当てることとした。

重症度指標作成の際の前提としては、容易に判定・カウント・評価が可能であり、検証可能性・実現可能性を重要視すること、指標の方向性としては、急性期・慢性期ともに医療資源の必要性からみた重症度の評価を議論していくこととした。

次に一般科で使用されている重症度、医療・看護必要度の開発経緯を顧みたと、1996年に「看護量測定のための方法論に関する研

究」が開始され、以降業務量調査のためのタイムスタディや評価者のための研修等を繰り返し行い、評価の妥当性や運用の適切性の検証をしたうえで見直しを頻回に行うなど、綿密な研究を重ね作成されたことが判明した。ただ、現場から運用が厳しいとの意見があることや、現在のC項目である「手術等の医学的状況」は上記のような手続きを経て検証されていないこと、など問題点も挙げられた。そのため、一般科の重症度、医療・看護必要度項目を精神科の重症度指標として用いることに疑義が生じる可能性があるが、「精神科において、どの程度人的コストを予測するのか」というデータを臨床研究によって取得しておくことは、その判断の妥当性を対外的に示す根拠として活用できる可能性があると考えられた。

一方、我が国の精神医療における重症度、医療・看護必要度指標策定の取り組みを振り返ると、1996年に社団法人日本精神科看護技術協会が「精神科看護度」を検討・作成したが、研究班では恣意性が高く、客観性の担保が十分ではないため、普及しなかったという意見が出された。また、2006年に京都大学附属病院で精神科病棟における看護必要度の活用について報告しているが、「精神科病棟では予防的なかかわりを持つことで、逸脱行動はもちろん、抗精神病薬の副作用の出現を未然に防ぐために看護を行うので、実質的に得点されることが少ない」といった点や、「患者とかかわりをもつことで患者の安全が確保されるのだが、看護必要度にはその看護が一切反映されない」といった問題点が挙げられていた。平成19年～21年年度の厚生労働科学研究の分担研究の一部として、精神科病棟において身体合併症患者の「看護必要度」の実態調査が行われているが、その報告の中で、精神科病棟での看護必要度の評価基準を開発する際には、精神科に特徴的な治療に係る看護行為をどう換算するかが検討課題となると指摘されていた。直近では2013年に、中嶋・萱間らが精神科入院治療における看護ケア量の測

定方法に関する研究を行い、現行の看護必要度とメンガー患者分類表を比較し、看護必要度をそのまま精神科に導入すると、適切に看護ケア量を評価できないことを示している。

これらを踏まえ、精神科独自の項目として、「ケアマネジメントに係る状況」と「入院後の事象」の2項目を策定した。「ケアマネジメントに係る状況」は当初ケアマネジメントスクリーニングチェックリスト（以下、CMSC）を基に作成した。CMSCは、入院の長期化を予防する資料として作成された経緯があるので、「入院長期化＝人的コストがかかる」と捉えていかに判断するため、沼津中央病院の行動制限等最適化データベース eCODO のデータ分析を行い、CMSC 各項目の該当／非該当と支援の発生状況の関係について調べた。結果、CMSC の各項目は予測変数として使用困難であることが判明した。しかし、CMSC は今回のような解析を目的に作成されたものではなく、解析条件の設定など手順の課題も考えられ、包括的支援マネジメントスクリーニングシート(ICMSS)の有用性や CMSC との類似性を考慮した場合、結果は CMSC の有用性を否定するものではなく、依然有用である可能性もあり、今後より綿密に検討を行う必要がある。検証可能性を大切に考えながら項目を工夫したうえで、該当患者が入院（評価）時点から約1ヶ月の期間、入院長期化のみならず、人的コストをどれくらい消費したのかを問うタイムスタディを行い、項目指標を策定していく予定とした。

「入院後の事象」に関しては、班員からの意見を中心に作成した。すでに診療報酬で担保されている項目や逆に加算が与えられていない項目の検証を行いつつ、恣意性・客観性の担保（例：“不穏”という状態をどのように担保するか）や文言の定義（例：“観察”の定義をどうするか）に対して議論を重ねた。特に“不穏”という状態に関しては、客観性と検証可能性を十分に考慮する必要があるため、観察方法や人的コストがかかっている状態をどのように担保するかなど検討をしたうえで、

“継続的な注意を要する状態”とし、そういった状態を担保する基準を設けた。

以上をふまえ、一般科の重症度、医療・看護必要度項目である「モニタリング及び処置等」「患者の状況等」「手術等の医学的状況」と精神科特有項目である「ケアマネジメントに係る状況」「入院後の事象」を融合し、精神医療における重症度指標の概要を作成した。

#### D. 考察

今回、第7次医療計画中間見直しにおいては、これまでの取り組みの中で網羅的かつ総花的となっていた指標の考え方を整理し、実際には活用が困難な指標の修正・削除を行い、第8次医療計画に向けた概ねの方向性を示した。各指標例を「医療提供機能：地域における、一般的な医療の提供状況を反映したもの」「医療高度化：医療提供機能と比較して、専門性が高い治療の実態を反映したもの」「拠点機能：国の事業を基盤とした、地域におけるその分野の医療拠点的な機能を反映したもの」の3つに分類する、複数に渡っていた疾患領域についても、コモンディーズ、専門医療、政策的な医療の3分野に分けて検討することで、医療計画に求められる要素がより明確になったと考える。その中で、統合失調症、うつ・躁うつ病、認知症などの、精神科医療機関であればすべからず診療を行っている疾患領域（コモンディーズ）においては、経年での医療機関数の変動も少なく、それらを重点指標として置く意味は乏しいものと考えられた。また、国の予算事業として行われている各拠点医療機関の設置等については、指標として採用している都道府県が比較的少なく、国の体制整備事業と自治体の施策における意識が乖離している可能性が否定できない。検討の過程で、国の各事業の実態把握においては調査項目の内容が揃っておらず、事業ごとのアクティビティを比較することが困難であるとの課題も判明した。

第6期障害福祉計画策定に向けての「精神障害者の精神病床から退院後1年以内の地域

における平均生活日数」の考え方は、包括的かつ継続的な地域生活支援連携体制整備を、今後も計画的に推進するという観点から必要であると考えられる。

630 調査については、予定より調査の開始時期が遅れたものの、Excel マクロシステムを導入したことにより、データクリーニングと集計作業の時間が大幅に短縮され、当初の予定通り年度内に結果公表を行うことができた。また、調査実施期間中の問い合わせ件数は平成 30 年度と同様の水準であり、新システムを導入した中で影響は最低限に抑えられたと考えられる。また、同じく本研究班の分担班である、「効果的でわかりやすい精神保健福祉資料の改善」（分担研究者 吉田光爾）との連携を高め、ReMHRAD のマップ内にデータを落とし込むことを見越した調査票の設計を行うことができた。行政や自治体においてデータの利活用が促進され、効果的なデータの示し方につながると考えられる。また、昨年度に引き続き、自治体から 630 調査のデータに関する問い合わせや、調査項目への要望等が増加しており、医療計画や障害福祉計画に 630 調査がリアルタイムで活用され始めていることは、成果の一つであると考えられた。

その ReMHRAD に関しては、現在の認知度はまだ十分に高くないと考える。提示されたデータが具体的にどのように地方自治の医療計画や障害福祉計画の立案・臨床実践に活用されていくのか、という具体的な活用の事例づくりが必要であると考えられる。また、ReMHRAD では年度ごとに、新しいデータが蓄積されていくことから経時的なデータの蓄積と表示の検討が必要である。例えば、長期入院患者数の推移を表示するなど政策的にも重要なデータである。そして、統合されるデータの拡張と精度の向上である。例えば、ReMHRAD では障害福祉資源のデータについて、独立行政法人福祉医療機構

(WAMNET)「障害福祉サービス事業所情報」を利用しているが、この情報は平成 29

年度のもので、やや古くなっており、現在運用されている「障害福祉サービス等情報検索」システムとの連携が必要な状況であり、本年度の後半にその調整を行った。より正確な、必要とされるデータを、どのように集約し、統合していくかを検討するためには、データを所管する各担当部署・省庁との調整も必要になってくる。

「ビッグデータ」の時代、と言われて久しいが、レセプトデータや障害福祉サービスの利用情報を今後連動・活用していけば、サービスの需給予測や、よりよいアウトカムをもたらす要因の研究などに、利用可能であると推測される。また、それ以上に、様々なデータを「見える化」することは、利用者にとってサービスの透明性を高めると同時に、行政やサービス提供者側の説明責任への意識を高めることにもつながり、結果としてサービスの質を向上させることに寄与しうると考えられる。現在の ReMHRAD は、地域レベルでの大枠でのデータ集計の一部を「見える」化したにすぎないが、現場のニーズも反映しつつ、こうしたデータの公開や閲覧が、精神保健福祉医療従事者の意識、そして日本の精神保健福祉医療の状況を変化させていくことの一助になることを期待したい。

「精神病床における隔離・身体的拘束に関する実態調査」では、令和元年 11 月から令和 2 年 3 月にかけて、全国の精神病床を有する医療機関 1,625 施設を対象に調査協力依頼し、313 施設（19.3%）から回答を得た。

隔離・身体的拘束指示患者増加に影響すると考えられる属性因子の 1 つとして、急性期系の病棟入院料を算定する病床の増加が挙げられた。しかしながら、特に平成 21 年と令和元年の比較はサンプル数が少なく、結果を一般化することが困難であると考えられたため、参考データとして記載するにとどめた。そして、隔離・身体的拘束は本調査の調査年（平成 21 年もしくは平成 26 年）より以前の方が顕著に増加していることが 630 調査の件数の推移から明らかになっており、今回調査

した10年前以前の大幅な増加時期については本調査の対象に含まれていない。5年以上前の診療記録の保管義務はないことから、遡って調査が可能な最大の期間を10年前として実施した調査であったが、過去のデータを遡って増加要因を明らかにするという目的で行われた本調査デザインの制約は大きかったと考えているが、新たに示唆も得られた。具体的には深夜0時でも開放観察されていると思われる事例が全体の1割弱みられ、正午では少なくとも1/4以上が開放観察とみられる状況であったことが推察された。隔離・身体的拘束指示期間においては、隔離・身体的拘束の1/2以上は1週間未満であるが、1か月以上の指示期間の患者も1割以上いることも明らかとなった。

今後、急性期型治療の普及、身体的合併症をもつ高齢者の増加、精神保健指定医をはじめ医療人材不足の中、現場の運用努力だけに頼らない、さらなる検討が求められる。さらに、こういった医療環境の変化は精神病床だけの問題でもないと思われる。本調査の実施までの会議の間に議論にもあがった一般病床も含めた検討も今後必要であると考えられる。

精神科重症度に関しては、一般科の重症度・医療・看護必要度が精神科領域でも活用できるのか、そして人的コストを反映した医療行為とは何なのか、それらの指標案は恣意性が低く、客観性が担保されているのか、ということについて検討を重ねた。客観性・妥当性・計測容易性・検証可能性等を十分に吟味する必要がある。また、肉体的だけでなく精神的にも手間がかかる行為等への考慮も求められる。それらを踏まえ今後の臨床研究では、エンドポイントを明確にし、策定した項目・指標が、客観的・科学的に重症度を示すかどうかを十分に検証する必要があると考えている。

## E. 結論

第7次医療計画・第5期障害福祉計画にお

けるモニタリング推進のため、平成28～30年度「精神科医療提供体制の機能強化を推進する政策研究」等で、総合的なデータセットを構築した。しかしながら、容易に把握できるようなデータの見せ方や集約方式、保健医療福祉の連携の把握、疫学データへの偏りなどが課題として残った。これら、精神医療の外形を俯瞰できるデータに、医療内容を表現できるデータを補完することにより、モニタリング可能な精神医療にも対応した地域包括ケアシステム構築に資することを目的とし、5つの分担班で研究を行った。

新しい指標への考え方の提案、630調査の改善と着実な実施および集計、視覚化して容易にこれらの結果がわかるべく ReMHRAD の改善と実装、普及のための研修を行った。

また、「精神病床における行動制限に関する検討」では、全国の精神病床を有する医療機関1,625施設を対象に「精神病床における隔離・身体的拘束に関する実態調査」を実施し、313施設(19.3%)から回答を得た。

隔離・身体的拘束増加に影響する可能性がある属性因子の1つとして、急性期系病棟入院料を算定する病床の増加が挙げられた。しかしながら、特に平成21年と令和元年の比較はサンプル数が少なく、結果を一般化することが困難であると考えられたため、参考データとして記載するにとどめた。そして隔離・身体的拘束は本調査の対象年(平成21年もしくは平成26年)より以前の方が顕著に増加していることが630調査の件数の推移から明らかになっており、今回調査した10年前以前の大幅な増加時期については本調査の結果に含まれていない。過去のデータを遡って増加要因を明らかにするという目的で行われた本調査デザインの制約は大きかったと考えられるが、患者属性のみならず該当要件・指示期間を総合的に調査できた初めての調査でもあった。

最後に「精神科重症度の定義づけと指標案の開発」では、精神科重症度の定義づけと指標案の開発を行った。有識者との繰り返しの

議論を経て一般科における重症度・医療・看護必要度を踏まえたうえで精神科独自の重症度指標案の策定に取り組んだ。今後、限られた医療費が適切な形で医療機関に分配され、精神医療現場における重症度の実態をより客観的に反映させるために臨床研究にて実証することとし、実用性を検討したうえでの提言が必要であると考えます。

F. 健康危険情報  
なし

G. 研究発表  
1. 論文発表

吉田光爾：精神保健福祉医療資源整備状況の

Web 上での「見える化」システム：

ReMHRAD(リムラッド)の開発と公表, 精神障害とリハビリテーション 23(2) 166-173 2019 年

2. 学会発表

吉田光爾：精神保健医療福祉状況の「見える化」～地域精神保健福祉資源データベース

ReMHRAD (リムラッド) の開発と最新版リリース～ 日本精神障害者リハビリテーション学会 第 27 回 大阪大会 2019 年 11 月 24 日

H. 知的財産権の出願・登録 (予定を含む)

- |           |    |
|-----------|----|
| 1. 特許取得   | なし |
| 2. 実用新案登録 | なし |
| 3. その他    | なし |

令和元年度 厚生労働行政推進調査事業費 補助金（障害者政策総合研究事業）

「医療計画、障害福祉計画の効果的なモニタリング体制の構築のための研究」

分担研究報告書

「第6期障害福祉計画策定に向けての地域包括ケアの成果目標の検討、医療計画に資するデータベース作成」

分担研究者 山之内 芳雄 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所

研究要旨：本研究の目的は第6期障害福祉計画において具体的な成果目標となり得る指標を提案することと医療計画に資するデータベースの作成を行うことであった。障害福祉計画の成果目標指標は、班会議の中や、各関連団体、精神保健医療福祉分野のステークホルダー等と意見交換を繰り返し、障害福祉計画の目標となる指標の提案を行った。630 調査の改訂は、Excel マクロを搭載した調査票の開発など、昨年度までの調査票にさらに技術的な更新を図り、より効率的で正確なデータ収集に努めた。第6期障害福祉計画において具体的な成果目標となり得る指標については研究班会議のなかで「精神障害者の精神病床から退院後1年以内の地域における平均生活日数」の考え方について研究班の中で提案を行った。630 調査の改訂は昨年とほぼ同様の回収率であり、一定の質を担保しながら集計から公表までのさらなる迅速化に成功した。

## A. 研究目的

本研究分担班は第6期障害福祉計画において具体的な成果目標となり得る成果目標を提案することと医療計画に資するデータベースの作成を行うことを目的として研究を行った。

### 1)第6期障害福祉計画策定に向けての地域包括ケアの成果目標の検討

第5期障害福祉計画で成果目標となっていた、「精神病床における1年以上長期入院患者数」や「精神病床における早期退院率」は、精神病床の入院医療を機軸とした指標であり、「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」という成果を評価するには地域生活の実態を把握するという視点が不十分と考えられた。そのため第6期障害福祉計画の成果目標については、医療のみならず保健・福祉それらの連携状況を総合的に把握でき、地域包括ケア構築プロセスが反映しやすい目標を創出し提案する必要がある。

### 2)医療計画に資するデータベース作成

医療計画に資するデータベースについては、630 調査の更なる改善と、精度の向上を目指した。

いわゆる630 調査とは毎年6月30日付で630 調査は、全国のすべての都道府県・政令指定都市と精神保健担当主管課、精神科もしくは心療内科を標榜しているすべての医療機関、および全国すべての訪問看護ステーションを対象とした調査であり、回答率も自治体調査は100%、医療機関調査は例年95%以上（精神病床を持つ医療機関）であることから悉皆性の高い調査である。そのため、わが国の精神保健福祉のモニタリングにおいて貴重な基礎資料である。一方で、毎年実施している調査であり、調査項目も多岐にわたるため、調査回答者が回答しやすい項目説明や、回答時のエラーを防ぐ工夫を例年継続して行っていく必要がある。また、これまでの調査のエラーの特徴から、選択肢にない項目名での回答や、意図を取り違えた回答、あるいは必須項目の回答漏れなどが一定程度生じることがわかっていた。エラーは特に精神病床を持つ医療機関の在院患者情報で生じることが多かったため、

今年度調査からは、より正確かつ、公表までの更なる迅速化を図る必要があった。そのため、精神病床を持つ医療機関については、回答した機関の中で形式化された集計表を提出するようにシステムの改良を行うことを目指した。また、例年は主に医療機能に特化した調査項目であったが、現在推進されている「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の進捗などもモニタリングできるように精神病床から退院したあとの患者転帰なども図れるように調査票の改良を行い、より医療と福祉の包括的なデータを取得できる調査票およびデータ集計システムの開発を行った。また、自治体を対象とした調査では、昨年度の厚生労働科学研究費補助金「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムのモニタリングに関する政策研究」研究班（主任 白杵理人）において、検討および作成された精神医療審査会に関する個票調査票の入力フォームを利用して、自治体担当者が効率よく入力が進められるように、調査票の整理と修正を行った。

## B. 研究方法

### 1)第6期障害福祉計画策定に向けての地域包括ケアの成果目標の検討

第6期障害福祉計画において具体的な成果目標となり得る目標指標を提案することについては、班会議の中や、各関連団体、精神保健医療福祉分野のステークホルダー等と意見交換を行い、障害福祉計画の指標となり得る指標を検討した。その際、「医療・保健・福祉の連携状況を総合的に把握できること」と「各都道府県が目標としてわかりやすい指標」となることを重視した。

### 2)医療計画に資するデータベース作成

630調査の改訂については、昨年の630調査の調査票をベースとし以下の点について調査票の修正、項目の追加を行った。

#### 1. 自治体調査票

①昨年調査時の問い合わせ内容に基づく項目説明を適宜加筆修正

②精神医療審査会項目の修正（前年度中に白杵班から全国の精神医療審査会向けに配布された入力フォ

ーマットをコピー＆ペーストへ対応した形式変更等）

#### 2. 医療機関調査票

①昨年調査時の問い合わせ内容に基づく項目説明を適宜加筆修正

②自治体から管内医療機関へ調査票を配布するのではなく、調査 Web サイトの案内のみを各医療機関・訪問看護ステーションへ配布し、各対象機関において、最適な調査票をダウンロードできるよう Web システムを再構築

③「精神病床を持つ医療機関用調査票」において、令和元年6月退院者の転帰に関する調査を追加

④「精神病床を持つ医療機関用調査票」において、6月30日時点在院患者や6月退院者、1年前医療保護入院患者等の項目を、医療機関内にて集計表の形式したものを提出するようにシステムの改良を行い、正確かつ、公表までの更なる迅速化を図った。調査票は例年通り Microsoft Excel を用い、Visual Basic for Applications[VBA]にて構築したシステム（以下 Excel マクロ）を用いた。

#### 3. 訪問看護ステーション

①昨年調査時の問い合わせ内容に基づく項目説明を適宜加筆修正

②自治体から管内訪問看護ステーションへ調査票を配布するのではなく、調査 Web サイトの案内を行い、各調査対象医療機関において、最適な調査票をダウンロードできる Web システムの構築

上記の主な修正点に加えて、文言の修正や分かりやすい例を調査票内追加し、ミスなく入力が可能となるように調査票の改変等を行った。なお、平成29年度や平成30年度と同様、電子媒体の調査票の設計、医療機関や自治体からの調査票回収に用いたアップロードサイトの作成・運用および結果の粗集計については日本アイ・ビー・エム株式会社に委託した。調査票は巻末資料として掲載している。また、精神医療審査会に関する調査については、項目の大きな見直しは行っていないが、審査についての年度またぎの考え方や受理や審査の定義をより明確化するなど、より調査擁護の定義を厳密にするなどの修正をし、昨年まで別途回収としていた調査票を令和元年度からは自治体調査の中に組み入れた。



(倫理面への配慮)

「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を念頭に置き、個人情報保護等について十分に検討した上で、調査事務局として調査を企画・実施した。なお、630 調査は「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」には該当しない研究のため、付議不要の調査・研究であるという回答を、国立精神・神経医療研究センターの倫理委員会より得て実施している調査である。

## C. 研究結果

### 1)第6期障害福祉計画策定に向けての地域包括ケアの成果目標の検討

第6期障害福祉計画においての具体的な成果目標として、「精神障害者の精神病床から退院後1年以内の地域における平均生活日数」という考え方について提案を行った。

### 2)医療計画に資するデータベース作成

630 調査の改訂は基本の調査方法は昨年度までの方法を踏襲したため、ほぼ例年通りの結果が得られた。令和元年度に収集したデータは全国47都道府県、全国20政令指定都市すべての自治体、全国の精神科・心療内科を標榜する医療機関：6512施設(精神病床を有する医療機関数：1577、精神病床を持たない医療機関数：4935施設)、全国の訪問看護ステーション：7464施設であった。回収率については、自治体票は100%、病院票は精神病床を有する医療機関が98.0%、精神病床を持たない医療機関が60.7%、訪問看護ステーションが66.5%であった。この結果は平成29年度、平成30年度とほぼ同等の結果であった。各調査票の結果は国立精神・神経医療研究センターのHPから閲覧でき、都道府県・政令指定都市別に調査項目ごとのクロス集計された調査票をダウンロード可能となっている<sup>1)</sup>。

また、630 調査で得られたデータは、地域精神保健医療福祉社会資源分析データベース (Regional Mental Health Resources Analyzing Database: ReMHRAD) にも活用され、地図上に反映されている<sup>2)</sup>。

## D. 考察

### 1)第6期障害福祉計画策定に向けての地域包括ケアの成果目標の検討

「精神障害者の精神病床から退院後1年以内の地

域における平均生活日数」という考え方は1年間(365日)の間に、精神科も含む病院以外で生活できた日数をカウントするものである。この指標は、実日数の平均が都道府県ごとに算出されるために、比較もしやすく、全都道府県のなかでの位置づけもわかるため、目標としやすい指標であると考えられる。また、実日数は1年間の精神病床だけでなく全病床を含んだ生活期間以外の日数を指しており、入院期間以外の長さを総合的に測りやすいというメリットがあると考えられる。

### 2)医療計画に資するデータベース作成

630 調査は予定より調査の開始時期が遅れたものの、Excel マクロシステムを導入したことにより、データクリーニングと集計作業の時間が大幅に短縮され、当初の予定通り年度内に結果公表を行うことができた。また、調査実施期間中の問い合わせ件数は平成30年度と同様の水準であり、新システムを導入した中で影響は最低限に抑えられたと考えられる。また、同じく本研究班の分担班である、「効果的でわかりやすい精神保健福祉資料の改善」(分担研究者 吉田光爾)との連携も高めた。行政や自治体においてデータの利活用が促進され、効果的なデータの示し方につながると考えられる。また、昨年度に引き続き、自治体から630 調査のデータに関する問い合わせや、調査項目への要望等が増加しており、医療計画や障害福祉計画に630 調査がリアルタイムで活用され始めている。

## E. 結論

### 1)第6期障害福祉計画策定に向けての地域包括ケアの成果目標の検討

障害福祉計画において具体的な成果目標となり得る目標指標を提案することについては、繰り返し班会議の中や、各関連団体との議論を重ねた。その結果「精神障害者の精神病床から退院後1年以内の地域における平均生活日数」という考え方を提案した。

### 2)医療計画に資するデータベース作成

630 調査の改訂については、Excel マクロシステムを導入し、正確かつ迅速な調査の実施と結果の公表を目指して、今年度の調査を実施した。結果として昨年度とほぼ同等の結果が得られた。回収後からデータク

リーニング、集計、公表の過程は昨年度よりも大幅にスピードアップしており、今年度の改訂は一定の成果を残せたと考える。一方で、新システムを導入したことで、PC 操作がやや不慣れな場合に、調査回答者に負担がかかるなど、次年度以降の課題も残している。今後はシステムの見た目をわかりやすくしたり、項目の注意書きを追加したりするなどよりスムーズな調査の実施が今後も求められる。

#### G. 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 なし

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし

#### 文献

- 1) 国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健福祉資料, <https://www.ncnp.go.jp/nimh/seisaku/data/>
- 2) 国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所：地域精神保健医療福祉資源分析データベース (Regional Mental Health Resources Analyzing Database/リムラッド), <https://remhrad.ncnp.go.jp/>
- 3) 厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部企画課 厚生労働省 社会保障審議会障害者部会 第 98 回 (R2.1.17) 参考資料 2 成果目標に関する参考資料 <https://www.mhlw.go.jp/content/12601000/000585026.pdf>

令和元年度厚生労働行政推進調査事業費補助金  
(障害者政策総合研究事業)

医療計画、障害福祉計画の効果的なモニタリング体制の構築のための研究  
分担研究報告書「第7次医療計画の統合的指標に関する検討」

研究分担者 臼杵 理人

(国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神医療政策研究部・室長)

研究要旨：第7次医療計画における精神疾患の指標例は「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」と「多様な精神疾患等に対応できる医療体制の充実」のため、精神疾患全体を概観するものとなっていた。その一方で、指標数の多さや、構造の複雑さ等から、指標の解釈・活用が困難であるとの課題が指摘されてきた。そこで本研究では、精神保健医療福祉分野のステークホルダーによる研究班を立ち上げ、これらの課題についての論点整理を行った。また、抽出された論点に対して専門家的見地からの議論を行い、第7次医療計画中間見直しへの提言（指標の考え方の整理、現状で活用困難な指標の削除・変更、重点指標の変更、国の事業に基づく拠点機能に関する指標の追加）を取りまとめた。更に、今後の第8次医療計画に向けて、予防・治療・地域支援の三つのステージから成る、指標例素案の作成を行った。

#### A. 研究目的

第7次医療計画（平成30年度～令和5年度）においては、精神疾患の医療体制構築に係る現状把握のために、96の指標例が示されている。これら精神疾患の指標例の数は、医療計画における他疾患の指標例の数（がん：44、脳卒中：25、心筋梗塞等の心血管疾患：24、糖尿病：35）と比較して、多いことが指摘されている。また、統合失調症、うつ・躁うつ病、認知症など、疾患領域ごとに異なった指標例が設定されているため、全体として煩雑で分かりにくいものになっているという指摘もある。更に、自治体によって指標例の活用状況には濃淡があり、複数の指標例が関連付けて活用されているとは言い難い現状がある。そのため、これら指標例を自治体にとってより分かりやすく、有用性の高いものへとリバイスしていく必要がある。

そこで本研究では、自治体における指標例の活用実態を踏まえて、令和元年度末の医療計画中間見直しに向けて、指標見直しの提言を行った。また、令和6年度以降の第8次医療計画に向けて、本研究で検討された基本的な考え方に基づいた上で、重要な指標の選択あるいは新規指標の創出を行った。これらの検討によって、地域における精神保健医療福祉の実態をより適切に把握できる指標例を、分かりやすくまとめて、提言していくことを目的とした。

更に、自治体職員らによる地域医療計画等の立案においては、これら指標の活

用のための地域の状況把握が必須となる。そのため、地域精神保健医療福祉社会資源分析データベース（Regional Mental Health Resources Analyzing Database: ReMHRAD）等で視覚化された、指標や地域精神保健医療福祉資源の情報を、自治体がより実践的に利用できるようにする必要がある。そのため、ReMHRADの活用に関する各自治体からの意見を取りまとめ、ReMHRADの開発に還元していくことも本研究の目的の一つとした。

#### B. 研究方法

精神疾患に関する医療計画及び現在の指標例の課題について、エキスパートオピニオンを収集するために、日本精神科病院協会、精神保健福祉センター長会、日本精神科看護協会等の、国内の精神保健医療福祉分野におけるステークホルダーの参加する班会議を立ち上げた。

まず初回班会議では、本研究における検討の重点課題として、1)自治体が理解しやすく、活用しやすい指標とすること 2)多過ぎる指標を整理していくこと 3)整理において一定の方向性を示すこと を提示した。

その上で班会議による議論を複数回行い、抽出された論点を取りまとめた。その際、資料として、厚生労働省精神・障害保健課による各予算事業の概要、各都道府県における指標の採用状況（厚生労働省医政局調べ）等を参考にした。

また、精神疾患に関する医療計画・障害福祉計画において、今後の介護保険事業計画も含めた包括的な計画策定に資するような知識と技術を習得するために、都道府県で精神疾患の医療計画・障害福祉計画・介護保険事業計画を企画立案する担当部署職員および政令市、中核市、精神保健福祉センター、保健所等で同様の職務を行う職員に対して、講義と実際のデータを用いた演習から成る「精神保健指導過程研修」を実施した。

さらに、全国の都道府県及び指定都市の精神保健福祉センター等が、地域精神保健医療福祉の企画立案の観点から、ReMHRAD等の可視化データを理解して活用できるようにするために、「全国精神保健福祉センター長会データ分析・地域分析検討委員会」と連携し、「地域精神保健医療福祉の企画立案における ReMHRAD等の活用に関する研究会」と意見交換を行った。

#### （倫理面への配慮）

班会議で使用される資料等には、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を念頭に置き、個人情報が含まれるものは使用しなかった。また、未公表のものは用いなかった。

### C. 研究結果

第1回班会議における議論から、医療計画の中でも精神疾患は他疾患と比較して「疾患概念が多様であり、政策的なニーズも多岐にわたること」が指摘された。そのため、他医療計画や地域医療構想との整合性は考慮しつつも、地域医療における精神疾患特有の現状（地域によっては精神障害における地域包括ケア機能が不足しており精神科病院の外来・入院機能でそれを補っていること、地域によっては基盤整備に必要な専門医療の普及が不十分であること、等）を鑑みながら、現状の精神医療計画における論点を以下のように抽出した。

論点1：指標を分かりやすくするための個別の指標の考え方について

論点2：指標を分かりやすくするための「領域」の考え方について

論点3：基盤整備量の理解について

論点4：医療機能明確化の3層構造の問題

点について

論点5：他医療計画や障害福祉計画との関係について

論点6：精神医療圏域の考え方について

さらに、これらの論点に基づいた今後の目標を考える上で、「第7次医療計画中間見直しにおける目標」と「第8次医療計画に向けての目標」に分けて議論を行った。

その結果、まず「第7次医療計画中間見直しにおける目標」として、研究班で議論を行い、以下のように取りまとめを行った。

① 指標の考え方を整理し、かつ地域医療計画において活用しやすくするため、各指標の考え方（診療提供機能、医療高度化、拠点機能）を示し、医療高度化・拠点機能と、国の事業の関係性を明示してはどうか。

② 現状で活用困難な指標（深夜・休日に初診後に精神科入院した病院数、深夜・休日に初診後に精神科入院した患者数）を削除・変更してはどうか。また、より実態に即したアウトカムとして「精神病床における退院後3,6,12ヶ月時点の再入院率」を「地域における平均生活日数」へと変更してはどうか。

③ ①の考え方に即し、新たに活用可能な指標、特に地域の医療高度化に資するような拠点機能に関する指標（依存症治療拠点機関数、依存症専門医療機関数、子どもの心の診療ネットワーク事業拠点病院数、摂食障害治療支援センター数、てんかん診療拠点機関数、精神科救急入院料診療報酬加算病院数、精神科救急医療施設数、精神科救急外来対応施設数、身体合併症救急医療確保事業参加医療機関数、自殺未遂者再企図防止事業実施病院数等）を追加してはどうか。

④ ①の考え方に即し、重点指標をより活用しやすい指標に変更してはどうか

更に、これらの考え方に基づき、研究班として第7次医療計画中間見直しにおける指標例の案（図1）を作成し、「医療計画の見直し等に関する検討会」における議論の基盤とするため、厚生労働省精神・障害保健課に提言を行った。その結果、同第16回検討会（令和元年11月28日開催）にて、本提言を参考とした資料が提示された。

第4回班会議では、それまでの論点と議論の結果を踏まえ、第8次医療計画に向け

での目標として以下の5つの考え方が提案された。

- 1) ストラクチャー、プロセス、アウトカムの連続性を、より明確にすべきではないか。
- 2) 指標数については多くとも50個以内におさめるべきではないか。
- 3) 「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」の推進を鑑み、大枠を「予防」「治療」「地域支援」に分け、保健・医療・福祉の流れの重要性を強調すべきではないか。
- 4) 「治療」は、これまでの議論における「医療提供機能」「医療高度化」「拠点機能」の考え方をもとに、「アクセシビリティ」「専門医療」「特に必要な分野の精神医療」の3つに整理してはどうか。
- 5) 「多様な精神疾患等へ対応できる医療体制の充実」においては、多様な精神疾患等への対応が重要であるとの方針は残しつつも、自治体が必要な指標をより選択しやすくすべきではないか。

そして、これらの考え方にに基づき、今後の議論の叩き台となるべく、第8次医療計画における指標例の素案を作成した(図2)

また、「精神保健指導過程研修」として、令和元年7月7日と10月4日において、それぞれ研修を実施した。精神保健福祉資料の活用手法として、精神保健福祉資料の構造、ReMHRADの使い方、訪問看護データの見方とデータの紹介、医療の高度化と地域包括ケアの考え方等について講義が行われた。また、事前に配布した課題に基づき、自治体ごとの地域におけるデータの確認と解釈に関する演習を行い、各自治体からの参加者はその結果を発表して共有した。

#### D. 考察

2013年度に初めて医療計画に精神疾患が追加されたが、他医療計画より開始が遅れたこと、精神医療の所掌が厚生労働省社会援護局にあることなどから、他医療計画との足並みをどのように揃えるかが一つの焦点となってきた。

今回、第7次医療計画中間見直しにおいては、これまでの取り組みの中で網羅的かつ総花的となっていた指標の考え方を整理し、実際には活用が困難な指標の修正・削除を行い、第8次医療計画に向けた概ねの方

向性を示した。

重要な考え方の整理として、各指標例を「医療提供機能：地域における、一般的な医療の提供状況を反映したもの」「医療高度化：医療提供機能と比較して、専門性が高い治療の実態を反映したもの」「拠点機能：国の事業を基盤とした、地域におけるその分野の医療拠点的な機能を反映したもの」の3つに分類することで、指標例に求められる要素を抽出することができた。更に、複数に渡っていた疾患領域についても、コモンディージーズ、専門医療、政策的な医療の3分野に分けて検討することで、医療計画に求められる要素がより明確になった。

また、医政局調査による各都道府県における指標の採用状況(図3)からは、重点指標例として示されている各疾患領域に対応している医療機関数と患者数が、有効な指標として機能していない可能性があると考えられた。特に、統合失調症、うつ・躁うつ病、認知症などの、精神科医療機関であればすべからず診療を行っている疾患領域(コモンディージーズ)においては、経年での医療機関数の変動も少なく、それらを重点指標として置く意味は乏しいものと考えられた。

一方で、国の予算事業として行われている各拠点医療機関の設置等については、指標として採用している都道府県が比較的少なく、国の体制整備事業と自治体の施策における意識が乖離している可能性が否定できない。検討の過程で、国の各事業の実態把握においては調査項目の内容が揃っておらず、事業ごとのアクティビティを比較することが困難であるとの課題も判明した。これらの改善は、今後の課題の一つである。

また、今回の検討において、情報を視覚的かつ直感的に把握することは、地域における協議の場や地域医療計画策定において重要な観点であることが指摘された。ReMHRADに代表されるような視覚化情報を、自治体や地域保健医療福祉関係者の共通言語のひとつとして使えるよう、今後も体制整備を推し進めていく必要があると考えられた。

第8次医療計画の整備に向けての重要な観点として、他医療計画の指標の建付けも参考とした上で、予防、治療、地域支援の、3つの軸を提案したが、特に予防に関しては、精神科領域で活用に足る指標が少ないこと

が指摘された。今後、健康日本 21 及び健やか親子 21 等の既存政策の観点や公衆衛生学的見地からも、幅広い検討が行われるべきであると考ええる。

更に、「医療計画の見直し等に関する検討会」においても一部の委員から指摘のあった、周産期医療、発達障害、児童・思春期精神疾患における連続的な体制整備や、身体疾患と精神疾患の合併における体制整備を充実させていくことは、今後の精神科以外の医師と精神科医との連携（G-P 連携）においても、重要な方向性であると考えられる。

最後に、「多様な精神疾患等に対応できる医療体制の充実」と「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」といった政策の柱との整合性を保ちつつ、どのように自治体が理解しやすい計画の枠組みを構築していくか、また日本という地理的多様性を持った国土において、地域性を重視しつつも各保健医療福祉機関のモチベーションを保てるような共通の指標目標を設定できるかということが、今後の精神医療計画の成否を問う大きな課題になると考えられる。

#### E. 結論

班会議での議論に基づき、煩雑であった第 7 次医療計画の精神疾患指標の考え方を整理し、第 7 次医療計画中間見直しへの提言（指標の考え方の整理、現状で活用困難な指標の削除・変更、重点指標の変更、国の事業に基づく拠点機能に関する指標の追加）を取りまとめた。更に、今後の第 8 次医療計画に向けて、予防・治療・地域支援の三つのステージから成る、指標例素案の作成を行った。今回抽出された課題、論点については、今後の第 8 次医療計画の検討において活用されるべきである。

#### F. 研究発表

1. 論文発表  
なし
2. 学会発表  
なし

#### G. 知的財産権の出願・登録状況 該当せず

# 第7次医療計画中間見直しにおける指標例の案

別表5 精神疾患の医療体制構築に係る現状把握のための指標例

	統合失調症	うつ・躁うつ病	認知症	児童・思春期精神疾患	発達障害	アルコール依存症	薬物依存症	ギャンブル等依存症	PTSD	高次脳機能障害	摂食障害	てんかん	精神科救急	身体合併症	自殺対策	災害精神医療	医療観察法	
ストラクチャー	統合失調症を入院診療している精神病床を持つ病院数	うつ・躁うつ病を入院診療している精神病床を持つ病院数	認知症を入院診療している精神病床を持つ病院数	20歳未満の精神疾患を入院診療している精神病床を持つ病院数	発達障害を入院診療している精神病床を持つ病院数	アルコール依存症を入院診療している精神病床を持つ病院数	薬物依存症を入院診療している精神病床を持つ病院数	ギャンブル等依存症を入院診療している精神病床を持つ病院数	PTSDを入院診療している精神病床を持つ病院数	高次脳機能障害支援拠点機関数	摂食障害を入院診療している精神病床を持つ病院数	てんかんを入院診療している精神病床を持つ病院数	深夜・休日に初診後に精神科入院した病院数	身体合併症を診療している精神科病床を持つ病院数(精神科救急・合併症入院科+精神科身体合併症管理加算)	救命救急入院科精神疾患診断治療初回加算をとる一般病院数	DPAT先進医療機関数	指定通院医療機関数	
	統合失調症を外来診療している医療機関数	うつ・躁うつ病を外来診療している医療機関数	認知症を外来診療している医療機関数	20歳未満の精神疾患を外来診療している医療機関数	発達障害を外来診療している医療機関数	アルコール依存症を外来診療している医療機関数	薬物依存症を外来診療している医療機関数	ギャンブル等依存症を外来診療している医療機関数	PTSDを外来診療している医療機関数		摂食障害を外来診療している医療機関数	てんかんを外来診療している医療機関数	精神科救急入院科診療報酬加算病院数	精神疾患の受け入れ体制を持つ一般病院数(精神疾患診療体制加算+精神疾患患者受入加算)	救急患者精神科継続支援料をとる一般病院数			
	治療抵抗性統合失調症治療薬を精神科入院で使用した病院数	閉鎖循環式全身麻酔の精神科電気痙攣療法を実施する病院数	認知症疾患医療センターの指定数	知的障害を入院診療している精神科病床を持つ病院数		重度アルコール依存症入院医療管理加算を算定された精神科病床を持つ病院数	依存症集団療法を外来で算定された医療機関数				摂食障害入院医療管理加算を算定された病院数	てんかん診療拠点機関数	精神科救急医療施設(輪番型、常時対応型)数	精神科リエゾンチームを持つ病院数	自殺未遂者等支援拠点医療機関整備事業参加医療機関数			
	治療抵抗性統合失調症治療薬を外来で使用した医療機関数	認知行動療法を外来で実施した医療機関数	認知症サポート医養成研修了者数	知的障害を外来診療している医療機関数		依存症治療拠点機関数	依存症治療拠点機関数	依存症治療拠点機関数			摂食障害治療支援センター数		精神科救急外来対応施設	身体合併症救急医療確保事業参加医療機関数				
			かかりつけ医認知症対応力向上研修了者数	児童・思春期精神科入院医療管理料を算定された精神科病床を持つ病院数		依存症専門医療機関数	依存症専門医療機関数	依存症専門医療機関数										
プロセス	統合失調症の精神科病床での入院患者数	うつ・躁うつ病の精神科病床での入院患者数	認知症の精神科病床での入院患者数	20歳未満の精神疾患の精神科病床での入院患者数	発達障害の精神科病床での入院患者数	アルコール依存症の精神科病床での入院患者数	薬物依存症の精神科病床での入院患者数	ギャンブル等依存症の精神科病床での入院患者数	PTSDの精神科病床での入院患者数		摂食障害の精神科病床での入院患者数	てんかんの精神科病床での入院患者数	深夜・休日に初診後に精神科入院した患者数	精神科入院患者で重篤な身体合併症の診療を受けた患者数(精神科救急・合併症入院科+精神科身体合併症管理加算)	救命救急入院で精神疾患診断治療初回加算を算定された患者数			
	統合失調症外来患者数	うつ・躁うつ病外来患者数	認知症外来患者数	20歳未満の精神疾患外来患者数	発達障害外来患者数	アルコール依存症外来患者数	薬物依存症外来患者数	ギャンブル等依存症外来患者数	PTSD外来患者数		摂食障害外来患者数	てんかん外来患者数	精神科救急事業における受診件数(入院を含む)	体制を持つ一般病院で受け入れた精神疾患の患者数(精神疾患診療体制加算+精神疾患患者受入加算)	救急患者精神科継続支援を受けた患者数			
	治療抵抗性統合失調症治療薬を使用した入院患者数(精神科)	閉鎖循環式全身麻酔の精神科電気痙攣療法を受けた患者数	認知症疾患医療センターの鑑別診断数	知的障害の精神科病床での入院患者数		重度アルコール依存症入院医療管理加算を算定された患者数	依存症集団療法を外来で実施した患者数				摂食障害入院医療管理加算を算定された患者数		精神科救急事業における受診件数(入院を含む)	精神科リエゾンチームを算定された患者数				
	治療抵抗性統合失調症治療薬を使用した外来患者数	認知行動療法を外来で実施した患者数		知的障害外来患者数									精神科救急事業における入院件数					
	統合失調症患者における治療抵抗性統合失調症治療薬の使用率			児童・思春期精神科入院医療管理料を算定された患者数														
アウトカム	精神科病床における入院後3.6.12ヶ月時点の退院率																	
	精神科病床における新規入院患者の平均在院日数																	
	地域での平均生活日数																	
	精神科病床における急性期・回復期・慢性期入院患者数(65歳以上・65歳未満別)																	

医療提供機能

医療高度化

医療提供機能と比較して、専門性が高い治療の実態を反映

拠点機能

国の事業を基盤とした、地域におけるその分野の医療拠点的な機能を反映

# 第8次医療計画における指標例の素案

予防		治療			地域支援
予防・早期発見		アクセシビリティ	専門医療	特に必要な分野の精神医療	在宅医療・行政機関等による支援
ストラクチャー	精神保健福祉センター、保健所等における精神保健福祉相談等の実人員数	精神科医師数（人口千人あたり）	<医療高度化に資する専門医療を行える医療機関数> <多様な精神疾患に対応するための国の予算事業を行っている医療機関数>	<身体・精神疾患の合併に対応できる医療機関数> <周産期と児童・思春期に対応できる医療機関数> <その他、特に必要な分野に対応できる医療機関数>	<精神障害者の地域生活を支援できる医療機関等の数>  ※地域の課題・取組に応じて選択（詳細例は下記）
	妊産婦検診でうつチェックをする市町村の数	精神科救急医療整備事業に参加している医療機関数	※地域の課題・取組に応じて選択（詳細例は下記）	※地域の課題・取組に応じて選択（詳細例は下記）	精神保健医療福祉資源のデータ分析を提供している精神保健福祉センター数（「精神保健医療福祉資源のデータ分析の提供」とは、地域の医療協議会、自治体の施策立案等に参加した際の、ReMHRAD等の活用による視覚的な技術的助言を指す）
	<入口アウトリーチに関連する項目>				
プロセス	精神保健福祉センター、保健所等における精神保健福祉相談等の数	精神科救急医療整備事業における受診・入院件数	<医療高度化に資する専門医療の実績> <多様な精神疾患に対応するための国の予算事業を行っている医療機関の実績>	<身体・精神疾患の合併に対応した実績> <周産期と児童・思春期に対応した実績>	<精神障害者の地域生活を支援できる医療機関の実績>  <出口アウトリーチに関連する項目>
	妊産婦検診でうつチェックを行い要ケアと判断された妊産婦の比率		※地域の課題・取組に応じて選択（詳細例は下記）	※地域の課題・取組に応じて選択（詳細例は下記）	※地域の課題・取組に応じて選択（詳細例は下記）
アウトカム	精神病床における新規入院患者の在院日数				
	在宅等生活の場に復帰した患者の割合				
	精神病床における入院後3,6,12ヶ月時点の退院率				
	精神病床における1年以上長期入院患者数（65歳以上、65歳未満）				
地域平均生活日数					

ストラクチャー指標例					
<医療高度化に資する専門医療を行える医療機関数> ・治療抵抗性統合失調症治療指導管理料を算定した医療機関数 ・認知療法・認知行動療法を算定した医療機関数 ・精神科電気痙攣療法1を算定した医療機関数	<多様な精神疾患に対応するための国の予算事業を行っている医療機関数> ・認知症疾患医療センター数 ・依存症専門医療等機関数 ・高次脳機能障害支援拠点機関数 ・摂食障害治療支援センター数 ・てんかん診療拠点機関数	<身体・精神疾患の合併に対応できる医療機関数> ・精神科身体合併症管理加算を算定した医療機関数 ・精神科リエゾンチーム加算を算定した医療機関数 ・救命救急入院科精神疾患診断治療初回加算を算定した医療機関数 ・救急患者精神科継続支援料を算定した医療機関数 ・身体合併症救急医療確保事業参加医療機関数	<周産期と児童・思春期に対応できる医療機関数> ・ハイリスク妊産婦連携指導料1,2を算定した医療機関数 ・発達障害拠点医療機関の指定数 ・児童・思春期精神科入院医療管理料を算定した医療機関数	<その他、特に必要な分野に対応できる医療機関数> →DPAT先遣隊に登録している医療機関数 ・医療観察法指定通院医療機関数	<精神障害者の地域生活を支援できる医療機関等の数> ・退院後ケースマネージを伴う外来医療を実施している医療機関数 ・24時間体制で精神科訪問看護を実施している訪問看護ステーション数 ・地域移行機能強化病棟入院料を算定している医療機関数 ・精神科地域共生型拠点病院の数

プロセス指標例					
<医療高度化に資する専門医療の実績> ・治療抵抗性統合失調症治療指導管理料を算定した患者数 ・認知療法・認知行動療法を算定した患者数 ・精神科電気痙攣療法1を算定した患者数	<多様な精神疾患に対応するための国の予算事業を行っている医療機関の実績> ・認知症疾患医療センターの鑑別診断数 ・依存症専門医療等機関で新規に治療した患者数 ・高次脳機能障害支援拠点機関における直接相談の延べ件数 ・摂食障害治療支援センターで新規に治療した患者数 ・てんかん診療拠点機関で新規に治療した患者数	<身体・精神疾患の合併に対応した実績> ・精神科身体合併症管理加算を算定した患者数 ・精神科リエゾンチーム加算を算定した患者数 ・救命救急入院科精神疾患診断治療初回加算を算定した患者数 ・救急患者精神科継続支援料を算定した患者数	<周産期と児童・思春期に対応した実績> ・ハイリスク妊産婦連携指導料1,2を算定した患者数 ・発達障害拠点医療機関の対応患者数 ・児童・思春期精神科入院医療管理料を算定した患者数		<精神障害者の地域生活を支援できる医療機関等の実績> ・退院後ケースマネージを伴う外来医療を実施された患者数 ・精神科訪問看護基本療養費を算定した精神疾患患者の利用者数（6月のみ） ・地域移行機能強化病棟入院料を算定された患者数 ・自治体で雇用され活動しているピアサポーターの人数



図 3

各都道府県における指標例の採用状況※1 (医政局の調査より)

	統合失調症	うつ・躁うつ病	認知症	児童・思春期精神疾患	発達障害	アルコール依存症	薬物依存症	ギャンブル等依存症	PTSD	薬性脳機能障害	摂食障害	てんかん	精神科救急	身体合併症	自殺対策	災害精神医療	医療観察法	
ストラクチャー	● 統合失調症を入院診療している精神科病床を持つ病院数	● うつ・躁うつ病を入院診療している精神科病床を持つ病院数	● 認知症を入院診療している精神科病床を持つ病院数	● 20歳未満の精神疾患を入院診療している精神科病床を持つ病院数	● 発達障害を入院診療している精神科病床を持つ病院数	● アルコール依存症を入院診療している精神科病床を持つ病院数	● 薬物依存症を入院診療している精神科病床を持つ病院数	● ギャンブル等依存症を入院診療している精神科病床を持つ病院数	● PTSDを入院診療している精神科病床を持つ病院数	● 薬性脳機能障害(薬性脳点検)を持つ病院数	● 摂食障害を入院診療している精神科病床を持つ病院数	● てんかんを入院診療している精神科病床を持つ病院数	● 深夜・休日に初診時に精神科入院した病院数	● 身体合併症を診療している精神科病床を持つ病院数(精神科救急・合併症入院科・精神科身体合併症管理加算)	● 救急救急入院科(精神科救急)の初回加算をとり一般病院数	● DPAT先進医療機関数	● 指定通院医療機関数	
	● 統合失調症を外来診療している医療機関数	● うつ・躁うつ病を外来診療している医療機関数	● 認知症を外来診療している医療機関数	● 20歳未満の精神疾患を外来診療している医療機関数	● 発達障害を外来診療している医療機関数	● アルコール依存症を外来診療している医療機関数	● 薬物依存症を外来診療している医療機関数	● ギャンブル等依存症を外来診療している医療機関数	● PTSDを外来診療している医療機関数		● 摂食障害を外来診療している医療機関数	● てんかんを外来診療している医療機関数		● 精神疾患の受け入れ体制を持つ一般病院数(精神科救急診療体制加算+精神科救急常設入院加算)	● 救急患者精神科継続支援料をとり一般病院数			
	● 治療抵抗性統合失調症治療薬を精神科病床の入院で使用した病院数	● 閉鎖管理式全身錠の精神科電気療法を薬用した病院数	● 認知症疾患診療センターの指定数	● 知的障害を入院診療している精神科病床を持つ病院数		● 重度アルコール依存症入院診療管理加算を算定された精神科病床を持つ病院数	● 依存症診療療法を外来で実施した医療機関数				● 摂食障害入院診療管理加算を算定された病院数			● 精神科リエゾンチームを持つ病院数				
	● 治療抵抗性統合失調症治療薬を外来で使用した医療機関数	● 認知行動療法を外来で実施した医療機関数	● 認知症レポート実証研究協賛者数	● 知的障害を外来診療している医療機関数														
			● かかりつけ医認知症対応力向上研修協賛者数	● 児童・思春期精神科入院診療管理料を算定された精神科病床を持つ病院数														
プロセス	● 統合失調症の精神科病床での入院患者数	● うつ・躁うつ病の精神科病床での入院患者数	● 認知症の精神科病床での入院患者数	● 20歳未満の精神疾患の精神科病床での入院患者数	● 発達障害の精神科病床での入院患者数	● アルコール依存症の精神科病床での入院患者数	● 薬物依存症の精神科病床での入院患者数	● ギャンブル等依存症の精神科病床での入院患者数	● PTSDの精神科病床での入院患者数		● 摂食障害の精神科病床での入院患者数	● てんかんの精神科病床での入院患者数	● 深夜・休日に初診時に精神科入院した患者数	● 精神科入院患者で重篤な身体合併症の診療を受けた患者数(精神科救急・合併症入院科+精神科身体合併症管理加算)	● 救急救急入院科(精神科救急)の初回加算を算定された患者数			
	● 統合失調症外来患者数	● うつ・躁うつ病外来患者数	● 認知症外来患者数	● 20歳未満の精神疾患外来患者数	● 発達障害外来患者数	● アルコール依存症外来患者数	● 薬物依存症外来患者数	● ギャンブル等依存症外来患者数	● PTSD外来患者数		● 摂食障害外来患者数	● てんかん外来患者数	● 精神科救急(救急車平均搬送時間)	● 体制を持つ一般病院で受け入れた精神科救急の患者数(精神科救急診療体制加算+精神科救急常設入院加算)	● 救急患者精神科継続支援料を受けた患者数			
	● 治療抵抗性統合失調症治療薬を使用した入院患者数(精神科病床)	● 閉鎖管理式全身錠の精神科電気療法を受けた患者数	● 認知症疾患診療センターの協別診療数	● 知的障害の精神科病床での入院患者数		● 重度アルコール依存症入院診療管理加算を算定された患者数	● 依存症診療療法を外来で実施した患者数				● 摂食障害入院診療管理加算を算定された患者数			● 精神科リエゾンチームを算定された患者数				
	● 治療抵抗性統合失調症治療薬を使用した外来患者数	● 認知行動療法を外来で実施した患者数		● 知的障害外来患者数														
	● 統合失調症患者における治療抵抗性統合失調症治療薬の使用率			● 児童・思春期精神科入院診療管理料を算定された患者数														
アウトカム	● 精神科における入院後3&12ヶ月時点の退院率																	
	● 精神科における新規入院患者の平均在院日数																	
	● 精神科における退院後3&12ヶ月時点の再入院率(1年未満入院患者・1年以上入院患者別)																	
	● 精神科における急性期・回復期・慢性期入院患者数(65歳以上・65歳未満別)																	

※1: 2018年(青数字)・2019年(赤数字)は、47都道府県のうち指標を採用している都道府県の合計数 ※2: 未調査の指標

## 厚生労働行政推進調査事業

### (障害者政策総合研究事業)

#### 医療計画、障害福祉計画の効果的なモニタリング体制の構築のための研究

効果的でわかりやすい精神保健福祉資料の改善  
： ReMHRAD の開発に関する研究

研究分担者：○吉田光爾<sup>1)</sup>

協力：株式会社アクセライト

1) 東洋大学ライフデザイン学部

#### 要旨

**目的：**市区町村が精神保健医療福祉システムの整備状況について全国との比較の中で把握できる＝「見える化」する Web データベースを、他データベースとの関連も踏まえながら構築する。

**方法：**分担研究者が別途担当している、厚生労働科学研究費補助金 障害者対策総合研究事業（精神障害分野）『精神障害者の地域生活支援の在り方とシステム構築に関する研究』における市区町村による精神保健医療福祉資源整備進捗の Web データベースシステムの構築に関する研究成果を活用し、より洗練された形での「見える」化システムを開発する。

**結果：**前述のデータベースシステムを活用・発展させ、ウェブデータベースは『Regional Mental Health Resources Analyzing Database』（ReMHRAD）を開発した（<https://remhrad.ncnp.go.jp>）。具体的には地域精神保健医療福祉資源分析データベース）。厚生労働行政推進調査事業障害者政策総合研究事業（精神障害分野）『精神障害者の地域生活支援を推進する政策研究』で開発されたコンテンツを整理し、①第7次医療計画における「精神疾患の医療体制構築に係る現状把握のための指標例」の表示、②630 調査で把握された精神科病院への入退院者の状況、③地域包括ケアのための資源の状況（訪問看護・障害福祉）、④社会資源マップ、の四つの内容で表示した。なお、ReMHRAD の市区町村の精神障害保健主幹課における認知度は約 5 割を超え、徐々にではあるが認知度が高まっていることが推察された。今後、ReMHRAD の内容を充実させながらも、具体的な研修・研究の道筋を立てていくことも課題であると思われる。

#### A.研究の背景と目的

我が国の精神保健福祉の概況や、精神保健福祉分野の整備状況を論じようとするとき、630 調査や患者調査を中心とした統計資料がこれまで参照されてきた。これらの基礎資料が果たしてきた役割は極めて大きい、いくつかの課題もあると考えられる。

第一に、統計の集計単位が大きいという問題がある。630 調査や患者調査のデータ集計単位はしばしば都道府県単位となっている。精神保健福祉分野の所管業務が市区町村にも付託されるようになってきているが、メッシュの細かいデータ提供は不十分であ

り、市区町村が自分の地域の情報を把握するためにデータ活用することが困難な状況になっている。他方で、都道府県にとっても情報把握は大雑把になってしまう可能性がある。

第二に、「数表の解読のしにくさ」によって「公開」の意味が無効化されてしまうという問題がある。官庁等の公開データは、主に Microsoft Excel による集計表であるが、集計表の数値の羅列から、意味ある情報を読み取ることは容易ではない。データが活用されず死蔵されれば、本来の公開の意味が損なわれかねない。

第三に、数値の比較可能性の乏しさという問題である。ある指標について、全国平均値がどの程度か、自分の自治体の状況は全国平均と比してどの水準にあるかは、地域の問題把握や政策立案の上で重要だが、他の自治体と直感的に比較可能な情報の公表はされていない。

第四に、情報の分散化という課題がある。精神保健福祉分野の統計資料については、様々な媒体で閲覧できるようになっているが、情報は分散しており、複数の資料を統合して検討しないと、全体像にたどり着かないなどの問題がある。

総括すると「わが市の市民は何人、どこに長期入院しているのか」「それは全国と比較して多いのか少ないのか」「そのためには何を調べればいいのか」「それを数字の羅列ではなく、知りたい」等のニーズにこたえるには限界があったといえる。

これらの課題に対応するために、著者は、厚生労働科学研究にてWeb上で閲覧できる精神保健福祉上の統計指標を、1) 市区町村単位で、2) 地図データを利用し可視化してわかりやすく、3) 他自治体とも比較可能な形で、4) 各種指標を統合して表示する、データベースシステムを開発し公開している。これを ReMHRAD (Regional Mental Health Resources Analyzing Database/地域精神保健医療福祉資源分析データベース：リムラッド)と呼称している。本稿では、2019年7月に公開されたバージョンの当該データベースの概要について紹介する。

## B. 方法

厚生労働行政推進調査事業障害者政策総合研究事業(精神障害分野)『精神障害者の地域生活支援を推進する政策研究』で開発されたReMHRADに関する研究成果を活用しつつ、分担研究者と協議の上、より視覚的に把握しや

すいデータベースシステムを構築した。内容については結果欄で報告する。

なおReMHRADの認知度に関して、2020年1月～2月にかけて、全国の市区町村の精神障害保健主管課担当職員に対して郵送による調査を行った(1736件配布・回収：1099件、回収率：63.3%)。

## C. 結果

ReMHRADは国立精神・神経医療研究センター内にて公開されているWebデータベース(<https://remhrad.ncnp.go.jp/>)<sup>1)</sup>である。本データベースは主に以下の4つのタブにわかれたコンテンツから構成されている。

### 1) 多様な精神疾患の指標 (医療計画)

厚生労働省では第7次医療計画の作成<sup>4)</sup>にあたり、医療計画において定める数値目標の指標例をあげており、精神疾患の医療体制の整備状況を示す指標についても例示している<sup>5)・6)</sup>。この精神疾患の医療体制の各都道府県における指標の多くは、National Data Base (NDB：レセプト情報・特定健診等情報データベース)をもとに算出される。NDBでは患者が医療機関を受診し、診察・投薬を保険診療で受けると、その詳細な情報は、医療機関から支払審査機関・厚生労働省のデータベースに集積されるようになっている。このレセプト情報は平成23年から医療の質の向上などの目的で活用できるようになっており<sup>7)</sup>、上記の指標の算出を含む「精神保健福祉資料」<sup>2)</sup>でも活用されている。ReMHRADでは、この「精神保健福祉資料」のデータを二次利用し、各都道府県における指標状況を閲覧することができる(なお本データベースの情報は全て匿名化された公表データの二次利用である)。

(1) サマリーについて

サマリーの画面では、指定した都道府県において NDB より算出された指標の状況を総覧できる。領域ごとに色が塗られており、全国の都道府県を数値の多寡に応じて分布させた場合、下位四分位以下、上位四分位以上であった場合には、パネルの色が、青から赤へとグラデーションで濃くなる様式になっている。このマトリックス表を見することで、指定した都道府県が、全国と比較した場合に、どの指標で偏りがあるのかわかるようになっている。

例えば、鹿児島県を例にあげてみよう（図 1）。サマリーの表示では、各疾患の入院病床を持つ病院数・各疾患の入院患者数のパネルに赤色がついており、全国と平均して入院に関する病院・患者数が多いことが示されている。他方で、各疾患の外来患者数は青色になっており、外来患者数が少ないことがわかる。また全国と比較して、人口十万人当たりの入院患者数が多く、退院率が低く、再入院率が高い、という状況がわかる。

## (2) 二次医療圏ごとの状況の表示

さらに各都道府県内において各指標の状況を、二次医療圏域毎に閲覧することもできる。

先に挙げた鹿児島県において「統合失調症」の「精神病床での入院患者数」（10 万人あたり）を見てみよう（図 2）。すると、全国平均値（266.3 人/十万人）に対して、曾於医療圏域では 151.6 人/十万人と低いが、南薩圏域では 856.0 人/十万人と、全国平均値の 3 倍以上の数値となっている。ReMHRAD では地域内のより詳細な情報を表示し、対策を講じるべきなのか検討するための材料を提供する。

## 2. 入院者の状況

このタブでは「630 調査」<sup>3)</sup>で把握された精神科病棟への入院者の状況についてのデ

ータを二次利用し、(1)患者の入院前住所地および(2)病院の所在地をもとに表示する。

### (1) 患者の住所ベースで表示

「患者の住所ベースで表示」を選択した場合、患者の入院前の住所地の住民が、どのエリアの精神科病院に 630 調査時点で入院しているかを表示することができる。例えば精神科病院を持たない東京都江戸川区の住民が 1 年以上入院している場合、どこに入院しているのだろうか。ReMHRAD で表示させると以下ようになる（図 3）。

江戸川を越えた船橋市・市川市など千葉県のエリアに多くの患者が入院している様子がわかる。逆に言えば、彼らの退院支援を考えた場合、江戸川区および地域移行を行う相談支援事業所は、千葉県内の病院・行政と連携をとっていく必要があるということである。

### (2) 病院の所在地ベースで表示

「病院の所在地ベースで表示」を選択した場合、指定したエリアの精神科病院に 630 調査時点で入院している患者が、どの市区町村から入院しているか、を表示することができる。例えば東京都八王子市の病院に 1 年以上入院している患者は、どこから入院してきているのだろうか。ReMHRAD で表示させると以下ようになる（図 4）。

図 4 からは八王子市の長期入院患者は八王子市民のみで構成されているのではなく、東京都全域から流入していることがわかる。すなわち退院支援を考えるときには、八王子市やそこに属する病院・相談支援事業所だけでなく、都内全域・神奈川県などとも連携していく必要があるのである。このように ReMHRAD を活用することで、退院支援の際に連携すべき市区町村を具体的に把握することが可能になる。

## 3. 地域包括ケアのための資源の状況（訪

## 問看護・障害福祉)

このタブでは「630 調査」<sup>3)</sup>及び独立行政法人福祉医療機構 (WAMNET)「障害福祉サービス事業所情報」をもとに、訪問看護ステーション・障害者総合支援法上の各社会資源の多寡を表示する。

例えば、図 5 は、東京都の精神障害に対応している (=精神科訪問看護基本療養費を算定している) 精神科訪問看護ステーションの人口あたりの数を示している。隣接した地区でも、自治体によりかなり差があることがみてとれる。こうした表示は、訪問看護ステーションおよび障害者総合支援法の各種サービスについて表示可能であり、障害福祉計画の立案や、地域課題の把握の基礎資料として、活用されることが期待される。なお、各自治体内の社会資源の数は Microsoft Excel でダウンロード可能なので、基礎資料としての活用や、研究者が調査を行う際に投入する社会資源数 (環境要因の変数) としても有効利用が可能である。

### 4. 各社会資源のマッピング

本タブでは上記データに日本医師会 地域医療情報システム (<http://jimap.jp/>) の情報を加え、精神医療保健福祉に関する社会資源を、実際の位置情報をもとに地図上にマッピングする。例えば奈良県の精神科に対応した医療機関 (病院・診療所) を表示したものが、図 6 になる。社会資源のマップは、地域での偏在を把握するためにも有用である。また行政資料や、社会資源を紹介する支援場面などでしばしば活用されるが、自治体や支援機関が個々に独自にまとめるのは煩雑な事務作業を要する。自治体内の情報のとりまとめや、臨床活動での活用、また利用者や家族が近隣の社会資源を探す際にも利用されることが期待される。

### 5. ReMHRAD の認知度について

図 7 は本年度および昨年度に調査を行った、ReMHRAD の全国の市区町村職員における認知度について示したものである。認知率は昨年度の約 30% を大きく超え、合計で 52.9% となり半数を超えた状況である。実際にアクセスしたり、閲覧したことがあるという率は 33% であった。認知度は向上しているが活用の状況については、改善の余地がある。

図 8 は ReMHRAD の自治体職員における認知の経緯である。昨年度の傾向そのものに大きな変化はないが「地域の会議の資料を通じて」知ったという回答が最も多く、活用されている地域では資料として配布されていることがわかる。ただし「厚生労働省や主管課長会議の資料を通じて」という回答は微増しており、公的な資料としての位置づけが高まっているものと推測される。

図 9 は閲覧の内容である。630 調査に基づく 1 年以上入院者の状況についての閲覧が最も多いことがわかる。医療計画に関する指標については、市区町村としての閲覧数は多くない。

図 10 は ReMHRAD の情報をどのように活用しているかについて、尋ねた回答である。認知度の上昇とともに、活用回答数は多く伸びている。最も多いのは「自身の自治体の状況に関する認識が深まった (回答ケース%で 72.2%)」というものだが、「精神障がい者の地域移行・地域定着に関する取り組みの参考資料とした (同じく 31.8%)」「地域包括ケアシステムの構築に関する検討のための参考・検討資料とした (23.6%)」など具体的な自治体の活動の検討材料として使われ始めている様子もうかがえた。しかし、こうした取り組みについても、活用の余地は大きいと考える。

## D. 考察

現在、ReMHRAD は上記の構成になっているが、これは開発中のデータベースであり、今後このデータベースがどのように活

用されていくかが試されているといえる。現状で考えられる使用法と、いくつかの課題について述べる。

第一の課題は、ReMHRADの周知の問題である。現在の認知度はまだ十分に高くないと考える。データベースが活用されること、また多くの人が見ることによって、データの公表による透明性や、各種課題の改善に関する意識づけも大きくなるので、周知に努めていきたい。

第二の課題は、データ活用のモデルづくりである。ReMHRADで単にデータを表示するだけでなく、提示されたデータが具体的にどのように地方自治の医療計画や障害福祉計画の立案・臨床実践に活用されていくのか、という具体的な活用の事例づくりが必要であると考え。具体的な活用については①都道府県の精神保健福祉センター・主管課においては、各自治体の状況を把握するために特に医療計画指標のサマリーについては概観し、都道府県レベルの課題について理解を深める。②市区町村などについては、障害福祉計画や入院患者の状況について、各自治体の主管課・自立支援協議会・障害福祉計画の作成の場において活用する。③関係各団体（医療福祉関係者・家族会・当事者団体）においてはReMHRADの数値をもとに、それぞれの自治体の状況を把握し、行政に課題等を提起する資料にする、④医療機関や福祉・NPO法人については、現在の事業運営を拡張・整理する際に、市町村や地域レベルの全体の整備状況を考慮するための基礎資料とする、⑤当事者・家族については社会資源マップを身近な社会資源探索の利用に役立てる、などがあるが、これらは実際の活動の中で検証されなければならないだろう。その中で、必要なデータや、公表すべき数値、表示のアイデアなども出てくると考えられる。現在、活用し始めている自治体も出始

めているため、ReMHRAD活用の事例づくりとそれをもとにした改修が課題といえる。

第三の課題は、経時的なデータの蓄積と表示の検討である。ReMHRADでは年度ごとに、新しいデータが蓄積されていく。例えば各指標の推移を表示するなどは政策的にも重要なデータである。このように経時的に積層されていくデータの活用方法は今後の検討課題である。

第四の課題は、統合されるデータの拡張と精度の向上である。例えば、ReMHRADでは障害福祉資源のデータについて、独立行政法人福祉医療機構（WAMNET）「障害福祉サービス事業所情報」を利用しているが、この情報は2017年度のもので、やや古くなっており、現在運用されている「障害福祉サービス等情報検索」システム<sup>8)</sup>との連携が必要な状況であり、本年度の後半にその調整を行った。より正確な、必要とされるデータを、どのように集約し、統合していくかを検討するためには、データを所管する各担当部署・省庁との調整も必要になってくる。第三の課題と合わせて、検討が必要となってくる。

「ビッグデータ」の時代、と言われて久しいが、レセプトデータや障害福祉サービスの利用情報を今後連動・活用していけば、サービスの需給予測や、よりよいアウトカムをもたらす要因の研究などに、利用可能であると推測される。また、それ以上に、様々なデータを「見える化」することは、利用者にとってサービスの透明性を高めると同時に、行政やサービス提供者側の説明責任への意識を高めることにもつながり、結果としてサービスの質を向上させることに寄与しうると考えられる。現在のReMHRADは、地域レベルでの大枠でのデータ集計の一部を「見える」化したにすぎないが、現場のニーズも反映しつつ、こうしたデータの公開や閲覧が、精神保健福祉

医療従事者の意識、そして日本の精神保健福祉医療の状況を変化させていくことの一助になることを期待したい。

1) 国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所:地域精神保健医療福祉資源分析データベース (Regional Mental Health Resources Analyzing Database/リムラッド),

<https://remhrad.ncnp.go.jp/>

2) 国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 精神医療政策研究部:精神保健福祉資料, <https://www.ncnp.go.jp/nimh/seisaku/data/>

3) 国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 精神医療政策研究部:精神保健福祉資料(630調査), <https://www.ncnp.go.jp/nimh/seisaku/data/year.html>

4) 厚生労働省:医療計画について:平成29年3月31日厚生労働省医政局長通知(平成29年7月31日一部改正)。

5) 厚生労働省:疾病・事業及び在宅医療に係る医療体制について(平成29年3月31日厚生労働省医政局地域医療計画課長通知(平成29年7月31日一部改正))。

6) 厚生労働省:疾病・事業及び在宅医療に係る医療体制について(平成29年3月31日厚生労働省医政局地域医療計画課長通知(平成29年7月31日一部改正))(別表)医療体制構築に係る現状把握のための指標例。

7) 厚生労働省:レセプト情報・特定健診等情報の提供に関するホームページ, [https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/iryuuhoken/resepu](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuuhoken/resepu)

<to/index.html>

9) 独立行政法人 福祉医療機構:障害福祉サービス等情報検索, <https://www.wam.go.jp/sfkohyout/COP000100E0000.do>

## E. 健康危険情報

なし

## F. 研究発表

### 1. 論文発表

吉田光爾:精神保健福祉医療資源整備状況のWeb上での「見える化」システム:ReMHRAD(リムラッド)の開発と公表,精神障害とリハビリテーション 23(2) 166-173 2019年

### 2. 学会発表

吉田光爾:精神保健医療福祉状況の「見える化」～地域精神保健福祉資源データベース ReMHRAD(リムラッド)の開発と最新版リリース～日本精神障害者リハビリテーション学会 第27回 大阪大会 2019年11月24日

## G. 知的財産権の出願・登録状況

### 1. 特許取得

なし

### 2. 実用新案登録

なし

### 3. その他

なし

## H. その他

図1 鹿児島県のサマリー

H30年度鹿児島県サマリー

本サマリーは、「精神疾患の医療体制構築に係る現状把握のための指標例」に示された疾患・事業領域とそれに対応した指標について、自治体間と全国値と比較して色付けしたものです。各指標の上にマウスカーソルを移動させると、より詳細な内訳が表示されます。



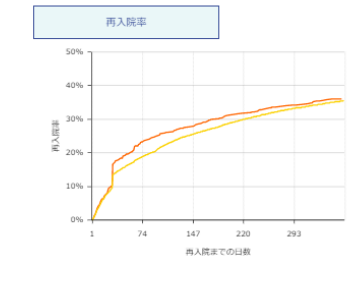
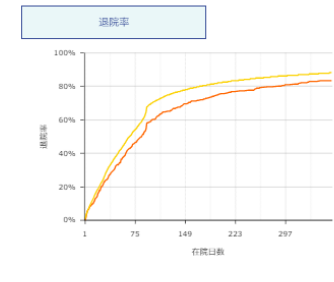
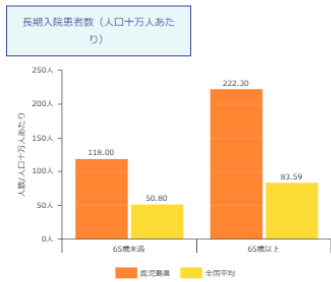
	統合失調症	うつ・躁うつ病	認知症	児童・思春期精神疾患	発達障害	アルコール依存症	薬物依存症	ギャンブル等依存症	PTSD	高次脳機能障害	摂食障害	てんかん	精神科救急	身体合併症	自殺対策	災害精神医療	医療観察法
スト ラク チャ ー	統合失調症を入院診...	うつ・躁うつ病を入...	認知症を入院診療し...	20歳未満の精神疾患...	発達障害を入院診療...	アルコール依存症を入...	薬物依存症を入院診療...	ギャンブル等依存症を...	PTSDを入院診療してい...	高次脳機能障害を支援...	摂食障害を入院診療し...	てんかんを入院診療し...	深夜・休日初診後に...	身体合併症を診療して...	救命救急入院科 精神	DPAT先通院登録医療...	指定通院医療機関数
	統合失調症を外来診...	うつ・躁うつ病を外...	認知症を外来診療し...	20歳未満の精神疾患...	発達障害を外来診療...	アルコール依存症を外...	薬物依存症を外来診療...	ギャンブル等依存症を...	PTSDを外来診療してい...		摂食障害を外来診療し...	てんかんを外来診療し...		精神疾患を受け入れ体...	救急患者精神科継続支...		
	治療抵抗性統合失調...	閉鎖性全身麻酔...	認知症疾患医療セン...	知的障害を入院診療...		重度アルコ-ル依存症...	依存症集団療法を外...				摂食障害入院医療管理...			精神科リエゾンチーム...			
	治療抵抗性統合失調...	認知行動療法を外...	認知症サポート医業...	知的障害を外来診療...													
		かかりつけ医認知症...	児童・思春期精神科...														
プ ロ セ ス	統合失調症の精神科...	うつ・躁うつ病の精...	認知症の精神科...	20歳未満の精神疾患...	発達障害の精神科...	アルコール依存症の精...	薬物依存症の精神科...	ギャンブル等依存症の...	PTSDの精神科での入...		摂食障害の精神科...	てんかんの精神科...	深夜・休日初診後に...	精神科入院患者で重...	救命救急入院科 精神疾...		
	統合失調症外来患者数	うつ・躁うつ病外来...	認知症外来患者数	20歳未満の精神疾患...	発達障害外来患者数	アルコール依存症外来...	薬物依存症外来患者数	ギャンブル等依存症外...	PTSD外来患者数		摂食障害外来患者数	てんかん外来患者数	精神疾患の救急車平均...	体制を持つ一般病...	救急患者精神科継続支...		
	治療抵抗性統合失調...	閉鎖性全身麻酔...	認知症疾患医療セン...	知的障害を入院診療...		重度アルコ-ル依存症...	依存症集団療法を外...				摂食障害入院医療管理...			精神科リエゾンチーム...			
	治療抵抗性統合失調...	認知行動療法を外...		知的障害外来患者数													
統合失調症患者にお...			児童・思春期精神科...														

全体的に病床を有する病院・入院患者数が全国と比較して多ノ 州 市 町 村 数 多 少 不 均 一

※グレーのセルは技術的な問題で算出していません

精神科における入院後3、6、12ヶ月時点の退院率		3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月		
		53.46%	73.02%	83.47%		
精神科における新規入院患者の平均在院日数		153.55日				
ア プ ロ ウ ト カ ム			急性期 (3ヶ月未満)	回復期 (3ヶ月以上1年未満)	慢性期 (1年以上)	合計
	施設所在地	65歳未満	500人	613人	1,910人	3,023人
	65歳以上	566人	1,192人	3,590人	5,348人	
	患者所在地	65歳未満	507人	618人	1,954人	3,079人
65歳以上	576人	1,208人	3,681人	5,465人		

施設所在地：鹿児島県内の精神科病棟における入院者の数を表示しています。  
患者所在地：鹿児島県民（＝鹿児島県に元住所のある方）の入院者の数を表示しています。



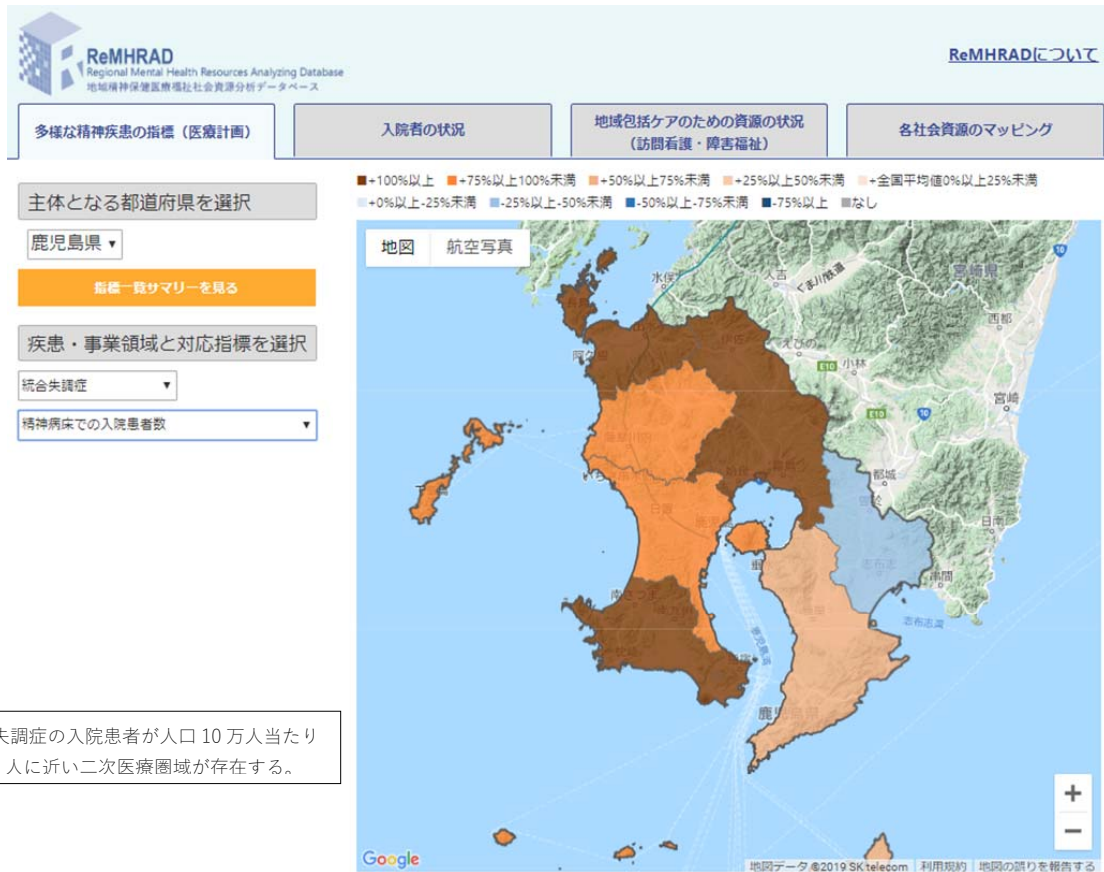
長期入院患者：入院から1年以上経過している、鹿児島県民（＝鹿児島県に元住所のある方）の入院者数を表示しています。

全国平均値と比較して、長期入院患者数が多く、退院率が低く、再入院率が高い。

閉じる



図2 鹿児島県の統合失調症患者の入院患者数（人口十万人あたり・二次医療圏別）



統合失調症の入院患者が人口10万人あたり900人に近い二次医療圏が存在する。

二次医療圏	実数（人）	人口10万人あたり（人）	excel出力
南薩	1150	856.043	
姶良・伊佐	1511	630.674	
出水	479	557.82	
川薩	596	504.995	
鹿児島	3209	468.885	
肝属	715	454.254	
奄美	471	422.539	
薩毛	171	403.645	
曾於	125	151.607	
全国	(合計) 340092	(平均値) 266.306	

図3 江戸川区に住所のある1年以上入院患者の入院先

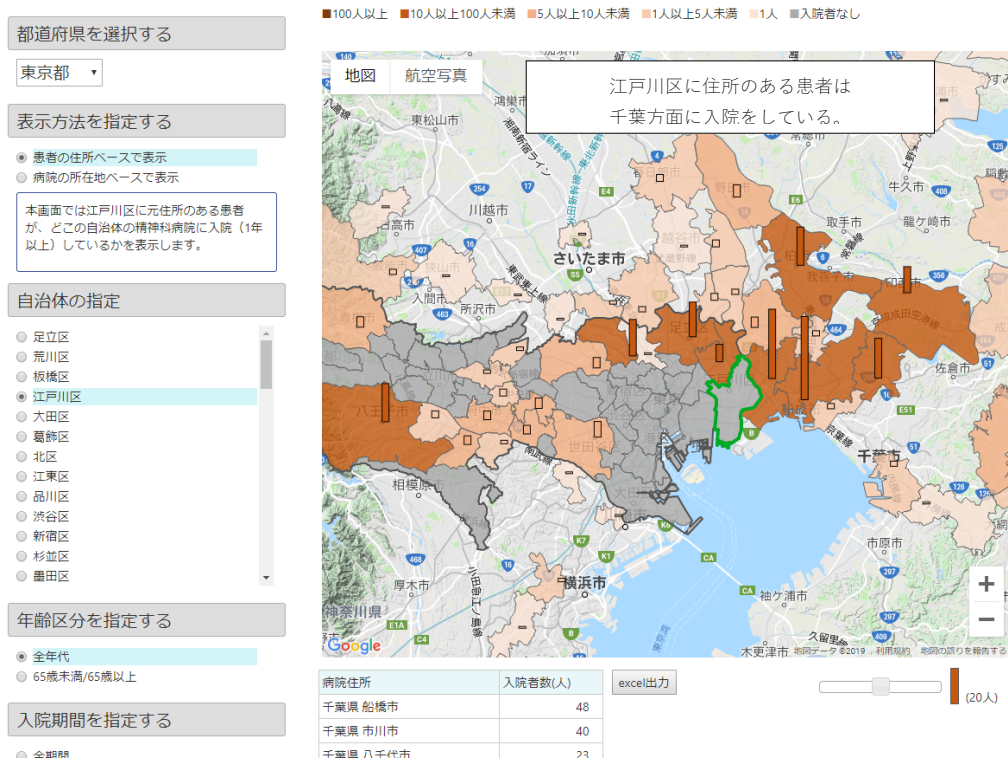


図4 八王子市内の精神科病院に1年以上入院している患者の元住所地

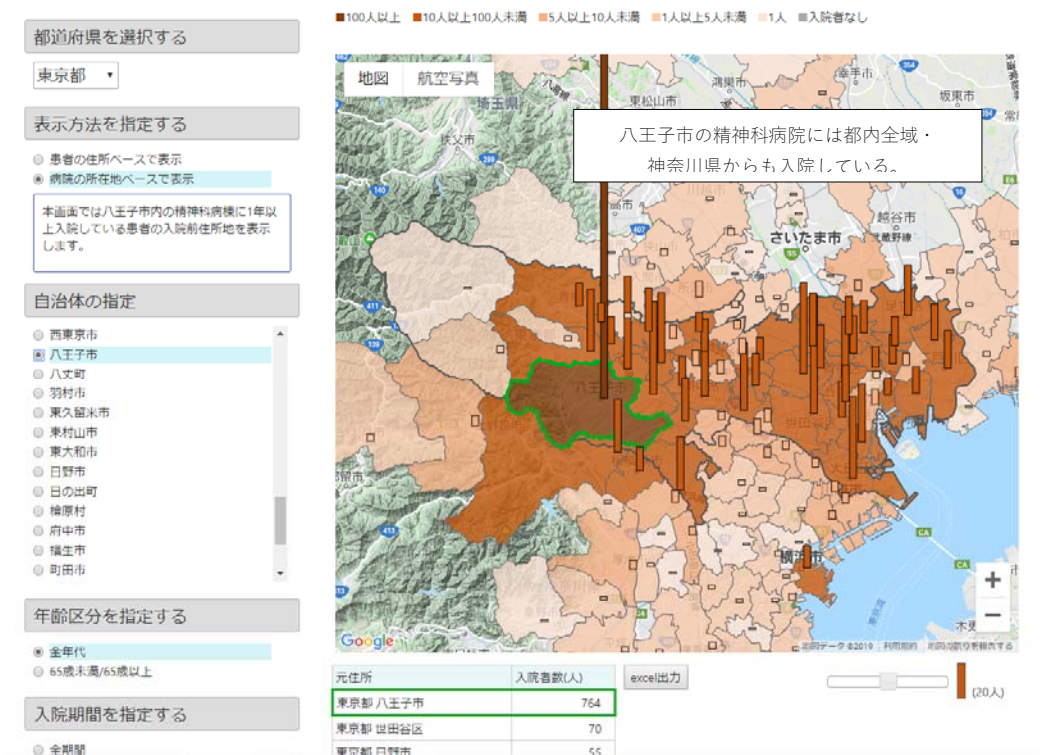


図5 東京都の精神科に対応した訪問看護ステーションの整備状況（人口10万人あたり）

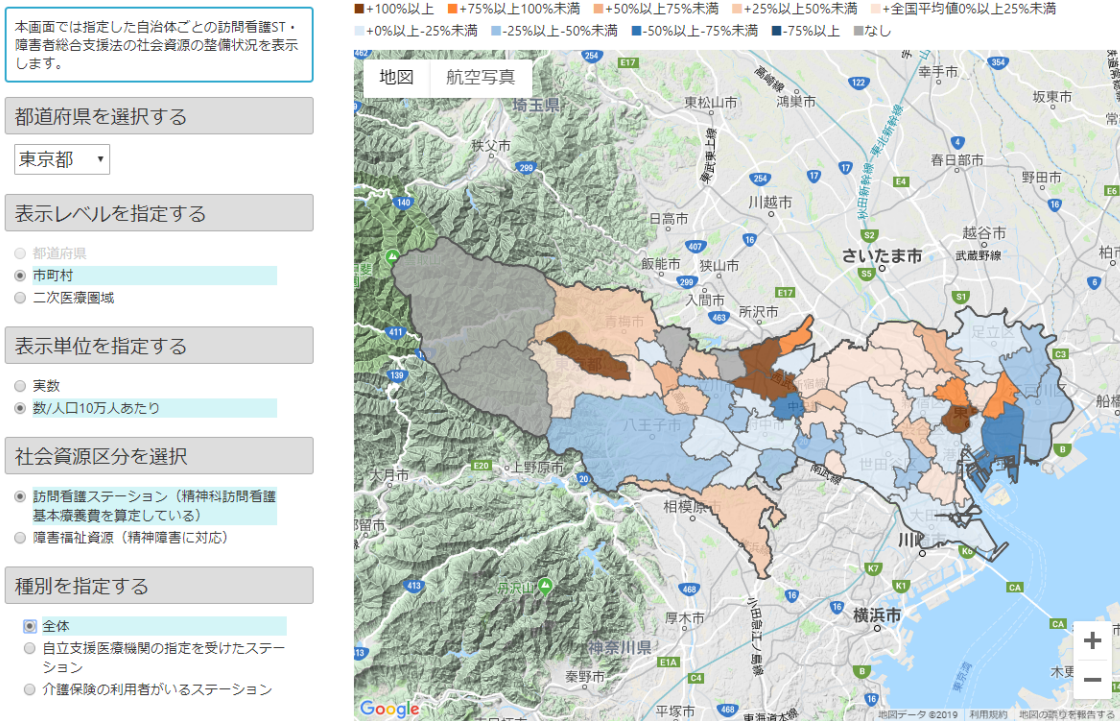


図6 奈良県における精神科に対応した医療機関の位置情報

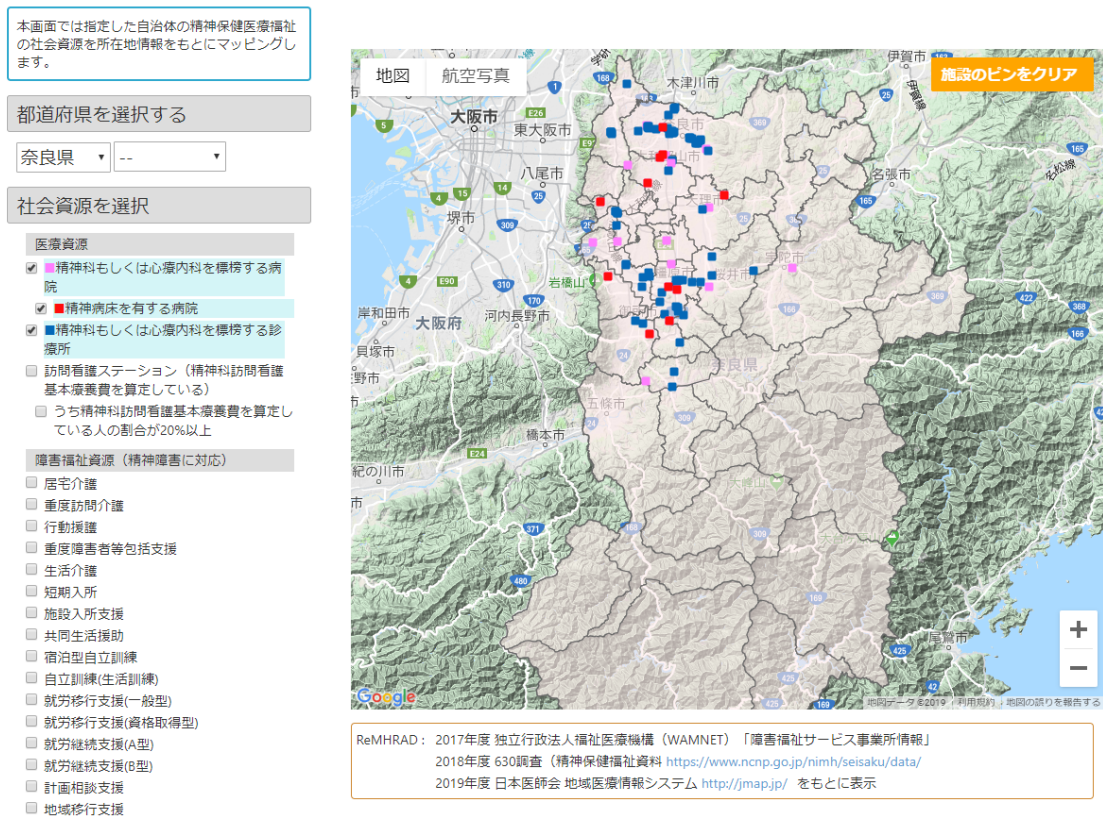


図7 ReMHRADの市区町村の認知度(経年比較)について

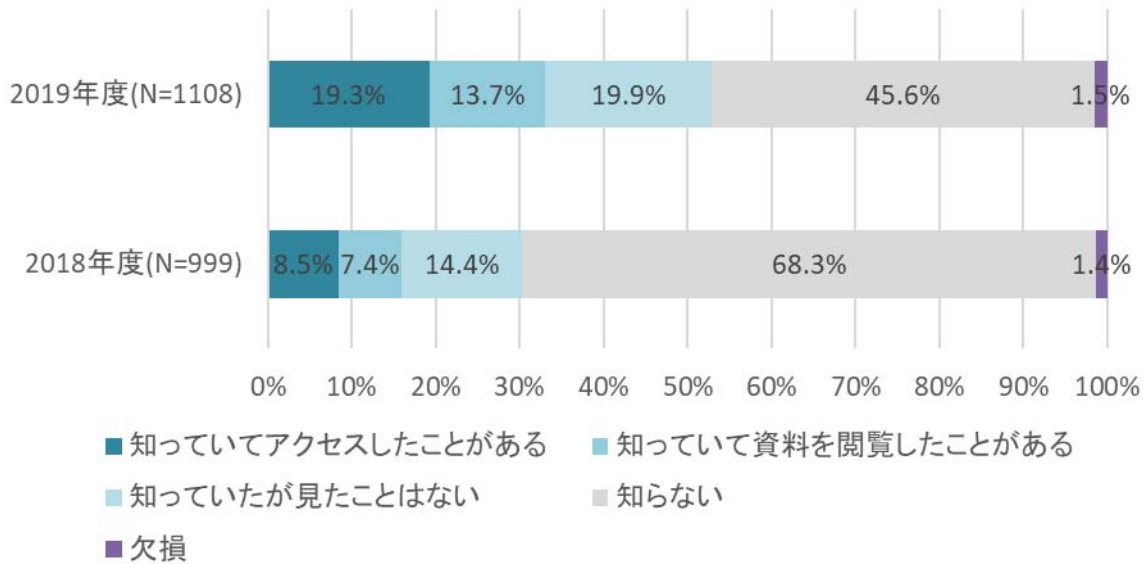


図8 認知の経緯

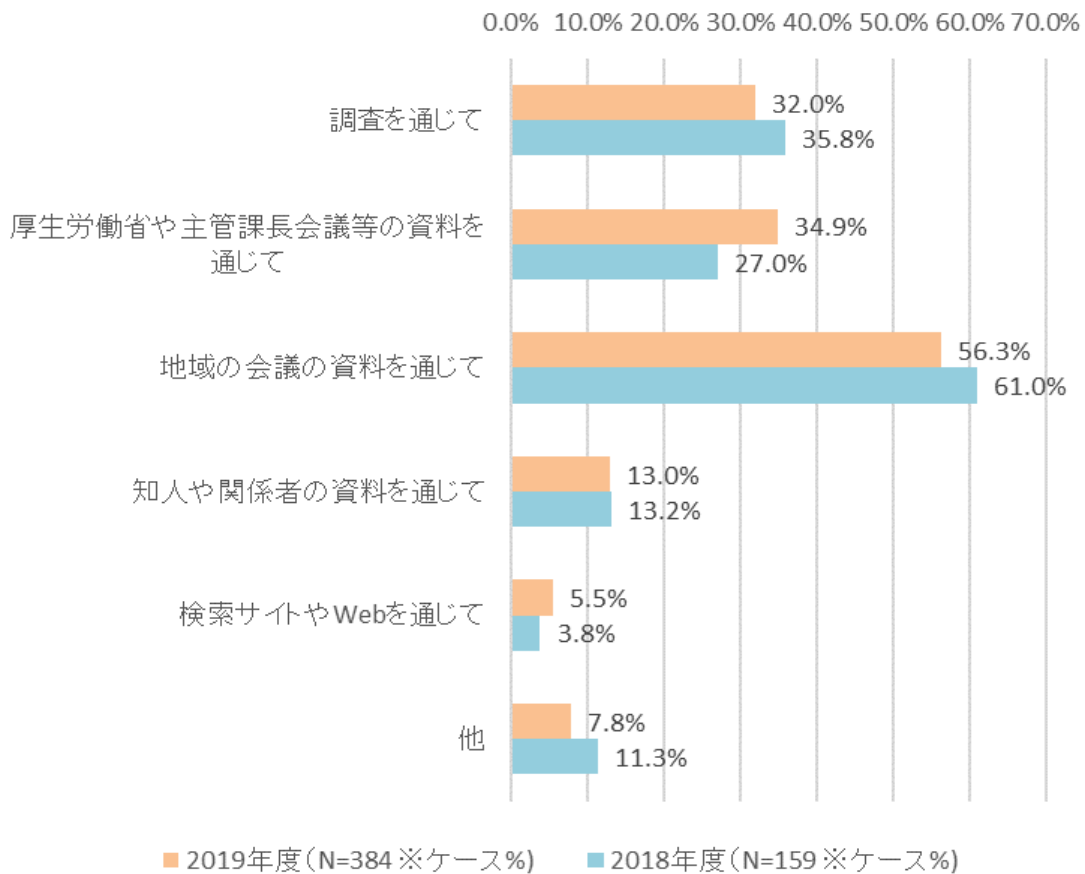


図9 閲覧内容  
(N=387 ケース%)

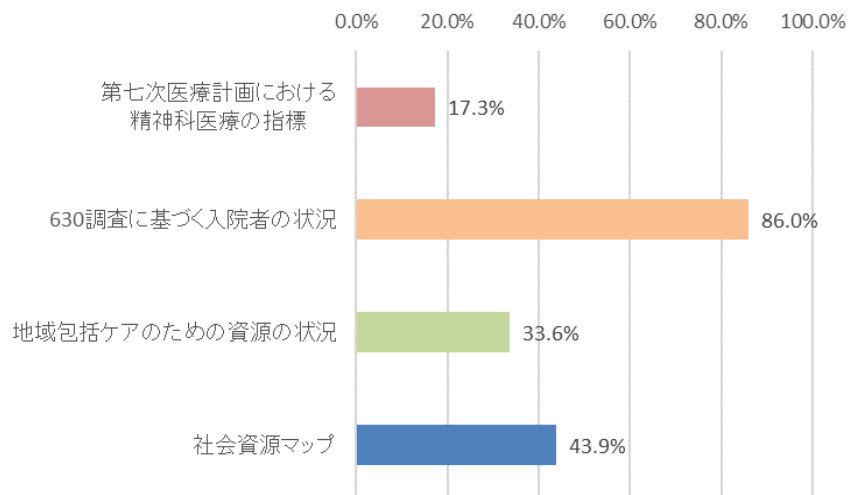
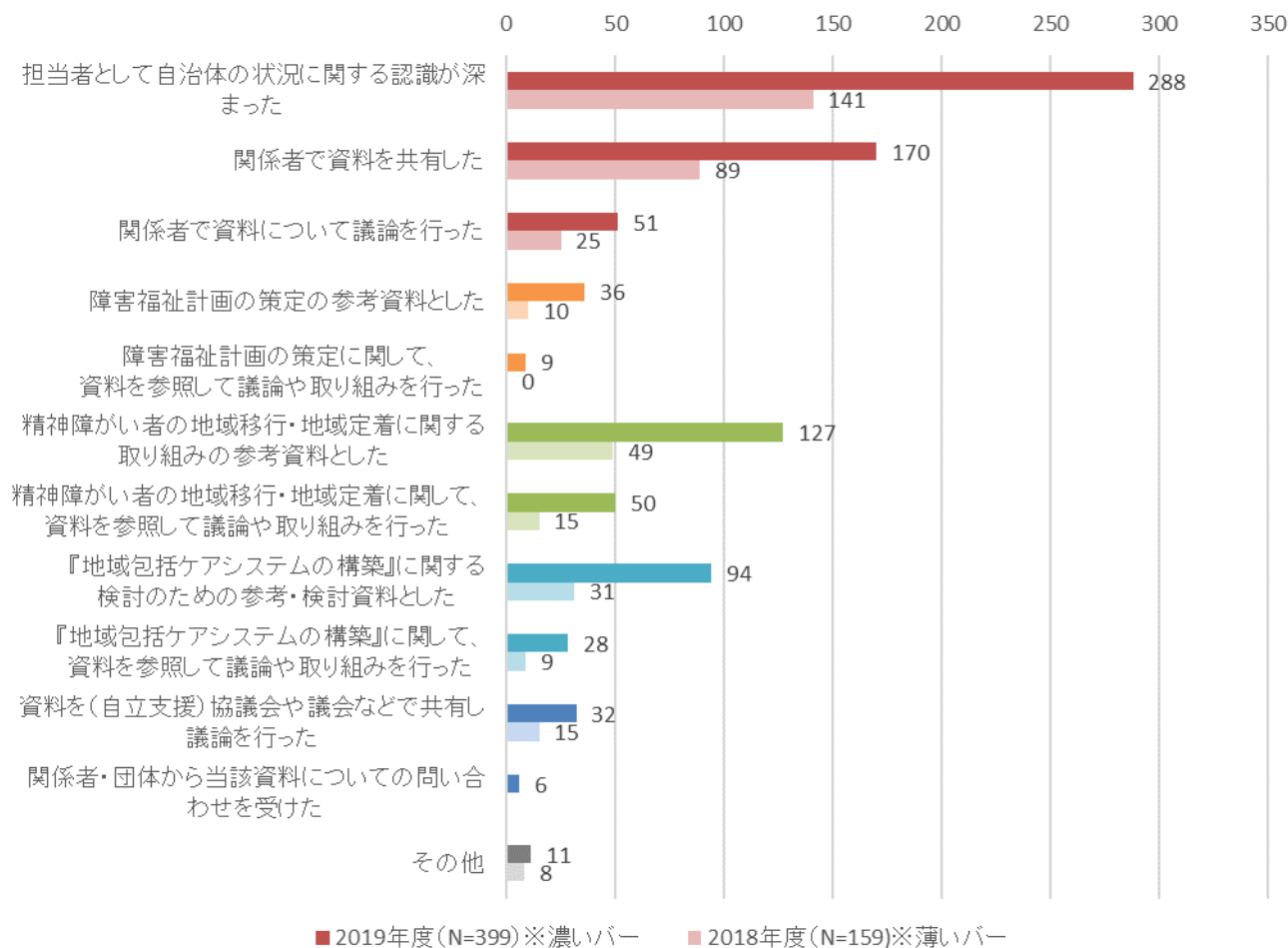


図10活用の状況(複数回答) 回答数



令和元年度厚生労働行政推進調査事業費補助金

障害者政策総合研究事業（精神障害分野）

医療計画、障害福祉計画の効果的なモニタリング体制の構築のための研究

分担研究報告書

精神病床における行動制限に関する検討

研究分担者 山之内芳雄

国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 精神医療政策研究部部長

## 研究要旨

本研究は、精神病床における隔離・身体的拘束件数が増加していることを受け、隔離ならびに身体的拘束の増加要因を探索すべきという要請に基づき行われたものである。その増加要因を探索するためには、現在のみならず過去の隔離・身体的拘束に関しても調査する必要があることから、本研究では令和元年を基準とし、10年前の平成21年もしくは5年前の平成26年の隔離・身体的拘束に関して、件数のみならず、診療録に記載のある年齢・性別、主診断、病棟入院料、指示期間、精神保健福祉法における隔離・身体的拘束の要件（該当要件）に関して調査を実施した。また、同時に隔離・身体的拘束を削減させるための組織的な取り組みを調査すべきであるとの意見に基づき、令和元年11月末より、全国の精神病床をもつ医療機関を対象に調査を行った。

全国の精神病床を有する医療機関1,625施設を対象に調査協力依頼し、313施設（19.3%）から回答を得た。隔離・身体的拘束指示患者増加に影響すると考えられる属性因子の1つとして、急性期系の病棟入院料を算定する病床の増加が挙げられた。しかしながら、特に平成21年と令和元年の比較はサンプル数が少なく、結果を一般化することが困難であると考えられたため、参考データとして記載するにとどめた。そして隔離・身体的拘束は本調査の調査年（平成21年もしくは平成26年）より以前の方が顕著に増加していることが630調査の件数の推移から明らかになっており、今回調査した10年前以前の大幅な増加時期については本調査の対象に含まれていない。5年以上前の診療記録の保管義務はないことから、遡って調査が可能な最大の期間を10年前として実施した調査であったが、過去のデータを遡って増加要因を明らかにするという目的で行われた本調査デザインの制約は大きかったと考えている。一方で、患者属性のみならず該当要件・期間を総合的に調査できた初めての調査でもあった。

本調査の結果、深夜0時でも開放観察されていると思われる事例が全体の1割弱みられ、正午では少なくとも1/4以上が開放観察とみられる状況であったことが推察された。隔離・身体的拘束指示期間においては、隔離・身体的拘束の1/2以上は1週間未満であるが、1か月以上の指示期間の患者も1割以上いることも明らかとなった。

今後、急性期型治療の普及、身体的合併症を持つ高齢者の増加、精神保健指定医をはじめ医療人材不足の中、現場の運用努力だけに頼らない、さらなる検討が求められよう。さらに、こういった医療環境の変化は精神病床だけの問題でもないと思われる。本調査の実施までの会議の間に議論にもあがった一般病床も含めた検討も今後必要であると考えられる。

## 研究協力者（五十音順）

新垣 元（医療法人卯の会新垣病院）  
江澤 和彦（日本医師会）  
大塚 恒子（一般財団法人仁明会精神衛生研究所）  
桐原 尚之（全国「精神病」者集団・運営委員）  
嶋森 好子（岩手医科大学）  
中島 豊爾（地方独立行政法人岡山県精神科医療センター）  
三宅 美智（岩手医科大学）  
森 隆夫（医療法人愛精会あいせい紀年病院）  
八尋 光秀（西新共同法律事務所）  
白田謙太郎（国立精神・神経医療研究センター）  
月江ゆかり（国立精神・神経医療研究センター）

### A. 研究目的

近年の精神病床における隔離・身体的拘束の増加に対して、増加要因に関連する課題の抽出と、その方策が、政策的に求められている。しかし、これまでは、隔離や身体的拘束の総数のみの把握にとどまっていた。そこで、本研究では、より臨床現場の実情に合わせた行動制限最小化のための方策の発信、政策提言を可能にするために、精神病床において隔離・身体的拘束の指示が出されていた患者について、その実態を明らかにし、増加要因と行動制限最小化のための方策を検討するに資する、基礎資料を作成することを目的とした。

### B. 研究方法

#### 1. 調査方法・調査項目の検討

研究協力者は当事者、弁護士、医療関係者、研究者で構成し、エキスパートコンセンサスにより、調査方法、調査項目を決定した。研究班会議は令和元年6月4日と令和元年7月15日の2回開催した。

会議の中では、一般病床の身体的拘束に関する議論もあがり、介護保険での身体的拘束ゼロに対応できない患者が精神病床に紹介されるのではないかといった意見、一般病床での身体的拘束低

減の行政的な仕組みを見習うべきといった意見、一般病床と精神病床の身体的拘束の定義の違いに留意すべき意見などが挙げられた。本調査をデザインするにあたってはこのような意見を考慮しつつ、まずは精神病床での実態を明確にすることとし、今後一般病床での調査を行うことを前提として調査票を作成することが重要であるという認識が得られた。

### 2. 実態調査の実施

#### 1) 調査対象医療機関

日本精神科病院協会、全国自治体病院協議会、国立病院機構、日本公的病院精神科協会、精神医学講座担当者会議に所属する精神病床を有する医療機関および上記の団体に属さない精神病床を有する医療機関 1,625 施設を対象に、Excel 調査票を用いた調査を行った。

#### 2) 調査方法

調査対象となる医療機関には各団体の協力を得たうえで、代表者宛に郵送またはメールで調査協力を依頼し、上記の団体に属さない医療機関の代表者宛には直接、郵送で調査を依頼した。さらに調査開始後、電話による調査協力依頼、行動制限最小化委員会宛の郵送による調査依頼、日本精神科病院協会の会員向けメールマガジン、日本精神科看護協会の会員誌にて調査協力の広報を行い、回収率の向上に努めた。

調査期間は令和元年11月26日から令和2年3月31日であった。調査協力については、まず、医療機関として調査に協力するか否かの判断を求め、研究協力への同意が得られた場合に調査開始とした。調査手順については以下の通りである。

①専用 Web サイトにアクセスし、Excel 調査票、公告文書、調査手順書をダウンロードする。

②調査手順書に沿って事務部門、病棟等で必要に応じて項目への入力を行う。

③データ入力済の Excel 調査票を Web サイトにアップロードする。

本研究は、国立精神・神経医療研究センター倫理委員会の承認を得て実施した（A2019-064）。医

学系指針に基づき、研究の目的を含む研究の実施についての情報を精神医療政策研究部のウェブサイト内に掲載するとともに、患者個人の申し出による拒否を可能とするために、医療機関の外来と病棟に公告文書の掲示を依頼した。

### 3) 調査項目

調査票 1～4 は、令和元年と平成 21 年もしくは平成 26 年のどちらか、調査票 5 は、令和元年の状況についてのみ調査を依頼した。

調査票 1： 調査対象の医療機関情報に関する調査票
医療機関名、回答担当者氏名と連絡先、都道府県番号、医療機関番号、全病床数、病院区分、設立主体、許可病床数、精神科医師数、精神保健指定医数、回答可能な時期、調査対象時期の精神病床のある病棟数、届出病棟入院料、届出病床数、在院患者数、開放区分、看護職員数
調査票 2： 6 月 1 日から 30 日に精神病床で隔離・身体的拘束の指示が出されていた患者の一覧表
患者の参加拒否の有無、患者 ID、入院年月、年齢層（5 歳階級）、性別、主診断、入院形態、6 月 1 か月間の隔離・身体的拘束の状況（継続、開始、解除など）
調査票 3： 6 月 30 日に隔離・身体的拘束の指示が出されていた患者の状況に関する調査票
診療録の有無、0 時または 12 時時点の隔離・身体的拘束の指示と実施の有無、該当要件（精神保健福祉法における隔離・身体的拘束の要件）
調査票 4： 6 月 1 日から 30 日に隔離・身体的拘束の指示が解除された患者の状況に関する調査票
診療録の有無、隔離・身体的拘束の指示開始・解除日、該当要件
調査票 5： 隔離・身体的拘束削減に影響する組織体制、姿勢、取り組みに関する調査票（自由記述）

回答者の職種、職位（管理職、非管理職、行動制限最小化委員会委員長、行動制限最小化委員会委員など）、隔離・身体的拘束を削減する（時間の削減・頻度の削減、隔離・身体的拘束自体の撤廃など）組織的な取り組みについて、具体的な取り組み内容とそのきっかけ、時期、キーパーソン（リーダーシップをとる人物）の有無、該当する場合は、具体的な内容、組織全体への浸透状況、その工夫内容について、インタビュー調査への協力の有無

### 4) 分析方法

#### ① 調査票 1～4

全ての調査項目について、令和元年と平成 21 年、令和元年と平成 26 年それぞれについて集計した。まず回答医療機関の属性を明らかにするために、いわゆる 630 調査の公表済みデータとの属性比較を行った（以下 630 調査と表記されているものについては引用番号を省略）。さらに病棟入院料、年齢層（5 歳階級）、性別、主診断について、クロス集計を行った。本研究の主な目的は令和元年と平成 21 年もしくは平成 26 年からの隔離・身体的拘束に関する実態の経年変化を明らかにすることであったため、令和元年を基準に、平成 21 年または平成 26 年との組み合わせで比較を行った。なお、令和元年と平成 21 年の組み合わせについてはサンプル数が少ないため、参考データとして位置付ける。

令和元年と平成 26 年の組み合わせで図表を作成した項目は、各調査年 6 月 30 日に隔離・身体的拘束指示が出されていた患者に関する、病棟入院料別、年齢・性別、主診断別のクロス構成比（図 2～図 7）、該当要件の構成比（図 8、図 9）、年齢・性別の該当要件のクロス構成比（図 10～図 17）、エピソード別の指示期間の構成比（図 18、図 19）である。

同様に、令和元年と平成 21 年の組み合わせ（参考値）で図表を作成した項目は、各調査年の 6 月 30 日に隔離指示と身体的拘束指示が出されていた患者に関する、病棟入院料別、年齢・性別、主



診断別のクロス構成比(図 20～図 25)、該当要件の構成比(図 26、図 27)、年齢・性別の該当要件のクロス構成比(図 28～図 35)、エピソード別の指示期間の構成比(図 36、図 37)である。

また、令和元年と平成 26 年の組み合わせについて、経年変化に関する有意差検定を行った。項目は、隔離・身体的拘束指示が出されていた患者に占める実施比率(表 8)、隔離・身体的拘束指示が出されていた患者の該当要件の比率(表 12、表 13) および指示期間の比率(表 14、表 15)である。同様に令和元年と平成 21 年の組み合わせについても、経年変化に関する有意差検定を行った。検定の対象とした項目は、隔離・身体的拘束指示が出されていた患者に占める実施比率(表 18)、隔離・身体的拘束指示が出されていた患者の該当要件の比率(表 21、表 22) および指示期間の比率(表 23、表 24)である。

なお、本報告書の最後に付録として調査票 1～4 の各調査項目に関する記述統計を掲載する(付録目次参照)。

研究結果では回答医療機関の回答比率、回答機関の基本属性、病棟入院料別比率および行動制限を受けていた患者の在院患者に対する比率の同年度 630 調査との比較検討結果、各項目の記述統計を示す。

## ② 調査票 5

隔離・身体的拘束を削減する組織的な取り組みについては、任意で、医療機関代表者が任命した 1 名に、取り組みの内容、きっかけ、時期、キーパーソン、組織への浸透状況について自由記述で回答を求めた。

取り組み内容については、問 1 の具体的な取り組み内容を記述する回答欄以外にも記述されていたため、全記述から意味内容ごとの取り組みを抽出することとした。意味内容ごとの抽出のため、ワンセンテンスの中に複数の取り組みが含まれている場合は、それぞれ分割し、それぞれの取り組みとして抽出した。抽出した取り組みは分類し、コード化した。コード化した内容は類似性に基づ

き抽象度を上げ、サブカテゴリー、カテゴリーを生成することにより分析した。

取り組みのきっかけについては、その回答欄に記述されている内容から、意味内容ごとのきっかけを抽出することとした。抽出したきっかけは分類し、コード化した。コード化した内容は類似性に基づき抽象度を上げ、サブカテゴリーを生成することにより分析した。キーパーソンについては、その回答欄の記述の中から、「中心」「リーダーシップ」等と書かれている者のみを抽出し、分類した。

## 5) 用語の定義

### ① 隔離・身体的拘束指示患者

6 月 30 日時点(0 時もしくは 12 時)で、隔離・身体的拘束の指示が出されていた患者

### ② 隔離・身体的拘束実施患者

6 月 30 日時点(0 時もしくは 12 時)で、隔離・身体的拘束の指示が出されており、かつ実施されていた患者

### ③ 調査 1

令和元年と平成 21 年の組み合わせで回答した医療機関 44 施設が分析対象となる調査

### ④ 調査 2

令和元年と平成 26 年の組み合わせで回答した医療機関 188 施設が分析対象となる調査

## C. 研究結果

### 1. 対象医療機関

1,625 施設のうち、313 施設から調査票が提出された(回収率:19.3%)。各調査年の回答医療機関数は、令和元年は 313 施設のうち令和元年のみの回答は 81 施設(25.9%)、令和元年と平成 21 年の組み合わせで回答した医療機関は 44 施設(14.0%)、令和元年と平成 26 年の組み合わせで回答した医療機関は 188 施設(60.1%)であった(表 1)。なお年次比較の際は、令和元年のみに回答している 81 施設は除外してペアで回答した医療機関の結果のみで検討を行っている。前述の通り、令和元年と平成 21 年の組み合わせで回答し

た医療機関 44 施設を対象とした調査を「調査 1」、令和元年と平成 26 年の組み合わせで回答した医療機関 188 施設を対象とした調査を「調査 2」とし、年次比較を行った(図 1)。ただし、「調査 1」についてはサンプル数が少なく、結果を一般化することが困難であると考えられたため、参考データとして記載するにとどめることとする。

## 2. 基本属性

回答医療機関の基本属性は、表 2 に示す。各調査について、各調査年ともに民間、その他医療機関が 7 割以上を占めた。また、表 3 では調査 2 と 630 調査における回答医療機関の基本属性を比較し、表 4 と表 5 では調査 2 へ回答した医療機関を対象に平成 26 年と令和元年それぞれに絞って資料を示した。

表 3 では、調査 2 における本調査と 630 調査の回答医療機関の比率を病棟入院料別にまとめた。なお、病棟入院料は「急性期系の病棟入院料」「その他の病棟入院料」に分類し、それぞれの内訳について比較を行った。

「急性期系の病棟入院料」は、精神科救急入院料、精神科救急・合併症入院料、精神科急性期治療病棟入院料、10 対 1 入院基本料、13 対 1 入院基本料、特定機能病院入院基本料(7 対 1)、特定機能病院入院基本料(10 対 1)、特定機能病院入院基本料(13 対 1)とした。

また、「その他の病棟入院料」は、精神療養病棟入院料、認知症治療病棟入院料、地域移行機能強化病棟入院料、特殊疾患病棟入院料、小児入院医療管理料 3、小児入院医療管理料 5、児童・思春期精神科入院医療管理料、医療観察法入院対象者入院医学管理料、15 対 1 入院基本料、18 対 1 入院基本料、20 対 1 入院基本料、特別入院基本料、特定機能病院入院基本料(15 対 1)、その他とした。

表 3 より、調査 2 の平成 26 年で病棟入院料の上記の二区分の構成比にカイ二乗検定による有意差が認められた ( $P<0.05$ )。調査 2 で「急性期系の病棟入院料」の比率が 630 調査に比べて高い傾向にあるため、本調査の結果はより急性期の患

者属性を反映している可能性がある。

表 4 と表 5 では調査 2 へ回答した医療機関を対象に平成 26 年と令和元年それぞれに絞って、行動制限を受けている患者の在院患者に対する比率をまとめた。また、同様に 630 調査との行動制限を受けている患者の在院患者に対する比率の比較も行った。

なお、630 調査では各調査年によって行動制限の定義が異なる。平成 26 年の 630 調査では 6 月 30 日に「保護室の隔離患者数」「身体的拘束を行っている患者数」を対象としているため、本調査では 0 時または 12 時に指示および実施があった患者の在院患者に対する比率それぞれについて、630 調査との比較を行った。表 4 より、隔離については本調査の方が指示、実施いずれも在院患者に対する比率が高く、カイ二乗検定による有意差が認められた ( $P<0.001$ )。一方、身体的拘束については、いずれも有意差が認められなかった。

令和元年の 630 調査では 6 月 30 日 0 時時点で「隔離・身体的拘束の指示が出されている患者」を対象としているため、本調査でも 0 時時点で指示があった患者との比較を行った。

表 5 より、隔離・身体的拘束の指示が出されている患者の在院患者に対する比率について、令和元年の 630 調査と、調査 2 の対象となった 188 施設とをカイ二乗検定により比較したところ、隔離の在院患者に対する比率は調査 2 の対象医療機関の方が有意に高かった ( $P<0.001$ )。一方、身体的拘束については、調査 2 の対象医療機関の方が在院患者に対する比率が有意に低かった ( $P<0.001$ )。

## 3. 調査 2 の結果(令和元年と平成 26 年の組み合わせで回答した医療機関の年次比較結果)

### 1) 隔離・身体的拘束の指示と実施の状況

#### ① 隔離・身体的拘束指示患者の在院患者に対する比率の推移(表 6)

隔離指示患者は、わずかに増加していたが、身体的拘束指示患者はやや減少していた。また身体的拘束よりも隔離の比率が高い。

## ② 隔離・身体的拘束指示患者に占める実施比率の推移(表 7、表 8)

隔離・身体的拘束指示患者に占める実施比率をみると、隔離と身体的拘束ともに実施されていない患者が一定数いることが示された。また隔離・身体的拘束の実施率を 0 時と 12 時で比較すると、隔離・身体的拘束いずれも 0 時の実施比率が高かった。

0 時または 12 時のいずれかに指示・実施があった患者を対象に、カイ二乗検定を行ったところ、隔離・身体的拘束のいずれも令和元年と平成 26 年の比較における有意差は認められなかった。

## 2) 隔離・身体的拘束指示患者の病棟入院料別、年齢・性別、主診断別の比率の推移

### ① 隔離・身体的拘束指示患者の主要な病棟入院料別比率の推移(図 2、図 3)

病棟入院料は「急性期系の病棟入院料<sup>i)</sup>」「その他の病棟入院料<sup>ii)</sup>」に分類し、年次比較を行った。

隔離・身体的拘束指示患者のいずれも「急性期系の病棟入院料」が増加していた。

### ② 隔離・身体的拘束指示患者の年齢・性別比率の推移(図 4、図 5)

隔離指示患者は、男女比に大きな変化は認められない。年齢別にみると、男性は「20 歳以上 40 歳未満」「40 歳以上 65 歳未満」が、女性は「20 歳以上 40 歳未満」が減少し、男性、女性ともに 65 歳以上が増加していた。

身体的拘束指示患者は、男性の比率が増加していた。年齢別にみると、男性は「20 歳未満」「20 歳以上 40 歳未満」「40 歳以上 65 歳未満」が、女性は「20 歳以上 40 歳未満」「40 歳以上 65 歳未満」「65 歳以上 75 歳未満」で減少し、男性は「65 歳以上 75 歳未満」「75 歳以上」、女性は「75 歳以上」が増加していた。

### ③ 隔離・身体的拘束指示患者の主診断別比率の推移(図 6、図 7)

隔離指示患者は、「F2 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害」が減少し、「F0 症状性を含む器質性精神障害」「F3 気分(感情)障害」「F7 精神遅滞(知的障害)」「F8 心理的発達の障害」「その他」が増加していた。

身体的拘束指示患者は、「F2 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害」「F3 気分(感情)障害」「F8 心理的発達の障害」「その他」が減少し、「F0 症状性を含む器質性精神障害」が大幅に増加し、「F7 精神遅滞(知的障害)」が増加していた。

## ④ 隔離・身体的拘束指示患者の病棟入院料別の在院患者に対する比率の年次比較に関する有意差検定(表 9、表 10)

隔離・身体的拘束指示患者の病棟入院料別の在院患者に対する比率について、令和元年と平成 26 年の「急性期系の病棟入院料<sup>i)</sup>」と「その他の病棟入院料<sup>ii)</sup>」の 2 群に分けてカイ二乗検定を行った。その結果、令和元年と平成 26 年の病棟入院料別の在院患者に対する比率は、隔離・身体的拘束ともに「その他の病棟入院料」において有意差が認められた ( $P<0.05$ )。

## 3) 隔離・身体的拘束指示患者の該当要件の比率の推移(隔離・身体的拘束の開始時に選択された要件)

該当要件は、厚生省告示第 130 号を参考に、表 11 に示す通りに回答を求めた。表 11 の該当要件は複数選択で運用されているため、本調査においても複数選択可とした。そのため隔離・身体的拘束指示患者に対して、該当要件別に比率を算出した。

### ① 隔離・身体的拘束指示患者の該当要件の比率の推移(隔離・身体的拘束の開始時に選択された要件)(図 8、図 9、表 12、表 13)

隔離指示患者は、「エ. 急性精神運動興奮等のため、不穏、多動、爆発性などが目立ち、一般の精神病室では医療又は保護を図ることが著しく困難な場合」「オ. 身体的合併症を有する患者につい

て、検査及び処置等のため、隔離が必要な場合」「カ. その他」でわずかに減少し、「ア. 他の患者との人間関係を著しく損なうおそれがある等、その言動が患者の病状の経過や予後に著しく悪く影響する場合」「イ. 自殺企図又は自傷行為が切迫している場合」「ウ. 他の患者に対する暴力行為や著しい迷惑行為、器物破損行為が認められ、他の方法ではこれを防ぎきれない場合」がやや増加していた。なお、カイ二乗検定を行ったところ、いずれの要件についても令和元年と平成 26 年の比較における有意差は認められなかった。

身体的拘束指示患者は、「ア. 自殺企図又は自傷行為が著しく切迫している場合」が減少し、「イ. 多動又は不穏が顕著である場合」「ウ. ア又はイのほか精神障害のために、そのまま放置すれば患者の生命にまで危険が及ぶおそれがある場合」「エ. その他」が増加していた。また、「ウ. ア又はイのほか精神障害のために、そのまま放置すれば患者の生命にまで危険が及ぶおそれがある場合」に関しては、カイ二乗検定により令和元年と平成 26 年の比較における有意差が認められた ( $P<0.05$ )。

## ② 隔離指示患者の年齢・性別の該当要件の比率の推移(65 歳未満の男女)(図 10、図 11)

隔離指示患者の 65 歳未満男性(図 10)では、「イ. 自殺企図又は自傷行為が切迫している場合」「ウ. 他の患者に対する暴力行為や著しい迷惑行為、器物破損行為が認められ、他の方法ではこれを防ぎきれない場合」「オ. 身体的合併症を有する患者について、検査及び処置等のため、隔離が必要な場合」「カ. その他」が減少し、「ア. 他の患者との人間関係を著しく損なうおそれがある等、その言動が患者の病状の経過や予後に著しく悪く影響する場合」「エ. 急性精神運動興奮等のため、不穏、多動、爆発性などが目立ち、一般の精神病室では医療又は保護を図ることが著しく困難な場合」が増加していた。

65 歳未満女性(図 11)では、「ア. 他の患者との人間関係を著しく損なうおそれがある等、その

言動が患者の病状の経過や予後に著しく悪く影響する場合」「エ. 急性精神運動興奮等のため、不穏、多動、爆発性などが目立ち、一般の精神病室では医療又は保護を図ることが著しく困難な場合」「オ. 身体的合併症を有する患者について、検査及び処置等のため、隔離が必要な場合」「カ. その他」が減少し、「イ. 自殺企図又は自傷行為が切迫している場合」「ウ. 他の患者に対する暴力行為や著しい迷惑行為、器物破損行為が認められ、他の方法ではこれを防ぎきれない場合」が増加していた。

## ③ 隔離指示患者の年齢・性別の該当要件の比率の推移(65 歳以上の男女)(図 12、図 13)

隔離指示患者の 65 歳以上男性(図 12)では、「イ. 自殺企図又は自傷行為が切迫している場合」「ウ. 他の患者に対する暴力行為や著しい迷惑行為、器物破損行為が認められ、他の方法ではこれを防ぎきれない場合」が減少し、「ア. 他の患者との人間関係を著しく損なうおそれがある等、その言動が患者の病状の経過や予後に著しく悪く影響する場合」「エ. 急性精神運動興奮等のため、不穏、多動、爆発性などが目立ち、一般の精神病室では医療又は保護を図ることが著しく困難な場合」「オ. 身体的合併症を有する患者について、検査及び処置等のため、隔離が必要な場合」「カ. その他」が増加していた。

65 歳以上女性(図 13)では、「エ. 急性精神運動興奮等のため、不穏、多動、爆発性などが目立ち、一般の精神病室では医療又は保護を図ることが著しく困難な場合」「オ. 身体的合併症を有する患者について、検査及び処置等のため、隔離が必要な場合」が減少し、「イ. 自殺企図又は自傷行為が切迫している場合」「ウ. 他の患者に対する暴力行為や著しい迷惑行為、器物破損行為が認められ、他の方法ではこれを防ぎきれない場合」「カ. その他」が増加していた。

## ④ 身体的拘束指示患者の年齢・性別の該当要件の比率の推移(65 歳未満の男女)(図 14、図

15)

身体的拘束指示患者の 65 歳未満男性 (図 14) では、「イ. 多動又は不穏が顕著である場合」が減少し、「ア. 自殺企図又は自傷行為が著しく切迫している場合」「ウ. ア又はイのほか精神障害のために、そのまま放置すれば患者の生命にまで危険が及ぶおそれがある場合」「エ. その他」が増加していた。

65 歳未満女性 (図 15) では、「ア. 自殺企図又は自傷行為が著しく切迫している場合」が減少し、「イ. 多動又は不穏が顕著である場合」「ウ. ア又はイのほか精神障害のために、そのまま放置すれば患者の生命にまで危険が及ぶおそれがある場合」「エ. その他」が増加していた。

#### ⑤ 身体的拘束指示患者の年齢・性別の該当要件の比率の推移(65 歳以上の男女)(図 16、図 17)

身体的拘束指示患者の 65 歳以上男性 (図 16) では、「ア. 自殺企図又は自傷行為が著しく切迫している場合」が減少し、「イ. 多動又は不穏が顕著である場合」「ウ. ア又はイのほか精神障害のために、そのまま放置すれば患者の生命にまで危険が及ぶおそれがある場合」「エ. その他」が増加していた。

65 歳以上女性 (図 17) では、「ア. 自殺企図又は自傷行為が著しく切迫している場合」「イ. 多動又は不穏が顕著である場合」が減少し、「ウ. ア又はイのほか精神障害のために、そのまま放置すれば患者の生命にまで危険が及ぶおそれがある場合」「エ. その他」が増加していた。

#### ⑥ 隔離・身体的拘束指示が解除された患者の当該エピソードにおける指示期間の比率の推移(図 18、図 19、表 14、表 15)

隔離指示期間は、「1 週間以上 2 週間未満」「2 週間以上 1 か月未満」「1 か月以上 3 か月未満」が減少し、「1 日のみ」「2 日以上 1 週間未満」「3 か月以上 1 年未満」「1 年以上 5 年未満」「5 年以上 10 年未満」が増加していた。「10 年以上」も各調査

年で 1 件ずつあった。なお、サンプル数が少ないことを考慮し、期間の区分を統合してカイ二乗検定を行ったところ、いずれの区分でも有意差は認められなかった。

身体的拘束指示期間は、「2 日以上 1 週間未満」「1 週間以上 2 週間未満」「2 週間以上 1 か月未満」「1 か月以上 3 か月未満」「3 か月以上 1 年未満」が減少し、「1 日のみ」「1 年以上 5 年未満」「10 年以上」が増加していた。隔離と同様、身体的拘束についてもカイ二乗検定を行ったところ、いずれの区分でも有意差は認められなかった。

#### 4. 【参考】調査 1 の結果(令和元年と平成 21 年の組み合わせで回答した医療機関の年次比較結果)

##### 1) 隔離・身体的拘束の指示と実施の状況

##### ① 隔離・身体的拘束指示患者の在院患者に対する比率の推移(表 16)

隔離と身体的拘束指示患者ともに増加しており、「0 時」時点、「12 時」時点でも同じ傾向であった。また身体的拘束よりも隔離の増加率の方が高かった。

##### ② 隔離・身体的拘束指示患者に占める実施比率の推移(表 17、表 18)

隔離・身体的拘束指示患者に占める実施比率をみると、一定数指示は出されているが、実施されていない患者がいることが分かる。また隔離・身体的拘束ともに「0 時」と「12 時」で比較すると、「0 時」の実施比率が高かった。

「0 時」または「12 時」のいずれかに指示・実施があった患者を対象に、カイ二乗検定を行ったところ、隔離・身体的拘束のいずれも令和元年と平成 21 年の有意差は認められなかった。

##### 2) 隔離・身体的拘束指示患者の病棟入院料別、年齢・性別、主診断別の比率の推移

##### ① 隔離・身体的拘束指示患者の主要な病棟入院料別比率の推移(図 20、図 21)

病棟入院料は「急性期系の病棟入院料<sup>i)</sup>」「その他の病棟入院料<sup>ii)</sup>」に分類し、年次比較を行った。

隔離・身体的拘束指示患者はいずれも「急性期系の病棟入院料」において増加していた。

### ② 隔離・身体的拘束指示患者の年齢・性別比率の推移(図 22、図 23)

隔離指示患者は、男女比に大きな変化はみられなかった。年齢別にみると、男性は 40 歳未満が減少、女性は「40 歳以上 65 歳未満」が減少し、65 歳以上が増加していた。身体的拘束指示患者は、男女比に大きな変化はみられなかった。年齢別にみると、男性は 40 歳未満が増加していた。女性は、「20 歳以上 40 歳未満」「65 歳以上 75 歳未満」で増加し、「75 歳以上」が減少していた。

### ③ 隔離・身体的拘束指示患者の主診断別比率の推移(図 24、図 25)

隔離指示患者は、「F2 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害」が減少し、「F3 気分(感情)障害」「F7 精神遅滞(知的障害)」「F8 心理的発達の障害」が増加していた。

身体的拘束指示患者は、「F0 症状性を含む器質性精神障害」が大幅に減少し、「F2 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害」「F7 精神遅滞(知的障害)」「F8 心理的発達の障害」が増加していた。

### ④ 隔離・身体的拘束指示患者の病棟入院料別の在院患者に対する比率の年次比較に関する有意差検定(表 19、表 20)

隔離指示患者の病棟入院料別の在院患者に対する比率において、参考として令和元年と平成 21 年の「急性期系の病棟入院料<sup>i)</sup>」と「その他の病棟入院料<sup>ii)</sup>」の 2 群に分けてカイ二乗検定を行った。その結果、令和元年と平成 21 年の隔離指示患者の病棟入院料別の在院患者に対する比率では「急性期系の病棟入院料」と「その他の病棟入院料」において有意差が認められた ( $P<0.05$ )。同様に、令和元年と平成 21 年の身体的拘束指示患者においても、「急性期系の病棟入院料」のみで有意差が

認められた ( $P<0.001$ )。

### 3) 隔離・身体的拘束指示患者の該当要件の比率の推移(隔離・身体的拘束の開始時に選択された要件)

該当要件は、厚生省告示第 130 号を参考に、表 11 に示す通りに回答を求めた。表 11 の該当要件は複数選択で運用されているため、本調査においても複数選択可とした。そのため隔離・身体的拘束指示患者に対して、該当要件別に比率を算出した。

#### ① 隔離・身体的拘束指示患者の該当要件の比率の推移(隔離・身体的拘束の開始時に選択された要件)(図 26、図 27、表 21、表 22)

隔離指示患者は、「イ. 自殺企図又は自傷行為が切迫している場合」「カ. その他」が減少し、「ア. 他の患者との人間関係を著しく損なうおそれがある等、その言動が患者の病状の経過や予後に著しく悪く影響する場合」「ウ. 他の患者に対する暴力行為や著しい迷惑行為、器物破損行為が認められ、他の方法ではこれを防ぎきれない場合」「エ. 急性精神運動興奮等のため、不穏、多動、爆発性などが目立ち、一般の精神病室では医療又は保護を図ることが著しく困難な場合」「オ. 身体的合併症を有する患者について、検査及び処置等のため、隔離が必要な場合」が増加していた。各該当要件の比率についてカイ二乗検定を行ったところ、令和元年と平成 21 年の比較において、「カ. その他」で有意差が認められた ( $P<0.05$ )。

身体的拘束指示患者は、「ウ. ア又はイのほか精神障害のために、そのまま放置すれば患者の生命にまで危険が及ぶおそれがある場合」が減少し、「ア. 自殺企図又は自傷行為が著しく切迫している場合」「イ. 多動又は不穏が顕著である場合」「エ. その他」が増加していた。各該当要件の比率についてカイ二乗検定を行ったところ「イ. 多動又は不穏が顕著である場合」において有意差が認められた ( $P<0.05$ )。

#### ② 隔離指示患者の年齢・性別の該当要件の比率

### の推移(65歳未満の男女)(図 28、図 29)

隔離指示患者の 65 歳未満男性(図 28)では、「ア. 他の患者との人間関係を著しく損なうおそれがある等、その言動が患者の病状の経過や予後に著しく悪く影響する場合」「イ. 自殺企図又は自傷行為が切迫している場合」「カ. その他」が減少し、「ウ. 他の患者に対する暴力行為や著しい迷惑行為、器物破損行為が認められ、他の方法ではこれを防ぎきれない場合」「エ. 急性精神運動興奮等のため、不穏、多動、爆発性などが目立ち、一般の精神病室では医療又は保護を図ることが著しく困難な場合」「オ. 身体的合併症を有する患者について、検査及び処置等のため、隔離が必要な場合」が増加していた。

65 歳未満女性(図 29)では、「オ. 身体的合併症を有する患者について、検査及び処置等のため、隔離が必要な場合」「カ. その他」が減少し、「ア. 他の患者との人間関係を著しく損なうおそれがある等、その言動が患者の病状の経過や予後に著しく悪く影響する場合」「イ. 自殺企図又は自傷行為が切迫している場合」「ウ. 他の患者に対する暴力行為や著しい迷惑行為、器物破損行為が認められ、他の方法ではこれを防ぎきれない場合」「エ. 急性精神運動興奮等のため、不穏、多動、爆発性などが目立ち、一般の精神病室では医療又は保護を図ることが著しく困難な場合」が増加していた。

### ③ 隔離指示患者の年齢・性別の該当要件の比率の推移(65歳以上の男女)(図 30、図 31)

隔離指示患者の 65 歳以上男性(図 30)では、「ア. 他の患者との人間関係を著しく損なうおそれがある等、その言動が患者の病状の経過や予後に著しく悪く影響する場合」「イ. 自殺企図又は自傷行為が切迫している場合」「カ. その他」が減少し、「ウ. 他の患者に対する暴力行為や著しい迷惑行為、器物破損行為が認められ、他の方法ではこれを防ぎきれない場合」「エ. 急性精神運動興奮等のため、不穏、多動、爆発性などが目立ち、一般の精神病室では医療又は保護を図ることが著しく困難な場合」「オ. 身体的合併症を有する患者に

ついて、検査及び処置等のため、隔離が必要な場合」が増加していた。

65 歳以上女性(図 31)では、「オ. 身体的合併症を有する患者について、検査及び処置等のため、隔離が必要な場合」「カ. その他」が減少し、「ア. 他の患者との人間関係を著しく損なうおそれがある等、その言動が患者の病状の経過や予後に著しく悪く影響する場合」「ウ. 他の患者に対する暴力行為や著しい迷惑行為、器物破損行為が認められ、他の方法ではこれを防ぎきれない場合」「エ. 急性精神運動興奮等のため、不穏、多動、爆発性などが目立ち、一般の精神病室では医療又は保護を図ることが著しく困難な場合」が増加していた。

### ④ 身体的拘束指示患者の年齢・性別の該当要件の比率の推移(65歳未満の男女)(図 32、図 33)

身体的拘束指示患者の 65 歳未満男性(図 32)では、「ウ. ア又はイのほか精神障害のために、そのまま放置すれば患者の生命にまで危険が及ぶおそれがある場合」が減少し、「ア. 自殺企図又は自傷行為が著しく切迫している場合」「イ. 多動又は不穏が顕著である場合」「エ. その他」が増加していた。

65 歳未満女性(図 33)では、「ウ. ア又はイのほか精神障害のために、そのまま放置すれば患者の生命にまで危険が及ぶおそれがある場合」が減少し、「ア. 自殺企図又は自傷行為が著しく切迫している場合」「イ. 多動又は不穏が顕著である場合」「エ. その他」が増加していた。

### ⑤ 身体的拘束指示患者の年齢・性別の該当要件の比率の推移(65歳以上の男女)(図 34、図 35)

身体的拘束指示患者の 65 歳以上男性(図 34)では、「ウ. ア又はイのほか精神障害のために、そのまま放置すれば患者の生命にまで危険が及ぶおそれがある場合」が減少し、「ア. 自殺企図又は自傷行為が著しく切迫している場合」「イ. 多動又は不穏が顕著である場合」「エ. その他」で増加し

ていた。

65歳以上女性(図35)では、「ア.自殺企図又は自傷行為が著しく切迫している場合」「ウ.ア又はイのほか精神障害のために、そのまま放置すれば患者の生命にまで危険が及ぶおそれがある場合」「エ.その他」が減少し、「イ.多動又は不穏が顕著である場合」が増加していた。

#### ⑥ 隔離・身体的拘束指示が解除された患者の当該エピソードにおける指示期間の比率の推移(図36、図37、表23、表24)

隔離指示期間は、「1日のみ」「2日以上1週間未満」「1週間以上2週間未満」が減少し、「2週間以上1か月未満」「1か月以上3か月未満」「3か月以上1年未満」が増加していた。「1年以上5年未満」は5(1.1%)件と各調査年とも変わりなく、平成21年においては「5年以上10年未満」も1(0.2%)件あった。なお、サンプル数が少ないことを考慮し、期間の区分を統合してカイ二乗検定を行ったところ、いずれの区分でも有意差は認められなかった。

身体的拘束指示期間は、「1日のみ」「1か月以上3か月未満」「3か月以上1年未満」が減少し、「2日以上1週間未満」「1週間以上2週間未満」「2週間以上1か月未満」が増加していた。「1年以上5年未満」は平成21年において2(1.2%)件あった。隔離と同様にカイ二乗検定を行ったところ「1日のみ」において有意差が認められた( $P<0.01$ )。

### 5. 調査票5:「隔離・身体的拘束を削減する組織的な取り組みについて」の結果

#### 1) 回答者

調査票5の回答は、全313施設のうち、約半数の152施設(48.6%)から回答が得られた。その主な回答者は、看護師81名(53.3%)が最も多く、次いで精神保健福祉士38名(25.0%)、医師14名(9.2%)であった。また、回答者のうち137名(90.2%)が行動制限最小化委員会の委員長、委員によるものであった(表25、表26)。

#### 2) 具体的な取り組み内容( )内は取り組み件数

152施設の隔離・身体的拘束を削減する組織的な取り組みは表27のように分類した。全取り組みのうち、組織全体における取り組みとして、①行動制限最小化のためのシステムづくり②職員の意識改革に向けた働きかけ③職員への教育・サポート④他施設の先駆的な取り組みの導入⑤行動制限最小化委員会の設置・運用⑥基準・計画の策定管理⑦データの集約と見える化・管理⑧多角的な視点からの検討・評価の8カテゴリーと、病棟における取り組みとして、⑨病棟における行動制限緩和に向けた取り組み⑩病棟における患者への直接ケアの2カテゴリーの計10カテゴリーに分けられた。10のカテゴリーはさらに85のサブカテゴリーに分類し、結果734の具体的な取り組みを抽出した。なお、「具体的な取り組み」の記載内容に関しては、医療機関ごとに得られた回答の原文の表記に準じて掲載している。以下、【 】はカテゴリー、『 』はサブカテゴリー、具体例については「 」に示す。なお、具体的な取り組み例については付録に掲載した。

取り組みについては、意味内容ごとに取り組みを抽出しているため、カテゴリーについては、全取り組み(734)に占める各カテゴリーの取り組みの比率を算出している。サブカテゴリーについては、そのサブカテゴリーが入るカテゴリーの取り組みに占める各サブカテゴリーの取り組みの比率を算出している。

カテゴリーの中で最も多く取り組みが抽出されたのは、全取り組み(734)のうち、【病棟における行動制限緩和に向けた取り組み】18.4%(135)、次いで【多角的な視点からの検討・評価】17.6%(129)、【行動制限最小化委員会の設置・運用】14.0%(103)などであった。

#### 【行動制限最小化のためのシステムづくり】

##### ( )内は取り組み件数

全取り組み(734)のうち、【行動制限最小化のためのシステムづくり】は、12.1%(89)であり、



行動制限最小化に向けて、各医療機関が組織全体で取り組んでいる対策や工夫などがここに分類された。表 28 に示すように 17 のサブカテゴリーに分類され、そこから 89 の取り組みが抽出された。

### ① サブカテゴリー別にみた比率

#### 【行動制限最小化のためのシステムづくり】

89 の取り組みのうち、最も多く抽出されたのは『方針の表明』21.3% (19)、次いで『以前からある組織風土の維持』16.9% (15)、『報告システムの構築』12.4% (11) の順であった。他に『行動制限最小化委員会の下部組織』や『行動制限最小化委員会とは別の実働部会』の設置が計 11.2% (10) や『組織全体における行動制限の定例的な検討』10.1% (9) などであった。

### ② 具体的な取り組み

『以前からある組織風土の維持』の具体的な取り組みには「身体的な処置以外は身体的拘束という手段を安易に取らない風土がある」「保護室、拘束具を増やさないという歴代の看護部長の考えを維持している」などがあった。過去に出された方針が維持され浸透しているという意味に解釈できるものは、『以前からある組織風土の維持』とした。『方針の表明』では、「病院の方針として“身体的拘束ゼロ”と表明している」「転倒・転落予防のための身体的拘束は禁止している」「保護衣を廃止した」など、組織全体に対して行動制限最小化の方針が表明されていた。また、『方針の表明』とまではいかないが、『組織全体で取り組む具体的な目標』として「安易な車いす使用を止める」「ミトンなどの実施件数を減らす」などを設定している医療機関もあった。

『組織全体における行動制限の定例的な検討』として、「毎朝、各部門の管理者が参加する全体ミーティングで、各患者の隔離・身体的拘束の内容の妥当性を検討している」「医師全員と各部署の責任者が集まる毎朝のミーティングで、行動制限中断規準に基づいて報告している」など、組織全体で行動制限について、定例的に検討している医療機関があった。病院全体ミーティングで検討さ

れた内容については、「終了後、印刷して各部署へ配布している」のように、各部署へフィードバックしている取り組みがあった。

行動制限に「法的に問題があった場合は、院長、管理職主導で情報をオープンにしている」など、組織全体で行動制限についての問題点などの情報を共有し、再発防止にむけて考える体制がとられていた。

『報告システムの構築』では、「幹部会で、毎月ベッドコントロール委員会の取り組みとして隔離・身体的拘束について報告している」など、行動制限について検討したことを組織へ報告するシステムが整備され、「行動制限最小化委員会で毎月行動制限に関する報告書の提出を義務づけている」のように病棟から行動制限最小化委員会へ報告するシステムについても整備されていた。

また、現場で起こっていることをより具体的に取るよう、『行動制限最小化委員会の下部組織』や『委員会とは別の実働部会』として「推進部会」「介入チーム」などを設置し、それぞれ活動をしていた。中には『行動制限最小化を担う院内認定看護師制度を創設』している医療機関もあった。

行動制限につながりにくい体制づくりとして、「看護記録に詳細な観察項目を設け、行動制限することで業務が増加するシステムにしている」や、『人員配置のマネジメント』として、「病棟間の連携を充実させ、マンパワー不足を解消している」など、マンパワー不足を解消し、病棟間の応援体制を充実させていた。

他に、「転倒・転落予防のための身体的拘束を身体固定へ変更した」というように、転倒・転落予防や身体的治療のための身体的拘束の定義を変更したという医療機関があった。

### 【職員の意識改革に向けた働きかけ】

#### ( )内は取り組み件数

全取り組み (734) のうち、【職員の意識改革に向けた働きかけ】は 6.5% (48) を占め、表 29 に示すように 3 のサブカテゴリーに分類され、そこ

から 48 の取り組みが抽出された。研修会や学習会でも、職員への意識づけを目的としているものはこのサブカテゴリーに含めた。

#### ① サブカテゴリー別にみた比率

【職員の意識改革に向けた働きかけ】48 の取り組みのうち、『会議・研修・学習会による行動制限最小化に向けた職員への意識づけ』が 47.9% (23) と最も多く、次いで『行動制限最小化委員会での検討内容を病棟へ周知・徹底』が 35.4% (17) であった。

#### ② 具体的な取り組み

『会議・研修・学習会による行動制限最小化に向けた職員への意識づけ』として、「全体研修を行い、職員の意識改革を行っている」や「病院長が毎回カンファレンスに参加し、行動制限最小化に向けての取り組みについて積極的に意見を述べている」などの取り組みがあった。

また、行動制限最小化委員会で検討した「行動制限の基本指針（手順を含む）の勉強会を毎年開催」したり、「行動制限最小化委員会の取り組みを全病棟へ反映させるため、各病棟に発言力のある職員を配置させた」「行動制限最小化委員会の活動の周知に向けて、職員へ委員会のオブザーバーとして参加を呼びかけ」ていたり、『行動制限最小化委員会での検討内容を病棟へ周知・徹底』させる工夫をしていた。さらに、「月一回の行動制限最小化委員会での検討結果を病棟へフィードバックしている」というように、行動制限最小化委員会での検討内容をフィードバックする体制を整備している医療機関もあった。

### 【職員への教育・サポート】

#### ( )内は取り組み件数

全取り組み (734) のうち、【職員への教育・サポート】は 11.9% (87) であり、表 30 の示すとおり、8 のサブカテゴリーに分類され、そこから 87 の取り組みが抽出された。

#### ① サブカテゴリー別にみた比率

【職員への教育・サポート】87 の取り組みのうち、

ち、医療保護入院等診療料の施設基準である『院内研修会の実施』48.3% (42) と最も多く、約半数を占めていた。次いで『職員への教育』34.5% (30)、『教育体制の整備』6.9% (6) などであった。少数ではあったが、『スタッフの心理的サポート』1.1% (1)、『行動制限について相談できる体制』1.1% (1) などがあった。

#### ② 具体的な取り組み

『院内研修会の実施』には、医療保護入院等診療料の施設基準である“行動制限最小化委員会主催”、“年 2 回の研修会”、“院内研修会”のキーワードがあり、「CVPPP 研修会」や「隔離・身体的拘束に関する法律についての学習会」についてもこのサブカテゴリーに分類した。研修会に参加できなかった職員に、「研修内容をビデオに収め、必ず閲覧し履修するようにしている」など研修内容について周知していた。『職員への教育』では、“院内研修会”と明記されていない学習会や各病棟での勉強会はこちらに分類した。この中には、例えば「年 3 回、弁護士参加による研修会の開催」「身体的拘束並びに行動制限をすることの弊害についての教育」「新採用者オリエンテーションに適切な行動制限についての研修を実施している」などがあった。

『継続して教育できる体制』として、「新採用者・異動者を対象とする体系的な教育の実施の整備」をしている医療機関もあった。

『スタッフの心理的サポート』として、「不安、暴力への恐怖からケアを行なうことが出来なくなっている状況を改善するために、行動制限最小化委員会が病棟へ足を運び、スタッフと信頼関係を築いた」や、『行動制限について相談できる体制』として、「法制度について質問を行動制限最小化委員会で受けている」などがあった。

### 【他施設の先駆的な取り組みの導入】

#### ( )内は取り組み件数

全取り組み (734) のうち、【他施設の先駆的な取り組みの導入】は 1.0% (7) であり、表 31 に示すように 2 のサブカテゴリーに分類され、7 の

取り組みが抽出された。

#### ① サブカテゴリー別にみた比率

【他施設の先駆的な取り組みの導入】7の取り組みのうち、隔離・身体的拘束削減の先駆的な取り組みをしている『他施設からの情報収集』が85.7% (6) と大半を占めていた。

#### ② 具体的な取り組み

他施設の先駆的な取り組みを調査、見学し、行動制限最小化のための方策を学び、自施設に導入していた。

### 【行動制限最小化委員会の設置・運用】

( )内は取り組み件数

全取り組み(734)のうち、【行動制限最小化委員会の設置・運用】は14.0% (103) であり、表32のように5のサブカテゴリーに分類され、103の取り組みが抽出された。

#### ① サブカテゴリー別にみた比率

【行動制限最小化委員会の設置・運用】103の取り組みのうち、『行動制限最小化委員会による検討』が46.6% (48) と最も多く、次いで『行動制限最小化委員会の実施』35.0% (36)、『行動制限最小化委員会の設置』9.7% (10) などであった。

#### ② 具体的な取り組み

医療保護入院等診療料の施設基準である『行動制限最小化委員会を設置』し、「月1回以上、委員会を実施」、委員会では、「各病棟の行動制限実施者について開放できないか」「隔離・身体的拘束が長期間に及んだ場合には、その妥当性について」「行動制限最小化委員会で隔離・身体的拘束の必要性について」などを検討し、評価をしていた。

### 【基準・計画の策定管理】

( )内は取り組み件数

全取り組み(734)のうち、【基準・計画の策定管理】は5.7% (42) であり、表33に示すように、5のサブカテゴリーに分類され、42の取り組みが抽出された。

#### ① サブカテゴリー別にみた比率

【基準・計画の策定管理】42の取り組みのうち行動制限最小化に向けて、『基本指針・手順書の策定・整備』59.5% (25) が最も多く、次いで、新たに『評価の判断基準の導入』26.2% (11)、『各病棟の実情に合わせた目標管理』4.8% (2) などであった。

#### ② 具体的な取り組み

具体的な取り組みとして、「行動制限最小化の基本指針を定めている」「行動制限最小化委員会規定を整備」が挙げられた。詳細な内容として「車椅子ベルトやミトンなどの運用指針の策定」「生命維持及び身体的治療の点滴・チューブ類の抜管防止や皮膚損傷防止等を目的とする身体的拘束は身体固定としてマニュアルに追加した」という取り組みがあった。

他に、行動制限の早期解除を図ることを目的に「隔離・身体的拘束の評価判断基準表」や「隔離・身体的拘束評価表」を作成、導入している医療機関があった。取り組みを開始する前は、「観察する看護スタッフの経験や能力により、隔離・身体的拘束の中断・解除の見識が一定ではなかったため、中断規準を作成し、看護スタッフにも判断基準をもってもらった」という医療機関もあった。

### 【データの集約と見える化・管理】

( )内は取り組み件数

全取り組み(734)のうち、【データの集約と見える化・管理】は7.8% (57) であり、表34に示すように5のサブカテゴリーに分類され、57の取り組みが抽出された。

#### ① サブカテゴリー別にみた比率

【データの集約と見える化・管理】57の取り組みのうち、最も多く抽出されたのは、『行動制限最小化委員会における行動制限の状況を把握するための工夫』49.1% (28)、『行動制限最小化委員会で病棟からの報告内容を共有』38.6% (22)、『デ

ータの可視化』8.8% (5) であった。

## ② 具体的な取り組み

行動制限最小化委員会では、各病棟で行われている行動制限の状況を把握するために、毎月、行動制限レポートを作成し、それに基づいて現状を確認していた。また、自施設における検討にとどまらず、他施設との比較による検討を行っている医療機関もあった。

他に、「行動制限最小化委員会がラウンドをして現場の状況を確認している取り組み」や「隔離・身体的拘束の状況の実態を可視化し、集計結果を病院のホームページに掲載している」医療機関もあった。

## 【多角的な視点からの検討・評価】

### ( )内は取り組み件数

全取り組み (734) のうち、【多角的な視点からの検討・評価】は 17.6% (129) を占め、表 35 で示すとおり、22 のサブカテゴリーに分類された。そこから 129 の取り組みが抽出された。

### ① サブカテゴリー別にみた比率

【多角的な視点からの検討・評価】129 の取り組みのうち、多職種に関連したものが、『多職種カンファレンスによる検討』24.6% (31)、『多職種カンファレンスの実施』13.5% (17)、『多職種カンファレンスによる評価』2.4% (3) 等あり、これらが約 4 割を占めていた。ここでいう多職種とは異なる職種 (例：医師と看護師) によるものとし、行動制限最小化委員会においての多職種による検討・評価はここに含めていない。

また、行動制限最小化委員会による視点は 4 つのサブカテゴリーに分類された。最も多かったのが『行動制限最小化委員会によるラウンドの実施』14.3% (18) であり、次いで『行動制限最小化委員会からの助言』5.6% (7)、『行動制限最小化委員会からの指導』4.8% (6)、『行動制限最小化委員会の病棟カンファレンスへの参加』2.4% (3) であった。

### ② 具体的な取り組み

『多職種による視点での検討・評価』は多くの医療機関で取り入れていた。例えば『多職種カンファレンスの実施』では、「医師と看護師で、毎日、身体的拘束についてカンファレンスを行っている」「毎週 1 回多職種が集まる合同カンファレンスで、隔離・身体的拘束者のカンファレンスを実施」していた。その中で、「行動制限の時間の削減はできないか」「身体的拘束の見直しを行い代替方法がないか」「精神科と身体科主治医が、患者の身体治療状況に合わせ、解除できる隔離・身体的拘束はないか」などを検討し、評価していた。

行動制限最小化委員会では、病棟からの報告に対して指導を行ったり、行動制限ラウンド時、最小化に向けたアドバイスをしたりしていた。また、『行動制限最小化委員会による病棟ラウンド』を取り入れ、「院長及び行動制限最小化委員によって、14 日以上隔離・身体的拘束者に対し、月 1 回院内ラウンドによる診察を行っている」医療機関もあった。このように通常の委員会内の検討だけではなく、必要に応じて、委員会メンバーが現場に出向き、病棟スタッフとともに改善策を検討していることが挙げられた。

その他の視点として「年 3 回、弁護士参加による委員会を開催」している医療機関や「隔離・身体的拘束患者からの聞き取り調査」を実施していた。

## 【病棟における行動制限緩和に向けた取り組み】

### ( )内は取り組み件数

全取り組み (734) のうち、【病棟における行動制限緩和に向けた取り組み】は 18.4% (135) と最も多く、表 36 に示すように 11 のサブカテゴリーに分類され、135 の取り組みが抽出された。

### ① サブカテゴリー別にみた比率

【病棟における行動制限緩和に向けた取り組み】135 の取り組みのうち、『行動制限を緩和するための工夫』27.4% (37) と最も多く、次に『定例的な検討機会の確保』20.7% (28)、『行動制限に関する検討内容』20.7% (28) などであった。

## ② 具体的な取り組み

『行動制限を緩和するための工夫』の具体的な取り組みとして「そばに付き添い身体的拘束を解除する時間を作る」「段階的に身体的拘束の部位の縮小をしている」など、行動制限はできる限り、最短に最小になるような工夫などがあった。また、「見守りが可能な食事の時間は隔離解除し、デイルームで過ごすようにした」など、マンパワーがある日中に開放時間を確保していた。「開放観察の時間の設定や解除に向く指示へ変更した」や、「看護判断で行動制限を再開できる開放観察処置の設定」などを取り入れた医療機関もあった。看護判断で行動制限を再開できるようにしたのは、精神保健指定医が1名しかいないという状況がきっかけとなっていた。

病棟では「行動制限最小化に関するカンファレンスを定期的実施」しており、「病院全体として、隔離・身体的拘束に関して毎日カンファレンスを行う」と決めているところもあった。開催時期は毎日～週1回と決めて、『定例的に検討する機会』を作り、内容として「隔離・身体的拘束の解除について」「行動制限の妥当性について」などを検討していた。また、指示のみで実施していないケースが特に身体的拘束者であり、数か月間経過をみてのちに解除するケースが多いという背景から「隔離・身体的拘束ともに実施せず経過観察を行う場合、おおむね2週間後に解除の検討」をするという医療機関もあった。

評価内容として、「日常的に医療者が介入する中で、開放観察が可能であるかどうか判断し、可能な限り隔離・身体的拘束解除を行っている」など、開放観察について評価していた。評価頻度としては「週に1度、行動制限に対する評価を実施」している、「最長7日連続で身体的拘束された場合、一時身体的拘束を解除し主治医の診察を受け、継続もしくは解除の評価をする」など定例的に短期間で評価している一方で、長期入院患者の多い病棟で、開放観察の時間・頻度を段階的に増減していくための評価表を導入しているが、「6か月以上の隔離は月1回、6か月未満の隔離は最低月1

回評価している」という医療機関もあった。

その他の取り組みとして、「病棟にて行動制限が適切に行われているかチェック表を用いて、定期的に自主監査している」や「身体的拘束に関するカンファレンスを改善している」などの取り組みがあった。

## 【病棟における患者への直接ケア】

### ( )内は取り組み件数

全取り組み(734)のうち、【病棟における患者への直接ケア】は5.0%(37)であり、表37に示すとおり、7件のサブカテゴリーに分類され、37の取り組みが抽出された。

#### ① サブカテゴリーにみた比率

【病棟における患者への直接ケア】37の取り組みのうち、『道具の導入』35.1%(13)、『環境調整』32.4%(12)と多く、少数では、『多飲水についての心理教育』2.7%(1)、『カンフォータブルケアの実施』2.7%(1)などであった。

#### ② 具体的な取り組み

具体的な取り組みとして、転倒・転落予防のためにセンサーマット、低床ベッドや頭部保護帽などの道具を導入し、「転倒・転落の恐れのある患者は必ず同室にしている」「転落予防のためベッドを止め、マットを敷き詰めた病室環境を作る」など環境調整の取り組みがあった。

また、「行動制限中の患者を優先的に対応」など、『行動制限中の患者へ手厚い看護を提供』していたり、長期間の隔離に繋がりがやすい多飲症について、患者へ『心理教育を実施』したりしている医療機関もあった。

### 3) 組織全体で隔離・身体的拘束削減に取り組むことになったきっかけ(表38)

#### ( )内はきっかけの件数

調査票5の隔離・身体的拘束を削減するための組織的な取り組みについて、回答の得られた152施設のうち、問いのきっかけについて記述があったのは137施設であった。137施設のきっかけの回答欄の記述内容から、157のきっかけを

抽出した。きっかけについて、複数記述されているものはすべて抽出し、回答医療機関 137 施設に占める各きっかけの比率を算出した。

組織全体で隔離・身体的拘束削減に取り組むことになったきっかけとなっていたものには、平成 16 年度診療報酬改定により「行動制限最小化委員会の設置が医療保護入院等診療料の算定基準となったこと」や「精神科隔離室管理加算」「看護補助加算」の「診療報酬の算定」が 9.5% (13) と最も多く、それに関連した平成 17 年の「精神保健福祉法改正」1.5% (2) をきっかけとして挙げている医療機関があった。

また、近年の隔離・身体的拘束削減の「世論の流れ」4.4% (6) や、「他院の情報・取り組み・見学」4.4% (6)、「行動制限（隔離室）の長期化」4.4% (6)、「行動制限者の増加（認知症・転倒転落予防）」2.2% (3)、「行動制限者の多さ」2.9% (4) など現状がきっかけとなっている医療機関もあった。

他に医師・看護部長・看護師（病棟スタッフ）の「少しでも開放された空間で過ごしてほしい」「行動制限全体、特に身体的拘束は行いたくない」という「職員・看護部長の思い」3.6% (5) や「医師・看護師・スタッフからの意見」4.4% (6)、「病棟看護師の考え」0.7% (1) も組織全体で取り組むきっかけとなっていた。少数ではあるが、暴力等のアクシデントの増加などによるスタッフの疲弊なども、きっかけとして挙げている医療機関もあった。

#### 4) 隔離・身体的拘束を削減する組織的な取り組みのキーパーソン(表 39)( )内は人数

調査票 5 の隔離・身体的拘束を削減するための組織的な取り組みについて、回答の得られた 152 施設のうち、キーパーソンの項目に記述があったのは 136 施設であった。136 施設がキーパーソンの回答欄に記述していた文章の中から、184 のキーパーソンを抽出した。キーパーソンについては、複数記述の中から「中心」「リーダーシップ」と書かれている人を抽出した。また、行動制限最小化

委員会に所属する（管理職を除く）医師や看護スタッフ、精神保健福祉士など委員が記述されているものは「行動制限最小化委員会」とした。行動制限最小化委員会では「委員長」「副委員長」「事務局」のみは、管理職が担当しているため別に記載した。また、キーパーソンについては、回答医療機関 136 施設に占める各キーパーソンの比率を表示している。

隔離・身体的拘束を削減する組織的な取り組みのキーパーソンとして、行動制限最小化委員会に関連するものは 13 項目あった。そのうち最も多かったのは、多職種で構成する「行動制限最小化委員会」21.3% (29)、次いで、「行動制限最小化委員会委員長」5.1% (7) であった。病院長に関連する項目については 2 項目あり、そのうち、「病院長」11.0% (15)、「行動制限最小化委員長（病院長）」は 4.4% (6) であった。他に「看護部長・総看護師長」が 9.6% (13)、「病棟看護師長」が 16.9% (23)、病棟で主となって働いている「看護主任・副師長」3.7% (5)、「認定看護師」5.1% (7)、「看護師・病棟スタッフ」5.1% (7) からもキーパーソンとなって取り組んでいる医療機関もあった。

## D. 考察

### 1. 本研究に至った経緯と限界

本研究は、精神病床における身体的拘束件数が、平成 16 年から平成 26 年の 10 年間で 5,242 件から 10,673 件と約 2 倍に増加していることを受け、隔離ならびに身体的拘束の増加要因を探索すべきという要請に基づき、行われたものである。

隔離ならびに身体的拘束の件数については、630 調査により毎年 6 月 30 日の全国ほとんどすべての精神病床での実施件数を集計したものであるが、これまでの調査では、年齢・主診断などどのような患者が増えたのかは不明であった。

これまで、全国的な隔離・身体的拘束の実態調査は、浅井ら<sup>2)</sup>による、平成 11 年度厚生科学研究費補助金「精神科医療における行動制限の最小化に関する研究」があるが、調査からは時間が経過

しており、改めて調査を行って隔離・身体的拘束の現状を明らかにする必要があった。また、平成28～30年度厚生労働行政推進調査事業費補助金障害者政策総合研究事業（精神障害分野）「精神障害者の地域生活支援を推進する政策研究」の松田ら<sup>3)</sup>によって行われた「精神障害者の権利擁護に関する研究」で、近年の動向についていくつか検討されたが、増加要因を特定するには至らなかった。

そこで本研究では、10年前と現在の動向比較という、より長期的な変化や、精神保健福祉法における隔離・身体的拘束の要件（該当要件）、指示期間などのより広く隔離・身体的拘束の実態について調査することを目的として、項目の検討を行った。

本調査を行うにあたり、当事者、弁護士、医療関係者、研究者の研究協力者によるエキスパートコンセンサスにより、調査方法、調査項目を決定した。

増加要因を探索するためには、現在のみならず過去の隔離・身体的拘束に関しても調査する必要があることから、本研究では令和元年を基準とし、10年前の平成21年もしくは5年前の平成26年の隔離・身体的拘束に関して、件数のみならず、診療録に記載のある年齢・性別、主診断、病棟入院料、指示期間、精神保健福祉法における隔離・身体的拘束の要件（該当要件）に関して調査を実施した。また、同時に隔離・身体的拘束を削減させるための組織的な取り組みを調査すべきであるとの意見に基づき、現在（令和元年時点）で、医療機関として具体的に行っている取り組みについて回答を求めた。

調査の協力依頼とその周知は、各団体の協力を得たうえで、医療機関代表者宛に、調査依頼に関する説明文書をメールまたは郵送した。さらに調査開始後、行動制限最小化委員会宛に郵送による調査依頼、日本精神科病院協会の会員向けメールマガジン、日本精神科看護協会の会員誌にて調査協力の広報を行い、令和2年2月からは電話による調査協力依頼もランダムに約100件行った。

調査は令和元年11月から令和2年3月まで行われたが、結果、回収率は19.3%と低調であった。医療機関には複数回にわたって、郵送・メールで協力依頼を行った後に電話による調査協力を依頼したが、電話による協力依頼の時点で郵送・メールによる調査の依頼があったことを認識していない医療機関が約半数あった。また、電話による協力依頼の際には行動制限最小化委員会宛の調査依頼が最も周知されていたことも判明した。医療機関には種々の研究班、行政などからの多数の調査依頼が日常的に届いており、本調査依頼もその他の多くの調査依頼の中に紛れてしまっていた可能性がうかがえた。また病院内での情報伝達の方法やルートも医療機関ごとに異なるため、情報が確実に病院長まで届いていなかった可能性もあることが推察された。いずれにしても、様々な要因により本調査が実施されていることがうかがえた。

さらに本調査は、調査項目が主観的であるとの指摘を受け中断となった、平成28年度厚生労働科学研究「精神科医療提供体制の機能強化を推進する行政研究」班で行われた「隔離・身体的拘束に関する大規模調査」と、同様の目的の調査となる。以前中断となった調査と重複する項目も多く、調査への負担感増大や調査の信頼性への疑念があった可能性も否めない。

本調査における過去のデータに関しては、調査負担を考慮して平成21年の診療記録がある医療機関について平成26年は問わないこととした。そのため、過去のデータは平成21年もしくは平成26年となる。また、診療記録がないなどの理由で現在値の令和元年のみを回答した医療機関もあった。本研究では過去から現在の増加要因を探索することが目的であるため、現在と過去双方についてデータの提出があった医療機関に関して集計することとし、さらに平成21年と平成26年は対象が全く異なることから、令和元年と平成21年の組み合わせで回答した医療機関（調査1）、令和元年と平成26年の組み合わせで回答した医

療機関（調査 2）において、独立して解析した。そのため、解析対象となる医療機関が限定されることになり、特に平成 21 年においては全体を反映しているとはいえない結果となった。したがって調査 1 については結果を一般化することは困難であると考えられたため、参考データとしての記載にとどめることとした。

回答医療機関の病棟入院料別の比率については、令和元年と平成 26 年の本調査と 630 調査（表 3）を 2 群に分けて有意差検定を参考として行っている。その結果から示されたように、平成 26 年は精神科救急・急性期治療を行う医療機関からの回答が 630 調査を基準とした全国の構成比に比べて多かったため、本調査結果の解釈においても急性期系の患者属性が多く反映されている可能性があることに注意されたい。

本調査の隔離・身体的拘束指示患者の在院患者に対する比率については、平成 26 年において隔離が指示・実施ともに 630 調査よりも在院患者に対する比率が有意に高い。令和元年は隔離指示患者の在院患者に対する比率が 630 調査よりも有意に高く、身体的拘束指示患者では 630 調査よりも有意に低いという結果である。そのため、630 調査を母集団と想定した場合に、本調査のサンプルは多少の患者構成の違いがあることを前提に結果の解釈を行っていく必要がある。

## 2. 本調査について

本調査で得られた結果として、まず平成 26 年から令和元年にかけての 5 年間の変化は、隔離指示患者はわずかに増加、身体的拘束指示患者はわずかに減少していた。平成 21 年から令和元年にかけての 10 年間で比較に関しては、サンプル数が少ないため参考値ではあるが、在院患者に占める隔離・身体的拘束指示患者はともに増加していた。

さて、本調査の要請に至った身体的拘束の 2 倍の増加は、平成 16 年から平成 26 年の 10 年間に認められたものであった。隔離・身体的拘束の件数は 630 調査で調査されており、隔離実施数（隔

離室の隔離患者数）での変化でみると、平成 16 年 7,673 件・平成 21 年 8,800 件・平成 26 年 10,089 件で、各間の増加率は 14.7%・14.6%であった。また、身体的拘束実施数の変化でみると、平成 16 年 5,242 件・平成 21 年 8,193 件・平成 26 年 10,673 件で、各間の増加率は 56.2%・30.3%であり、その増加は前半が大きい。その後、平成 27 年、平成 28 年は 1 万件前後で変化なく、調査方法が変わり 0 時時点の指示件数になった平成 29 年以降の 3 年間では、隔離件数は 1 万 2 千件台で推移しており、身体的拘束件数は平成 29 年 12,528 件、平成 30 年 11,362 件、令和元年 10,875 件となっている。本調査結果は、平成 21 年から令和元年の 10 年間でみると増加傾向にあるが、平成 26 年から令和元年の 5 年間でみると変化の程度は少なかった。この結果は 630 調査における隔離・身体的拘束の全体の件数推移と矛盾しないものと考えられる。

次に、サンプルの少なさ、急性期系の病棟入院料の回答が多いという制約の中、本研究の目的である患者属性に関する項目について特記すべきことを考察する。平成 26 年との比較である調査 2 では隔離・身体的拘束指示患者ともに急性期系の病棟入院料で増加がみられ、急性期系の病棟入院料では、隔離・身体的拘束の需要が高まったことが推察される。参考ではあるが、平成 21 年との比較である調査 1 からも、隔離・身体的拘束指示患者ともに同様の傾向がみられた。

性別では、隔離・身体的拘束指示患者ともに男性が多く、年齢別では「40 歳以上 65 歳未満」が多いことが示された。隔離指示患者は「40 歳以上 65 歳未満」の割合が高く、身体的拘束については特に「75 歳以上」にも多いことが明らかになった。

年齢別に「40 歳以上 65 歳未満」が隔離・身体的拘束指示患者割合が高いという傾向については、630 調査の結果においても「40 歳以上 65 歳未満」のカテゴリーが在院患者全体に占める割合が最も高いため、在院患者構成比の違いを反映していると考えられる。また、身体的拘束指示に占める「75 歳以上」の割合は、令和元年度の 630 調



査においても42.3%と最も高いため、本調査で示された傾向は、わが国全体の傾向と矛盾する結果ではないと考えられる。なお、参考として、平成21年との比較である調査1でも同様の傾向がみられた。

主診断別では、全般的には「F2 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害」が最も多いものの、身体的拘束指示患者は隔離指示患者と比べて認知症などの「F0 症状性を含む器質性精神障害」が多いことが明らかになった。また隔離においては、令和元年は平成26年と比べて「F7 精神遅滞（知的障害）」「F8 心理的発達の障害」の比率が高くなっていった。ただし、平成26年時点では「F7 精神遅滞（知的障害）」「F8 心理的発達の障害」に該当する患者数が少なかったことから、令和元年にかけての増加については解釈を慎重にするべきであろう。

隔離・身体的拘束増加の要因としては、隔離・身体的拘束指示患者のうち、急性期系病棟入院料の病棟に入院している患者の割合が増加していることから、急性期系病棟入院料の普及が関係している可能性について考える必要がある。しかし、調査協力が得られた医療機関においては、急性期系病棟入院料が算定されている割合が630調査の結果と比較して高いことや、急性期系入院料の病棟はここ数年で増加しており、そこに入院する患者数も増加してきているため、隔離・身体的拘束指示患者の全体に占める構成比が相対的に急性期系病棟で高くなっている可能性があることにも留意しなくてはならない。なお、参考として調査1でも同様の傾向がみられたが、回収率が低いいため、回答医療機関特有の傾向が反映されている可能性もある。

次に、隔離・身体的拘束指示患者の該当要件、指示期間、指示の実施率に関して、得られた結果を考察する。隔離・身体的拘束の該当要件は、精神保健福祉法に基づく昭和63年厚生省告示第130号に定められている。隔離指示患者の該当要件の年次比較では、令和元年と平成26年の比較では、大きな変化はみられなかった。

なお、参考ではあるが、令和元年と平成21年においては「ア. 他の患者との人間関係を著しく損なうおそれがある等、その言動が患者の病状の経過や予後に著しく悪く影響する場合」「ウ. 他の患者に対する暴力行為や著しい迷惑行為、器物破損行為が認められ、他の方法ではこれを防ぎきれない場合」「エ. 急性精神運動興奮等のため、不穏、多動、爆発性などが目立ち、一般の精神病室では医療又は保護を図ることが著しく困難な場合」「オ. 身体的合併症を有する患者について、検査及び処置等のため、隔離が必要な場合」が増加し、「イ. 自殺企図又は自傷行為が切迫している場合」「カ. その他」が減少していた。

身体的拘束指示患者の令和元年と平成26年の該当要件の年次比較では「イ. 多動又は不穏が顕著である場合」「ウ. ア又はイのほか精神障害のために、そのまま放置すれば患者の生命にまで危険が及ぶおそれがある場合」「エ. その他」が増加、「ア. 自殺企図又は自傷行為が著しく切迫している場合」が減少していた。一方、参考ではあるが、令和元年と平成21年の比較では「ア. 自殺企図又は自傷行為が著しく切迫している場合」「イ. 多動又は不穏が顕著である場合」「エ. その他」が増加し、「ウ. ア又はイのほか精神障害のために、そのまま放置すれば患者の生命にまで危険が及ぶおそれがある場合」が減少していた。

隔離・身体的拘束指示患者の該当要件の年次比較において特筆すべきものはみられなかったが、隔離・身体的拘束の該当要件の内訳をみると、隔離指示患者の該当要件である「イ. 自殺企図又は自傷行為が切迫している場合」や身体的拘束指示患者の該当要件である「ア. 自殺企図又は自傷行為が著しく切迫している場合」「ウ. ア又はイのほか精神障害のために、そのまま放置すれば患者の生命にまで危険が及ぶおそれがある場合」などの生命に危険が及ぶ緊急性、切迫性の高い該当要件は、他の該当要件よりも少ないことが明らかとなった。

また、身体的拘束の該当要件では、「エ.その他」

については 65 歳以上でその比率が高くなる傾向が認められた。その内訳をみると、ほとんどが転倒転落、点滴等の自己抜去の防止、身体管理のためとされており、高齢者の身体合併症管理のための拘束が多くなっている可能性が示唆された。

隔離および身体的拘束指示患者の統計的有意差についてカイ二乗検定を行ったところ、身体的拘束指示患者の「ウ、ア又はイのほか精神障害のために、そのまま放置すれば患者の生命にまで危険が及ぶおそれがある場合」が令和元年の方が平成 26 年と比べて有意に比率が高いという結果であった。これについても病棟入院料別の構成をみると、急性期系の身体的拘束指示患者比率は、令和元年の方が平成 26 年よりも高くなっており、身体的拘束指示時に精神症状がより重篤な患者が多く含まれていたなどの可能性が考えられる。

サンプル数が少ないためあくまで参考としてではあるが、調査 1 についても同様に有意差検定を実施したところ、隔離の「その他」に有意差が認められ、「その他」が全体に占める比率は平成 21 年の方が多という結果であった。上の検討と重なるが、平成 21 年当時の患者の中に転倒転落と身体管理系の患者が多く含まれていた可能性があり、その結果として「その他」が占める比率が有意に高いという結果になった可能性もある。

身体的拘束指示患者の該当要件の内訳については、令和元年の方が平成 21 年よりも有意に「イ、多動又は不穏が顕著である場合」が高いという結果であった。これについては令和元年の方が平成 21 年と比べると急性期系の病棟入院料における身体的拘束指示患者比率が増加しているため、身体的拘束指示の時点で精神症状が重篤であるなどの背景が影響していた可能性は推察される。

隔離指示期間について、令和元年と平成 21 年（参考値）で比較をすると、隔離指示期間区分別の構成比については両者に大きな差はないが、平均日数は令和元年の方が平成 21 年時点より減少している。一方で、中央値は変化がないため一概に言えないが、指示期間はこの 10 年でやや短くなってきている可能性がある。令和元年と平成 26

年の比較については平均値、中央値ともに大きな変化はなく、指示期間区分別の構成比にも特筆する変化はみられない。この 10 年で考えると全般的に隔離指示期間は減少傾向にあるが、この 5 年間では大きな変化はないものと考えられた。

身体的拘束指示期間についても平均日数は令和元年の方が平成 21 年時点よりは減少している（参考値）。一方で中央値は+1 日となっていることから、一概には言えないが、身体的拘束指示期間が短縮傾向となっている可能性はある。令和元年と平成 26 年との比較では、平均日数は増加しているものの、最大日数が大幅に長くなっていることの影響が考えられる。中央値は両者に差はなく、この 5 年間では大きな変化は起きていなかったといえそうである。

参考として行った有意差検定の結果では、調査 1 について、隔離指示期間はいずれの期間区分においても有意差は認められなかった。身体的拘束指示については、「1 日のみ」が有意に令和元年の方が少ないという結果であった。サンプル数が少なく、その時点で入院していた患者の属性の影響が大きく反映されるため一概に言えないが、近年、特に急性期系の病棟での行動制限の比率が増加しているとすれば、1 日単位の行動制限の繰り返しを中長期的に続けるという運用よりは、数日単位の行動制限を行い、集中的に治療やケアを提供することで、結果として早期に回復を促す努力がなされている可能性が考えられるが、本研究で得られたデータからは言及することはできない。調査 2 の指示期間も同様に検定を行っているが、隔離・身体的拘束ともにいずれの期間区分についても有意差は認められなかった。

次に隔離・身体的拘束の指示期間については、「1 日のみ」の指示は少なく、隔離の方が指示期間は 1 日~数日程度長く、隔離・身体的拘束ともに 1 週間未満が 2 分の 1 以上を占めるという傾向が示された。本調査の結果からは身体的拘束指示期間で「1 日のみ」がこの 10 年間で大きく減少しているが、特定の医療機関における患者属性が大幅に変化したことの影響である可能性も考えら

れるため、結果の解釈には特に注意が必要である。一方、隔離・身体的拘束ともに1か月以上指示が継続していた者が1割以上存在した。また、わずかではあるが10年以上一度も隔離・身体的拘束の指示が解除されていない患者がいることも分かった厚生省告示130号の疑義照会の中で、厚労省から開放観察について「昼間数時間の隔離室からの開放観察をした場合、身体的拘束中に拘束解除にて経過観察する場合、その都度の告知・時間の記載は不要とする」との見解が示されており、これらの患者については、開放観察をして一時開放（指示継続中の実施無し）をするなどの運用がなされている可能性もある。しかし本調査では、隔離・身体的拘束指示が長年にわたって継続されている理由の詳細は不明である。

隔離・身体的拘束指示患者に占める実施比率に関しては、厚生労働省から開放観察について考え方が示されているという背景もあり、本調査では深夜0時と12時（正午）の2つの時点に着目し、比較を行った。その結果、隔離・身体的拘束指示患者に占める実施比率は、年度に限らず全体的な傾向として0時と12時を比較すると12時の方が実施比率は下がる傾向にあった。深夜0時でも開放観察されている事例が1割弱みられ、正午では少なくとも1/4以上が開放観察されていた。この傾向から夜間は、精神保健指定医の指示通りに実施されているケースが多いが、昼間は指示が出ていても実施されずいわゆる「開放観察」「一時開放」と呼ばれる状態で運用されているケースもあるという可能性が実際に示された。年度ごとの比較についてはサンプル数も少ないため一概には言えないが、本調査の結果からは経年変化の傾向は認められなかった。

繰り返しになるが、回答医療機関が少ないため、本調査が全体の状況を反映できているとは言い難いことに留意する必要がある。また、深夜0時で1割弱開放観察されていることについては、厚生省告示130号の疑義照会の範囲内なのかどうかについても不明である。深夜だけ開放観察されているのか、あるいは日単位で開放観察されている

のか、深夜で注意深い開放観察を行うことは可能なのかなど、いくつかの検討すべき課題はあるものの、本調査では、開放観察の詳細な時間について調査していないためこれらの課題について検討することはできない。今後、その運用と現場の事情等、より詳細な聴取を踏まえてこれらの課題について検討することが求められよう。なお、隔離・身体的拘束指示患者に占める実施比率について、調査1、2ともにカイ二乗検定による有意差検定を行っているがいずれも統計的有意差は認められなかった。

最後に本調査に協力いただいた約半数の医療機関の隔離・身体的拘束を削減する組織的な取り組みについて考察する。本調査は自由記述方式としたため、その解釈については客観性を考慮し、極力語句の有無のみで判断することとした。

152施設から734の隔離・身体的拘束を削減する組織的な取り組みが抽出され、10カテゴリーに分けられた。それらは、ほとんどが組織全体で取り組む内容、例えば、【行動制限最小化のシステムづくり】【職員の意識改革に向けた働きかけ】【職員への教育・サポート】などであったが、病棟でも病棟カンファレンスで検討し、開放観察を早期に適時に取り入れるなど、『行動制限緩和に向けた取り組み』や『ケア』が行われていた。行動制限削減には組織全体での取り組みだけでなく、病棟での取り組みについても必要であることがわかる。

デザインとして回答者は医療機関の代表者が指名したものとし、当該機関で隔離・身体的拘束の削減に取り組んでいる者が回答しやすいようにした。結果、行動制限最小化委員会に所属する、看護師からの回答が多かった。また、調査依頼の過程でもランダムに医療機関100施設に電話で協力依頼したときに聴取した結果から、行動制限最小化委員会宛ての周知が最も認知されていたであろうことから、隔離・身体的拘束に関しては行動制限最小化委員会が中心的に取り組んでいることがうかがえた。行動制限最小化委員会における具体的な取り組みについては、診療報酬の算

定基準に示されている行動制限最小化委員会において行うべき活動に準じた回答が多くみられた。

また、診療報酬関係以外に行っていることで多く回答があったキーワードとして、「方針の表明」「基本指針・手順書の策定・整備」「多職種での検討」などが挙げられている。管理者のリーダーシップ、それが運用できるような客観的な手順の策定、そして個別ケースに対する多職種での都度の検討といった昨今医療機関に求められる方策が、行動制限最小化でも活用されていることがうかがえた。一方、他施設との比較、行動制限件数の公表、他委員会のラウンドを受ける等、院内外を問わずオープン化するなどの取り組みを行っていた医療機関は数機関にとどまっている。今後は隔離・身体的拘束の運用に際して、これまで以上に第三者の視点を入れることのできる仕組みを整備することも必要ではないかと考えられる。

## E. 結論

本研究は精神病床における身体的拘束件数の増加を受け、身体的拘束ならびに隔離の増加要因を探索すべきという要請に基づき、行われた。調査はエキスパートコンセンサスに基づき研究協力者の合議でデザインされ、令和元年と平成21年もしくは平成26年の隔離・身体的拘束症例の件数、患者属性、指示期間、0時・12時時点の隔離・身体的拘束の実施の有無、精神保健福祉法における隔離・身体的拘束の要件（該当要件）、および令和元年における隔離・身体的拘束を削減するための組織的な取り組みについて調査した。

令和元年11月から令和2年3月にかけて、全国の精神病床を有する医療機関1,625施設を対象に調査協力依頼し、313施設（19.3%）から回答を得た。

隔離・身体的拘束増加に影響する可能性がある属性因子の1つとして、急性期系病棟入院料を算定する病床の増加が挙げられた。しかしながら、特に平成21年と令和元年の比較はサンプル数が少なく、結果を一般化することが困難であると考

えられたため、参考データとして記載するにとどめた。そして隔離・身体的拘束は本調査の対象年

（平成21年もしくは平成26年）より以前の方が顕著に増加していることが630調査の件数の推移から明らかになっており、今回調査した10年前以前の大幅な増加時期については本調査の結果に含まれていない。5年以上前の診療記録の保管義務はないことから、遡って調査が可能な最大の期間を10年前として実施した調査であったが、過去のデータを遡って増加要因を明らかにするという目的で行われた本調査デザインの制約は大きかったと考えている。一方で、患者属性のみならず該当要件・指示期間を総合的に調査できた初めての調査でもあった。

本調査の結果、深夜0時でも開放観察されていると思われる事例が全体の1割弱みられ、正午では少なくとも1/4以上が開放観察とみられる状況であったことが推察された。隔離・身体的拘束の指示期間においては、隔離・身体的拘束の1/2以上は1週間未満であるが、1か月以上の指示期間の患者も1割以上いることも明らかとなった。

今後、急性期型治療の普及、身体合併症を持つ高齢者の増加、精神保健指定医をはじめ医療人材不足の中、現場の運用努力だけに頼らない、さらなる検討が求められよう。さらに、こういった医療環境の変化は精神病床だけの問題でもないと思われる。本調査の実施までの会議の間に議論にもあがった一般病床も含めた検討も今後必要であると考えられる。

## F. 健康危険情報

なし

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

なし

### 2. 学会発表

なし

## H. 知的財産権の出願・登録状況

## 1. 特許取得

なし

## 2. 実用新案登録

なし

## 3. その他

なし

## I. 文献

### 1) 国立精神・神経医療研究センター 精神保健福祉資料 (630 調査)

(<https://www.ncnp.go.jp/nimh/seisaku/dat>  
a/) 平成 21 年～令和元年度各年度参照

2) 浅井邦彦ほか 平成 11 年度厚生科学研究費補助金 総合的プロジェクト研究分野 障害保健福祉総合研究事業「精神科医療における行動制限の最小化に関する研究・精神障害者の行動制限と人権確保のあり方」報告書, 2000.

3) 松田ひろしほか 平成 28～30 年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金 障害者政策総合研究事業 (精神障害分野)「精神障害者の地域生活支援を推進する政策研究」(「精神障害者の権利擁護に関する研究」分担研究), 2018.

i 急性期系の病棟入院料(平成 21 年): 精神科救急入院料、精神科救急・合併症入院料、精神科急性期治療病棟入院料、10 対 1 入院基本料、特定機能病院入院基本料(7 対 1)、特定機能病院入院基本料(10 対 1)

精神科救急入院料、精神科救急・合併症入院料、精神科急性期系の病棟入院料(平成 26 年、令和元年): 精神科救急入院料、精神科救急・合併症入院料、精神科急性期治療病棟入院料(医師配置加算あり)、精神科急性期治療病棟入院料(医師配置加算なし)、10 対 1 入院基本料、13 対 1 入院基本料、特定機能病院入院基本料(7 対 1)、特定機能病院入院基本料(10 対 1)、特定機能病院入院基本料(13 対 1)

ii その他の病棟入院料 (平成 21 年): 精神療養病棟入院料、認知症治療病棟入院料、特殊疾患病棟入院料、小児入院医療管理料 3、医療観察法入院対象者入院医学管理

料、15 対 1 入院基本料、18 対 1 入院基本料、20 対 1 入院基本料、特別入院基本料、特定機能病院入院基本料(15 対 1)、その他

その他の病棟入院料 (平成 26 年): 精神療養病棟入院料、認知症治療病棟入院料、特殊疾患病棟入院料、小児入院医療管理料、医療観察法入院対象者入院医学管理料、15 対 1 入院基本料、18 対 1 入院基本料、20 対 1 入院基本料、特別入院基本料、特定機能病院入院基本料(15 対 1)、その他

その他の病棟入院料 (令和元年): 精神療養病棟入院料、認知症治療病棟入院料、地域移行機能強化病棟入院料、特殊疾患病棟入院料、児童・思春期精神科入院医療管理料、医療観察法入院対象者入院医学管理料、15 対 1 入院基本料、18 対 1 入院基本料、20 対 1 入院基本料、特別入院基本料、特定機能病院入院基本料(15 対 1)、その他

表 1 対象医療機関に占める回答医療機関数の比率

調査1	対象 医療機関数	回答 医療機関数	回収率 (%)	構成比 (%)	(参考)令和元年630調査との比較			
					医療機関数	構成比(%)	p値	χ二乗値
国等設立医療機関	157	6	3.8%	13.6%	157	10.0%	0.423	0.641
その他の公的医療機関	90	1	1.1%	2.3%	91	5.8%	0.323	0.978
民間、その他医療機関	1,378	37	2.7%	84.1%	1,329	84.3%	0.974	0.001
合計	1,625	44	2.7%		1,577			

調査2	対象 医療機関数	回答 医療機関数	回収率 (%)	構成比 (%)	(参考)令和元年630調査との比較			
					医療機関数	構成比(%)	p値	χ二乗値
国等設立医療機関	157	28	17.8%	14.9%	157	10.0%	0.037 *	4.365
その他の公的医療機関	90	19	21.1%	10.1%	91	5.8%	0.020 *	5.404
民間、その他医療機関	1,378	141	10.2%	75.0%	1,329	84.3%	0.001 **	10.378
合計	1,625	188	11.6%		1,577			

\*5%有意 \*\*1%有意 \*\*\*0.1%有意

図 1 調査対象の分類および回答医療機関数

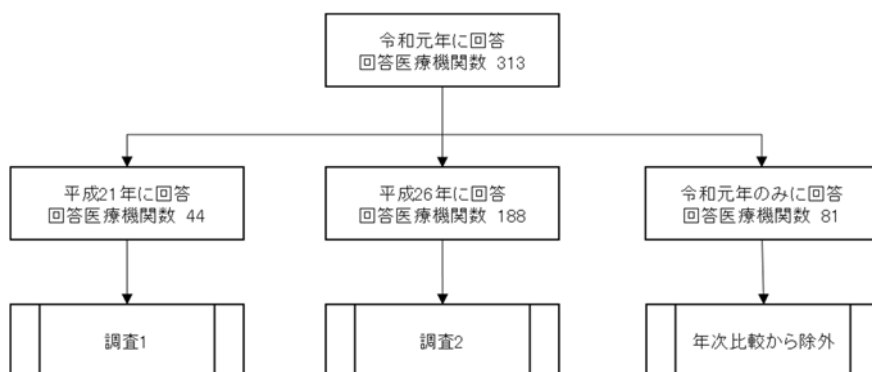


表 2 回答医療機関の基本属性

調査1	医療機関数	構成比 (%)	令和元年				平成21年			
			病床数	構成比(%)	病棟数	構成比(%)	病床数	構成比(%)	病棟数	構成比(%)
国等設立医療機関	6	13.6%	264	2.9%	7	3.8%	300	3.1%	7	3.7%
その他の公的医療機関	1	2.3%	40	0.4%	1	0.5%	40	0.4%	1	0.5%
民間、その他医療機関	37	84.1%	8,740	96.6%	174	95.6%	9,304	96.5%	181	95.8%
合計	44		9,044		182		9,644		189	

\* 病床数は精神病床の届出病床数

\* 病棟数は精神病床のある病棟数

調査2	医療機関数	構成比 (%)	令和元年				平成26年			
			病床数	構成比(%)	病棟数	構成比(%)	病床数	構成比(%)	病棟数	構成比(%)
国等設立医療機関	28	14.9%	3,788	10.1%	98	13.2%	4,132	10.6%	100	13.2%
その他の公的医療機関	19	10.1%	1,844	4.9%	39	5.3%	1,912	4.9%	38	5.0%
民間、その他医療機関	141	75.0%	31,967	85.0%	604	81.5%	32,949	84.5%	617	81.7%
合計	188		37,599		741		38,993		755	

\* 病床数は精神病床の届出病床数

\* 病棟数は精神病床のある病棟数

表 3 本調査と 630 調査の回答医療機関の病棟入院料別比較（調査 2）

	令和元年						平成26年					
	本調査 (n=741)		630調査 (n=5,969 不明を除く)		χ 二乗検定		本調査 (n=755)		630調査 (n=6,251)		χ 二乗検定	
	病棟数	内訳(%)	病棟数	内訳(%)	p値	χ 二乗値	病棟数	内訳(%)	病棟数	内訳(%)	p値	χ 二乗値
急性期系の病棟入院料	139	18.8%	864	14.5%	0.002 **	9.514	120	15.9%	815	13.0%	0.029 *	4.752
その他の病棟入院料	602	81.2%	5,105	85.5%			635	84.1%	5,436	87.0%		

\*5%有意 \*\*1%有意 \*\*\*0.1%有意

\*5%有意 \*\*1%有意 \*\*\*0.1%有意

急性期系の病棟入院料：精神科救急入院料、精神科救急・合併症入院料、精神科急性期治療病棟入院料（医師配置加算あり）、精神科急性期治療病棟入院料（医師配置加算なし）、10対1入院基本料、13対1入院基本料、特定機能病院入院基本料（7対1）、特定機能病院入院基本料（10対1）、特定機能病院入院基本料（13対1）

その他の病棟入院料：精神療養病棟入院料、認知症治療病棟入院料、地域移行機能強化病棟入院料（R1のみ）、特殊疾患病棟入院料、小児入院医療管理料5（H26のみ）、児童・思春期精神科入院医療管理料、医療観察法入院対象者入院医学管理料、15対1入院基本料、18対1入院基本料、20対1入院基本料、特別入院基本料、特定機能病院入院基本料（15対1）、その他

表 4 本調査と 630 調査の回答医療機関の隔離・身体的拘束（指示・実施）の在院患者に対する比率の比較（調査 2 ～回答した医療機関のうち平成 26 年回答分のみ抽出）

制限の種類別	本調査			630調査			χ 二乗検定	
	在院患者数(人)	制限が指示された患者数(人)※1	在院患者比率(%)	在院患者数(人)	制限が実施された患者数(人)※3	在院患者比率(%)	p値	χ 二乗値
隔離	34,504	1,684	4.9%	290,406	10,089	3.5%	0.000***	174.702
身体的拘束	34,504	1,242	3.6%	290,406	10,673	3.7%	0.480	0.499
制限の種類別	本調査			630調査			χ 二乗検定	
	在院患者数(人)	制限が実施された患者数(人)※2	在院患者比率(%)	在院患者数(人)	制限が実施された患者数(人)※3	在院患者比率(%)	p値	χ 二乗値
隔離	34,504	1,647	4.8%	290,406	10,089	3.5%	0.000***	149.531
身体的拘束	34,504	1,199	3.5%	290,406	10,673	3.7%	0.061	3.512

※1 本調査は、0時または12時のいずれかに指示があった患者数

\*5%有意 \*\*1%有意 \*\*\*0.1%有意

※2 本調査は、0時または12時のいずれかに実施があった患者数

※3 630調査では、隔離は「保護室の隔離患者数」、身体的拘束は「身体的拘束を行っている患者数」

表 5 本調査と 630 調査の回答医療機関の隔離・身体的拘束（指示）の在院患者に対する比率の比較（調査 2 ～回答した医療機関のうち令和元年回答分のみ抽出）

制限の種類別	本調査			630調査			χ 二乗検定	
	在院患者数(人)	制限が指示された患者数(人)※1	在院患者比率(%)	在院患者数(人)	制限が指示された患者数(人)※2	在院患者比率(%)	p値	χ 二乗値
隔離	32,903	1,748	5.3%	272,096	12,815	4.7%	0.000***	23.458
身体的拘束	32,903	1,041	3.2%	272,096	10,875	4.0%	0.000***	54.245

※1 本調査は、0時に指示があった患者数

\*5%有意 \*\*1%有意 \*\*\*0.1%有意

※2 630調査では、6月30日0時時点で隔離は「隔離指示あり」、身体的拘束は「拘束指示あり」の患者数

表 6 隔離・身体的拘束指示患者の在院患者に対する比率の推移（調査 2）

在院患者数	隔離				身体的拘束			
	令和元年		平成26年		令和元年		平成26年	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
0時	1,748	(5.3%)	1,644	(4.8%)	1,041	(3.2%)	1,223	(3.5%)
12時	1,725	(5.2%)	1,585	(4.6%)	1,015	(3.1%)	1,184	(3.4%)
0時または12時	1,776	(5.4%)	1,684	(4.9%)	1,063	(3.2%)	1,242	(3.6%)

表 7 隔離・身体的拘束指示患者に対する実施比率の推移（調査 2）

	隔離						身体的拘束					
	令和元年			平成26年			令和元年			平成26年		
	指示	実施	比率	指示	実施	比率	指示	実施	比率	指示	実施	比率
0時	1,748	1,679	96.1%	1,644	1,583	96.3%	1,041	985	94.6%	1,223	1,146	93.7%
12時	1,725	1,281	74.3%	1,585	1,194	75.3%	1,015	800	78.8%	1,184	874	73.8%
0時または12時	1,776	1,724	97.1%	1,684	1,647	97.8%	1,063	1,030	96.9%	1,242	1,199	96.5%

\* 指示・実施は人数を示す。

表 8 隔離・身体的拘束指示患者に占める実施比率に関する有意差検定（調査 2）

制限の種別	令和元年			平成26年			χ 二乗検定	
	制限が指示された患者数(人)	制限が実施された患者数(人)	指示患者に占める実施比率(%)	制限が指示された患者数(人)	制限が実施された患者数(人)	指示患者に占める実施比率(%)	p値	χ 二乗値
隔離	1,776	1,724	97.1%	1,684	1,647	97.8%	0.175	1.842
身体的拘束	1,063	1,030	96.9%	1,242	1,199	96.5%	0.632	0.230

※6月30日0時または12時のいずれかに指示・実施があった患者

\*5%有意 \*\*1%有意 \*\*\*0.1%有意

図 2 隔離指示患者の病棟入院料別比率の推移 6月30日0時または12時（調査 2）

※サンプル数が少ないため有意差検定はなし

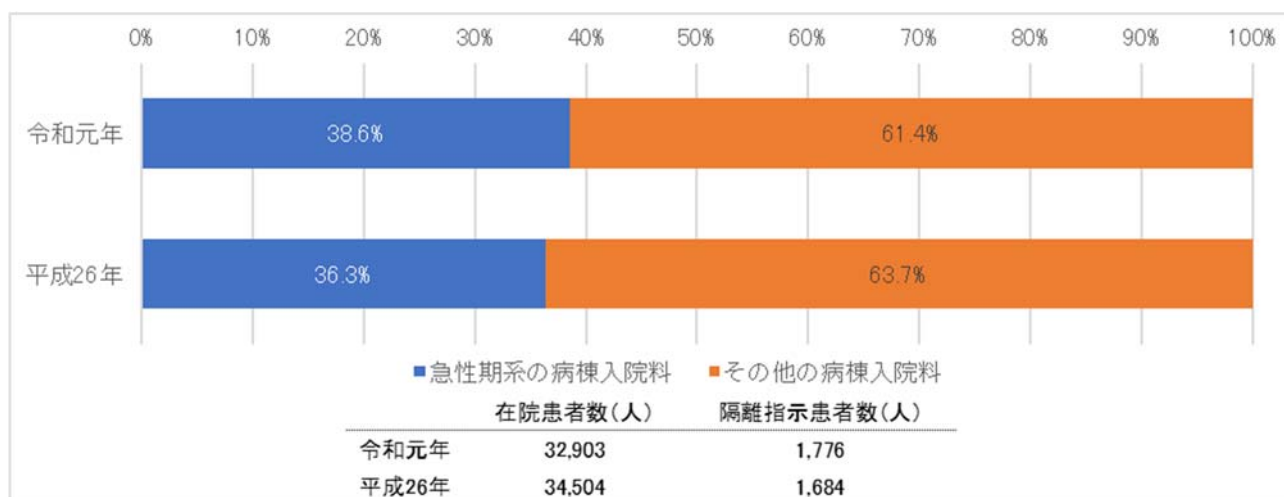




図 3 身体的拘束指示患者の病棟入院料別比率の推移 6月30日0時または12時（調査2）

※サンプル数が少ないため有意差検定はなし

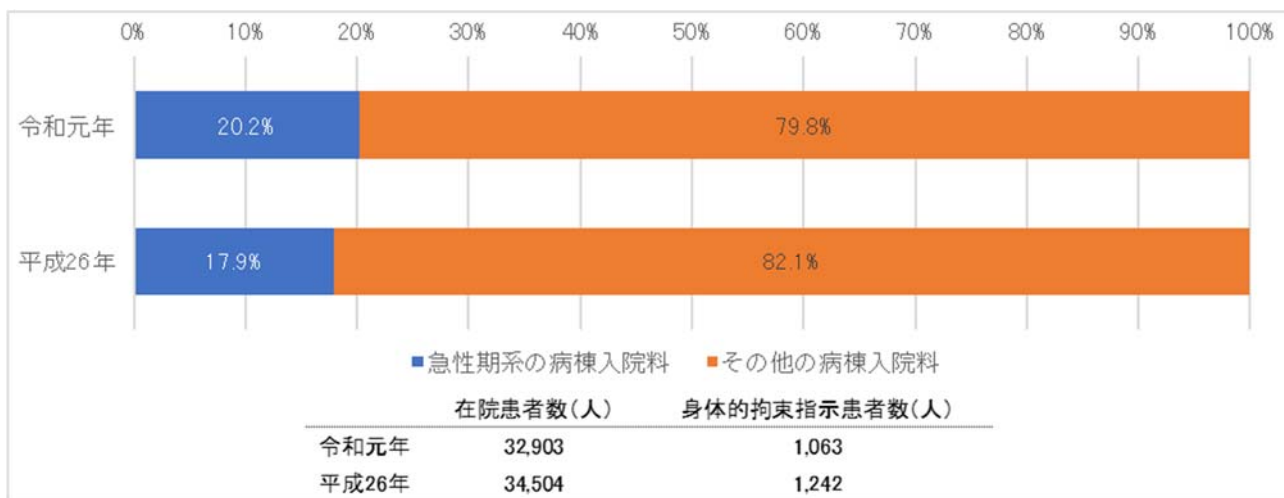


図 4 隔離指示患者の年齢・性別比率の推移 6月30日0時または12時（調査2）

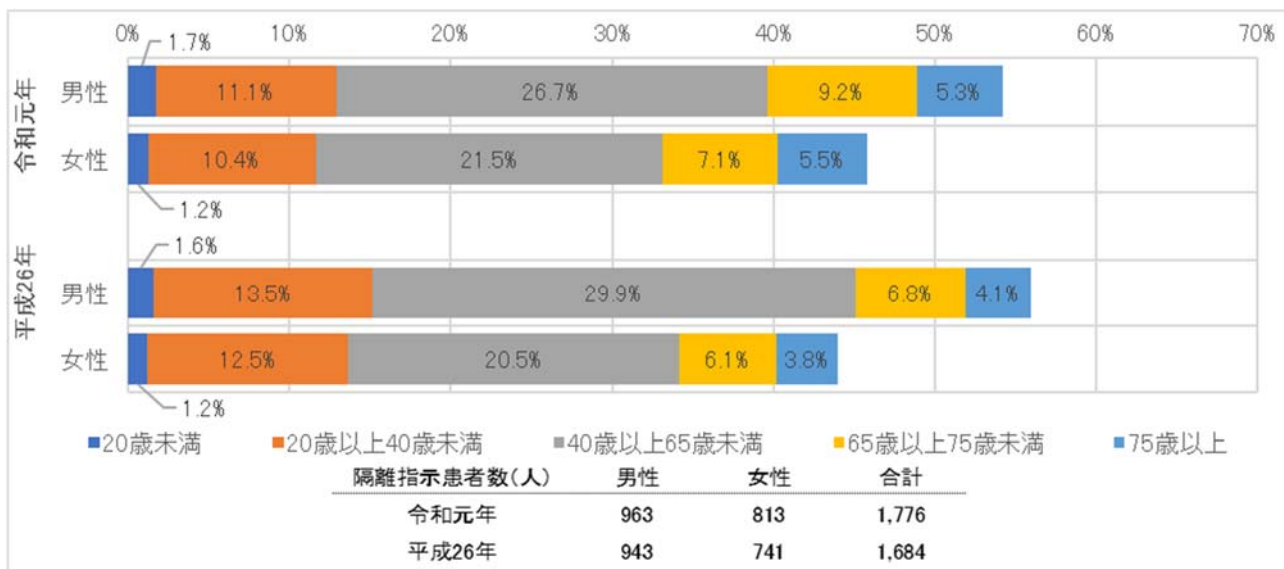


図 5 身体的拘束指示患者の年齢・性別比率の推移 6月30日0時または12時（調査2）

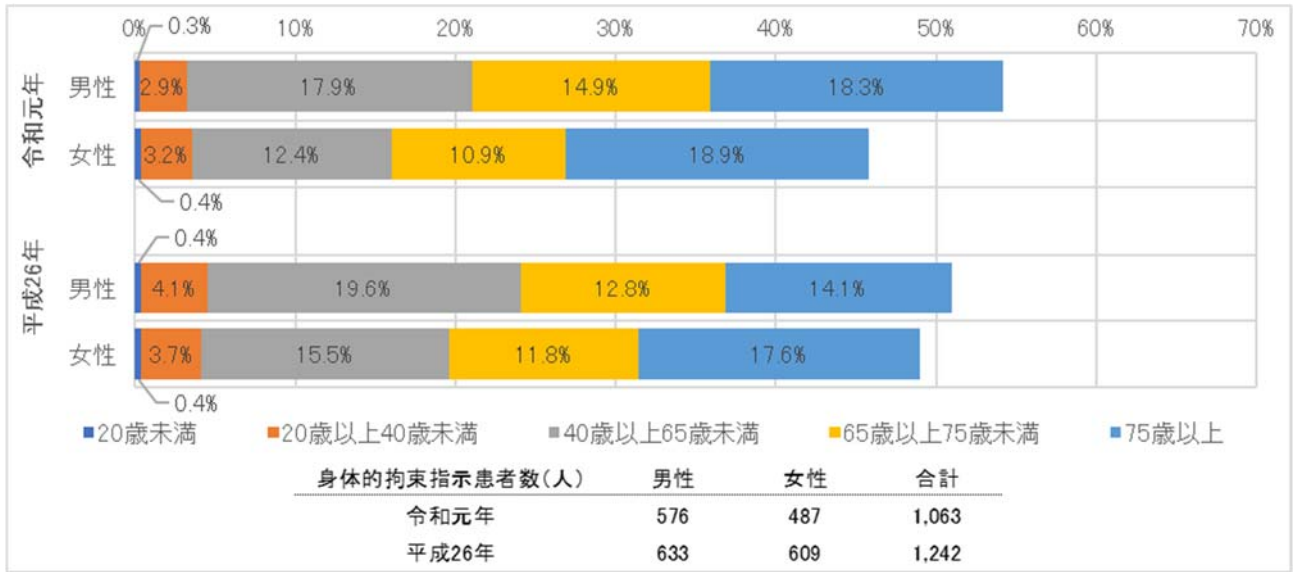


図 6 隔離指示患者の主診断別比率の推移 6月30日0時または12時（調査2）

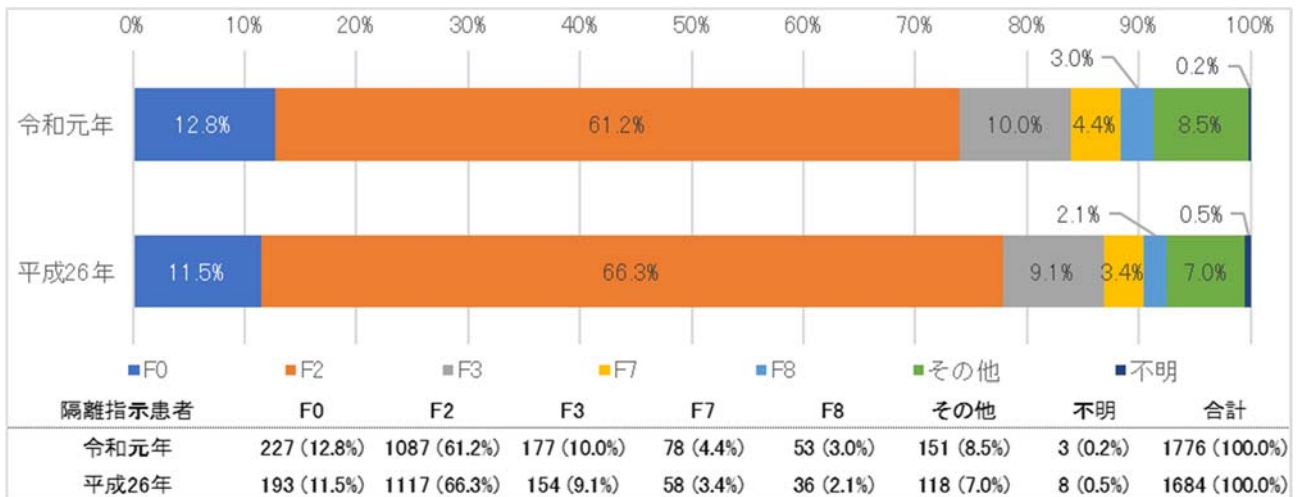


図 7 身体的拘束指示患者の主診断別比率の推移 6月30日0時または12時（調査2）

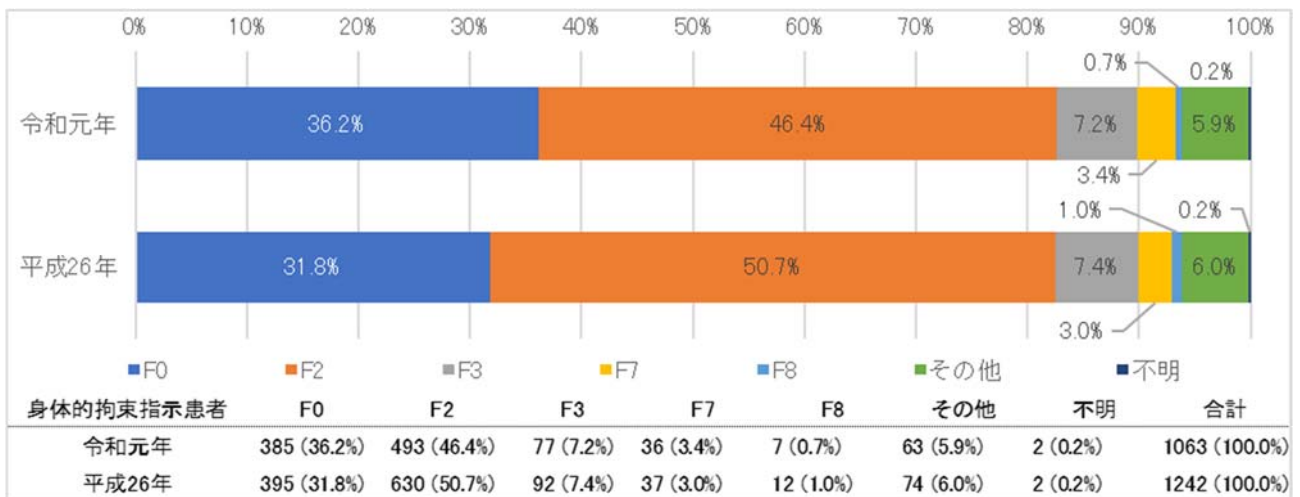


表 9 隔離指示患者の病棟入院料別の在院患者に対する比率の年次比較に関する有意差検定（調査 2）

病棟入院料	令和元年			平成26年			χ 二乗検定	
	在院患者数(人)	隔離指示患者数(人)※	在院患者比率(%)	在院患者数(人)	隔離指示患者数(人)※	在院患者比率(%)	p値	χ 二乗値
急性期系の病棟入院料	5,189	685	13.2%	4,553	612	13.4%	0.726	0.123
その他の病棟入院料	27,714	1,091	3.9%	29,951	1,072	3.6%	0.024 *	5.094
合計	32,903	1,776	5.4%	34,504	1,684	4.9%	0.002 **	9.245

※6月30日0時または12時のいずれかに指示があった患者

\*5%有意 \*\*1%有意 \*\*\*0.1%有意

急性期系の病棟入院料：精神科救急入院料、精神科救急・合併症入院料、精神科急性期治療病棟入院料（医師配置加算あり）、精神科急性期治療病棟入院料（医師配置加算なし）、10対1入院基本料、13対1入院基本料、特定機能病院入院基本料(7対1)、特定機能病院入院基本料(10対1)、特定機能病院入院基本料(13対1)

その他の病棟入院料：精神療養病棟入院料、認知症治療病棟入院料、地域移行機能強化病棟入院料（R1のみ）、特殊疾患病棟入院料、小児入院医療管理料5（H26のみ）、児童・思春期精神科入院医療管理料、医療観察法入院対象者入院医学管理料、15対1入院基本料、18対1入院基本料、20対1入院基本料、特別入院基本料、特定機能病院入院基本料(15対1)、その他

表 10 身体的拘束指示患者の病棟入院料別の在院患者に対する比率の年次比較に関する有意差検定（調査 2）

病棟入院料	令和元年			平成26年			χ 二乗検定	
	在院患者数(人)	身体的拘束指示患者数(人)※	在院患者比率(%)	在院患者数(人)	身体的拘束指示患者数(人)※	在院患者比率(%)	p値	χ 二乗値
急性期系の病棟入院料	5,189	215	4.1%	4,553	222	4.9%	0.081	3.039
その他の病棟入院料	27,714	848	3.1%	29,951	1,020	3.4%	0.019 *	5.490
合計	32,903	1,063	3.2%	34,504	1,242	3.6%	0.008 **	6.941

※6月30日0時または12時のいずれかに指示があった患者

\*5%有意 \*\*1%有意 \*\*\*0.1%有意

急性期系の病棟入院料：精神科救急入院料、精神科救急・合併症入院料、精神科急性期治療病棟入院料（医師配置加算あり）、精神科急性期治療病棟入院料（医師配置加算なし）、10対1入院基本料、13対1入院基本料、特定機能病院入院基本料(7対1)、特定機能病院入院基本料(10対1)、特定機能病院入院基本料(13対1)

その他の病棟入院料：精神療養病棟入院料、認知症治療病棟入院料、地域移行機能強化病棟入院料（R1のみ）、特殊疾患病棟入院料、小児入院医療管理料5（H26のみ）、児童・思春期精神科入院医療管理料、医療観察法入院対象者入院医学管理料、15対1入院基本料、18対1入院基本料、20対1入院基本料、特別入院基本料、特定機能病院入院基本料(15対1)、その他

表 11 隔離・身体的拘束の該当要件

隔離
ア. 他の患者との人間関係を著しく損なうおそれがある等、その言動が患者の病状の経過や予後に著しく悪く影響する場合
イ. 自殺企図又は自傷行為が切迫している場合
ウ. 他の患者に対する暴力行為や著しい迷惑行為、器物破損行為が認められ、他の方法ではこれを防ぎきれない場合
エ. 急性精神運動興奮等のため、不穏、多動、爆発性などが目立ち、一般の精神病室では医療又は保護を図ることが著しく困難な場合
オ. 身体的合併症を有する患者について、検査及び処置等のため、隔離が必要な場合
カ. その他
身体的拘束
ア. 自殺企図又は自傷行為が著しく切迫している場合
イ. 多動又は不穏が顕著である場合
ウ. ア又はイのほか精神障害のために、そのまま放置すれば患者の生命にまで危険が及ぶおそれがある場合
エ. その他

図 8 隔離指示患者の該当要件の比率の推移 6月30日0時または12時（調査2）（複数回答可）

※カイ二乗検定による有意差検定済み

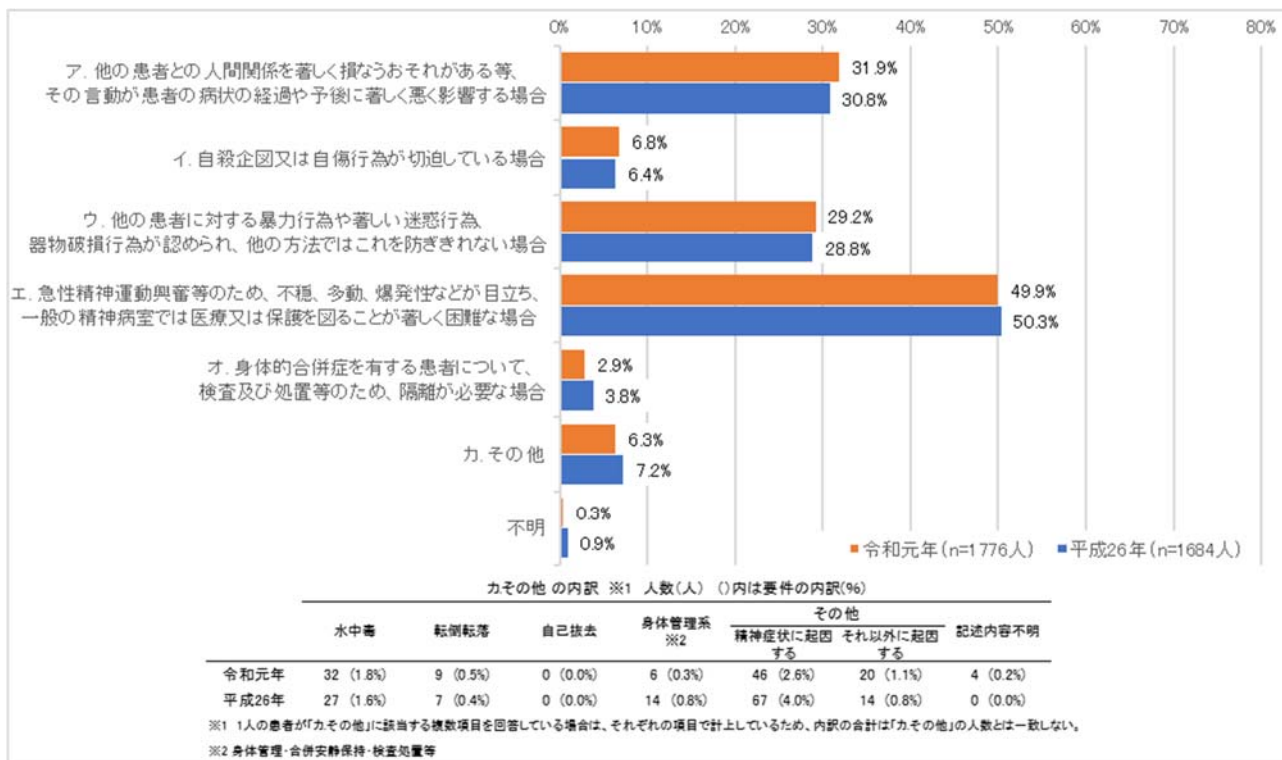


表 12 隔離指示患者の該当要件の比率に関する有意差検定（調査2）

隔離該当要件	令和元年 (n=1,776人)		平成26年 (n=1,684人)		χ二乗検定	
	隔離指示患者 (人)	当該該当要件の内訳 (%)	隔離指示患者 (人)	当該該当要件の内訳 (%)	p値	χ二乗値
ア.他の患者との人間関係を著しく損なうおそれがある等、その言動が患者の病状の経過や予後に著しく悪く影響する場合	566	31.9%	518	30.8%	0.482	0.494
イ.自殺企図又は自傷行為が切迫している場合	120	6.8%	107	6.4%	0.632	0.229
ウ.他の患者に対する暴力行為や著しい迷惑行為、器物破損行為が認められ、他の方法ではこれを防ぎきれない場合	519	29.2%	485	28.8%	0.784	0.075
エ.急性精神運動興奮等のため、不穏、多動、爆発性などが目立ち、一般の精神病室では医療又は保護を図ることが著しく困難な場合	887	49.9%	847	50.3%	0.835	0.043
オ.身体的合併症を有する患者について、検査及び処置等のため、隔離が必要な場合	51	2.9%	64	3.8%	0.128	2.321
カ.その他 ※	112	6.3%	122	7.2%	0.272	1.207

※6月30日0時または12時のいずれかに指示があった患者

\*5%有意 \*\*1%有意 \*\*\*0.1%有意

※「その他」には水中毒、転倒転落、自己抜去、身体管理系（身体管理・合併安静保持・検査処置等）、その他、記述内容不明を含む。

図 9 身体的拘束指示患者の該当要件の比率の推移 6月30日0時または12時（調査2）（複数回答可）※カイ二乗検定による有意差検定済み

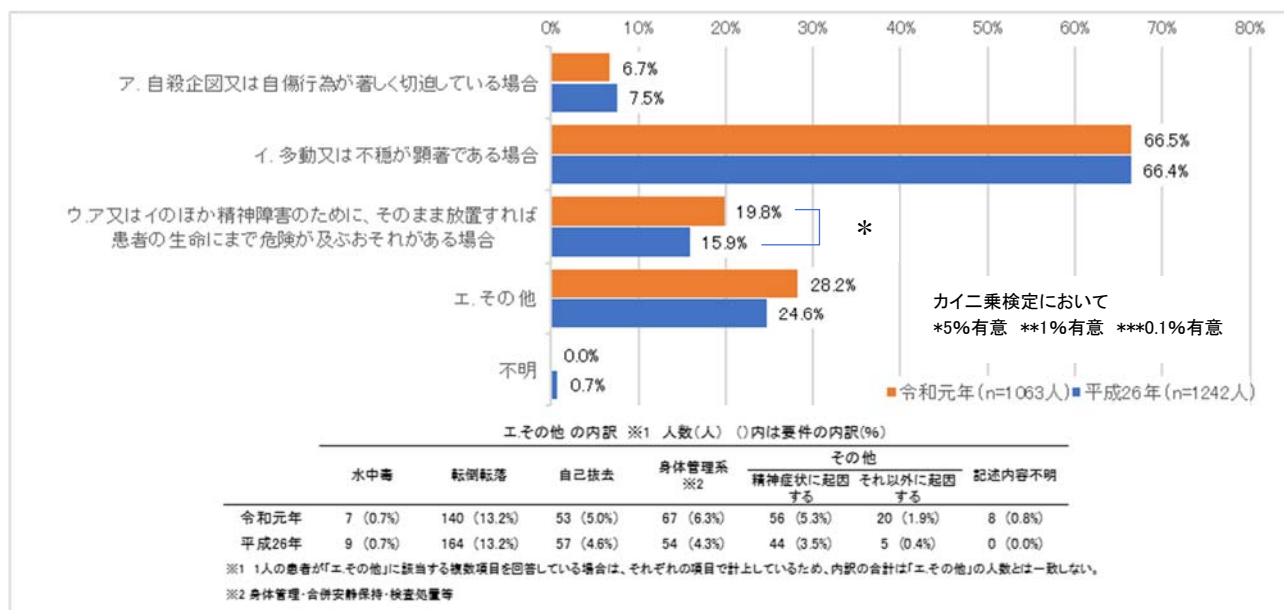


表 13 身体的拘束該当要件の比率に関する有意差検定（調査2）

身体的拘束該当要件	令和元年 (n=1,063人)		平成26年 (n=1,242人)		χ <sup>2</sup> 乗検定	
	身体的拘束指示患者 (人)	当該該当要件の内訳 (%)	身体的拘束指示患者 (人)	当該該当要件の内訳 (%)	p値	χ <sup>2</sup> 乗値
ア. 自殺企図又は自傷行為が著しく切迫している場合	71	6.7%	93	7.5%	0.452	0.567
イ. 多動又は不穏が顕著である場合	707	66.5%	825	66.4%	0.966	0.002
ウ. ア又はイのほか精神障害のために、そのまま放置すれば患者の生命にまで危険が及ぶおそれがある場合	211	19.8%	197	15.9%	0.012 *	6.253
エ. その他 ※	300	28.2%	306	24.6%	0.051	3.797

※6月30日0時または12時のいずれかに指示があった患者

\*5%有意 \*\*1%有意 \*\*\*0.1%有意

※「その他」には水中毒、転倒転落、自己抜去、身体管理系（身体管理・合併安静保持・検査処置等）、その他、記述内容不明を含む。

図 10 隔離指示患者の年齢・性別の該当要件の比率の推移（調査 2：65 歳未満男性）（複数回答可）

※サンプル数が少ないため有意差検定はなし

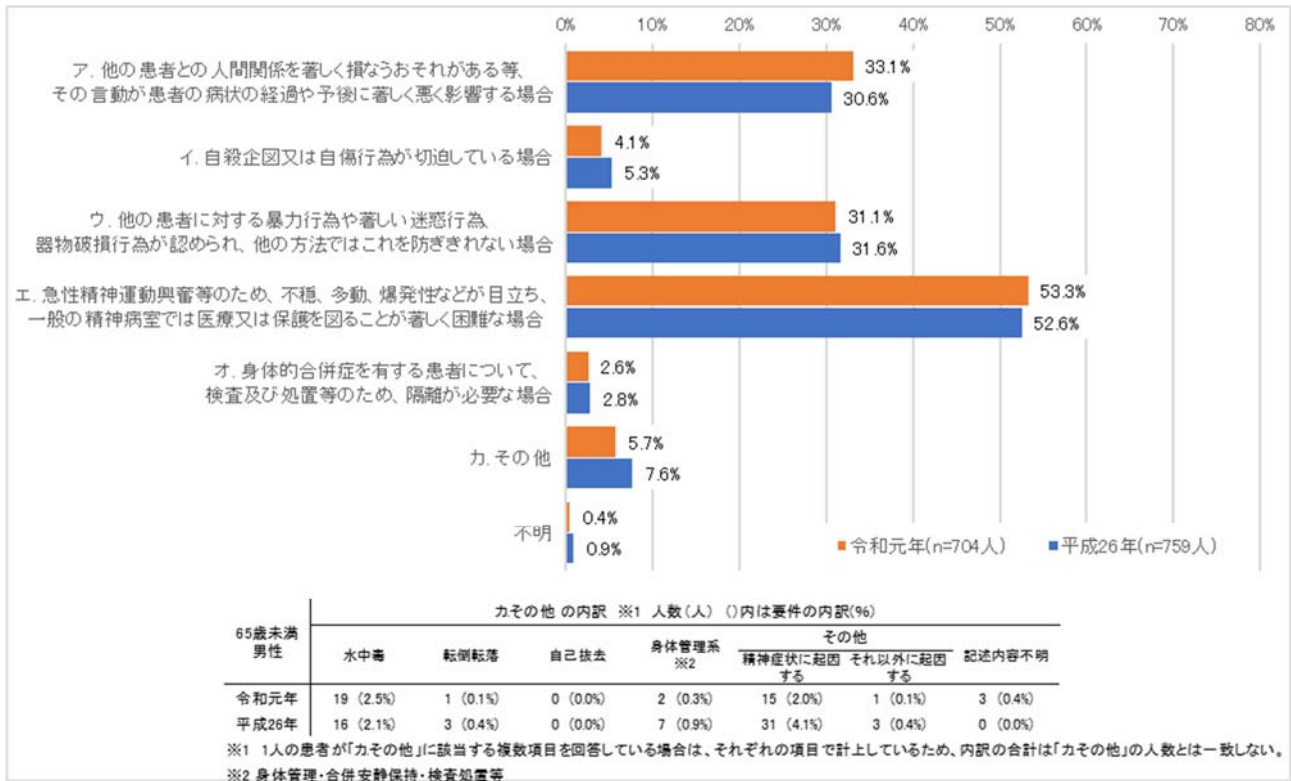


図 11 隔離指示患者の年齢・性別の該当要件の比率の推移（調査 2：65 歳未満女性）（複数回答可）

※サンプル数が少ないため有意差検定はなし

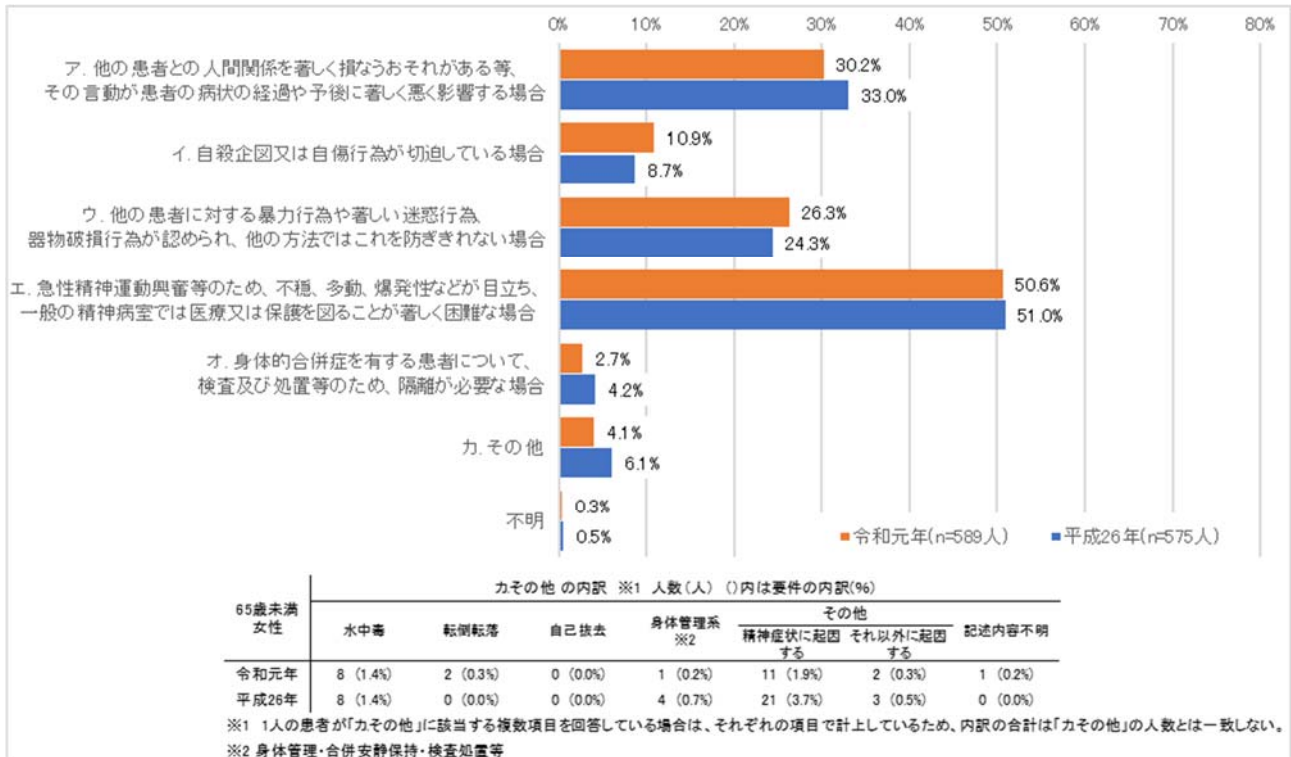


図 12 隔離指示患者の年齢・性別の該当要件の比率の推移（調査 2：65 歳以上男性）（複数回答可）

※サンプル数が少ないため有意差検定はなし

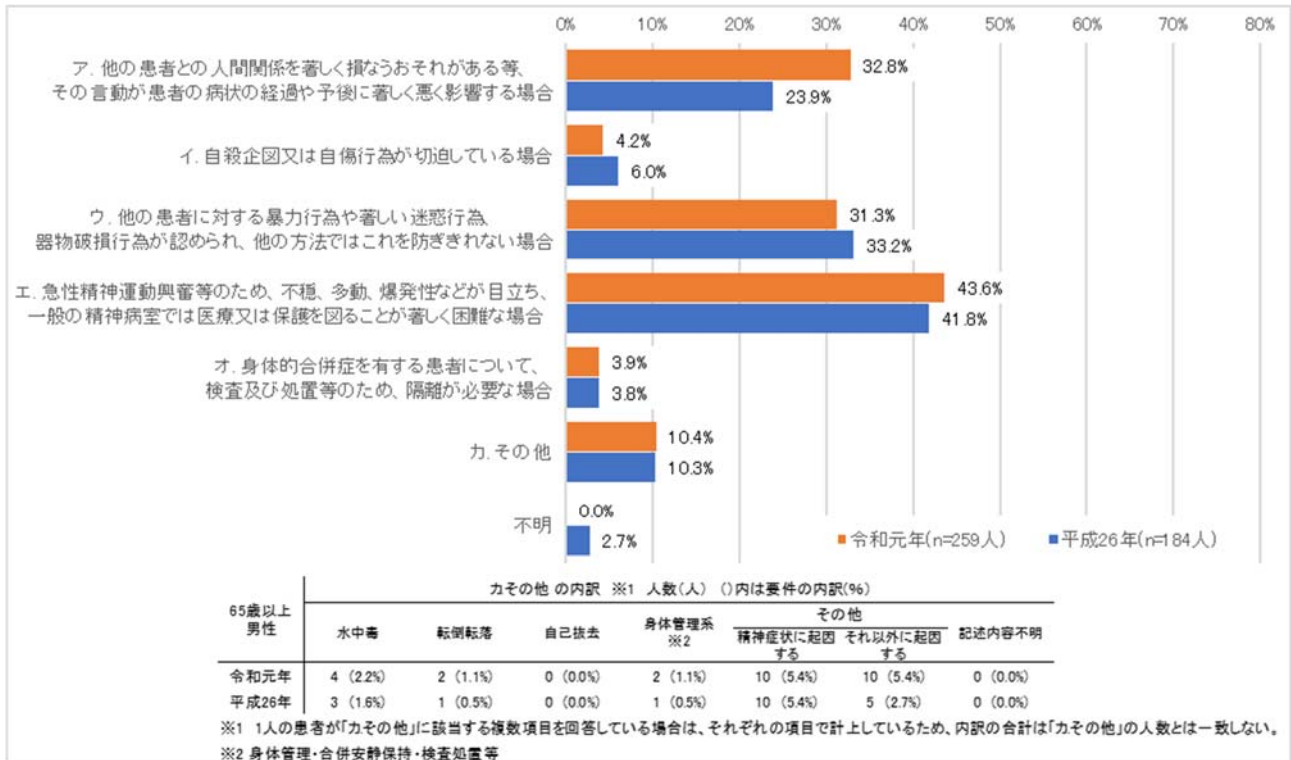


図 13 隔離指示患者の年齢・性別の該当要件の比率の推移（調査 2：65 歳以上女性）（複数回答可）

※サンプル数が少ないため有意差検定はなし

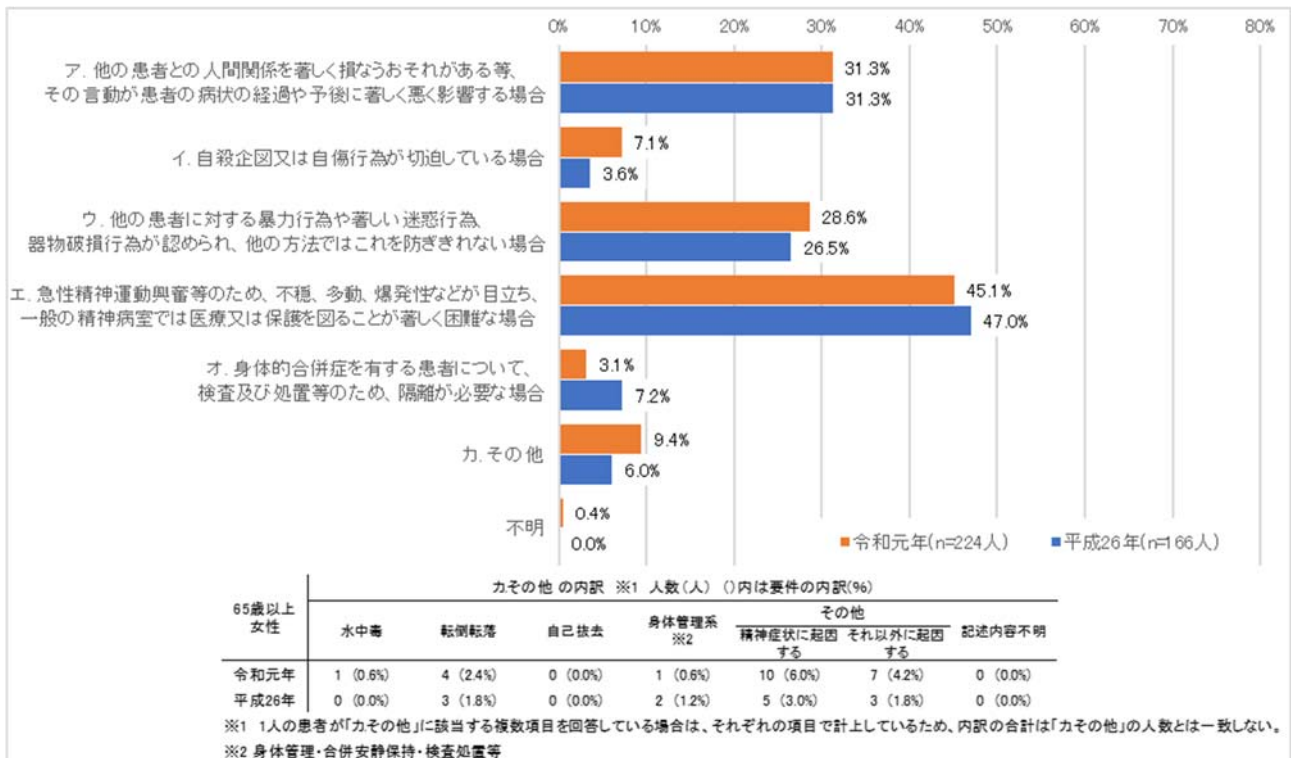


図 14 身体的拘束指示患者の年齢・性別の該当要件の比率の推移（調査 2：65 歳未満男性）（複数回答可）

※サンプル数が少ないため有意差検定はなし

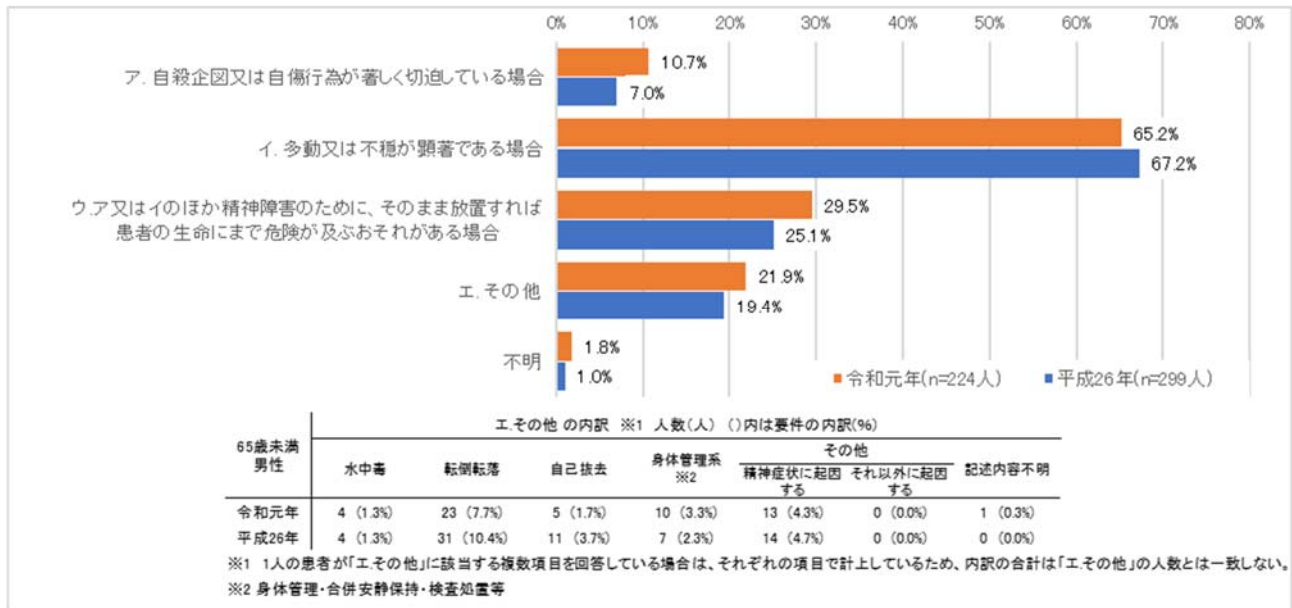


図 15 身体的拘束指示患者の年齢・性別の該当要件の比率の推移（調査 2：65 歳未満女性）（複数回答可）

※サンプル数が少ないため有意差検定はなし

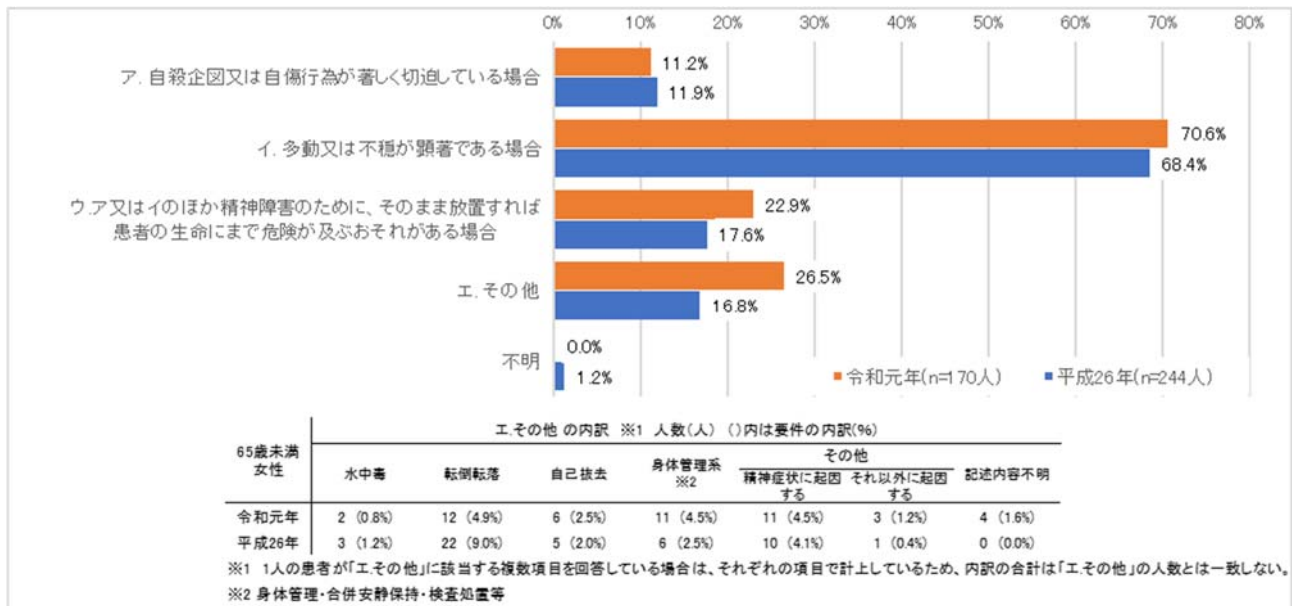




図 16 身体的拘束指示患者の年齢・性別の該当要件の比率の推移（調査2：65歳以上男性）（複数回答可）

※サンプル数が少ないため有意差検定はなし

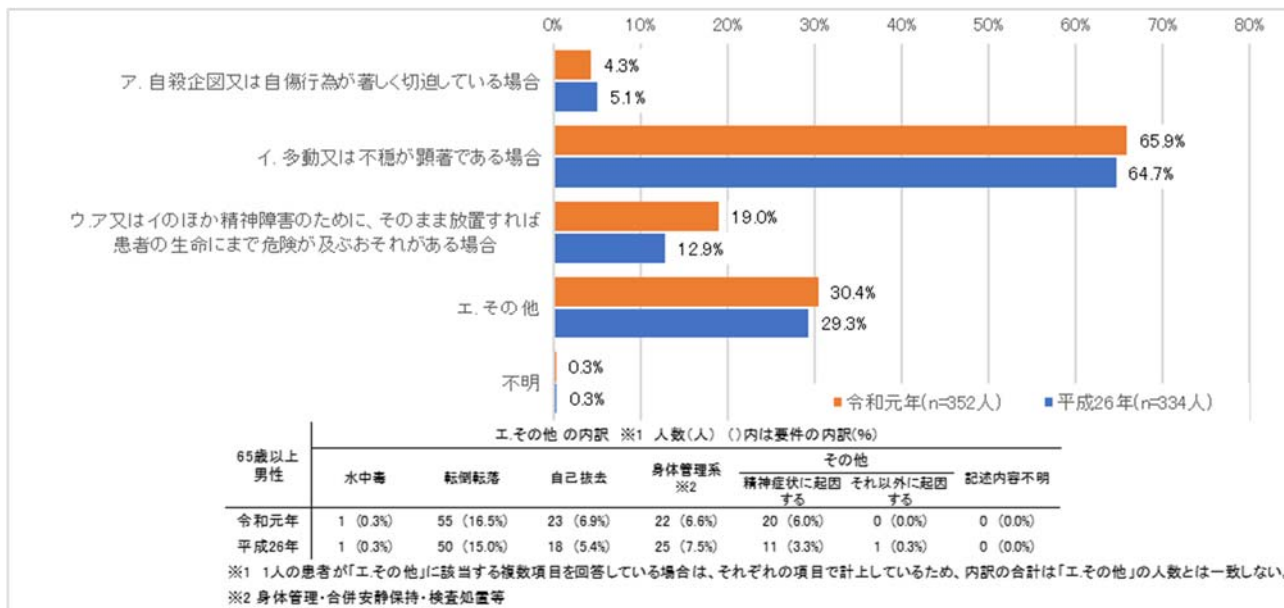


図 17 身体的拘束指示患者の年齢・性別の該当要件の比率の推移（調査2：65歳以上女性）（複数回答可）

※サンプル数が少ないため有意差検定はなし

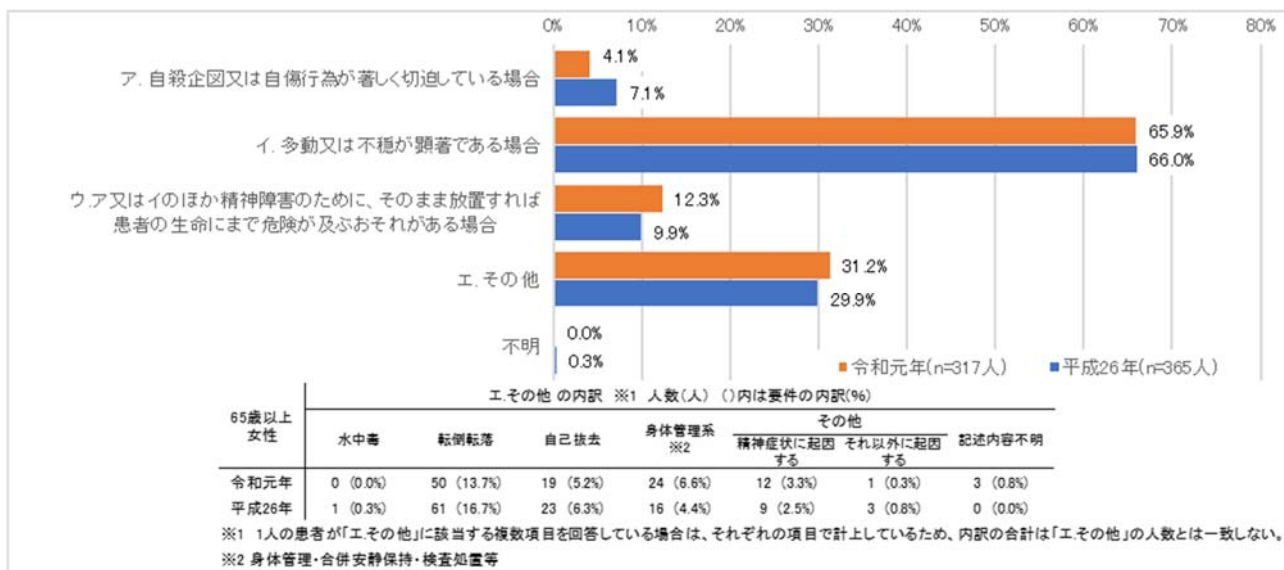


図 18 隔離指示が解除された患者の、当該エピソードにおける隔離指示期間の比率の推移（調査 2）

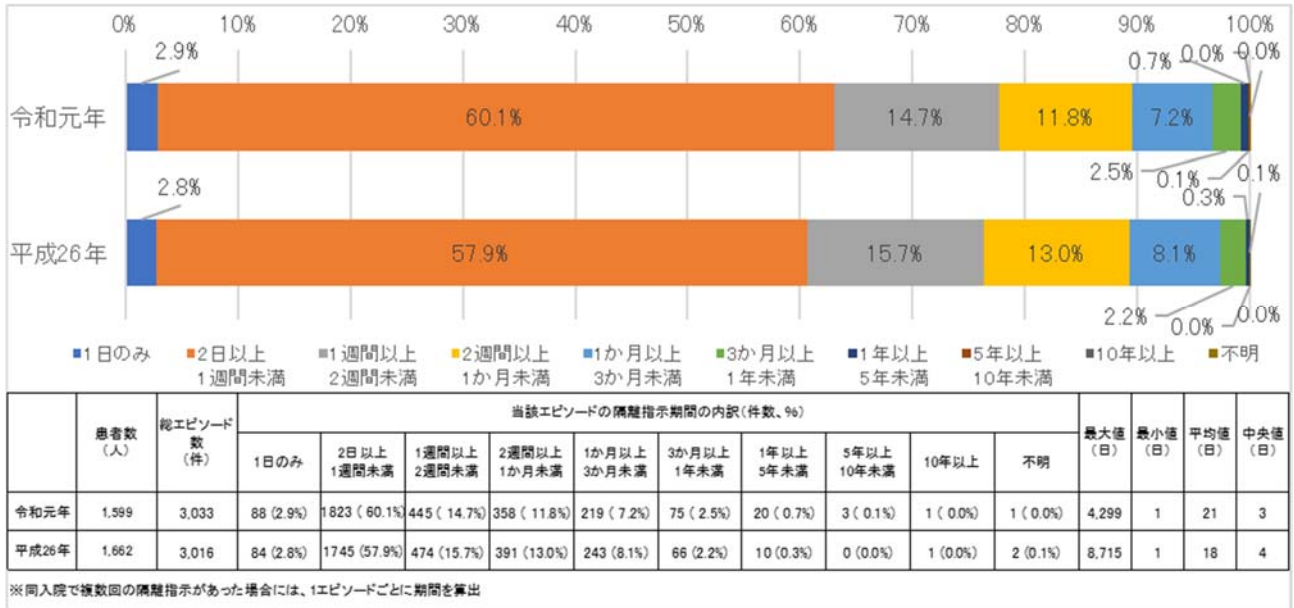


表 14 隔離指示期間の比率に関する有意差検定（調査 2）

隔離指示期間※	令和元年 (n=3,032 (件))		平成26年 (n=3,014 (件))		χ 二乗検定	
	エピソード数 (件)	当該日数の比率 (%)	エピソード数 (件)	当該日数の比率 (%)	p値	χ 二乗値
1日のみ	88	2.9%	84	2.8%	0.787	0.073
2日以上 1週間未満	1,823	60.1%	1,745	57.9%	0.078	3.104
1週間以上 2週間未満	445	14.7%	474	15.7%	0.256	1.292
2週間以上 1か月未満	358	11.8%	391	13.0%	0.169	1.891
1か月以上	318	10.5%	320	10.6%	0.870	0.027

※6月に精神科病棟で隔離指示が解除された患者の、当該エピソードにおける隔離指示期間 (不明は除く) \*5%有意 \*\*1%有意 \*\*\*0.1%有意

図 19 身体的拘束指示が解除された患者の、当該エピソードにおける身体的拘束指示期間の比率の推移（調査 2）

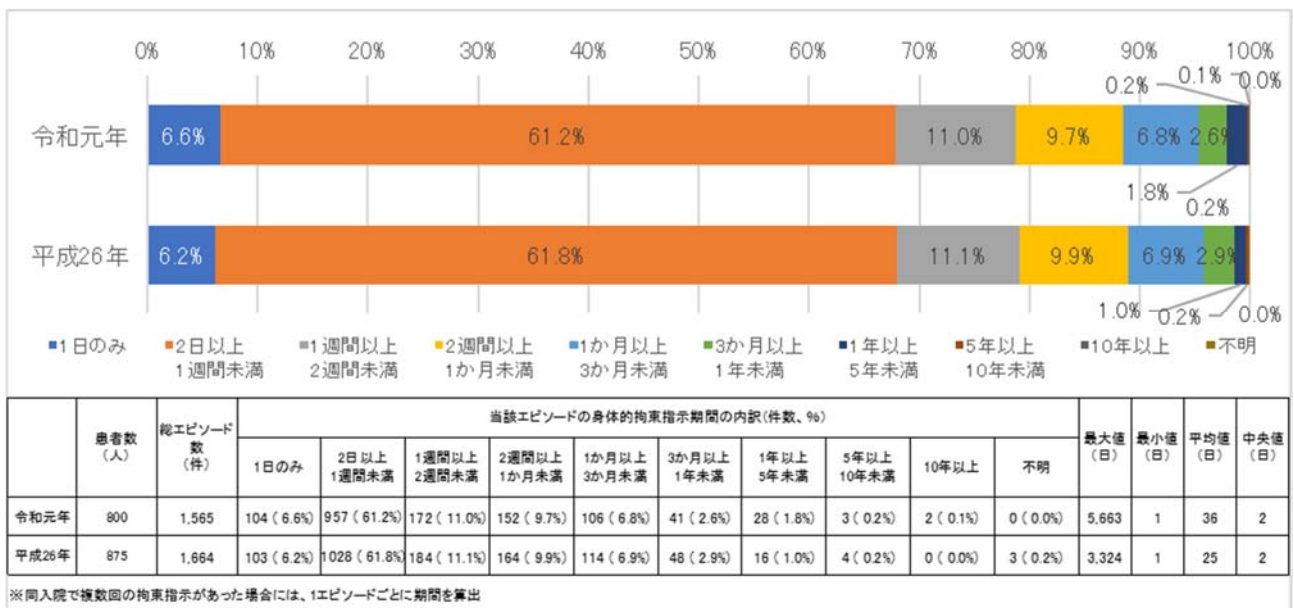


表 15 身体的拘束指示期間の比率に関する有意差検定（調査 2）

身体的拘束指示期間※	令和元年 (n=1,565 (件))		平成26年 (n=1,661 (件))		χ 二乗検定	
	エピソード数 (件)	当該日数の比率 (%)	エピソード数 (件)	当該日数の比率 (%)	p値	χ 二乗値
1日のみ	104	6.6%	103	6.2%	0.607	0.265
2日以上 1週間未満	957	61.2%	1,028	61.9%	0.666	0.187
1週間以上 2週間未満	172	11.0%	184	11.1%	0.937	0.006
2週間以上 1か月未満	152	9.7%	164	9.9%	0.878	0.024
1か月以上	180	11.5%	182	11.0%	0.624	0.240

※6月に精神病床で身体的拘束指示が解除された患者の、当該エピソードにおける身体的拘束指示期間（不明は除く） \*5%有意 \*\*1%有意 \*\*\*0.1%有意

表 16 隔離・身体的拘束指示患者の在院患者に対する比率の推移（調査 1）

在院患者数	隔離				身体的拘束			
	令和元年		平成21年		令和元年		平成21年	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
0時	321	(4.0%)	254	(2.8%)	142	(1.8%)	113	(1.3%)
12時	321	(4.0%)	250	(2.8%)	141	(1.8%)	111	(1.2%)
0時または12時	323	(4.0%)	261	(2.9%)	142	(1.8%)	115	(1.3%)

表 17 隔離・身体的拘束指示患者に占める実施比率の推移（調査 1）

	隔離						身体的拘束					
	令和元年			平成21年			令和元年			平成21年		
	指示	実施	比率	指示	実施	比率	指示	実施	比率	指示	実施	比率
0時	321	273	85.0%	254	222	87.4%	142	116	81.7%	113	88	77.9%
12時	321	229	71.3%	250	167	66.8%	141	69	48.9%	111	72	64.9%
0時または12時	323	279	86.4%	261	229	87.7%	142	118	83.1%	115	102	88.7%

\* 指示・実施は人数を示す。

表 18 隔離・身体的拘束指示患者に占める実施比率に関する有意差検定（調査 1）

制限の種類	令和元年			平成21年			χ 二乗検定	
	制限が指示された患者数(人)	制限が実施された患者数(人)	指示患者に占める実施比率(%)	制限が指示された患者数(人)	制限が実施された患者数(人)	指示患者に占める実施比率(%)	p値	χ 二乗値
隔離	323	279	86.4%	261	229	87.7%	0.627	0.236
身体的拘束	142	118	83.1%	115	102	88.7%	0.204	1.615

※6月30日0時または12時のいずれかに指示・実施があった患者 \*5%有意 \*\*1%有意 \*\*\*0.1%有意

図 20 隔離指示患者の病棟入院料別比率の推移 6月30日0時または12時（調査1）

※サンプル数が少ないため有意差検定はなし

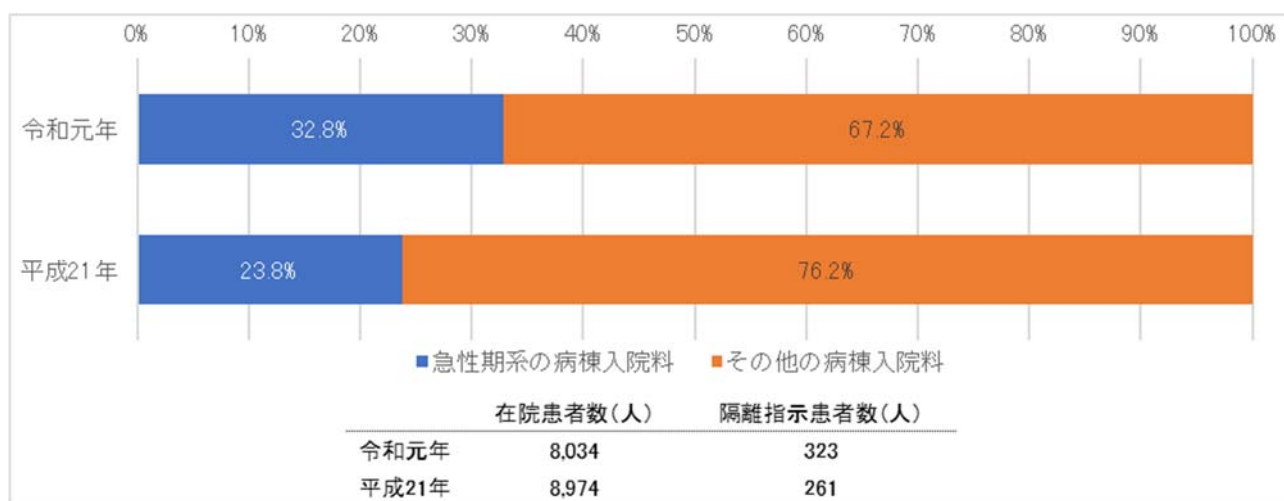


図 21 身体的拘束指示患者の病棟入院料別比率の推移 6月30日0時または12時（調査1）

※サンプル数が少ないため有意差検定はなし

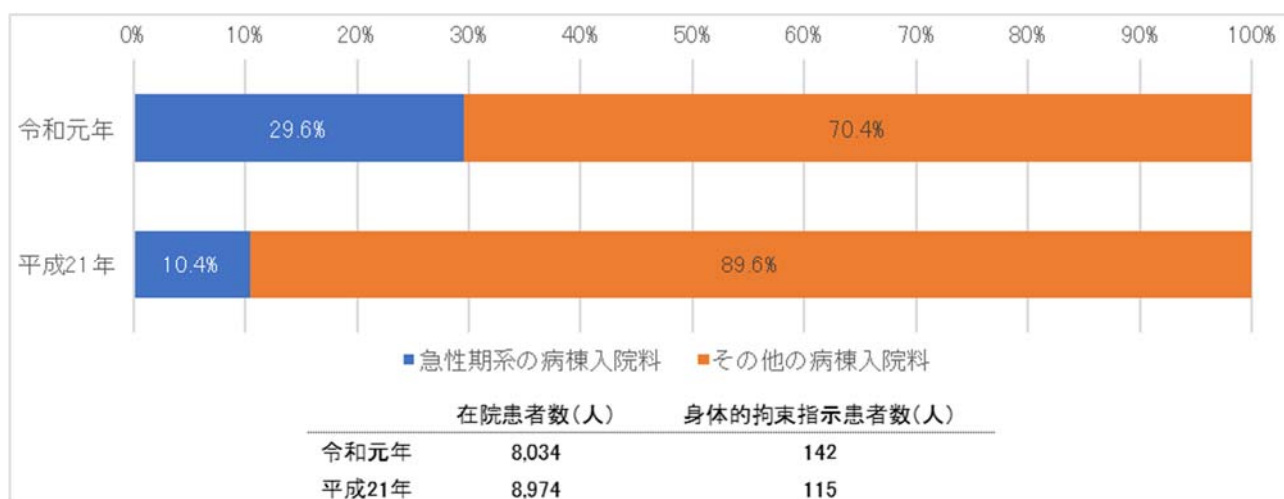


図 22 隔離指示患者の年齢・性別比率の推移 6月30日0時または12時（調査1）

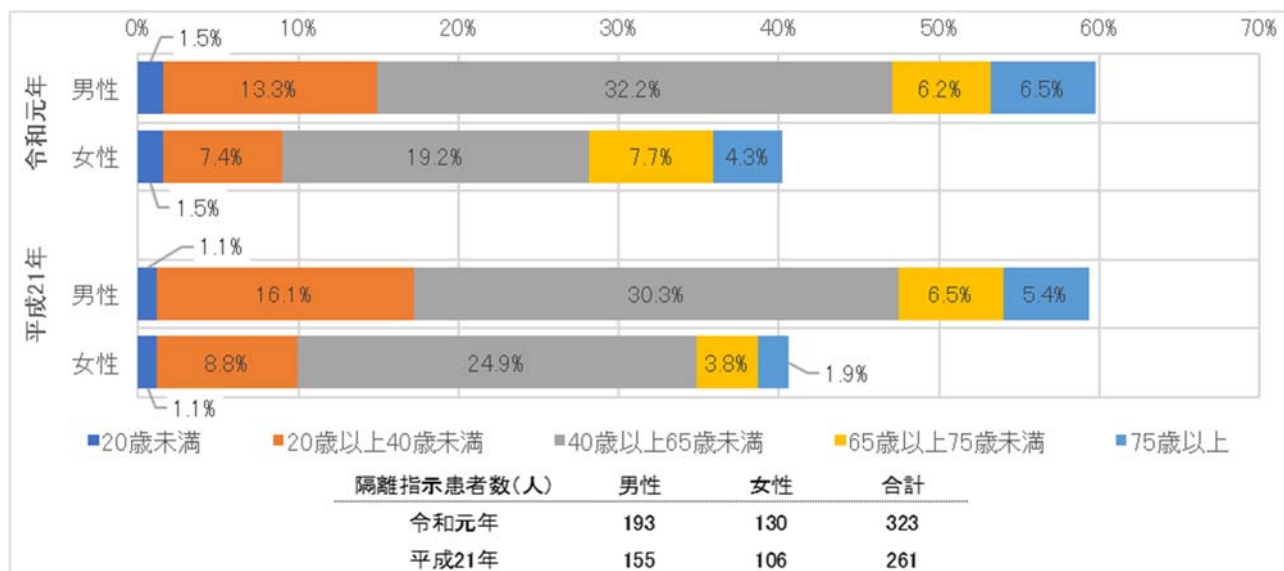


図 23 身体的拘束指示患者の年齢・性別比率の推移 6月30日0時または12時（調査1）

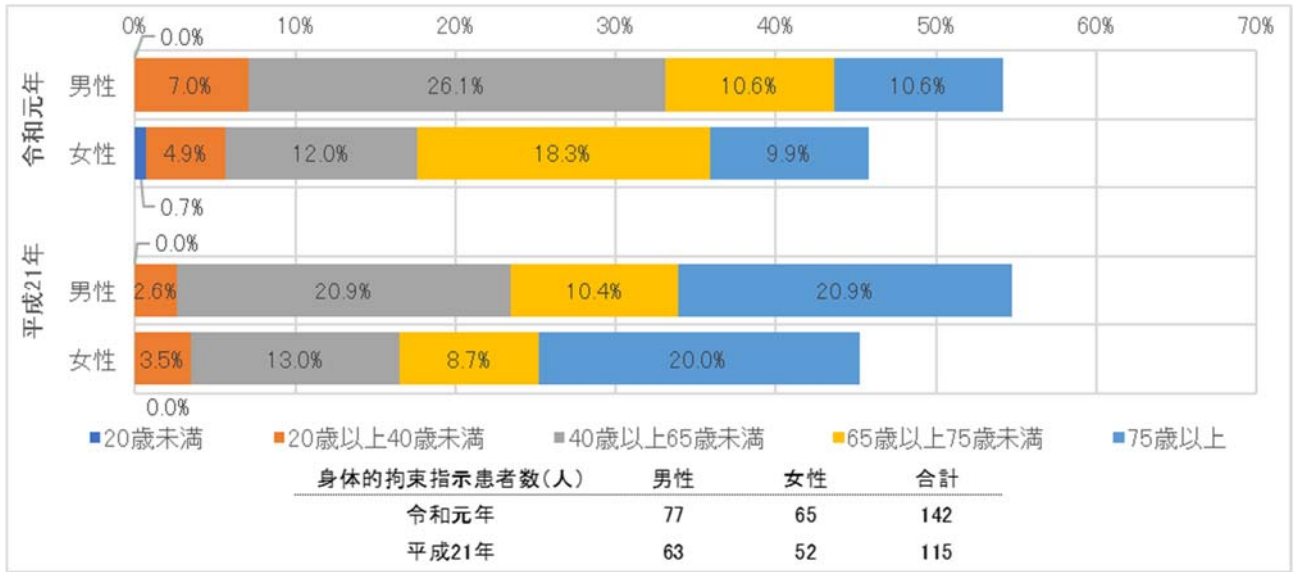


図 24 隔離指示患者の主診断別比率の推移 6月30日0時または12時（調査1）



図 25 身体的拘束指示患者の主診断別比率の推移 6月30日0時または12時（調査1）

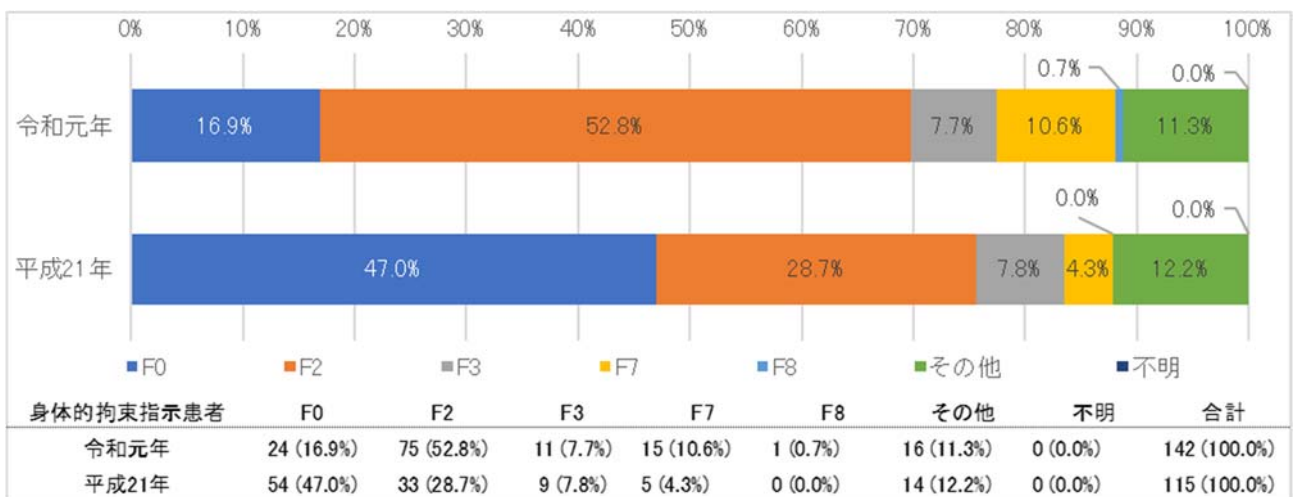


表 19 隔離指示患者の病棟入院料別の在院患者に対する比率の年次比較に関する有意差検定（調査 1）

病棟入院料	令和元年			平成21年			χ <sup>2</sup> 乗検定	
	在院患者数(人)	隔離指示患者数(人)※	在院患者比率(%)	在院患者数(人)	隔離指示患者数(人)※	在院患者比率(%)	p値	χ <sup>2</sup> 乗値
急性期系の病棟入院料	952	106	11.1%	769	62	8.1%	0.033 *	4.557
その他の病棟入院料	7,082	217	3.1%	8,205	199	2.4%	0.016 *	5.859
合計	8,034	323	4.0%	8,974	261	2.9%	0.000 ***	15.809

※6月30日0時または12時のいずれかに指示があった患者

\*5%有意 \*\*1%有意 \*\*\*0.1%有意

急性期系の病棟入院料：精神科救急入院料、精神科救急・合併症入院料、精神科急性期治療病棟入院料(H21のみ)、精神科急性期治療病棟入院料(医師配置加算あり)(R1のみ)、精神科急性期治療病棟入院料(医師配置加算なし)(R1のみ)、10対1入院基本料、13対1入院基本料(R1のみ)、特定機能病院入院基本料(7対1)、特定機能病院入院基本料(10対1)、特定機能病院入院基本料(13対1)(R1のみ)

その他の病棟入院料：精神療養病棟入院料、認知症治療病棟入院料、地域移行機能強化病棟入院料(R1のみ)、特殊疾患病棟入院料、小児入院医療管理料3(H21のみ)、児童・思春期精神科入院医療管理料(R1のみ)、医療観察法入院対象者入院医学管理料、15対1入院基本料、18対1入院基本料、20対1入院基本料、特別入院基本料、特定機能病院入院基本料(15対1)、その他

表 20 身体的拘束指示患者の病棟入院料別の在院患者に対する比率の年次比較に関する有意差検定（調査 1）

病棟入院料	令和元年			平成21年			χ <sup>2</sup> 乗検定	
	在院患者数(人)	身体的拘束指示患者数(人)※	在院患者比率(%)	在院患者数(人)	身体的拘束指示患者数(人)※	在院患者比率(%)	p値	χ <sup>2</sup> 乗値
急性期系の病棟入院料	952	42	4.4%	769	12	1.6%	0.001 ***	11.379
その他の病棟入院料	7,082	100	1.4%	8,205	103	1.3%	0.399	0.712
合計	8,034	142	1.8%	8,974	115	1.3%	0.009 **	6.728

※6月30日0時または12時のいずれかに指示があった患者

\*5%有意 \*\*1%有意 \*\*\*0.1%有意

急性期系の病棟入院料：精神科救急入院料、精神科救急・合併症入院料、精神科急性期治療病棟入院料(H21のみ)、精神科急性期治療病棟入院料(医師配置加算あり)(R1のみ)、精神科急性期治療病棟入院料(医師配置加算なし)(R1のみ)、10対1入院基本料、13対1入院基本料(R1のみ)、特定機能病院入院基本料(7対1)、特定機能病院入院基本料(10対1)、特定機能病院入院基本料(13対1)(R1のみ)

その他の病棟入院料：精神療養病棟入院料、認知症治療病棟入院料、地域移行機能強化病棟入院料(R1のみ)、特殊疾患病棟入院料、小児入院医療管理料3(H21のみ)、児童・思春期精神科入院医療管理料(R1のみ)、医療観察法入院対象者入院医学管理料、15対1入院基本料、18対1入院基本料、20対1入院基本料、特別入院基本料、特定機能病院入院基本料(15対1)、その他

図 26 隔離指示患者の該当要件の比率の推移 6月30日0時または12時（調査 1）（複数回答可）

※カイ二乗検定による有意差検定済み

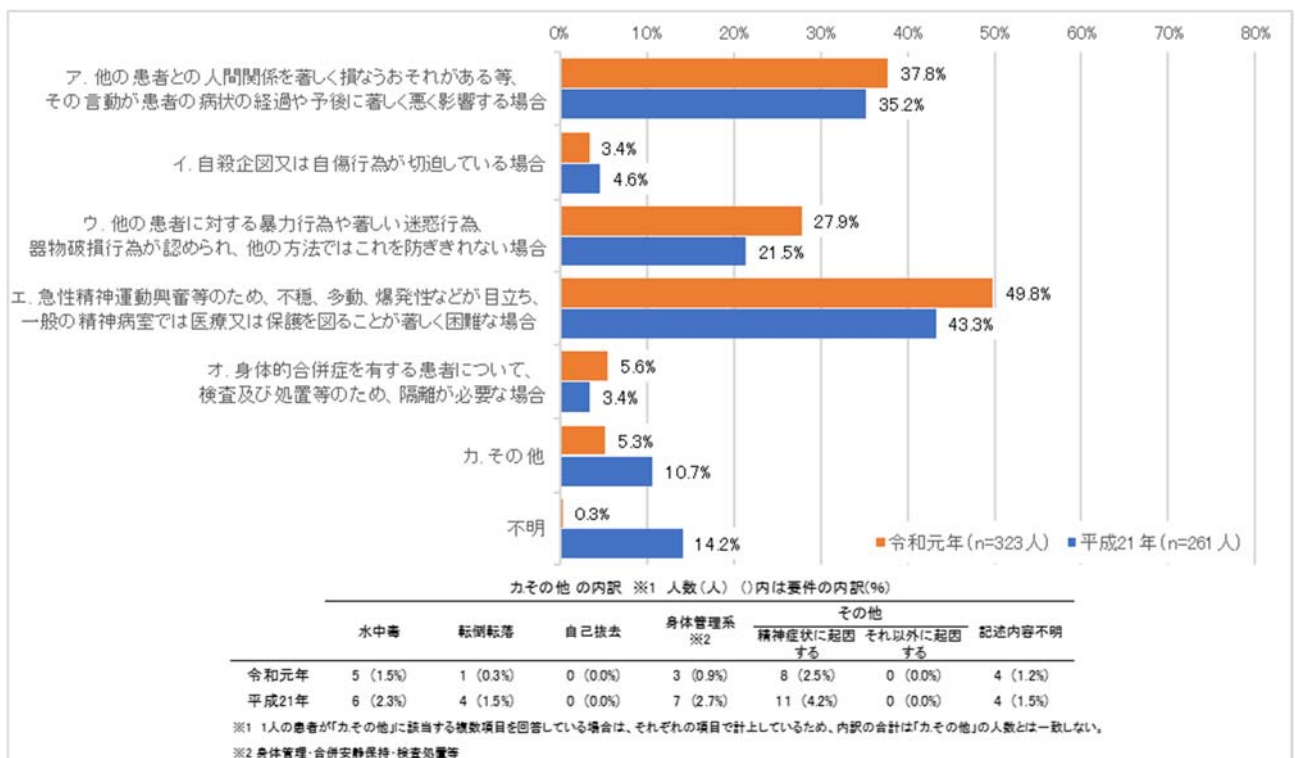


表 21 隔離指示患者の該当要件の比率に関する有意差検定（調査 1）

隔離該当要件（複数選択可）	令和元年（n=323人）		平成21年（n=261人）		χ <sup>2</sup> 二乗検定	
	隔離指示患者（人）	当該該当要件の内訳（%）	隔離指示患者（人）	当該該当要件の内訳（%）	p値	χ <sup>2</sup> 二乗値
ア. 他の患者との人間関係を著しく損なうおそれがある等、その言動が患者の病状の経過や予後に著しく悪く影響する場合	122	37.8%	92	35.2%	0.529	0.395
イ. 自殺企図又は自傷行為が切迫している場合	11	3.4%	12	4.6%	0.461	0.542
ウ. 他の患者に対する暴力行為や著しい迷惑行為、器物破損行為が認められ、他の方法ではこれを防ぎきれない場合	90	27.9%	56	21.5%	0.075	3.161
エ. 急性精神運動興奮等のため、不穏、多動、爆発性などが目立ち、一般の精神病室では医療又は保護を図ることが著しく困難な場合	161	49.8%	113	43.3%	0.115	2.487
オ. 身体的合併症を有する患者について、検査及び処置等のため、隔離が必要な場合	18	5.6%	9	3.4%	0.224	1.478
カ. その他 ※	17	5.3%	28	10.7%	0.014 *	6.062

※6月30日0時または12時のいずれかに指示があった患者

\*5%有意 \*\*1%有意 \*\*\*0.1%有意

※「その他」には水中毒、転倒転落、自己抜去、身体管理系（身体管理・合併安静保持・検査処置等）、その他、記述内容不明を含む。

図 27 身体的拘束指示患者の該当要件の比率の推移 6月30日0時または12時（調査1）（複数回答可）※カイ二乗検定による有意差検定済み

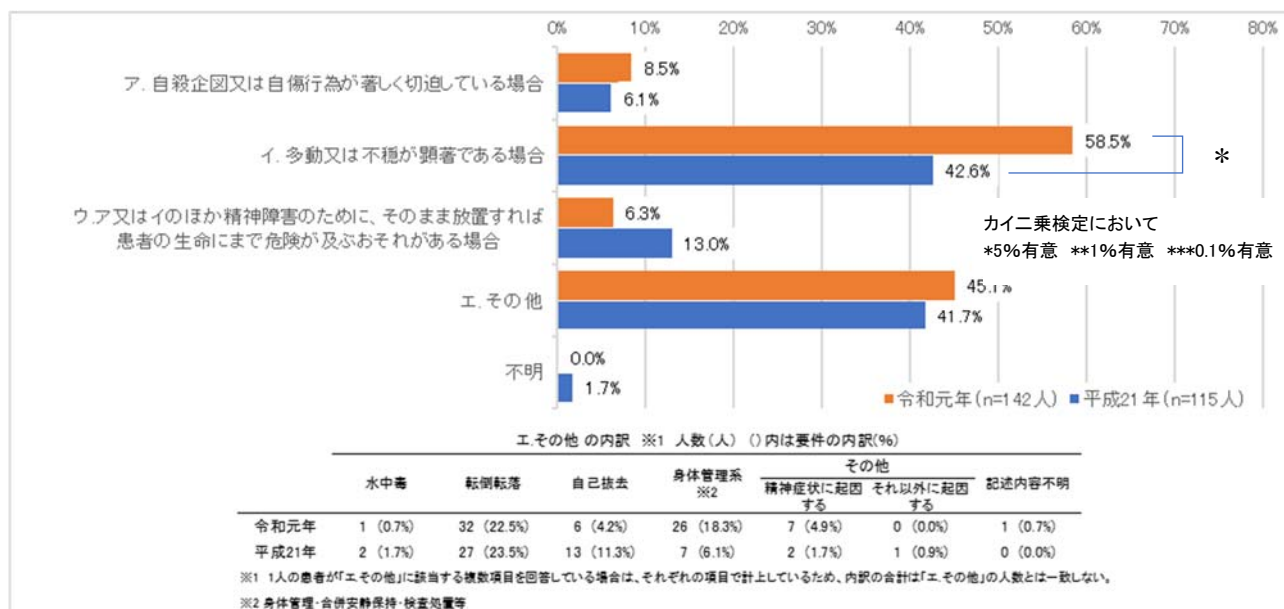


表 22 身体的拘束該当要件の比率に関する有意差検定（調査 1）

身体的拘束該当要件	令和元年（n=142人）		平成21年（n=115人）		χ <sup>2</sup> 二乗検定	
	身体的拘束指示患者	当該該当要件の内訳（%）	身体的拘束指示患者	当該該当要件の内訳（%）	p値	χ <sup>2</sup> 二乗値
ア. 自殺企図又は自傷行為が著しく切迫している場合	12	8.5%	7	6.1%	0.471	0.519
イ. 多動又は不穏が顕著である場合	83	58.5%	49	42.6%	0.012 *	6.383
ウ. ア又はイのほか精神障害のために、そのまま放置すれば患者の生命にまで危険が及ぶおそれがある場合	9	6.3%	15	13.0%	0.066	3.374
エ. その他 ※	64	45.1%	48	41.7%	0.592	0.287

※6月30日0時または12時のいずれかに指示があった患者

\*5%有意 \*\*1%有意 \*\*\*0.1%有意

※「その他」には水中毒、転倒転落、自己抜去、身体管理系（身体管理・合併安静保持・検査処置等）、その他、記述内容不明を含む。

図 28 隔離指示患者の年齢・性別の該当要件の比率の推移（調査 1：65 歳未満男性）（複数回答可）

※サンプル数が少ないため有意差検定はなし

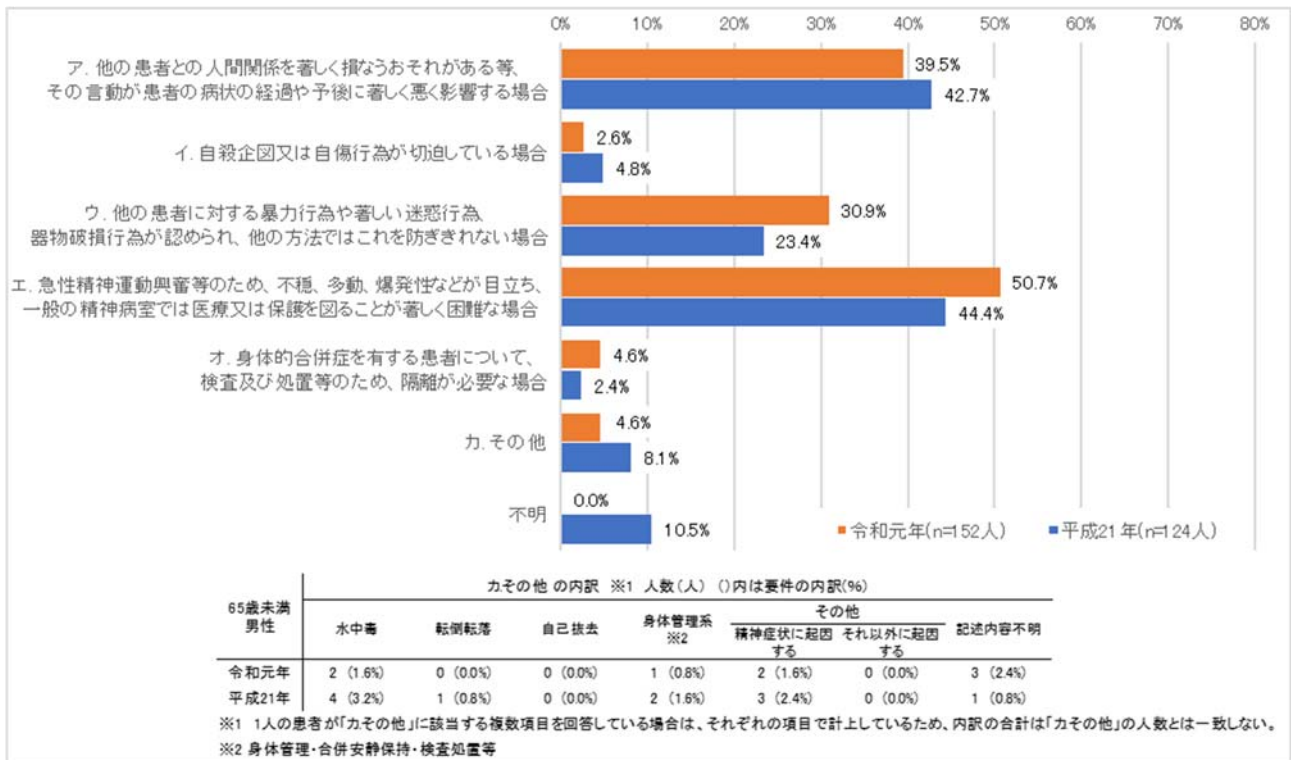


図 29 隔離指示患者の年齢・性別の該当要件の比率の推移（調査 1：65 歳未満女性）（複数回答可）

※サンプル数が少ないため有意差検定はなし

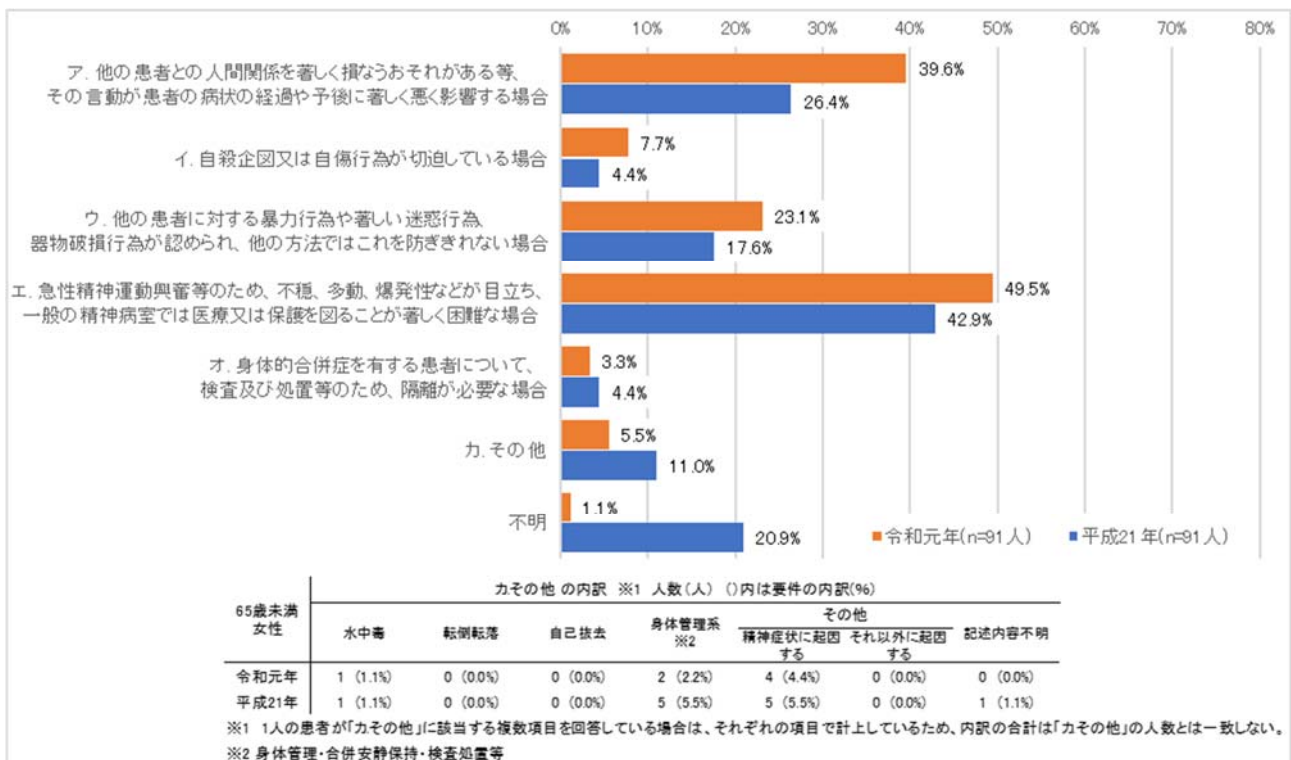




図 30 隔離指示患者の年齢・性別の該当要件の比率の推移（調査 1：65 歳以上男性）（複数回答可）

※サンプル数が少ないため有意差検定はなし

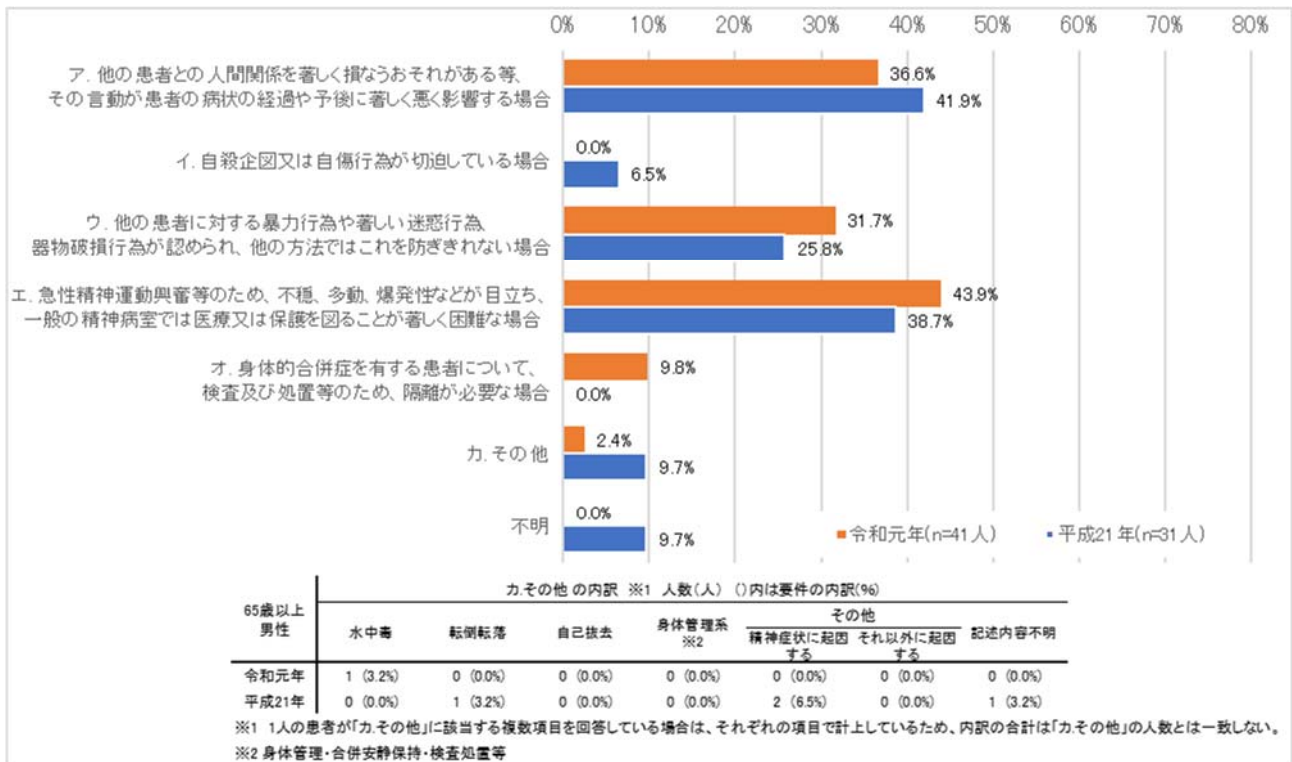


図 31 隔離指示患者の年齢・性別の該当要件の比率の推移（調査 1：65 歳以上女性）（複数回答可）

※サンプル数が少ないため有意差検定はなし

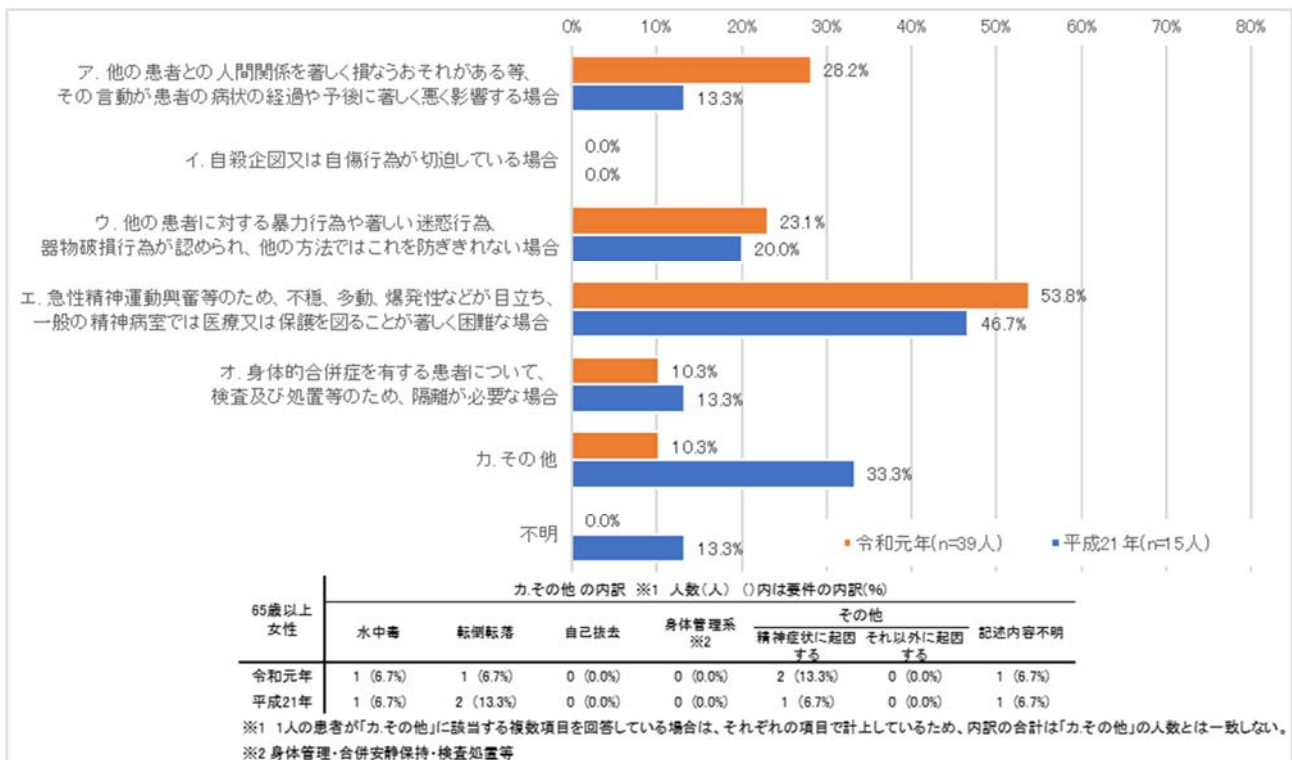


図 32 身体的拘束指示患者の年齢・性別の該当要件の比率の推移（調査1：65歳未満男性）（複数回答可）

※サンプル数が少ないため有意差検定はなし

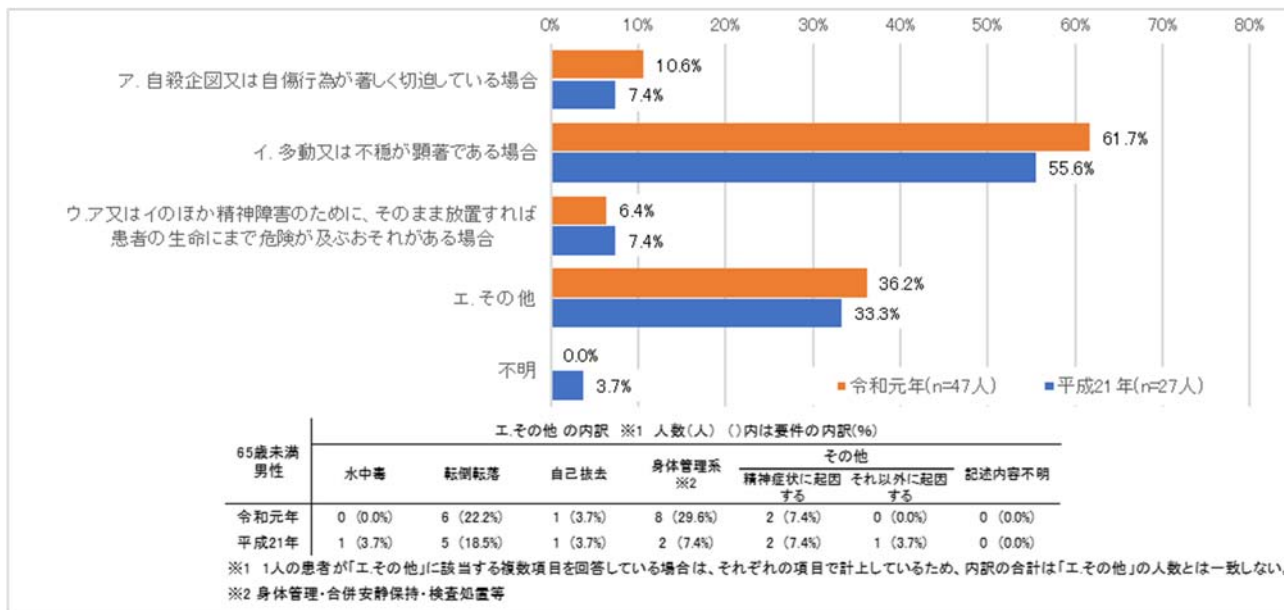


図 33 身体的拘束指示患者の年齢・性別の該当要件の比率の推移（調査1：65歳未満女性）（複数回答可）

※サンプル数が少ないため有意差検定はなし

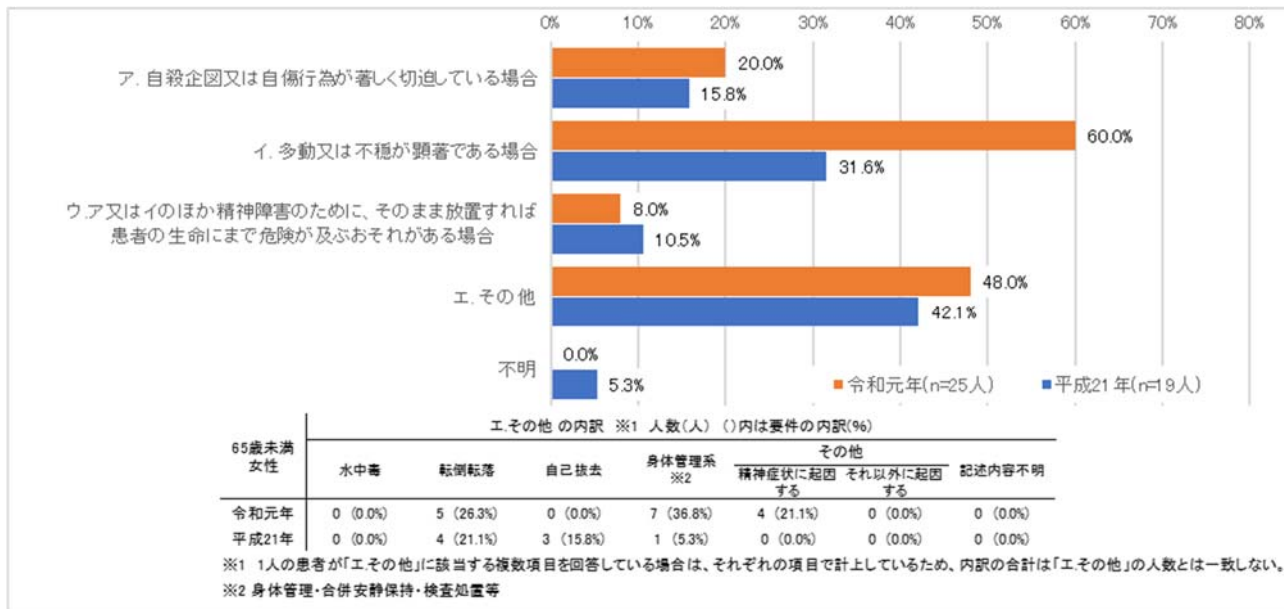


図 34 身体的拘束指示患者の年齢・性別の該当要件の比率の推移（調査1：65歳以上男性）（複数回答可）

※サンプル数が少ないため有意差検定はなし

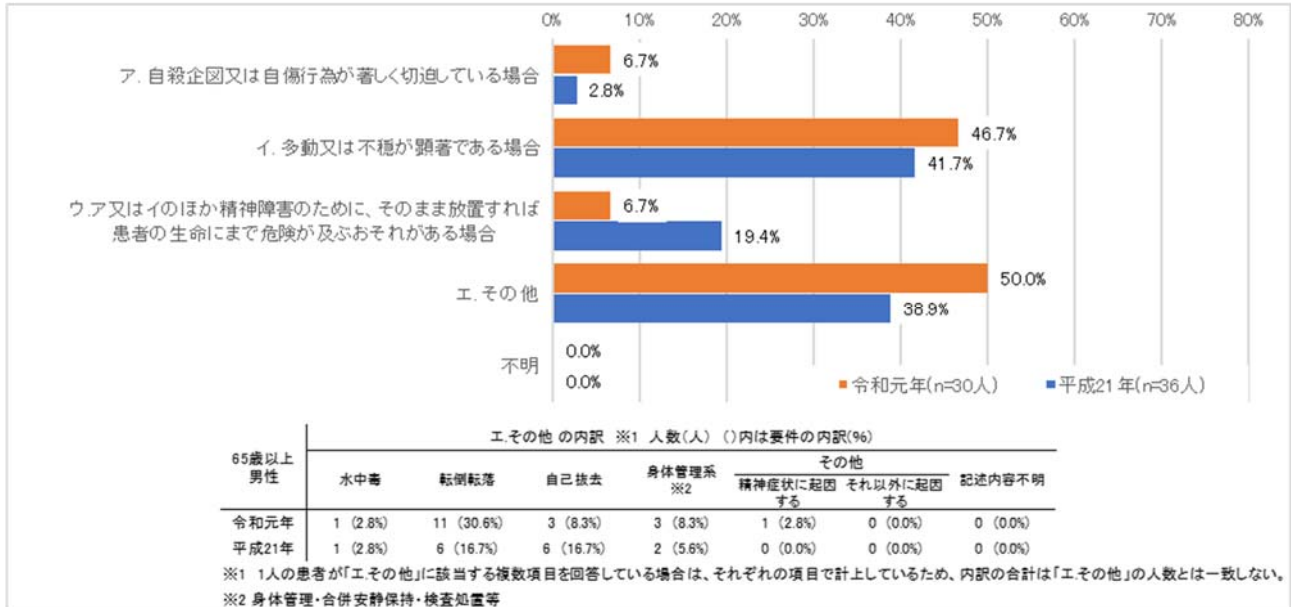


図 35 身体的拘束指示患者の年齢・性別の該当要件の比率の推移（調査1：65歳以上女性）（複数回答可）

※サンプル数が少ないため有意差検定はなし

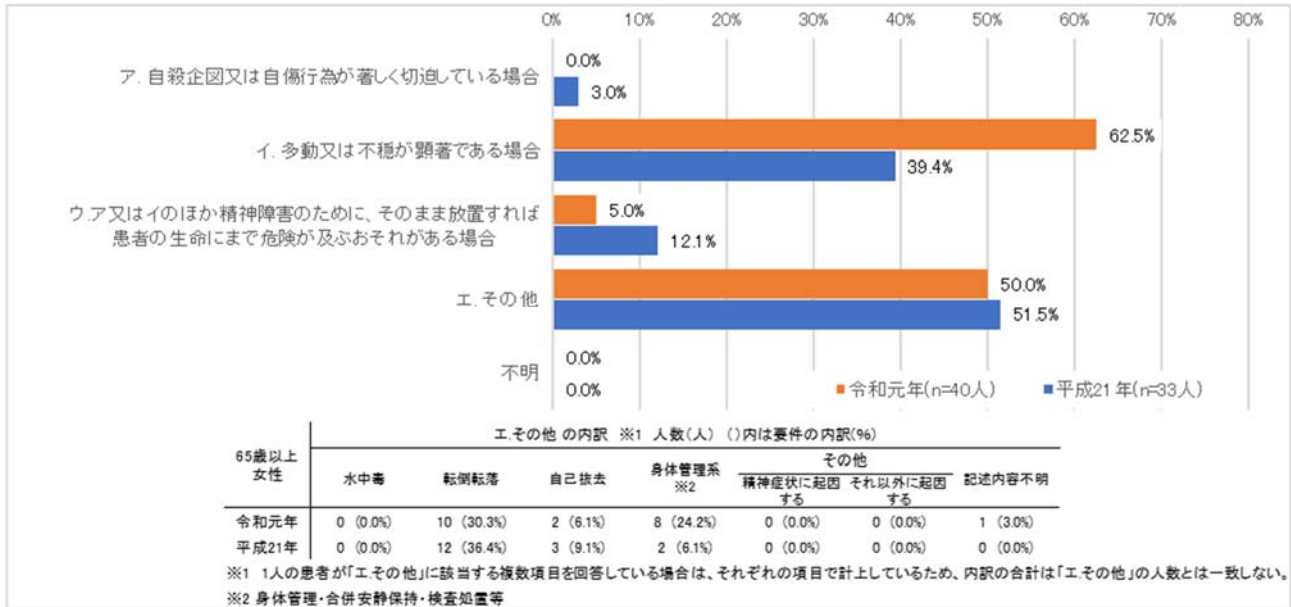


図 36 隔離指示が解除された患者の、当該エピソードにおける隔離指示期間の比率の推移（調査 1）

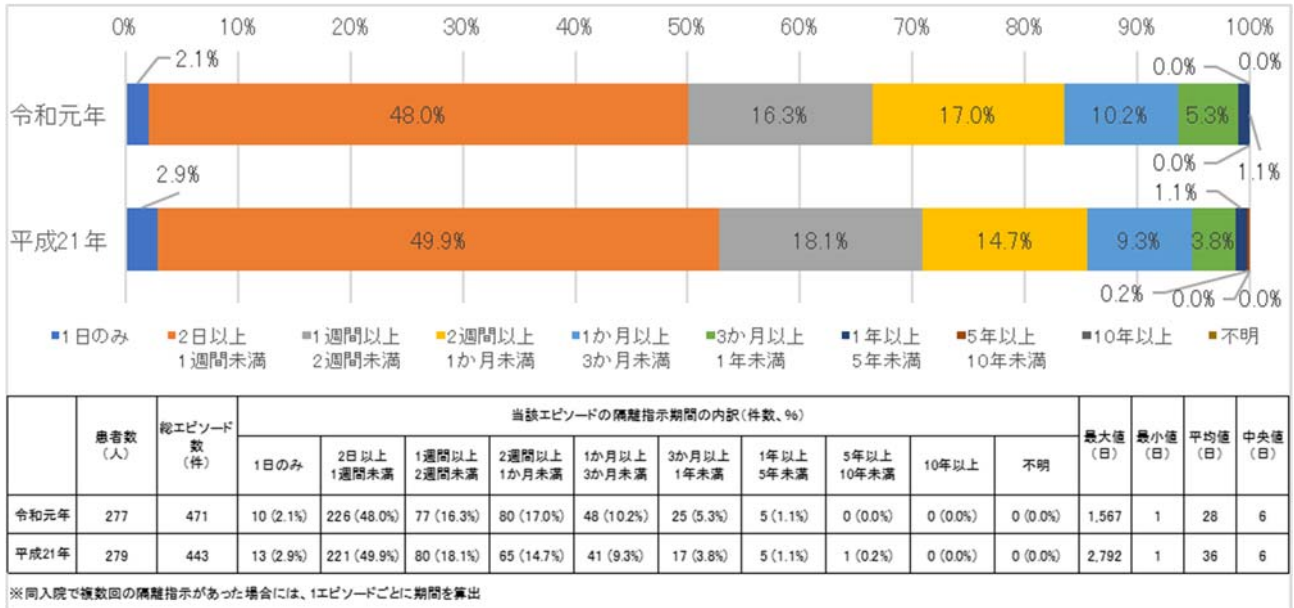


表 23 隔離指示期間の比率に関する有意差検定（調査 1）

隔離指示期間※	令和元年 (n=471 (件))		平成21年 (n=443 (件))		χ 二乗検定	
	エピソード数 (件)	当該日数の比率 (%)	エピソード数 (件)	当該日数の比率 (%)	p値	χ 二乗値
1日のみ	10	2.1%	13	2.9%	0.434	0.613
2日以上1週間未満	226	48.0%	221	49.9%	0.565	0.331
1週間以上2週間未満	77	16.3%	80	18.1%	0.493	0.469
2週間以上1か月未満	80	17.0%	65	14.7%	0.339	0.915
1か月以上	78	16.6%	64	14.4%	0.378	0.777
合計	471	100.0%	443	100.0%	-	-

※6月に精神科病棟で隔離指示が解除された患者の、当該エピソードにおける隔離指示期間 (不明は除く) \*5%有意 \*\*1%有意 \*\*\*0.1%有意

図 37 身体的拘束指示が解除された患者の、当該エピソードにおける身体的拘束指示期間の比率の推移（調査 1）

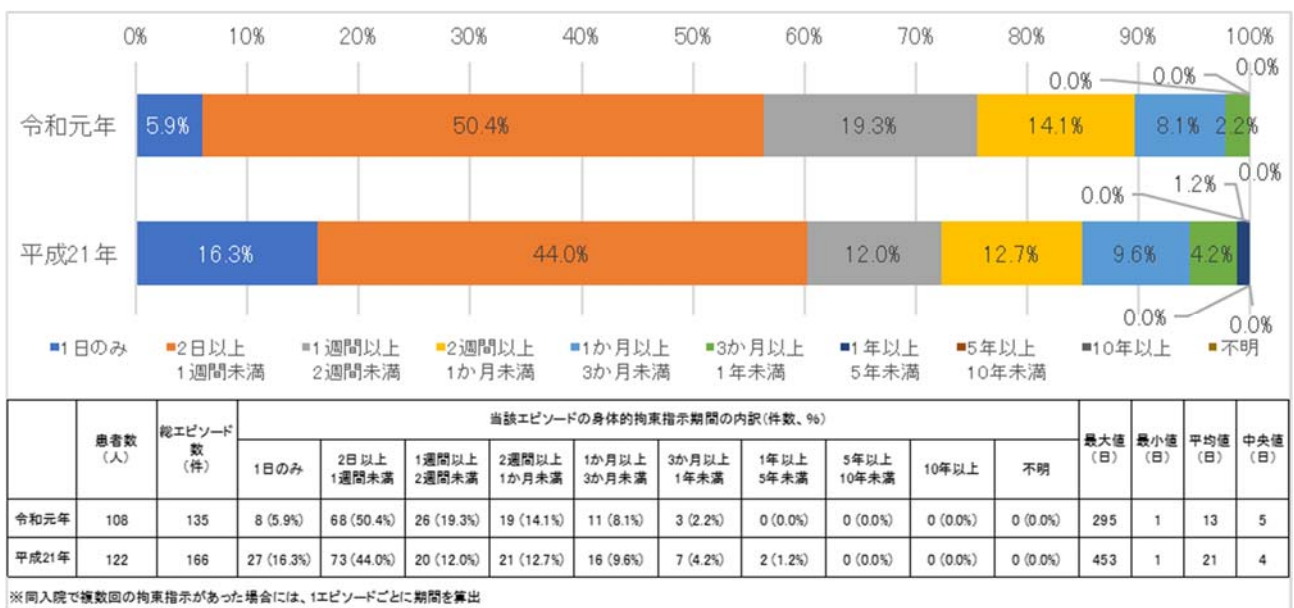


表 24 身体的拘束指示期間の比率に関する有意差検定（調査 1）

身体的拘束指示期間※	令和元年 (n=135 (件))		平成21年 (n=166 (件))		χ <sup>2</sup> 乗検定	
	エピソード数 (件)	当該日数の比率 (%)	エピソード数 (件)	当該日数の比率 (%)	p値	χ <sup>2</sup> 乗値
1日のみ	8	5.9%	27	16.3%	0.005 **	7.745
2日以上 1週間未満	68	50.4%	73	44.0%	0.269	1.223
1週間以上 2週間未満	26	19.3%	20	12.0%	0.084	2.990
2週間以上 1か月未満	19	14.1%	21	12.7%	0.717	0.131
1か月以上	14	10.4%	25	15.1%	0.228	1.452

※6月に精神病床で身体的拘束指示が解除された患者の、当該エピソードにおける身体的拘束指示期間（不明は除く） \*5%有意 \*\*1%有意 \*\*\*0.1%有意

表 25 回答者（職種別）

n= 152		
職 種	人数	比率
看護師	81	53.3%
精神保健福祉士	38	25.0%
医師	14	9.2%
事務	9	5.9%
公認心理師(コメディカル長)(役職なし)	2	1.3%
その他(退院後生活環境相談員)	2	1.3%
記載なし	6	3.9%

表 26 回答者（委員会所属の有無）

n= 152		
役 割	人数	比率
行動制限最小化委員長	20	13.2%
行動制限最小化委員	117	77.0%
記載なし	15	9.9%

表 27 隔離・身体的拘束を削減する組織的な取り組み

n=734		
カテゴリー	比率	数
行動制限最小化のためのシステムづくり	12.1%	89
職員の意識改革に向けた働きかけ	6.5%	48
職員への教育・サポート	11.9%	87
他施設の先駆的な取り組みの導入	1.0%	7
行動制限最小化委員会の設置・運用	14.0%	103
基準・計画の策定管理	5.7%	42
データの集約と見える化・管理	7.8%	57
多角的な視点からの検討・評価	17.6%	129
病棟における行動制限緩和に向けた取り組み	18.4%	135
病棟における患者への直接ケア	5.0%	37

表 28 行動制限最小化のためのシステムづくり

n=89		
サブカテゴリー	比率	数
以前からある組織風土の維持	16.9%	15
方針の表明	21.3%	19
組織全体で取り組む具体的な目標設定	5.6%	5
人員配置のマネジメント	4.5%	4
実施手順の複雑化	2.2%	2
組織全体における情報共有するための工夫	2.2%	2
組織全体における行動制限の定例的な検討	10.1%	9
組織全体での検討内容の病棟へのフィードバック	3.4%	3
報告システムの構築	12.4%	11
法的な問題の再発防止にむけた対策	4.5%	4
行動制限最小化委員会の下部組織の設置	6.7%	6
行動制限最小化委員会とは別の実働部会の設置	4.5%	4
行動制限最小化委員会の下部組織の会議の実施	1.1%	1
行動制限最小化委員会とは別の実働部会の実施	1.1%	1
行動制限最小化を担う院内認定看護師制度の創設	1.1%	1
クロザリル導入	1.1%	1
身体固定に変更	1.1%	1

表 29 職員の意識改革に向けた働きかけ

n=48		
サブカテゴリー	比率	数
会議・研修・学習会による行動制限最小化に向けた職員への意識づけ	47.9%	23
行動制限最小化委員会での検討内容を病棟へ周知・徹底	35.4%	17
行動制限最小化委員会での検討内容の病棟へのフィードバック	16.7%	8

表 30 職員への教育・サポート

n=87		
サブカテゴリー	比率	数
教育体制の整備	6.9%	6
職員への教育	34.5%	30
スタッフの心理的サポート	1.1%	1
行動制限について相談できる体制	1.1%	1
院内研修会の実施	48.3%	42
院内の研修内容を周知させるための働きかけ	5.7%	5
院外の研修の機会の活用	1.1%	1
資料の購入	1.1%	1

表 31 他施設の先駆的な取り組みの導入

n=7		
サブカテゴリー	比率	数
他施設からの情報収集	85.7%	6
他施設と情報共有	14.3%	1

表 32 行動制限最小化委員会の設置・運用

n=103		
サブカテゴリー	比率	数
行動制限最小化委員会の設置	9.7%	10
行動制限最小化委員会の実施	35.0%	36
行動制限最小化委員会による検討	46.6%	48
行動制限最小化委員会による評価	6.8%	7
行動制限最小化委員会の見直し	1.9%	2

表 33 基準・計画の策定管理

n=42		
サブカテゴリー	比率	数
基本指針・手順書の策定・整備	59.5%	25
基本指針・手順書の見直し	7.1%	3
評価の判断基準の導入	26.2%	11
評価の判断基準の見直し	2.4%	1
各病棟の実情に合わせた目標管理	4.8%	2

表 34 データの集約と見える化・管理

n=57		
サブカテゴリー	比率	数
院外への行動制限データの情報公開	1.8%	1
データの可視化	8.8%	5
隔離を減らした事例の蓄積	1.8%	1
行動制限最小化委員会で病棟からの報告内容を共有	38.6%	22
行動制限最小化委員会における行動制限の状況を把握するための工夫	49.1%	28

表 35 多角的な視点からの検討・評価

n=129		
サブカテゴリー	比率	数
外部評価システム	2.4%	3
外部評価受審結果を全職員にフィードバック	4.8%	6
データの分析と評価	1.6%	2
安全管理の視点による保護室ラウンドの実施	0.8%	1
行動制限最小化委員会とは別の委員会による評価	0.8%	1
行動制限最小化委員会とは別の委員会からの指導	0.8%	1
行動制限最小化委員会からの指導	4.8%	6
行動制限最小化委員会からの助言	5.6%	7
行動制限最小化委員会によるラウンドの実施	14.3%	18
行動制限最小化委員会の病棟カンファレンスへの参加	2.4%	3
行動制限最小化委員会の下部組織による検討	4.0%	5
行動制限最小化委員会の下部組織によるラウンドの実施	1.6%	2
行動制限最小化委員会とは別の実働部会からの助言	2.4%	3
行動制限最小化委員会とは別の実働部会によるラウンドの実施	3.2%	4
ラウンド時の病棟への助言	2.4%	3
多職種協働	6.3%	8
多職種による事例検討会	1.6%	2
多職種カンファレンスの実施	13.5%	17
多職種カンファレンスによる検討	24.6%	31
多職種カンファレンスによる評価	2.4%	3
患者からの聞き取り	1.6%	2
プライマリー看護師の複数化	0.8%	1

表 36 病棟における行動制限緩和に向けた取り組み

n=135		
サブカテゴリー	比率	数
病棟における情報共有するための工夫	10.4%	14
開放観察を推進する指示	2.2%	3
行動制限を緩和するための計画立案	1.5%	2
定例的な検討機会の確保	20.7%	28
行動制限に関する検討内容	20.7%	28
ツールの使用による検討・評価	5.2%	7
定例的な評価の機会の確保	8.1%	11
行動制限に関する評価内容	1.5%	2
行動制限を緩和するための工夫	27.4%	37
行動制限に係る自主監査	0.7%	1
カンファレンスの見直し	1.5%	2



表 37 病棟における患者への直接ケア

n=37		
サブカテゴリー	比率	数
行動制限中の患者への手厚いケアの提供	13.5%	5
環境調整	32.4%	12
道具の導入	35.1%	13
多飲症についての心理教育	2.7%	1
隔離による早期介入	2.7%	1
カンフォータブルケアの実施	2.7%	1
患者・家族への説明と同意	10.8%	4

表 38 組織全体で隔離・身体的拘束削減に取り組むことになったきっかけ

n= 137					
内 容	比率	数	内 容	比率	数
世論の流れ	4.4%	6	行動制限の指示のみが実施されていないケース	0.7%	1
精神保健福祉法改正	1.5%	2	行動制限最小化を意識した身体的拘束の多さ	0.7%	1
診療報酬の算定	9.5%	13	ケアミックス状態	0.7%	1
外部評価の受審	5.8%	8	精神保健指定医が1名しかいない	0.7%	1
病院の建て替え・病棟開設	4.4%	6	具体的な課題を検討する場の必要性の認識	0.7%	1
医療事故	2.2%	3	行動制限最小化の方策の議論が深まらない状況	0.7%	1
病院の方針	0.7%	1	行動制限最小化基本指針の策定	0.7%	1
新病院長の就任・管理職の交代	1.5%	2	行動制限最小化委員会での決定	0.7%	1
予算がついたこと	0.7%	1	行動制限最小化委員会からの提案	0.7%	1
施設入所が難しくなる	1.5%	2	行動制限最小化委員会の会議	1.5%	2
職員の入職	0.7%	1	行動制限最小化委員会の取り組み	1.5%	2
主治医の交替	0.7%	1	行動制限最小化委員会の簡素化	0.7%	1
精神保健福祉士の配置	0.7%	1	行動制限最小化委員会活動の活発化	0.7%	1
医療安全委員会・師長会議での議論	1.5%	2	行動制限最小化委員会の年度目標	0.7%	1
他院の情報・取り組み・見学	4.4%	6	行動制限最小化委員会メンバーの交代	2.2%	3
他の病院からの医師のアドバイス	0.7%	1	過去の経験	2.2%	3
院内活動	1.5%	2	他病棟の過去の経験	0.7%	1
研修会・講義	2.2%	3	スタッフの疲弊	1.5%	2
医師・看護師・スタッフからの意見	4.4%	6	現場のスタッフの多忙・負担	1.5%	2
歴代の看護部長の考え	0.7%	1	情報共有の不備	1.5%	2
職員・看護部長の思い	3.6%	5	行動制限者の現状が見えない状況	0.7%	1
病棟看護師の考え	0.7%	1	記録の不備	2.2%	3
病棟師長からの依頼	0.7%	1	隔離・拘束の解除判断の基準の統一性の欠如	1.5%	2
職員の疑問	0.7%	1	入院患者のADL低下防止	0.7%	1
看護師からの提案	0.7%	1	患者の接遇	0.7%	1
急性期患者の多さ	0.7%	1	厚労科研費研究への協力	0.7%	1
長期行動制限者の多さ	1.5%	2	効率性をあげる	0.7%	1
行動制限者の多さ	2.9%	4	家族への説明不足	0.7%	1
認知症患者の増加	0.7%	1	個別の事例検討を行っていない。	0.7%	1
長期行動制限者の増加	1.5%	2	肺塞栓予防の取り組み	0.7%	1
隔離室を必要な患者の増加	0.7%	1	布おむつにおける指摘	0.7%	1
行動制限者の増加(認知症・転倒転落予防)	2.2%	3	看護師個人の目標管理	0.7%	1
行動制限(隔離室)の長期化	4.4%	6	行動制限集計表が活用されていない	0.7%	1
転棟・転落予防のための行動制限を行う傾向	0.7%	1	不明	3.6%	5
漠然と隔離が継続されるケース	0.7%	1	特になし	5.8%	8

表 39 隔離・身体的拘束を削減する組織的な取り組みのキーパーソン

n= 136

内容	比率	数	内容	比率	数
行動制限最小化委員会	21.3%	29	医師	5.1%	7
行動制限最小化委員会委員長	5.1%	7	精神保健指定医	1.5%	2
行動制限最小化委員会委員長(病院長)	4.4%	6	看護部長・総看護師長	9.6%	13
行動制限最小化委員会委員長(副院長)	2.2%	3	看護副部長	2.2%	3
行動制限最小化委員会委員長(診療部長)	1.5%	2	病棟看護師長	16.9%	23
行動制限最小化委員会委員長(精神科科長)	0.7%	1	病棟科長	2.2%	3
行動制限最小化委員会委員長(精神保健指定医)	0.7%	1	病棟看護主任・副師長	3.7%	5
行動制限最小化委員会委員長(医師)	0.7%	1	看護師・病棟スタッフ	5.1%	7
行動制限最小化委員会委員長(看護師長)	1.5%	2	専門看護師	0.7%	1
行動制限最小化委員会委員長(看護師)	0.7%	1	認定看護師	5.1%	7
行動制限最小化委員会委員(副院長)	0.7%	1	看護師長補佐会	0.7%	1
行動制限最小化委員会副委員長(看護師)	0.7%	1	ベッドコントロール委員会	0.7%	1
行動制限最小化委員会事務局(副看護部長)	0.7%	1	病棟機能評価準備チーム	0.7%	1
病院長	11.0%	15	各職種の長	0.7%	1
理事長	0.7%	1	看護研究担当	0.7%	1
副院長	0.7%	1	看護部・看護部門教育担当者	2.9%	4
教授	0.7%	1	精神保健福祉士	2.2%	3
精神科部長	2.2%	3	リスクマネージャー	0.7%	1
医局長	0.7%	1	不明	12.5%	17
診療科長	0.7%	1	特になし	0.7%	1
病棟医長・医長	2.2%	3			

\* 複数記載の中から「中心」「リーダーシップ」と書かれている人を抽出

\* 管理職ではない行動制限最小化委員について記載されているものは「行動制限最小化委員会」とする。

\* 行動制限最小化委員会の「委員長」「副委員長」「事務局」は、管理職が担当しているため別に記載した。

令和元年度厚生労働行政推進調査事業費補助金

(障害者政策総合研究事業)

医療計画、障害福祉計画の効果的なモニタリング体制の構築のための研究

分担研究報告書

届け出病棟ごとの客観的で検証可能な重症度等の把握

研究分担者 米田 博 (大阪医科大学医学部総合医学講座神経精神医学教室 教授)

研究要旨

現在の精神科入院医療は、2010年からのGAFの導入以後「患者の重症度に応じて相応の診療報酬が支払われる」という前提に基づいているにも関わらず、現状の重症度指標はGAFや入院形態など、病院や医師が操作できる指標となっている。そのため、一般医療のように、疾患名・合併症の有無・術後様態変化・看護必要度等をもとに重症度に関する客観的な評価方法が取り入れられておらず、精密な医療従事者需給予測ができないなどの課題がある。

本研究では限られた医療費が適切な形で医療機関に分配され、精神医療現場における重症度の実態をより客観的に反映させるために、精神科領域における重症度の「指標」はもとより「定義」自体を見直し、客観性・妥当性・計測容易性・検証可能性等を考慮したうえで、医師だけでなく看護・介護等も含めた重症度評価の指標策定を目的とした。

本年度は計4回の班会議を行い、有識者から様々な意見をいただき、一般科における重症度・医療・看護必要度をふまえたうえで精神科独自の重症度指標案の策定に取り組んできた。今後、適切な医療資源の分配のために、策定した指標案の客観性・妥当性・計測容易性・検証可能性などを臨床研究にて実証することとし、実用性を検討したうえで、それらを踏まえた提言を行っていくことになっている。

【研究協力者】

安西信雄 帝京平成大学大学院 臨床心理学研究科 研究科長・教授

奥村泰之 東京都医学総合研究所 精神行動医学研究分野 主席研究員

大村重成 医療法人緑心会 福岡保養院 理事長・院長

吉川隆博 東海大学 医学部看護学科 教授

杉山直也 公益財団法人復康会 沼津中央病院 院長

藤田潔 医療法人静心会 桶狭間病院藤田こころケアセンター 理事長

宮田量治 地方独立行政法人山梨県立病院機構 山梨県立北病院 院長

村上優 独立行政法人 国立病院機構 さいがた医療センター 院長特任補佐

山之内芳雄 国立精神・神経医療研究センター 精神医療政策研究部 部長

杠岳文 独立行政法人 肥前精神医療センター 院長

岡山達志 国立精神・神経医療研究センター 精神医療政策研究部 科研費研究員

橋本壘 国立精神・神経医療研究センター 精神医療政策研究部 科研費研究員

## A. 研究目的

一般医療においては、疾患名・合併症の有無・術後様態変化・看護必要度等をもとに、重症度がある程度客観評価され、DPCモデルの分岐点や、救急医療の評価等に実用されている。しかし、精神医療においてはそういった公的な指標が存在せず、現在の精神科入院医療は、2010年からのGAFの導入以後「患者の重症度に応じて相応の診療報酬が支払われる」という前提に基づいているにも関わらず、現状の重症度指標はGAFや入院形態など、病院や医師が操作できる指標となっている。そのため、一般医療のように、疾患名・合併症の有無・術後様態変化・看護必要度等をもとに重症度に関する客観的な評価方法が取り入れられておらず、精密な医療従事者需給予測ができないなどの課題がある。また、精密な医療従事者需給予測ができない・DPCモデルが作れないなどの課題があり、診断名のみならず入院直後や退院前などの病期、行動制限有無・薬剤投与方策などの医療的要素に加え、ADL介助負担等も考慮する必要がある。

そこで、本研究では限られた医療費が適切な形で医療機関に分配され、精神医療現場における重症度の実態をより客観的に反映させるために、精神科領域における重症度の「指標」はもとより「定義」自体を見直し、客観性・妥当性・計測容易性・検証可能性等を考慮したうえで、医師だけでなく看護・介護等も含めた重症度評価の指標策定を目的とした。

## B. 研究方法

まず、「精神病床における重症度指標の策定」班を組織した。班員は、日本精神病院協会、精神科救急学会からの推薦者に加え、公立・民間、急性期・慢性期、医師・看護のバランスを考え、選定した。

班会議は計4回行った。第1回班会議では、限られた医療費が適切な形で医療機関に分配され、精神医療現場における重症度の実態をより客観的に反映させるために、重症度の「指標」はもとより重症度の「定義」自体の見直しを行い、重症度指標の前提と方向性の確認を行った。

第2回班会議で精神科重症度指標の「項目」と「指標内容」に関する具体的な案を練った。その際に一般科における重症度、医療・看護必要度を取り入れるという点に関しても議題に挙がった。

第3回班会議では、事前に事務局が作成した、一般科における重症度、医療・看護必要度の作成経緯を調査した資料と精神医療における看護必要度指標策定の取り組みに関する資料を共有したうえで、精神科における運用性や必要性について議論を重ねた。また今後の臨床研究をふまえたうえで「指標内容」についても見直しを行った。

そして、第4回班会議で一般科における重症度、医療・看護必要度項目と精神科独自の重症度指標案を融合して作成した。

今後、作成した重症度指標案に対し、日本精神神経学会をはじめとしたエキスパートや臨床現場から意見を募り、重症度指標案を再編した後に臨床研究を行う予定とし

た。

## C. 研究結果

### 1. 精神科重症度の定義決定と重症度指標の前提・方向性の確認

あらかじめ選定した班員に対しては、精神病床入院患者の重症度を反映する事柄について、着目点や重症な患者像などの意見を依頼し、収集した。

それらをふまえ精神医療における重症度指標として、恣意性・客観性をふまえ「患者にかかる人的コスト」と定義した。ただし、本研究では、各医療機関が重症患者に「適切な医療がなされたか否か」「効果があったか否か」「分配された資源が適切に使用されたか否か」という視点は取り扱わず、あくまで「重症度の定義および指標の見直し」のみに焦点を当てることとした。

重症度指標作成の際の前提としては、容易に判定・カウント・評価が可能であり、検証可能性・実現可能性を重要視すること、指標の方向性としては、急性期・慢性期ともに医療資源の必要性からみた重症度の評価を議論していくこととした。

### 2. 一般科の重症度、医療・看護必要度作成経緯に関する調査（図1）

一般科で使用されている重症度、医療・看護必要度の開発経緯を顧みたところ

1)-6)、1996年に「看護量測定のための方法論に関する研究」が開始され、以降業務量調査のためのタイムスタディや評価者のための研修等を繰り返し行い、評価の妥当性や運用の適切性の検証をしたうえで見直しを頻回に行うなど、綿密な研究を重ね作成

されたことが判明した。ただ、現場から運用が厳しいとの意見があることや現在のC項目である「手術等の医学的状況」は特に検証されていないこと、など問題点も挙げられた。そのため、一般科の重症度、医療・看護必要度項目を精神科の重症度指標として用いることに疑義が生じる可能性があるが、一般科の項目の是非の判断は保留し、今後の臨床研究で検証していくこととした。

3. 我が国の精神医療における重症度、医療・看護必要度に対する取り組み  
我が国の精神医療における重症度、医療・看護必要度指標策定の取り組みを振り返ると、1996年に社団法人日本精神科看護技術協会が「精神科看護度」を検討・作成したが、研究班では恣意性が高く、客観性の担保が十分ではないため、普及しなかったという意見が出された。また、2006年に京都大学附属病院で精神科病棟における看護必要度の活用について報告しているが、「精神科病棟では予防的なかわりを持つことで、逸脱行動はもちろん、抗精神病薬の副作用の出現を未然に防ぐために看護を行うので、実質的に得点されることが少ない」といった点や、「患者とかかわりをもつことで患者の安全が確保されるのだが、看護必要度にはその看護が一切反映されない」といった問題点が挙げられている<sup>7)</sup>。2007年～2009年には厚生労働科学研究の分担研究の一部として、精神病床において身体合併症患者の「看護必要度」の実態調査が行われているが、その報告の中で、精神科病棟での看護必要度の評価基準を開発する際には、精神科に特徴的な治療

に係る看護行為をどう換算するかが検討課題となると指摘している<sup>8)</sup>。直近では2013年に、中嶋・萱間らが精神科入院治療における看護ケア量の測定方法に関する研究を行い、現行の看護必要度とメニンガー患者分類表を比較し、看護必要度をそのまま精神科に導入すると、適切に看護ケア量を評価できないことを示している<sup>9)</sup>。

#### 4. 精神科重症度指標案の検討

精神科独自の項目として、「ケアマネジメントに係る状況」と「入院後の事象」の2項目を策定した。

「ケアマネジメントに係る状況」は当初ケアマネジメントスクリーニングチェックリスト（以下、CMSC）を基に作成した。CMSCとは、2011年に国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所にて伊藤らを中心に発案されたものであり、複数のニーズを持ち、継続的かつ包括的な支援を必要とする人々をスクリーニングする目的で用いられるリストである。言い換えると、入院の長期化を予防する資料として作成された経緯があるので、「入院長期化＝人的コストがかかる」と捉えていいかを判断するため、沼津中央病院の行動制限等最適化データベース eCODO のデータ分析を行い、CMSC 各項目の該当／非該当と支援の発生状況の関係について調べた。結果、CMSC の各項目は予測変数として使用困難であることが判明した（図2）。予測困難だった理由としては CMSC の13項目には治療困難性に関する8項目が含まれており、それらは、精神保健福祉士より精神科医師や看護師に関わる項目であったことが一因と考えられた。また、CMSC は今回の

ような解析を目的に作成されたものではなく、解析条件の設定など手順の課題も考えられ、ICMSS<sup>10)</sup>の有用性や CMSC との類似性を考慮した場合、結果は CMSC の有用性を否定するものではなく、依然有用である可能性もあり、今後より綿密に検討を行う必要がある。さらに本研究では、CMSC 項目すべてを使用しないという結論ではなく、検証可能性を大切に考えながら項目を工夫したうえで、該当患者が入院（評価）時点から約1ヶ月の期間、入院長期化のみならず、人的コストをどれくらい消費したのかを問うタイムスタディを行い、項目指標を策定していく予定とした。

「入院後の事象」に関しては、班員からの意見を中心に作成した。すでに診療報酬で担保されている項目や逆に加算が与えられていない項目の検証を行いつつ、恣意性・客観性の担保（例：“不穏”という状態をどのように担保するか）や文言の定義（例：“観察”の定義をどうするか）に対して議論を重ねた。特に“不穏”という状態に関しては、客観性と検証可能性を十分に考慮する必要があるため、観察方法や人的コストがかかっている状態をどのように担保するかなど検討をしたうえで、“継続的な注意を要する状態”とし、そういった状態を担保する基準を設けた。

以上をふまえ、一般科の重症度、医療・看護必要度項目である「モニタリング及び処置等」「患者の状況等」「手術等の医学的状況」と精神科特有項目である「ケアマネジメントに係る状況」「入院後の事象」を融合し、精神医療における重症度指標の概要を作成した（図3、表1）。

#### D. 考察

本年度の研究において、主に議論の争点となったのが、一般科の重症度・医療・看護必要度が精神科領域でも利活用できるのか、そして人的コストを反映した医療行為とは何なのか、それらの指標案は恣意性が低く、客観性が担保されているのか、ということだった。

“結果”でも述べたように、我が国の精神医療における重症度・医療・看護必要度に対する取り組みでは、恣意性や客観性という観点から課題が見られた。そのため、精神科領域での重症度指標策定を進める上では、客観性・妥当性・計測容易性・検証可能性等を十分に吟味する必要がある。

また、精神科医療現場の実務を担うのは、精神科医師や看護師だけでなく、看護助手や精神保健福祉士、公認心理師、作業療法士、など多岐にわたるため、肉体的だけでなく精神的にも手間がかかる行為等への考慮も求められる。それらをふまえ今後の臨床研究では、エンドポイントを明確にし、策定した項目・指標が客観的・科学的に重症度を示すかどうかを十分に検証する必要があると考えている。

#### E. 結論

本年度は計4回の班会議を行い、有識者から様々な意見をいただき、一般科における重症度・医療・看護必要度をふまえたうえで精神科独自の重症度指標案の策定に取り組んできた。今後、限られた医療費が適切な形で医療機関に分配され、精神医療現場における重症度の実態をより客観的に反

映させるために、策定した指標案の客観性・妥当性・計測容易性・検証可能性などを臨床研究にて実証することとし、実用性を検討したうえで、それらを踏まえた提言を行っていくことになっている。そして、従来の外形基準に代わる、科学的な重症度患者の弁別を可能にし、適切な医療資源が分配されることで、必要とする患者へ、より手厚い医療の提供がなされることを期待したい。

#### G. 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 なし

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし

#### 文献

- 1) 筒井孝子:看護量の測定および推定のための方法論に関する研究—看護業務分類コードの作成について—, 看護管理, 7(12), p.890-900, 1997.
- 2) 平成 11 年度 厚生科学研究費補助金 (厚生科学特別研究事業)  
199900083A 一般急性期病棟における疾患別入院期間別にみた看護行為別看護業務量標準化に関する研究
- 3) 平成 14-16 年度 厚生労働科学研究費補助金 (医療技術総合研究事業)  
200400958B 急性期入院医療におけ

- る医療および看護の集中度を基礎とした患者分類方法に関する研究 H14-16年度 総合研究報告書
- 4) 筒井孝子:看護必要度の看護管理への応用-診療報酬に活用された看護必要度-, 医療文化社, 2008
  - 5) 平成 24 年度 厚生労働科学研究費補助金 (厚生労働科学特別研究事業)  
201205008A 入院患者への看護の必要性を判定するためのアセスメント(看護必要度)項目の妥当性に関する研究
  - 6) 平成 26 年度 厚生労働科学研究費補助金 (政策科学総合研究事業)  
201501014A 入院患者の看護必要度と看護職員配置に関する研究
  - 7) 井上由美子:精神科病棟における活用の実際-具体的な使い方と今後の課題-, 精神科看護 vol35 No.7 p.51-56, 2008
  - 8) 大竹眞裕美ら:身体合併症をもつ精神科入院患者の看護必要度とケア内容の実態調査,福島県立医科大学看護学部紀要 第 15 号 9-21, 2013
  - 9) 中嶋秀明、萱間真美:精神科入院治療における看護ケア量の測定方法に関する研究,精神科看護 vol.40 No.4 p38-48, 2013
  - 10) Kota Suzuki, Sosei Yamaguchi, Yasunari Kawasoe, Kazumi Nayuki, Tsutomu Aoki, Naomi Hasegawa & Chiyo Fujii: Development and evaluation of Intensive Case Management Screening Sheet in the Japanese population. International Journal of Mental Health Systems, volume 13, Article number: 22 (2019)



# 図1：一般科における重症度・看護必要度のプロセス

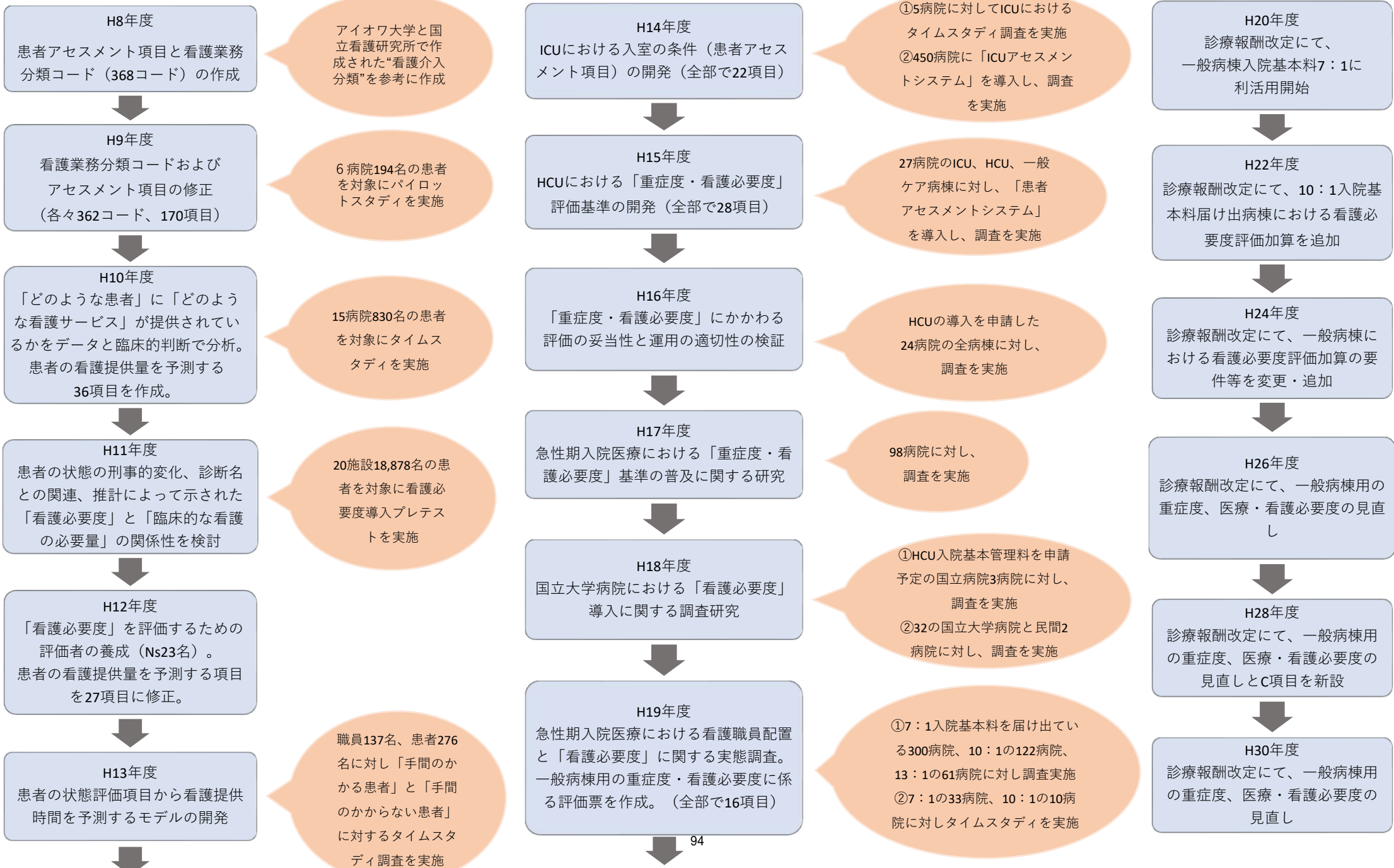
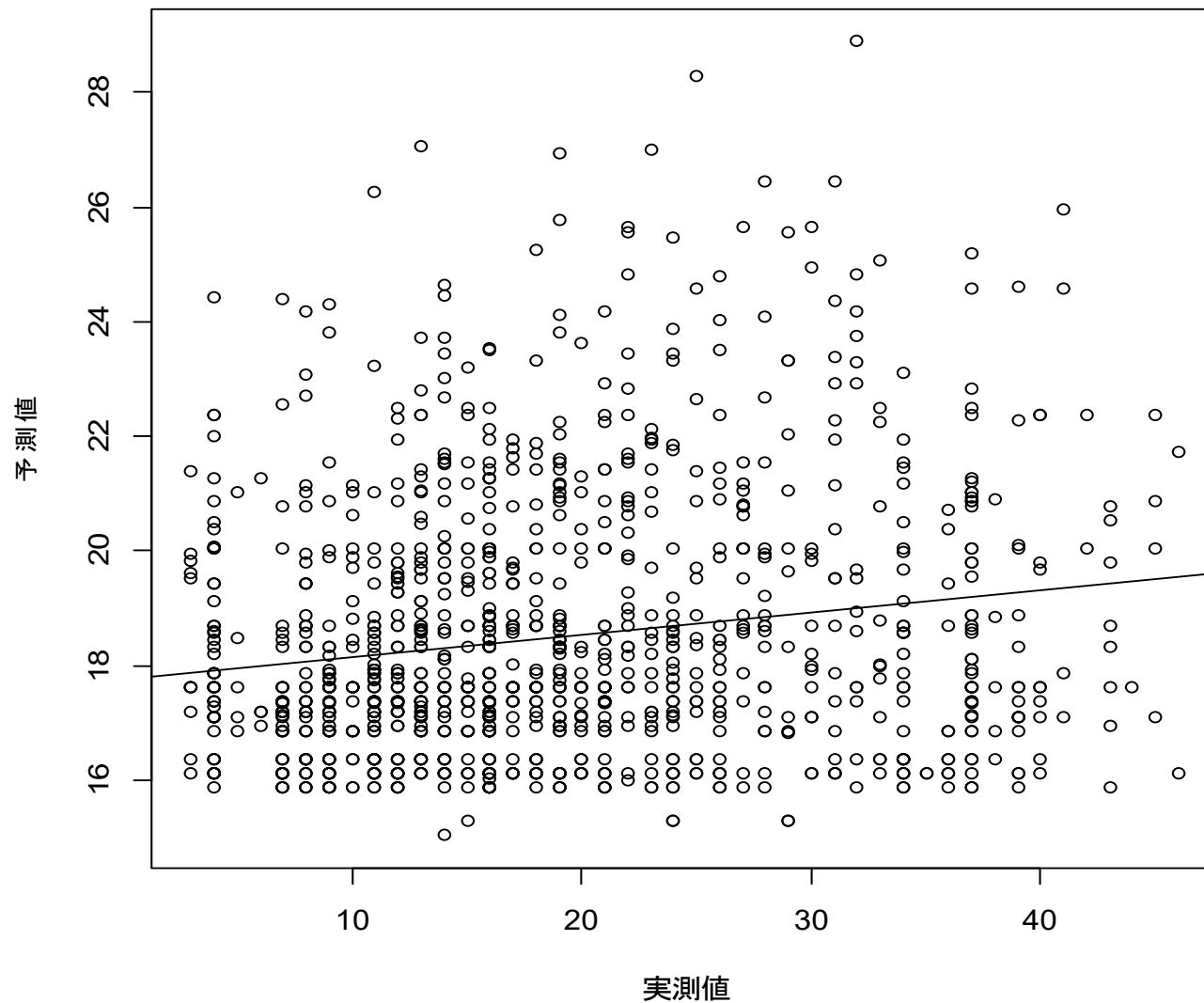


図 2 : 沼津中央病院入院患者におけるCMS C 1 3項目を基にモデル投入し、  
予測されたPSW等の推定時間数の分布図

(線形回帰分析)



(実際のPSW等の関与の推定時間数)

# 図3：精神医療における重症度指標案の概要

## A. モニタリング及び処置等

- H30年度診療報酬における一般科の重症度、医療・看護必要度Ⅱと同じ指標
- 主に看護師の医療資源を消費する項目
- 毎日評価

## B. 患者の状況等

- H30年度診療報酬における一般科の重症度、医療・看護必要度Ⅱと同じ指標
- 主に看護師の医療資源を消費する項目
- 毎日評価

## C. 手術等の医学的状況

- H30年度診療報酬における一般科の重症度、医療・看護必要度Ⅱと同じ指標
- 主に医師の医療資源を消費する項目
- 毎日評価

## D. ケアマネジメントに係る状況

- CMSCをベースに作成
- 主に精神保健福祉士の医療資源を消費する項目
- 入院時or月に1回評価

## E. 入院後の事象

- 独自で作成
- 主に医師・看護師の医療資源を消費する項目
- 毎日評価

一般科の項目を用いることに疑義が生じる可能性があるが、「精神科においてどの程度人的コストを予測するのか」というデータを臨床研究によって取得し、判断の妥当性を検証する。

日本精神神経学会をはじめとしたエキスパートや臨床現場から現状の重症度指標案に対する意見を募り、再編する。

表1：精神医療における重症度指標案（令和2年2月時点版）

※ABC項目の評価頻度は毎日を予定。

A	モニタリング及び処置等	0点	1点	2点
	創傷処置 (①創傷の処置(褥瘡の処置を除く)、 ②褥瘡の処置)	なし	あり	—
	呼吸ケア(喀痰吸引のみの場合を除く)	なし	あり	—
	点滴ライン同時3本以上の管理	なし	あり	—
	心電図モニターの管理	なし	あり	—
	シリンジポンプの管理	なし	あり	—
	輸血や血液製剤の管理	なし	あり	—
	専門的な治療・処置 (①抗悪性腫瘍剤の使用(注射剤のみ)、 ②抗悪性腫瘍剤の内服の管理、 ③麻薬の使用(注射剤のみ)、 ④麻薬の内服、貼付、坐剤の管理、 ⑤放射線治療、⑥免疫抑制剤の管理、 ⑦昇圧剤の使用(注射剤のみ)、 ⑧抗不整脈剤の使用(注射剤のみ)、 ⑨抗血栓塞栓薬の持続点滴の使用、 ⑩ドレナージの管理、 ⑪無菌治療室での治療)	なし	—	あり

B	患者の状況等	0点	1点	2点
	寝返り	できる	何かに捕まればできる	できない
	移乗	介助なし	一部介助	全介助
	口腔清潔	介助なし	介助あり	—
	食事摂取	介助なし	一部介助	全介助
	衣服の着脱	介助なし	一部介助	全介助
	診療・療養上の指示が通じる	はい	いいえ	—
	危険行動	ない	—	ある

C	手術等の医学的状況	0点	1点
	開頭手術（7日間）	なし	あり
	開胸手術（7日間）	なし	あり
	開腹手術（4日間）	なし	あり
	骨の手術（5日間）	なし	あり
	胸腔鏡・腹腔鏡手術（3日間）	なし	あり
	全身麻酔・脊椎麻酔の手術（2日間）	なし	あり
	救命等に係る内科的治療（2日間） （①経皮的血管内治療、②経皮的 心筋焼灼術等の治療、③侵襲 的な消化器治療）	なし	あり

〈以下、精神科に特化した項目〉

※D項目の評価頻度は、入院時 or 月1回を予定。

D	ケアマネジメントに係る状況	0点	1点
	過去6カ月以内の緊急措置・措置入院ないし 5年以内の医療観察法による入院	なし	あり
	今回の入院も含め、過去2年間で、精神病床に3回以上入院 （いわゆる休息・予定入院を除く）	なし	あり
	精神疾患の重複診断がある （主診断十知的障害・アルコール/薬物）	なし	あり
	入院前の3ヶ月以内に 近隣でのトラブルがある 警察介入あるいは保健所介入がある	なし	あり
	入院前の3ヶ月以内に 自院の診療記録等から服薬不遵守が明確である	なし	あり
	入院前の3か月以内に、 外来受診予約の不遵守がある	なし	あり
	評価時点で、退院先が確保されていない	非該当	該当
	同一法人以外の他病院からの転院	なし	あり
	入院時に、家族または支援者が同行しなかった （警察・保健所のみが同行した場合は“該当”を選択）	非該当	該当
	20歳未満	なし	あり
	休日・時間外の入院	なし	あり
	精神病床への初めての入院	なし	あり
	過去1カ月以内に精神保健福祉法に基づいて退院請求を行った	なし	あり

※E 項目の評価頻度は毎日を予定。

E	入院後の事象	0 点	1 点
	非経口静穏化に伴うバイタル管理	なし	あり
	継続的な注意を要する状態*	なし	あり
	精神科複雑病態の治療・処置 ① 悪性症候群、横紋筋融解症の管理 ② 水中毒の管理 ③ リチウム中毒・腎性尿崩症の管理 ④ クロザピンの管理 ⑤ 入院前、治療中断例では、直近の多剤大量併用 （抗精神病薬 3 剤以上かつ CP 換算 1000mg 以上）の是正 ⑥ mECT の管理	なし	あり
	作業療法に参加できない	なし	あり
	参加を促しても退院支援委員会に参加しない	なし	あり

\*“継続的な注意を要する状態”については以下の基準を設ける。

- ①病状増悪や危険行動などにより心身の安全確保を要する状態、ないし、身体合併症の管理を要する状態を指す。  
病状増悪や危険行動の例については欄外を参照のこと。
- ②“継続的な注意を要する”と判断する際には、多職種カンファレンスを行い医師が指示する。  
医師は継続的な注意を要する理由等 について、具体的に記載を行う。
- ③“継続的な注意”を行っている際は、看護職員等により、起床時から消灯時まで少なくとも 1 時間に 1 回以上  
（ただし、夜間においては最低 3 時間ごと）の観察を行い記録されていること。
- ④指示期間中は、毎日多職種カンファレンスを行い医師が指示する。  
医師は継続的な注意を要する理由等について具体的に記載を行う。

欄外：以下のいずれかの不穏（興奮、拒絶、多弁・多訴、困惑、昏迷、頻コール、著しい対人操作性、著しいこだわり、強迫・儀式的行動、不潔行為、逸脱・迷惑行為、離院のおそれ、処置を伴う異食、切迫した希死念慮、自殺行動・自傷行為、威嚇的行動、暴力、サーカディアリズム障害（昼夜逆転等））

# 付録

## 「精神病床における行動制限に関する検討」

### 付録 1

調査票 1～4: 各調査項目の記述統計に関する図表

### 付録 2

調査票 1～3: 医療機関機能別にみた行動制限に関する図表

### 付録 3

調査票 5: 隔離・身体的拘束を削減する組織的な取り組みについて、  
具体的な取り組み内容

### 付録 4

本調査で使用した調査票(調査票 1～5)

# 付録 1

調査票 1～4: 各調査項目の記述統計に関する図表



## □掲載図表（表）の一覧

表番号	集計項目
表 1 (H21 と R1)	隔離・身体的拘束 <b>指示</b> 患者数および在院患者に対する比率
表 2 (H26 と R1)	
表 3 (H21 と R1)	隔離・身体的拘束 <b>実施</b> 患者数および在院患者に対する比率
表 4 (H26 と R1)	
表 5 (H21) 表 6 (R1)	隔離・身体的拘束 <b>指示</b> 患者数と病棟入院料別比率
表 7 (H21) 表 8 (R1)	隔離・身体的拘束 <b>指示</b> 患者の在院患者に占める割合（病棟入院料別）
表 9 (H26) 表 10 (R1)	隔離・身体的拘束 <b>指示</b> 患者数と病棟入院料別比率
表 11 (H26) 表 12 (R1)	隔離・身体的拘束 <b>指示</b> 患者の在院患者に占める割合（病棟入院料別）
表 13 (H21) 表 14 (R1)	隔離・身体的拘束 <b>実施</b> 患者数と病棟入院料別比率
表 15 (H21) 表 16 (R1)	隔離・身体的拘束 <b>実施</b> 患者の在院患者に占める割合（病棟入院料別）
表 17 (H26) 表 18 (R1)	隔離・身体的拘束 <b>実施</b> 患者数と病棟入院料別比率
表 19 (H26) 表 20 (R1)	隔離・身体的拘束 <b>実施</b> 患者の在院患者に占める割合（病棟入院料別）
表 21 (H21) 表 22 (R1)	隔離・身体的拘束 <b>指示</b> 患者数および年齢・性別比率
表 23 (H21) 表 24 (R1)	隔離・身体的拘束 <b>実施</b> 患者数および年齢・性別比率
表 25 (H26) 表 26 (R1)	隔離・身体的拘束 <b>指示</b> 患者数および年齢・性別比率
表 27 (H26) 表 28 (R1)	隔離・身体的拘束 <b>実施</b> 患者数および年齢・性別比率
表 29 (H21) 表 30 (R1)	隔離・身体的拘束 <b>指示</b> 患者数および主診断別比率
表 31 (H21) 表 32 (R1)	隔離・身体的拘束 <b>実施</b> 患者数および主診断別比率
表 33 (H26) 表 34 (R1)	隔離・身体的拘束 <b>指示</b> 患者数および主診断別比率
表 35 (H26) 表 36 (R1)	隔離・身体的拘束 <b>実施</b> 患者数および主診断別比率
表 37 (H21) 表 38 (R1)	隔離・身体的拘束 <b>指示</b> 患者数および入院形態別比率
表 39 (H21) 表 40 (R1)	隔離・身体的拘束 <b>実施</b> 患者数および入院形態別比率
表 41 (H26) 表 42 (R1)	隔離・身体的拘束 <b>指示</b> 患者数および入院形態別比率
表 43 (H26) 表 44 (R1)	隔離・身体的拘束 <b>実施</b> 患者数および入院形態別比率
表 45 (H21 と R1)	隔離・身体的拘束 <b>指示</b> 患者に対して、 <b>実施</b> 患者の割合
表 46 (H26 と R1)	

表番号	集計項目
表 47 (H21) 表 48 (R1)	隔離・身体的拘束 <b>指示</b> 患者に対して、 <b>実施</b> 患者の割合（病棟入院料別）
表 49 (H26) 表 50 (R1)	
表 51 (H21) 表 52 (R1)	隔離・身体的拘束 <b>指示</b> 患者に対して、 <b>実施</b> 患者の割合（年齢・性別）
表 53 (H26) 表 54 (R1)	
表 55 (H21) 表 56 (R1)	隔離・身体的拘束 <b>指示</b> 患者に対して、 <b>実施</b> 患者の割合（主診断別）
表 57 (H26) 表 58 (R1)	
表 59 (H21) 表 60 (R1)	隔離・身体的拘束 <b>指示</b> 患者に対して、 <b>実施</b> 患者の割合（入院形態別）
表 61 (H26) 表 62 (R1)	
表 63 (H21 と R1)	隔離 <b>指示</b> 患者の該当要件の内訳
表 64 (H21 と R1)	隔離 <b>実施</b> 患者の該当要件の内訳
表 65 (H21 と R1)	該当要件別、隔離 <b>指示</b> 患者に対して <b>実施</b> 患者の割合
表 66 (H26 と R1)	隔離 <b>指示</b> 患者の該当要件の内訳
表 67 (H26 と R1)	隔離 <b>実施</b> 患者の該当要件の内訳
表 68 (H26 と R1)	該当要件別、隔離 <b>指示</b> 患者に対して <b>実施</b> 患者の割合
表 69 (H21 と R1)	身体的拘束 <b>指示</b> 患者の該当要件の内訳
表 70 (H21 と R1)	身体的拘束 <b>実施</b> 患者の該当要件の内訳
表 71 (H21 と R1)	該当要件別、身体的拘束 <b>指示</b> 患者に対して <b>実施</b> 患者の割合
表 72 (H26 と R1)	身体的拘束 <b>指示</b> 患者の該当要件の内訳
表 73 (H26 と R1)	身体的拘束 <b>実施</b> 患者の該当要件の内訳
表 74 (H26 と R1)	該当要件別、身体的拘束 <b>指示</b> 患者に対して <b>実施</b> 患者の割合
表 75 (H21) 表 76 (R1)	隔離が <b>指示</b> された患者の該当要件別、年齢性別の比率
表 77 (H21) 表 78 (R1)	隔離が <b>実施</b> された患者の該当要件別、年齢性別の比率
表 79 (H26) 表 80 (R1)	隔離が <b>指示</b> された患者の該当要件別、年齢性別の比率
表 81 (H26) 表 82 (R1)	隔離が <b>実施</b> された患者の該当要件別、年齢性別の比率
表 83 (H21) 表 84 (R1)	身体的拘束が <b>指示</b> された患者の該当要件別、年齢性別の比率
表 85 (H21) 表 86 (R1)	身体的拘束が <b>実施</b> された患者の該当要件別、年齢性別の比率
表 87 (H26) 表 88 (R1)	身体的拘束が <b>指示</b> された患者の該当要件別、年齢性別の比率
表 89 (H26) 表 90 (R1)	身体的拘束が <b>実施</b> された患者の該当要件別、年齢性別の比率

表番号	集計項目
表 91 (H21 と R1)	隔離 <b>指示</b> が解除された患者の、当該エピソードにおける隔離期間の内訳
表 92 (H26 と R1)	
表 93 (H21 と R1)	身体的拘束 <b>指示</b> が解除された患者の、当該エピソードにおける隔離期間の内訳
表 94 (H26 と R1)	
表 95 (H21) 表 96 (R1)	隔離 <b>指示</b> が解除された患者の、当該エピソードにおける隔離期間の内訳 (病棟入院料別)
表 97 (H26) 表 98 (R1)	
表 99 (H21) 表 100 (R1)	身体的拘束 <b>指示</b> が解除された患者の、当該エピソードにおける隔離期間の内訳 (病棟入院料別)
表 101(H26) 表 102 (R1)	
表 103(H21) 表 104 (R1)	隔離 <b>指示</b> が解除された患者の、当該エピソードにおける隔離期間の内訳 (年齢・性別)
表 105(H26) 表 106 (R1)	
表 107(H21) 表 108 (R1)	身体的拘束 <b>指示</b> が解除された患者の、当該エピソードにおける隔離期間の内訳 (年齢・性別)
表 109(H26) 表 110 (R1)	
表 111(H21) 表 112 (R1)	隔離 <b>指示</b> が解除された患者の、当該エピソードにおける隔離期間の内訳 (主診断別)
表 113(H26) 表 114 (R1)	
表 115(H21) 表 116 (R1)	身体的拘束 <b>指示</b> が解除された患者の、当該エピソードにおける隔離期間の内訳 (主診断別)
表 117(H26) 表 118 (R1)	
表 119(H21) 表 120 (R1)	隔離 <b>指示</b> が解除された患者の、当該エピソードにおける隔離期間の内訳 (入院形態別)
表 121(H26) 表 122 (R1)	
表 123(H21) 表 124 (R1)	身体的拘束 <b>指示</b> が解除された患者の、当該エピソードにおける隔離期間の内訳 (入院形態別)
表 125(H26) 表 126 (R1)	
表 127(H21) 表 128 (R1)	隔離 <b>指示</b> が解除された患者の、当該エピソードにおける隔離期間の内訳 (該当要件別)
表 129(H26) 表 130 (R1)	
表 131(H21) 表 132 (R1)	身体的拘束 <b>指示</b> が解除された患者の、当該エピソードにおける隔離期間の内訳 (該当要件別)
表 133(H26) 表 134 (R1)	

## □掲載図表（図）の一覧

図番号	集計項目
図 1 (H21 と R1)	隔離 <b>指示</b> 患者の病棟入院料別比率の推移
図 3 (H26 と R1)	
図 2 (H21 と R1)	身体的拘束 <b>指示</b> 患者の病棟入院料別比率の推移
図 4 (H26 と R1)	
図 5 (H21 と R1)	隔離 <b>実施</b> 患者の病棟入院料別比率の推移
図 7 (H26 と R1)	
図 6 (H21 と R1)	身体的拘束 <b>実施</b> 患者の病棟入院料別比率の推移
図 8 (H26 と R1)	
図 9 (H21 と R1)	隔離 <b>指示</b> 患者の年齢・性別比率の推移
図 11 (H26 と R1)	
図 10 (H21 と R1)	身体的拘束 <b>指示</b> 患者の年齢・性別比率の推移
図 12 (H26 と R1)	
図 13 (H21 と R1)	隔離 <b>実施</b> 患者の年齢・性別比率の推移
図 15 (H26 と R1)	
図 14 (H21 と R1)	身体的拘束 <b>実施</b> 患者の年齢・性別比率の推移
図 16 (H26 と R1)	
図 17 (H21 と R1)	隔離 <b>指示</b> 患者の主診断別比率の推移
図 19 (H26 と R1)	
図 18 (H21 と R1)	身体的拘束 <b>指示</b> 患者の主診断別比率の推移
図 20 (H26 と R1)	
図 21 (H21 と R1)	隔離 <b>実施</b> 患者の主診断別比率の推移
図 23 (H26 と R1)	
図 22 (H21 と R1)	身体的拘束 <b>実施</b> 患者の主診断別比率の推移
図 24 (H26 と R1)	
図 25 (H21 と R1)	隔離 <b>指示</b> 患者の該当要件の内訳の推移
図 27 (H26 と R1)	

図番号	集計項目
図 26 (H21 と R1)	隔離 <b>実施</b> 患者の該当要件の内訳の推
図 28 (H26 と R1)	
図 29 (H21 と R1)	身体的拘束 <b>指示</b> 患者の該当要件の内訳の推移
図 31 (H26 と R1)	
図 30 (H21 と R1)	身体的拘束 <b>実施</b> 患者の該当要件の内訳の推
図 32 (H26 と R1)	
図 33 (H21 と R1)	隔離が <b>指示</b> された患者の該当要件別、年齢性別の比率
図 35 (H26 と R1)	
図 34 (H21 と R1)	隔離が <b>実施</b> された患者の該当要件別、年齢性別の比率
図 36 (H26 と R1)	
図 37 (H21 と R1)	身体的拘束が <b>指示</b> された患者の該当要件別、年齢性別の比率
図 39 (H26 と R1)	
図 38 (H21 と R1)	身体的拘束が <b>実施</b> された患者の該当要件別、年齢性別の比率
図 40 (H26 と R1)	
図 41 (H21 と R1)	6月に精神病床で隔離 <b>指示</b> が解除された患者の、当該エピソードにおける隔離期間の内訳の推移
図 42 (H26 と R1)	
図 43 (H21 と R1)	6月に精神病床で身体的拘束 <b>指示</b> が解除された患者の、当該エピソードにおける身体的拘束期間の内訳の推移
図 44 (H26 と R1)	
図 45 (H21 と R1)	6月に精神病床で隔離 <b>指示</b> が解除された患者の、当該エピソードにおける該当要件の内訳の推移
図 46 (H26 と R1)	
図 47 (H21 と R1)	6月に精神病床で身体的拘束 <b>指示</b> が解除された患者の、当該エピソードにおける該当要件の内訳の推移
図 48 (H26 と R1)	

# □掲載している主な表の概要

## ① 病棟入院料別比率の表

各病棟入院料に該当する患者について、それぞれの病棟入院料ごとの比率（構成比）

※比率については、主診断別、年齢・性別、入院形態別についても掲載

例) 表 5 隔離・身体的拘束指示患者数と病棟入院料別比率（病棟入院料別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）①平成21年

病棟入院料	在院患者 総数 ※6月30日時点の 在院患者	平成21年											
		隔離指示あり			身体的拘束指示あり			隔離指示かつ身体的拘束指示あり				隔離指示および身体的拘束指示なし※	
		0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時		
精神科救急入院料	53 (0.6%)	13 (5.1%)	15 (6.0%)	15 (5.7%)	2 (1.8%)	2 (1.8%)	2 (1.7%)	2 (13.3%)	2 (15.4%)	40 (0.5%)	38 (0.4%)		
精神科救急・合併症入院料	37 (0.4%)	4 (1.6%)	4 (1.6%)	4 (1.5%)	1 (0.9%)	1 (0.9%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	32 (0.4%)	32 (0.4%)		
精神科急性期治療病棟入院料	648 (7.2%)	36 (14.2%)	35 (14.0%)	36 (13.8%)	7 (6.2%)	6 (5.4%)	7 (6.1%)	5 (33.3%)	4 (30.8%)	610 (7.1%)	611 (7.1%)		
精神療養病棟入院料	3,306 (36.8%)	49 (19.3%)	49 (19.6%)	49 (18.8%)	15 (13.3%)	15 (13.5%)	15 (13.0%)	5 (33.3%)	5 (38.5%)	3,247 (37.7%)	3,247 (37.6%)		
認知症病棟入院料	1,046 (11.7%)	7 (2.8%)	7 (2.8%)	7 (2.7%)	18 (15.9%)	20 (18.0%)	20 (17.4%)	1 (6.7%)	1 (7.7%)	1,022 (11.9%)	1,020 (11.8%)		
特殊疾患病棟入院料	236 (2.6%)	1 (0.4%)	1 (0.4%)	1 (0.4%)	3 (2.7%)	3 (2.7%)	3 (2.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	232 (2.7%)	232 (2.7%)		
小児入院医療管理料3	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)		
医療観察法入院対象者入院医学管理料	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)		
10対1入院基本料	31 (0.3%)	7 (2.8%)	5 (2.0%)	7 (2.7%)	2 (1.8%)	2 (1.8%)	2 (1.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	22 (0.3%)	24 (0.3%)		
15対1入院基本料	3,108 (34.6%)	132 (52.0%)	128 (51.2%)	136 (52.1%)	64 (56.6%)	61 (55.0%)	64 (55.7%)	2 (13.3%)	1 (7.7%)	2,914 (33.8%)	2,920 (33.9%)		
18対1入院基本料	156 (1.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	1 (0.9%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	155 (1.8%)	155 (1.8%)		
20対1入院基本料	327 (3.6%)	1 (0.4%)	1 (0.4%)	1 (0.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	326 (3.8%)	326 (3.8%)		
特別入院基本料	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)		
特定機能病院入院基本料(7対1)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)		
特定機能病院入院基本料(10対1)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)		
特定機能病院入院基本料(15対1)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)		
その他	26 (0.3%)	4 (1.6%)	5 (2.0%)	5 (1.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	22 (0.3%)	21 (0.2%)		
合計	8,974 (100.0%)	254 (100.0%)	250 (100.0%)	261 (100.0%)	113 (100.0%)	111 (100.0%)	115 (100.0%)	15 (100.0%)	13 (100.0%)	8,622 (100.0%)	8,626 (100.0%)		

※指示の有無について、不明の回答を含む

② 在院患者に占める割合

病棟入院料ごとにみた隔離・身体的拘束の指示・実施を受けている患者が、在院患者に占める割合

※病棟入院料についてのみ掲載

例) 表 7 隔離・身体的拘束指示患者の在院患者に占める割合 (病棟入院料別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較) ①平成21年

例) 精神療養病棟入院料の在院患者 (3,306人) に占める、隔離指示・身体的拘束指示を各時間帯で受けている患者の割合 (分母が在院患者数)

平成21年												
病棟入院料	在院患者 総数 (人) ※6月30日時 点の在院患者	人数 (人) ( )内は在院患者比率(%)										
		隔離指示あり			身体的拘束指示あり			隔離指示かつ身体的拘束指示あり		隔離指示および身体的拘束指示なし※		
		0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
精神科救急入院料	53	13 (24.5%)	15 (28.3%)	15 (28.3%)	2 (3.8%)	2 (3.8%)	2 (3.8%)	2 (3.8%)	2 (3.8%)	40 (75.5%)	38 (71.7%)	
精神科救急・合併症入院料	37	4 (10.8%)	4 (10.8%)	4 (10.8%)	1 (2.7%)	1 (2.7%)	1 (2.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	32 (86.5%)	32 (86.5%)	
精神科急性期治療病棟入院料	648	36 (5.6%)	35 (5.4%)	36 (5.6%)	7 (1.1%)	6 (0.9%)	7 (1.1%)	5 (0.8%)	4 (0.6%)	610 (94.1%)	611 (94.3%)	
精神療養病棟入院料	3,306	49 (1.5%)	49 (1.5%)	49 (1.5%)	15 (0.5%)	15 (0.5%)	15 (0.5%)	5 (0.2%)	5 (0.2%)	3,247 (98.2%)	3,247 (98.2%)	
認知症病棟入院料	1,046	7 (0.7%)	7 (0.7%)	7 (0.7%)	18 (1.7%)	20 (1.9%)	20 (1.9%)	1 (0.1%)	1 (0.1%)	1,022 (97.7%)	1,020 (97.5%)	
特殊疾患病棟入院料	236	1 (0.4%)	1 (0.4%)	1 (0.4%)	3 (1.3%)	3 (1.3%)	3 (1.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	232 (98.3%)	232 (98.3%)	
小児入院医療管理料3	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	
医療観察法入院対象者入院医学管理料	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	
10対1入院基本料	31	7 (22.6%)	5 (16.1%)	7 (22.6%)	2 (6.5%)	2 (6.5%)	2 (6.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	22 (71.0%)	24 (77.4%)	
15対1入院基本料	3,108	132 (4.2%)	128 (4.1%)	136 (4.4%)	64 (2.1%)	61 (2.0%)	64 (2.1%)	2 (0.1%)	1 (0.0%)	2,914 (93.8%)	2,920 (94.0%)	
18対1入院基本料	156	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.6%)	1 (0.6%)	1 (0.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	155 (99.4%)	155 (99.4%)	
20対1入院基本料	327	1 (0.3%)	1 (0.3%)	1 (0.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	326 (99.7%)	326 (99.7%)	
特別入院基本料	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	
特定機能病院入院基本料(7対1)	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	
特定機能病院入院基本料(10対1)	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	
特定機能病院入院基本料(15対1)	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	
その他	26	4 (15.4%)	5 (19.2%)	5 (19.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	22 (84.6%)	21 (80.8%)	
合計	8,974	254 (2.8%)	250 (2.8%)	261 (2.9%)	113 (1.3%)	111 (1.2%)	115 (1.3%)	15 (0.2%)	13 (0.1%)	8,622 (96.1%)	8,626 (96.1%)	

※指示の有無について、不明の回答を含む

表 1 隔離・身体的拘束指示患者数および在院患者に対する比率（6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）

在院患者 総数（人） （6月30日時点の 在院患者）		人数（人）（）内は在院患者比率（%）											
		隔離指示あり			身体的拘束指示あり			隔離指示かつ身体的拘束指示あり		隔離指示および身体的拘束指示なし ※			
		0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	0時	12時
平成21年	8,974	254 (2.8%)	250 (2.8%)	261 (2.9%)	113 (1.3%)	111 (1.2%)	115 (1.3%)	15 (0.2%)	13 (0.1%)	8,622 (96.1%)	8,626 (96.1%)		
令和元年	8,034	321 (4.0%)	321 (4.0%)	323 (4.0%)	142 (1.8%)	141 (1.8%)	142 (1.8%)	30 (0.4%)	30 (0.4%)	7,601 (94.6%)	7,602 (94.6%)		

※指示の有無について、不明の回答を含む

表 2 隔離・身体的拘束指示患者数および在院患者に対する比率（6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）

在院患者 総数（人） （6月30日時点の 在院患者）		人数（人）（）内は在院患者比率（%）											
		隔離指示あり			身体的拘束指示あり			隔離指示かつ身体的拘束指示あり		隔離指示および身体的拘束指示なし ※			
		0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	0時	12時
平成26年	34,504	1,644 (4.8%)	1,585 (4.6%)	1,684 (4.9%)	1,223 (3.5%)	1,184 (3.4%)	1,242 (3.6%)	196 (0.6%)	192 (0.6%)	31,833 (92.3%)	31,927 (92.5%)		
令和元年	32,903	1,748 (5.3%)	1,725 (5.2%)	1,776 (5.4%)	1,041 (3.2%)	1,015 (3.1%)	1,063 (3.2%)	186 (0.6%)	186 (0.6%)	30,300 (92.1%)	30,349 (92.2%)		

※指示の有無について、不明の回答を含む

表 3 隔離・身体的拘束実施患者数および在院患者に対する比率（6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）

在院患者 総数（人） （6月30日時点の 在院患者）		人数（人）（）内は在院患者比率（%）											
		隔離実施あり			身体的拘束実施あり			隔離実施かつ身体的拘束実施あり		隔離実施および身体的拘束実施なし ※			
		0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	0時	12時
平成21年	8,974	222 (2.5%)	167 (1.9%)	229 (2.6%)	88 (1.0%)	72 (0.8%)	102 (1.1%)	10 (0.1%)	7 (0.1%)	8,674 (96.7%)	8,742 (97.4%)		
令和元年	8,034	273 (3.4%)	229 (2.9%)	279 (3.5%)	116 (1.4%)	69 (0.9%)	118 (1.5%)	15 (0.2%)	11 (0.1%)	7,660 (95.3%)	7,747 (96.4%)		

※実施の有無について、不明の回答を含む

表 4 隔離・身体的拘束実施患者数および在院患者に対する比率（6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）

在院患者 総数（人） （6月30日時点の 在院患者）		人数（人）（）内は在院患者比率（%）											
		隔離実施あり			身体的拘束実施あり			隔離実施かつ身体的拘束実施あり		隔離実施および身体的拘束実施なし ※			
		0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	0時	12時
平成26年	34,504	1,583 (4.6%)	1,194 (3.5%)	1,647 (4.8%)	1,146 (3.3%)	874 (2.5%)	1,199 (3.5%)	178 (0.5%)	148 (0.4%)	31,953 (92.6%)	32,584 (94.4%)		
令和元年	32,903	1,679 (5.1%)	1,281 (3.9%)	1,724 (5.2%)	985 (3.0%)	800 (2.4%)	1,030 (3.1%)	173 (0.5%)	140 (0.4%)	30,412 (92.4%)	30,962 (94.1%)		

※実施の有無について、不明の回答を含む



表 5 隔離・身体的拘束指示患者数と病棟入院料別比率（病棟入院料別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）①平成21年

平成21年											
病棟入院料	人数（人）（）内は入院料別比率（%）										
	在院患者 総数 ※6月30日時点の 在院患者	隔離指示あり			身体的拘束指示あり			隔離指示かつ身体的拘束指示あり		隔離指示および身体的拘束指示なし※	
		0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
精神科救急入院料	53 (0.6%)	13 (5.1%)	15 (6.0%)	15 (5.7%)	2 (1.8%)	2 (1.8%)	2 (1.7%)	2 (13.3%)	2 (15.4%)	40 (0.5%)	38 (0.4%)
精神科救急・合併症入院料	37 (0.4%)	4 (1.6%)	4 (1.6%)	4 (1.5%)	1 (0.9%)	1 (0.9%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	32 (0.4%)	32 (0.4%)
精神科急性期治療病棟入院料	648 (7.2%)	36 (14.2%)	35 (14.0%)	36 (13.8%)	7 (6.2%)	6 (5.4%)	7 (6.1%)	5 (33.3%)	4 (30.8%)	610 (7.1%)	611 (7.1%)
精神療養病棟入院料	3,306 (36.8%)	49 (19.3%)	49 (19.6%)	49 (18.8%)	15 (13.3%)	15 (13.5%)	15 (13.0%)	5 (33.3%)	5 (38.5%)	3,247 (37.7%)	3,247 (37.6%)
認知症病棟入院料	1,046 (11.7%)	7 (2.8%)	7 (2.8%)	7 (2.7%)	18 (15.9%)	20 (18.0%)	20 (17.4%)	1 (6.7%)	1 (7.7%)	1,022 (11.9%)	1,020 (11.8%)
特殊疾患病棟入院料	236 (2.6%)	1 (0.4%)	1 (0.4%)	1 (0.4%)	3 (2.7%)	3 (2.7%)	3 (2.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	232 (2.7%)	232 (2.7%)
小児入院医療管理料3	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
医療観察法入院対象者入院医学管理料	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
10対1入院基本料	31 (0.3%)	7 (2.8%)	5 (2.0%)	7 (2.7%)	2 (1.8%)	2 (1.8%)	2 (1.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	22 (0.3%)	24 (0.3%)
15対1入院基本料	3,108 (34.6%)	132 (52.0%)	128 (51.2%)	136 (52.1%)	64 (56.6%)	61 (55.0%)	64 (55.7%)	2 (13.3%)	1 (7.7%)	2,914 (33.8%)	2,920 (33.9%)
18対1入院基本料	156 (1.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	1 (0.9%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	155 (1.8%)	155 (1.8%)
20対1入院基本料	327 (3.6%)	1 (0.4%)	1 (0.4%)	1 (0.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	326 (3.8%)	326 (3.8%)
特別入院基本料	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
特定機能病院入院基本料(7対1)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
特定機能病院入院基本料(10対1)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
特定機能病院入院基本料(15対1)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
その他	26 (0.3%)	4 (1.6%)	5 (2.0%)	5 (1.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	22 (0.3%)	21 (0.2%)
合計	8,974 (100.0%)	254 (100.0%)	250 (100.0%)	261 (100.0%)	113 (100.0%)	111 (100.0%)	115 (100.0%)	15 (100.0%)	13 (100.0%)	8,622 (100.0%)	8,626 (100.0%)

※指示の有無について、不明の回答を含む

表 6 隔離・身体的拘束指示患者数と病棟入院料別比率（病棟入院料別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）②令和元年

令和元年												
病棟入院料	人数（人）（）内は入院料別比率（%）											
	在院患者 総数 ※6月30日時点の 在院患者	隔離指示あり			身体的拘束指示あり			隔離指示かつ身体的拘束指示あり		隔離指示および身体的拘束指示なし※		
		0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
精神科救急入院料	243 (3.0%)	34 (10.6%)	36 (11.2%)	36 (11.1%)	2 (1.4%)	2 (1.4%)	2 (1.4%)	2 (6.7%)	2 (6.7%)	209 (2.7%)	207 (2.7%)	
精神科救急・合併症入院料	67 (0.8%)	11 (3.4%)	11 (3.4%)	11 (3.4%)	9 (6.3%)	9 (6.4%)	9 (6.3%)	2 (6.7%)	2 (6.7%)	49 (0.6%)	49 (0.6%)	
精神科急性期治療病棟入院料（医師配置加算あり）	409 (5.1%)	45 (14.0%)	45 (14.0%)	45 (13.9%)	15 (10.6%)	15 (10.6%)	15 (10.6%)	13 (43.3%)	13 (43.3%)	362 (4.8%)	362 (4.8%)	
精神科急性期治療病棟入院料（医師配置加算なし）	150 (1.9%)	10 (3.1%)	10 (3.1%)	10 (3.1%)	2 (1.4%)	2 (1.4%)	2 (1.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	138 (1.8%)	138 (1.8%)	
精神療養病棟入院料	2,800 (34.9%)	55 (17.1%)	55 (17.1%)	55 (17.0%)	21 (14.8%)	21 (14.9%)	21 (14.8%)	3 (10.0%)	3 (10.0%)	2,727 (35.9%)	2,727 (35.9%)	
認知症治療病棟入院料	966 (12.0%)	12 (3.7%)	12 (3.7%)	12 (3.7%)	2 (1.4%)	2 (1.4%)	2 (1.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	952 (12.5%)	952 (12.5%)	
特殊疾患病棟入院料	240 (3.0%)	8 (2.5%)	8 (2.5%)	8 (2.5%)	12 (8.5%)	12 (8.5%)	12 (8.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	220 (2.9%)	220 (2.9%)	
地域移行機能強化病棟入院料	59 (0.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	59 (0.8%)	59 (0.8%)	
児童・思春期精神科入院医療管理料	22 (0.3%)	2 (0.6%)	2 (0.6%)	2 (0.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	20 (0.3%)	20 (0.3%)	
医療観察法入院対象者入院医学管理料	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
10対1入院基本料	27 (0.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (2.8%)	4 (2.8%)	4 (2.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	23 (0.3%)	23 (0.3%)	
13対1入院基本料	56 (0.7%)	4 (1.2%)	4 (1.2%)	4 (1.2%)	10 (7.0%)	9 (6.4%)	10 (7.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	42 (0.6%)	43 (0.6%)	
15対1入院基本料	2,565 (31.9%)	136 (42.4%)	134 (41.7%)	136 (42.1%)	62 (43.7%)	62 (44.0%)	62 (43.7%)	9 (30.0%)	9 (30.0%)	2,376 (31.3%)	2,378 (31.3%)	
18対1入院基本料	229 (2.9%)	2 (0.6%)	2 (0.6%)	2 (0.6%)	3 (2.1%)	3 (2.1%)	3 (2.1%)	1 (3.3%)	1 (3.3%)	225 (3.0%)	225 (3.0%)	
20対1入院基本料	201 (2.5%)	2 (0.6%)	2 (0.6%)	2 (0.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	199 (2.6%)	199 (2.6%)	
特別入院基本料	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
特定機能病院入院基本料(7対1)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
特定機能病院入院基本料(10対1)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
特定機能病院入院基本料(13対1)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
特定機能病院入院基本料(15対1)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
その他	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
合計	8,034 (100.0%)	321 (100.0%)	321 (100.0%)	323 (100.0%)	142 (100.0%)	141 (100.0%)	142 (100.0%)	30 (100.0%)	30 (100.0%)	7,601 (100.0%)	7,602 (100.0%)	

※指示の有無について、不明の回答を含む

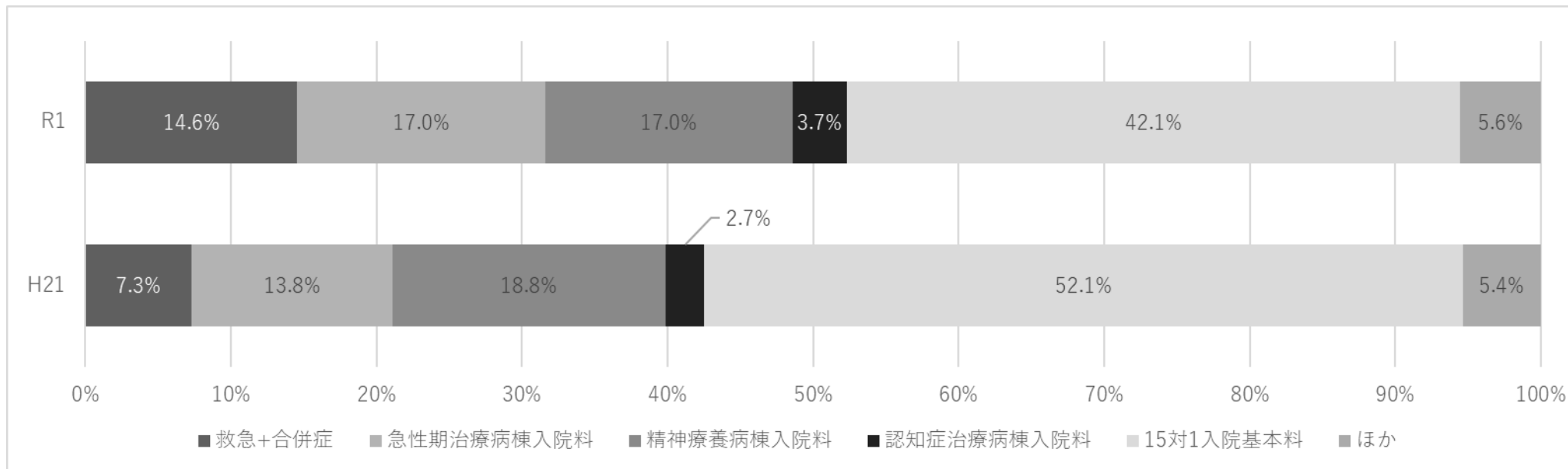


図 1 隔離指示患者の病棟入院料別比率の推移 6月30日0時または12時時点（令和元年と平成21年の比較）

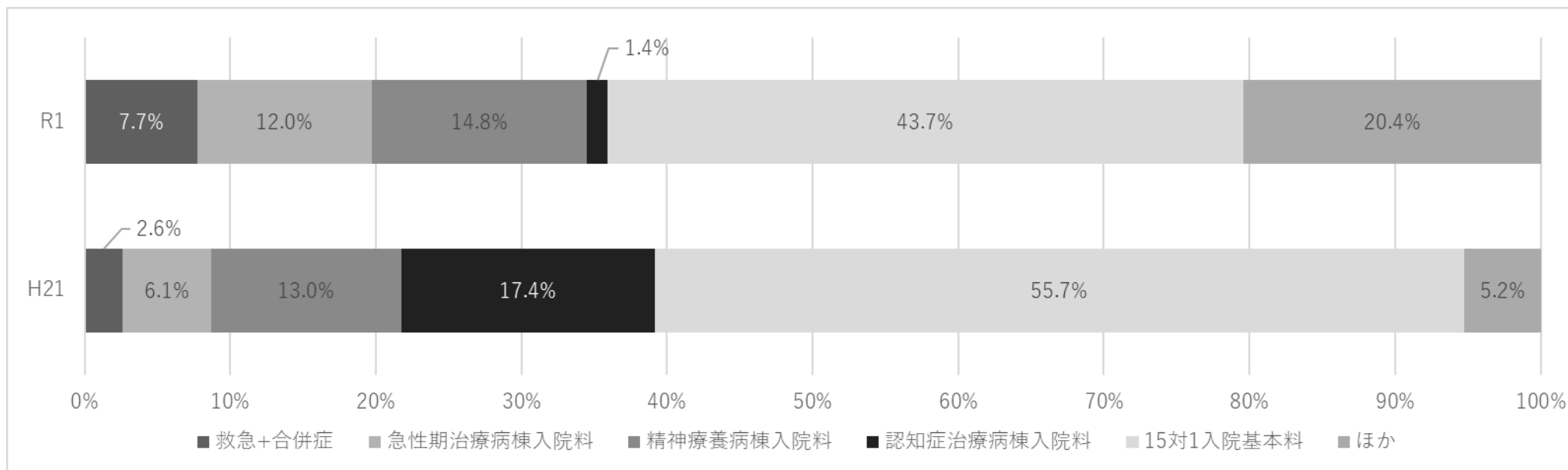


図 2 身体的拘束指示患者の病棟入院料別比率の推移 6月30日0時または12時時点（令和元年と平成21年の比較）

表 7 隔離・身体的拘束指示患者の在院患者に占める割合（病棟入院料別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）①平成21年

平成21年											
病棟入院料	在院患者 総数 (人) ※6月30日時 点の在院患者	人数 (人) (内は在院患者比率%)									
		隔離指示あり			身体的拘束指示あり			隔離指示かつ身体的拘束指示あり		隔離指示および身体的拘束指示なし※	
		0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
精神科救急入院料	53	13 (24.5%)	15 (28.3%)	15 (28.3%)	2 (3.8%)	2 (3.8%)	2 (3.8%)	2 (3.8%)	2 (3.8%)	40 (75.5%)	38 (71.7%)
精神科救急・合併症入院料	37	4 (10.8%)	4 (10.8%)	4 (10.8%)	1 (2.7%)	1 (2.7%)	1 (2.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	32 (86.5%)	32 (86.5%)
精神科急性期治療病棟入院料	648	36 (5.6%)	35 (5.4%)	36 (5.6%)	7 (1.1%)	6 (0.9%)	7 (1.1%)	5 (0.8%)	4 (0.6%)	610 (94.1%)	611 (94.3%)
精神療養病棟入院料	3,306	49 (1.5%)	49 (1.5%)	49 (1.5%)	15 (0.5%)	15 (0.5%)	15 (0.5%)	5 (0.2%)	5 (0.2%)	3,247 (98.2%)	3,247 (98.2%)
認知症病棟入院料	1,046	7 (0.7%)	7 (0.7%)	7 (0.7%)	18 (1.7%)	20 (1.9%)	20 (1.9%)	1 (0.1%)	1 (0.1%)	1,022 (97.7%)	1,020 (97.5%)
特殊疾患病棟入院料	236	1 (0.4%)	1 (0.4%)	1 (0.4%)	3 (1.3%)	3 (1.3%)	3 (1.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	232 (98.3%)	232 (98.3%)
小児入院医療管理料3	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
医療観察法入院対象者入院医学管理料	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
10対1入院基本料	31	7 (22.6%)	5 (16.1%)	7 (22.6%)	2 (6.5%)	2 (6.5%)	2 (6.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	22 (71.0%)	24 (77.4%)
15対1入院基本料	3,108	132 (4.2%)	128 (4.1%)	136 (4.4%)	64 (2.1%)	61 (2.0%)	64 (2.1%)	2 (0.1%)	1 (0.0%)	2,914 (93.8%)	2,920 (94.0%)
18対1入院基本料	156	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.6%)	1 (0.6%)	1 (0.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	155 (99.4%)	155 (99.4%)
20対1入院基本料	327	1 (0.3%)	1 (0.3%)	1 (0.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	326 (99.7%)	326 (99.7%)
特別入院基本料	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
特定機能病院入院基本料(7対1)	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
特定機能病院入院基本料(10対1)	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
特定機能病院入院基本料(15対1)	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
その他	26	4 (15.4%)	5 (19.2%)	5 (19.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	22 (84.6%)	21 (80.8%)
合計	8,974	254 (2.8%)	250 (2.8%)	261 (2.9%)	113 (1.3%)	111 (1.2%)	115 (1.3%)	15 (0.2%)	13 (0.1%)	8,622 (96.1%)	8,626 (96.1%)

※指示の有無について、不明の回答を含む

表 8 隔離・身体的拘束指示患者の在院患者に占める割合（病棟入院料別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）②令和元年

令和元年											
病棟入院料	在院患者 総数 (人) ※6月30日時 点の在院患者	人数(人) (内は在院患者比率(%))									
		隔離指示あり			身体的拘束指示あり			隔離指示かつ身体的拘束指示あり		隔離指示および身体的拘束指示なし※	
		0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
精神科救急入院料	243	34 (14.0%)	36 (14.8%)	36 (14.8%)	2 (0.8%)	2 (0.8%)	2 (0.8%)	2 (0.8%)	2 (0.8%)	209 (86.0%)	207 (85.2%)
精神科救急・合併症入院料	67	11 (16.4%)	11 (16.4%)	11 (16.4%)	9 (13.4%)	9 (13.4%)	9 (13.4%)	2 (3.0%)	2 (3.0%)	49 (73.1%)	49 (73.1%)
精神科急性期治療病棟入院料(医師配置加算あり)	409	45 (11.0%)	45 (11.0%)	45 (11.0%)	15 (3.7%)	15 (3.7%)	15 (3.7%)	13 (3.2%)	13 (3.2%)	362 (88.5%)	362 (88.5%)
精神科急性期治療病棟入院料(医師配置加算なし)	150	10 (6.7%)	10 (6.7%)	10 (6.7%)	2 (1.3%)	2 (1.3%)	2 (1.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	138 (92.0%)	138 (92.0%)
精神療養病棟入院料	2,800	55 (2.0%)	55 (2.0%)	55 (2.0%)	21 (0.8%)	21 (0.8%)	21 (0.8%)	3 (0.1%)	3 (0.1%)	2,727 (97.4%)	2,727 (97.4%)
認知症治療病棟入院料	966	12 (1.2%)	12 (1.2%)	12 (1.2%)	2 (0.2%)	2 (0.2%)	2 (0.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	952 (98.6%)	952 (98.6%)
特殊疾患病棟入院料	240	8 (3.3%)	8 (3.3%)	8 (3.3%)	12 (5.0%)	12 (5.0%)	12 (5.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	220 (91.7%)	220 (91.7%)
地域移行機能強化病棟入院料	59	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	59 (100.0%)	59 (100.0%)
児童・思春期精神科入院医療管理料	22	2 (9.1%)	2 (9.1%)	2 (9.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	20 (90.9%)	20 (90.9%)
医療観察法入院対象者入院医学管理料	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
10対1入院基本料	27	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (14.8%)	4 (14.8%)	4 (14.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	23 (85.2%)	23 (85.2%)
13対1入院基本料	56	4 (7.1%)	4 (7.1%)	4 (7.1%)	10 (17.9%)	9 (16.1%)	10 (17.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	42 (75.0%)	43 (76.8%)
15対1入院基本料	2,565	136 (5.3%)	134 (5.2%)	136 (5.3%)	62 (2.4%)	62 (2.4%)	62 (2.4%)	9 (0.4%)	9 (0.4%)	2,376 (92.6%)	2,378 (92.7%)
18対1入院基本料	229	2 (0.9%)	2 (0.9%)	2 (0.9%)	3 (1.3%)	3 (1.3%)	3 (1.3%)	1 (0.4%)	1 (0.4%)	225 (98.3%)	225 (98.3%)
20対1入院基本料	201	2 (1.0%)	2 (1.0%)	2 (1.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	199 (99.0%)	199 (99.0%)
特別入院基本料	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
特定機能病院入院基本料(7対1)	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
特定機能病院入院基本料(10対1)	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
特定機能病院入院基本料(13対1)	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
特定機能病院入院基本料(15対1)	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
その他	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
合計	8,034	321 (4.0%)	321 (4.0%)	323 (4.0%)	142 (1.8%)	141 (1.8%)	142 (1.8%)	30 (0.4%)	30 (0.4%)	7,601 (94.6%)	7,602 (94.6%)

※指示の有無について、不明の回答を含む

表 9 隔離・身体的拘束指示患者数と病棟入院料別比率（病棟入院料別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）①平成26年

平成26年												
病棟入院料	人数（人）（）内は入院料別比率（%）											
	在院患者 総数 ※6月30日時点の 在院患者	隔離指示あり			身体的拘束指示あり			隔離指示かつ身体的拘束指示あり		隔離指示および身体的拘束指示なし※		
		0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
精神科救急入院料	1,454 (4.2%)	323 (19.6%)	307 (19.4%)	330 (19.6%)	62 (5.1%)	60 (5.1%)	64 (5.2%)	43 (21.9%)	40 (20.8%)	1,112 (3.5%)	1,127 (3.5%)	
精神科救急・合併症入院料	90 (0.3%)	8 (0.5%)	7 (0.4%)	8 (0.5%)	17 (1.4%)	17 (1.4%)	17 (1.4%)	4 (2.0%)	4 (2.1%)	69 (0.2%)	70 (0.2%)	
精神科急性期治療病棟入院料（医師配置加算あり）	989 (2.9%)	74 (4.5%)	69 (4.4%)	76 (4.5%)	17 (1.4%)	16 (1.4%)	17 (1.4%)	2 (1.0%)	2 (1.0%)	900 (2.8%)	906 (2.8%)	
精神科急性期治療病棟入院料（医師配置加算なし）	1,001 (2.9%)	91 (5.5%)	85 (5.4%)	94 (5.6%)	31 (2.5%)	27 (2.3%)	32 (2.6%)	4 (2.0%)	2 (1.0%)	883 (2.8%)	891 (2.8%)	
精神療養病棟入院料	10,914 (31.6%)	308 (18.7%)	308 (19.4%)	320 (19.0%)	249 (20.4%)	238 (20.1%)	250 (20.1%)	35 (17.9%)	35 (18.2%)	10,392 (32.6%)	10,403 (32.6%)	
認知症治療病棟入院料	4,306 (12.5%)	51 (3.1%)	48 (3.0%)	51 (3.0%)	162 (13.2%)	163 (13.8%)	168 (13.5%)	5 (2.6%)	5 (2.6%)	4,098 (12.9%)	4,100 (12.8%)	
特殊疾患病棟入院料	353 (1.0%)	7 (0.4%)	8 (0.5%)	8 (0.5%)	7 (0.6%)	7 (0.6%)	7 (0.6%)	2 (1.0%)	2 (1.0%)	341 (1.1%)	340 (1.1%)	
小児入院医療管理料5	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
児童・思春期精神科入院医療管理料	157 (0.5%)	16 (1.0%)	15 (0.9%)	16 (1.0%)	3 (0.2%)	3 (0.3%)	3 (0.2%)	3 (1.5%)	3 (1.6%)	141 (0.4%)	142 (0.4%)	
医療観察法入院対象者入院医学管理料	202 (0.6%)	2 (0.1%)	2 (0.1%)	2 (0.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	200 (0.6%)	200 (0.6%)	
10対1入院基本料	313 (0.9%)	43 (2.6%)	41 (2.6%)	45 (2.7%)	39 (3.2%)	36 (3.0%)	39 (3.1%)	17 (8.7%)	17 (8.9%)	248 (0.8%)	253 (0.8%)	
13対1入院基本料	671 (1.9%)	54 (3.3%)	54 (3.4%)	56 (3.3%)	49 (4.0%)	49 (4.1%)	50 (4.0%)	14 (7.1%)	15 (7.8%)	582 (1.8%)	583 (1.8%)	
15対1入院基本料	13,638 (39.5%)	659 (40.1%)	633 (39.9%)	670 (39.8%)	567 (46.4%)	543 (45.9%)	570 (45.9%)	64 (32.7%)	64 (33.3%)	12,476 (39.2%)	12,526 (39.2%)	
18対1入院基本料	179 (0.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	179 (0.6%)	179 (0.6%)	
20対1入院基本料	101 (0.3%)	3 (0.2%)	3 (0.2%)	3 (0.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	98 (0.3%)	98 (0.3%)	
特別入院基本料	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
特定機能病院入院基本料(7対1)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
特定機能病院入院基本料(10対1)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
特定機能病院入院基本料(13対1)	35 (0.1%)	3 (0.2%)	3 (0.2%)	3 (0.2%)	3 (0.2%)	3 (0.3%)	3 (0.2%)	3 (1.5%)	3 (1.6%)	32 (0.1%)	32 (0.1%)	
特定機能病院入院基本料(15対1)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
その他	101 (0.3%)	2 (0.1%)	2 (0.1%)	2 (0.1%)	17 (1.4%)	22 (1.9%)	22 (1.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	82 (0.3%)	77 (0.2%)	
合計	34,504 (100.0%)	1,644 (100.0%)	1,585 (100.0%)	1,684 (100.0%)	1,223 (100.0%)	1,184 (100.0%)	1,242 (100.0%)	196 (100.0%)	192 (100.0%)	31,833 (100.0%)	31,927 (100.0%)	

※指示の有無について、不明の回答を含む

表 10 隔離・身体的拘束指示患者数と病棟入院料別比率（病棟入院料別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）②令和元年

令和元年												
病棟入院料	人数（人）（）内は入院料別比率（%）											
	在院患者 総数 ※6月30日時点の 在院患者	隔離指示あり			身体的拘束指示あり			隔離指示かつ身体的拘束指示あり		隔離指示および身体的拘束指示なし※		
		0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
精神科救急入院料	2,080 (6.3%)	411 (23.5%)	408 (23.7%)	417 (23.5%)	68 (6.5%)	70 (6.9%)	71 (6.7%)	43 (23.1%)	44 (23.7%)	1,644 (5.4%)	1,646 (5.4%)	
精神科救急・合併症入院料	80 (0.2%)	9 (0.5%)	9 (0.5%)	9 (0.5%)	9 (0.9%)	9 (0.9%)	9 (0.8%)	2 (1.1%)	2 (1.1%)	64 (0.2%)	64 (0.2%)	
精神科急性期治療病棟入院料（医師配置加算あり）	1,448 (4.4%)	115 (6.6%)	112 (6.5%)	116 (6.5%)	44 (4.2%)	42 (4.1%)	44 (4.1%)	17 (9.1%)	17 (9.1%)	1,306 (4.3%)	1,311 (4.3%)	
精神科急性期治療病棟入院料（医師配置加算なし）	672 (2.0%)	73 (4.2%)	75 (4.3%)	76 (4.3%)	30 (2.9%)	31 (3.1%)	31 (2.9%)	7 (3.8%)	7 (3.8%)	576 (1.9%)	573 (1.9%)	
精神療養病棟入院料	9,331 (28.4%)	315 (18.0%)	316 (18.3%)	320 (18.0%)	216 (20.7%)	198 (19.5%)	218 (20.5%)	36 (19.4%)	36 (19.4%)	8,836 (29.2%)	8,853 (29.2%)	
認知症治療病棟入院料	4,552 (13.8%)	46 (2.6%)	44 (2.6%)	46 (2.6%)	122 (11.7%)	116 (11.4%)	126 (11.9%)	4 (2.2%)	4 (2.2%)	4,388 (14.5%)	4,396 (14.5%)	
特殊疾患病棟入院料	389 (1.2%)	5 (0.3%)	5 (0.3%)	5 (0.3%)	5 (0.5%)	5 (0.5%)	5 (0.5%)	2 (1.1%)	2 (1.1%)	381 (1.3%)	381 (1.3%)	
地域移行機能強化病棟入院料	340 (1.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	340 (1.1%)	340 (1.1%)	
児童・思春期精神科入院医療管理料	205 (0.6%)	21 (1.2%)	20 (1.2%)	21 (1.2%)	3 (0.3%)	3 (0.3%)	3 (0.3%)	3 (1.6%)	3 (1.6%)	184 (0.6%)	185 (0.6%)	
医療観察法入院対象者入院医学管理料	183 (0.6%)	3 (0.2%)	3 (0.2%)	3 (0.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	180 (0.6%)	180 (0.6%)	
10対1入院基本料	272 (0.8%)	16 (0.9%)	17 (1.0%)	17 (1.0%)	13 (1.2%)	15 (1.5%)	15 (1.4%)	3 (1.6%)	3 (1.6%)	246 (0.8%)	243 (0.8%)	
13対1入院基本料	606 (1.8%)	48 (2.7%)	48 (2.8%)	48 (2.7%)	44 (4.2%)	45 (4.4%)	45 (4.2%)	9 (4.8%)	9 (4.8%)	523 (1.7%)	522 (1.7%)	
15対1入院基本料	12,465 (37.9%)	680 (38.9%)	660 (38.3%)	689 (38.8%)	465 (44.7%)	456 (44.9%)	469 (44.1%)	60 (32.3%)	58 (31.2%)	11,380 (37.6%)	11,407 (37.6%)	
18対1入院基本料	55 (0.2%)	1 (0.1%)	0 (0.0%)	1 (0.1%)	2 (0.2%)	0 (0.0%)	2 (0.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	52 (0.2%)	55 (0.2%)	
20対1入院基本料	90 (0.3%)	3 (0.2%)	3 (0.2%)	3 (0.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	87 (0.3%)	87 (0.3%)	
特別入院基本料	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
特定機能病院入院基本料(7対1)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
特定機能病院入院基本料(10対1)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
特定機能病院入院基本料(13対1)	31 (0.1%)	2 (0.1%)	2 (0.1%)	2 (0.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	29 (0.1%)	29 (0.1%)	
特定機能病院入院基本料(15対1)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
その他	104 (0.3%)	0 (0.0%)	3 (0.2%)	3 (0.2%)	20 (1.9%)	25 (2.5%)	25 (2.4%)	0 (0.0%)	1 (0.5%)	84 (0.3%)	77 (0.3%)	
合計	32,903 (100.0%)	1,748 (100.0%)	1,725 (100.0%)	1,776 (100.0%)	1,041 (100.0%)	1,015 (100.0%)	1,063 (100.0%)	186 (100.0%)	186 (100.0%)	30,300 (100.0%)	30,349 (100.0%)	

※指示の有無について、不明の回答を含む

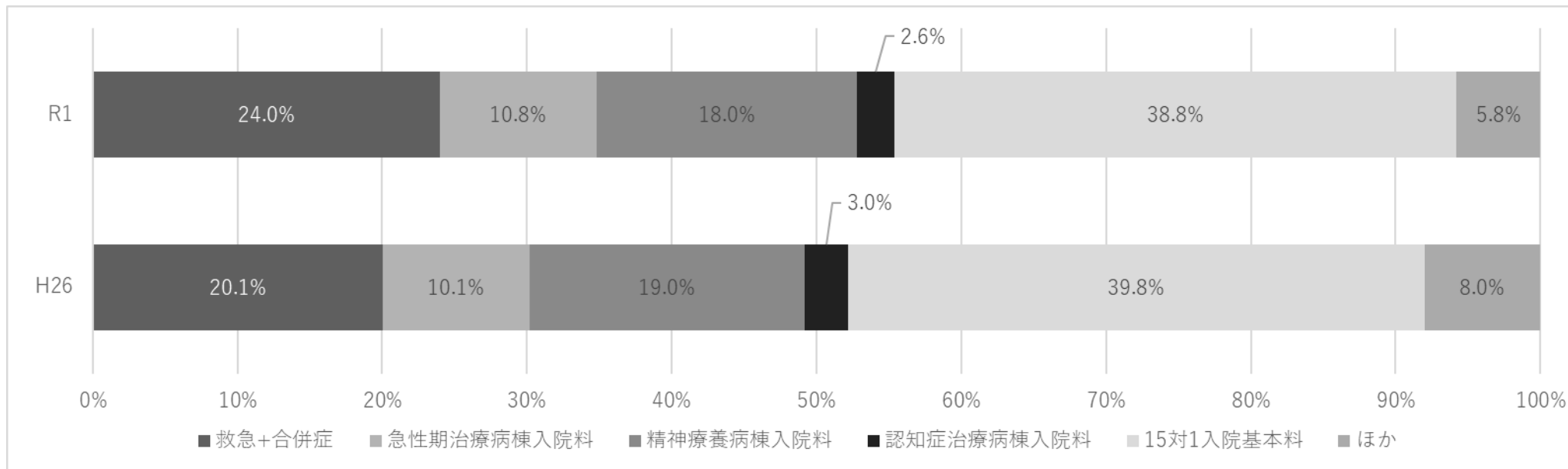


図 3 隔離指示患者の病棟入院料別比率の推移 6月30日0時または12時時点（令和元年と平成26年の比較）

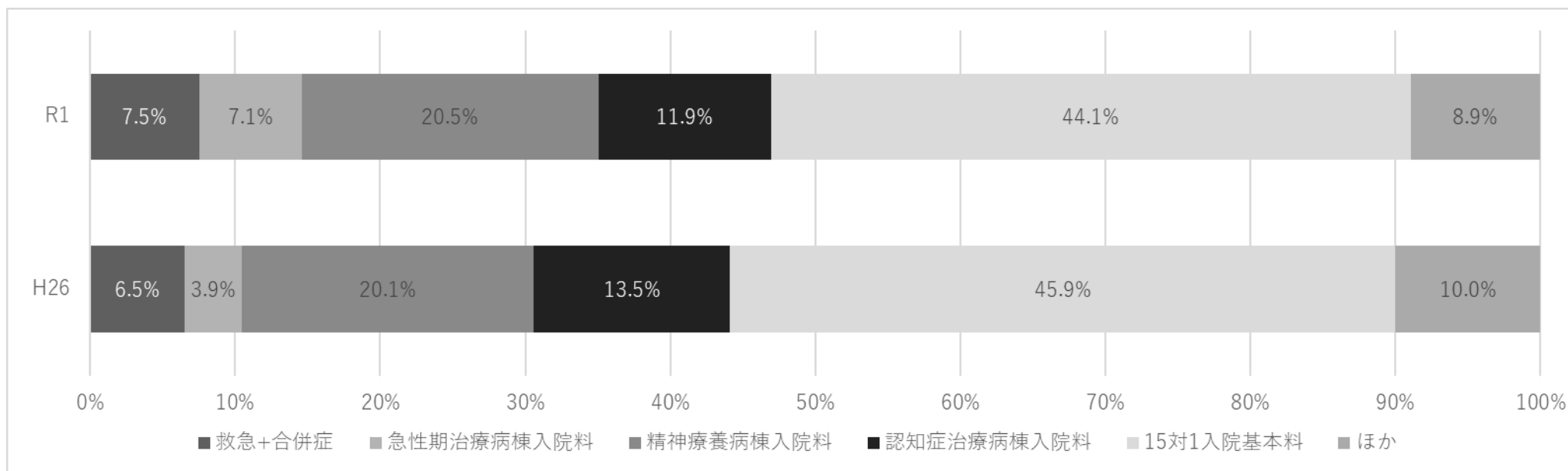


図 4 身体的拘束指示患者の病棟入院料別比率の推移 6月30日0時または12時時点（令和元年と平成26年の比較）



表 11 隔離・身体的拘束指示患者の在院患者に占める割合（病棟入院料別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）①平成26年

平成26年											
病棟入院料	在院患者 総数 (人) ※6月30日時点 の在院患者	人数(人) ( )内は在院患者比率(%)									
		隔離指示あり			身体的拘束指示あり			隔離指示かつ身体的拘束指示あり		隔離指示および身体的拘束指示なし※	
		0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
精神科救急入院料	1,454	323 (22.2%)	307 (21.1%)	330 (22.7%)	62 (4.3%)	60 (4.1%)	64 (4.4%)	43 (3.0%)	40 (2.8%)	1,112 (76.5%)	1,127 (77.5%)
精神科救急・合併症入院料	90	8 (8.9%)	7 (7.8%)	8 (8.9%)	17 (18.9%)	17 (18.9%)	17 (18.9%)	4 (4.4%)	4 (4.4%)	69 (76.7%)	70 (77.8%)
精神科急性期治療病棟入院料(医師配置加算あり)	989	74 (7.5%)	69 (7.0%)	76 (7.7%)	17 (1.7%)	16 (1.6%)	17 (1.7%)	2 (0.2%)	2 (0.2%)	900 (91.0%)	906 (91.6%)
精神科急性期治療病棟入院料(医師配置加算なし)	1,001	91 (9.1%)	85 (8.5%)	94 (9.4%)	31 (3.1%)	27 (2.7%)	32 (3.2%)	4 (0.4%)	2 (0.2%)	883 (88.2%)	891 (89.0%)
精神療養病棟入院料	10,914	308 (2.8%)	308 (2.8%)	320 (2.9%)	249 (2.3%)	238 (2.2%)	250 (2.3%)	35 (0.3%)	35 (0.3%)	10,392 (95.2%)	10,403 (95.3%)
認知症治療病棟入院料	4,306	51 (1.2%)	48 (1.1%)	51 (1.2%)	162 (3.8%)	163 (3.8%)	168 (3.9%)	5 (0.1%)	5 (0.1%)	4,098 (95.2%)	4,100 (95.2%)
特殊疾患病棟入院料	353	7 (2.0%)	8 (2.3%)	8 (2.3%)	7 (2.0%)	7 (2.0%)	7 (2.0%)	2 (0.6%)	2 (0.6%)	341 (96.6%)	340 (96.3%)
小児入院医療管理料5	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
児童・思春期精神科入院医療管理料	157	16 (10.2%)	15 (9.6%)	16 (10.2%)	3 (1.9%)	3 (1.9%)	3 (1.9%)	3 (1.9%)	3 (1.9%)	141 (89.8%)	142 (90.4%)
医療観察法入院対象者入院医学管理料	202	2 (1.0%)	2 (1.0%)	2 (1.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	200 (99.0%)	200 (99.0%)
10対1入院基本料	313	43 (13.7%)	41 (13.1%)	45 (14.4%)	39 (12.5%)	36 (11.5%)	39 (12.5%)	17 (5.4%)	17 (5.4%)	248 (79.2%)	253 (80.8%)
13対1入院基本料	671	54 (8.0%)	54 (8.0%)	56 (8.3%)	49 (7.3%)	49 (7.3%)	50 (7.5%)	14 (2.1%)	15 (2.2%)	582 (86.7%)	583 (86.9%)
15対1入院基本料	13,638	659 (4.8%)	633 (4.6%)	670 (4.9%)	567 (4.2%)	543 (4.0%)	570 (4.2%)	64 (0.5%)	64 (0.5%)	12,476 (91.5%)	12,526 (91.8%)
18対1入院基本料	179	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	179 (100.0%)	179 (100.0%)
20対1入院基本料	101	3 (3.0%)	3 (3.0%)	3 (3.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	98 (97.0%)	98 (97.0%)
特別入院基本料	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
特定機能病院入院基本料(7対1)	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
特定機能病院入院基本料(10対1)	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
特定機能病院入院基本料(13対1)	35	3 (8.6%)	3 (8.6%)	3 (8.6%)	3 (8.6%)	3 (8.6%)	3 (8.6%)	3 (8.6%)	3 (8.6%)	32 (91.4%)	32 (91.4%)
特定機能病院入院基本料(15対1)	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
その他	101	2 (2.0%)	2 (2.0%)	2 (2.0%)	17 (16.8%)	22 (21.8%)	22 (21.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	82 (81.2%)	77 (76.2%)
合計	34,504	1,644 (4.8%)	1,585 (4.6%)	1,684 (4.9%)	1,223 (3.5%)	1,184 (3.4%)	1,242 (3.6%)	196 (0.6%)	192 (0.6%)	31,833 (92.3%)	31,927 (92.5%)

※指示の有無について、不明の回答を含む

表 12 隔離・身体的拘束指示患者の在院患者に占める割合（病棟入院料別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）②令和元年

令和元年											
病棟入院料	在院患者 総数 (人) ※6月30日時点 の在院患者	人数(人) ( )内は在院患者比率(%)									
		隔離指示あり			身体的拘束指示あり			隔離指示かつ身体的拘束指示あり		隔離指示および身体的拘束指示なし※	
		0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
精神科救急入院料	2,080	411 (19.8%)	408 (19.6%)	417 (28.7%)	68 (3.3%)	70 (3.4%)	71 (4.9%)	43 (2.1%)	44 (2.1%)	1,644 (79.0%)	1,646 (79.1%)
精神科救急・合併症入院料	80	9 (11.3%)	9 (11.3%)	9 (10.0%)	9 (11.3%)	9 (11.3%)	9 (10.0%)	2 (2.5%)	2 (2.5%)	64 (80.0%)	64 (80.0%)
精神科急性期治療病棟入院料(医師配置加算あり)	1,448	115 (7.9%)	112 (7.7%)	116 (11.7%)	44 (3.0%)	42 (2.9%)	44 (4.4%)	17 (1.2%)	17 (1.2%)	1,306 (90.2%)	1,311 (90.5%)
精神科急性期治療病棟入院料(医師配置加算なし)	672	73 (10.9%)	75 (11.2%)	76 (7.6%)	30 (4.5%)	31 (4.6%)	31 (3.1%)	7 (1.0%)	7 (1.0%)	576 (85.7%)	573 (85.3%)
精神療養病棟入院料	9,331	315 (3.4%)	316 (3.4%)	320 (2.9%)	216 (2.3%)	198 (2.1%)	218 (2.0%)	36 (0.4%)	36 (0.4%)	8,836 (94.7%)	8,853 (94.9%)
認知症治療病棟入院料	4,552	46 (1.0%)	44 (1.0%)	46 (1.1%)	122 (2.7%)	116 (2.5%)	126 (2.9%)	4 (0.1%)	4 (0.1%)	4,388 (96.4%)	4,396 (96.6%)
特殊疾患病棟入院料	389	5 (1.3%)	5 (1.3%)	5 (1.4%)	5 (1.3%)	5 (1.3%)	5 (1.4%)	2 (0.5%)	2 (0.5%)	381 (97.9%)	381 (97.9%)
地域移行機能強化病棟入院料	340	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	0 (0.0%)	340(100.0%)	340(100.0%)
児童・思春期精神科入院医療管理料	205	21 (10.2%)	20 (9.8%)	21 (13.4%)	3 (1.5%)	3 (1.5%)	3 (1.9%)	3 (1.5%)	3 (1.5%)	184 (89.8%)	185 (90.2%)
医療観察法入院対象者入院医学管理料	183	3 (1.6%)	3 (1.6%)	3 (1.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	180 (98.4%)	180 (98.4%)
10対1入院基本料	272	16 (5.9%)	17 (6.3%)	17 (5.4%)	13 (4.8%)	15 (5.5%)	15 (4.8%)	3 (1.1%)	3 (1.1%)	246 (90.4%)	243 (89.3%)
13対1入院基本料	606	48 (7.9%)	48 (7.9%)	48 (7.2%)	44 (7.3%)	45 (7.4%)	45 (6.7%)	9 (1.5%)	9 (1.5%)	523 (86.3%)	522 (86.1%)
15対1入院基本料	12,465	680 (5.5%)	660 (5.3%)	689 (5.1%)	465 (3.7%)	456 (3.7%)	469 (3.4%)	60 (0.5%)	58 (0.5%)	11,380 (91.3%)	11,407 (91.5%)
18対1入院基本料	55	1 (1.8%)	0 (0.0%)	1 (0.6%)	2 (3.6%)	0 (0.0%)	2 (1.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	52 (94.5%)	55(100.0%)
20対1入院基本料	90	3 (3.3%)	3 (3.3%)	3 (3.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	87 (96.7%)	87 (96.7%)
特別入院基本料	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
特定機能病院入院基本料(7対1)	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
特定機能病院入院基本料(10対1)	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
特定機能病院入院基本料(13対1)	31	2 (6.5%)	2 (6.5%)	2 (5.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	29 (93.5%)	29 (93.5%)
特定機能病院入院基本料(15対1)	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
その他	104	0 (0.0%)	3 (2.9%)	3 (3.0%)	20 (19.2%)	25 (24.0%)	25 (24.8%)	0 (0.0%)	1 (1.0%)	84 (80.8%)	77 (74.0%)
合計	32,903	1,748 (5.3%)	1,725 (5.2%)	1,776 (5.1%)	1,041 (3.2%)	1,015 (3.1%)	1,063 (3.1%)	186 (0.6%)	186 (0.6%)	30,300 (92.1%)	30,349 (92.2%)

※指示の有無について、不明の回答を含む

表 13 隔離・身体的拘束実施患者数と病棟入院料別比率（病棟入院料別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）①平成21年

平成21年											
病棟入院料	人数（人）（）内は入院料別比率（%）										
	在院患者 総数 ※6月30日時点の 在院患者	隔離実施あり			身体的拘束実施あり			隔離実施かつ身体的拘束実施あり		隔離実施および身体的拘束実施なし※	
		0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
精神科救急入院料	53 (0.6%)	13 (5.9%)	15 (9.0%)	15 (6.6%)	2 (2.3%)	2 (2.8%)	2 (2.0%)	2 (20.0%)	2 (28.6%)	40 (0.5%)	38 (0.4%)
精神科救急・合併症入院料	37 (0.4%)	4 (1.8%)	4 (2.4%)	4 (1.7%)	1 (1.1%)	1 (1.4%)	1 (1.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	32 (0.4%)	32 (0.4%)
精神科急性期治療病棟入院料	648 (7.2%)	27 (12.2%)	18 (10.8%)	27 (11.8%)	5 (5.7%)	4 (5.6%)	5 (4.9%)	1 (10.0%)	0 (0.0%)	617 (7.1%)	626 (7.2%)
精神療養病棟入院料	3,306 (36.8%)	49 (22.1%)	40 (24.0%)	49 (21.4%)	10 (11.4%)	12 (16.7%)	13 (12.7%)	4 (40.0%)	4 (57.1%)	3,251 (37.5%)	3,258 (37.3%)
認知症病棟入院料	1,046 (11.7%)	7 (3.2%)	4 (2.4%)	7 (3.1%)	13 (14.8%)	17 (23.6%)	19 (18.6%)	1 (10.0%)	0 (0.0%)	1,027 (11.8%)	1,025 (11.7%)
特殊疾患病棟入院料	236 (2.6%)	1 (0.5%)	1 (0.6%)	1 (0.4%)	3 (3.4%)	2 (2.8%)	3 (2.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	232 (2.7%)	233 (2.7%)
小児入院医療管理料3	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
医療観察法入院対象者入院医学管理料	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
10対1入院基本料	31 (0.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (2.3%)	2 (2.8%)	2 (2.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	29 (0.3%)	29 (0.3%)
15対1入院基本料	3,108 (34.6%)	116 (52.3%)	79 (47.3%)	120 (52.4%)	51 (58.0%)	31 (43.1%)	56 (54.9%)	2 (20.0%)	1 (14.3%)	2,943 (33.9%)	2,999 (34.3%)
18対1入院基本料	156 (1.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.1%)	1 (1.4%)	1 (1.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	155 (1.8%)	155 (1.8%)
20対1入院基本料	327 (3.6%)	1 (0.5%)	1 (0.6%)	1 (0.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	326 (3.8%)	326 (3.7%)
特別入院基本料	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
特定機能病院入院基本料(7対1)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
特定機能病院入院基本料(10対1)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
特定機能病院入院基本料(15対1)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
その他	26 (0.3%)	4 (1.8%)	5 (3.0%)	5 (2.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	22 (0.3%)	21 (0.2%)
合計	8,974 (100.0%)	222 (100.0%)	167 (100.0%)	229 (100.0%)	88 (100.0%)	72 (100.0%)	102 (100.0%)	10 (100.0%)	7 (100.0%)	8,674 (100.0%)	8,742 (100.0%)

※実施の有無について、不明の回答を含む

表 14 隔離・身体的拘束実施患者数と病棟入院料別比率（病棟入院料別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）②令和元年

令和元年												
病棟入院料	人数（人）（）内は入院料別比率（%）											
	在院患者 総数 ※6月30日時点の 在院患者	隔離実施あり			身体的拘束実施あり			隔離実施かつ身体的拘束実施あり		隔離実施および身体的拘束実施なし※		
		0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
精神科救急入院料	243 (3.0%)	28 (10.3%)	29 (12.7%)	32 (11.5%)	2 (1.7%)	2 (2.9%)	2 (1.7%)	2 (13.3%)	2 (18.2%)	215 (2.8%)	214 (2.8%)	
精神科救急・合併症入院料	67 (0.8%)	9 (3.3%)	5 (2.2%)	9 (3.2%)	8 (6.9%)	5 (7.2%)	8 (6.8%)	2 (13.3%)	0 (0.0%)	52 (0.7%)	57 (0.7%)	
精神科急性期治療病棟入院料（医師配置加算あり）	409 (5.1%)	35 (12.8%)	28 (12.2%)	36 (12.9%)	10 (8.6%)	6 (8.7%)	10 (8.5%)	5 (33.3%)	4 (36.4%)	369 (4.8%)	379 (4.9%)	
精神科急性期治療病棟入院料（医師配置加算なし）	150 (1.9%)	10 (3.7%)	8 (3.5%)	10 (3.6%)	2 (1.7%)	2 (2.9%)	2 (1.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	138 (1.8%)	140 (1.8%)	
精神療養病棟入院料	2,800 (34.9%)	48 (17.6%)	41 (17.9%)	49 (17.6%)	17 (14.7%)	14 (20.3%)	17 (14.4%)	2 (13.3%)	1 (9.1%)	2,737 (35.7%)	2,746 (35.4%)	
認知症治療病棟入院料	966 (12.0%)	10 (3.7%)	10 (4.4%)	10 (3.6%)	1 (0.9%)	2 (2.9%)	2 (1.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	955 (12.5%)	954 (12.3%)	
特殊疾患病棟入院料	240 (3.0%)	7 (2.6%)	2 (0.9%)	7 (2.5%)	12 (10.3%)	2 (2.9%)	12 (10.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	221 (2.9%)	236 (3.0%)	
地域移行機能強化病棟入院料	59 (0.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	59 (0.8%)	59 (0.8%)	
児童・思春期精神科入院医療管理料	22 (0.3%)	2 (0.7%)	2 (0.9%)	2 (0.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	20 (0.3%)	20 (0.3%)	
医療観察法入院対象者入院医学管理料	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
10対1入院基本料	27 (0.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (3.4%)	4 (5.8%)	4 (3.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	23 (0.3%)	23 (0.3%)	
13対1入院基本料	56 (0.7%)	3 (1.1%)	3 (1.3%)	3 (1.1%)	10 (8.6%)	3 (4.3%)	10 (8.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	43 (0.6%)	50 (0.6%)	
15対1入院基本料	2,565 (31.9%)	117 (42.9%)	97 (42.4%)	117 (41.9%)	47 (40.5%)	26 (37.7%)	48 (40.7%)	3 (20.0%)	3 (27.3%)	2,404 (31.4%)	2,445 (31.6%)	
18対1入院基本料	229 (2.9%)	2 (0.7%)	2 (0.9%)	2 (0.7%)	3 (2.6%)	3 (4.3%)	3 (2.5%)	1 (6.7%)	1 (9.1%)	225 (2.9%)	225 (2.9%)	
20対1入院基本料	201 (2.5%)	2 (0.7%)	2 (0.9%)	2 (0.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	199 (2.6%)	199 (2.6%)	
特別入院基本料	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
特定機能病院入院基本料(7対1)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
特定機能病院入院基本料(10対1)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
特定機能病院入院基本料(13対1)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
特定機能病院入院基本料(15対1)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
その他	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
合計	8,034 (100.0%)	273 (100.0%)	229 (100.0%)	279 (100.0%)	116 (100.0%)	69 (100.0%)	118 (100.0%)	15 (100.0%)	11 (100.0%)	7,660 (100.0%)	7,747 (100.0%)	

※実施の有無について、不明の回答を含む

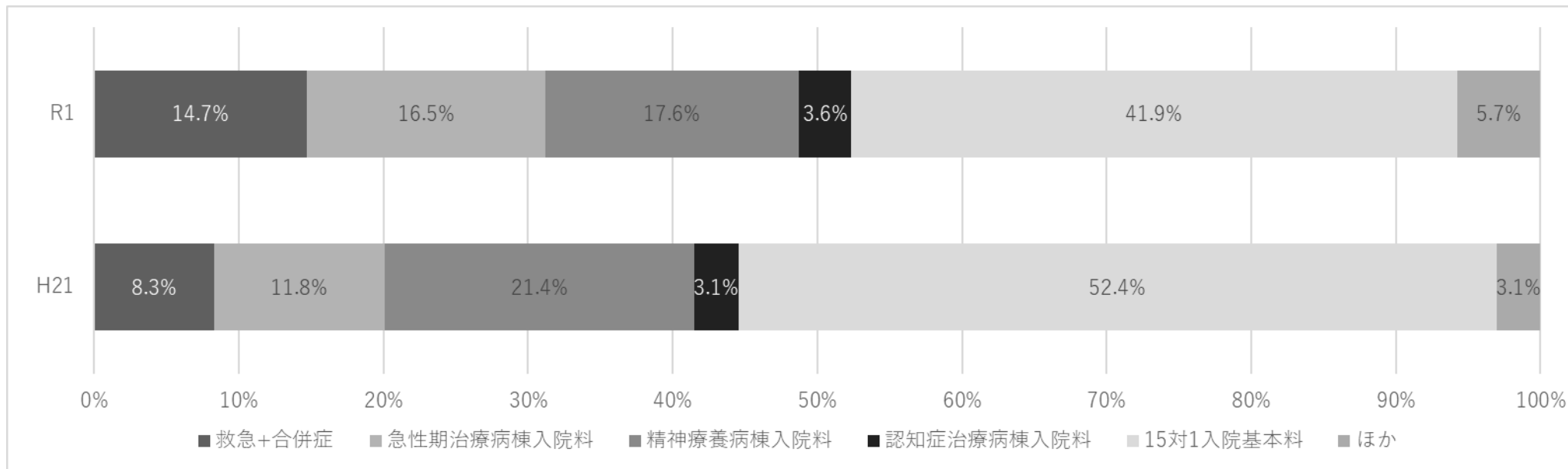


図 5 隔離実施患者の病棟入院料別比率の推移 6月30日0時または12時時点（令和元年と平成21年の比較）

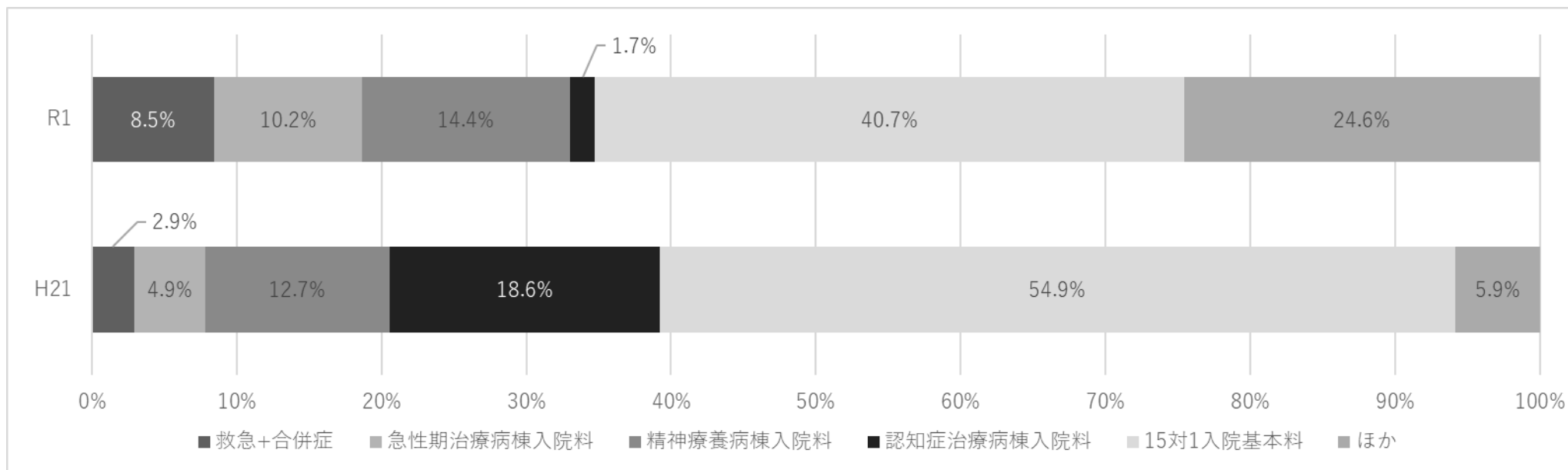


図 6 身体的拘束実施患者の病棟入院料別比率の推移 6月30日0時または12時時点（令和元年と平成21年の比較）

表 15 隔離・身体的拘束実施患者の在院患者に占める割合（病棟入院料別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）①平成21年

平成21年											
病棟入院料	在院患者 総数 (人) ※6月30日時 点の在院患者	人数 (人) (内は在院患者比率%)									
		隔離実施あり			身体的拘束実施あり			隔離実施かつ身体的拘束実施あり		隔離実施および身体的拘束実施なし※	
		0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
精神科救急入院料	53	13 (24.5%)	15 (28.3%)	15 (28.3%)	2 (3.8%)	2 (3.8%)	2 (3.8%)	2 (3.8%)	2 (3.8%)	40 (75.5%)	38 (71.7%)
精神科救急・合併症入院料	37	4 (10.8%)	4 (10.8%)	4 (10.8%)	1 (2.7%)	1 (2.7%)	1 (2.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	32 (86.5%)	32 (86.5%)
精神科急性期治療病棟入院料	648	27 (4.2%)	18 (2.8%)	27 (4.2%)	5 (0.8%)	4 (0.6%)	5 (0.8%)	1 (0.2%)	0 (0.0%)	617 (95.2%)	626 (96.6%)
精神療養病棟入院料	3,306	49 (1.5%)	40 (1.2%)	49 (1.5%)	10 (0.3%)	12 (0.4%)	13 (0.4%)	4 (0.1%)	4 (0.1%)	3,251 (98.3%)	3,258 (98.5%)
認知症病棟入院料	1,046	7 (0.7%)	4 (0.4%)	7 (0.7%)	13 (1.2%)	17 (1.6%)	19 (1.8%)	1 (0.1%)	0 (0.0%)	1,027 (98.2%)	1,025 (98.0%)
特殊疾患病棟入院料	236	1 (0.4%)	1 (0.4%)	1 (0.4%)	3 (1.3%)	2 (0.8%)	3 (1.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	232 (98.3%)	233 (98.7%)
小児入院医療管理料3	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
医療観察法入院対象者入院医学管理料	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
10対1入院基本料	31	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (6.5%)	2 (6.5%)	2 (6.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	29 (93.5%)	29 (93.5%)
15対1入院基本料	3,108	116 (3.7%)	79 (2.5%)	120 (3.9%)	51 (1.6%)	31 (1.0%)	56 (1.8%)	2 (0.1%)	1 (0.0%)	2,943 (94.7%)	2,999 (96.5%)
18対1入院基本料	156	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.6%)	1 (0.6%)	1 (0.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	155 (99.4%)	155 (99.4%)
20対1入院基本料	327	1 (0.3%)	1 (0.3%)	1 (0.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	326 (99.7%)	326 (99.7%)
特別入院基本料	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
特定機能病院入院基本料(7対1)	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
特定機能病院入院基本料(10対1)	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
特定機能病院入院基本料(15対1)	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
その他	26	4 (15.4%)	5 (19.2%)	5 (19.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	22 (84.6%)	21 (80.8%)
合計	8,974	222 (2.5%)	167 (1.9%)	229 (2.6%)	88 (1.0%)	72 (0.8%)	102 (1.1%)	10 (0.1%)	7 (0.1%)	8,674 (96.7%)	8,742 (97.4%)

※実施の有無について、不明の回答を含む

表 16 隔離・身体的拘束実施患者の在院患者に占める割合（病棟入院料別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）②令和元年

令和元年											
病棟入院料	在院患者 総数 (人) ※6月30日時 点の在院患者	人数(人) (内は在院患者比率(%))									
		隔離実施あり			身体的拘束実施あり			隔離実施かつ身体的拘束実施あり		隔離実施および身体的拘束実施なし※	
		0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
精神科救急入院料	243	28 (11.5%)	29 (11.9%)	32 (13.2%)	2 (0.8%)	2 (0.8%)	2 (0.8%)	2 (0.8%)	2 (0.8%)	215 (88.5%)	214 (88.1%)
精神科救急・合併症入院料	67	9 (13.4%)	5 (7.5%)	9 (13.4%)	8 (11.9%)	5 (7.5%)	8 (11.9%)	2 (3.0%)	0 (0.0%)	52 (77.6%)	57 (85.1%)
精神科急性期治療病棟入院料(医師配置加算あり)	409	35 (8.6%)	28 (6.8%)	36 (8.8%)	10 (2.4%)	6 (1.5%)	10 (2.4%)	5 (1.2%)	4 (1.0%)	369 (90.2%)	379 (92.7%)
精神科急性期治療病棟入院料(医師配置加算なし)	150	10 (6.7%)	8 (5.3%)	10 (6.7%)	2 (1.3%)	2 (1.3%)	2 (1.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	138 (92.0%)	140 (93.3%)
精神療養病棟入院料	2,800	48 (1.7%)	41 (1.5%)	49 (1.8%)	17 (0.6%)	14 (0.5%)	17 (0.6%)	2 (0.1%)	1 (0.0%)	2,737 (97.8%)	2,746 (98.1%)
認知症治療病棟入院料	966	10 (1.0%)	10 (1.0%)	10 (1.0%)	1 (0.1%)	2 (0.2%)	2 (0.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	955 (98.9%)	954 (98.8%)
特殊疾患病棟入院料	240	7 (2.9%)	2 (0.8%)	7 (2.9%)	12 (5.0%)	2 (0.8%)	12 (5.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	221 (92.1%)	236 (98.3%)
地域移行機能強化病棟入院料	59	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	59 (100.0%)	59 (100.0%)
児童・思春期精神科入院医療管理料	22	2 (9.1%)	2 (9.1%)	2 (9.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	20 (90.9%)	20 (90.9%)
医療観察法入院対象者入院医学管理料	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
10対1入院基本料	27	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (14.8%)	4 (14.8%)	4 (14.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	23 (85.2%)	23 (85.2%)
13対1入院基本料	56	3 (5.4%)	3 (5.4%)	3 (5.4%)	10 (17.9%)	3 (5.4%)	10 (17.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	43 (76.8%)	50 (89.3%)
15対1入院基本料	2,565	117 (4.6%)	97 (3.8%)	117 (4.6%)	47 (1.8%)	26 (1.0%)	48 (1.9%)	3 (0.1%)	3 (0.1%)	2,404 (93.7%)	2,445 (95.3%)
18対1入院基本料	229	2 (0.9%)	2 (0.9%)	2 (0.9%)	3 (1.3%)	3 (1.3%)	3 (1.3%)	1 (0.4%)	1 (0.4%)	225 (98.3%)	225 (98.3%)
20対1入院基本料	201	2 (1.0%)	2 (1.0%)	2 (1.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	199 (99.0%)	199 (99.0%)
特別入院基本料	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
特定機能病院入院基本料(7対1)	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
特定機能病院入院基本料(10対1)	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
特定機能病院入院基本料(13対1)	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
特定機能病院入院基本料(15対1)	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
その他	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
合計	8,034	273 (3.4%)	229 (2.9%)	279 (3.5%)	116 (1.4%)	69 (0.9%)	118 (1.5%)	15 (0.2%)	11 (0.1%)	7,660 (95.3%)	7,747 (96.4%)

※実施の有無について、不明の回答を含む

表 17 隔離・身体的拘束実施患者数と病棟入院料別比率（病棟入院料別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）①平成26年

平成26年												
病棟入院料	人数（人）（）内は入院料別比率（%）											
	在院患者 総数 ※6月30日時点の 在院患者	隔離実施あり			身体的拘束実施あり			隔離実施かつ身体的拘束実施あり		隔離実施および身体的拘束実施なし※		
		0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
精神科救急入院料	1,454 (4.2%)	297 (18.8%)	236 (19.8%)	315 (19.1%)	56 (4.9%)	46 (5.3%)	59 (4.9%)	38 (21.3%)	32 (21.6%)	1,139 (3.6%)	1,204 (3.7%)	
精神科救急・合併症入院料	90 (0.3%)	8 (0.5%)	7 (0.6%)	8 (0.5%)	17 (1.5%)	17 (1.9%)	17 (1.4%)	4 (2.2%)	4 (2.7%)	69 (0.2%)	70 (0.2%)	
精神科急性期治療病棟入院料（医師配置加算あり）	989 (2.9%)	73 (4.6%)	51 (4.3%)	75 (4.6%)	17 (1.5%)	8 (0.9%)	17 (1.4%)	2 (1.1%)	1 (0.7%)	901 (2.8%)	931 (2.9%)	
精神科急性期治療病棟入院料（医師配置加算なし）	1,001 (2.9%)	90 (5.7%)	61 (5.1%)	93 (5.6%)	29 (2.5%)	23 (2.6%)	31 (2.6%)	3 (1.7%)	1 (0.7%)	885 (2.8%)	918 (2.8%)	
精神療養病棟入院料	10,914 (31.6%)	305 (19.3%)	240 (20.1%)	318 (19.3%)	233 (20.3%)	173 (19.8%)	240 (20.0%)	30 (16.9%)	20 (13.5%)	10,406 (32.6%)	10,521 (32.3%)	
認知症治療病棟入院料	4,306 (12.5%)	49 (3.1%)	25 (2.1%)	50 (3.0%)	143 (12.5%)	97 (11.1%)	161 (13.4%)	4 (2.2%)	3 (2.0%)	4,118 (12.9%)	4,187 (12.8%)	
特殊疾患病棟入院料	353 (1.0%)	7 (0.4%)	7 (0.6%)	8 (0.5%)	7 (0.6%)	5 (0.6%)	7 (0.6%)	2 (1.1%)	1 (0.7%)	341 (1.1%)	342 (1.0%)	
小児入院医療管理料5	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
児童・思春期精神科入院医療管理料	157 (0.5%)	15 (0.9%)	8 (0.7%)	15 (0.9%)	3 (0.3%)	3 (0.3%)	3 (0.3%)	3 (1.7%)	3 (2.0%)	142 (0.4%)	149 (0.5%)	
医療観察法入院対象者入院医学管理料	202 (0.6%)	2 (0.1%)	2 (0.2%)	2 (0.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	200 (0.6%)	200 (0.6%)	
10対1入院基本料	313 (0.9%)	43 (2.7%)	35 (2.9%)	45 (2.7%)	39 (3.4%)	33 (3.8%)	39 (3.3%)	17 (9.6%)	15 (10.1%)	248 (0.8%)	260 (0.8%)	
13対1入院基本料	671 (1.9%)	51 (3.2%)	48 (4.0%)	53 (3.2%)	45 (3.9%)	36 (4.1%)	46 (3.8%)	10 (5.6%)	11 (7.4%)	585 (1.8%)	598 (1.8%)	
15対1入院基本料	13,638 (39.5%)	635 (40.1%)	466 (39.0%)	657 (39.9%)	537 (46.9%)	408 (46.7%)	554 (46.2%)	62 (34.8%)	54 (36.5%)	12,528 (39.2%)	12,818 (39.3%)	
18対1入院基本料	179 (0.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	179 (0.6%)	179 (0.5%)	
20対1入院基本料	101 (0.3%)	3 (0.2%)	3 (0.3%)	3 (0.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	98 (0.3%)	98 (0.3%)	
特別入院基本料	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
特定機能病院入院基本料(7対1)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
特定機能病院入院基本料(10対1)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
特定機能病院入院基本料(13対1)	35 (0.1%)	3 (0.2%)	3 (0.3%)	3 (0.2%)	3 (0.3%)	3 (0.3%)	3 (0.3%)	3 (1.7%)	3 (2.0%)	32 (0.1%)	32 (0.1%)	
特定機能病院入院基本料(15対1)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
その他	101 (0.3%)	2 (0.1%)	2 (0.2%)	2 (0.1%)	17 (1.5%)	22 (2.5%)	22 (1.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	82 (0.3%)	77 (0.2%)	
合計	34,504 (100.0%)	1,583 (100.0%)	1,194 (100.0%)	1,647 (100.0%)	1,146 (100.0%)	874 (100.0%)	1,199 (100.0%)	178 (100.0%)	148 (100.0%)	31,953 (100.0%)	32,584 (100.0%)	

※実施の有無について、不明の回答を含む



表 18 隔離・身体的拘束実施患者数と病棟入院料別比率（病棟入院料別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）②令和元年

令和元年												
病棟入院料	人数（人）（）内は入院料別比率（%）											
	在院患者 総数 ※6月30日時点の 在院患者	隔離実施あり			身体的拘束実施あり			隔離実施かつ身体的拘束実施あり		隔離実施および身体的拘束実施なし※		
		0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
精神科救急入院料	2,080 (6.3%)	385 (22.9%)	305 (23.8%)	399 (23.1%)	57 (5.8%)	58 (7.3%)	68 (6.6%)	40 (23.1%)	34 (24.3%)	1,678 (5.5%)	1,751 (5.7%)	
精神科救急・合併症入院料	80 (0.2%)	9 (0.5%)	9 (0.7%)	9 (0.5%)	9 (0.9%)	8 (1.0%)	9 (0.9%)	2 (1.2%)	2 (1.4%)	64 (0.2%)	65 (0.2%)	
精神科急性期治療病棟入院料（医師配置加算あり）	1,448 (4.4%)	114 (6.8%)	89 (6.9%)	115 (6.7%)	42 (4.3%)	37 (4.6%)	42 (4.1%)	16 (9.2%)	13 (9.3%)	1,308 (4.3%)	1,335 (4.3%)	
精神科急性期治療病棟入院料（医師配置加算なし）	672 (2.0%)	73 (4.3%)	60 (4.7%)	76 (4.4%)	29 (2.9%)	22 (2.8%)	31 (3.0%)	6 (3.5%)	5 (3.6%)	576 (1.9%)	595 (1.9%)	
精神療養病棟入院料	9,331 (28.4%)	306 (18.2%)	226 (17.6%)	311 (18.0%)	207 (21.0%)	167 (20.9%)	211 (20.5%)	33 (19.1%)	25 (17.9%)	8,851 (29.1%)	8,963 (28.9%)	
認知症治療病棟入院料	4,552 (13.8%)	46 (2.7%)	29 (2.3%)	46 (2.7%)	113 (11.5%)	92 (11.5%)	123 (11.9%)	3 (1.7%)	4 (2.9%)	4,396 (14.5%)	4,435 (14.3%)	
特殊疾患病棟入院料	389 (1.2%)	5 (0.3%)	5 (0.4%)	5 (0.3%)	5 (0.5%)	5 (0.6%)	5 (0.5%)	2 (1.2%)	2 (1.4%)	381 (1.3%)	381 (1.2%)	
地域移行機能強化病棟入院料	340 (1.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	340 (1.1%)	340 (1.1%)	
児童・思春期精神科入院医療管理料	205 (0.6%)	21 (1.3%)	15 (1.2%)	21 (1.2%)	3 (0.3%)	3 (0.4%)	3 (0.3%)	3 (1.7%)	3 (2.1%)	184 (0.6%)	190 (0.6%)	
医療観察法入院対象者入院医学管理料	183 (0.6%)	3 (0.2%)	0 (0.0%)	3 (0.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	180 (0.6%)	183 (0.6%)	
10対1入院基本料	272 (0.8%)	15 (0.9%)	14 (1.1%)	16 (0.9%)	12 (1.2%)	12 (1.5%)	14 (1.4%)	3 (1.7%)	2 (1.4%)	248 (0.8%)	248 (0.8%)	
13対1入院基本料	606 (1.8%)	44 (2.6%)	37 (2.9%)	46 (2.7%)	33 (3.4%)	30 (3.8%)	38 (3.7%)	8 (4.6%)	7 (5.0%)	537 (1.8%)	546 (1.8%)	
15対1入院基本料	12,465 (37.9%)	653 (38.9%)	486 (37.9%)	669 (38.8%)	453 (46.0%)	341 (42.6%)	459 (44.6%)	57 (32.9%)	42 (30.0%)	11,416 (37.5%)	11,680 (37.7%)	
18対1入院基本料	55 (0.2%)	1 (0.1%)	0 (0.0%)	1 (0.1%)	2 (0.2%)	0 (0.0%)	2 (0.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	52 (0.2%)	55 (0.2%)	
20対1入院基本料	90 (0.3%)	3 (0.2%)	2 (0.2%)	3 (0.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	87 (0.3%)	88 (0.3%)	
特別入院基本料	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
特定機能病院入院基本料(7対1)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
特定機能病院入院基本料(10対1)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
特定機能病院入院基本料(13対1)	31 (0.1%)	1 (0.1%)	1 (0.1%)	1 (0.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	30 (0.1%)	30 (0.1%)	
特定機能病院入院基本料(15対1)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
その他	104 (0.3%)	0 (0.0%)	3 (0.2%)	3 (0.2%)	20 (2.0%)	25 (3.1%)	25 (2.4%)	0 (0.0%)	1 (0.7%)	84 (0.3%)	77 (0.2%)	
合計	32,903 (100.0%)	1,679 (100.0%)	1,281 (100.0%)	1,724 (100.0%)	985 (100.0%)	800 (100.0%)	1,030 (100.0%)	173 (100.0%)	140 (100.0%)	30,412 (100.0%)	30,962 (100.0%)	

※実施の有無について、不明の回答を含む

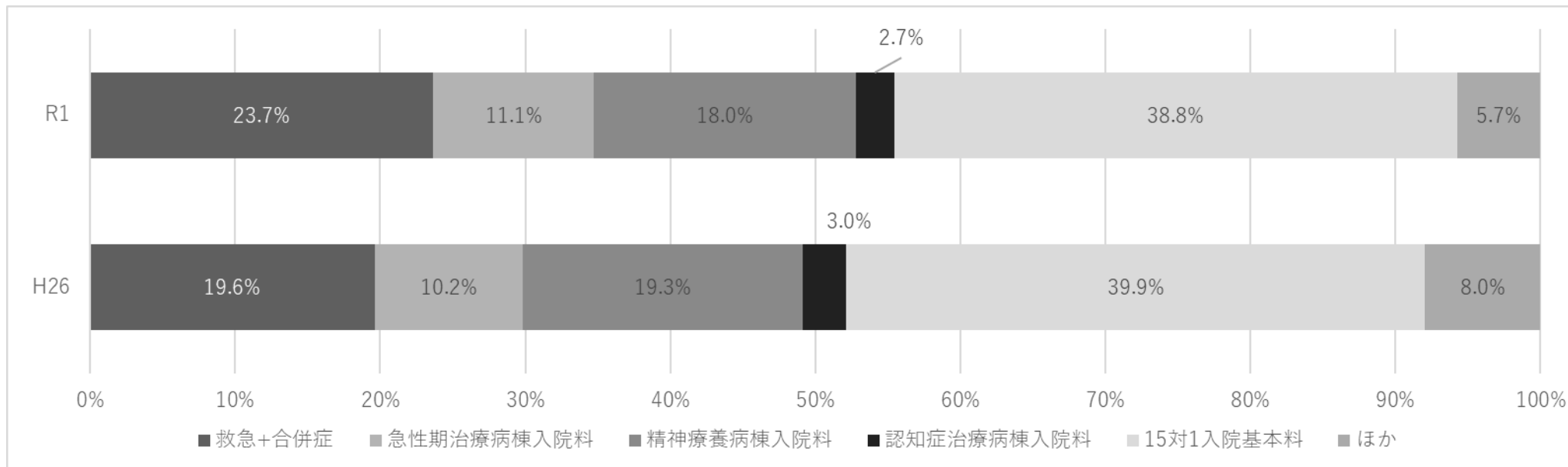


図 7 隔離実施患者の病棟入院料別比率の推移 6月30日0時または12時時点（令和元年と平成26年の比較）

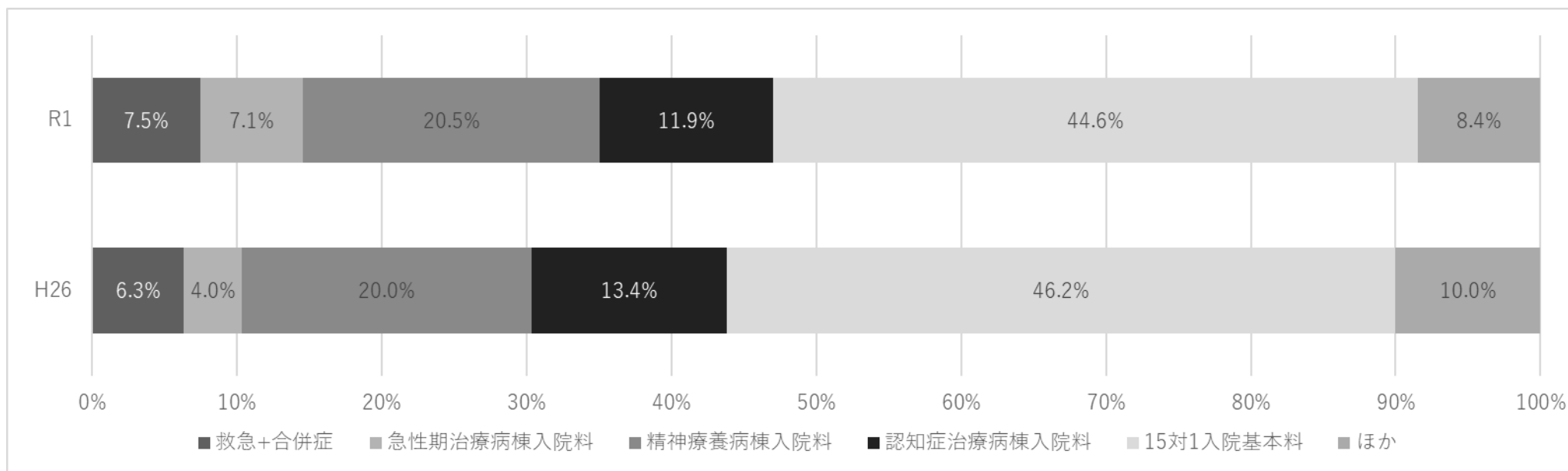


図 8 身体的拘束実施患者の病棟入院料別比率の推移 6月30日0時または12時時点（令和元年と平成26年の比較）

表 19 隔離・身体的拘束実施患者の在院患者に占める割合（病棟入院料別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）①平成26年

平成26年											
病棟入院料	在院患者 総数 (人) ※6月30日時点 の在院患者	人数 (人) ( )内は在院患者比率(%)									
		隔離実施あり			身体的拘束実施あり			隔離実施かつ身体的拘束実施あり		隔離実施および身体的拘束実施なし※	
		0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
精神科救急入院料	1,454	297 (20.4%)	236 (16.2%)	315 (21.7%)	56 (3.9%)	46 (3.2%)	59 (4.1%)	38 (2.6%)	32 (2.2%)	1,139 (78.3%)	1,204 (82.8%)
精神科救急・合併症入院料	90	8 (8.9%)	7 (7.8%)	8 (8.9%)	17 (18.9%)	17 (18.9%)	17 (18.9%)	4 (4.4%)	4 (4.4%)	69 (76.7%)	70 (77.8%)
精神科急性期治療病棟入院料 (医師配置加算あり)	989	73 (7.4%)	51 (5.2%)	75 (7.6%)	17 (1.7%)	8 (0.8%)	17 (1.7%)	2 (0.2%)	1 (0.1%)	901 (91.1%)	931 (94.1%)
精神科急性期治療病棟入院料 (医師配置加算なし)	1,001	90 (9.0%)	61 (6.1%)	93 (9.3%)	29 (2.9%)	23 (2.3%)	31 (3.1%)	3 (0.3%)	1 (0.1%)	885 (88.4%)	918 (91.7%)
精神療養病棟入院料	10,914	305 (2.8%)	240 (2.2%)	318 (2.9%)	233 (2.1%)	173 (1.6%)	240 (2.2%)	30 (0.3%)	20 (0.2%)	10,406 (95.3%)	10,521 (96.4%)
認知症治療病棟入院料	4,306	49 (1.1%)	25 (0.6%)	50 (1.2%)	143 (3.3%)	97 (2.3%)	161 (3.7%)	4 (0.1%)	3 (0.1%)	4,118 (95.6%)	4,187 (97.2%)
特殊疾患病棟入院料	353	7 (2.0%)	7 (2.0%)	8 (2.3%)	7 (2.0%)	5 (1.4%)	7 (2.0%)	2 (0.6%)	1 (0.3%)	341 (96.6%)	342 (96.9%)
小児入院医療管理料5	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
児童・思春期精神科入院医療管理料	157	15 (9.6%)	8 (5.1%)	15 (9.6%)	3 (1.9%)	3 (1.9%)	3 (1.9%)	3 (1.9%)	3 (1.9%)	142 (90.4%)	149 (94.9%)
医療観察法入院対象者入院医学管理料	202	2 (1.0%)	2 (1.0%)	2 (1.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	200 (99.0%)	200 (99.0%)
10対1入院基本料	313	43 (13.7%)	35 (11.2%)	45 (14.4%)	39 (12.5%)	33 (10.5%)	39 (12.5%)	17 (5.4%)	15 (4.8%)	248 (79.2%)	260 (83.1%)
13対1入院基本料	671	51 (7.6%)	48 (7.2%)	53 (7.9%)	45 (6.7%)	36 (5.4%)	46 (6.9%)	10 (1.5%)	11 (1.6%)	585 (87.2%)	598 (89.1%)
15対1入院基本料	13,638	635 (4.7%)	466 (3.4%)	657 (4.8%)	537 (3.9%)	408 (3.0%)	554 (4.1%)	62 (0.5%)	54 (0.4%)	12,528 (91.9%)	12,818 (94.0%)
18対1入院基本料	179	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	179 (100.0%)	179 (100.0%)
20対1入院基本料	101	3 (3.0%)	3 (3.0%)	3 (3.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	98 (97.0%)	98 (97.0%)
特別入院基本料	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
特定機能病院入院基本料(7対1)	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
特定機能病院入院基本料(10対1)	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
特定機能病院入院基本料(13対1)	35	3 (8.6%)	3 (8.6%)	3 (8.6%)	3 (8.6%)	3 (8.6%)	3 (8.6%)	3 (8.6%)	3 (8.6%)	32 (91.4%)	32 (91.4%)
特定機能病院入院基本料(15対1)	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
その他	101	2 (2.0%)	2 (2.0%)	2 (2.0%)	17 (16.8%)	22 (21.8%)	22 (21.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	82 (81.2%)	77 (76.2%)
合計	34,504	1,583 (4.6%)	1,194 (3.5%)	1,647 (4.8%)	1,146 (3.3%)	874 (2.5%)	1,199 (3.5%)	178 (0.5%)	148 (0.4%)	31,953 (92.6%)	32,584 (94.4%)

※実施の有無について、不明の回答を含む

表 20 隔離・身体的拘束実施患者の在院患者に占める割合（病棟入院料別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）②令和元年

令和元年											
病棟入院料	在院患者 総数 (人) ※6月30日時点 の在院患者	人数(人) ( )内は在院患者比率(%)									
		隔離実施あり			身体的拘束実施あり			隔離実施かつ身体的拘束実施あり		隔離実施および身体的拘束実施なし※	
		0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
精神科救急入院料	2,080	385 (18.5%)	305 (14.7%)	399 (19.2%)	57 (2.7%)	58 (2.8%)	68 (3.3%)	40 (1.9%)	34 (1.6%)	1,678 (80.7%)	1,751 (84.2%)
精神科救急・合併症入院料	80	9 (11.3%)	9 (11.3%)	9 (11.3%)	9 (11.3%)	8 (10.0%)	9 (11.3%)	2 (2.5%)	2 (2.5%)	64 (80.0%)	65 (81.3%)
精神科急性期治療病棟入院料(医師配置加算あり)	1,448	114 (7.9%)	89 (6.1%)	115 (7.9%)	42 (2.9%)	37 (2.6%)	42 (2.9%)	16 (1.1%)	13 (0.9%)	1,308 (90.3%)	1,335 (92.2%)
精神科急性期治療病棟入院料(医師配置加算なし)	672	73 (10.9%)	60 (8.9%)	76 (11.3%)	29 (4.3%)	22 (3.3%)	31 (4.6%)	6 (0.9%)	5 (0.7%)	576 (85.7%)	595 (88.5%)
精神療養病棟入院料	9,331	306 (3.3%)	226 (2.4%)	311 (3.3%)	207 (2.2%)	167 (1.8%)	211 (2.3%)	33 (0.4%)	25 (0.3%)	8,851 (94.9%)	8,963 (96.1%)
認知症治療病棟入院料	4,552	46 (1.0%)	29 (0.6%)	46 (1.0%)	113 (2.5%)	92 (2.0%)	123 (2.7%)	3 (0.1%)	4 (0.1%)	4,396 (96.6%)	4,435 (97.4%)
特殊疾患病棟入院料	389	5 (1.3%)	5 (1.3%)	5 (1.3%)	5 (1.3%)	5 (1.3%)	5 (1.3%)	2 (0.5%)	2 (0.5%)	381 (97.9%)	381 (97.9%)
地域移行機能強化病棟入院料	340	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	340(100.0%)	340(100.0%)
児童・思春期精神科入院医療管理料	205	21 (10.2%)	15 (7.3%)	21 (10.2%)	3 (1.5%)	3 (1.5%)	3 (1.5%)	3 (1.5%)	3 (1.5%)	184 (89.8%)	190 (92.7%)
医療観察法入院対象者入院医学管理料	183	3 (1.6%)	0 (0.0%)	3 (1.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	180 (98.4%)	183(100.0%)
10対1入院基本料	272	15 (5.5%)	14 (5.1%)	16 (5.9%)	12 (4.4%)	12 (4.4%)	14 (5.1%)	3 (1.1%)	2 (0.7%)	248 (91.2%)	248 (91.2%)
13対1入院基本料	606	44 (7.3%)	37 (6.1%)	46 (7.6%)	33 (5.4%)	30 (4.9%)	38 (6.3%)	8 (1.3%)	7 (1.2%)	537 (88.6%)	546 (90.1%)
15対1入院基本料	12,465	653 (5.2%)	486 (3.9%)	669 (5.4%)	453 (3.6%)	341 (2.7%)	459 (3.7%)	57 (0.5%)	42 (0.3%)	11,416 (91.6%)	11,680 (93.7%)
18対1入院基本料	55	1 (1.8%)	0 (0.0%)	1 (1.8%)	2 (3.6%)	0 (0.0%)	2 (3.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	52 (94.5%)	55(100.0%)
20対1入院基本料	90	3 (3.3%)	2 (2.2%)	3 (3.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	87 (96.7%)	88 (97.8%)
特別入院基本料	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
特定機能病院入院基本料(7対1)	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
特定機能病院入院基本料(10対1)	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
特定機能病院入院基本料(13対1)	31	1 (3.2%)	1 (3.2%)	1 (3.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	30 (96.8%)	30 (96.8%)
特定機能病院入院基本料(15対1)	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
その他	104	0 (0.0%)	3 (2.9%)	3 (2.9%)	20 (19.2%)	25 (24.0%)	25 (24.0%)	0 (0.0%)	1 (1.0%)	84 (80.8%)	77 (74.0%)
合計	32,903	1,679 (5.1%)	1,281 (3.9%)	1,724 (5.2%)	985 (3.0%)	800 (2.4%)	1,030 (3.1%)	173 (0.5%)	140 (0.4%)	30,412 (92.4%)	30,962 (94.1%)

※実施の有無について、不明の回答を含む

表 21 隔離・身体的拘束指示患者数および年齢・性別比率（6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）①平成21年

年齢	性別	平成21年										
		人数(人) ()内は年齢・性別比率(%)										
		隔離指示あり			身体的拘束指示あり			隔離指示または身体的拘束指示のいずれかがあり		隔離指示かつ身体的拘束指示あり		
		0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
20歳未満	男性	3 (1.2%)	3 (1.2%)	3 (1.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (0.9%)	3 (0.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
	女性	2 (0.8%)	3 (1.2%)	3 (1.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (0.6%)	3 (0.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
	不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
20歳以上 40歳未満	男性	42 (16.5%)	38 (15.2%)	42 (16.1%)	3 (2.7%)	2 (1.8%)	3 (2.6%)	44 (12.5%)	40 (11.5%)	1 (6.7%)	0 (0.0%)	
	女性	23 (9.1%)	22 (8.8%)	23 (8.8%)	4 (3.5%)	4 (3.6%)	4 (3.5%)	24 (6.8%)	23 (6.6%)	3 (20.0%)	3 (23.1%)	
	不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
40歳以上 65歳未満	男性	78 (30.7%)	77 (30.8%)	79 (30.3%)	24 (21.2%)	22 (19.8%)	24 (20.9%)	97 (27.6%)	95 (27.3%)	5 (33.3%)	4 (30.8%)	
	女性	62 (24.4%)	61 (24.4%)	65 (24.9%)	15 (13.3%)	15 (13.5%)	15 (13.0%)	76 (21.6%)	75 (21.6%)	1 (6.7%)	1 (7.7%)	
	不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
65歳以上 75歳未満	男性	16 (6.3%)	17 (6.8%)	17 (6.5%)	12 (10.6%)	12 (10.8%)	12 (10.4%)	27 (7.7%)	28 (8.0%)	1 (6.7%)	1 (7.7%)	
	女性	9 (3.5%)	10 (4.0%)	10 (3.8%)	10 (8.8%)	10 (9.0%)	10 (8.7%)	18 (5.1%)	19 (5.5%)	1 (6.7%)	1 (7.7%)	
	不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
75歳以上	男性	14 (5.5%)	14 (5.6%)	14 (5.4%)	23 (20.4%)	24 (21.6%)	24 (20.9%)	35 (9.9%)	36 (10.3%)	2 (13.3%)	2 (15.4%)	
	女性	5 (2.0%)	5 (2.0%)	5 (1.9%)	22 (19.5%)	22 (19.8%)	23 (20.0%)	26 (7.4%)	26 (7.5%)	1 (6.7%)	1 (7.7%)	
	不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
不明	男性	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
	女性	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
	不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
合計		254 (100.0%)	250 (100.0%)	261 (100.0%)	113 (100.0%)	111 (100.0%)	115 (100.0%)	352 (100.0%)	348 (100.0%)	15 (100.0%)	13 (100.0%)	

表 22 隔離・身体的拘束指示患者数および年齢・性別比率（6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）②令和元年

年齢	性別	令和元年									
		人数(人) ()内は年齢・性別比率(%)									
		隔離指示あり			身体的拘束指示あり			隔離指示または身体的拘束指示のいずれかがあり		隔離指示かつ身体的拘束指示あり	
		0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
20歳未満	男性	5 (1.6%)	5 (1.6%)	5 (1.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	5 (1.2%)	5 (1.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	女性	5 (1.6%)	5 (1.6%)	5 (1.5%)	1 (0.7%)	1 (0.7%)	1 (0.7%)	6 (1.4%)	6 (1.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
20歳以上 40歳未満	男性	43 (13.4%)	43 (13.4%)	43 (13.3%)	10 (7.0%)	10 (7.1%)	10 (7.0%)	50 (11.5%)	50 (11.6%)	3 (10.0%)	3 (10.0%)
	女性	24 (7.5%)	24 (7.5%)	24 (7.4%)	7 (4.9%)	7 (5.0%)	7 (4.9%)	30 (6.9%)	30 (6.9%)	1 (3.3%)	1 (3.3%)
	不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
40歳以上 65歳未満	男性	103 (32.1%)	104 (32.4%)	104 (32.2%)	37 (26.1%)	37 (26.2%)	37 (26.1%)	130 (30.0%)	131 (30.3%)	10 (33.3%)	10 (33.3%)
	女性	61 (19.0%)	62 (19.3%)	62 (19.2%)	17 (12.0%)	16 (11.3%)	17 (12.0%)	73 (16.9%)	73 (16.9%)	5 (16.7%)	5 (16.7%)
	不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
65歳以上 75歳未満	男性	20 (6.2%)	20 (6.2%)	20 (6.2%)	15 (10.6%)	15 (10.6%)	15 (10.6%)	35 (8.1%)	35 (8.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	女性	25 (7.8%)	23 (7.2%)	25 (7.7%)	26 (18.3%)	26 (18.4%)	26 (18.3%)	46 (10.6%)	44 (10.2%)	5 (16.7%)	5 (16.7%)
	不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
75歳以上	男性	21 (6.5%)	21 (6.5%)	21 (6.5%)	15 (10.6%)	15 (10.6%)	15 (10.6%)	31 (7.2%)	31 (7.2%)	5 (16.7%)	5 (16.7%)
	女性	14 (4.4%)	14 (4.4%)	14 (4.3%)	14 (9.9%)	14 (9.9%)	14 (9.9%)	27 (6.2%)	27 (6.3%)	1 (3.3%)	1 (3.3%)
	不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
不明	男性	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	女性	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
合計	321 (100.0%)	321 (100.0%)	323 (100.0%)	142 (100.0%)	141 (100.0%)	142 (100.0%)	433 (100.0%)	432 (100.0%)	30 (100.0%)	30 (100.0%)	

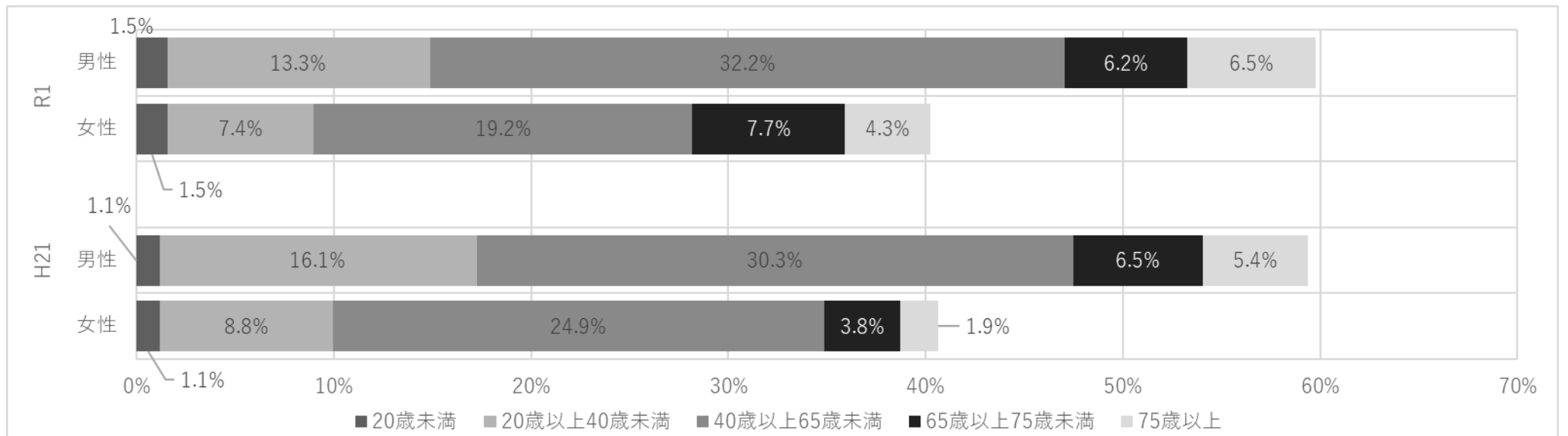


図 9 隔離指示患者の年齢・性別比率の推移 6月30日0時または12時時点（令和元年と平成21年の比較）

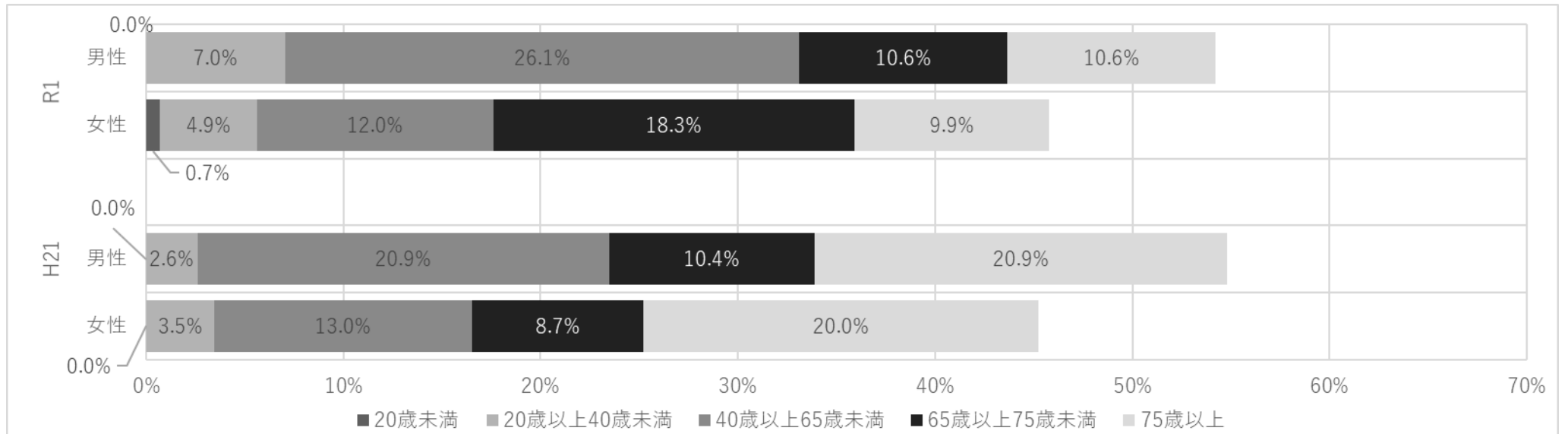


図 10 身体的拘束指示患者の年齢・性別比率の推移 6月30日0時または12時時点（令和元年と平成21年の比較）

表 23 隔離・身体的拘束実施患者数および年齢・性別比率（6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）①平成21年

年齢	性別	平成21年										
		人数(人) ()内は年齢・性別比率(%)										
		隔離実施あり			身体的拘束実施あり			隔離実施または 身体的拘束実施のいずれかがあり		隔離実施かつ身体的拘束実施あり		
		0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
20歳未満	男性	2 (0.9%)	0 (0.0%)	2 (0.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (0.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
	女性	2 (0.9%)	2 (1.2%)	3 (1.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (0.7%)	2 (0.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
	不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
20歳以上 40歳未満	男性	36 (16.2%)	25 (15.0%)	36 (15.7%)	1 (1.1%)	1 (1.4%)	2 (2.0%)	37 (12.3%)	26 (11.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
	女性	23 (10.4%)	17 (10.2%)	23 (10.0%)	3 (3.4%)	2 (2.8%)	3 (2.9%)	24 (8.0%)	17 (7.3%)	2 (20.0%)	2 (28.6%)	
	不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
40歳以上 65歳未満	男性	66 (29.7%)	51 (30.5%)	67 (29.3%)	22 (25.0%)	15 (20.8%)	22 (21.6%)	84 (28.0%)	63 (27.2%)	4 (40.0%)	3 (42.9%)	
	女性	52 (23.4%)	42 (25.1%)	55 (24.0%)	11 (12.5%)	8 (11.1%)	13 (12.7%)	63 (21.0%)	50 (21.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
	不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
65歳以上 75歳未満	男性	15 (6.8%)	10 (6.0%)	16 (7.0%)	10 (11.4%)	8 (11.1%)	10 (9.8%)	24 (8.0%)	17 (7.3%)	1 (10.0%)	1 (14.3%)	
	女性	9 (4.1%)	9 (5.4%)	10 (4.4%)	9 (10.2%)	5 (6.9%)	9 (8.8%)	17 (5.7%)	13 (5.6%)	1 (10.0%)	1 (14.3%)	
	不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
75歳以上	男性	12 (5.4%)	7 (4.2%)	12 (5.2%)	19 (21.6%)	20 (27.8%)	23 (22.5%)	29 (9.7%)	27 (11.6%)	2 (20.0%)	0 (0.0%)	
	女性	5 (2.3%)	4 (2.4%)	5 (2.2%)	13 (14.8%)	13 (18.1%)	20 (19.6%)	18 (6.0%)	17 (7.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
	不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
不明	男性	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
	女性	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
	不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
合計		222 (100.0%)	167 (100.0%)	229 (100.0%)	88 (100.0%)	72 (100.0%)	102 (100.0%)	300 (100.0%)	232 (100.0%)	10 (100.0%)	7 (100.0%)	



表 24 隔離・身体的拘束実施患者数および年齢・性別比率（6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）②令和元年

年齢	性別	令和元年										
		人数(人) ()内は年齢・性別比率(%)										
		隔離実施あり			身体的拘束実施あり			隔離実施または身体的拘束実施のいずれかがあり		隔離実施かつ身体的拘束実施あり		
		0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
20歳未満	男性	4 (1.5%)	4 (1.7%)	4 (1.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (1.1%)	4 (1.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
	女性	4 (1.5%)	1 (0.4%)	4 (1.4%)	1 (0.9%)	1 (1.4%)	1 (0.8%)	5 (1.3%)	2 (0.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
	不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
20歳以上 40歳未満	男性	35 (12.8%)	29 (12.7%)	35 (12.5%)	8 (6.9%)	4 (5.8%)	8 (6.8%)	42 (11.2%)	32 (11.1%)	1 (6.7%)	1 (9.1%)	
	女性	20 (7.3%)	15 (6.6%)	20 (7.2%)	4 (3.4%)	2 (2.9%)	4 (3.4%)	24 (6.4%)	17 (5.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
	不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
40歳以上 65歳未満	男性	90 (33.0%)	74 (32.3%)	91 (32.6%)	27 (23.3%)	15 (21.7%)	28 (23.7%)	112 (29.9%)	86 (30.0%)	5 (33.3%)	3 (27.3%)	
	女性	55 (20.1%)	50 (21.8%)	58 (20.8%)	14 (12.1%)	9 (13.0%)	14 (11.9%)	67 (17.9%)	57 (19.9%)	2 (13.3%)	2 (18.2%)	
	不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
65歳以上 75歳未満	男性	15 (5.5%)	13 (5.7%)	16 (5.7%)	15 (12.9%)	11 (15.9%)	15 (12.7%)	30 (8.0%)	24 (8.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
	女性	22 (8.1%)	19 (8.3%)	23 (8.2%)	23 (19.8%)	14 (20.3%)	23 (19.5%)	41 (11.0%)	30 (10.5%)	4 (26.7%)	3 (27.3%)	
	不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
75歳以上	男性	19 (7.0%)	17 (7.4%)	19 (6.8%)	13 (11.2%)	10 (14.5%)	14 (11.9%)	29 (7.8%)	25 (8.7%)	3 (20.0%)	2 (18.2%)	
	女性	9 (3.3%)	7 (3.1%)	9 (3.2%)	11 (9.5%)	3 (4.3%)	11 (9.3%)	20 (5.3%)	10 (3.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
	不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
不明	男性	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
	女性	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
	不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
合計		273 (100.0%)	229 (100.0%)	279 (100.0%)	116 (100.0%)	69 (100.0%)	118 (100.0%)	374 (100.0%)	287 (100.0%)	15 (100.0%)	11 (100.0%)	

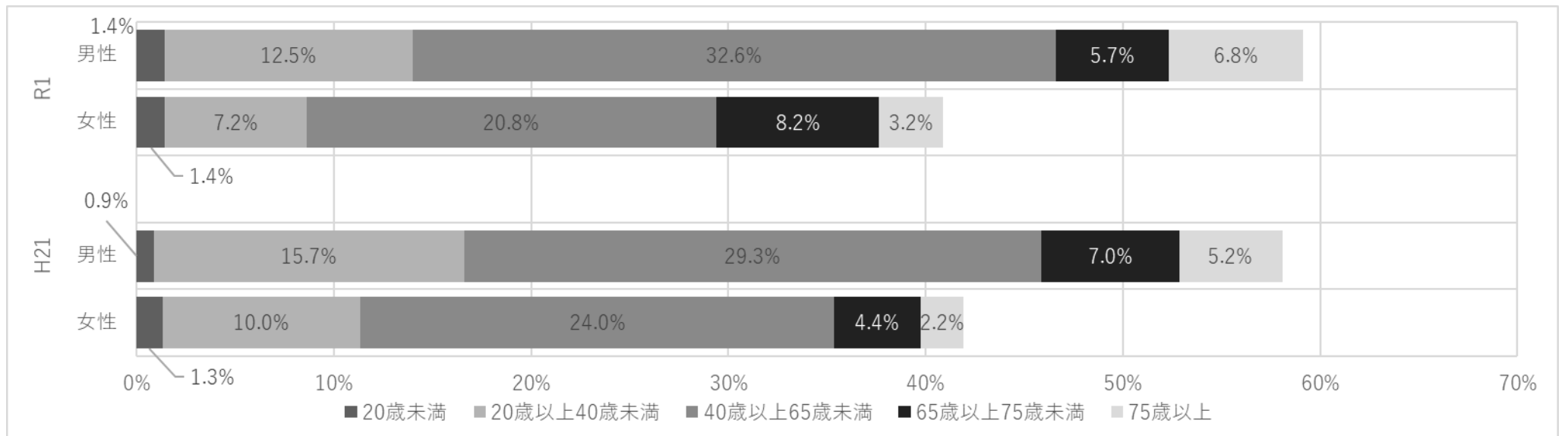


図 11 隔離実施患者の年齢・性別比率の推移 6月30日0時または12時時点（令和元年と平成21年の比較）

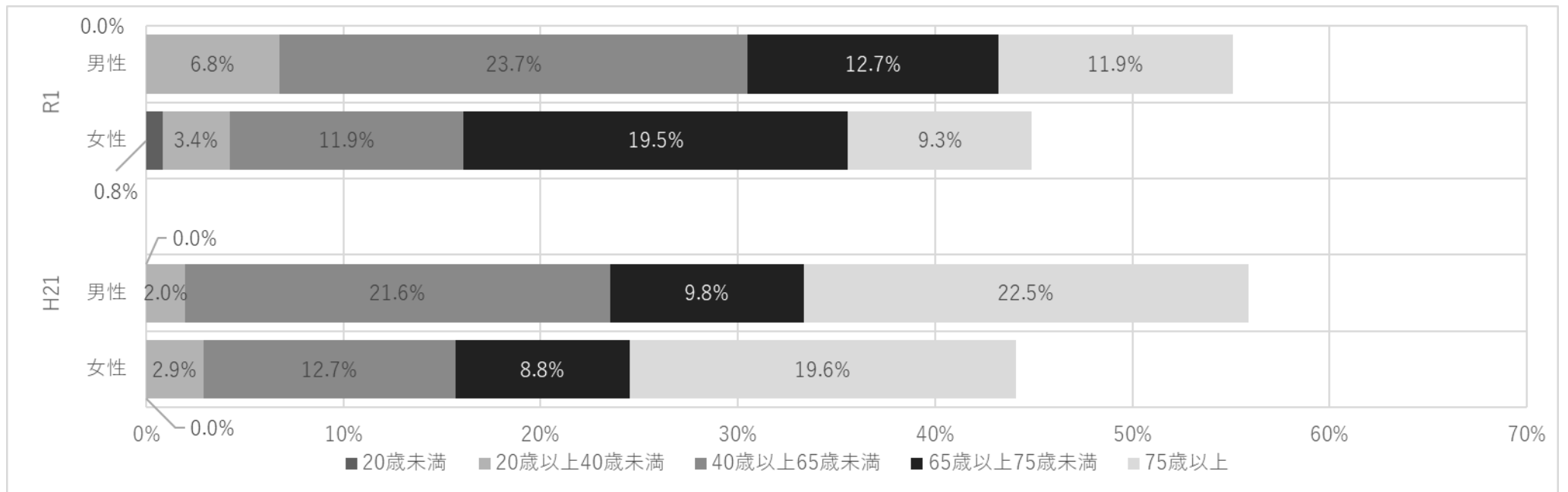


図 12 身体的拘束実施患者の年齢・性別比率の推移 6月30日0時または12時時点（令和元年と平成21年の比較）

表 25 隔離・身体的拘束指示患者数および年齢・性別比率（6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）①平成26年

年齢	性別	平成26年										
		人数(人) ()内は年齢・性別比率(%)										
		隔離指示あり			身体的拘束指示あり			隔離指示または 身体的拘束指示のいずれかがあり		隔離指示かつ身体的拘束指示あり		
		0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
20歳未満	男性	27 (1.6%)	23 (1.5%)	27 (1.6%)	5 (0.4%)	5 (0.4%)	5 (0.4%)	30 (1.1%)	26 (1.0%)	2 (1.0%)	2 (1.0%)	
	女性	20 (1.2%)	19 (1.2%)	20 (1.2%)	5 (0.4%)	5 (0.4%)	5 (0.4%)	21 (0.8%)	20 (0.8%)	4 (2.0%)	4 (2.1%)	
	不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
20歳以上 40歳未満	男性	220 (13.4%)	217 (13.7%)	228 (13.5%)	51 (4.2%)	45 (3.8%)	51 (4.1%)	253 (9.5%)	246 (9.5%)	18 (9.2%)	16 (8.3%)	
	女性	206 (12.5%)	192 (12.1%)	210 (12.5%)	43 (3.5%)	44 (3.7%)	46 (3.7%)	227 (8.5%)	214 (8.3%)	22 (11.2%)	22 (11.5%)	
	不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
40歳以上 65歳未満	男性	496 (30.2%)	481 (30.3%)	504 (29.9%)	242 (19.8%)	230 (19.4%)	243 (19.6%)	682 (25.5%)	658 (25.5%)	56 (28.6%)	53 (27.6%)	
	女性	332 (20.2%)	323 (20.4%)	345 (20.5%)	189 (15.5%)	184 (15.5%)	193 (15.5%)	481 (18.0%)	465 (18.0%)	40 (20.4%)	42 (21.9%)	
	不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
65歳以上 75歳未満	男性	112 (6.8%)	105 (6.6%)	115 (6.8%)	156 (12.8%)	147 (12.4%)	159 (12.8%)	255 (9.5%)	240 (9.3%)	13 (6.6%)	12 (6.3%)	
	女性	101 (6.1%)	95 (6.0%)	102 (6.1%)	142 (11.6%)	141 (11.9%)	146 (11.8%)	227 (8.5%)	220 (8.5%)	16 (8.2%)	16 (8.3%)	
	不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
75歳以上	男性	68 (4.1%)	68 (4.3%)	69 (4.1%)	174 (14.2%)	170 (14.4%)	175 (14.1%)	232 (8.7%)	228 (8.8%)	10 (5.1%)	10 (5.2%)	
	女性	62 (3.8%)	62 (3.9%)	64 (3.8%)	216 (17.7%)	213 (18.0%)	219 (17.6%)	263 (9.8%)	260 (10.1%)	15 (7.7%)	15 (7.8%)	
	不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
不明	男性	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
	女性	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
	不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
合計		1,644 (100.0%)	1,585 (100.0%)	1,684 (100.0%)	1,223 (100.0%)	1,184 (100.0%)	1,242 (100.0%)	2,671 (100.0%)	2,577 (100.0%)	196 (100.0%)	192 (100.0%)	

表 26 隔離・身体的拘束指示患者数および年齢・性別比率（6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）②令和元年

年齢	性別	令和元年										
		人数(人) ( )内は年齢・性別比率(%)										
		隔離指示あり			身体的拘束指示あり			隔離指示または身体的拘束指示のいずれかがあり		隔離指示かつ身体的拘束指示あり		
		0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
20歳未満	男性	31 (1.8%)	31 (1.8%)	31 (1.7%)	3 (0.3%)	3 (0.3%)	3 (0.3%)	32 (1.2%)	32 (1.3%)	2 (1.1%)	2 (1.1%)	
	女性	22 (1.3%)	21 (1.2%)	22 (1.2%)	4 (0.4%)	4 (0.4%)	4 (0.4%)	24 (0.9%)	23 (0.9%)	2 (1.1%)	2 (1.1%)	
	不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
20歳以上 40歳未満	男性	193 (11.0%)	195 (11.3%)	198 (11.1%)	31 (3.0%)	30 (3.0%)	31 (2.9%)	215 (8.3%)	217 (8.5%)	9 (4.8%)	8 (4.3%)	
	女性	182 (10.4%)	179 (10.4%)	185 (10.4%)	33 (3.2%)	34 (3.3%)	34 (3.2%)	196 (7.5%)	193 (7.6%)	19 (10.2%)	20 (10.8%)	
	不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
40歳以上 65歳未満	男性	468 (26.8%)	460 (26.7%)	475 (26.7%)	188 (18.1%)	178 (17.5%)	190 (17.9%)	612 (23.5%)	595 (23.3%)	44 (23.7%)	43 (23.1%)	
	女性	376 (21.5%)	368 (21.3%)	382 (21.5%)	127 (12.2%)	125 (12.3%)	132 (12.4%)	477 (18.3%)	466 (18.2%)	26 (14.0%)	27 (14.5%)	
	不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
65歳以上 75歳未満	男性	161 (9.2%)	159 (9.2%)	164 (9.2%)	156 (15.0%)	149 (14.7%)	158 (14.9%)	292 (11.2%)	282 (11.0%)	25 (13.4%)	26 (14.0%)	
	女性	124 (7.1%)	124 (7.2%)	126 (7.1%)	113 (10.9%)	107 (10.5%)	116 (10.9%)	216 (8.3%)	211 (8.3%)	21 (11.3%)	20 (10.8%)	
	不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
75歳以上	男性	94 (5.4%)	92 (5.3%)	95 (5.3%)	191 (18.3%)	187 (18.4%)	194 (18.3%)	262 (10.1%)	256 (10.0%)	23 (12.4%)	23 (12.4%)	
	女性	97 (5.5%)	96 (5.6%)	98 (5.5%)	195 (18.7%)	198 (19.5%)	201 (18.9%)	277 (10.6%)	279 (10.9%)	15 (8.1%)	15 (8.1%)	
	不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
不明	男性	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
	女性	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
	不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
合計	1,748 (100.0%)	1,725 (100.0%)	1,776 (100.0%)	1,041 (100.0%)	1,015 (100.0%)	1,063 (100.0%)	2,603 (100.0%)	2,554 (100.0%)	186 (100.0%)	186 (100.0%)		

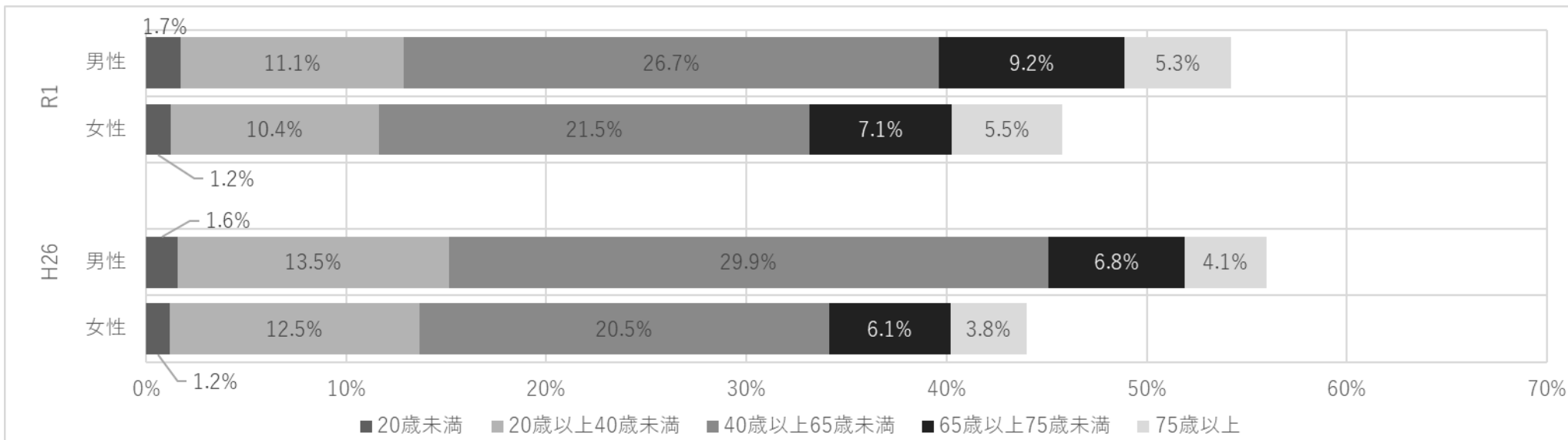


図 13 隔離指示患者の年齢・性別比率の推移 6月30日0時または12時時点（令和元年と平成26年の比較）

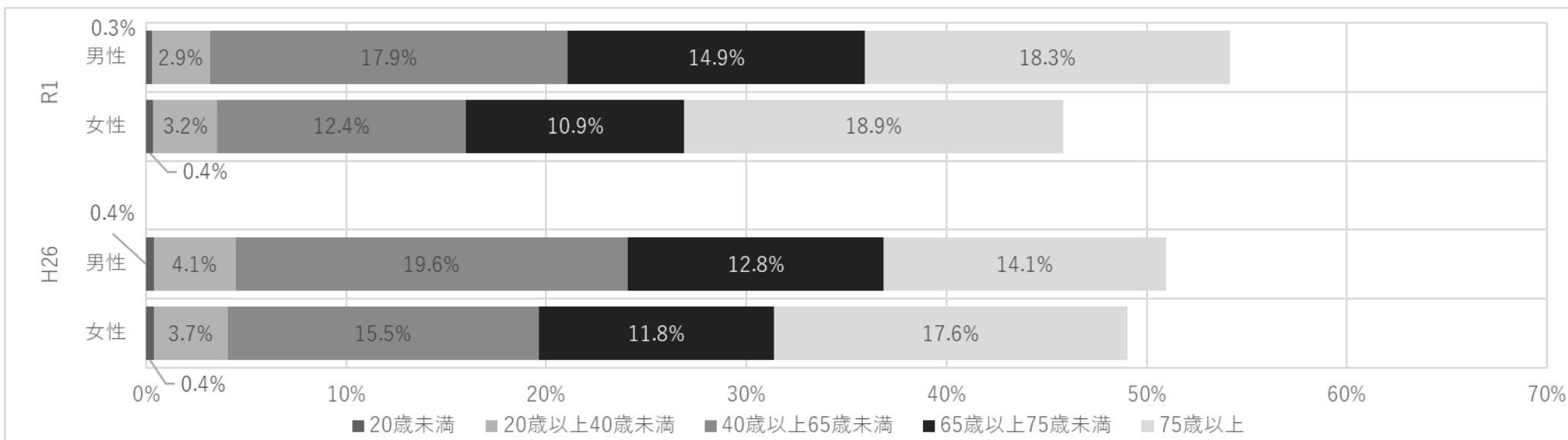


図 14 身体的拘束指示患者の年齢・性別比率の推移 6月30日0時または12時時点（令和元年と平成26年の比較）

表 27 隔離・身体的拘束実施患者数および年齢・性別比率（6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）①平成26年

年齢	性別	平成26年										
		人数(人) ()内は年齢・性別比率(%)										
		隔離実施あり			身体的拘束実施あり			隔離実施または身体的拘束実施のいずれかがあり		隔離実施かつ身体的拘束実施あり		
		0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
20歳未満	男性	26 (1.6%)	16 (1.3%)	26 (1.6%)	5 (0.4%)	3 (0.3%)	5 (0.4%)	29 (1.1%)	18 (0.9%)	2 (1.1%)	1 (0.7%)	
	女性	20 (1.3%)	14 (1.2%)	20 (1.2%)	5 (0.4%)	5 (0.6%)	5 (0.4%)	21 (0.8%)	15 (0.8%)	4 (2.2%)	4 (2.7%)	
	不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
20歳以上 40歳未満	男性	216 (13.6%)	166 (13.9%)	225 (13.7%)	51 (4.5%)	38 (4.3%)	51 (4.3%)	249 (9.8%)	189 (9.8%)	18 (10.1%)	15 (10.1%)	
	女性	199 (12.6%)	160 (13.4%)	208 (12.6%)	40 (3.5%)	37 (4.2%)	43 (3.6%)	218 (8.5%)	179 (9.3%)	21 (11.8%)	18 (12.2%)	
	不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
40歳以上 65歳未満	男性	483 (30.5%)	366 (30.7%)	500 (30.4%)	224 (19.5%)	170 (19.5%)	231 (19.3%)	659 (25.8%)	498 (25.9%)	48 (27.0%)	38 (25.7%)	
	女性	311 (19.6%)	244 (20.4%)	329 (20.0%)	181 (15.8%)	133 (15.2%)	187 (15.6%)	454 (17.8%)	344 (17.9%)	38 (21.3%)	33 (22.3%)	
	不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
65歳以上 75歳未満	男性	107 (6.8%)	77 (6.4%)	112 (6.8%)	150 (13.1%)	106 (12.1%)	156 (13.0%)	244 (9.6%)	173 (9.0%)	13 (7.3%)	10 (6.8%)	
	女性	98 (6.2%)	73 (6.1%)	100 (6.1%)	136 (11.9%)	100 (11.4%)	143 (11.9%)	220 (8.6%)	161 (8.4%)	14 (7.9%)	12 (8.1%)	
	不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
75歳以上	男性	65 (4.1%)	42 (3.5%)	66 (4.0%)	159 (13.9%)	125 (14.3%)	168 (14.0%)	216 (8.5%)	160 (8.3%)	8 (4.5%)	7 (4.7%)	
	女性	58 (3.7%)	36 (3.0%)	61 (3.7%)	195 (17.0%)	157 (18.0%)	210 (17.5%)	241 (9.4%)	183 (9.5%)	12 (6.7%)	10 (6.8%)	
	不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
不明	男性	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
	女性	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
	不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
合計		1,583 (100.0%)	1,194 (100.0%)	1,647 (100.0%)	1,146 (100.0%)	874 (100.0%)	1,199 (100.0%)	2,551 (100.0%)	1,920 (100.0%)	178 (100.0%)	148 (100.0%)	

表 28 隔離・身体的拘束実施患者数および年齢・性別比率（6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）②令和元年

年齢	性別	令和元年										
		人数(人) ()内は年齢・性別比率(%)										
		隔離実施あり			身体的拘束実施あり			隔離実施または 身体的拘束実施のいずれかがあり		隔離実施かつ身体的拘束実施あり		
		0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
20歳未満	男性	31 (1.8%)	26 (2.0%)	31 (1.8%)	3 (0.3%)	3 (0.4%)	3 (0.3%)	32 (1.3%)	27 (1.4%)	2 (1.2%)	2 (1.4%)	
	女性	22 (1.3%)	17 (1.3%)	22 (1.3%)	4 (0.4%)	3 (0.4%)	4 (0.4%)	24 (1.0%)	18 (0.9%)	2 (1.2%)	2 (1.4%)	
	不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
20歳以上 40歳未満	男性	188 (11.2%)	137 (10.7%)	194 (11.3%)	29 (2.9%)	22 (2.8%)	30 (2.9%)	210 (8.4%)	152 (7.8%)	7 (4.0%)	7 (5.0%)	
	女性	171 (10.2%)	137 (10.7%)	176 (10.2%)	30 (3.0%)	23 (2.9%)	30 (2.9%)	184 (7.4%)	148 (7.6%)	17 (9.8%)	12 (8.6%)	
	不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
40歳以上 65歳未満	男性	447 (26.6%)	347 (27.1%)	462 (26.8%)	182 (18.5%)	144 (18.0%)	187 (18.2%)	588 (23.6%)	463 (23.9%)	41 (23.7%)	28 (20.0%)	
	女性	360 (21.4%)	270 (21.1%)	370 (21.5%)	122 (12.4%)	98 (12.3%)	127 (12.3%)	458 (18.4%)	351 (18.1%)	24 (13.9%)	17 (12.1%)	
	不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
65歳以上 75歳未満	男性	157 (9.4%)	118 (9.2%)	160 (9.3%)	151 (15.3%)	125 (15.6%)	155 (15.0%)	283 (11.4%)	219 (11.3%)	25 (14.5%)	24 (17.1%)	
	女性	119 (7.1%)	92 (7.2%)	121 (7.0%)	108 (11.0%)	89 (11.1%)	112 (10.9%)	206 (8.3%)	163 (8.4%)	21 (12.1%)	18 (12.9%)	
	不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
75歳以上	男性	92 (5.5%)	69 (5.4%)	94 (5.5%)	180 (18.3%)	134 (16.8%)	189 (18.3%)	251 (10.1%)	187 (9.6%)	21 (12.1%)	16 (11.4%)	
	女性	92 (5.5%)	68 (5.3%)	94 (5.5%)	176 (17.9%)	159 (19.9%)	193 (18.7%)	255 (10.2%)	213 (11.0%)	13 (7.5%)	14 (10.0%)	
	不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
不明	男性	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
	女性	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
	不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
合計		1,679 (100.0%)	1,281 (100.0%)	1,724 (100.0%)	985 (100.0%)	800 (100.0%)	1,030 (100.0%)	2,491 (100.0%)	1,941 (100.0%)	173 (100.0%)	140 (100.0%)	

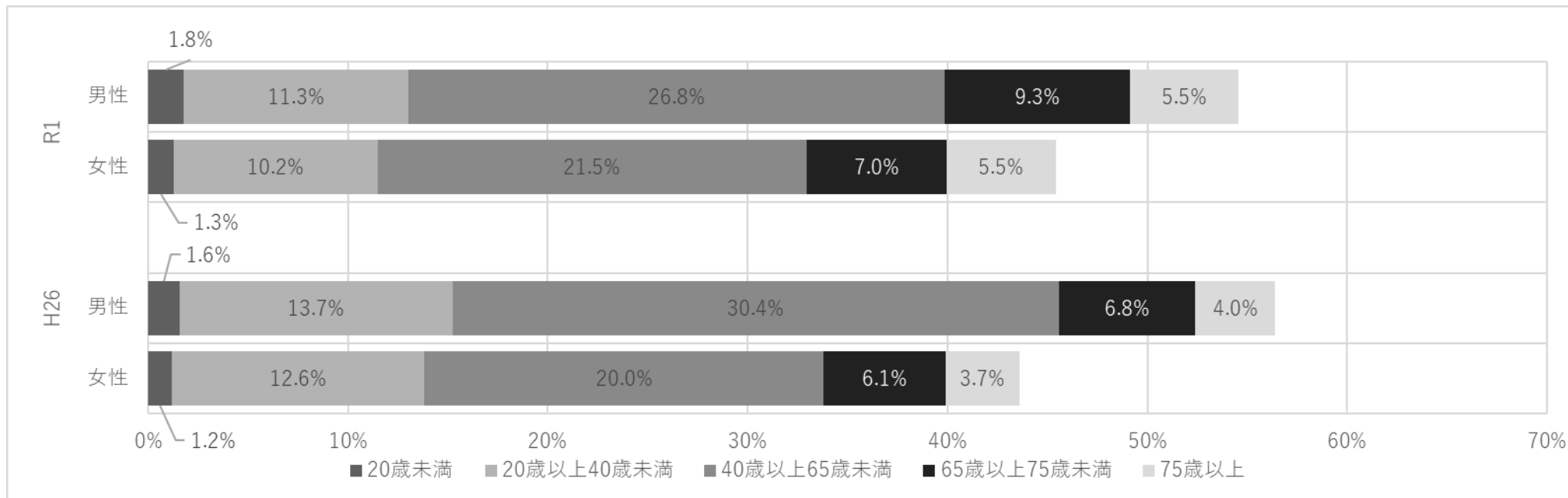


図 15 隔離実施患者の年齢・性別比率の推移 6月30日0時または12時時点（令和元年と平成26年の比較）

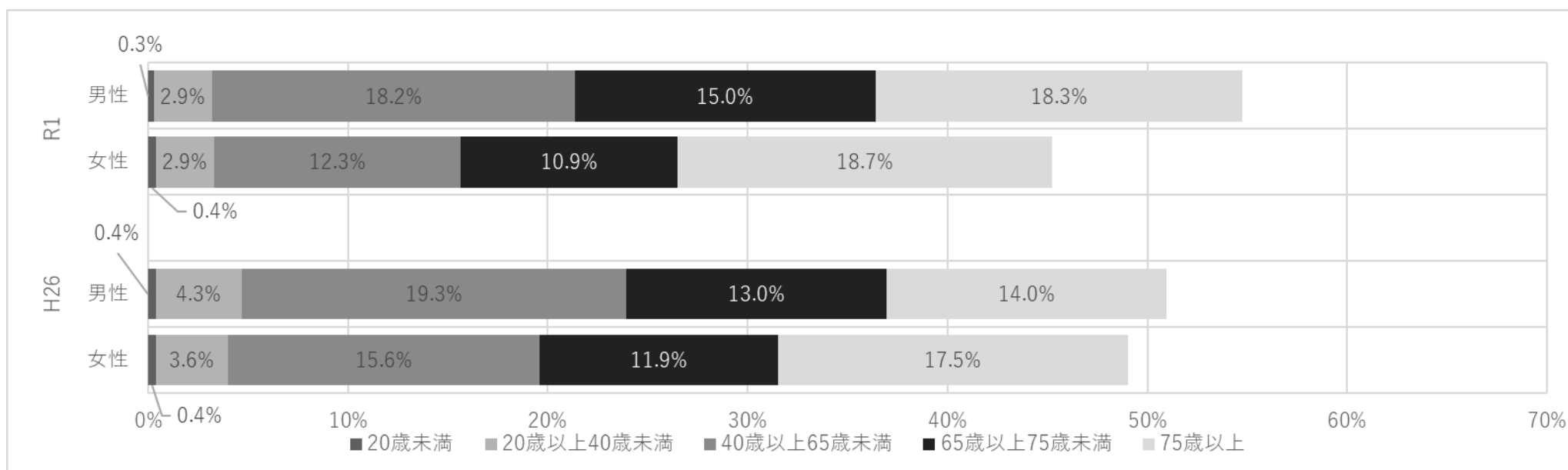


図 16 身体的拘束実施患者の年齢・性別比率の推移 6月30日0時または12時時点（令和元年と平成26年の比較）



表 29 隔離・身体的拘束指示患者数および主診断別比率（6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）①平成21年

主診断		平成21年									
		人数（人）（）内は主診断別比率（％）									
		隔離指示あり			身体的拘束指示あり			隔離指示または身体的拘束指示のいずれかがあり		隔離かつ身体的拘束指示あり	
		0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
F0	症状性を含む器質性精神障害	26 (10.2%)	25 (10.0%)	26 (10.0%)	52 (46.0%)	53 (47.7%)	54 (47.0%)	75 (21.3%)	75 (21.6%)	3 (20.0%)	3 (23.1%)
	F00 アルツハイマー型認知症	10 (3.9%)	9 (3.6%)	10 (3.8%)	28 (24.8%)	28 (25.2%)	29 (25.2%)	38 (10.8%)	37 (10.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	F01 血管性認知症	1 (0.4%)	1 (0.4%)	1 (0.4%)	7 (6.2%)	8 (7.2%)	8 (7.0%)	7 (2.0%)	8 (2.3%)	1 (6.7%)	1 (7.7%)
	F02-09 上記以外の症状性を含む器質性精神障害	15 (5.9%)	15 (6.0%)	15 (5.7%)	17 (15.0%)	17 (15.3%)	17 (14.8%)	30 (8.5%)	30 (8.6%)	2 (13.3%)	2 (15.4%)
F1	精神作用物質による精神及び行動の障害	3 (1.2%)	3 (1.2%)	3 (1.1%)	5 (4.4%)	4 (3.6%)	5 (4.3%)	8 (2.3%)	7 (2.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	F10 アルコール使用による精神及び行動の障害	1 (0.4%)	1 (0.4%)	1 (0.4%)	5 (4.4%)	4 (3.6%)	5 (4.3%)	6 (1.7%)	5 (1.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	覚せい剤による精神及び行動の障害	2 (0.8%)	2 (0.8%)	2 (0.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (0.6%)	2 (0.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	アルコール、覚せい剤を除く精神作用物質使用による精神及び行動の障害	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
F2	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	187 (73.6%)	185 (74.0%)	194 (74.3%)	33 (29.2%)	31 (27.9%)	33 (28.7%)	211 (59.9%)	209 (60.1%)	9 (60.0%)	7 (53.8%)
F3	気分（感情）障害	18 (7.1%)	18 (7.2%)	18 (6.9%)	9 (8.0%)	9 (8.1%)	9 (7.8%)	25 (7.1%)	25 (7.2%)	2 (13.3%)	2 (15.4%)
	F30-31 躁病エピソード・双極性感情障害(躁うつ病)	16 (6.3%)	16 (6.4%)	16 (6.1%)	8 (7.1%)	8 (7.2%)	8 (7.0%)	22 (6.3%)	22 (6.3%)	2 (13.3%)	2 (15.4%)
	F32-39 その他の気分障害	2 (0.8%)	2 (0.8%)	2 (0.8%)	1 (0.9%)	1 (0.9%)	1 (0.9%)	3 (0.9%)	3 (0.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
F4	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	4 (1.6%)	3 (1.2%)	4 (1.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (1.1%)	3 (0.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
F5	生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	1 (0.4%)	1 (0.4%)	1 (0.4%)	2 (1.8%)	2 (1.8%)	2 (1.7%)	2 (0.6%)	2 (0.6%)	1 (6.7%)	1 (7.7%)
F6	成人のパーソナリティ及び行動の障害	1 (0.4%)	1 (0.4%)	1 (0.4%)	1 (0.9%)	1 (0.9%)	1 (0.9%)	2 (0.6%)	2 (0.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
F7	精神遅滞(知的障害)	8 (3.1%)	8 (3.2%)	8 (3.1%)	5 (4.4%)	5 (4.5%)	5 (4.3%)	13 (3.7%)	13 (3.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
F8	心理的発達の障害	1 (0.4%)	1 (0.4%)	1 (0.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.3%)	1 (0.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
F9	小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害及び特定不能の精神障害	1 (0.4%)	1 (0.4%)	1 (0.4%)	1 (0.9%)	1 (0.9%)	1 (0.9%)	2 (0.6%)	2 (0.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	てんかん（F0に属さないものを計上する）	3 (1.2%)	3 (1.2%)	3 (1.1%)	2 (1.8%)	2 (1.8%)	2 (1.7%)	5 (1.4%)	5 (1.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	その他	1 (0.4%)	1 (0.4%)	1 (0.4%)	3 (2.7%)	3 (2.7%)	3 (2.6%)	4 (1.1%)	4 (1.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	合計*	254 (100.0%)	250 (100.0%)	261 (100.0%)	113 (100.0%)	111 (100.0%)	115 (100.0%)	352 (100.0%)	348 (100.0%)	15 (100.0%)	13 (100.0%)

\*大項目の総和を算出。

表 30 隔離・身体的拘束指示患者数および主診断別比率（6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）②令和元年

主診断		令和元年									
		人数（人）（）内は主診断別比率（％）									
		隔離指示あり			身体的拘束指示あり			隔離指示または身体的拘束指示のいずれかがあり		隔離かつ身体的拘束指示あり	
		0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
F0	症状性を含む器質性精神障害	32 (10.0%)	32 (10.0%)	32 (9.9%)	24 (16.9%)	24 (17.0%)	24 (16.9%)	52 (12.0%)	52 (12.0%)	4 (13.3%)	4 (13.3%)
	F00 アルツハイマー型認知症	23 (7.2%)	23 (7.2%)	23 (7.1%)	13 (9.2%)	13 (9.2%)	13 (9.2%)	33 (7.6%)	33 (7.6%)	3 (10.0%)	3 (10.0%)
	F01 血管性認知症	3 (0.9%)	3 (0.9%)	3 (0.9%)	1 (0.7%)	1 (0.7%)	1 (0.7%)	3 (0.7%)	3 (0.7%)	1 (3.3%)	1 (3.3%)
	F02-09 上記以外の症状性を含む器質性精神障害	6 (1.9%)	6 (1.9%)	6 (1.9%)	10 (7.0%)	10 (7.1%)	10 (7.0%)	16 (3.7%)	16 (3.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
F1	精神作用物質による精神及び行動の障害	8 (2.5%)	8 (2.5%)	8 (2.5%)	2 (1.4%)	2 (1.4%)	2 (1.4%)	10 (2.3%)	10 (2.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	F10 アルコール使用による精神及び行動の障害	4 (1.2%)	4 (1.2%)	4 (1.2%)	1 (0.7%)	1 (0.7%)	1 (0.7%)	5 (1.2%)	5 (1.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	覚せい剤による精神及び行動の障害	4 (1.2%)	4 (1.2%)	4 (1.2%)	1 (0.7%)	1 (0.7%)	1 (0.7%)	5 (1.2%)	5 (1.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	アルコール、覚せい剤を除く精神作用物質使用による精神及び行動の障害	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
F2	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	196 (61.1%)	197 (61.4%)	198 (61.3%)	75 (52.8%)	75 (53.2%)	75 (52.8%)	248 (57.3%)	249 (57.6%)	23 (76.7%)	23 (76.7%)
F3	気分（感情）障害	30 (9.3%)	30 (9.3%)	30 (9.3%)	11 (7.7%)	11 (7.8%)	11 (7.7%)	39 (9.0%)	39 (9.0%)	2 (6.7%)	2 (6.7%)
	F30-31 躁病エピソード・双極性感情障害(躁うつ病)	27 (8.4%)	27 (8.4%)	27 (8.4%)	10 (7.0%)	10 (7.1%)	10 (7.0%)	35 (8.1%)	35 (8.1%)	2 (6.7%)	2 (6.7%)
	F32-39 その他の気分障害	3 (0.9%)	3 (0.9%)	3 (0.9%)	1 (0.7%)	1 (0.7%)	1 (0.7%)	4 (0.9%)	4 (0.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
F4	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (1.4%)	2 (1.4%)	2 (1.4%)	2 (0.5%)	2 (0.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
F5	生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	2 (0.6%)	2 (0.6%)	2 (0.6%)	1 (0.7%)	1 (0.7%)	1 (0.7%)	3 (0.7%)	3 (0.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
F6	成人のパーソナリティ及び行動の障害	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
F7	精神遅滞(知的障害)	36 (11.2%)	35 (10.9%)	36 (11.1%)	15 (10.6%)	14 (9.9%)	15 (10.6%)	50 (11.5%)	48 (11.1%)	1 (3.3%)	1 (3.3%)
F8	心理的発達の障害	10 (3.1%)	10 (3.1%)	10 (3.1%)	1 (0.7%)	1 (0.7%)	1 (0.7%)	11 (2.5%)	11 (2.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
F9	小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害及び特定不能の精神障害	2 (0.6%)	2 (0.6%)	2 (0.6%)	1 (0.7%)	1 (0.7%)	1 (0.7%)	3 (0.7%)	3 (0.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	てんかん（F0に属さないものを計上する）	2 (0.6%)	2 (0.6%)	2 (0.6%)	8 (5.6%)	8 (5.7%)	8 (5.6%)	10 (2.3%)	10 (2.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	その他	3 (0.9%)	3 (0.9%)	3 (0.9%)	2 (1.4%)	2 (1.4%)	2 (1.4%)	5 (1.2%)	5 (1.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	合計*	321 (100.0%)	321 (100.0%)	323 (100.0%)	142 (100.0%)	141 (100.0%)	142 (100.0%)	433 (100.0%)	432 (100.0%)	30 (100.0%)	30 (100.0%)

\*大項目の総和を算出。

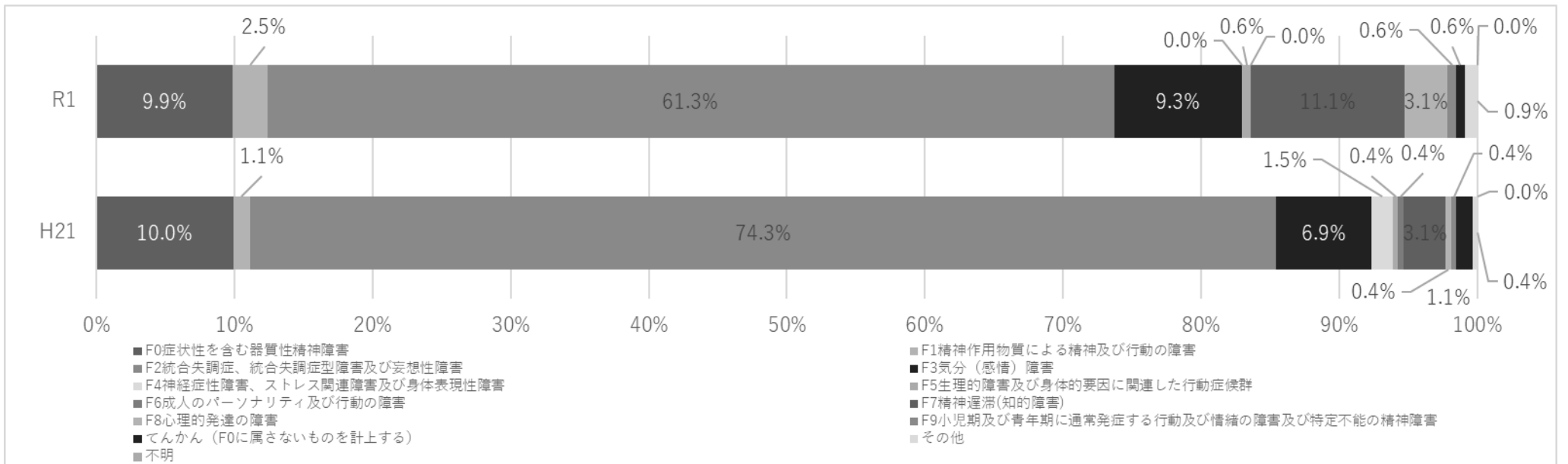


図 17 隔離指示患者の主診断別比率の推移 6月30日0時または12時時点（令和元年と平成21年の比較）

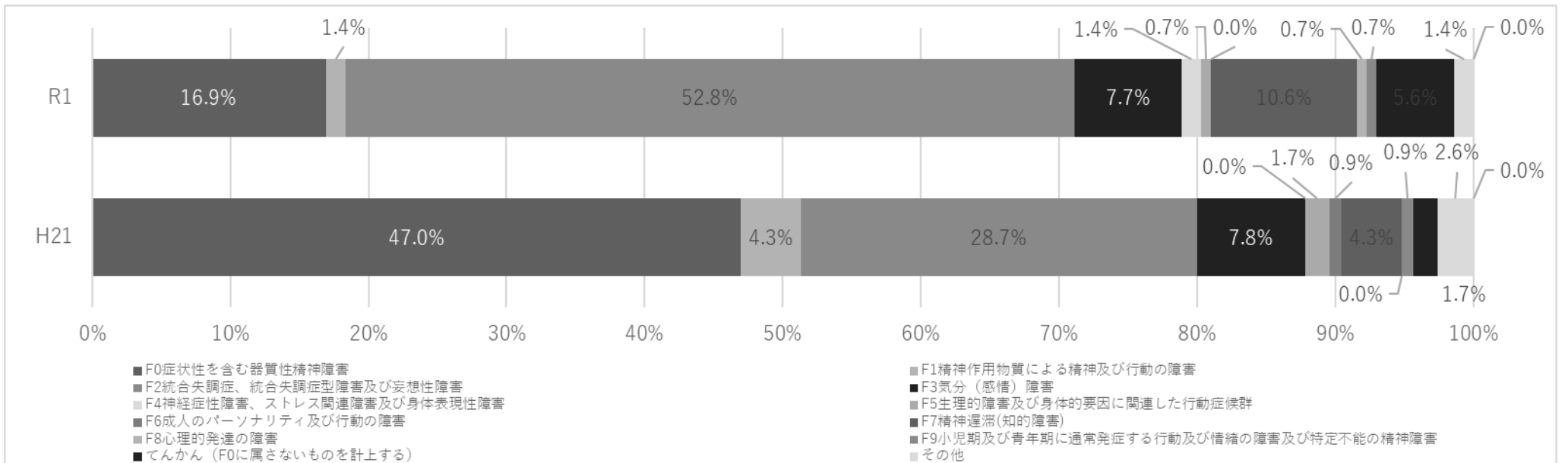


図 18 身体的拘束指示患者の主診断別比率の推移 6月30日0時または12時時点（令和元年と平成21年の比較）

表 31 隔離・身体的拘束実施患者数および主診断別比率（6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）①平成21年

主診断		平成21年									
		人数（人）（）内は主診断別比率（％）									
		隔離実施あり			身体的拘束実施あり			隔離実施または身体的拘束実施のいずれかがあり		隔離かつ身体的拘束実施あり	
		0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
F0	症状性を含む器質性精神障害	24 (10.8%)	15 (9.0%)	24 (10.5%)	37 (42.0%)	39 (54.2%)	48 (47.1%)	58 (19.3%)	53 (22.8%)	3 (30.0%)	1 (14.3%)
	F00 アルツハイマー型認知症	10 (4.5%)	7 (4.2%)	10 (4.4%)	22 (25.0%)	21 (29.2%)	27 (26.5%)	32 (10.7%)	28 (12.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	F01 血管性認知症	1 (0.5%)	0 (0.0%)	1 (0.4%)	3 (3.4%)	7 (9.7%)	7 (6.9%)	3 (1.0%)	7 (3.0%)	1 (10.0%)	0 (0.0%)
	F02-09 上記以外の症状性を含む器質性精神障害	13 (5.9%)	8 (4.8%)	13 (5.7%)	12 (13.6%)	11 (15.3%)	14 (13.7%)	23 (7.7%)	18 (7.8%)	2 (20.0%)	1 (14.3%)
F1	精神作用物質による精神及び行動の障害	2 (0.9%)	2 (1.2%)	2 (0.9%)	5 (5.7%)	4 (5.6%)	5 (4.9%)	7 (2.3%)	6 (2.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	F10 アルコール使用による精神及び行動の障害	1 (0.5%)	1 (0.6%)	1 (0.4%)	5 (5.7%)	4 (5.6%)	5 (4.9%)	6 (2.0%)	5 (2.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	覚せい剤による精神及び行動の障害	1 (0.5%)	1 (0.6%)	1 (0.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.3%)	1 (0.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	アルコール、覚せい剤を除く精神作用物質使用による精神及び行動の障害	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
F2	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	165 (74.3%)	124 (74.3%)	172 (75.1%)	29 (33.0%)	16 (22.2%)	29 (28.4%)	189 (63.0%)	136 (58.6%)	5 (50.0%)	4 (57.1%)
F3	気分（感情）障害	13 (5.9%)	13 (7.8%)	13 (5.7%)	9 (10.2%)	6 (8.3%)	9 (8.8%)	20 (6.7%)	17 (7.3%)	2 (20.0%)	2 (28.6%)
	F30-31 躁病エピソード・双極性感情障害(躁うつ病)	13 (5.9%)	13 (7.8%)	13 (5.7%)	8 (9.1%)	5 (6.9%)	8 (7.8%)	19 (6.3%)	16 (6.9%)	2 (20.0%)	2 (28.6%)
	F32-39 その他の気分障害	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.1%)	1 (1.4%)	1 (1.0%)	1 (0.3%)	1 (0.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
F4	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	3 (1.4%)	2 (1.2%)	3 (1.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (1.0%)	2 (0.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
F5	生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	1 (0.5%)	0 (0.0%)	1 (0.4%)	1 (1.1%)	1 (1.4%)	2 (2.0%)	2 (0.7%)	1 (0.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
F6	成人のパーソナリティ及び行動の障害	1 (0.5%)	1 (0.6%)	1 (0.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.3%)	1 (0.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
F7	精神遅滞(知的障害)	7 (3.2%)	5 (3.0%)	7 (3.1%)	4 (4.5%)	4 (5.6%)	5 (4.9%)	11 (3.7%)	9 (3.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
F8	心理的発達の障害	1 (0.5%)	1 (0.6%)	1 (0.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.3%)	1 (0.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
F9	小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害及び特定不能の精神障害	1 (0.5%)	1 (0.6%)	1 (0.4%)	0 (0.0%)	1 (1.4%)	1 (1.0%)	1 (0.3%)	2 (0.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	てんかん（F0に属さないものを計上する）	3 (1.4%)	3 (1.8%)	3 (1.3%)	2 (2.3%)	1 (1.4%)	2 (2.0%)	5 (1.7%)	4 (1.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	その他	1 (0.5%)	0 (0.0%)	1 (0.4%)	1 (1.1%)	0 (0.0%)	1 (1.0%)	2 (0.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	合計*	222 (100.0%)	167 (100.0%)	229 (100.0%)	88 (100.0%)	72 (100.0%)	102 (100.0%)	300 (100.0%)	232 (100.0%)	10 (100.0%)	7 (100.0%)

\*大項目の総和を算出。

表 32 隔離・身体的拘束実施患者数および主診断別比率（6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）②令和元年

主診断		令和元年									
		人数（人）（）内は主診断別比率（％）									
		隔離実施あり			身体的拘束実施あり			隔離実施または身体的拘束実施のいずれかがあり		隔離かつ身体的拘束実施あり	
		0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
F0	症状性を含む器質性精神障害	27 (9.9%)	22 (9.6%)	27 (9.7%)	21 (18.1%)	12 (17.4%)	22 (18.6%)	47 (12.6%)	34 (11.8%)	1 (6.7%)	0 (0.0%)
	F00 アルツハイマー型認知症	20 (7.3%)	18 (7.9%)	20 (7.2%)	10 (8.6%)	6 (8.7%)	11 (9.3%)	29 (7.8%)	24 (8.4%)	1 (6.7%)	0 (0.0%)
	F01 血管性認知症	1 (0.4%)	1 (0.4%)	1 (0.4%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)	2 (0.5%)	1 (0.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	F02-09 上記以外の症状性を含む器質性精神障害	6 (2.2%)	3 (1.3%)	6 (2.2%)	10 (8.6%)	6 (8.7%)	10 (8.5%)	16 (4.3%)	9 (3.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
F1	精神作用物質による精神及び行動の障害	6 (2.2%)	5 (2.2%)	6 (2.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	6 (1.6%)	5 (1.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	F10 アルコール使用による精神及び行動の障害	4 (1.5%)	3 (1.3%)	4 (1.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (1.1%)	3 (1.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	覚せい剤による精神及び行動の障害	2 (0.7%)	2 (0.9%)	2 (0.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (0.5%)	2 (0.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	アルコール、覚せい剤を除く精神作用物質使用による精神及び行動の障害	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
F2	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	171 (62.6%)	143 (62.4%)	174 (62.4%)	58 (50.0%)	37 (53.6%)	58 (49.2%)	216 (57.8%)	170 (59.2%)	13 (86.7%)	10 (90.9%)
F3	気分（感情）障害	24 (8.8%)	23 (10.0%)	27 (9.7%)	10 (8.6%)	5 (7.2%)	10 (8.5%)	34 (9.1%)	28 (9.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	F30-31 躁病エピソード・双極性感情障害(躁うつ病)	21 (7.7%)	20 (8.7%)	24 (8.6%)	9 (7.8%)	5 (7.2%)	9 (7.6%)	30 (8.0%)	25 (8.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	F32-39 その他の気分障害	3 (1.1%)	3 (1.3%)	3 (1.1%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)	4 (1.1%)	3 (1.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
F4	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (1.7%)	2 (2.9%)	2 (1.7%)	2 (0.5%)	2 (0.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
F5	生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	2 (0.7%)	2 (0.9%)	2 (0.7%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)	3 (0.8%)	2 (0.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
F6	成人のパーソナリティ及び行動の障害	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
F7	精神遅滞(知的障害)	29 (10.6%)	22 (9.6%)	29 (10.4%)	14 (12.1%)	5 (7.2%)	14 (11.9%)	42 (11.2%)	26 (9.1%)	1 (6.7%)	1 (9.1%)
F8	心理的発達の障害	9 (3.3%)	9 (3.9%)	9 (3.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	9 (2.4%)	9 (3.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
F9	小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害及び特定不能の精神障害	2 (0.7%)	0 (0.0%)	2 (0.7%)	1 (0.9%)	1 (1.4%)	1 (0.8%)	3 (0.8%)	1 (0.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	てんかん（F0に属さないものを計上する）	1 (0.4%)	1 (0.4%)	1 (0.4%)	8 (6.9%)	5 (7.2%)	8 (6.8%)	9 (2.4%)	6 (2.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	その他	2 (0.7%)	2 (0.9%)	2 (0.7%)	1 (0.9%)	2 (2.9%)	2 (1.7%)	3 (0.8%)	4 (1.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	合計*	273 (100.0%)	229 (100.0%)	279 (100.0%)	116 (100.0%)	69 (100.0%)	118 (100.0%)	374 (100.0%)	287 (100.0%)	15 (100.0%)	11 (100.0%)

\*大項目の総和を算出。

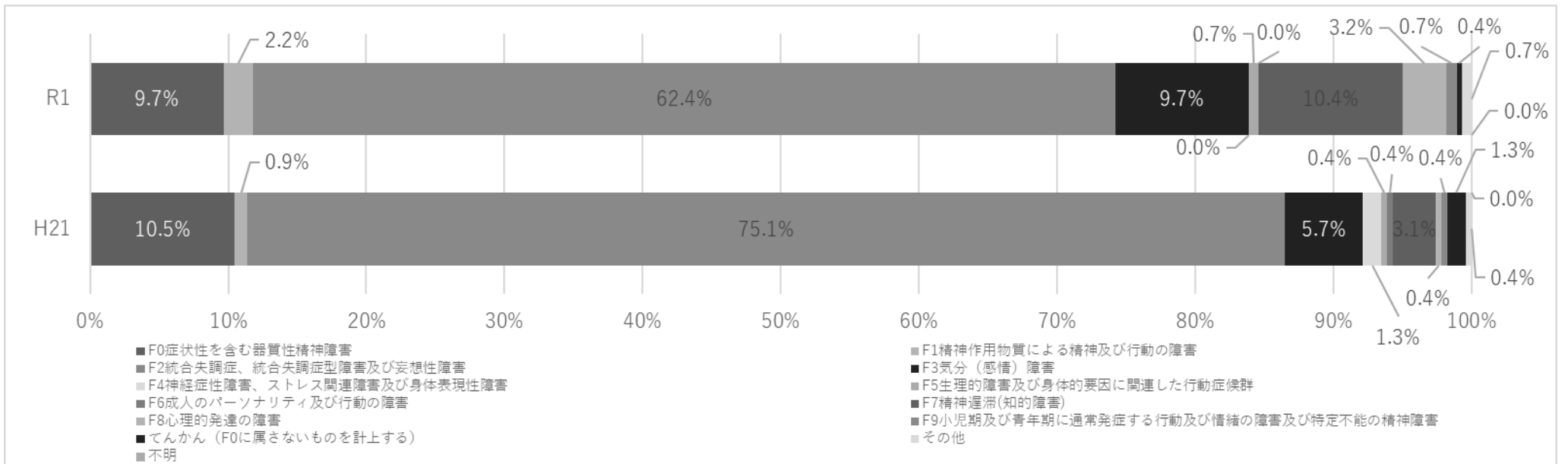


図 19 隔離実施患者の主診断別比率の推移 6月30日0時または12時時点(令和元年と平成21年の比較)

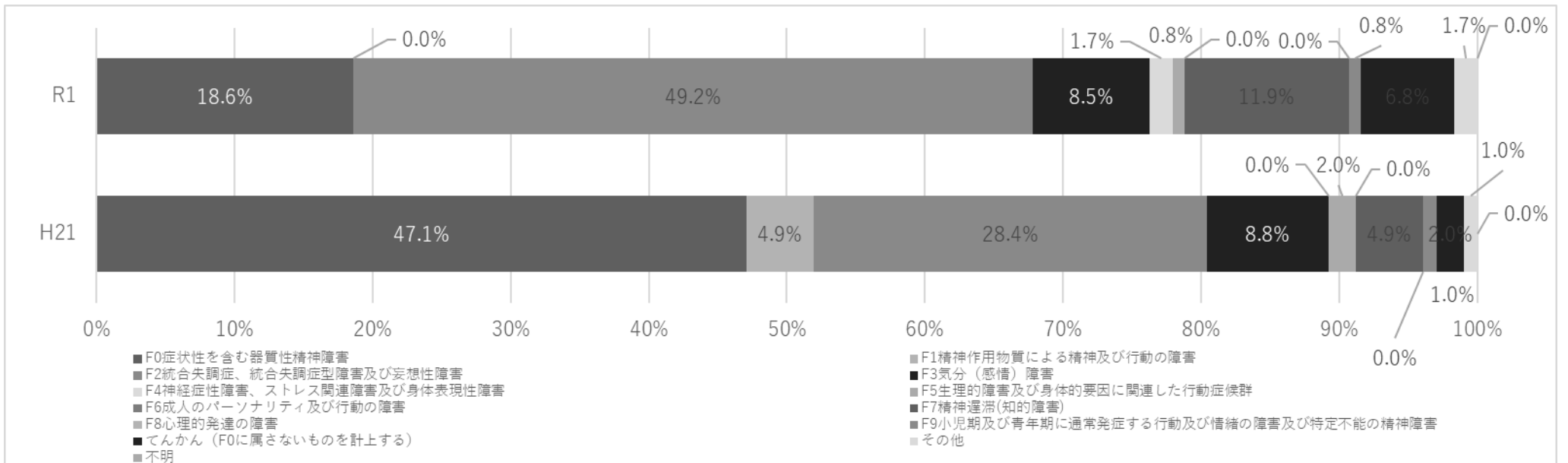


図 20 身体的拘束実施患者の主診断別比率の推移 6月30日0時または12時時点(令和元年と平成21年の比較)

表 33 隔離・身体的拘束指示患者数および主診断別比率（6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）①平成26年

主診断		平成26年									
		人数(人) ( )内は主診断別比率(%)									
		隔離指示あり			身体的拘束指示あり			隔離指示または身体的拘束指示のいずれかがあり		隔離かつ身体的拘束指示あり	
		0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
F0	症状性を含む器質性精神障害	191 (11.6%)	185 (11.7%)	193 (11.5%)	390 (31.9%)	382 (32.3%)	395 (31.8%)	555 (20.8%)	542 (21.0%)	26 (13.3%)	25 (13.0%)
	F00 アルツハイマー型認知症	89 (5.4%)	86 (5.4%)	89 (5.3%)	218 (17.8%)	217 (18.3%)	221 (17.8%)	291 (10.9%)	287 (11.1%)	16 (8.2%)	16 (8.3%)
	F01 血管性認知症	16 (1.0%)	17 (1.1%)	17 (1.0%)	45 (3.7%)	43 (3.6%)	45 (3.6%)	58 (2.2%)	57 (2.2%)	3 (1.5%)	3 (1.6%)
	F02-09 上記以外の症状性を含む器質性精神障害	86 (5.2%)	82 (5.2%)	87 (5.2%)	127 (10.4%)	122 (10.3%)	129 (10.4%)	206 (7.7%)	198 (7.7%)	7 (3.6%)	6 (3.1%)
F1	精神作用物質による精神及び行動の障害	42 (2.6%)	40 (2.5%)	42 (2.5%)	24 (2.0%)	23 (1.9%)	24 (1.9%)	60 (2.2%)	57 (2.2%)	6 (3.1%)	6 (3.1%)
	F10 アルコール使用による精神及び行動の障害	28 (1.7%)	27 (1.7%)	28 (1.7%)	21 (1.7%)	20 (1.7%)	21 (1.7%)	45 (1.7%)	43 (1.7%)	4 (2.0%)	4 (2.1%)
	覚せい剤による精神及び行動の障害	4 (0.2%)	4 (0.3%)	4 (0.2%)	2 (0.2%)	2 (0.2%)	2 (0.2%)	4 (0.1%)	4 (0.2%)	2 (1.0%)	2 (1.0%)
	アルコール、覚せい剤を除く精神作用物質使用による精神及び行動の障害	10 (0.6%)	9 (0.6%)	10 (0.6%)	1 (0.1%)	1 (0.1%)	1 (0.1%)	11 (0.4%)	10 (0.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
F2	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	1,092 (66.4%)	1,052 (66.4%)	1,117 (66.3%)	623 (50.9%)	597 (50.4%)	630 (50.7%)	1,593 (59.6%)	1,530 (59.4%)	122 (62.2%)	119 (62.0%)
F3	気分(感情)障害	145 (8.8%)	141 (8.9%)	154 (9.1%)	88 (7.2%)	88 (7.4%)	92 (7.4%)	213 (8.0%)	209 (8.1%)	20 (10.2%)	20 (10.4%)
	F30-31 躁病エピソード・双極性感情障害(躁うつ病)	104 (6.3%)	102 (6.4%)	111 (6.6%)	49 (4.0%)	45 (3.8%)	49 (3.9%)	142 (5.3%)	137 (5.3%)	11 (5.6%)	10 (5.2%)
	F32-39 その他の気分障害	41 (2.5%)	39 (2.5%)	43 (2.6%)	39 (3.2%)	43 (3.6%)	43 (3.5%)	71 (2.7%)	72 (2.8%)	9 (4.6%)	10 (5.2%)
F4	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	22 (1.3%)	20 (1.3%)	22 (1.3%)	8 (0.7%)	6 (0.5%)	8 (0.6%)	28 (1.0%)	24 (0.9%)	2 (1.0%)	2 (1.0%)
F5	生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	5 (0.3%)	5 (0.3%)	5 (0.3%)	1 (0.1%)	2 (0.2%)	2 (0.2%)	5 (0.2%)	6 (0.2%)	1 (0.5%)	1 (0.5%)
F6	成人のパーソナリティ及び行動の障害	13 (0.8%)	11 (0.7%)	14 (0.8%)	2 (0.2%)	2 (0.2%)	2 (0.2%)	14 (0.5%)	12 (0.5%)	1 (0.5%)	1 (0.5%)
F7	精神遅滞(知的障害)	56 (3.4%)	55 (3.5%)	58 (3.4%)	36 (2.9%)	36 (3.0%)	37 (3.0%)	87 (3.3%)	86 (3.3%)	5 (2.6%)	5 (2.6%)
F8	心理的発達の障害	36 (2.2%)	34 (2.1%)	36 (2.1%)	12 (1.0%)	11 (0.9%)	12 (1.0%)	43 (1.6%)	40 (1.6%)	5 (2.6%)	5 (2.6%)
F9	小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害及び特定不能の精神障害	9 (0.5%)	9 (0.6%)	9 (0.5%)	5 (0.4%)	5 (0.4%)	5 (0.4%)	11 (0.4%)	11 (0.4%)	3 (1.5%)	3 (1.6%)
	てんかん (F0に属さないものを計上する)	9 (0.5%)	8 (0.5%)	9 (0.5%)	11 (0.9%)	10 (0.8%)	11 (0.9%)	18 (0.7%)	16 (0.6%)	2 (1.0%)	2 (1.0%)
	その他	17 (1.0%)	17 (1.1%)	17 (1.0%)	22 (1.8%)	21 (1.8%)	22 (1.8%)	37 (1.4%)	36 (1.4%)	2 (1.0%)	2 (1.0%)
	不明	7 (0.4%)	8 (0.5%)	8 (0.5%)	1 (0.1%)	1 (0.1%)	2 (0.2%)	7 (0.3%)	8 (0.3%)	1 (0.5%)	1 (0.5%)
	合計*	1,644 (100.0%)	1,585 (100.0%)	1,684 (100.0%)	1,223 (100.0%)	1,184 (100.0%)	1,242 (100.0%)	2,671 (100.0%)	2,577 (100.0%)	196 (100.0%)	192 (100.0%)

\*大項目の総和を算出。

表 34 隔離・身体的拘束指示患者数および主診断別比率（6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）②令和元年

主診断		令和元年									
		人数（人）（）内は主診断別比率（％）									
		隔離指示あり			身体的拘束指示あり			隔離指示または身体的拘束指示のいずれかがあり		隔離かつ身体的拘束指示あり	
		0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
F0	症状性を含む器質性精神障害	222 (12.7%)	220 (12.8%)	227 (12.8%)	375 (36.0%)	371 (36.6%)	385 (36.2%)	560 (21.5%)	554 (21.7%)	37 (19.9%)	37 (19.9%)
	F00 アルツハイマー型認知症	104 (5.9%)	100 (5.8%)	104 (5.9%)	215 (20.7%)	210 (20.7%)	220 (20.7%)	304 (11.7%)	295 (11.6%)	15 (8.1%)	15 (8.1%)
	F01 血管性認知症	18 (1.0%)	17 (1.0%)	18 (1.0%)	33 (3.2%)	31 (3.1%)	34 (3.2%)	50 (1.9%)	47 (1.8%)	1 (0.5%)	1 (0.5%)
	F02-09 上記以外の症状性を含む器質性精神障害	100 (5.7%)	103 (6.0%)	105 (5.9%)	127 (12.2%)	130 (12.8%)	131 (12.3%)	206 (7.9%)	212 (8.3%)	21 (11.3%)	21 (11.3%)
F1	精神作用物質による精神及び行動の障害	40 (2.3%)	38 (2.2%)	40 (2.3%)	23 (2.2%)	22 (2.2%)	23 (2.2%)	54 (2.1%)	51 (2.0%)	9 (4.8%)	9 (4.8%)
	F10 アルコール使用による精神及び行動の障害	25 (1.4%)	24 (1.4%)	25 (1.4%)	16 (1.5%)	15 (1.5%)	16 (1.5%)	37 (1.4%)	35 (1.4%)	4 (2.2%)	4 (2.2%)
	覚せい剤による精神及び行動の障害	11 (0.6%)	10 (0.6%)	11 (0.6%)	4 (0.4%)	4 (0.4%)	4 (0.4%)	11 (0.4%)	10 (0.4%)	4 (2.2%)	4 (2.2%)
	アルコール、覚せい剤を除く精神作用物質使用による精神及び行動の障害	4 (0.2%)	4 (0.2%)	4 (0.2%)	3 (0.3%)	3 (0.3%)	3 (0.3%)	6 (0.2%)	6 (0.2%)	1 (0.5%)	1 (0.5%)
F2	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	1,070 (61.2%)	1,051 (60.9%)	1,087 (61.2%)	484 (46.5%)	467 (46.0%)	493 (46.4%)	1,460 (56.1%)	1,424 (55.8%)	94 (50.5%)	94 (50.5%)
F3	気分（感情）障害	174 (10.0%)	176 (10.2%)	177 (10.0%)	75 (7.2%)	73 (7.2%)	77 (7.2%)	227 (8.7%)	228 (8.9%)	22 (11.8%)	21 (11.3%)
	F30-31 躁病エピソード・双極性感情障害(躁うつ病)	111 (6.4%)	112 (6.5%)	113 (6.4%)	46 (4.4%)	45 (4.4%)	48 (4.5%)	145 (5.6%)	145 (5.7%)	12 (6.5%)	12 (6.5%)
	F32-39 その他の気分障害	63 (3.6%)	64 (3.7%)	64 (3.6%)	29 (2.8%)	28 (2.8%)	29 (2.7%)	82 (3.2%)	83 (3.2%)	10 (5.4%)	9 (4.8%)
F4	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	37 (2.1%)	35 (2.0%)	37 (2.1%)	7 (0.7%)	8 (0.8%)	8 (0.8%)	38 (1.5%)	37 (1.4%)	6 (3.2%)	6 (3.2%)
F5	生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	5 (0.3%)	4 (0.2%)	5 (0.3%)	1 (0.1%)	1 (0.1%)	1 (0.1%)	6 (0.2%)	5 (0.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
F6	成人のパーソナリティ及び行動の障害	14 (0.8%)	14 (0.8%)	14 (0.8%)	4 (0.4%)	4 (0.4%)	4 (0.4%)	16 (0.6%)	16 (0.6%)	2 (1.1%)	2 (1.1%)
F7	精神遅滞(知的障害)	75 (4.3%)	77 (4.5%)	78 (4.4%)	36 (3.5%)	35 (3.4%)	36 (3.4%)	102 (3.9%)	102 (4.0%)	9 (4.8%)	10 (5.4%)
F8	心理的発達の障害	53 (3.0%)	53 (3.1%)	53 (3.0%)	7 (0.7%)	6 (0.6%)	7 (0.7%)	59 (2.3%)	58 (2.3%)	1 (0.5%)	1 (0.5%)
F9	小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害及び特定不能の精神障害	15 (0.9%)	15 (0.9%)	15 (0.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	15 (0.6%)	15 (0.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	てんかん（F0に属さないものを計上する）	13 (0.7%)	12 (0.7%)	13 (0.7%)	6 (0.6%)	5 (0.5%)	6 (0.6%)	18 (0.7%)	16 (0.6%)	1 (0.5%)	1 (0.5%)
	その他	27 (1.5%)	27 (1.6%)	27 (1.5%)	21 (2.0%)	21 (2.1%)	21 (2.0%)	44 (1.7%)	44 (1.7%)	4 (2.2%)	4 (2.2%)
	不明	3 (0.2%)	3 (0.2%)	3 (0.2%)	2 (0.2%)	2 (0.2%)	2 (0.2%)	4 (0.2%)	4 (0.2%)	1 (0.5%)	1 (0.5%)
	合計*	1,748 (100.0%)	1,725 (100.0%)	1,776 (100.0%)	1,041 (100.0%)	1,015 (100.0%)	1,063 (100.0%)	2,603 (100.0%)	2,554 (100.0%)	186 (100.0%)	186 (100.0%)

\*大項目の総和を算出。



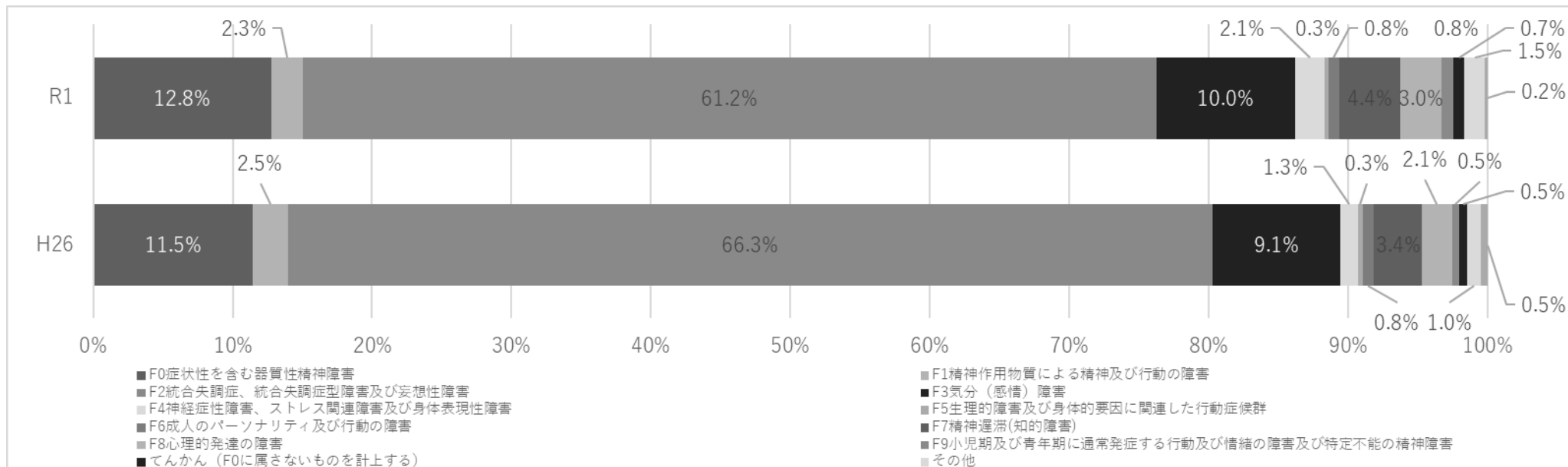


図 21 隔離指示患者の主診断別比率の推移 6月30日0時または12時時点（令和元年と平成26年の比較）

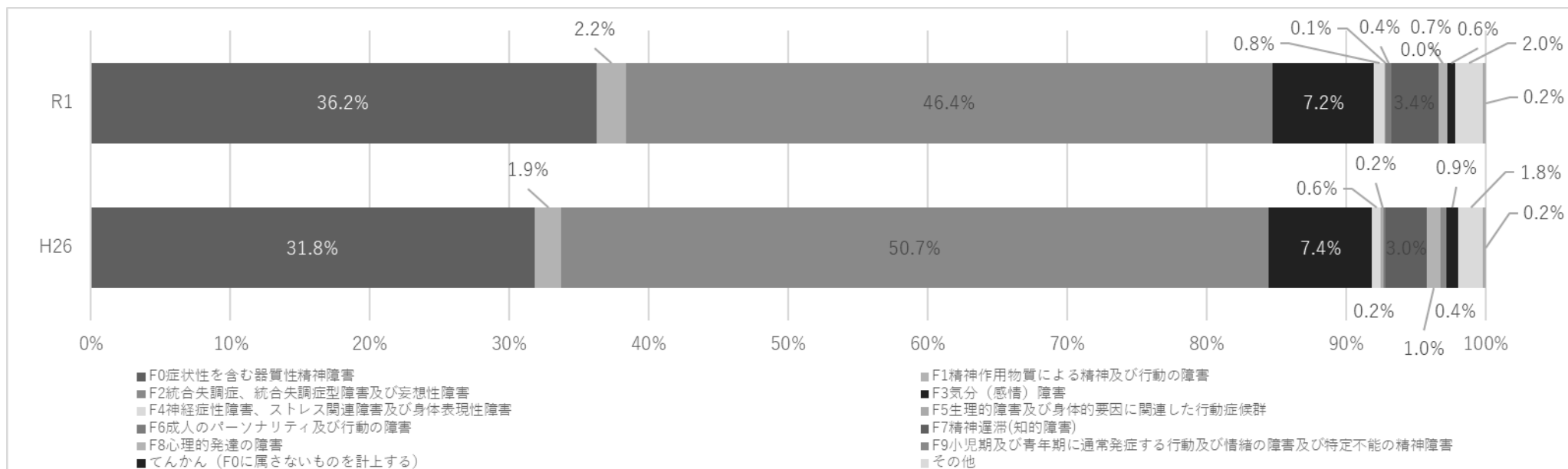


図 22 身体的拘束指示患者の主診断別比率の推移 6月30日0時または12時時点（令和元年と平成26年の比較）

表 35 隔離・身体的拘束実施患者数および主診断別比率（6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）①平成26年

主診断		平成26年									
		人数(人) ( )内は主診断別比率(%)									
		隔離実施あり			身体的拘束実施あり			隔離実施または身体的拘束実施のいずれかがあり		隔離かつ身体的拘束実施あり	
		0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
F0	症状性を含む器質性精神障害	180 (11.4%)	117 (9.8%)	184 (11.2%)	353 (30.8%)	259 (29.6%)	380 (31.7%)	511 (20.0%)	358 (18.6%)	22 (12.4%)	18 (12.2%)
	F00 アルツハイマー型認知症	83 (5.2%)	51 (4.3%)	83 (5.0%)	192 (16.8%)	146 (16.7%)	209 (17.4%)	263 (10.3%)	187 (9.7%)	12 (6.7%)	10 (6.8%)
	F01 血管性認知症	16 (1.0%)	10 (0.8%)	17 (1.0%)	41 (3.6%)	30 (3.4%)	44 (3.7%)	54 (2.1%)	37 (1.9%)	3 (1.7%)	3 (2.0%)
	F02-09 上記以外の症状性を含む器質性精神障害	81 (5.1%)	56 (4.7%)	84 (5.1%)	120 (10.5%)	83 (9.5%)	127 (10.6%)	194 (7.6%)	134 (7.0%)	7 (3.9%)	5 (3.4%)
F1	精神作用物質による精神及び行動の障害	42 (2.7%)	30 (2.5%)	42 (2.6%)	22 (1.9%)	18 (2.1%)	22 (1.8%)	59 (2.3%)	44 (2.3%)	5 (2.8%)	4 (2.7%)
	F10 アルコール使用による精神及び行動の障害	28 (1.8%)	20 (1.7%)	28 (1.7%)	19 (1.7%)	15 (1.7%)	19 (1.6%)	44 (1.7%)	33 (1.7%)	3 (1.7%)	2 (1.4%)
	覚せい剤による精神及び行動の障害	4 (0.3%)	3 (0.3%)	4 (0.2%)	2 (0.2%)	2 (0.2%)	2 (0.2%)	4 (0.2%)	3 (0.2%)	2 (1.1%)	2 (1.4%)
	アルコール、覚せい剤を除く精神作用物質使用による精神及び行動の障害	10 (0.6%)	7 (0.6%)	10 (0.6%)	1 (0.1%)	1 (0.1%)	1 (0.1%)	11 (0.4%)	8 (0.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
F2	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	1,052 (66.5%)	798 (66.8%)	1,097 (66.6%)	595 (51.9%)	452 (51.7%)	609 (50.8%)	1,535 (60.2%)	1,155 (60.2%)	112 (62.9%)	95 (64.2%)
F3	気分(感情)障害	139 (8.8%)	111 (9.3%)	148 (9.0%)	83 (7.2%)	69 (7.9%)	90 (7.5%)	204 (8.0%)	165 (8.6%)	18 (10.1%)	15 (10.1%)
	F30-31 躁病エピソード・双極性感情障害(躁うつ病)	99 (6.3%)	79 (6.6%)	106 (6.4%)	47 (4.1%)	38 (4.3%)	49 (4.1%)	136 (5.3%)	110 (5.7%)	10 (5.6%)	7 (4.7%)
	F32-39 その他の気分障害	40 (2.5%)	32 (2.7%)	42 (2.6%)	36 (3.1%)	31 (3.5%)	41 (3.4%)	68 (2.7%)	55 (2.9%)	8 (4.5%)	8 (5.4%)
F4	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	22 (1.4%)	17 (1.4%)	22 (1.3%)	7 (0.6%)	5 (0.6%)	7 (0.6%)	27 (1.1%)	20 (1.0%)	2 (1.1%)	2 (1.4%)
F5	生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	5 (0.3%)	5 (0.4%)	5 (0.3%)	1 (0.1%)	2 (0.2%)	2 (0.2%)	5 (0.2%)	6 (0.3%)	1 (0.6%)	1 (0.7%)
F6	成人のパーソナリティ及び行動の障害	13 (0.8%)	9 (0.8%)	14 (0.9%)	2 (0.2%)	2 (0.2%)	2 (0.2%)	14 (0.5%)	10 (0.5%)	1 (0.6%)	1 (0.7%)
F7	精神遅滞(知的障害)	56 (3.5%)	47 (3.9%)	58 (3.5%)	34 (3.0%)	26 (3.0%)	36 (3.0%)	86 (3.4%)	70 (3.6%)	4 (2.2%)	3 (2.0%)
F8	心理的発達の障害	34 (2.1%)	28 (2.3%)	35 (2.1%)	11 (1.0%)	7 (0.8%)	11 (0.9%)	40 (1.6%)	33 (1.7%)	5 (2.8%)	2 (1.4%)
F9	小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害及び特定不能の精神障害	9 (0.6%)	6 (0.5%)	9 (0.5%)	5 (0.4%)	5 (0.6%)	5 (0.4%)	11 (0.4%)	8 (0.4%)	3 (1.7%)	3 (2.0%)
	てんかん (F0に属さないものを計上する)	8 (0.5%)	6 (0.5%)	8 (0.5%)	11 (1.0%)	9 (1.0%)	11 (0.9%)	17 (0.7%)	13 (0.7%)	2 (1.1%)	2 (1.4%)
	その他	17 (1.1%)	13 (1.1%)	17 (1.0%)	21 (1.8%)	19 (2.2%)	22 (1.8%)	36 (1.4%)	31 (1.6%)	2 (1.1%)	1 (0.7%)
	不明	6 (0.4%)	7 (0.6%)	8 (0.5%)	1 (0.1%)	1 (0.1%)	2 (0.2%)	6 (0.2%)	7 (0.4%)	1 (0.6%)	1 (0.7%)
	合計*	1,583 (100.0%)	1,194 (100.0%)	1,647 (100.0%)	1,146 (100.0%)	874 (100.0%)	1,199 (100.0%)	2,551 (100.0%)	1,920 (100.0%)	178 (100.0%)	148 (100.0%)

\*大項目の総和を算出。

表 36 隔離・身体的拘束実施患者数および主診断別比率（6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）②令和元年

主診断		令和元年									
		人数（人）（）内は主診断別比率（％）									
		隔離実施あり			身体的拘束実施あり			隔離実施または身体的拘束実施のいずれかがあり		隔離かつ身体的拘束実施あり	
		0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
F0	症状性を含む器質性精神障害	216 (12.9%)	160 (12.5%)	223 (12.9%)	352 (35.7%)	274 (34.3%)	372 (36.1%)	534 (21.4%)	404 (20.8%)	34 (19.7%)	30 (21.4%)
	F00 アルツハイマー型認知症	101 (6.0%)	68 (5.3%)	102 (5.9%)	202 (20.5%)	159 (19.9%)	213 (20.7%)	289 (11.6%)	215 (11.1%)	14 (8.1%)	12 (8.6%)
	F01 血管性認知症	18 (1.1%)	12 (0.9%)	18 (1.0%)	30 (3.0%)	24 (3.0%)	33 (3.2%)	48 (1.9%)	35 (1.8%)	0 (0.0%)	1 (0.7%)
	F02-09 上記以外の症状性を含む器質性精神障害	97 (5.8%)	80 (6.2%)	103 (6.0%)	120 (12.2%)	91 (11.4%)	126 (12.2%)	197 (7.9%)	154 (7.9%)	20 (11.6%)	17 (12.1%)
F1	精神作用物質による精神及び行動の障害	40 (2.4%)	34 (2.7%)	40 (2.3%)	22 (2.2%)	21 (2.6%)	22 (2.1%)	54 (2.2%)	47 (2.4%)	8 (4.6%)	8 (5.7%)
	F10 アルコール使用による精神及び行動の障害	25 (1.5%)	22 (1.7%)	25 (1.5%)	16 (1.6%)	15 (1.9%)	16 (1.6%)	37 (1.5%)	33 (1.7%)	4 (2.3%)	4 (2.9%)
	覚せい剤による精神及び行動の障害	11 (0.7%)	8 (0.6%)	11 (0.6%)	3 (0.3%)	3 (0.4%)	3 (0.3%)	11 (0.4%)	8 (0.4%)	3 (1.7%)	3 (2.1%)
	アルコール、覚せい剤を除く精神作用物質使用による精神及び行動の障害	4 (0.2%)	4 (0.3%)	4 (0.2%)	3 (0.3%)	3 (0.4%)	3 (0.3%)	6 (0.2%)	6 (0.3%)	1 (0.6%)	1 (0.7%)
F2	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	1,020 (60.8%)	767 (59.9%)	1,049 (60.8%)	465 (47.2%)	371 (46.4%)	480 (46.6%)	1,398 (56.1%)	1,073 (55.3%)	87 (50.3%)	65 (46.4%)
F3	気分（感情）障害	170 (10.1%)	142 (11.1%)	174 (10.1%)	70 (7.1%)	61 (7.6%)	73 (7.1%)	218 (8.8%)	186 (9.6%)	22 (12.7%)	17 (12.1%)
	F30-31 躁病エピソード・双極性感情障害(躁うつ病)	108 (6.4%)	85 (6.6%)	110 (6.4%)	43 (4.4%)	39 (4.9%)	46 (4.5%)	139 (5.6%)	115 (5.9%)	12 (6.9%)	9 (6.4%)
	F32-39 その他の気分障害	62 (3.7%)	57 (4.4%)	64 (3.7%)	27 (2.7%)	22 (2.8%)	27 (2.6%)	79 (3.2%)	71 (3.7%)	10 (5.8%)	8 (5.7%)
F4	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	37 (2.2%)	24 (1.9%)	37 (2.1%)	6 (0.6%)	8 (1.0%)	8 (0.8%)	37 (1.5%)	27 (1.4%)	6 (3.5%)	5 (3.6%)
F5	生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	5 (0.3%)	3 (0.2%)	5 (0.3%)	1 (0.1%)	1 (0.1%)	1 (0.1%)	6 (0.2%)	4 (0.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
F6	成人のパーソナリティ及び行動の障害	13 (0.8%)	9 (0.7%)	13 (0.8%)	4 (0.4%)	3 (0.4%)	4 (0.4%)	15 (0.6%)	10 (0.5%)	2 (1.2%)	2 (1.4%)
F7	精神遅滞(知的障害)	74 (4.4%)	56 (4.4%)	76 (4.4%)	35 (3.6%)	29 (3.6%)	35 (3.4%)	100 (4.0%)	78 (4.0%)	9 (5.2%)	7 (5.0%)
F8	心理的発達の障害	49 (2.9%)	41 (3.2%)	51 (3.0%)	5 (0.5%)	4 (0.5%)	6 (0.6%)	54 (2.2%)	45 (2.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
F9	小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害及び特定不能の精神障害	15 (0.9%)	11 (0.9%)	15 (0.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	15 (0.6%)	11 (0.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	てんかん（F0に属さないものを計上する）	12 (0.7%)	10 (0.8%)	12 (0.7%)	6 (0.6%)	5 (0.6%)	6 (0.6%)	17 (0.7%)	14 (0.7%)	1 (0.6%)	1 (0.7%)
	その他	25 (1.5%)	21 (1.6%)	26 (1.5%)	18 (1.8%)	21 (2.6%)	21 (2.0%)	40 (1.6%)	38 (2.0%)	3 (1.7%)	4 (2.9%)
	不明	3 (0.2%)	3 (0.2%)	3 (0.2%)	1 (0.1%)	2 (0.3%)	2 (0.2%)	3 (0.1%)	4 (0.2%)	1 (0.6%)	1 (0.7%)
	合計*	1,679 (100.0%)	1,281 (100.0%)	1,724 (100.0%)	985 (100.0%)	800 (100.0%)	1,030 (100.0%)	2,491 (100.0%)	1,941 (100.0%)	173 (100.0%)	140 (100.0%)

\*大項目の総和を算出。

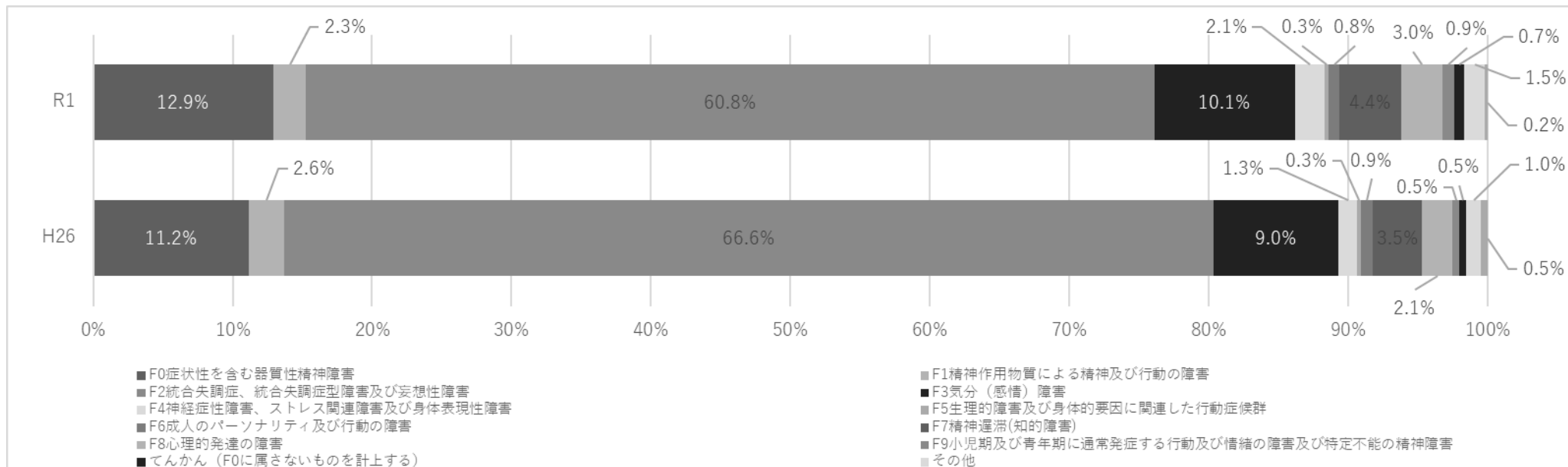


図 23 隔離実施患者の主診断別比率の推移 6月30日0時または12時時点（令和元年と平成26年の比較）

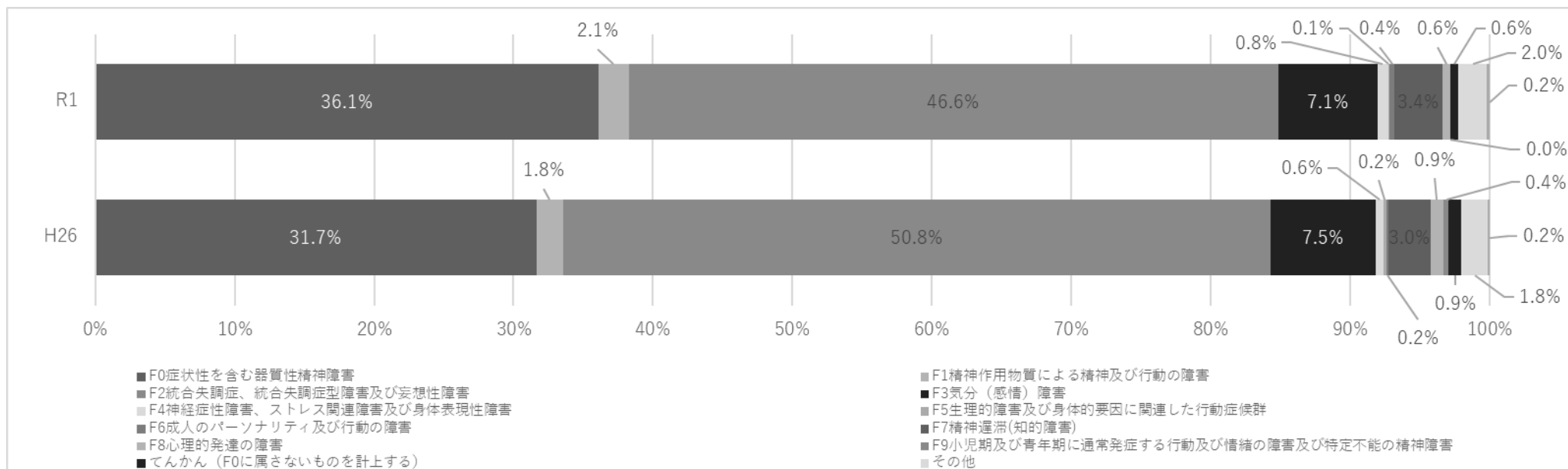


図 24 身体的拘束実施患者の主診断別比率の推移 6月30日0時または12時時点（令和元年と平成26年の比較）

表 37 隔離・身体的拘束指示患者数および入院形態別比率（6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）①平成21年

入院形態	平成21年										
	人数（人）()内は入院形態の内訳(%)										
	隔離指示あり			身体的拘束指示あり			隔離指示または身体的拘束指示のいずれかがあり		隔離かつ身体的拘束指示あり		
	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
任意入院	24 (9.4%)	21 (8.4%)	25 (9.6%)	23 (20.4%)	21 (18.9%)	23 (20.0%)	47 (13.4%)	42 (12.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
医療保護入院	225 (88.6%)	224 (89.6%)	231 (88.5%)	88 (77.9%)	88 (79.3%)	90 (78.3%)	298 (84.7%)	299 (85.9%)	15 (100.0%)	13 (100.0%)	
緊急措置入院	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
措置入院	3 (1.2%)	3 (1.2%)	3 (1.1%)	1 (0.9%)	1 (0.9%)	1 (0.9%)	4 (1.1%)	4 (1.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
応急入院	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
鑑定入院	1 (0.4%)	1 (0.4%)	1 (0.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.3%)	1 (0.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
医療観察法による入院	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
不明	1 (0.4%)	1 (0.4%)	1 (0.4%)	1 (0.9%)	1 (0.9%)	1 (0.9%)	2 (0.6%)	2 (0.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
合計	254 (100.0%)	250 (100.0%)	261 (100.0%)	113 (100.0%)	111 (100.0%)	115 (100.0%)	352 (100.0%)	348 (100.0%)	15 (100.0%)	13 (100.0%)	

表 38 隔離・身体的拘束指示患者数および入院形態別比率（6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）②令和元年

入院形態	令和元年										
	人数（人）()内は入院形態の内訳(%)										
	隔離指示あり			身体的拘束指示あり			隔離指示または身体的拘束指示のいずれかがあり		隔離かつ身体的拘束指示あり		
	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
任意入院	26 (8.1%)	26 (8.1%)	26 (8.0%)	21 (14.8%)	21 (14.9%)	21 (14.8%)	47 (10.9%)	47 (10.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
医療保護入院	275 (85.7%)	274 (85.4%)	276 (85.4%)	102 (71.8%)	101 (71.6%)	102 (71.8%)	347 (80.1%)	345 (79.9%)	30 (100.0%)	30 (100.0%)	
緊急措置入院	2 (0.6%)	2 (0.6%)	2 (0.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (0.5%)	2 (0.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
措置入院	7 (2.2%)	7 (2.2%)	7 (2.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (1.6%)	7 (1.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
応急入院	3 (0.9%)	4 (1.2%)	4 (1.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (0.7%)	4 (0.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
鑑定入院	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
医療観察法による入院	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
不明	8 (2.5%)	8 (2.5%)	8 (2.5%)	19 (13.4%)	19 (13.5%)	19 (13.4%)	27 (6.2%)	27 (6.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
合計	321 (100.0%)	321 (100.0%)	323 (100.0%)	142 (100.0%)	141 (100.0%)	142 (100.0%)	433 (100.0%)	432 (100.0%)	30 (100.0%)	30 (100.0%)	

表 39 隔離・身体的拘束実施患者数および入院形態別比率（6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）①平成21年

入院形態	平成21年									
	人数（人）()内は入院形態の内訳(%)									
	隔離実施あり			身体的拘束実施あり			隔離実施または身体的拘束実施のいずれかがあり		隔離かつ身体的拘束実施あり	
	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
任意入院	22 (9.9%)	15 (9.0%)	23 (10.0%)	16 (18.2%)	12 (16.7%)	19 (18.6%)	38 (12.7%)	27 (11.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
医療保護入院	196 (88.3%)	149 (89.2%)	202 (88.2%)	70 (79.5%)	59 (81.9%)	81 (79.4%)	256 (85.3%)	201 (86.6%)	10 (100.0%)	7 (100.0%)
緊急措置入院	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
措置入院	2 (0.9%)	2 (1.2%)	2 (0.9%)	1 (1.1%)	1 (1.4%)	1 (1.0%)	3 (1.0%)	3 (1.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
応急入院	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
鑑定入院	1 (0.5%)	0 (0.0%)	1 (0.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
医療観察法による入院	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
不明	1 (0.5%)	1 (0.6%)	1 (0.4%)	1 (1.1%)	0 (0.0%)	1 (1.0%)	2 (0.7%)	1 (0.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
合計	222 (100.0%)	167 (100.0%)	229 (100.0%)	88 (100.0%)	72 (100.0%)	102 (100.0%)	300 (100.0%)	232 (100.0%)	10 (100.0%)	7 (100.0%)

表 40 隔離・身体的拘束実施患者数および入院形態別比率（6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）②令和元年

入院形態	令和元年									
	人数（人）()内は入院形態の内訳(%)									
	隔離実施あり			身体的拘束実施あり			隔離実施または身体的拘束実施のいずれかがあり		隔離かつ身体的拘束実施あり	
	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
任意入院	21 (7.7%)	18 (7.9%)	21 (7.5%)	14 (12.1%)	6 (8.7%)	14 (11.9%)	35 (9.4%)	24 (8.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
医療保護入院	236 (86.4%)	201 (87.8%)	240 (86.0%)	83 (71.6%)	55 (79.7%)	85 (72.0%)	304 (81.3%)	245 (85.4%)	15 (100.0%)	11 (100.0%)
緊急措置入院	2 (0.7%)	1 (0.4%)	2 (0.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (0.5%)	1 (0.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
措置入院	5 (1.8%)	4 (1.7%)	6 (2.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	5 (1.3%)	4 (1.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
応急入院	2 (0.7%)	3 (1.3%)	3 (1.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (0.5%)	3 (1.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
鑑定入院	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
医療観察法による入院	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
不明	7 (2.6%)	2 (0.9%)	7 (2.5%)	19 (16.4%)	8 (11.6%)	19 (16.1%)	26 (7.0%)	10 (3.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
合計	273 (100.0%)	229 (100.0%)	279 (100.0%)	116 (100.0%)	69 (100.0%)	118 (100.0%)	374 (100.0%)	287 (100.0%)	15 (100.0%)	11 (100.0%)

表 41 隔離・身体的拘束指示患者数および入院形態別比率（6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）①平成26年

入院形態	平成26年										
	人数（人）()内は入院形態の内訳(%)										
	隔離指示あり			身体的拘束指示あり			隔離指示または身体的拘束指示のいずれかがあり		隔離かつ身体的拘束指示あり		
	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
任意入院	155 (9.4%)	155 (9.8%)	165 (9.8%)	152 (12.4%)	147 (12.4%)	154 (12.4%)	293 (11.0%)	288 (11.2%)	14 (7.1%)	14 (7.3%)	
医療保護入院	1,388 (84.4%)	1,332 (84.0%)	1,416 (84.1%)	1,055 (86.3%)	1,022 (86.3%)	1,072 (86.3%)	2,273 (85.1%)	2,188 (84.9%)	170 (86.7%)	166 (86.5%)	
緊急措置入院	10 (0.6%)	10 (0.6%)	11 (0.7%)	4 (0.3%)	3 (0.3%)	4 (0.3%)	11 (0.4%)	10 (0.4%)	3 (1.5%)	3 (1.6%)	
措置入院	79 (4.8%)	77 (4.9%)	80 (4.8%)	12 (1.0%)	12 (1.0%)	12 (1.0%)	82 (3.1%)	80 (3.1%)	9 (4.6%)	9 (4.7%)	
応急入院	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
鑑定入院	9 (0.5%)	9 (0.6%)	9 (0.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	9 (0.3%)	9 (0.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
医療観察法による入院	3 (0.2%)	2 (0.1%)	3 (0.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (0.1%)	2 (0.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
合計	1,644 (100.0%)	1,585 (100.0%)	1,684 (100.0%)	1,223 (100.0%)	1,184 (100.0%)	1,242 (100.0%)	2,671 (100.0%)	2,577 (100.0%)	196 (100.0%)	192 (100.0%)	

表 42 隔離・身体的拘束指示患者数および入院形態別比率（6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）②令和元年

入院形態	令和元年										
	人数（人）()内は入院形態の内訳(%)										
	隔離指示あり			身体的拘束指示あり			隔離指示または身体的拘束指示のいずれかがあり		隔離かつ身体的拘束指示あり		
	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
任意入院	127 (7.3%)	117 (6.8%)	130 (7.3%)	90 (8.6%)	90 (8.9%)	91 (8.6%)	208 (8.0%)	197 (7.7%)	9 (4.8%)	10 (5.4%)	
医療保護入院	1,516 (86.7%)	1,504 (87.2%)	1,541 (86.8%)	939 (90.2%)	912 (89.9%)	959 (90.2%)	2,287 (87.9%)	2,250 (88.1%)	168 (90.3%)	166 (89.2%)	
緊急措置入院	5 (0.3%)	5 (0.3%)	5 (0.3%)	1 (0.1%)	2 (0.2%)	2 (0.2%)	5 (0.2%)	5 (0.2%)	1 (0.5%)	2 (1.1%)	
措置入院	87 (5.0%)	86 (5.0%)	87 (4.9%)	10 (1.0%)	10 (1.0%)	10 (0.9%)	89 (3.4%)	88 (3.4%)	8 (4.3%)	8 (4.3%)	
応急入院	1 (0.1%)	1 (0.1%)	1 (0.1%)	1 (0.1%)	1 (0.1%)	1 (0.1%)	2 (0.1%)	2 (0.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
鑑定入院	9 (0.5%)	9 (0.5%)	9 (0.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	9 (0.3%)	9 (0.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
医療観察法による入院	3 (0.2%)	3 (0.2%)	3 (0.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (0.1%)	3 (0.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
合計	1,748 (100.0%)	1,725 (100.0%)	1,776 (100.0%)	1,041 (100.0%)	1,015 (100.0%)	1,063 (100.0%)	2,603 (100.0%)	2,554 (100.0%)	186 (100.0%)	186 (100.0%)	

表 43 隔離・身体的拘束実施患者数および入院形態別比率（6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）①平成26年

入院形態	平成26年									
	人数（人）()内は入院形態の内訳(%)									
	隔離実施あり			身体的拘束実施あり			隔離実施または身体的拘束実施のいずれかがあり		隔離かつ身体的拘束実施あり	
	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
任意入院	154 (9.7%)	126 (10.6%)	164 (10.0%)	143 (12.5%)	98 (11.2%)	147 (12.3%)	284 (11.1%)	213 (11.1%)	13 (7.3%)	11 (7.4%)
医療保護入院	1,331 (84.1%)	987 (82.7%)	1,383 (84.0%)	988 (86.2%)	762 (87.2%)	1,037 (86.5%)	2,165 (84.9%)	1,623 (84.5%)	154 (86.5%)	126 (85.1%)
緊急措置入院	9 (0.6%)	7 (0.6%)	10 (0.6%)	4 (0.3%)	3 (0.3%)	4 (0.3%)	10 (0.4%)	7 (0.4%)	3 (1.7%)	3 (2.0%)
措置入院	77 (4.9%)	65 (5.4%)	78 (4.7%)	11 (1.0%)	11 (1.3%)	11 (0.9%)	80 (3.1%)	68 (3.5%)	8 (4.5%)	8 (5.4%)
応急入院	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
鑑定入院	9 (0.6%)	7 (0.6%)	9 (0.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	9 (0.4%)	7 (0.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
医療観察法による入院	3 (0.2%)	2 (0.2%)	3 (0.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (0.1%)	2 (0.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
合計	1,583 (100.0%)	1,194 (100.0%)	1,647 (100.0%)	1,146 (100.0%)	874 (100.0%)	1,199 (100.0%)	2,551 (100.0%)	1,920 (100.0%)	178 (100.0%)	148 (100.0%)

表 44 隔離・身体的拘束実施患者数および入院形態別比率（6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）②令和元年

入院形態	令和元年									
	人数（人）()内は入院形態の内訳(%)									
	隔離実施あり			身体的拘束実施あり			隔離実施または身体的拘束実施のいずれかがあり		隔離かつ身体的拘束実施あり	
	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
任意入院	122 (7.3%)	91 (7.1%)	125 (7.3%)	86 (8.7%)	70 (8.8%)	87 (8.4%)	200 (8.0%)	152 (7.8%)	8 (4.6%)	9 (6.4%)
医療保護入院	1,454 (86.6%)	1,113 (86.9%)	1,496 (86.8%)	887 (90.1%)	719 (89.9%)	931 (90.4%)	2,185 (87.7%)	1,709 (88.0%)	156 (90.2%)	123 (87.9%)
緊急措置入院	5 (0.3%)	3 (0.2%)	5 (0.3%)	1 (0.1%)	1 (0.1%)	1 (0.1%)	5 (0.2%)	3 (0.2%)	1 (0.6%)	1 (0.7%)
措置入院	85 (5.1%)	67 (5.2%)	85 (4.9%)	10 (1.0%)	9 (1.1%)	10 (1.0%)	87 (3.5%)	69 (3.6%)	8 (4.6%)	7 (5.0%)
応急入院	1 (0.1%)	1 (0.1%)	1 (0.1%)	1 (0.1%)	1 (0.1%)	1 (0.1%)	2 (0.1%)	2 (0.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
鑑定入院	9 (0.5%)	6 (0.5%)	9 (0.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	9 (0.4%)	6 (0.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
医療観察法による入院	3 (0.2%)	0 (0.0%)	3 (0.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (0.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
合計	1,679 (100.0%)	1,281 (100.0%)	1,724 (100.0%)	985 (100.0%)	800 (100.0%)	1,030 (100.0%)	2,491 (100.0%)	1,941 (100.0%)	173 (100.0%)	140 (100.0%)



表 45 隔離・身体的拘束指示患者に対して、実施患者の割合（6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）

	在院患者 総数 (人) ※6月30日時点の 在院患者	隔離								
		0時			12時			0時または12時		
		指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されていた患者 に対して、実施された患者 の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されていた患者 に対して、実施された患者 の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されていた患者 に対して、実施された患者 の割合(%)
平成21年	8,974	254	222	87.4%	250	167	66.8%	261	229	87.7%
令和元年	8,034	321	273	85.0%	321	229	71.3%	323	279	86.4%

	在院患者 総数 (人) ※6月30日時点の 在院患者	身体的拘束								
		0時			12時			0時または12時		
		指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されていた患者 に対して、実施された患者 の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されていた患者 に対して、実施された患者 の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されていた患者 に対して、実施された患者 の割合(%)
平成21年	8,974	113	88	77.9%	111	72	64.9%	115	102	88.7%
令和元年	8,034	142	116	81.7%	141	69	48.9%	142	118	83.1%

表 46 隔離・身体的拘束指示患者に対して、実施患者の割合（6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）

	在院患者 総数 (人) ※6月30日時点の 在院患者	隔離								
		0時時点			12時時点			0時または12時		
		指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されていた患者 に対して、実施された患者 の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されていた患者 に対して、実施された患者 の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されていた患者 に対して、実施された患者 の割合(%)
平成26年	34,504	1,644	1,583	96.3%	1,585	1,194	75.3%	1,684	1,647	97.8%
令和元年	32,903	1,748	1,679	96.1%	1,725	1,281	74.3%	1,776	1,724	97.1%

	在院患者 総数 (人) ※6月30日時点の 在院患者	身体的拘束								
		0時			12時			0時または12時		
		指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されていた患者 に対して、実施された患者 の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されていた患者 に対して、実施された患者 の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されていた患者 に対して、実施された患者 の割合(%)
平成26年	34,504	1,223	1,146	93.7%	1,184	874	73.8%	1,242	1,199	96.5%
令和元年	32,903	1,041	985	94.6%	1,015	800	78.8%	1,063	1,030	96.9%

表 47 隔離・身体的拘束指示患者に対して、実施患者の割合（入院料別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）①平成21年

病棟入院料	平成21年																	
	隔離									身体的拘束								
	0時			12時			0時または12時			0時			12時			0時または12時		
	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)
精神科救急入院料	13	13	100.0%	15	15	100.0%	15	15	100.0%	2	2	100.0%	2	2	100.0%	2	2	100.0%
精神科救急・合併症入院料	4	4	100.0%	4	4	100.0%	4	4	100.0%	1	1	100.0%	1	1	100.0%	1	1	100.0%
精神科急性期治療病棟入院料	36	27	75.0%	35	18	51.4%	36	27	75.0%	7	5	71.4%	6	4	66.7%	7	5	71.4%
精神療養病棟入院料	49	49	100.0%	49	40	81.6%	49	49	100.0%	15	10	66.7%	15	12	80.0%	15	13	86.7%
認知症病棟入院料	7	7	100.0%	7	4	57.1%	7	7	100.0%	18	13	72.2%	20	17	85.0%	20	19	95.0%
特殊疾患病棟入院料	1	1	100.0%	1	1	100.0%	1	1	100.0%	3	3	100.0%	3	2	66.7%	3	3	100.0%
小児入院医療管理料3	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
医療観察法入院対象者入院医学管理料	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
10対1入院基本料	7	0	0.0%	5	0	0.0%	7	0	0.0%	2	2	100.0%	2	2	100.0%	2	2	100.0%
15対1入院基本料	132	116	87.9%	128	79	61.7%	136	120	88.2%	64	51	79.7%	61	31	50.8%	64	56	87.5%
18対1入院基本料	0	0	-	0	0	-	0	0	-	1	1	100.0%	1	1	100.0%	1	1	100.0%
20対1入院基本料	1	1	100.0%	1	1	100.0%	1	1	100.0%	0	0	-	0	0	-	0	0	-
特別入院基本料	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
特定機能病院入院基本料(7対1)	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
特定機能病院入院基本料(10対1)	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
特定機能病院入院基本料(15対1)	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
その他	4	4	100.0%	5	5	100.0%	5	5	100.0%	0	0	-	0	0	-	0	0	-
合計	254	222	87.4%	250	167	66.8%	261	229	87.7%	113	88	77.9%	111	72	64.9%	115	102	88.7%

表 48 隔離・身体的拘束指示患者に対して、実施患者の割合（入院料別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）②令和元年

病棟入院料	令和元年																	
	隔離									身体的拘束								
	0時			12時			0時または12時			0時			12時			0時または12時		
	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)
精神科救急入院料	34	28	82.4%	36	29	80.6%	36	32	88.9%	2	2	100.0%	2	2	100.0%	2	2	100.0%
精神科救急・合併症入院料	11	9	81.8%	11	5	45.5%	11	9	81.8%	9	8	88.9%	9	5	55.6%	9	8	88.9%
精神科急性期治療病棟入院料（医師配置加算あり）	45	35	77.8%	45	28	62.2%	45	36	80.0%	15	10	66.7%	15	6	40.0%	15	10	66.7%
精神科急性期治療病棟入院料（医師配置加算なし）	10	10	100.0%	10	8	80.0%	10	10	100.0%	2	2	100.0%	2	2	100.0%	2	2	100.0%
精神療養病棟入院料	55	48	87.3%	55	41	74.5%	55	49	89.1%	21	17	81.0%	21	14	66.7%	21	17	81.0%
認知症治療病棟入院料	12	10	83.3%	12	10	83.3%	12	10	83.3%	2	1	50.0%	2	2	100.0%	2	2	100.0%
特殊疾患病棟入院料	8	7	87.5%	8	2	25.0%	8	7	87.5%	12	12	100.0%	12	2	16.7%	12	12	100.0%
地域移行機能強化病棟入院料	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
児童・思春期精神科入院医療管理料	2	2	100.0%	2	2	100.0%	2	2	100.0%	0	0	-	0	0	-	0	0	-
医療観察法入院対象者入院医学管理料	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
10対1入院基本料	0	0	-	0	0	-	0	0	-	4	4	100.0%	4	4	100.0%	4	4	100.0%
13対1入院基本料	4	3	75.0%	4	3	75.0%	4	3	75.0%	10	10	100.0%	9	3	33.3%	10	10	100.0%
15対1入院基本料	136	117	86.0%	134	97	72.4%	136	117	86.0%	62	47	75.8%	62	26	41.9%	62	48	77.4%
18対1入院基本料	2	2	100.0%	2	2	100.0%	2	2	100.0%	3	3	100.0%	3	3	100.0%	3	3	100.0%
20対1入院基本料	2	2	100.0%	2	2	100.0%	2	2	100.0%	0	0	-	0	0	-	0	0	-
特別入院基本料	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
特定機能病院入院基本料(7対1)	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
特定機能病院入院基本料(10対1)	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
特定機能病院入院基本料(13対1)	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
特定機能病院入院基本料(15対1)	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
その他	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
合計	321	273	85.0%	321	229	71.3%	323	279	86.4%	142	116	81.7%	141	69	48.9%	142	118	83.1%

表 49 隔離・身体的拘束指示患者に対して、実施患者の割合（入院料別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）①平成26年

病棟入院料	平成26年																	
	隔離									身体的拘束								
	0時			12時			0時または12時			0時			12時			0時または12時		
	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)
精神科救急入院料	323	297	92.0%	307	236	76.9%	330	315	95.5%	62	56	90.3%	60	46	76.7%	64	59	92.2%
精神科救急・合併症入院料	8	8	100.0%	7	7	100.0%	8	8	100.0%	17	17	100.0%	17	17	100.0%	17	17	100.0%
精神科急性期治療病棟入院料（医師配置加算あり）	74	73	98.6%	69	51	73.9%	76	75	98.7%	17	17	100.0%	16	8	50.0%	17	17	100.0%
精神科急性期治療病棟入院料（医師配置加算なし）	91	90	98.9%	85	61	71.8%	94	93	98.9%	31	29	93.5%	27	23	85.2%	32	31	96.9%
精神療養病棟入院料	308	305	99.0%	308	240	77.9%	320	318	99.4%	249	233	93.6%	238	173	72.7%	250	240	96.0%
認知症治療病棟入院料	51	49	96.1%	48	25	52.1%	51	50	98.0%	162	143	88.3%	163	97	59.5%	168	161	95.8%
特殊疾患病棟入院料	7	7	100.0%	8	7	87.5%	8	8	100.0%	7	7	100.0%	7	5	71.4%	7	7	100.0%
小児入院医療管理料5	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
児童・思春期精神科入院医療管理料	16	15	93.8%	15	8	53.3%	16	15	93.8%	3	3	100.0%	3	3	100.0%	3	3	100.0%
医療観察法入院対象者入院医学管理料	2	2	100.0%	2	2	100.0%	2	2	100.0%	0	0	-	0	0	-	0	0	-
10対1入院基本料	43	43	100.0%	41	35	85.4%	45	45	100.0%	39	39	100.0%	36	33	91.7%	39	39	100.0%
13対1入院基本料	54	51	94.4%	54	48	88.9%	56	53	94.6%	49	45	91.8%	49	36	73.5%	50	46	92.0%
15対1入院基本料	659	635	96.4%	633	466	73.6%	670	657	98.1%	567	537	94.7%	543	408	75.1%	570	554	97.2%
18対1入院基本料	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
20対1入院基本料	3	3	100.0%	3	3	100.0%	3	3	100.0%	0	0	-	0	0	-	0	0	-
特別入院基本料	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
特定機能病院入院基本料(7対1)	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
特定機能病院入院基本料(10対1)	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
特定機能病院入院基本料(13対1)	3	3	100.0%	3	3	100.0%	3	3	100.0%	3	3	100.0%	3	3	100.0%	3	3	100.0%
特定機能病院入院基本料(15対1)	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
その他	2	2	100.0%	2	2	100.0%	2	2	100.0%	17	17	100.0%	22	22	100.0%	22	22	100.0%
合計	1,644	1,583	96.3%	1,585	1,194	75.3%	1,684	1,647	97.8%	1,223	1,146	93.7%	1,184	874	73.8%	1,242	1,199	96.5%

表 50 隔離・身体的拘束指示患者に対して、実施患者の割合（入院料別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）②令和元年

病棟入院料	令和元年																	
	隔離									身体的拘束								
	0時			12時			0時または12時			0時			12時			0時または12時		
	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)
精神科救急入院料	411	385	93.7%	408	305	74.8%	417	399	95.7%	68	57	83.8%	70	58	82.9%	71	68	95.8%
精神科救急・合併症入院料	9	9	100.0%	9	9	100.0%	9	9	100.0%	9	9	100.0%	9	8	88.9%	9	9	100.0%
精神科急性期治療病棟入院料（医師配置加算あり）	115	114	99.1%	112	89	79.5%	116	115	99.1%	44	42	95.5%	42	37	88.1%	44	42	95.5%
精神科急性期治療病棟入院料（医師配置加算なし）	73	73	100.0%	75	60	80.0%	76	76	100.0%	30	29	96.7%	31	22	71.0%	31	31	100.0%
精神療養病棟入院料	315	306	97.1%	316	226	71.5%	320	311	97.2%	216	207	95.8%	198	167	84.3%	218	211	96.8%
認知症治療病棟入院料	46	46	100.0%	44	29	65.9%	46	46	100.0%	122	113	92.6%	116	92	79.3%	126	123	97.6%
特殊疾患病棟入院料	5	5	100.0%	5	5	100.0%	5	5	100.0%	5	5	100.0%	5	5	100.0%	5	5	100.0%
地域移行機能強化病棟入院料	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
児童・思春期精神科入院医療管理料	21	21	100.0%	20	15	75.0%	21	21	100.0%	3	3	100.0%	3	3	100.0%	3	3	100.0%
医療観察法入院対象者入院医学管理料	3	3	100.0%	3	0	0.0%	3	3	100.0%	0	0	-	0	0	-	0	0	-
10対1入院基本料	16	15	93.8%	17	14	82.4%	17	16	94.1%	13	12	92.3%	15	12	80.0%	15	14	93.3%
13対1入院基本料	48	44	91.7%	48	37	77.1%	48	46	95.8%	44	33	75.0%	45	30	66.7%	45	38	84.4%
15対1入院基本料	680	653	96.0%	660	486	73.6%	689	669	97.1%	465	453	97.4%	456	341	74.8%	469	459	97.9%
18対1入院基本料	1	1	100.0%	0	0	-	1	1	100.0%	2	2	100.0%	0	0	-	2	2	100.0%
20対1入院基本料	3	3	100.0%	3	2	66.7%	3	3	100.0%	0	0	-	0	0	-	0	0	-
特別入院基本料	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
特定機能病院入院基本料(7対1)	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
特定機能病院入院基本料(10対1)	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
特定機能病院入院基本料(13対1)	2	1	50.0%	2	1	50.0%	2	1	50.0%	0	0	-	0	0	-	0	0	-
特定機能病院入院基本料(15対1)	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
その他	0	0	-	3	3	100.0%	3	3	100.0%	20	20	100.0%	25	25	100.0%	25	25	100.0%
合計	1,748	1,679	96.1%	1,725	1,281	74.3%	1,776	1,724	97.1%	1,041	985	94.6%	1,015	800	78.8%	1,063	1,030	96.9%

表 51 隔離・身体的拘束指示患者に対して、実施患者の割合（年齢性別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）①平成21年

年齢	性別	平成21年																	
		隔離									身体的拘束								
		0時			12時			0時または12時			0時			12時			0時または12時		
		指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)
20歳未満	男性	3	2	66.7%	3	0	0.0%	3	2	66.7%	0	0	-	0	0	-	0	0	-
	女性	2	2	100.0%	3	2	66.7%	3	3	100.0%	0	0	-	0	0	-	0	0	-
	不明	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
20歳以上 40歳未満	男性	42	36	85.7%	38	25	65.8%	42	36	85.7%	3	1	33.3%	2	1	50.0%	3	2	66.7%
	女性	23	23	100.0%	22	17	77.3%	23	23	100.0%	4	3	75.0%	4	2	50.0%	4	3	75.0%
	不明	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
40歳以上 65歳未満	男性	78	66	84.6%	77	51	66.2%	79	67	84.8%	24	22	91.7%	22	15	68.2%	24	22	91.7%
	女性	62	52	83.9%	61	42	68.9%	65	55	84.6%	15	11	73.3%	15	8	53.3%	15	13	86.7%
	不明	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
65歳以上 75歳未満	男性	16	15	93.8%	17	10	58.8%	17	16	94.1%	12	10	83.3%	12	8	66.7%	12	10	83.3%
	女性	9	9	100.0%	10	9	90.0%	10	10	100.0%	10	9	90.0%	10	5	50.0%	10	9	90.0%
	不明	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
75歳以上	男性	14	12	85.7%	14	7	50.0%	14	12	85.7%	23	19	82.6%	24	20	83.3%	24	23	95.8%
	女性	5	5	100.0%	5	4	80.0%	5	5	100.0%	22	13	59.1%	22	13	59.1%	23	20	87.0%
	不明	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
不明	男性	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
	女性	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
	不明	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
合計		254	222	87.4%	250	167	66.8%	261	229	87.7%	113	88	77.9%	111	72	64.9%	115	102	88.7%

表 52 隔離・身体的拘束指示患者に対して、実施患者の割合（年齢性別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）②令和元年

年齢	性別	令和元年																	
		隔離									身体的拘束								
		0時			12時			0時または12時			0時			12時			0時または12時		
		指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)
20歳未満	男性	5	4	80.0%	5	4	80.0%	5	4	80.0%	0	0	-	0	0	-	0	0	-
	女性	5	4	80.0%	5	1	20.0%	5	4	80.0%	1	1	100.0%	1	1	100.0%	1	1	100.0%
	不明	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
20歳以上 40歳未満	男性	43	35	81.4%	43	29	67.4%	43	35	81.4%	10	8	80.0%	10	4	40.0%	10	8	80.0%
	女性	24	20	83.3%	24	15	62.5%	24	20	83.3%	7	4	57.1%	7	2	28.6%	7	4	57.1%
	不明	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
40歳以上 65歳未満	男性	103	90	87.4%	104	74	71.2%	104	91	87.5%	37	27	73.0%	37	15	40.5%	37	28	75.7%
	女性	61	55	90.2%	62	50	80.6%	62	58	93.5%	17	14	82.4%	16	9	56.3%	17	14	82.4%
	不明	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
65歳以上 75歳未満	男性	20	15	75.0%	20	13	65.0%	20	16	80.0%	15	15	100.0%	15	11	73.3%	15	15	100.0%
	女性	25	22	88.0%	23	19	82.6%	25	23	92.0%	26	23	88.5%	26	14	53.8%	26	23	88.5%
	不明	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
75歳以上	男性	21	19	90.5%	21	17	81.0%	21	19	90.5%	15	13	86.7%	15	10	66.7%	15	14	93.3%
	女性	14	9	64.3%	14	7	50.0%	14	9	64.3%	14	11	78.6%	14	3	21.4%	14	11	78.6%
	不明	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
不明	男性	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
	女性	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
	不明	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
合計		321	273	85.0%	321	229	71.3%	323	279	86.4%	142	116	81.7%	141	69	48.9%	142	118	83.1%

表 53 隔離・身体的拘束指示患者に対して、実施患者の割合（年齢性別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）①平成26年

年齢	性別	平成26年																	
		隔離									身体的拘束								
		0時			12時			0時または12時			0時			12時			0時または12時		
		指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)
20歳未満	男性	27	26	96.3%	23	16	69.6%	27	26	96.3%	5	5	100.0%	5	3	60.0%	5	5	100.0%
	女性	20	20	100.0%	19	14	73.7%	20	20	100.0%	5	5	100.0%	5	5	100.0%	5	5	100.0%
	不明	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
20歳以上 40歳未満	男性	220	216	98.2%	217	166	76.5%	228	225	98.7%	51	51	100.0%	45	38	84.4%	51	51	100.0%
	女性	206	199	96.6%	192	160	83.3%	210	208	99.0%	43	40	93.0%	44	37	84.1%	46	43	93.5%
	不明	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
40歳以上 65歳未満	男性	496	483	97.4%	481	366	76.1%	504	500	99.2%	242	224	92.6%	230	170	73.9%	243	231	95.1%
	女性	332	311	93.7%	323	244	75.5%	345	329	95.4%	189	181	95.8%	184	133	72.3%	193	187	96.9%
	不明	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
65歳以上 75歳未満	男性	112	107	95.5%	105	77	73.3%	115	112	97.4%	156	150	96.2%	147	106	72.1%	159	156	98.1%
	女性	101	98	97.0%	95	73	76.8%	102	100	98.0%	142	136	95.8%	141	100	70.9%	146	143	97.9%
	不明	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
75歳以上	男性	68	65	95.6%	68	42	61.8%	69	66	95.7%	174	159	91.4%	170	125	73.5%	175	168	96.0%
	女性	62	58	93.5%	62	36	58.1%	64	61	95.3%	216	195	90.3%	213	157	73.7%	219	210	95.9%
	不明	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
不明	男性	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
	女性	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
	不明	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
合計	1,644	1,583	96.3%	1,585	1,194	75.3%	1,684	1,647	97.8%	1,223	1,146	93.7%	1,184	874	73.8%	1,242	1,199	96.5%	

表 54 隔離・身体的拘束指示患者に対して、実施患者の割合（年齢性別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）②令和元年

年齢	性別	令和元年																	
		隔離									身体的拘束								
		0時			12時			0時または12時			0時			12時			0時または12時		
		指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)
20歳未満	男性	31	31	100.0%	31	26	83.9%	31	31	100.0%	3	3	100.0%	3	3	100.0%	3	3	100.0%
	女性	22	22	100.0%	21	17	81.0%	22	22	100.0%	4	4	100.0%	4	3	75.0%	4	4	100.0%
	不明	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
20歳以上 40歳未満	男性	193	188	97.4%	195	137	70.3%	198	194	98.0%	31	29	93.5%	30	22	73.3%	31	30	96.8%
	女性	182	171	94.0%	179	137	76.5%	185	176	95.1%	33	30	90.9%	34	23	67.6%	34	30	88.2%
	不明	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
40歳以上 65歳未満	男性	468	447	95.5%	460	347	75.4%	475	462	97.3%	188	182	96.8%	178	144	80.9%	190	187	98.4%
	女性	376	360	95.7%	368	270	73.4%	382	370	96.9%	127	122	96.1%	125	98	78.4%	132	127	96.2%
	不明	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
65歳以上 75歳未満	男性	161	157	97.5%	159	118	74.2%	164	160	97.6%	156	151	96.8%	149	125	83.9%	158	155	98.1%
	女性	124	119	96.0%	124	92	74.2%	126	121	96.0%	113	108	95.6%	107	89	83.2%	116	112	96.6%
	不明	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
75歳以上	男性	94	92	97.9%	92	69	75.0%	95	94	98.9%	191	180	94.2%	187	134	71.7%	194	189	97.4%
	女性	97	92	94.8%	96	68	70.8%	98	94	95.9%	195	176	90.3%	198	159	80.3%	201	193	96.0%
	不明	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
不明	男性	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
	女性	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
	不明	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
合計	1,748	1,679	96.1%	1,725	1,281	74.3%	1,776	1,724	97.1%	1,041	985	94.6%	1,015	800	78.8%	1,063	1,030	96.9%	

表 55 隔離・身体的拘束指示患者に対して、実施患者の割合（主診断別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）①平成21年

主診断	平成21年																		
	隔離									身体的拘束									
	0時			12時			0時または12時			0時			12時			0時または12時			
	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	
F0 症状性を含む器質性精神障害	26	24	92.3%	25	15	60.0%	26	24	92.3%	52	37	71.2%	53	39	73.6%	54	48	88.9%	
	F00 アルツハイマー型認知症	10	10	100.0%	9	7	77.8%	10	10	100.0%	28	22	78.6%	28	21	75.0%	29	27	93.1%
	F01 血管性認知症	1	1	100.0%	1	0	0.0%	1	1	100.0%	7	3	42.9%	8	7	87.5%	8	7	87.5%
	F02-09 上記以外の症状性を含む器質性精神障害	15	13	86.7%	15	8	53.3%	15	13	86.7%	17	12	70.6%	17	11	64.7%	17	14	82.4%
F1 精神作用物質による精神及び行動の障害	3	2	66.7%	3	2	66.7%	3	2	66.7%	5	5	100.0%	4	4	100.0%	5	5	100.0%	
	F10 アルコール使用による精神及び行動の障害	1	1	100.0%	1	1	100.0%	1	1	100.0%	5	5	100.0%	4	4	100.0%	5	5	100.0%
	覚せい剤による精神及び行動の障害	2	1	50.0%	2	1	50.0%	2	1	50.0%	0	0-		0	0-		0	0-	
	アルコール、覚せい剤を除く精神作用物質使用による精神及び行動の障害	0	0-		0	0-		0	0-		0	0-		0	0-		0	0-	
F2 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	187	165	88.2%	185	124	67.0%	194	172	88.7%	33	29	87.9%	31	16	51.6%	33	29	87.9%	
F3 気分（感情）障害	18	13	72.2%	18	13	72.2%	18	13	72.2%	9	9	100.0%	9	6	66.7%	9	9	100.0%	
	F30-31 躁病エピソード・双極性感情障害(躁うつ病)	16	13	81.3%	16	13	81.3%	16	13	81.3%	8	8	100.0%	8	5	62.5%	8	8	100.0%
	F32-39 その他の気分障害	2	0	0.0%	2	0	0.0%	2	0	0.0%	1	1	100.0%	1	1	100.0%	1	1	100.0%
F4 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	4	3	75.0%	3	2	66.7%	4	3	75.0%	0	0-		0	0-		0	0-		
F5 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	1	1	100.0%	1	0	0.0%	1	1	100.0%	2	1	50.0%	2	1	50.0%	2	2	100.0%	
F6 成人のパーソナリティ及び行動の障害	1	1	100.0%	1	1	100.0%	1	1	100.0%	1	0	0.0%	1	0	0.0%	1	0	0.0%	
F7 精神遅滞(知的障害)	8	7	87.5%	8	5	62.5%	8	7	87.5%	5	4	80.0%	5	4	80.0%	5	5	100.0%	
F8 心理的発達障害	1	1	100.0%	1	1	100.0%	1	1	100.0%	0	0-		0	0-		0	0-		
F9 小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害及び特定不能の精神障害	1	1	100.0%	1	1	100.0%	1	1	100.0%	1	0	0.0%	1	1	100.0%	1	1	100.0%	
てんかん（F0に属さないものを計上する）	3	3	100.0%	3	3	100.0%	3	3	100.0%	2	2	100.0%	2	1	50.0%	2	2	100.0%	
その他	1	1	100.0%	1	0	0.0%	1	1	100.0%	3	1	33.3%	3	0	0.0%	3	1	33.3%	
不明	0	0-		0	0-		0	0-		0	0-		0	0-		0	0-		
合計*	254	222	87.4%	250	167	66.8%	261	229	87.7%	113	88	77.9%	111	72	64.9%	115	102	88.7%	

\*大項目の総和を算出。



表 56 隔離・身体的拘束指示患者に対して、実施患者の割合（主診断別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）②令和元年

主診断	令和元年																		
	隔離									身体的拘束									
	0時			12時			0時または12時			0時			12時			0時または12時			
	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	
F0 症状性を含む器質性精神障害		32	27	84.4%	32	22	68.8%	32	27	84.4%	24	21	87.5%	24	12	50.0%	24	22	91.7%
	F00 アルツハイマー型認知症	23	20	87.0%	23	18	78.3%	23	20	87.0%	13	10	76.9%	13	6	46.2%	13	11	84.6%
	F01 血管性認知症	3	1	33.3%	3	1	33.3%	3	1	33.3%	1	1	100.0%	1	0	0.0%	1	1	100.0%
	F02-09 上記以外の症状性を含む器質性精神障害	6	6	100.0%	6	3	50.0%	6	6	100.0%	10	10	100.0%	10	6	60.0%	10	10	100.0%
F1 精神作用物質による精神及び行動の障害		8	6	75.0%	8	5	62.5%	8	6	75.0%	2	0	0.0%	2	0	0.0%	2	0	0.0%
	F10 アルコール使用による精神及び行動の障害	4	4	100.0%	4	3	75.0%	4	4	100.0%	1	0	0.0%	1	0	0.0%	1	0	0.0%
	覚せい剤による精神及び行動の障害	4	2	50.0%	4	2	50.0%	4	2	50.0%	1	0	0.0%	1	0	0.0%	1	0	0.0%
	アルコール、覚せい剤を除く精神作用物質使用による精神及び行動の障害	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
F2 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	196	171	87.2%	197	143	72.6%	198	174	87.9%	75	58	77.3%	75	37	49.3%	75	58	77.3%	
F3 気分（感情）障害		30	24	80.0%	30	23	76.7%	30	27	90.0%	11	10	90.9%	11	5	45.5%	11	10	90.9%
	F30-31 躁病エピソード・双極性感情障害(躁うつ病)	27	21	77.8%	27	20	74.1%	27	24	88.9%	10	9	90.0%	10	5	50.0%	10	9	90.0%
	F32-39 その他の気分障害	3	3	100.0%	3	3	100.0%	3	3	100.0%	1	1	100.0%	1	0	0.0%	1	1	100.0%
F4 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	0	0	-	0	0	-	0	0	-	2	2	100.0%	2	2	100.0%	2	2	100.0%	
F5 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	2	2	100.0%	2	2	100.0%	2	2	100.0%	1	1	100.0%	1	0	0.0%	1	1	100.0%	
F6 成人のパーソナリティ及び行動の障害	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	
F7 精神遅滞(知的障害)	36	29	80.6%	35	22	62.9%	36	29	80.6%	15	14	93.3%	14	5	35.7%	15	14	93.3%	
F8 心理的発達障害	10	9	90.0%	10	9	90.0%	10	9	90.0%	1	0	0.0%	1	0	0.0%	1	0	0.0%	
F9 小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害及び特定不能の精神障害	2	2	100.0%	2	0	0.0%	2	2	100.0%	1	1	100.0%	1	1	100.0%	1	1	100.0%	
てんかん（F0に属さないものを計上する）	2	1	50.0%	2	1	50.0%	2	1	50.0%	8	8	100.0%	8	5	62.5%	8	8	100.0%	
その他	3	2	66.7%	3	2	66.7%	3	2	66.7%	2	1	50.0%	2	2	100.0%	2	2	100.0%	
不明	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	
合計*	321	273	85.0%	321	229	71.3%	323	279	86.4%	142	116	81.7%	141	69	48.9%	142	118	83.1%	

\*大項目の総和を算出。

表 57 隔離・身体的拘束指示患者に対して、実施患者の割合（主診断別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）①平成26年

主診断	平成26年																		
	隔離									身体的拘束									
	0時			12時			0時または12時			0時			12時			0時または12時			
	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	
F0	症状性を含む器質性精神障害	191	180	71.2%	185	117	73.6%	193	184	95.3%	390	353	94.2%	382	259	63.2%	395	380	96.2%
	F00 アルツハイマー型認知症	89	83	78.6%	86	51	75.0%	89	83	93.3%	218	192	93.3%	217	146	59.3%	221	209	94.6%
	F01 血管性認知症	16	16	42.9%	17	10	87.5%	17	17	100.0%	45	41	100.0%	43	30	58.8%	45	44	97.8%
	F02-09 上記以外の症状性を含む器質性精神障害	86	81	70.6%	82	56	64.7%	87	84	96.6%	127	120	94.2%	122	83	68.3%	129	127	98.4%
F1	精神作用物質による精神及び行動の障害	42	42	100.0%	40	30	100.0%	42	42	100.0%	24	22	100.0%	23	18	75.0%	24	22	91.7%
	F10 アルコール使用による精神及び行動の障害	28	28	100.0%	27	20	100.0%	28	28	100.0%	21	19	100.0%	20	15	74.1%	21	19	90.5%
	覚せい剤による精神及び行動の障害	4	4	-	4	3	-	4	4	100.0%	2	2	100.0%	2	2	75.0%	2	2	100.0%
	アルコール、覚せい剤を除く精神作用物質使用による精神及び行動の障害	10	10	-	9	7	-	10	10	100.0%	1	1	100.0%	1	1	77.8%	1	1	100.0%
F2	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	1,092	1,052	87.9%	1,052	798	51.6%	1,117	1,097	98.2%	623	595	96.3%	597	452	75.9%	630	609	96.7%
F3	気分（感情）障害	145	139	100.0%	141	111	66.7%	154	148	96.1%	88	83	95.9%	88	69	78.7%	92	90	97.8%
	F30-31 躁病エピソード・双極性感情障害(躁うつ病)	104	99	100.0%	102	79	62.5%	111	106	95.5%	49	47	95.2%	45	38	77.5%	49	49	100.0%
	F32-39 その他の気分障害	41	40	100.0%	39	32	100.0%	43	42	97.7%	39	36	97.6%	43	31	82.1%	43	41	95.3%
F4	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	22	22	-	20	17	-	22	22	100.0%	8	7	100.0%	6	5	85.0%	8	7	87.5%
F5	生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	5	5	50.0%	5	5	50.0%	5	5	100.0%	1	1	100.0%	2	2	100.0%	2	2	100.0%
F6	成人のパーソナリティ及び行動の障害	13	13	0.0%	11	9	0.0%	14	14	100.0%	2	2	100.0%	2	2	81.8%	2	2	100.0%
F7	精神遅滞(知的障害)	56	56	80.0%	55	47	80.0%	58	58	100.0%	36	34	100.0%	36	26	85.5%	37	36	97.3%
F8	心理的発達障害	36	34	-	34	28	-	36	35	97.2%	12	11	94.4%	11	7	82.4%	12	11	91.7%
F9	小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害及び特定不能の精神障害	9	9	0.0%	9	6	100.0%	9	9	100.0%	5	5	100.0%	5	5	66.7%	5	5	100.0%
てんかん（F0に属さないものを計上する）		9	8	100.0%	8	6	50.0%	9	8	88.9%	11	11	88.9%	10	9	75.0%	11	11	100.0%
その他		17	17	33.3%	17	13	0.0%	17	17	100.0%	22	21	100.0%	21	19	76.5%	22	22	100.0%
不明		7	6	-	8	7	-	8	8	100.0%	1	1	85.7%	1	1	87.5%	2	2	100.0%
合計*		1,644	1,583	77.9%	1,585	1,194	64.9%	1,684	1,647	97.8%	1,223	1,146	96.3%	1,184	874	75.3%	1,242	1,199	96.5%

\*大項目の総和を算出。

表 58 隔離・身体的拘束指示患者に対して、実施患者の割合（主診断別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）②令和元年

主診断	令和元年																		
	隔離									身体的拘束									
	0時			12時			0時または12時			0時			12時			0時または12時			
	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に対し て、実施された 患者の割合(%)	
F0	症状性を含む器質性精神障害	222	216	97.3%	220	160	72.7%	227	223	98.2%	375	352	93.9%	371	274	73.9%	385	372	96.6%
	F00 アルツハイマー型認知症	104	101	97.1%	100	68	68.0%	104	102	98.1%	215	202	94.0%	210	159	75.7%	220	213	96.8%
	F01 血管性認知症	18	18	100.0%	17	12	70.6%	18	18	100.0%	33	30	90.9%	31	24	77.4%	34	33	97.1%
	F02-09 上記以外の症状性を含む器質性精神障害	100	97	97.0%	103	80	77.7%	105	103	98.1%	127	120	94.5%	130	91	70.0%	131	126	96.2%
F1	精神作用物質による精神及び行動の障害	40	40	100.0%	38	34	89.5%	40	40	100.0%	23	22	95.7%	22	21	95.5%	23	22	95.7%
	F10 アルコール使用による精神及び行動の障害	25	25	100.0%	24	22	91.7%	25	25	100.0%	16	16	100.0%	15	15	100.0%	16	16	100.0%
	覚せい剤による精神及び行動の障害	11	11	100.0%	10	8	80.0%	11	11	100.0%	4	3	75.0%	4	3	75.0%	4	3	75.0%
	アルコール、覚せい剤を除く精神作用物質使用による精神及び行動の障害	4	4	100.0%	4	4	100.0%	4	4	100.0%	3	3	100.0%	3	3	100.0%	3	3	100.0%
F2	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	1,070	1,020	95.3%	1,051	767	73.0%	1,087	1,049	96.5%	484	465	96.1%	467	371	79.4%	493	480	97.4%
F3	気分（感情）障害	174	170	97.7%	176	142	80.7%	177	174	98.3%	75	70	93.3%	73	61	83.6%	77	73	94.8%
	F30-31 躁病エピソード・双極性感情障害(躁うつ病)	111	108	97.3%	112	85	75.9%	113	110	97.3%	46	43	93.5%	45	39	86.7%	48	46	95.8%
	F32-39 その他の気分障害	63	62	98.4%	64	57	89.1%	64	64	100.0%	29	27	93.1%	28	22	78.6%	29	27	93.1%
F4	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	37	37	100.0%	35	24	68.6%	37	37	100.0%	7	6	85.7%	8	8	100.0%	8	8	100.0%
F5	生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	5	5	100.0%	4	3	75.0%	5	5	100.0%	1	1	100.0%	1	1	100.0%	1	1	100.0%
F6	成人のパーソナリティ及び行動の障害	14	13	92.9%	14	9	64.3%	14	13	92.9%	4	4	100.0%	4	3	75.0%	4	4	100.0%
F7	精神遅滞(知的障害)	75	74	98.7%	77	56	72.7%	78	76	97.4%	36	35	97.2%	35	29	82.9%	36	35	97.2%
F8	心理的発達障害	53	49	92.5%	53	41	77.4%	53	51	96.2%	7	5	71.4%	6	4	66.7%	7	6	85.7%
F9	小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害及び特定不能の精神障害	15	15	100.0%	15	11	73.3%	15	15	100.0%	0	0	-	0	0	-	0	0	-
てんかん（F0に属さないものを計上する）		13	12	92.3%	12	10	83.3%	13	12	92.3%	6	6	100.0%	5	5	100.0%	6	6	100.0%
その他		27	25	92.6%	27	21	77.8%	27	26	96.3%	21	18	85.7%	21	21	100.0%	21	21	100.0%
不明		3	3	100.0%	3	3	100.0%	3	3	100.0%	2	1	50.0%	2	2	100.0%	2	2	100.0%
合計*		1,748	1,679	96.1%	1,725	1,281	74.3%	1,776	1,724	97.1%	1,041	985	94.6%	1,015	800	78.8%	1,063	1,030	96.9%

\*大項目の総和を算出。

表 59 隔離・身体的拘束指示患者に対して、実施患者の割合（入院形態別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）①平成21年

入院形態	平成21年																	
	隔離									身体的拘束								
	0時			12時			0時または12時			0時			12時			0時または12時		
	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に 対して、実施 された患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に 対して、実施 された患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に 対して、実施 された患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に 対して、実施 された患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に 対して、実施 された患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に 対して、実施 された患者の 割合(%)
任意入院	24	22	91.7%	21	15	71.4%	25	23	92.0%	23	16	69.6%	21	12	57.1%	23	19	82.6%
医療保護入院	225	196	87.1%	224	149	66.5%	231	202	87.4%	88	70	79.5%	88	59	67.0%	90	81	90.0%
緊急措置入院	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
措置入院	3	2	66.7%	3	2	66.7%	3	2	66.7%	1	1	100.0%	1	1	100.0%	1	1	100.0%
応急入院	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
鑑定入院	1	1	100.0%	1	0	0.0%	1	1	100.0%	0	0	-	0	0	-	0	0	-
医療観察法による入院	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
不明	1	1	100.0%	1	1	100.0%	1	1	100.0%	1	1	100.0%	1	0	0.0%	1	1	100.0%
合計	254	222	87.4%	250	167	66.8%	261	229	87.7%	113	88	77.9%	111	72	64.9%	115	102	88.7%

表 60 隔離・身体的拘束指示患者に対して、実施患者の割合（入院形態別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）②令和元年

入院形態	令和元年																	
	隔離									身体的拘束								
	0時			12時			0時または12時			0時			12時			0時または12時		
	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に 対して、実施 された患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に 対して、実施 された患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に 対して、実施 された患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に 対して、実施 された患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に 対して、実施 された患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に 対して、実施 された患者の 割合(%)
任意入院	26	21	80.8%	26	18	69.2%	26	21	80.8%	21	14	66.7%	21	6	28.6%	21	14	66.7%
医療保護入院	275	236	85.8%	274	201	73.4%	276	240	87.0%	102	83	81.4%	101	55	54.5%	102	85	83.3%
緊急措置入院	2	2	100.0%	2	1	50.0%	2	2	100.0%	0	0	-	0	0	-	0	0	-
措置入院	7	5	71.4%	7	4	57.1%	7	6	85.7%	0	0	-	0	0	-	0	0	-
応急入院	3	2	66.7%	4	3	75.0%	4	3	75.0%	0	0	-	0	0	-	0	0	-
鑑定入院	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
医療観察法による入院	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
不明	8	7	87.5%	8	2	25.0%	8	7	87.5%	19	19	100.0%	19	8	42.1%	19	19	100.0%
合計	321	273	85.0%	321	229	71.3%	323	279	86.4%	142	116	81.7%	141	69	48.9%	142	118	83.1%

表 61 隔離・身体的拘束指示患者に対して、実施患者の割合（入院形態別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）①平成26年

入院形態	平成26年																	
	隔離									身体的拘束								
	0時			12時			0時または12時			0時			12時			0時または12時		
	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に 対して、実施 された患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に 対して、実施 された患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に 対して、実施 された患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に 対して、実施 された患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に 対して、実施 された患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に 対して、実施 された患者の 割合(%)
任意入院	155	154	99.4%	155	126	81.3%	165	164	99.4%	152	143	94.1%	147	98	66.7%	154	147	95.5%
医療保護入院	1,388	1,331	95.9%	1,332	987	74.1%	1,416	1,383	97.7%	1,055	988	93.6%	1,022	762	74.6%	1,072	1,037	96.7%
緊急措置入院	10	9	90.0%	10	7	70.0%	11	10	90.9%	4	4	100.0%	3	3	100.0%	4	4	100.0%
措置入院	79	77	97.5%	77	65	84.4%	80	78	97.5%	12	11	91.7%	12	11	91.7%	12	11	91.7%
応急入院	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
鑑定入院	9	9	100.0%	9	7	77.8%	9	9	100.0%	0	0	-	0	0	-	0	0	-
医療観察法による入院	3	3	100.0%	2	2	100.0%	3	3	100.0%	0	0	-	0	0	-	0	0	-
不明	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
合計	1,644	1,583	96.3%	1,585	1,194	75.3%	1,684	1,647	97.8%	1,223	1,146	93.7%	1,184	874	73.8%	1,242	1,199	96.5%

表 62 隔離・身体的拘束指示患者に対して、実施患者の割合（入院形態別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）②令和元年

入院形態	令和元年																	
	隔離									身体的拘束								
	0時			12時			0時または12時			0時			12時			0時または12時		
	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に 対して、実施 された患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に 対して、実施 された患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に 対して、実施 された患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に 対して、実施 された患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に 対して、実施 された患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち実施あり (人)	指示が出されて いた患者に 対して、実施 された患者の 割合(%)
任意入院	127	122	96.1%	117	91	77.8%	130	125	96.2%	90	86	95.6%	90	70	77.8%	91	87	95.6%
医療保護入院	1,516	1,454	95.9%	1,504	1,113	74.0%	1,541	1,496	97.1%	939	887	94.5%	912	719	78.8%	959	931	97.1%
緊急措置入院	5	5	100.0%	5	3	60.0%	5	5	100.0%	1	1	100.0%	2	1	50.0%	2	1	50.0%
措置入院	87	85	97.7%	86	67	77.9%	87	85	97.7%	10	10	100.0%	10	9	90.0%	10	10	100.0%
応急入院	1	1	100.0%	1	1	100.0%	1	1	100.0%	1	1	100.0%	1	1	100.0%	1	1	100.0%
鑑定入院	9	9	100.0%	9	6	66.7%	9	9	100.0%	0	0	-	0	0	-	0	0	-
医療観察法による入院	3	3	100.0%	3	0	0.0%	3	3	100.0%	0	0	-	0	0	-	0	0	-
不明	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
合計	1,748	1,679	96.1%	1,725	1,281	74.3%	1,776	1,724	97.1%	1,041	985	94.6%	1,015	800	78.8%	1,063	1,030	96.9%

表 63 隔離指示患者の該当要件の内訳（6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）

隔離該当要件の内訳（人）※1	平成21年						令和元年					
	隔離指示 総数 （0時または12時のいずれかに 指示あり）		0時時点 隔離指示あり		12時時点 隔離指示あり		隔離指示 総数 （0時または12時のいずれかに 指示あり）		0時時点 隔離指示あり		12時時点 隔離指示あり	
	患者数（人）	当該該当要件 の内訳（％）	患者数（人）	当該該当要件 の内訳（％）	患者数（人）	当該該当要件 の内訳（％）	患者数（人）	当該該当要件 の内訳（％）	患者数（人）	当該該当要件 の内訳（％）	患者数（人）	当該該当要件 の内訳（％）
ア. 他の患者との人間関係を著しく損なうおそれがある等、その言動が患者の病状の経過や予後に著しく悪く影響する場合	92	35.2%	90	35.4%	87	34.8%	122	37.8%	121	37.7%	121	37.7%
イ. 自殺企図又は自傷行為が切迫している場合	12	4.6%	12	4.7%	12	4.8%	11	3.4%	10	3.1%	11	3.4%
ウ. 他の患者に対する暴力行為や著しい迷惑行為、器物破損行為が認められ、他の方法ではこれを防ぎきれない場合	56	21.5%	55	21.7%	54	21.6%	90	27.9%	90	28.0%	89	27.7%
エ. 急性精神運動興奮等のため、不穏、多動、爆発性などが目立ち、一般の精神病室では医療又は保護を図ることが著しく困難な場合	113	43.3%	110	43.3%	109	43.6%	161	49.8%	160	49.8%	160	49.8%
オ. 身体的合併症を有する患者について、検査及び処置等のため、隔離が必要な場合	9	3.4%	9	3.5%	9	3.6%	18	5.6%	18	5.6%	18	5.6%
カ. その他 ※2	28	10.7%	28	11.0%	27	10.8%	17	5.3%	17	5.3%	17	5.3%
水中毒	6	2.3%	6	2.4%	6	2.4%	5	1.5%	5	1.6%	5	1.6%
転倒転落	4	1.5%	4	1.6%	4	1.6%	1	0.3%	1	0.3%	1	0.3%
自己抜去	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
身体管理系（身体管理・合併安静保持・検査処置等）	7	2.7%	7	2.8%	7	2.8%	3	0.9%	3	0.9%	3	0.9%
その他：精神症状に起因する	11	4.2%	11	4.3%	10	4.0%	8	2.5%	8	2.5%	8	2.5%
その他：それ以外に起因する	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
記述内容不明	4	1.5%	4	1.6%	4	1.6%	4	1.2%	4	1.2%	4	1.2%
不明	37	14.2%	34	13.4%	36	14.4%	1	0.3%	1	0.3%	1	0.3%
患者数合計	261		254		250		323		321		321	

※1 1つの指示に対して、複数の該当要件を選択する場合も含む

※2 「カ.その他」の記述に複数の項目を含む場合には、それぞれの項目について分類し、内訳に計上する。

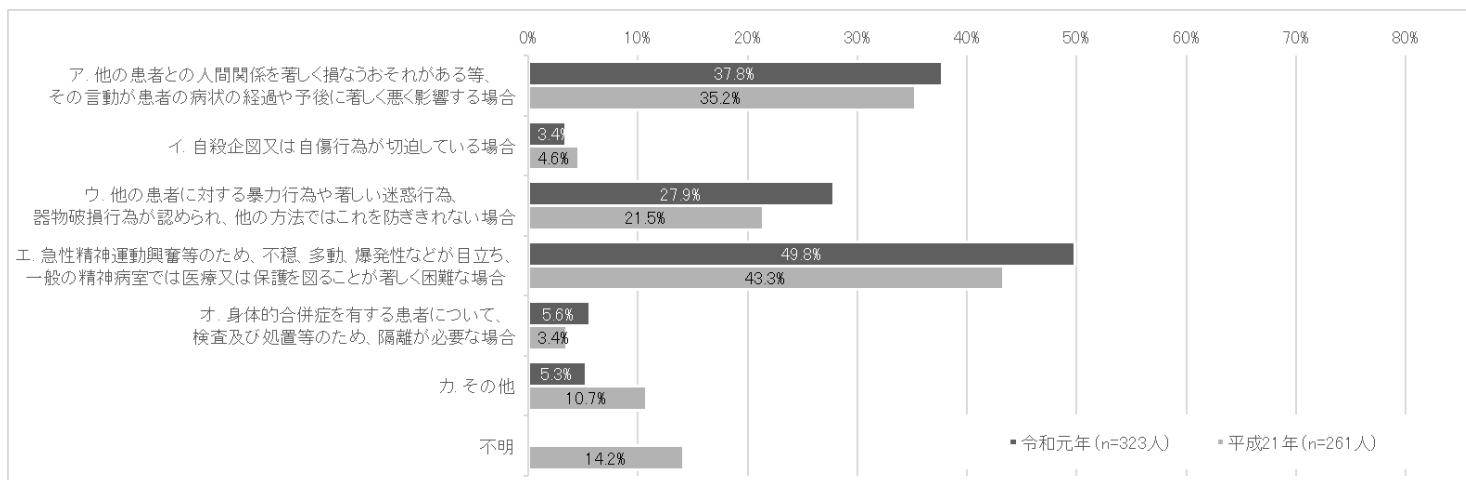


図 25 隔離指示患者の該当要件の内訳の推移 6月30日0時または12時時点（令和元年と平成21年の比較）

表 64 隔離実施患者の該当要件の内訳（6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）

隔離該当要件の内訳（人）※1	平成21年						令和元年					
	隔離実施 総数 （0時または12時のいずれかに 実施あり）		0時時点 隔離実施あり		12時時点 隔離実施あり		隔離実施 総数 （0時または12時のいずれかに 実施あり）		0時時点 隔離実施あり		12時時点 隔離実施あり	
	患者数（人）	当該該当要件 の内訳（％）	患者数（人）	当該該当要件 の内訳（％）	患者数（人）	当該該当要件 の内訳（％）	患者数（人）	当該該当要件 の内訳（％）	患者数（人）	当該該当要件 の内訳（％）	患者数（人）	当該該当要件 の内訳（％）
ア. 他の患者との人間関係を著しく損なうおそれがある等、その言動が患者の病状の経過や予後に著しく悪く影響する場合	73	31.9%	71	32.0%	54	32.3%	108	38.7%	105	38.5%	90	39.3%
イ. 自殺企図又は自傷行為が切迫している場合	10	4.4%	10	4.5%	7	4.2%	10	3.6%	9	3.3%	8	3.5%
ウ. 他の患者に対する暴力行為や著しい迷惑行為、器物破損行為が認められ、他の方法ではこれを防ぎきれない場合	41	17.9%	40	18.0%	28	16.8%	79	28.3%	77	28.2%	62	27.1%
エ. 急性精神運動興奮等のため、不穏、多動、爆発性などが目立ち、一般の精神病室では医療又は保護を図ることが著しく困難な場合	93	40.6%	90	40.5%	54	32.3%	136	48.7%	133	48.7%	110	48.0%
オ. 身体的合併症を有する患者について、検査及び処置等のため、隔離が必要な場合	8	3.5%	8	3.6%	7	4.2%	14	5.0%	14	5.1%	11	4.8%
カ. その他 ※2	26	11.4%	26	11.7%	20	12.0%	17	6.1%	17	6.2%	13	5.7%
水中毒	6	2.6%	6	2.7%	3	1.8%	5	1.8%	5	1.8%	3	1.3%
転倒転落	4	1.7%	4	1.8%	2	1.2%	1	0.4%	1	0.4%	1	0.4%
自己抜去	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
身体管理系（身体管理・合併安静保持・検査処置等）	6	2.6%	6	2.7%	6	3.6%	3	1.1%	3	1.1%	3	1.3%
その他：精神症状に起因する	10	4.4%	10	4.5%	9	5.4%	8	2.9%	8	2.9%	6	2.6%
その他：それ以外に起因する	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
記述内容不明	4	1.7%	4	1.8%	3	1.8%	4	1.4%	4	1.5%	4	1.7%
不明	35	15.3%	32	14.4%	35	21.0%	1	0.4%	1	0.4%	1	0.4%
患者数合計	229		222		167		279		273		229	

※1 1つの実施に対して、複数の該当要件を選択する場合も含む

※2 「カ.その他」の記述に複数の項目を含む場合には、それぞれの項目について分類し、内訳に計上する。

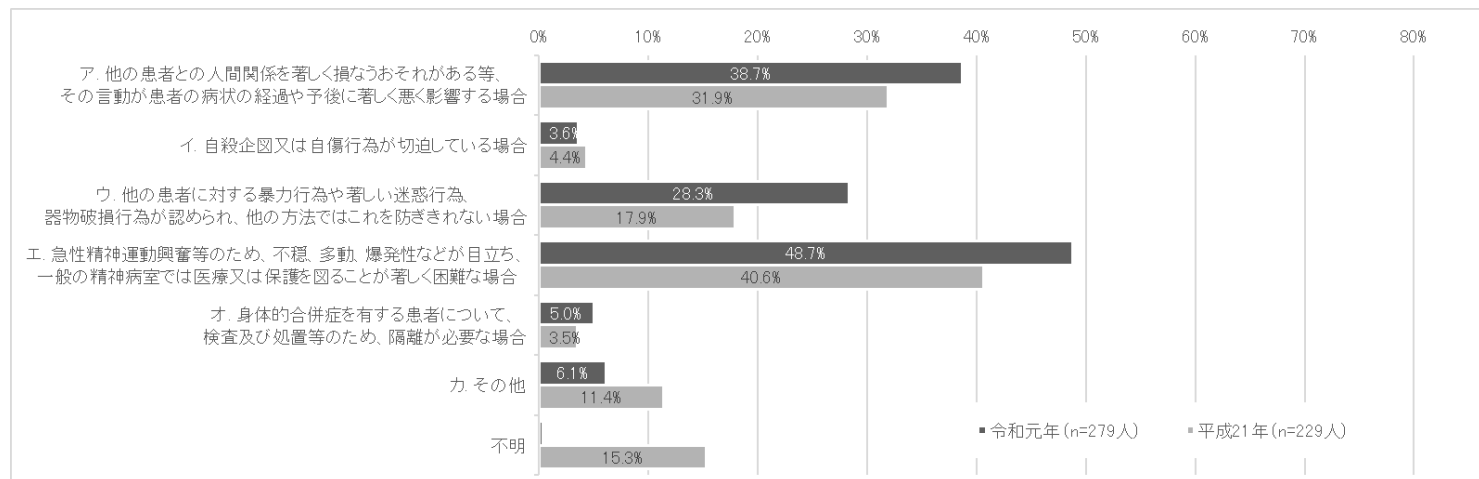


図 26 隔離実施患者の該当要件の内訳の推移 6月30日0時または12時時点（令和元年と平成21年の比較）

表 65 該当要件別、隔離指示患者に対して実施患者の割合（6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）

隔離該当要件	平成21年									令和元年								
	0時または12時のいずれかにあり			0時時点			12時時点			0時または12時のいずれかにあり			0時時点			12時時点		
	隔離指示あり(人)	うち隔離実施あり(人)	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合(%)	隔離指示あり(人)	うち隔離実施あり(人)	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合(%)	隔離指示あり(人)	うち隔離実施あり(人)	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合(%)	隔離指示あり(人)	うち隔離実施あり(人)	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合(%)	隔離指示あり(人)	うち隔離実施あり(人)	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合(%)	隔離指示あり(人)	うち隔離実施あり(人)	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合(%)
ア.他の患者との人間関係を著しく損なうおそれがある等、その言動が患者の病状の経過や予後に著しく悪く影響する場合	92	73	79.3%	90	71	78.9%	87	54	62.1%	122	108	88.5%	121	105	86.8%	121	90	74.4%
イ.自殺企図又は自傷行為が切迫している場合	12	10	83.3%	12	10	83.3%	12	7	58.3%	11	10	90.9%	10	9	90.0%	11	8	72.7%
ウ.他の患者に対する暴力行為や著しい迷惑行為、器物破壊行為が認められ、他の方法ではこれを防ぎきれない場合	56	41	73.2%	55	40	72.7%	54	28	51.9%	90	79	87.8%	90	77	85.6%	89	62	69.7%
エ.急性精神運動興奮等のため、不眠、多動、爆発性などが目立ち、一般の精神科病室では医療又は保護を図ることが著しく困難な場合	113	93	82.3%	110	90	81.8%	109	54	49.5%	161	136	84.5%	160	133	83.1%	160	110	68.8%
オ.身体的合併症を有する患者について、検査及び処置等のため、隔離が必要な場合	9	8	88.9%	9	8	88.9%	9	7	77.8%	18	14	77.8%	18	14	77.8%	18	11	61.1%
カ.その他 ※3	28	26	92.9%	28	26	92.9%	27	20	74.1%	17	17	100.0%	17	17	100.0%	17	13	76.5%
水中毒	6	6	100.0%	6	6	100.0%	6	3	50.0%	5	5	100.0%	5	5	100.0%	5	3	60.0%
転倒転落	4	4	100.0%	4	4	100.0%	4	2	50.0%	1	1	100.0%	1	1	100.0%	1	1	100.0%
自己除去	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
身体管理系（身体管理・合併安静保持・検査処置等）	7	6	85.7%	7	6	85.7%	7	6	85.7%	3	3	100.0%	3	3	100.0%	3	3	100.0%
その他：精神症状に起因する	11	10	90.9%	11	10	90.9%	10	9	90.0%	8	8	100.0%	8	8	100.0%	8	6	75.0%
その他：それ以外に起因する	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
記述内容不明	4	4	100.0%	4	4	100.0%	4	3	75.0%	4	4	100.0%	4	4	100.0%	4	4	100.0%
不明	37	35	94.6%	34	32	94.1%	36	35	97.2%	1	1	100.0%	1	1	100.0%	1	1	100.0%
該当人数合計（その他の細目の合計は含まない）	347	286	82.4%	338	277	82.0%	334	205	61.4%	420	365	86.9%	417	356	85.4%	417	295	70.7%
患者数合計	261	229	87.7%	254	222	87.4%	250	167	66.8%	323	279	86.4%	321	279	85.0%	321	229	71.3%

※1 6月30日 0時または12時のいずれかに隔離実施がある

※2 1つの指示または実施に対して、複数の該当要件を選択する場合も含む

※3 「カ.その他」の記述に複数の項目を含む場合には、それぞれの項目について分類し、内訳に計上する。



表 66 隔離指示患者の該当要件の内訳（6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）

隔離該当要件の内訳（人）※1	平成26年						令和元年					
	隔離指示 総数 (0時または12時のいずれかに指示あり)		0時時点 隔離指示あり		12時時点 隔離指示あり		隔離指示 総数 (0時または12時のいずれかに指示あり)		0時時点 隔離指示あり		12時時点 隔離指示あり	
	患者数（人）	当該該当要件の内訳（％）	患者数（人）	当該該当要件の内訳（％）	患者数（人）	当該該当要件の内訳（％）	患者数（人）	当該該当要件の内訳（％）	患者数（人）	当該該当要件の内訳（％）	患者数（人）	当該該当要件の内訳（％）
ア. 他の患者との人間関係を著しく損なうおそれがある等、その言動が患者の病状の経過や予後に著しく悪く影響する場合	518	30.8%	510	31.0%	492	31.0%	566	31.9%	558	31.9%	556	32.2%
イ. 自殺企図又は自傷行為が切迫している場合	107	6.4%	98	6.0%	95	6.0%	120	6.8%	119	6.8%	118	6.8%
ウ. 他の患者に対する暴力行為や著しい迷惑行為、器物破損行為が認められ、他の方法ではこれを防ぎきれない場合	485	28.8%	477	29.0%	467	29.5%	519	29.2%	509	29.1%	506	29.3%
エ. 急性精神運動興奮等のため、不穏、多動、爆発性などが目立ち、一般の精神病室では医療又は保護を図ることが著しく困難な場合	847	50.3%	828	50.4%	788	49.7%	887	49.9%	878	50.2%	860	49.9%
オ. 身体的合併症を有する患者について、検査及び処置等のため、隔離が必要な場合	64	3.8%	64	3.9%	61	3.8%	51	2.9%	50	2.9%	47	2.7%
カ. その他 ※2	122	7.2%	119	7.2%	112	7.1%	112	6.3%	111	6.4%	109	6.3%
水中毒	27	1.6%	27	1.6%	24	1.5%	32	1.8%	31	1.8%	30	1.7%
転倒転落	7	0.4%	7	0.4%	6	0.4%	9	0.5%	9	0.5%	9	0.5%
自己抜去	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
身体管理系（身体管理・合併安静保持・検査処置等）	14	0.8%	14	0.9%	12	0.8%	6	0.3%	6	0.3%	6	0.3%
その他：精神症状に起因する	67	4.0%	66	4.0%	62	3.9%	46	2.6%	46	2.6%	45	2.6%
その他：それ以外に起因する	14	0.8%	12	0.7%	14	0.9%	20	1.1%	20	1.9%	20	1.2%
記述内容不明	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	0.2%	4	0.2%	4	0.2%
不明	15	0.9%	15	0.9%	15	0.9%	6	0.3%	6	0.3%	6	0.3%
患者数合計	1,684		1,644		1,585		1,776		1,748		1,725	

※1 1つの指示に対して、複数の該当要件を選択する場合も含む

※2 「カ.その他」の記述に複数の項目を含む場合には、それぞれの項目について分類し、内訳に計上する。

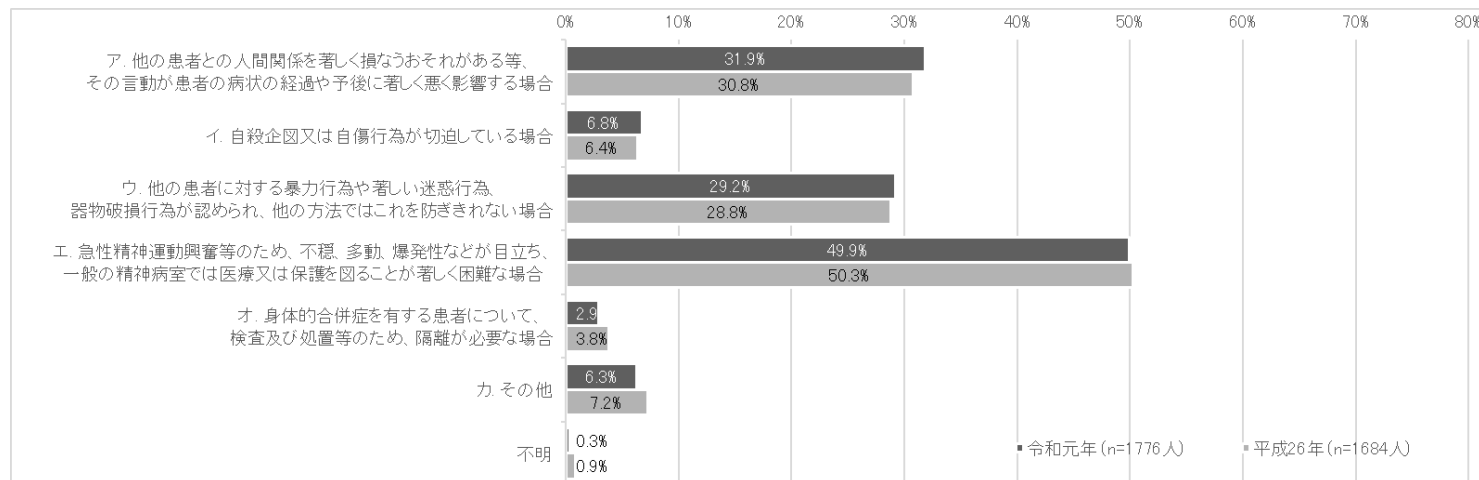


図 27 隔離指示患者の該当要件の内訳の推移 6月30日0時または12時時点（令和元年と平成26年の比較）

表 67 隔離実施患者の該当要件の内訳（6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）

隔離該当要件の内訳（人）※1	平成26年						令和元年					
	隔離実施総数 （0時または12時のいずれかに実施あり）		0時時点 隔離実施あり		12時時点 隔離実施あり		隔離実施総数 （0時または12時のいずれかに実施あり）		0時時点 隔離実施あり		12時時点 隔離実施あり	
	患者数（人）	当該該当要件の内訳（％）	患者数（人）	当該該当要件の内訳（％）	患者数（人）	当該該当要件の内訳（％）	患者数（人）	当該該当要件の内訳（％）	患者数（人）	当該該当要件の内訳（％）	患者数（人）	当該該当要件の内訳（％）
ア. 他の患者との人間関係を著しく損なうおそれがある等、その言動が患者の病状の経過や予後に著しく悪く影響する場合	513	31.1%	504	31.8%	387	32.4%	555	32.2%	546	32.5%	435	34.0%
イ. 自殺企図又は自傷行為が切迫している場合	105	6.4%	95	6.0%	70	5.9%	116	6.7%	114	6.8%	91	7.1%
ウ. 他の患者に対する暴力行為や著しい迷惑行為、器物破損行為が認められ、他の方法ではこれを防ぎきれない場合	472	28.7%	460	29.1%	348	29.1%	504	29.2%	488	29.1%	355	27.7%
エ. 急性精神運動興奮等のため、不穏、多動、爆発性などが目立ち、一般の精神病室では医療又は保護を図ることが著しく困難な場合	828	50.3%	791	50.0%	604	50.6%	855	49.6%	837	49.9%	636	49.6%
オ. 身体的合併症を有する患者について、検査及び処置等のため、隔離が必要な場合	63	3.8%	63	4.0%	49	4.1%	51	3.0%	50	3.0%	37	2.9%
カ. その他 ※2	118	7.2%	114	7.2%	74	6.2%	107	6.2%	106	6.3%	80	6.2%
水中毒	26	1.6%	26	1.6%	11	0.9%	30	1.7%	29	1.7%	19	1.5%
転倒転落	5	0.3%	4	0.3%	3	0.3%	7	0.4%	7	0.4%	5	0.4%
自己抜去	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
身体管理系（身体管理・合併安静保持・検査処置等）	14	0.9%	14	0.9%	8	0.7%	6	0.3%	6	0.4%	6	0.5%
その他：精神症状に起因する	64	3.9%	62	3.9%	42	3.5%	43	2.5%	43	2.6%	35	2.7%
その他：それ以外に起因する	14	0.9%	12	0.8%	11	0.9%	20	1.2%	20	1.2%	15	1.2%
記述内容不明	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	0.2%	4	0.2%	2	0.2%
不明	14	0.9%	14	0.9%	8	0.7%	6	0.3%	5	0.3%	4	0.3%
患者数合計	1,647		1,583		1,194		1,724		1,679		1,281	

※1 1つの実施に対して、複数の該当要件を選択する場合も含む

※2 「カ.その他」の記述に複数の項目を含む場合には、それぞれの項目について分類し、内訳に計上する。

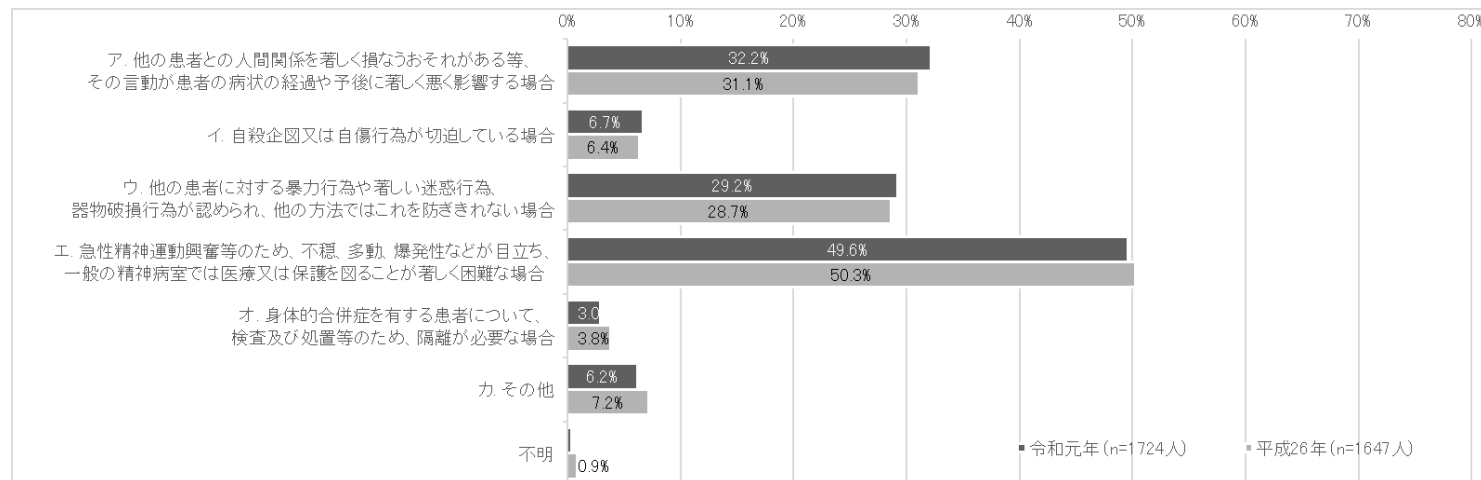


図 28 隔離実施患者の該当要件の内訳の推移 6月30日0時または12時時点（令和元年と平成26年の比較）

表 68 該当要件別、隔離指示患者に対して実施患者の割合（6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）

隔離該当要件	平成26年									令和元年								
	0時または12時のいずれかにあり			0時時点			12時時点			0時または12時のいずれかにあり			0時時点			12時時点		
	隔離指示あり(人)	うち隔離実施あり(人)	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合(%)	隔離指示あり(人)	うち隔離実施あり(人)	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合(%)	隔離指示あり(人)	うち隔離実施あり(人)	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合(%)	隔離指示あり(人)	うち隔離実施あり(人)	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合(%)	隔離指示あり(人)	うち隔離実施あり(人)	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合(%)	隔離指示あり(人)	うち隔離実施あり(人)	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合(%)
ア.他の患者との人間関係を著しく損なうおそれがある等、その言動が患者の病状の経過や予後に著しく悪く影響する場合	518	513	99.0%	510	504	98.8%	492	387	78.7%	566	555	98.1%	558	546	97.8%	556	435	78.2%
イ.自殺企図又は自傷行為が切迫している場合	107	105	98.1%	98	95	96.9%	95	70	73.7%	120	116	96.7%	119	114	95.8%	118	91	77.1%
ウ.他の患者に対する暴行行為や著しい迷惑行為、器物破壊行為が認められ、他の方法ではこれを防ぎきれない場合	485	472	97.3%	477	460	96.4%	467	348	74.5%	519	504	97.1%	509	488	95.9%	506	355	70.2%
エ.急性精神運動興奮等のため、不眠、多動、爆発性などが目立ち、一般の精神科病室では医療又は保護を図ることが著しく困難な場合	847	828	97.8%	828	791	95.5%	788	604	76.6%	887	855	96.4%	878	837	95.3%	860	636	74.0%
オ.身体的合併症を有する患者について、検査及び処置等のため、隔離が必要な場合	64	63	98.4%	64	63	98.4%	61	49	80.3%	51	51	100.0%	50	50	100.0%	47	37	78.7%
カ.その他 ※3	122	118	96.7%	119	114	95.8%	112	74	66.1%	112	107	95.5%	111	106	95.5%	109	80	73.4%
水中毒	27	26	96.3%	27	26	96.3%	24	11	45.8%	32	30	93.8%	31	29	93.5%	30	19	63.3%
転倒転落	7	5	71.4%	7	4	57.1%	6	3	50.0%	9	7	77.8%	9	7	77.8%	9	5	55.6%
自己除去	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
身体管理系（身体管理・合併安静保持・検査処置等）	14	14	100.0%	14	14	100.0%	12	8	66.7%	6	6	100.0%	6	6	100.0%	6	6	100.0%
その他：精神症状に起因する	67	64	95.5%	66	62	93.9%	62	42	67.7%	46	43	93.5%	46	43	93.5%	45	35	77.8%
その他：それ以外に起因する	14	14	100.0%	12	12	100.0%	14	11	78.6%	20	20	100.0%	20	20	100.0%	20	15	75.0%
記述内容不明	0	0	-	0	0	-	0	0	-	4	4	100.0%	4	4	100.0%	4	2	50.0%
不明	15	14	93.3%	15	14	93.3%	15	8	53.3%	6	6	100.0%	6	5	83.3%	6	4	66.7%
該当人数合計（その他の細目の合計は含まない）	2,158	2,113	97.9%	2,111	2,041	96.7%	2,030	1,540	75.9%	2,261	2,194	97.0%	2,231	2,146	96.2%	2,202	1,638	74.4%
患者数合計	1,684	1,647	97.8%	1,644	1,583	96.3%	1,585	1,194	75.3%	1,776	1,724	97.1%	1,748	1,679	96.1%	1,725	1,281	74.3%

※1 6月30日 0時または12時のいずれかに隔離実施がある

※2 1つの指示または実施に対して、複数の該当要件を選択する場合も含む

※3 「カ.その他」の記述に複数の項目を含む場合には、それぞれの項目について分類し、内訳に計上する。

表 69 身体的拘束指示患者の該当要件の内訳（6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）

拘束該当要件の内訳（人）※1	平成21年						令和元年					
	拘束指示総数 （0時または12時のいずれかに指示あり）		0時時点 拘束指示あり		12時時点 拘束指示あり		拘束指示総数 （0時または12時のいずれかに指示あり）		0時時点 拘束指示あり		12時時点 拘束指示あり	
	患者数（人）	当該該当要件の内訳（％）	患者数（人）	当該該当要件の内訳（％）	患者数（人）	当該該当要件の内訳（％）	患者数（人）	当該該当要件の内訳（％）	患者数（人）	当該該当要件の内訳（％）	患者数（人）	当該該当要件の内訳（％）
ア. 自殺企図又は自傷行為が著しく切迫している場合	7	6.1%	6	5.3%	7	6.3%	12	8.5%	12	8.5%	12	8.5%
イ. 多動又は不穏が顕著である場合	49	42.6%	49	43.4%	46	41.4%	83	58.5%	83	58.5%	82	58.2%
ウ. ア又はイのほか精神障害のために、そのまま放置すれば患者の生命にまで危険が及ぶおそれがある場合	15	13.0%	15	13.3%	15	13.5%	9	6.3%	9	6.3%	9	6.4%
エ. その他 ※2	48	41.7%	47	41.6%	47	42.3%	64	45.1%	64	45.1%	63	44.7%
水中毒	2	1.7%	2	1.8%	2	1.8%	1	0.7%	1	0.7%	1	0.7%
転倒転落	27	23.5%	27	23.9%	27	24.3%	32	22.5%	32	22.5%	32	22.7%
自己抜去	13	11.3%	13	11.5%	13	11.7%	6	4.2%	6	4.2%	6	4.3%
身体管理系（身体管理・合併安静保持・検査処置等）	7	6.1%	6	5.3%	7	6.3%	26	18.3%	26	18.3%	25	17.7%
その他：精神症状に起因する	2	1.7%	2	1.8%	2	1.8%	7	4.9%	7	4.9%	7	5.0%
その他：それ以外に起因する	1	0.9%	1	0.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
記述内容不明	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.7%	1	0.7%	1	0.7%
不明	2	1.7%	2	1.8%	2	1.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
患者数合計	115		113		111		142		142		141	

※1 1つの指示に対して、複数の該当要件を選択する場合も含む

※2 「エ.その他」の記述に複数の項目を含む場合には、それぞれの項目について分類し、内訳に計上する。

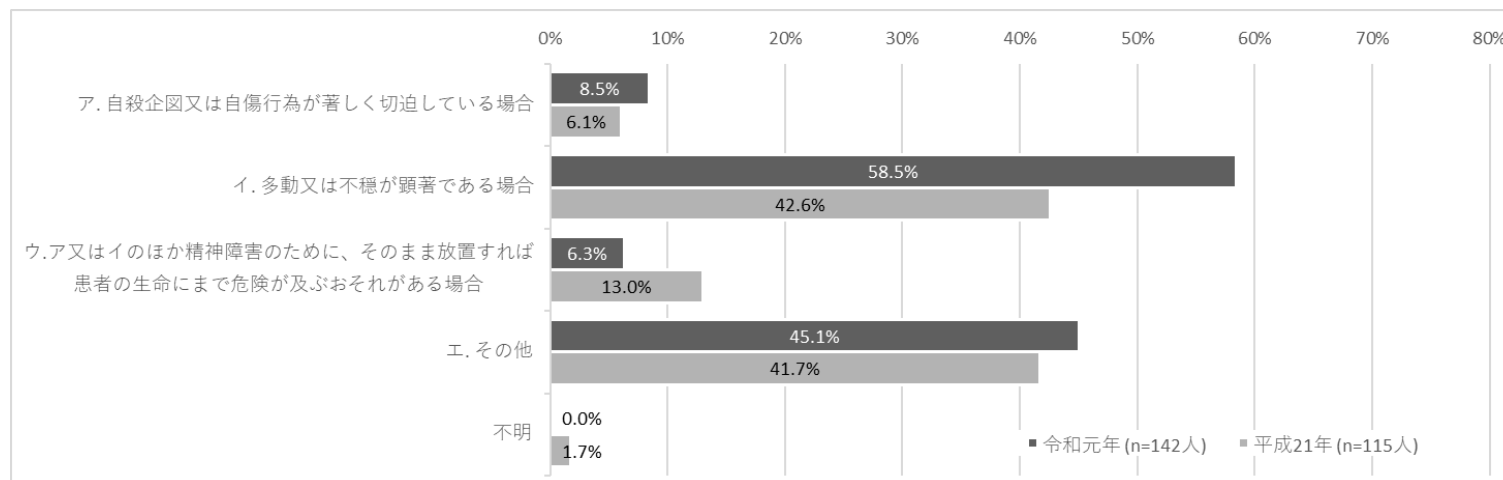


図 29 身体的拘束指示患者の該当要件の内訳の推移 6月30日0時または12時時点（令和元年と平成21年の比較）

表 70 身体的拘束実施患者の該当要件の内訳（6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）

拘束該当要件の内訳（人）※1	平成21年						令和元年					
	拘束実施 総数 (0時または12時のいずれかに実施あり)		0時時点 拘束実施あり		12時時点 拘束実施あり		拘束実施 総数 (0時または12時のいずれかに実施あり)		0時時点 拘束実施あり		12時時点 拘束実施あり	
	患者数（人）	当該該当要件の内訳（％）	患者数（人）	当該該当要件の内訳（％）	患者数（人）	当該該当要件の内訳（％）	患者数（人）	当該該当要件の内訳（％）	患者数（人）	当該該当要件の内訳（％）	患者数（人）	当該該当要件の内訳（％）
ア. 自殺企図又は自傷行為が著しく切迫している場合	7	6.9%	6	6.8%	7	9.7%	9	7.6%	9	7.8%	8	11.6%
イ. 多動又は不穏が顕著である場合	42	41.2%	40	45.5%	30	41.7%	68	57.6%	68	58.6%	39	56.5%
ウ. ア又はイのほか精神障害のために、そのまま放置すれば患者の生命にまで危険が及ぶおそれがある場合	13	12.7%	13	14.8%	8	11.1%	6	5.1%	6	5.2%	6	8.7%
エ. その他 ※2	44	43.1%	31	35.2%	29	40.3%	55	46.6%	53	45.7%	26	37.7%
水中毒	2	2.0%	2	2.3%	1	1.4%	1	0.8%	1	0.9%	1	1.4%
転倒転落	25	24.5%	20	22.7%	11	15.3%	29	24.6%	29	25.0%	9	13.0%
自己抜去	13	12.7%	7	8.0%	13	18.1%	6	5.1%	6	5.2%	6	8.7%
身体管理系（身体管理・合併安静保持・検査処置等）	6	5.9%	4	4.5%	5	6.9%	20	16.9%	18	15.5%	11	15.9%
その他：精神症状に起因する	2	2.0%	2	2.3%	0	0.0%	7	5.9%	7	6.0%	6	8.7%
その他：それ以外に起因する	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
記述内容不明	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.8%	1	0.9%	1	1.4%
不明	2	2.0%	2	2.3%	2	2.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
患者数合計（人）	102		88		72		118		116		69	

※1 1つの実施に対して、複数の該当要件を選択する場合も含む

※2 「エ.その他」の記述に複数の項目を含む場合には、それぞれの項目について分類し、内訳に計上する。

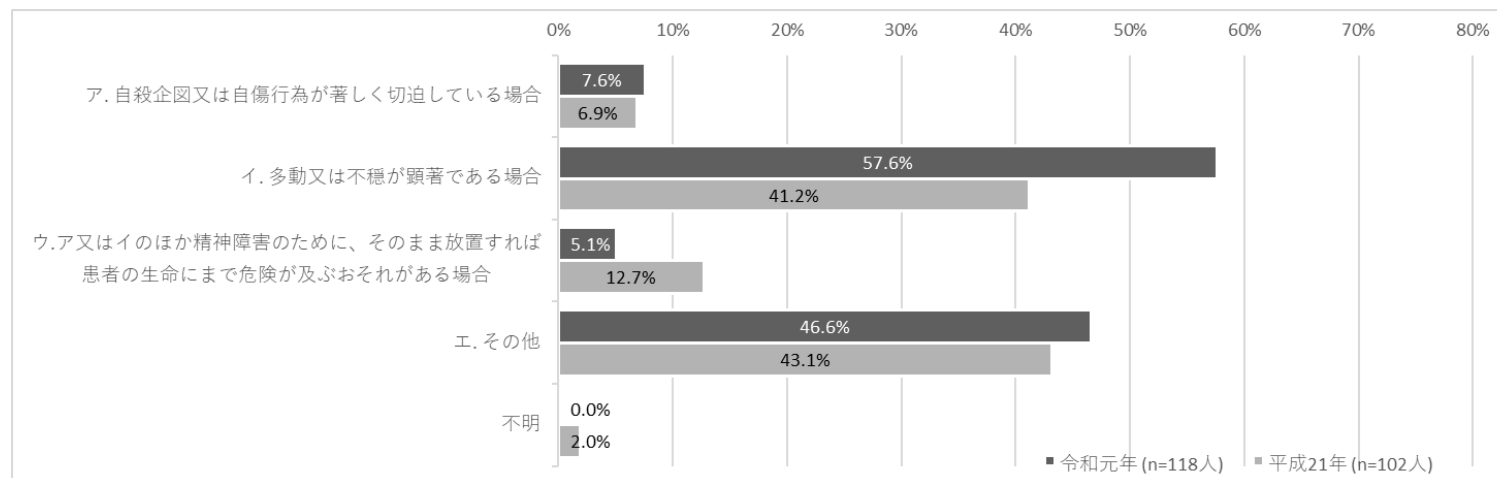


図 30 身体的拘束実施患者の該当要件の内訳の推移 6月30日0時または12時時点（令和元年と平成21年の比較）

表 71 該当要件別、身体的拘束指示患者に対して実施患者の割合（6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）

身体的拘束該当要件	平成21年									令和元年								
	0時または12時のいずれかにあり			0時時点			12時時点			0時または12時のいずれかにあり			0時時点			12時時点		
	身体的拘束 指示あり(人)	うち身体的拘束 実施あり(人)	指示が出されて いた患者に対して、 実施された患者の 割合(%)	身体的拘束 指示あり(人)	うち身体的拘束 実施あり(人)	指示が出されて いた患者に対して、 実施された患者の 割合(%)	身体的拘束 指示あり(人)	うち身体的拘束 実施あり(人)	指示が出されて いた患者に対して、 実施された患者の 割合(%)	身体的拘束 指示あり(人)	うち身体的拘束 実施あり(人)	指示が出されて いた患者に対して、 実施された患者の 割合(%)	身体的拘束 指示あり(人)	うち身体的拘束 実施あり(人)	指示が出されて いた患者に対して、 実施された患者の 割合(%)	身体的拘束 指示あり(人)	うち身体的拘束 実施あり(人)	指示が出されて いた患者に対して、 実施された患者の 割合(%)
ア.自殺企図又は自傷行為が著しく切迫している場合	7	7	100.0%	6	6	100.0%	7	7	100.0%	12	9	75.0%	12	9	75.0%	12	8	66.7%
イ.多動又は不穏が顕著である場合	49	42	85.7%	49	40	81.6%	46	30	65.2%	83	68	81.9%	83	68	81.9%	82	39	47.6%
ウ.ア又はイのほか精神障害のために、そのまま放置すれば患者の生命に まで危険が及ぶおそれがある場合	15	13	86.7%	15	13	86.7%	15	8	53.3%	9	6	66.7%	9	6	66.7%	9	6	66.7%
エ.その他 ※3	48	44	91.7%	47	31	66.0%	47	29	61.7%	64	55	85.9%	64	53	82.8%	63	26	41.3%
水中毒	2	2	100.0%	2	2	100.0%	2	1	50.0%	1	1	100.0%	1	1	100.0%	1	1	100.0%
転倒転落	27	25	92.6%	27	20	74.1%	27	11	40.7%	32	29	90.6%	32	29	90.6%	32	9	28.1%
自己抜去	13	13	100.0%	13	7	53.8%	13	13	100.0%	6	6	100.0%	6	6	100.0%	6	6	100.0%
身体管理系（身体管理・合併安静保持・検査処置等）	7	6	85.7%	6	4	66.7%	7	5	71.4%	26	20	76.9%	26	18	69.2%	25	11	44.0%
その他：精神症状に起因する	2	2	100.0%	2	2	100.0%	2	0	0.0%	7	7	100.0%	7	7	100.0%	7	6	85.7%
その他：それ以外に起因する	1	0	0.0%	1	0	0.0%	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
記述内容不明	0	0	-	0	0	-	0	0	-	1	1	100.0%	1	1	100.0%	1	1	100.0%
不明	2	2	100.0%	2	2	100.0%	2	2	100.0%	0	0	-	0	0	-	0	0	-
該当人数合計（その他の細目の合計は含まない）	121	108	89.3%	119	92	77.3%	117	76	65.0%	168	138	82.1%	168	136	81.0%	166	79	47.6%
患者数合計（人）	115	102	88.7%	113	88	77.9%	111	72	64.9%	142	118	83.1%	142	116	81.7%	141	69	48.9%

1つの指示に対して、複数の該当要件を選択する場合も含む  
 ※6月30日 0時または12時のいずれかに身体的拘束指示がある

表 72 身体的拘束指示患者の該当要件の内訳（6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）

身体的拘束該当要件の内訳（人）※1	平成26年						令和元年					
	身体的拘束指示 総数 （0時または12時のいずれかに指示あり）		0時時点 身体的拘束指示あり		12時時点 身体的拘束指示あり		身体的拘束指示 総数 （0時または12時のいずれかに指示あり）		0時時点 身体的拘束指示あり		12時時点 身体的拘束指示あり	
	患者数（人）	当該該当要件の内訳（%）	患者数（人）	当該該当要件の内訳（%）	患者数（人）	当該該当要件の内訳（%）	患者数（人）	当該該当要件の内訳（%）	患者数（人）	当該該当要件の内訳（%）	患者数（人）	当該該当要件の内訳（%）
ア. 自殺企図又は自傷行為が著しく切迫している場合	93	7.5%	91	7.4%	86	7.3%	71	6.7%	68	6.5%	64	6.3%
イ. 多動又は不穏が顕著である場合	825	66.4%	816	66.7%	783	66.1%	707	66.5%	701	67.3%	671	66.1%
ウ. ア又はイのほか精神障害のために、そのまま放置すれば患者の生命にまで危険が及ぶおそれがある場合	197	15.9%	197	16.1%	188	15.9%	211	19.8%	207	19.9%	204	20.1%
エ. その他 ※2	306	24.6%	298	24.4%	296	25.0%	300	28.2%	290	27.9%	287	28.3%
水中毒	9	0.7%	9	0.7%	9	0.8%	7	0.7%	7	0.7%	7	0.7%
転倒転落	164	13.2%	159	13.0%	156	13.2%	140	13.2%	137	13.2%	129	12.7%
自己抜去	57	4.6%	55	4.5%	57	4.8%	53	5.0%	52	5.0%	52	5.1%
身体管理系（身体管理・合併安静保持・検査処置等）	54	4.3%	54	4.4%	53	4.5%	67	6.3%	65	6.2%	67	6.6%
その他：精神症状に起因する	44	3.5%	42	3.4%	43	3.6%	56	5.3%	52	5.0%	55	5.4%
その他：それ以外に起因する	5	0.4%	5	0.4%	5	0.4%	20	1.9%	20	1.9%	3	0.3%
記述内容不明	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	8	0.8%	8	0.8%	8	0.8%
不明	9	0.7%	9	0.7%	9	0.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
患者数合計	1,242		1,223		1,184		1,063		1,041		1,015	

※1 1つの指示に対して、複数の該当要件を選択する場合も含む

※2 「エ.その他」の記述に複数の項目を含む場合には、それぞれの項目について分類し、内訳に計上する。

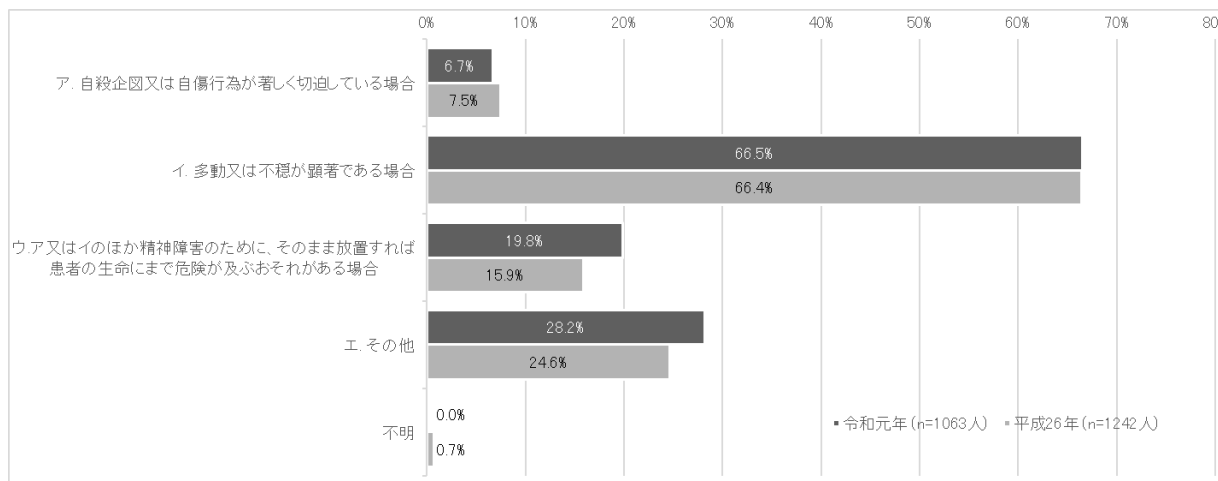


図 31 身体的拘束指示患者の該当要件の内訳の推移 6月30日0時または12時時点（令和元年と平成26年の比較）

表 73 身体的拘束実施患者の該当要件の内訳（6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）

身体的拘束該当要件の内訳（人）※1	平成26年						令和元年					
	身体的拘束実施総数 （0時または12時のいずれかに実施あり）		0時時点 身体的拘束実施あり		12時時点 身体的拘束実施あり		身体的拘束実施総数 （0時または12時のいずれかに実施あり）		0時時点 身体的拘束実施あり		12時時点 身体的拘束実施あり	
	患者数（人）	当該該当要件の内訳（%）	患者数（人）	当該該当要件の内訳（%）	患者数（人）	当該該当要件の内訳（%）	患者数（人）	当該該当要件の内訳（%）	患者数（人）	当該該当要件の内訳（%）	患者数（人）	当該該当要件の内訳（%）
ア. 自殺企図又は自傷行為が著しく切迫している場合	90	7.5%	87	7.6%	59	6.8%	67	6.5%	63	6.4%	48	6.0%
イ. 多動又は不穏が顕著である場合	797	66.5%	768	67.0%	568	65.0%	683	66.3%	657	66.7%	523	65.4%
ウ. ア又はイのほか精神障害のために、そのまま放置すれば患者の生命にまで危険が及ぶおそれがある場合	192	16.0%	187	16.3%	153	17.5%	206	20.0%	199	20.2%	172	21.5%
エ. その他 ※2	295	24.6%	267	23.3%	230	26.3%	293	28.4%	277	28.1%	239	29.9%
水中毒	8	0.7%	8	0.7%	6	0.7%	7	0.7%	7	0.7%	5	0.6%
転倒転落	163	13.6%	152	13.3%	111	12.7%	138	13.4%	132	13.4%	107	13.4%
自己抜去	53	4.4%	40	3.5%	52	5.9%	52	5.0%	48	4.9%	49	6.1%
身体管理系（身体管理・合併安静保持・検査処置等）	51	4.3%	49	4.3%	41	4.7%	64	6.2%	61	6.2%	55	6.9%
その他：精神症状に起因する	39	3.3%	35	3.1%	31	3.5%	56	5.4%	52	5.3%	39	4.9%
その他：それ以外に起因する	5	0.4%	5	0.4%	4	0.5%	3	0.3%	3	0.3%	2	0.3%
記述内容不明	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	8	0.8%	8	0.8%	7	0.9%
不明	7	0.6%	6	0.5%	3	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
患者数合計（人）	1,199		1,146		874		1,030		985		800	

※1 1つの実施に対して、複数の該当要件を選択する場合も含む

※2 「エ.その他」の記述に複数の項目を含む場合には、それぞれの項目について分類し、内訳に計上する。

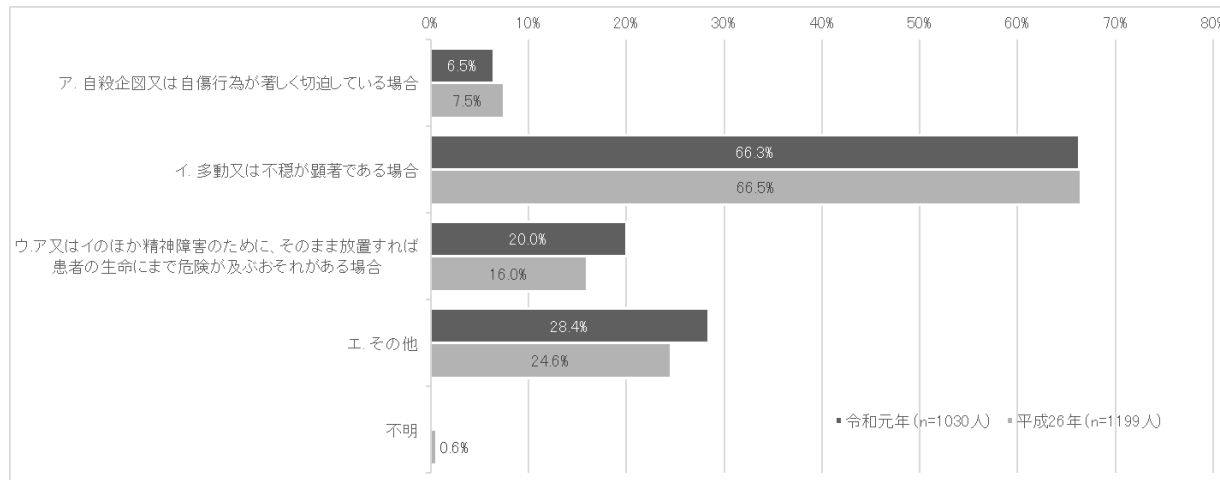


図 32 身体的拘束実施患者の該当要件の内訳の推移 6月30日0時または12時時点（令和元年と平成26年の比較）



表 74 該当要件別、身体的拘束指示患者に対して実施患者の割合（6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）

身体的拘束該当要件	平成26年									令和元年								
	0時または12時のいずれかにあり			0時時点			12時時点			0時または12時のいずれかにあり			0時時点			12時時点		
	身体的拘束 指示あり(人)	うち身体的拘束 実施あり(人)	指示が出されて いた患者に対して、 実施された患者の 割合(%)	身体的拘束 指示あり(人)	うち身体的拘束 実施あり(人)	指示が出されて いた患者に対して、 実施された患者の 割合(%)	身体的拘束 指示あり(人)	うち身体的拘束 実施あり(人)	指示が出されて いた患者に対して、 実施された患者の 割合(%)	身体的拘束 指示あり(人)	うち身体的拘束 実施あり(人)	指示が出されて いた患者に対して、 実施された患者の 割合(%)	身体的拘束 指示あり(人)	うち身体的拘束 実施あり(人)	指示が出されて いた患者に対して、 実施された患者の 割合(%)	身体的拘束 指示あり(人)	うち身体的拘束 実施あり(人)	指示が出されて いた患者に対して、 実施された患者の 割合(%)
ア.自殺企図又は自傷行為が著しく切迫している場合	93	90	96.8%	91	87	95.6%	86	59	68.6%	71	67	94.4%	68	63	92.6%	64	48	75.0%
イ.多動又は不穏が顕著である場合	825	797	96.6%	816	768	94.1%	783	568	72.5%	707	683	96.6%	701	657	93.7%	671	523	77.9%
ウ.ア又はイのほか精神障害のために、そのまま放置すれば患者の生命に まで危険が及ぶおそれがある場合	197	192	97.5%	197	187	94.9%	188	153	81.4%	211	206	97.6%	207	199	96.1%	204	172	84.3%
エ.その他 ※3	306	295	96.4%	298	267	89.6%	296	230	77.7%	300	293	97.7%	290	277	95.5%	287	239	83.3%
水中毒	9	8	88.9%	9	8	88.9%	9	6	66.7%	7	7	100.0%	7	7	100.0%	7	5	71.4%
転倒転落	164	163	99.4%	159	152	95.6%	156	111	71.2%	140	138	98.6%	137	132	96.4%	129	107	82.9%
自己抜去	57	53	93.0%	55	40	72.7%	57	52	91.2%	53	52	98.1%	52	48	92.3%	52	49	94.2%
身体管理系（身体管理・合併安静保持・検査処置等）	54	51	94.4%	54	49	90.7%	53	41	77.4%	67	64	95.5%	65	61	93.8%	67	55	82.1%
その他：精神症状に起因する	44	39	88.6%	42	35	83.3%	43	31	72.1%	56	56	100.0%	52	52	100.0%	55	39	70.9%
その他：それ以外に起因する	5	5	100.0%	5	5	100.0%	5	4	80.0%	20	3	15.0%	20	3	15.0%	3	2	66.7%
記述内容不明	0	0	-	0	0	-	0	0	-	8	8	100.0%	8	8	100.0%	8	7	87.5%
不明	9	7	77.8%	9	6	66.7%	9	3	33.3%	0	0	-	0	0	-	0	0	-
該当人数合計（その他の細目の合計は含まない）	1,430	1,381	96.6%	1,411	1,315	93.2%	1,362	1,013	74.4%	1,289	1,249	96.9%	1,266	1,196	94.5%	1,226	982	80.1%
患者数合計（人）	1,242	1,199	96.5%	1,223	1,146	93.7%	1,184	874	73.8%	1,063	1,030	96.9%	1,041	985	94.6%	1,015	800	78.8%

1つの指示に対して、複数の該当要件を選択する場合も含む  
 ※6月30日 0時または12時のいずれかに身体的拘束指示がある

表 75 6月30日0時または12時に隔離が指示された患者の該当要件別、年齢性別の比率（令和元年と平成21年の比較）①平成21年

隔離該当要件の内訳（人）※1	平成21年0時指示有または12時指示有の患者の人数、（）内は各性年齢カテゴリ内での、要件の内訳（％）											
	20歳未満		20歳以上40歳未満		40歳以上65歳未満		65歳以上75歳未満		75歳以上		合計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
ア.他の患者との人間関係を著しく損なうおそれがある等、その言動が患者の病状の経過や予後に著しく悪く影響する場合	2 (66.7%)	0 (0.0%)	16 (38.1%)	6 (26.1%)	35 (44.3%)	18 (27.7%)	10 (58.8%)	2 (20.0%)	3 (21.4%)	0 (0.0%)	66 (42.6%)	26 (24.5%)
イ.自殺企図又は自傷行為が切迫している場合	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (7.1%)	2 (8.7%)	3 (3.8%)	2 (3.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (14.3%)	0 (0.0%)	8 (5.2%)	4 (3.8%)
ウ.他の患者に対する暴力行為や著しい迷惑行為、器物破損行為が認められ、他の方法ではこれを防ぎきれない場合	1 (33.3%)	0 (0.0%)	7 (16.7%)	3 (13.0%)	21 (26.6%)	13 (20.0%)	5 (29.4%)	3 (30.0%)	3 (21.4%)	0 (0.0%)	37 (23.9%)	19 (17.9%)
エ.急性精神運動興奮等のため、不穏、多動、爆発性などが目立ち、一般の精神病室では医療又は保護を図ることが著しく困難な場合	2 (66.7%)	1 (33.3%)	20 (47.6%)	8 (34.8%)	33 (41.8%)	30 (46.2%)	7 (41.2%)	5 (50.0%)	5 (35.7%)	2 (40.0%)	67 (43.2%)	46 (43.4%)
オ.身体的合併症を有する患者について、検査及び処置等のため、隔離が必要な場合	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (3.8%)	4 (6.2%)	0 (0.0%)	1 (10.0%)	0 (0.0%)	1 (20.0%)	3 (1.9%)	6 (5.7%)
カ.その他 ※2	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (4.8%)	2 (8.7%)	8 (10.1%)	8 (12.3%)	0 (0.0%)	2 (20.0%)	3 (21.4%)	3 (60.0%)	13 (8.4%)	15 (14.2%)
水中毒	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (5.1%)	1 (1.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (20.0%)	4 (2.6%)	2 (1.9%)
転倒転落	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (10.0%)	1 (7.1%)	1 (20.0%)	2 (1.3%)	2 (1.9%)
自己抜去	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
身体管理系（身体管理・合併安静保持・検査処置等）	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.4%)	1 (4.3%)	1 (1.3%)	4 (6.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (1.3%)	5 (4.7%)
その他：精神症状に起因する	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (8.7%)	3 (3.8%)	3 (4.6%)	0 (0.0%)	1 (10.0%)	2 (14.3%)	0 (0.0%)	5 (3.2%)	6 (5.7%)
その他：それ以外に起因する	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
記述内容不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (7.1%)	1 (20.0%)	2 (1.3%)	2 (1.9%)
不明	0 (0.0%)	2 (66.7%)	4 (9.5%)	6 (26.1%)	9 (11.4%)	11 (16.9%)	2 (11.8%)	1 (10.0%)	1 (7.1%)	1 (20.0%)	16 (10.3%)	21 (19.8%)
患者数合計（人）	3	3	42	23	79	65	17	10	14	5	155	106

※1 1つの指示に対して、複数の該当要件を選択する場合も含む

※2 「エ.その他」の記述に複数の項目を含む場合には、それぞれの項目について分類し、内訳に計上する。

表 76 6月30日0時または12時に隔離が指示された患者の該当要件別、年齢性別の比率（令和元年と平成21年の比較）②令和元年

隔離該当要件の内訳（人）※1	令和元年0時指示有または12時指示有の患者の人数、（）内は各性年齢カテゴリ内での、要件の内訳（％）											
	20歳未満		20歳以上40歳未満		40歳以上65歳未満		65歳以上75歳未満		75歳以上		合計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
ア.他の患者との人間関係を著しく損なうおそれがある等、その言動が患者の病状の経過や予後に著しく悪く影響する場合	1 (20.0%)	1 (20.0%)	12 (27.9%)	9 (37.5%)	47 (45.2%)	26 (41.9%)	11 (55.0%)	6 (24.0%)	4 (19.0%)	5 (35.7%)	75 (38.9%)	47 (36.2%)
イ.自殺企図又は自傷行為が切迫している場合	1 (20.0%)	0 (0.0%)	2 (4.7%)	1 (4.2%)	1 (1.0%)	6 (9.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (2.1%)	7 (5.4%)
ウ.他の患者に対する暴力行為や著しい迷惑行為、器物破損行為が認められ、他の方法ではこれを防ぎきれない場合	2 (40.0%)	2 (40.0%)	16 (37.2%)	4 (16.7%)	29 (27.9%)	15 (24.2%)	8 (40.0%)	5 (20.0%)	5 (23.8%)	4 (28.6%)	60 (31.1%)	30 (23.1%)
エ.急性精神運動興奮等のため、不穏、多動、爆発性などが目立ち、一般の精神科病室では医療又は保護を図ることが著しく困難な場合	3 (60.0%)	3 (60.0%)	23 (53.5%)	16 (66.7%)	51 (49.0%)	26 (41.9%)	6 (30.0%)	13 (52.0%)	12 (57.1%)	8 (57.1%)	95 (49.2%)	66 (50.8%)
オ.身体的合併症を有する患者について、検査及び処置等のため、隔離が必要な場合	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.3%)	2 (8.3%)	6 (5.8%)	1 (1.6%)	1 (5.0%)	4 (16.0%)	3 (14.3%)	0 (0.0%)	11 (5.7%)	7 (5.4%)
カ.その他 ※2	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (6.7%)	5 (8.1%)	1 (5.0%)	4 (16.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	8 (4.1%)	9 (6.9%)
水中毒	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (1.9%)	1 (1.6%)	1 (5.0%)	1 (4.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (1.6%)	2 (1.5%)
転倒転落	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (4.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)
自己抜去	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
身体管理系（身体管理・合併安静保持・検査処置等）	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.0%)	2 (3.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.5%)	2 (1.5%)
その他：精神症状に起因する	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (1.9%)	4 (6.5%)	0 (0.0%)	2 (8.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (1.0%)	6 (4.6%)
その他：それ以外に起因する	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
記述内容不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (2.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (4.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (1.6%)	1 (0.8%)
不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)
患者数合計（人）	5	5	43	24	104	62	20	25	21	14	193	130

※1 1つの指示に対して、複数の該当要件を選択する場合も含む

※2 「エ.その他」の記述に複数の項目を含む場合には、それぞれの項目について分類し、内訳に計上する。

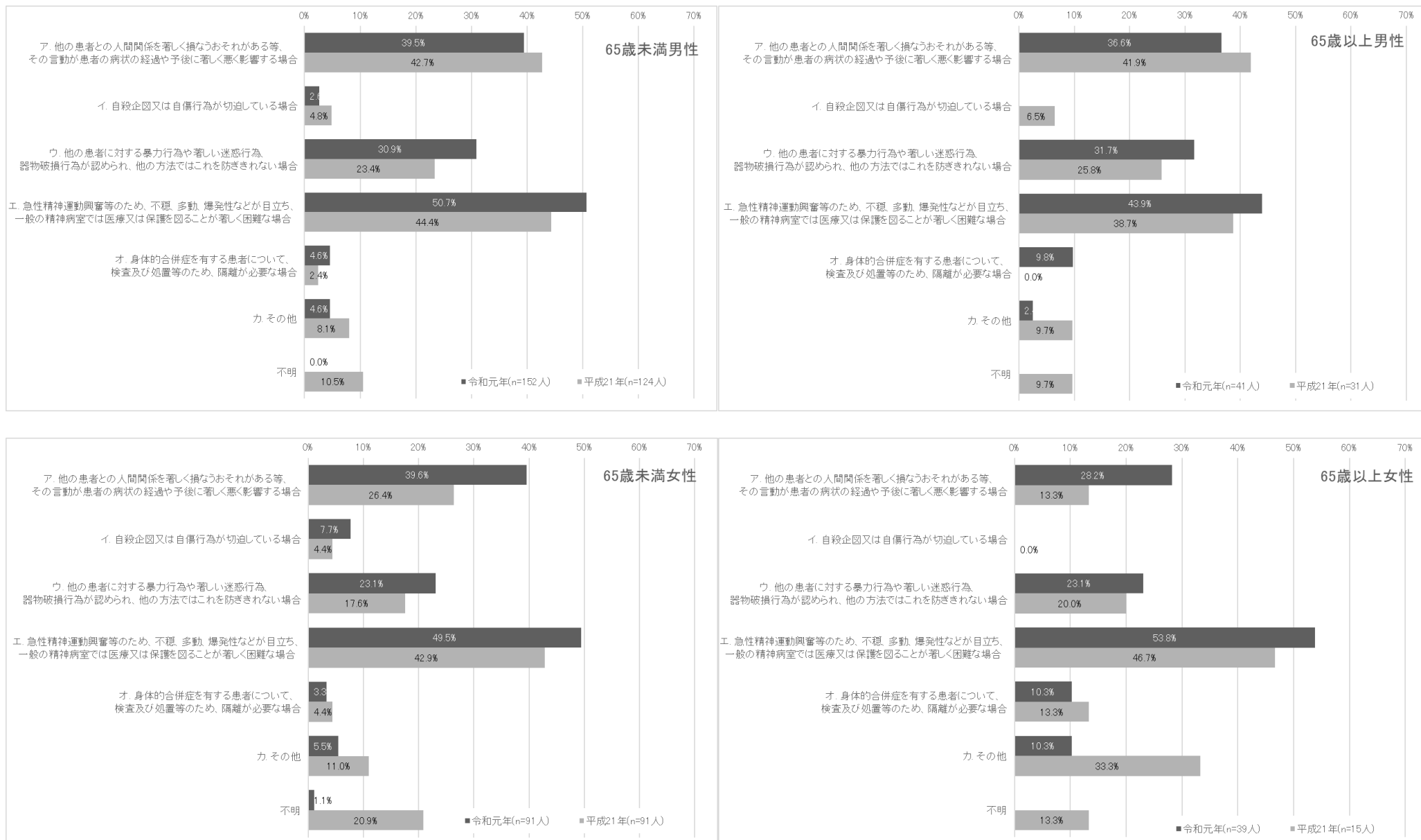


図 33 6月30日0時または12時に隔離が指示された患者の該当要件別、年齢性別の比率（令和元年と平成21年の比較）

表 77 6月30日0時または12時に隔離が実施された患者の該当要件別、年齢性別の比率（令和元年と平成21年の比較）①平成21年

隔離該当要件の内訳（人）※1	平成21年0時実施有または12時実施有の患者の人数、（）内は各性年齢カテゴリ内での、要件の内訳（％）											
	20歳未満		20歳以上40歳未満		40歳以上65歳未満		65歳以上75歳未満		75歳以上		合計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
ア.他の患者との人間関係を著しく損なうおそれがある等、その言動が患者の病状の経過や予後に著しく悪く影響する場合	1 (50.0%)	0 (0.0%)	12 (33.3%)	6 (26.1%)	27 (40.3%)	14 (25.5%)	9 (56.3%)	2 (20.0%)	2 (16.7%)	0 (0.0%)	51 (38.3%)	22 (22.9%)
イ.自殺企図又は自傷行為が切迫している場合	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (8.3%)	2 (8.7%)	3 (4.5%)	1 (1.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (8.3%)	0 (0.0%)	7 (5.3%)	3 (3.1%)
ウ.他の患者に対する暴力行為や著しい迷惑行為、器物破損行為が認められ、他の方法ではこれを防ぎきれない場合	0 (0.0%)	0 (0.0%)	5 (13.9%)	3 (13.0%)	12 (17.9%)	10 (18.2%)	5 (31.3%)	3 (30.0%)	3 (25.0%)	0 (0.0%)	25 (18.8%)	16 (16.7%)
エ.急性精神運動興奮等のため、不穏、多動、爆発性などが目立ち、一般の精神病室では医療又は保護を図ることが著しく困難な場合	2 (100.0%)	1 (33.3%)	16 (44.4%)	8 (34.8%)	25 (37.3%)	24 (43.6%)	6 (37.5%)	5 (50.0%)	4 (33.3%)	2 (40.0%)	53 (39.8%)	40 (41.7%)
オ.身体的合併症を有する患者について、検査及び処置等のため、隔離が必要な場合	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (3.0%)	4 (7.3%)	0 (0.0%)	1 (10.0%)	0 (0.0%)	1 (20.0%)	2 (1.5%)	6 (6.3%)
カ.その他 ※2	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (5.6%)	2 (8.7%)	8 (11.9%)	6 (10.9%)	0 (0.0%)	2 (20.0%)	3 (25.0%)	3 (60.0%)	13 (9.8%)	13 (13.5%)
水中毒	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (6.0%)	1 (1.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (20.0%)	4 (3.0%)	2 (2.1%)
転倒転落	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (10.0%)	1 (8.3%)	1 (20.0%)	2 (1.5%)	2 (2.1%)
自己抜去	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
身体管理系（身体管理・合併安静保持・検査処置等）	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.8%)	1 (4.3%)	1 (1.5%)	3 (5.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (1.5%)	4 (4.2%)
その他：精神症状に起因する	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (8.7%)	3 (4.5%)	2 (3.6%)	0 (0.0%)	1 (10.0%)	2 (16.7%)	0 (0.0%)	5 (3.8%)	5 (5.2%)
その他：それ以外に起因する	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
記述内容不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (8.3%)	1 (20.0%)	2 (1.5%)	2 (2.1%)
不明	0 (0.0%)	2 (66.7%)	3 (8.3%)	6 (26.1%)	9 (13.4%)	10 (18.2%)	2 (12.5%)	1 (10.0%)	1 (8.3%)	1 (20.0%)	15 (11.3%)	20 (20.8%)
患者数合計（人）	2	3	36	23	67	55	16	10	12	5	133	96

※1 1つの実施に対して、複数の該当要件を選択する場合も含む

※2 「エ.その他」の記述に複数の項目を含む場合には、それぞれの項目について分類し、内訳に計上する。

表 78 6月30日0時または12時に隔離が実施された患者の該当要件別、年齢性別の比率（令和元年と平成21年の比較）②令和元年

隔離該当要件の内訳（人）※1	令和元年0時実施有または12時実施有の患者の人数、（）内は各性年齢カテゴリ内での、要件の内訳（％）											
	20歳未満		20歳以上40歳未満		40歳以上65歳未満		65歳以上75歳未満		75歳以上		合計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
ア.他の患者との人間関係を著しく損なうおそれがある等、その言動が患者の病状の経過や予後に著しく悪く影響する場合	1 (25.0%)	1 (25.0%)	9 (25.7%)	6 (30.0%)	42 (46.2%)	25 (43.1%)	11 (68.8%)	6 (26.1%)	4 (21.1%)	3 (33.3%)	67 (40.6%)	41 (36.0%)
イ.自殺企図又は自傷行為が切迫している場合	1 (25.0%)	0 (0.0%)	1 (2.9%)	1 (5.0%)	1 (1.1%)	6 (10.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (1.8%)	7 (6.1%)
ウ.他の患者に対する暴力行為や著しい迷惑行為、器物破損行為が認められ、他の方法ではこれを防ぎきれない場合	2 (50.0%)	1 (25.0%)	13 (37.1%)	4 (20.0%)	28 (30.8%)	14 (24.1%)	5 (31.3%)	5 (21.7%)	4 (21.1%)	3 (33.3%)	52 (31.5%)	27 (23.7%)
エ.急性精神運動興奮等のため、不穏、多動、爆発性などが目立ち、一般の精神病室では医療又は保護を図ることが著しく困難な場合	2 (50.0%)	2 (50.0%)	20 (57.1%)	13 (65.0%)	42 (46.2%)	24 (41.4%)	5 (31.3%)	12 (52.2%)	11 (57.9%)	5 (55.6%)	80 (48.5%)	56 (49.1%)
オ.身体的合併症を有する患者について、検査及び処置等のため、隔離が必要な場合	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.9%)	1 (5.0%)	4 (4.4%)	1 (1.7%)	1 (6.3%)	3 (13.0%)	3 (15.8%)	0 (0.0%)	9 (5.5%)	5 (4.4%)
カ.その他 ※2	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (7.7%)	5 (8.6%)	1 (6.3%)	4 (17.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	8 (4.8%)	9 (7.9%)
水中毒	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (2.2%)	1 (1.7%)	1 (6.3%)	1 (4.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (1.8%)	2 (1.8%)
転倒転落	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (4.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)
自己抜去	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
身体管理系（身体管理・合併安静保持・検査処置等）	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.1%)	2 (3.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.6%)	2 (1.8%)
その他：精神症状に起因する	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (2.2%)	4 (6.9%)	0 (0.0%)	2 (8.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (1.2%)	6 (5.3%)
その他：それ以外に起因する	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
記述内容不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (3.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (4.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (1.8%)	1 (0.9%)
不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)
患者数合計（人）	4	4	35	20	91	58	16	23	19	9	165	114

※1 1つの実施に対して、複数の該当要件を選択する場合も含む

※2 「エ.その他」の記述に複数の項目を含む場合には、それぞれの項目について分類し、内訳に計上する。

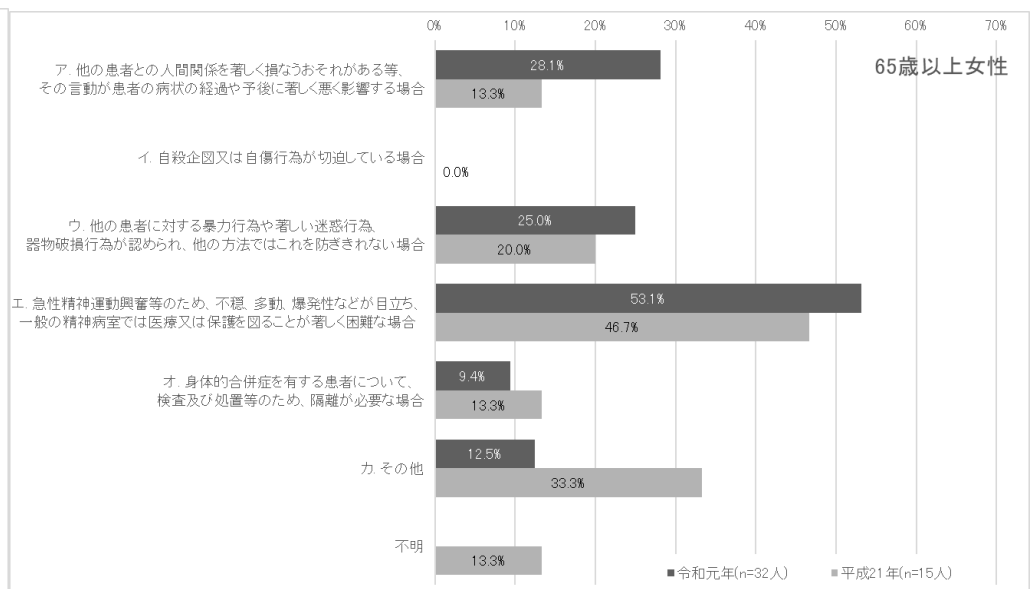
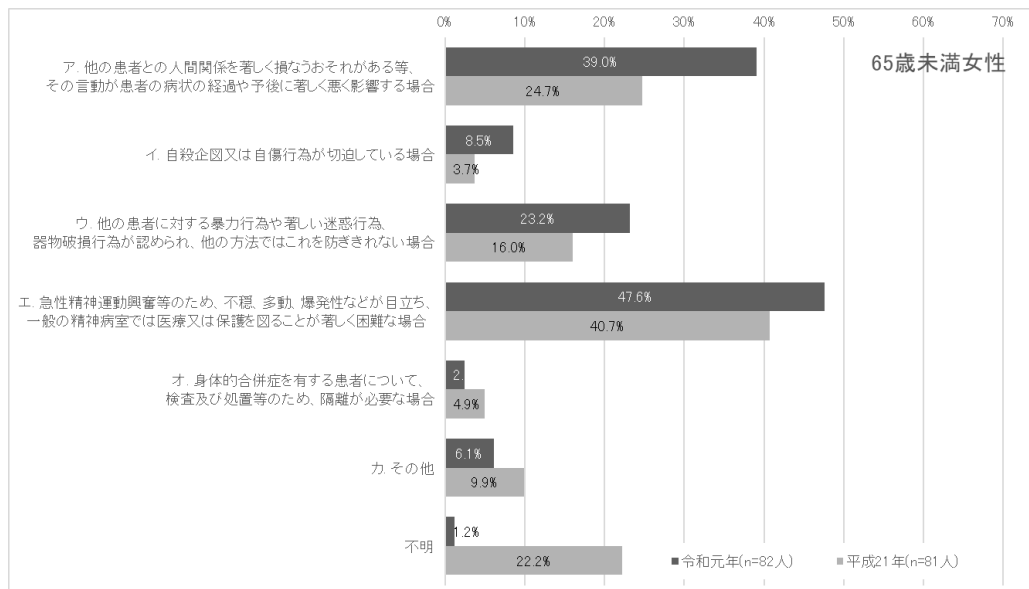
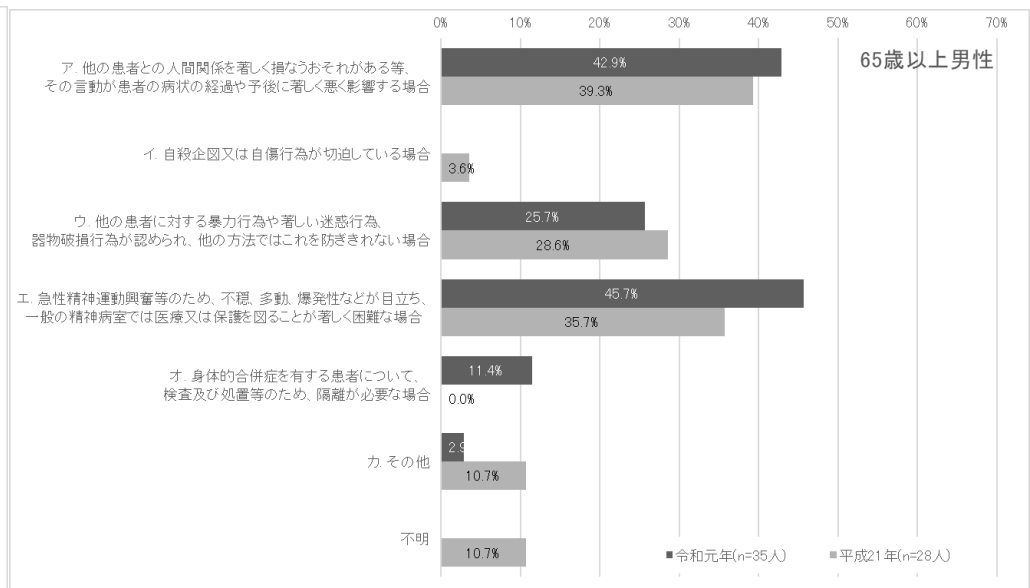
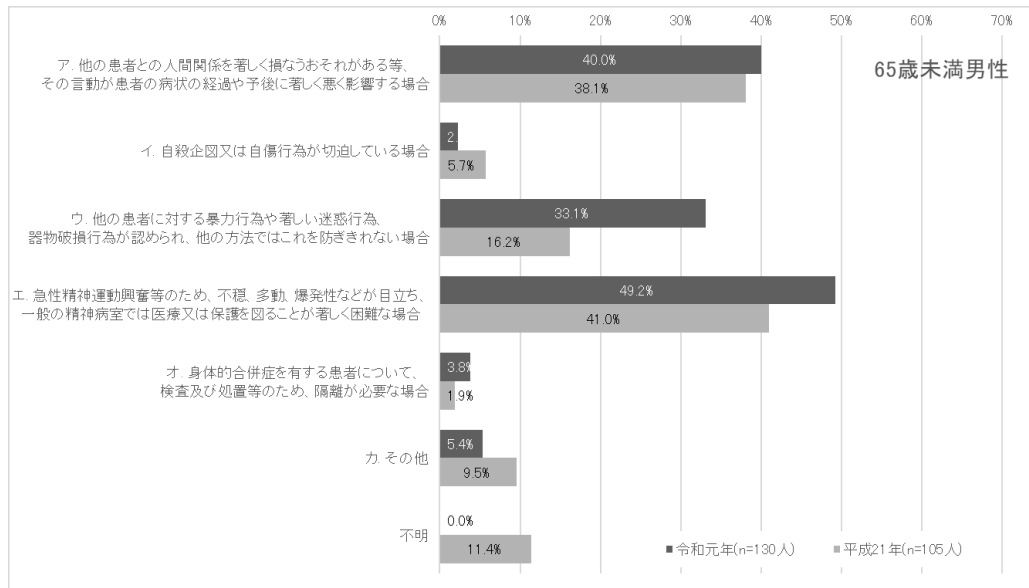


図 34 6月30日0時または12時に隔離が実施された患者の該当要件別、年齢性別の比率（令和元年と平成21年の比較）

表 79 6月30日0時または12時に隔離が指示された患者の該当要件別、年齢性別の比率（令和元年と平成26年の比較）①平成26年

隔離該当要件の内訳（人）※1	平成26年0時指示有または12時指示有の患者の人数、（）内は各性年齢カテゴリ内での、要件の内訳（％）											
	20歳未満		20歳以上40歳未満		40歳以上65歳未満		65歳以上75歳未満		75歳以上		合計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
ア.他の患者との人間関係を著しく損なうおそれがある等、その言動が患者の病状の経過や予後に著しく悪く影響する場合	9 (33.3%)	11 (55.0%)	62 (27.2%)	72 (34.3%)	161 (31.9%)	107 (31.0%)	31 (27.0%)	35 (34.3%)	13 (18.8%)	17 (26.6%)	276 (29.3%)	242 (32.7%)
イ.自殺企図又は自傷行為が切迫している場合	3 (11.1%)	3 (15.0%)	21 (9.2%)	27 (12.9%)	16 (3.2%)	20 (5.8%)	6 (5.2%)	2 (2.0%)	5 (7.2%)	4 (6.3%)	51 (5.4%)	56 (7.6%)
ウ.他の患者に対する暴力行為や著しい迷惑行為、器物破損行為が認められ、他の方法ではこれを防ぎきれない場合	11 (40.7%)	4 (20.0%)	67 (29.4%)	50 (23.8%)	162 (32.1%)	86 (24.9%)	40 (34.8%)	31 (30.4%)	21 (30.4%)	13 (20.3%)	301 (31.9%)	184 (24.8%)
エ.急性精神運動興奮等のため、不穏、多動、爆発性などが目立ち、一般の精神病室では医療又は保護を図ることが著しく困難な場合	13 (48.1%)	6 (30.0%)	118 (51.8%)	108 (51.4%)	268 (53.2%)	179 (51.9%)	48 (41.7%)	49 (48.0%)	29 (42.0%)	29 (45.3%)	476 (50.5%)	371 (50.1%)
オ.身体的合併症を有する患者について、検査及び処置等のため、隔離が必要な場合	0 (0.0%)	3 (15.0%)	0 (0.0%)	3 (1.4%)	21 (4.2%)	18 (5.2%)	5 (4.3%)	9 (8.8%)	2 (2.9%)	3 (4.7%)	28 (3.0%)	36 (4.9%)
カ.その他 ※2	1 (3.7%)	0 (0.0%)	18 (7.9%)	4 (1.9%)	39 (7.7%)	31 (9.0%)	12 (10.4%)	4 (3.9%)	7 (10.1%)	6 (9.4%)	77 (8.2%)	45 (6.1%)
水中毒	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.4%)	0 (0.0%)	15 (3.0%)	8 (2.3%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)	2 (2.9%)	0 (0.0%)	19 (2.0%)	8 (1.1%)
転倒転落	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (0.6%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	1 (1.0%)	0 (0.0%)	2 (3.1%)	4 (0.4%)	3 (0.4%)
自己抜去	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
身体管理系（身体管理・合併安静保持・検査処置等）	1 (3.7%)	0 (0.0%)	1 (0.4%)	1 (0.5%)	5 (1.0%)	3 (0.9%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (3.1%)	8 (0.8%)	6 (0.8%)
その他：精神症状に起因する	0 (0.0%)	0 (0.0%)	15 (6.6%)	3 (1.4%)	16 (3.2%)	18 (5.2%)	6 (5.2%)	2 (2.0%)	4 (5.8%)	3 (4.7%)	41 (4.3%)	26 (3.5%)
その他：それ以外に起因する	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.4%)	0 (0.0%)	2 (0.4%)	3 (0.9%)	3 (2.6%)	2 (2.0%)	2 (2.9%)	1 (1.6%)	8 (0.8%)	6 (0.8%)
記述内容不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
不明	0 (0.0%)	1 (5.0%)	3 (1.3%)	0 (0.0%)	4 (0.8%)	2 (0.6%)	2 (1.7%)	0 (0.0%)	3 (4.3%)	0 (0.0%)	12 (1.3%)	3 (0.4%)
患者数合計（人）	27	20	228	210	504	345	115	102	69	64	943	741

※1 1つの指示に対して、複数の該当要件を選択する場合も含む

※2 「エ.その他」の記述に複数の項目を含む場合には、それぞれの項目について分類し、内訳に計上する。



表 80 6月30日0時または12時に隔離が指示された患者の該当要件別、年齢性別の比率（令和元年と平成26年の比較）②令和元年

隔離該当要件の内訳（人）※1	令和元年0時実施有または12時実施有の患者の人数、（）内は各性年齢カテゴリー内での、要件の内訳（％）											
	20歳未満		20歳以上40歳未満		40歳以上65歳未満		65歳以上75歳未満		75歳以上		合計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
ア.他の患者との人間関係を著しく損なうおそれがある等、その言動が患者の病状の経過や予後に著しく悪く影響する場合	6 (19.4%)	5 (22.7%)	66 (34.0%)	44 (25.0%)	157 (34.0%)	126 (34.1%)	51 (31.9%)	41 (33.9%)	33 (35.1%)	26 (27.7%)	313 (33.3%)	242 (30.9%)
イ.自殺企図又は自傷行為が切迫している場合	4 (12.9%)	9 (40.9%)	10 (5.2%)	26 (14.8%)	15 (3.2%)	25 (6.8%)	8 (5.0%)	7 (5.8%)	3 (3.2%)	9 (9.6%)	40 (4.3%)	76 (9.7%)
ウ.他の患者に対する暴力行為や著しい迷惑行為、器物破損行為が認められ、他の方法ではこれを防ぎきれない場合	9 (29.0%)	7 (31.8%)	61 (31.4%)	42 (23.9%)	144 (31.2%)	101 (27.3%)	53 (33.1%)	29 (24.0%)	26 (27.7%)	32 (34.0%)	293 (31.1%)	211 (26.9%)
エ.急性精神運動興奮等のため、不穏、多動、爆発性などが目立ち、一般の精神病室では医療又は保護を図ることが著しく困難な場合	19 (61.3%)	7 (31.8%)	99 (51.0%)	89 (50.6%)	246 (53.2%)	189 (51.1%)	77 (48.1%)	56 (46.3%)	33 (35.1%)	40 (42.6%)	474 (50.4%)	381 (48.7%)
オ.身体的合併症を有する患者について、検査及び処置等のため、隔離が必要な場合	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (1.5%)	3 (1.7%)	15 (3.2%)	13 (3.5%)	7 (4.4%)	6 (5.0%)	3 (3.2%)	1 (1.1%)	28 (3.0%)	23 (2.9%)
カ.その他 ※2	1 (3.2%)	0 (0.0%)	9 (4.6%)	7 (4.0%)	28 (6.1%)	16 (4.3%)	13 (8.1%)	12 (9.9%)	14 (14.9%)	7 (7.4%)	65 (6.9%)	42 (5.4%)
水中毒	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (1.0%)	2 (1.1%)	15 (3.2%)	6 (1.6%)	4 (2.5%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	21 (2.2%)	9 (1.1%)
転倒転落	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.6%)	1 (0.2%)	1 (0.3%)	2 (1.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (2.1%)	3 (0.3%)	4 (0.5%)
自己抜去	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
身体管理系（身体管理・合併安静保持・検査処置等）	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.5%)	1 (0.6%)	1 (0.2%)	0 (0.0%)	1 (0.6%)	1 (0.8%)	1 (1.1%)	0 (0.0%)	4 (0.4%)	2 (0.3%)
その他：精神症状に起因する	1 (3.2%)	0 (0.0%)	6 (3.1%)	3 (1.7%)	8 (1.7%)	7 (1.9%)	5 (3.1%)	6 (5.0%)	5 (5.3%)	2 (2.1%)	25 (2.7%)	18 (2.3%)
その他：それ以外に起因する	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (0.5%)	2 (1.3%)	4 (3.3%)	8 (8.5%)	3 (3.2%)	11 (1.2%)	9 (1.1%)
記述内容不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (0.6%)	1 (0.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (0.3%)	1 (0.1%)
不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.5%)	1 (0.6%)	2 (0.4%)	1 (0.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.1%)	3 (0.3%)	3 (0.4%)
患者数合計（人）	31	22	194	176	462	370	160	121	94	94	941	783

※1 1つの実施に対して、複数の該当要件を選択する場合も含む

※2 「エ.その他」の記述に複数の項目を含む場合には、それぞれの項目について分類し、内訳に計上する。

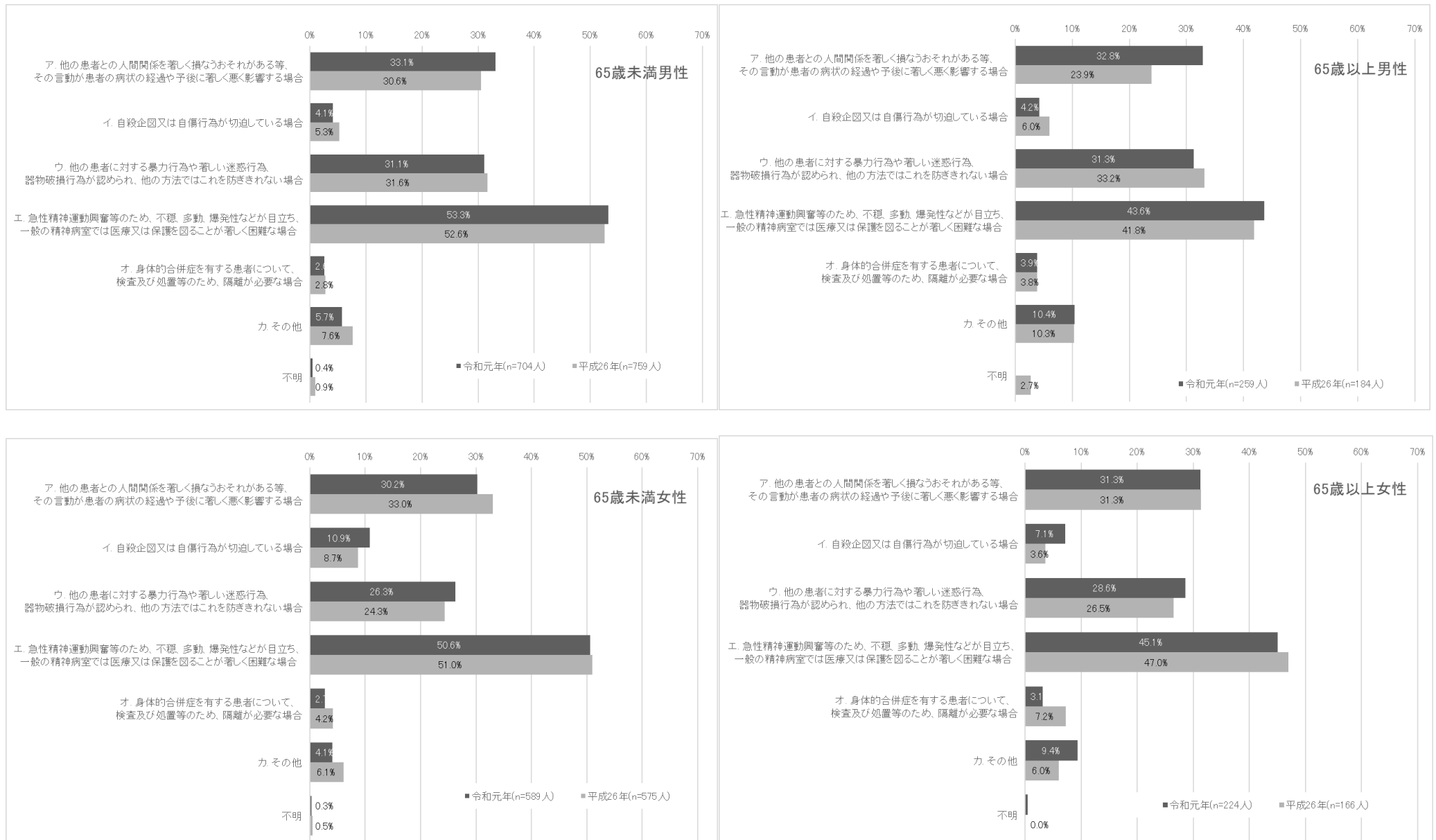


図 35 6月30日0時または12時に隔離が指示された患者の該当要件別、年齢性別の比率（令和元年と平成26年の比較）

表 81 6月30日0時または12時に隔離が実施された患者の該当要件別、年齢性別の比率（令和元年と平成26年の比較）①平成26年

隔離該当要件の内訳（人）※1	平成26年0時実施有または12時実施有の患者の人数、（）内は各性年齢カテゴリ内での、要件の内訳（％）											
	20歳未満		20歳以上40歳未満		40歳以上65歳未満		65歳以上75歳未満		75歳以上		合計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
ア.他の患者との人間関係を著しく損なうおそれがある等、その言動が患者の病状の経過や予後に著しく悪く影響する場合	9 (34.6%)	11 (55.0%)	61 (27.1%)	72 (34.6%)	160 (32.0%)	104 (31.6%)	31 (27.7%)	35 (35.0%)	13 (19.7%)	17 (27.9%)	274 (29.5%)	239 (33.3%)
イ.自殺企図又は自傷行為が切迫している場合	3 (11.5%)	3 (15.0%)	21 (9.3%)	25 (12.0%)	16 (3.2%)	20 (6.1%)	6 (5.4%)	2 (2.0%)	5 (7.6%)	4 (6.6%)	51 (5.5%)	54 (7.5%)
ウ.他の患者に対する暴力行為や著しい迷惑行為、器物破損行為が認められ、他の方法ではこれを防ぎきれない場合	11 (42.3%)	4 (20.0%)	66 (29.3%)	50 (24.0%)	160 (32.0%)	81 (24.6%)	38 (33.9%)	30 (30.0%)	20 (30.3%)	12 (19.7%)	295 (31.8%)	177 (24.7%)
エ.急性精神運動興奮等のため、不穏、多動、爆発性などが目立ち、一般の精神病室では医療又は保護を図ることが著しく困難な場合	12 (46.2%)	6 (30.0%)	115 (51.1%)	108 (51.9%)	264 (52.8%)	171 (52.0%)	47 (42.0%)	49 (49.0%)	28 (42.4%)	28 (45.9%)	466 (50.2%)	362 (50.4%)
オ.身体的合併症を有する患者について、検査及び処置等のため、隔離が必要な場合	0 (0.0%)	3 (15.0%)	0 (0.0%)	3 (1.4%)	21 (4.2%)	18 (5.5%)	5 (4.5%)	9 (9.0%)	2 (3.0%)	2 (3.3%)	28 (3.0%)	35 (4.9%)
カ.その他 ※2	1 (3.8%)	0 (0.0%)	18 (8.0%)	4 (1.9%)	39 (7.8%)	29 (8.8%)	12 (10.7%)	3 (3.0%)	7 (10.6%)	5 (8.2%)	77 (8.3%)	41 (5.7%)
水中毒	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.4%)	0 (0.0%)	15 (3.0%)	7 (2.1%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)	2 (3.0%)	0 (0.0%)	19 (2.0%)	7 (1.0%)
転倒転落	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (0.6%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.6%)	4 (0.4%)	1 (0.1%)
自己抜去	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
身体管理系（身体管理・合併安静保持・検査処置等）	1 (3.8%)	0 (0.0%)	1 (0.4%)	1 (0.5%)	5 (1.0%)	3 (0.9%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (3.3%)	8 (0.9%)	6 (0.8%)
その他：精神症状に起因する	0 (0.0%)	0 (0.0%)	15 (6.7%)	3 (1.4%)	16 (3.2%)	17 (5.2%)	6 (5.4%)	1 (1.0%)	4 (6.1%)	2 (3.3%)	41 (4.4%)	23 (3.2%)
その他：それ以外に起因する	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.4%)	0 (0.0%)	2 (0.4%)	3 (0.9%)	3 (2.7%)	2 (2.0%)	2 (3.0%)	1 (1.6%)	8 (0.9%)	6 (0.8%)
記述内容不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
不明	0 (0.0%)	1 (5.0%)	3 (1.3%)	0 (0.0%)	4 (0.8%)	2 (0.6%)	2 (1.8%)	0 (0.0%)	2 (3.0%)	0 (0.0%)	11 (1.2%)	3 (0.4%)
患者数合計（人）	26	20	225	208	500	329	112	100	66	61	929	718

※1 1つの実施に対して、複数の該当要件を選択する場合も含む

※2 「エ.その他」の記述に複数の項目を含む場合には、それぞれの項目について分類し、内訳に計上する。

表 82 6月30日0時または12時に隔離が実施された患者の該当要件別、年齢性別の比率（令和元年と平成26年の比較）②令和元年

隔離該当要件の内訳（人）※1	令和元年0時実施有または12時実施有の患者の人数、（）内は各性年齢カテゴリ内での、要件の内訳（％）											
	20歳未満		20歳以上40歳未満		40歳以上65歳未満		65歳以上75歳未満		75歳以上		合計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
ア.他の患者との人間関係を著しく損なうおそれがある等、その言動が患者の病状の経過や予後に著しく悪く影響する場合	6 (19.4%)	5 (22.7%)	66 (34.0%)	44 (25.0%)	157 (34.0%)	126 (34.1%)	51 (31.9%)	41 (33.9%)	33 (35.1%)	26 (27.7%)	313 (33.3%)	242 (30.9%)
イ.自殺企図又は自傷行為が切迫している場合	4 (12.9%)	9 (40.9%)	10 (5.2%)	26 (14.8%)	15 (3.2%)	25 (6.8%)	8 (5.0%)	7 (5.8%)	3 (3.2%)	9 (9.6%)	40 (4.3%)	76 (9.7%)
ウ.他の患者に対する暴力行為や著しい迷惑行為、器物破損行為が認められ、他の方法ではこれを防ぎきれない場合	9 (29.0%)	7 (31.8%)	61 (31.4%)	42 (23.9%)	144 (31.2%)	101 (27.3%)	53 (33.1%)	29 (24.0%)	26 (27.7%)	32 (34.0%)	293 (31.1%)	211 (26.9%)
エ.急性精神運動興奮等のため、不穏、多動、爆発性などが目立ち、一般の精神病室では医療又は保護を図ることが著しく困難な場合	19 (61.3%)	7 (31.8%)	99 (51.0%)	89 (50.6%)	246 (53.2%)	189 (51.1%)	77 (48.1%)	56 (46.3%)	33 (35.1%)	40 (42.6%)	474 (50.4%)	381 (48.7%)
オ.身体的合併症を有する患者について、検査及び処置等のため、隔離が必要な場合	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (1.5%)	3 (1.7%)	15 (3.2%)	13 (3.5%)	7 (4.4%)	6 (5.0%)	3 (3.2%)	1 (1.1%)	28 (3.0%)	23 (2.9%)
カ.その他 ※2	1 (3.2%)	0 (0.0%)	9 (4.6%)	7 (4.0%)	28 (6.1%)	16 (4.3%)	13 (8.1%)	12 (9.9%)	14 (14.9%)	7 (7.4%)	65 (6.9%)	42 (5.4%)
水中毒	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (1.0%)	2 (1.1%)	15 (3.2%)	6 (1.6%)	4 (2.5%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	21 (2.2%)	9 (1.1%)
転倒転落	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.6%)	1 (0.2%)	1 (0.3%)	2 (1.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (2.1%)	3 (0.3%)	4 (0.5%)
自己抜去	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
身体管理系（身体管理・合併安静保持・検査処置等）	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.5%)	1 (0.6%)	1 (0.2%)	0 (0.0%)	1 (0.6%)	1 (0.8%)	1 (1.1%)	0 (0.0%)	4 (0.4%)	2 (0.3%)
その他：精神症状に起因する	1 (3.2%)	0 (0.0%)	6 (3.1%)	3 (1.7%)	8 (1.7%)	7 (1.9%)	5 (3.1%)	6 (5.0%)	5 (5.3%)	2 (2.1%)	25 (2.7%)	18 (2.3%)
その他：それ以外に起因する	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (0.5%)	2 (1.3%)	4 (3.3%)	8 (8.5%)	3 (3.2%)	11 (1.2%)	9 (1.1%)
記述内容不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (0.6%)	1 (0.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (0.3%)	1 (0.1%)
不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.5%)	1 (0.6%)	2 (0.4%)	1 (0.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.1%)	3 (0.3%)	3 (0.4%)
患者数合計（人）	31	22	194	176	462	370	160	121	94	94	941	783

※1 1つの実施に対して、複数の該当要件を選択する場合も含む

※2 「エ.その他」の記述に複数の項目を含む場合には、それぞれの項目について分類し、内訳に計上する。

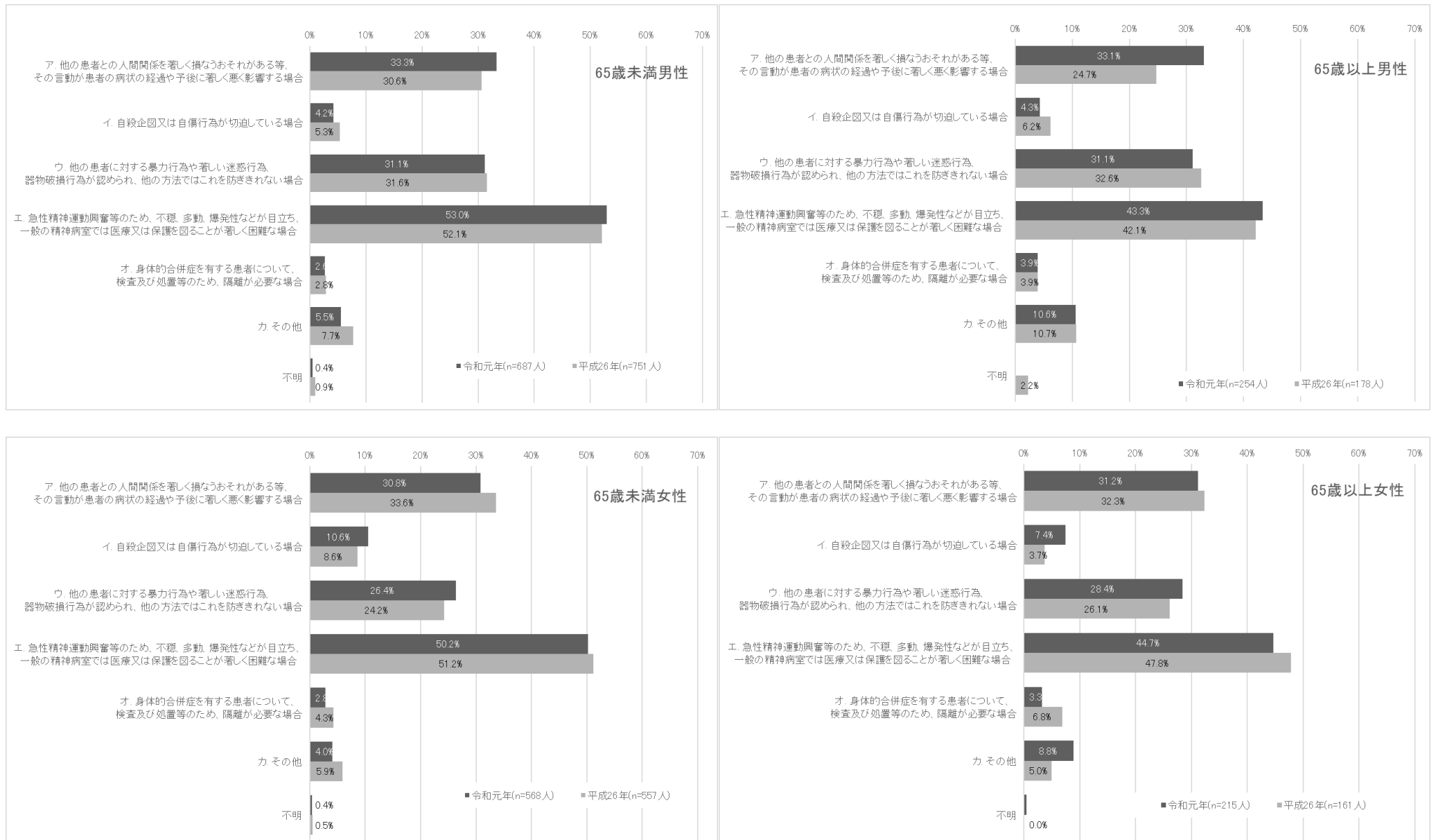


図 36 6月30日0時または12時に隔離が実施された患者の該当要件別、年齢性別の比率（令和元年と平成26年の比較）

表 83 6月30日0時または12時に身体的拘束が指示された患者の該当要件別、年齢性別の比率（令和元年と平成21年の比較）①平成21年

身体的拘束該当要件の内訳（人）※1	平成21年0時指示有または12時指示有の患者の人数、（）内は各性年齢カテゴリ内での、要件の内訳（％）											
	20歳未満		20歳以上40歳未満		40歳以上65歳未満		65歳以上75歳未満		75歳以上		合計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
ア.自殺企図又は自傷行為が著しく切迫している場合	0 (-)	0 (-)	0 (0.0%)	1 (25.0%)	2 (8.3%)	2 (13.3%)	0 (0.0%)	1 (10.0%)	1 (4.2%)	0 (0.0%)	3 (4.8%)	4 (7.7%)
イ.多動又は不穏が顕著である場合	0 (-)	0 (-)	0 (0.0%)	1 (25.0%)	15 (62.5%)	5 (33.3%)	3 (25.0%)	3 (30.0%)	12 (50.0%)	10 (43.5%)	30 (47.6%)	19 (36.5%)
ウ.ア又はイのほか精神障害のために、そのまま放置すれば患者の生命にまで危険が及ぶおそれがある場合	0 (-)	0 (-)	0 (0.0%)	1 (25.0%)	2 (8.3%)	1 (6.7%)	5 (41.7%)	1 (10.0%)	2 (8.3%)	3 (13.0%)	9 (14.3%)	6 (11.5%)
エ.その他 ※2	0 (-)	0 (-)	3 (100.0%)	0 (0.0%)	6 (25.0%)	8 (53.3%)	4 (33.3%)	5 (50.0%)	10 (41.7%)	12 (52.2%)	23 (36.5%)	25 (48.1%)
水中毒	0 (-)	0 (-)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (4.2%)	0 (0.0%)	1 (8.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (3.2%)	0 (0.0%)
転倒転落	0 (-)	0 (-)	1 (33.3%)	0 (0.0%)	4 (16.7%)	4 (26.7%)	2 (16.7%)	5 (50.0%)	4 (16.7%)	7 (30.4%)	11 (17.5%)	16 (30.8%)
自己抜去	0 (-)	0 (-)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (4.2%)	3 (20.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	6 (25.0%)	3 (13.0%)	7 (11.1%)	6 (11.5%)
身体管理系（身体管理・合併安静保持・検査処置等）	0 (-)	0 (-)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (8.3%)	1 (6.7%)	2 (16.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (8.7%)	4 (6.3%)	3 (5.8%)
その他：精神症状に起因する	0 (-)	0 (-)	1 (33.3%)	0 (0.0%)	1 (4.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (3.2%)	0 (0.0%)
その他：それ以外に起因する	0 (-)	0 (-)	1 (33.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.6%)	0 (0.0%)
記述内容不明	0 (-)	0 (-)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
不明	0 (-)	0 (-)	0 (0.0%)	1 (25.0%)	1 (4.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.6%)	1 (1.9%)
患者数合計（人）	0	0	3	4	24	15	12	10	24	23	63	52

※1 1つの指示に対して、複数の該当要件を選択する場合も含む

※2 「エ.その他」の記述に複数の項目を含む場合には、それぞれの項目について分類し、内訳に計上する。

表 84 6月30日0時または12時に身体的拘束が指示された患者の該当要件別、年齢性別の比率（令和元年と平成21年の比較）②令和元年

身体的拘束該当要件の内訳（人）※1	令和元年0時指示有または12時指示有の患者の人数、（）内は各性年齢カテゴリ内での、要件の内訳（％）												
	20歳未満		20歳以上40歳未満		40歳以上65歳未満		65歳以上75歳未満		75歳以上		合計		
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
ア.自殺企図又は自傷行為が著しく切迫している場合	0 (-)	1 (100.0%)	2 (20.0%)	3 (42.9%)	3 (8.1%)	1 (5.9%)	2 (13.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (9.1%)	5 (7.7%)
イ.多動又は不穏が顕著である場合	0 (-)	1 (100.0%)	7 (70.0%)	5 (71.4%)	22 (59.5%)	9 (52.9%)	7 (46.7%)	17 (65.4%)	7 (46.7%)	8 (57.1%)	43 (55.8%)	40 (61.5%)	
ウ.ア又はイのほか精神障害のために、そのまま放置すれば患者の生命にまで危険が及ぶおそれがある場合	0 (-)	0 (0.0%)	1 (10.0%)	0 (0.0%)	2 (5.4%)	2 (11.8%)	0 (0.0%)	2 (7.7%)	2 (13.3%)	0 (0.0%)	5 (6.5%)	4 (6.2%)	
エ.その他 ※2	0 (-)	0 (0.0%)	2 (20.0%)	1 (14.3%)	15 (40.5%)	11 (64.7%)	7 (46.7%)	10 (38.5%)	8 (53.3%)	10 (71.4%)	32 (41.6%)	32 (49.2%)	
水中毒	0 (-)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (6.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.3%)	0 (0.0%)	
転倒転落	0 (-)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	6 (16.2%)	5 (29.4%)	7 (46.7%)	6 (23.1%)	4 (26.7%)	4 (28.6%)	17 (22.1%)	15 (23.1%)	
自己抜去	0 (-)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.7%)	0 (0.0%)	1 (6.7%)	2 (7.7%)	2 (13.3%)	0 (0.0%)	4 (5.2%)	2 (3.1%)	
身体管理系（身体管理・合併安静保持・検査処置等）	0 (-)	0 (0.0%)	2 (20.0%)	1 (14.3%)	6 (16.2%)	6 (35.3%)	0 (0.0%)	3 (11.5%)	3 (20.0%)	5 (35.7%)	11 (14.3%)	15 (23.1%)	
その他：精神症状に起因する	0 (-)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (5.4%)	4 (23.5%)	1 (6.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (3.9%)	4 (6.2%)	
その他：それ以外に起因する	0 (-)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
記述内容不明	0 (-)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (7.1%)	0 (0.0%)	1 (1.5%)	
不明	0 (-)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
患者数合計（人）	0	1	10	7	37	17	15	26	15	14	77	65	

※1 1つの指示に対して、複数の該当要件を選択する場合も含む

※2 「エ.その他」の記述に複数の項目を含む場合には、それぞれの項目について分類し、内訳に計上する。

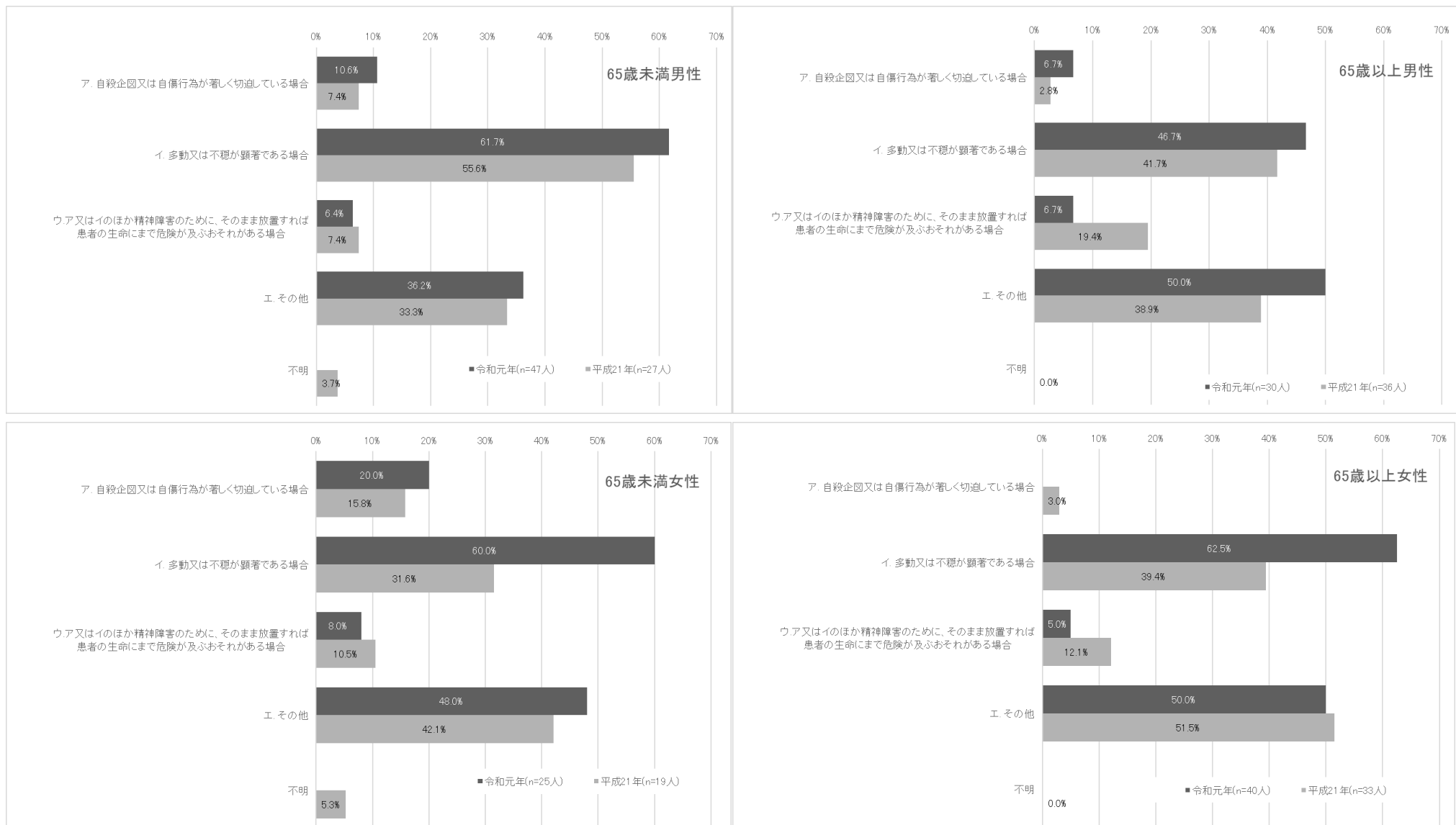


図 37 6月30日0時または12時に身体的拘束が指示された患者の該当要件別、年齢性別の比率（令和元年と平成21年の比較）



表 85 6月30日0時または12時に身体的拘束が実施された患者の該当要件別、年齢性別の比率（令和元年と平成21年の比較）①平成21年

身体的拘束該当要件の内訳（人）※1	平成21年0時実施有または12時実施有の患者の人数、（）内は各性年齢カテゴリ内での、要件の内訳（％）											
	20歳未満		20歳以上40歳未満		40歳以上65歳未満		65歳以上75歳未満		75歳以上		合計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
ア.自殺企図又は自傷行為が著しく切迫している場合	0 (-)	0 (-)	0 (0.0%)	1 (33.3%)	2 (9.1%)	2 (15.4%)	0 (0.0%)	1 (11.1%)	1 (4.3%)	0 (0.0%)	3 (5.3%)	4 (8.9%)
イ.多動又は不穏が顕著である場合	0 (-)	0 (-)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	13 (59.1%)	3 (23.1%)	3 (30.0%)	3 (33.3%)	11 (47.8%)	9 (45.0%)	27 (47.4%)	15 (33.3%)
ウ.ア又はイのほか精神障害のために、そのまま放置すれば患者の生命にまで危険が及ぶおそれがある場合	0 (-)	0 (-)	0 (0.0%)	1 (33.3%)	2 (9.1%)	1 (7.7%)	4 (40.0%)	1 (11.1%)	2 (8.7%)	2 (10.0%)	8 (14.0%)	5 (11.1%)
エ.その他 ※2	0 (-)	0 (-)	2 (100.0%)	0 (0.0%)	6 (27.3%)	8 (61.5%)	3 (30.0%)	4 (44.4%)	10 (43.5%)	11 (55.0%)	21 (36.8%)	23 (51.1%)
水中毒	0 (-)	0 (-)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (4.5%)	0 (0.0%)	1 (10.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (3.5%)	0 (0.0%)
転倒転落	0 (-)	0 (-)	1 (50.0%)	0 (0.0%)	4 (18.2%)	4 (30.8%)	2 (20.0%)	4 (44.4%)	4 (17.4%)	6 (30.0%)	11 (19.3%)	14 (31.1%)
自己抜去	0 (-)	0 (-)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (4.5%)	3 (23.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	6 (26.1%)	3 (15.0%)	7 (12.3%)	6 (13.3%)
身体管理系（身体管理・合併安静保持・検査処置等）	0 (-)	0 (-)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (9.1%)	1 (7.7%)	1 (10.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (10.0%)	3 (5.3%)	3 (6.7%)
その他：精神症状に起因する	0 (-)	0 (-)	1 (50.0%)	0 (0.0%)	1 (4.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (3.5%)	0 (0.0%)
その他：それ以外に起因する	0 (-)	0 (-)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
記述内容不明	0 (-)	0 (-)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
不明	0 (-)	0 (-)	0 (0.0%)	1 (33.3%)	1 (4.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.8%)	1 (2.2%)
患者数合計（人）	0	0	2	3	22	13	10	9	23	20	57	45

※1 1つの実施に対して、複数の該当要件を選択する場合も含む

※2 「エ.その他」の記述に複数の項目を含む場合には、それぞれの項目について分類し、内訳に計上する。

表 86 6月30日0時または12時に身体的拘束が実施された患者の該当要件別、年齢性別の比率（令和元年と平成21年の比較）②令和元年

身体的拘束該当要件の内訳（人）※1	令和元年0時実施有または12時実施有の患者の人数、（）内は各性年齢カテゴリ内での、要件の内訳（％）												
	20歳未満		20歳以上40歳未満		40歳以上65歳未満		65歳以上75歳未満		75歳以上		合計		
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
ア.自殺企図又は自傷行為が著しく切迫している場合	0 (-)	1 (100.0%)	2 (25.0%)	1 (25.0%)	2 (7.1%)	1 (7.1%)	2 (13.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	6 (8.2%)	3 (4.6%)
イ.多動又は不穏が顕著である場合	0 (-)	1 (100.0%)	6 (75.0%)	4 (100.0%)	16 (57.1%)	8 (57.1%)	7 (46.7%)	15 (65.2%)	6 (42.9%)	5 (45.5%)	35 (47.9%)	33 (50.8%)	
ウ.ア又はイのほか精神障害のために、そのまま放置すれば患者の生命にまで危険が及ぶおそれがある場合	0 (-)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (7.1%)	1 (7.1%)	0 (0.0%)	1 (4.3%)	2 (14.3%)	0 (0.0%)	4 (5.5%)	2 (3.1%)	
エ.その他 ※2	0 (-)	0 (0.0%)	1 (12.5%)	0 (0.0%)	13 (46.4%)	9 (64.3%)	7 (46.7%)	8 (34.8%)	7 (50.0%)	10 (90.9%)	28 (38.4%)	27 (41.5%)	
水中毒	0 (-)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (6.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.4%)	0 (0.0%)	
転倒転落	0 (-)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	5 (17.9%)	4 (28.6%)	7 (46.7%)	5 (21.7%)	4 (28.6%)	4 (36.4%)	16 (21.9%)	13 (20.0%)	
自己抜去	0 (-)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (3.6%)	0 (0.0%)	1 (6.7%)	2 (8.7%)	2 (14.3%)	0 (0.0%)	4 (5.5%)	2 (3.1%)	
身体管理系（身体管理・合併安静保持・検査処置等）	0 (-)	0 (0.0%)	1 (12.5%)	0 (0.0%)	5 (17.9%)	5 (35.7%)	0 (0.0%)	2 (8.7%)	2 (14.3%)	5 (45.5%)	8 (11.0%)	12 (18.5%)	
その他：精神症状に起因する	0 (-)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (7.1%)	4 (28.6%)	1 (6.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (4.1%)	4 (6.2%)	
その他：それ以外に起因する	0 (-)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
記述内容不明	0 (-)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (9.1%)	0 (0.0%)	1 (1.5%)	
不明	0 (-)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
患者数合計（人）	0	1	8	4	28	14	15	23	14	11	73	65	

※1 1つの実施に対して、複数の該当要件を選択する場合も含む

※2 「エ.その他」の記述に複数の項目を含む場合には、それぞれの項目について分類し、内訳に計上する。

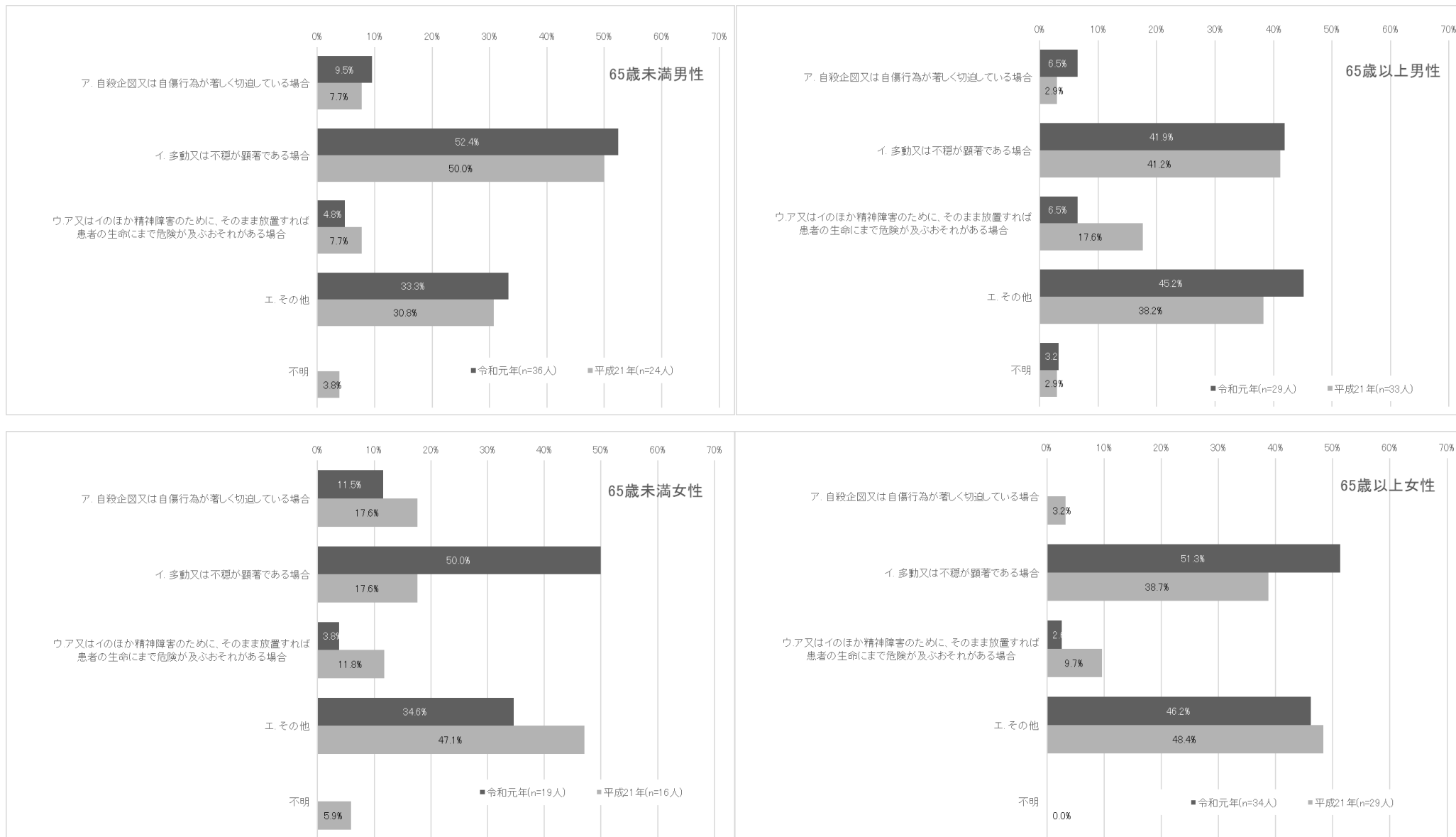


図 38 6月30日0時または12時に身体的拘束が実施された患者の該当要件別、年齢性別の比率（令和元年と平成21年の比較）

表 87 6月30日0時または12時に身体的拘束が指示された患者の該当要件別、年齢性別の比率（令和元年と平成26年の比較）①平成26年

身体的拘束該当要件の内訳（人）※1	平成26年0時指示有または12時指示有の患者の人数、（）内は各性年齢カテゴリ内での、要件の内訳（％）											
	20歳未満		20歳以上40歳未満		40歳以上65歳未満		65歳以上75歳未満		75歳以上		合計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
ア.自殺企図又は自傷行為が著しく切迫している場合	3 (60.0%)	1 (20.0%)	7 (13.7%)	10 (21.7%)	11 (4.5%)	18 (9.3%)	5 (3.1%)	10 (6.8%)	12 (6.9%)	16 (7.3%)	38 (6.0%)	55 (9.0%)
イ.多動又は不穏が顕著である場合	3 (60.0%)	4 (80.0%)	34 (66.7%)	34 (73.9%)	164 (67.5%)	129 (66.8%)	106 (66.7%)	105 (71.9%)	110 (62.9%)	136 (62.1%)	417 (65.9%)	408 (67.0%)
ウ.ア又はイのほか精神障害のために、そのまま放置すれば患者の生命にまで危険が及ぶおそれがある場合	1 (20.0%)	0 (0.0%)	11 (21.6%)	4 (8.7%)	63 (25.9%)	39 (20.2%)	26 (16.4%)	15 (10.3%)	17 (9.7%)	21 (9.6%)	118 (18.6%)	79 (13.0%)
エ.その他 ※2	0 (0.0%)	2 (40.0%)	3 (5.9%)	4 (8.7%)	55 (22.6%)	35 (18.1%)	44 (27.7%)	33 (22.6%)	54 (30.9%)	76 (34.7%)	156 (24.6%)	150 (24.6%)
水中毒	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.0%)	0 (0.0%)	3 (1.2%)	3 (1.6%)	0 (0.0%)	1 (0.7%)	1 (0.6%)	0 (0.0%)	5 (0.8%)	4 (0.7%)
転倒転落	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (3.9%)	1 (2.2%)	29 (11.9%)	21 (10.9%)	26 (16.4%)	22 (15.1%)	24 (13.7%)	39 (17.8%)	81 (12.8%)	83 (13.6%)
自己抜去	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (4.3%)	11 (4.5%)	3 (1.6%)	8 (5.0%)	5 (3.4%)	10 (5.7%)	18 (8.2%)	29 (4.6%)	28 (4.6%)
身体管理系（身体管理・合併安静保持・検査処置等）	0 (0.0%)	1 (20.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (2.9%)	5 (2.6%)	10 (6.3%)	5 (3.4%)	15 (8.6%)	11 (5.0%)	32 (5.1%)	22 (3.6%)
その他：精神症状に起因する	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (4.3%)	14 (5.8%)	8 (4.1%)	6 (3.8%)	1 (0.7%)	5 (2.9%)	8 (3.7%)	25 (3.9%)	19 (3.1%)
その他：それ以外に起因する	0 (0.0%)	1 (20.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.6%)	3 (1.4%)	1 (0.2%)	4 (0.7%)
記述内容不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.0%)	0 (0.0%)	2 (0.8%)	3 (1.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (1.1%)	1 (0.5%)	5 (0.8%)	4 (0.7%)
患者数合計（人）	5	5	51	46	243	193	159	146	175	219	633	609

※1 1つの指示に対して、複数の該当要件を選択する場合も含む

※2 「エ.その他」の記述に複数の項目を含む場合には、それぞれの項目について分類し、内訳に計上する。

表 88 6月30日0時または12時に身体的拘束が指示された患者の該当要件別、年齢性別の比率（令和元年と平成26年の比較）②令和元年

身体的拘束該当要件の内訳（人）※1	令和元年0時指示有または12時指示有の患者の人数、（）内は各性年齢カテゴリ内での、要件の内訳（％）											
	20歳未満		20歳以上40歳未満		40歳以上65歳未満		65歳以上75歳未満		75歳以上		合計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
ア.自殺企図又は自傷行為が著しく切迫している場合	0 (0.0%)	1 (25.0%)	5 (16.1%)	8 (23.5%)	19 (10.0%)	10 (7.6%)	10 (6.3%)	4 (3.4%)	5 (2.6%)	9 (4.5%)	39 (6.8%)	32 (6.6%)
イ.多動又は不穏が顕著である場合	3 (100.0%)	2 (50.0%)	20 (64.5%)	21 (61.8%)	123 (64.7%)	97 (73.5%)	110 (69.6%)	70 (60.3%)	122 (62.9%)	139 (69.2%)	378 (65.6%)	329 (67.6%)
ウ.ア又はイのほか精神障害のために、そのまま放置すれば患者の生命にまで危険が及ぶおそれがある場合	0 (0.0%)	0 (0.0%)	14 (45.2%)	8 (23.5%)	52 (27.4%)	31 (23.5%)	32 (20.3%)	17 (14.7%)	35 (18.0%)	22 (10.9%)	133 (23.1%)	78 (16.0%)
エ.その他 ※2	1 (33.3%)	1 (25.0%)	3 (9.7%)	7 (20.6%)	45 (23.7%)	37 (28.0%)	42 (26.6%)	43 (37.1%)	65 (33.5%)	56 (27.9%)	156 (27.1%)	144 (29.6%)
水中毒	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (6.5%)	0 (0.0%)	2 (1.1%)	2 (1.5%)	1 (0.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	5 (0.9%)	2 (0.4%)
転倒転落	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.9%)	23 (12.1%)	11 (8.3%)	22 (13.9%)	27 (23.3%)	33 (17.0%)	23 (11.4%)	78 (13.5%)	62 (12.7%)
自己抜去	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	5 (2.6%)	6 (4.5%)	6 (3.8%)	3 (2.6%)	17 (8.8%)	16 (8.0%)	28 (4.9%)	25 (5.1%)
身体管理系（身体管理・合併安静保持・検査処置等）	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (11.8%)	10 (5.3%)	7 (5.3%)	6 (3.8%)	10 (8.6%)	16 (8.2%)	14 (7.0%)	32 (5.6%)	35 (7.2%)
その他：精神症状に起因する	1 (33.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.9%)	12 (6.3%)	10 (7.6%)	10 (6.3%)	3 (2.6%)	10 (5.2%)	9 (4.5%)	33 (5.7%)	23 (4.7%)
その他：それ以外に起因する	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (2.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.5%)	0 (0.0%)	4 (0.8%)
記述内容不明	0 (0.0%)	1 (25.0%)	1 (3.2%)	1 (2.9%)	0 (0.0%)	2 (1.5%)	0 (0.0%)	3 (2.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.2%)	7 (1.4%)
不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
患者数合計（人）	3	4	31	34	190	132	158	116	194	201	576	487

※1 1つの指示に対して、複数の該当要件を選択する場合も含む

※2 「エ.その他」の記述に複数の項目を含む場合には、それぞれの項目について分類し、内訳に計上する。

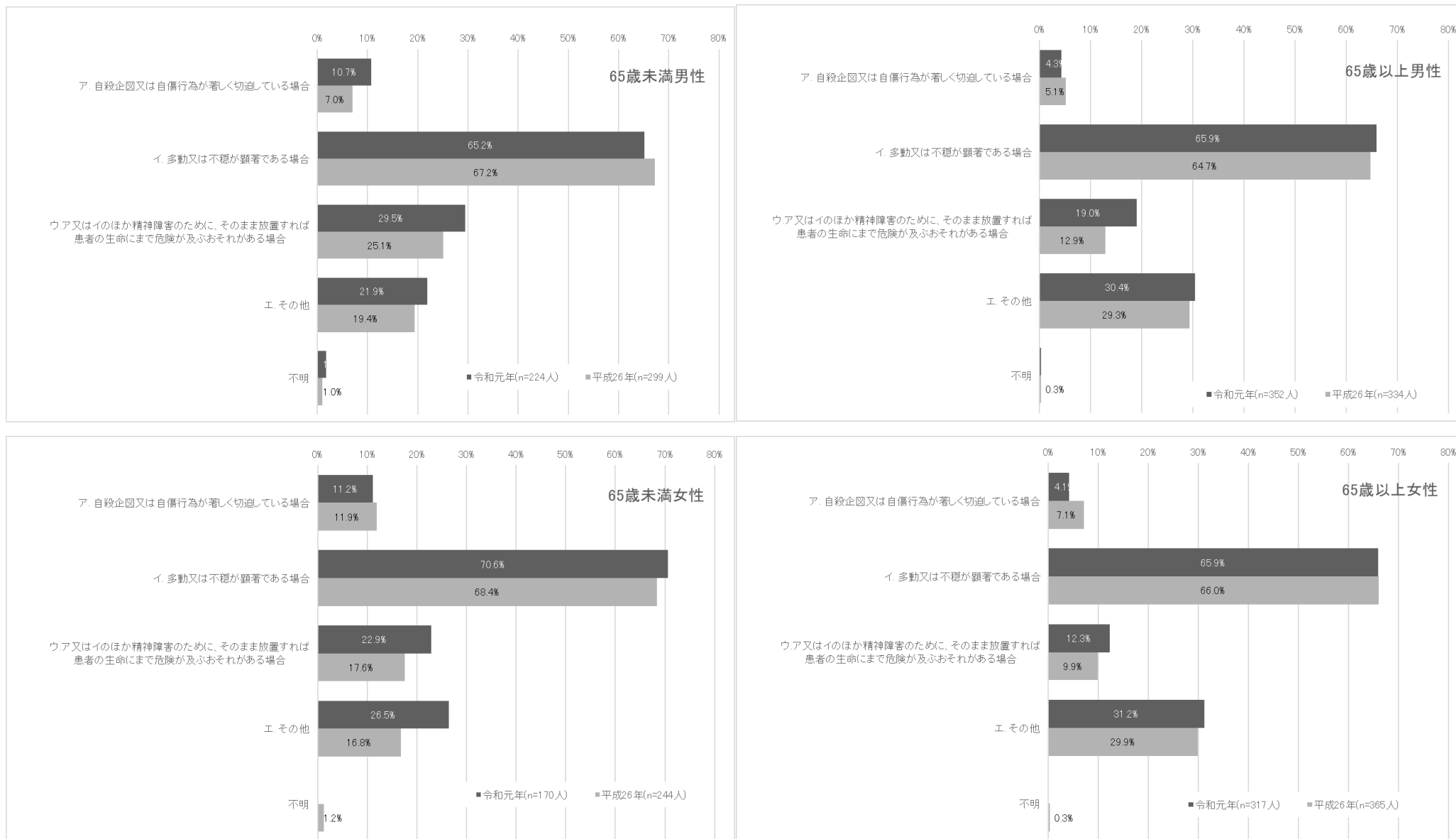


図 39 6月30日0時または12時に身体的拘束が指示された患者の該当要件別、年齢性別の比率（令和元年と平成26年の比較）

表 89 6月30日0時または12時に身体的拘束が実施された患者の該当要件別、年齢性別の比率（令和元年と平成26年の比較）①平成26年

身体的拘束該当要件の内訳（人）※1	平成26年0時実施有または12時実施有の患者の人数、（）内は各性年齢カテゴリ内での、要件の内訳（％）											
	20歳未満		20歳以上40歳未満		40歳以上65歳未満		65歳以上75歳未満		75歳以上		合計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
ア.自殺企図又は自傷行為が著しく切迫している場合	3 (60.0%)	1 (20.0%)	7 (13.7%)	9 (20.9%)	10 (4.3%)	17 (9.1%)	5 (3.2%)	10 (7.0%)	12 (7.1%)	16 (7.6%)	37 (6.1%)	53 (9.0%)
イ.多動又は不穏が顕著である場合	3 (60.0%)	4 (80.0%)	34 (66.7%)	32 (74.4%)	155 (67.1%)	125 (66.8%)	104 (66.7%)	103 (72.0%)	107 (63.7%)	130 (61.9%)	403 (66.0%)	394 (67.0%)
ウ.ア又はイのほか精神障害のために、そのまま放置すれば患者の生命にまで危険が及ぶおそれがある場合	1 (20.0%)	0 (0.0%)	11 (21.6%)	4 (9.3%)	62 (26.8%)	39 (20.9%)	24 (15.4%)	15 (10.5%)	16 (9.5%)	20 (9.5%)	114 (18.7%)	78 (13.3%)
エ.その他 ※2	0 (0.0%)	2 (40.0%)	3 (5.9%)	3 (7.0%)	52 (22.5%)	34 (18.2%)	44 (28.2%)	32 (22.4%)	51 (30.4%)	74 (35.2%)	150 (24.5%)	145 (24.7%)
水中毒	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.0%)	0 (0.0%)	3 (1.3%)	3 (1.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.6%)	0 (0.0%)	5 (0.8%)	3 (0.5%)
転倒転落	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (3.9%)	1 (2.3%)	29 (12.6%)	21 (11.2%)	26 (16.7%)	22 (15.4%)	23 (13.7%)	39 (18.6%)	80 (13.1%)	83 (14.1%)
自己抜去	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.3%)	11 (4.8%)	2 (1.1%)	8 (5.1%)	5 (3.5%)	9 (5.4%)	17 (8.1%)	28 (4.6%)	25 (4.3%)
身体管理系（身体管理・合併安静保持・検査処置等）	0 (0.0%)	1 (20.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	6 (2.6%)	5 (2.7%)	10 (6.4%)	5 (3.5%)	13 (7.7%)	11 (5.2%)	29 (4.7%)	22 (3.7%)
その他：精神症状に起因する	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.3%)	11 (4.8%)	8 (4.3%)	6 (3.8%)	1 (0.7%)	5 (3.0%)	7 (3.3%)	22 (3.6%)	17 (2.9%)
その他：それ以外に起因する	0 (0.0%)	1 (20.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.6%)	3 (1.4%)	1 (0.2%)	4 (0.7%)
記述内容不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.0%)	0 (0.0%)	2 (0.9%)	3 (1.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.6%)	0 (0.0%)	4 (0.7%)	3 (0.5%)
患者数合計（人）	5	5	51	43	231	187	156	143	168	210	611	588

※1 1つの実施に対して、複数の該当要件を選択する場合も含む

※2 「エ.その他」の記述に複数の項目を含む場合には、それぞれの項目について分類し、内訳に計上する。

表 90 6月30日0時または12時に身体的拘束が実施された患者の該当要件別、年齢性別の比率（令和元年と平成26年の比較）②令和元年

身体的拘束該当要件の内訳（人）※1	令和元年0時実施有または12時実施有の患者の人数、（）内は各性年齢カテゴリ内での、要件の内訳（％）											
	20歳未満		20歳以上40歳未満		40歳以上65歳未満		65歳以上75歳未満		75歳以上		合計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
ア.自殺企図又は自傷行為が著しく切迫している場合	0 (0.0%)	1 (25.0%)	5 (16.7%)	7 (23.3%)	19 (10.2%)	8 (6.3%)	9 (5.8%)	4 (3.6%)	5 (2.6%)	9 (4.7%)	38 (6.7%)	29 (6.2%)
イ.多動又は不穏が顕著である場合	3 (100.0%)	2 (50.0%)	19 (63.3%)	19 (63.3%)	120 (64.2%)	93 (73.2%)	108 (69.7%)	68 (60.7%)	119 (63.0%)	132 (68.4%)	369 (65.4%)	314 (67.4%)
ウ.ア又はイのほか精神障害のために、そのまま放置すれば患者の生命にまで危険が及ぶおそれがある場合	0 (0.0%)	0 (0.0%)	14 (46.7%)	8 (26.7%)	51 (27.3%)	30 (23.6%)	31 (20.0%)	16 (14.3%)	34 (18.0%)	22 (11.4%)	130 (23.0%)	76 (16.3%)
エ.その他 ※2	1 (33.3%)	1 (25.0%)	3 (10.0%)	6 (20.0%)	45 (24.1%)	36 (28.3%)	42 (27.1%)	41 (36.6%)	63 (33.3%)	55 (28.5%)	154 (27.3%)	139 (29.8%)
水中毒	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (6.7%)	0 (0.0%)	2 (1.1%)	2 (1.6%)	1 (0.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	5 (0.9%)	2 (0.4%)
転倒転落	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (3.3%)	23 (12.3%)	11 (8.7%)	22 (14.2%)	27 (24.1%)	32 (16.9%)	22 (11.4%)	77 (13.7%)	61 (13.1%)
自己抜去	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	5 (2.7%)	6 (4.7%)	6 (3.9%)	3 (2.7%)	16 (8.5%)	16 (8.3%)	27 (4.8%)	25 (5.4%)
身体管理系（身体管理・合併安静保持・検査処置等）	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (10.0%)	10 (5.3%)	7 (5.5%)	6 (3.9%)	8 (7.1%)	16 (8.5%)	14 (7.3%)	32 (5.7%)	32 (6.9%)
その他：精神症状に起因する	1 (33.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (3.3%)	12 (6.4%)	10 (7.9%)	10 (6.5%)	3 (2.7%)	10 (5.3%)	9 (4.7%)	33 (5.9%)	23 (4.9%)
その他：それ以外に起因する	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (1.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.5%)	0 (0.0%)	3 (0.6%)
記述内容不明	0 (0.0%)	1 (25.0%)	1 (3.3%)	1 (3.3%)	0 (0.0%)	2 (1.6%)	0 (0.0%)	3 (2.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.2%)	7 (1.5%)
不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
患者数合計（人）	3	4	30	30	187	127	155	112	189	193	564	466

※1 1つの実施に対して、複数の該当要件を選択する場合も含む

※2 「エ.その他」の記述に複数の項目を含む場合には、それぞれの項目について分類し、内訳に計上する。



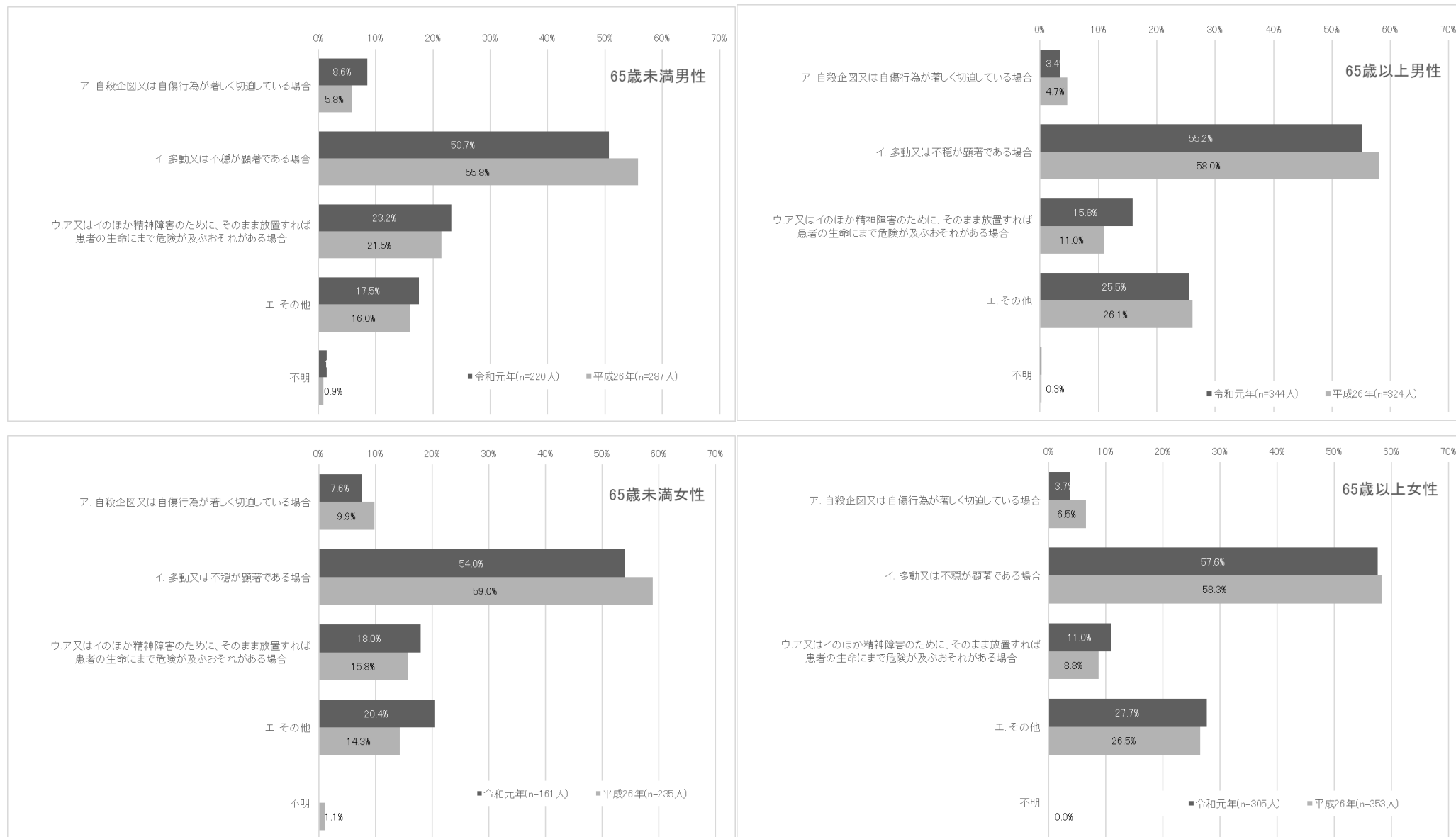


図 40 6月30日0時または12時に身体的拘束が実施された患者の該当要件別、年齢性別の比率（令和元年と平成26年の比較）

表 91 6月に精神病床で隔離指示が解除された患者の、当該エピソードにおける隔離期間の内訳（令和元年と平成21年の比較）

	隔離指示が出されていた各期間に該当するエピソード件数 ( )内は各期間の内訳 (%)											最大値 (日)	最小値 (日)	平均値 (日)	中央値 (日)
	1日のみ	1週間未満	2週間未満	1か月未満	3か月未満	1年未満	5年未満	10年未満	10年以上	不明	合計				
平成21年	13 (2.9%)	221 (49.9%)	80 (18.1%)	65 (14.7%)	41 (9.3%)	17 (3.8%)	5 (1.1%)	1 (0.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	443 (100.0%)	2,792	1	36	6
令和元年	10 (2.1%)	226 (48.0%)	77 (16.3%)	80 (17.0%)	48 (10.2%)	25 (5.3%)	5 (1.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	471 (100.0%)	1,567	1	28	6

※同入院で複数回の隔離指示があった場合には、1エピソードごとに期間を算出

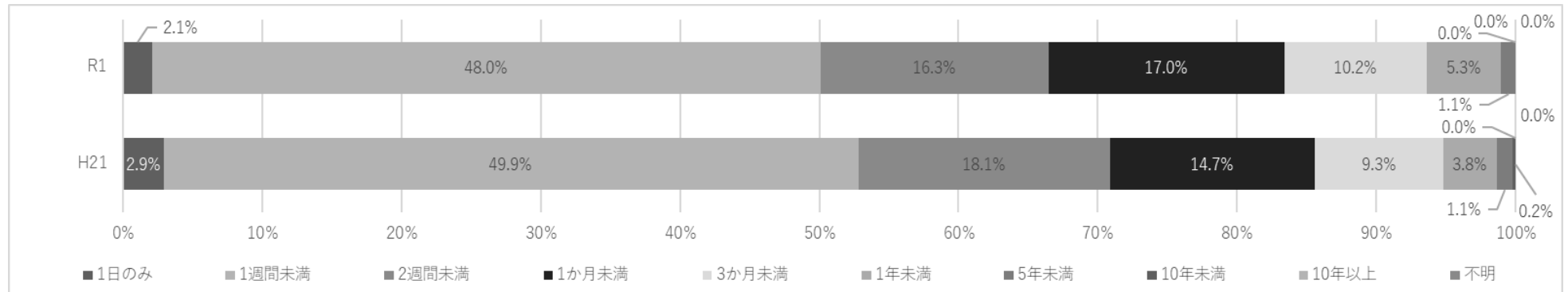


図 41 6月に精神病床で隔離指示が解除された患者の、当該エピソードにおける隔離期間の内訳の推移（令和元年と平成21年の比較）

表 92 6月に精神病床で隔離指示が解除された患者の、当該エピソードにおける隔離期間の内訳（令和元年と平成26年の比較）

	隔離指示が出されていた各期間に該当するエピソード件数 ( )内は各期間の内訳 (%)											最大値 (日)	最小値 (日)	平均値 (日)	中央値 (日)
	1日のみ	1週間未満	2週間未満	1か月未満	3か月未満	1年未満	5年未満	10年未満	10年以上	不明	合計				
平成26年	84 (2.8%)	1745 (57.9%)	474 (15.7%)	391 (13.0%)	243 (8.1%)	66 (2.2%)	10 (0.3%)	0 (0.0%)	1 (0.0%)	2 (0.1%)	3016 (100.0%)	8,715	1	18	4
令和元年	88 (2.9%)	1823 (60.1%)	445 (14.7%)	358 (11.8%)	219 (7.2%)	75 (2.5%)	20 (0.7%)	3 (0.1%)	1 (0.0%)	1 (0.0%)	3033 (100.0%)	4,299	1	21	3

※同入院で複数回の隔離指示があった場合には、1エピソードごとに期間を算出

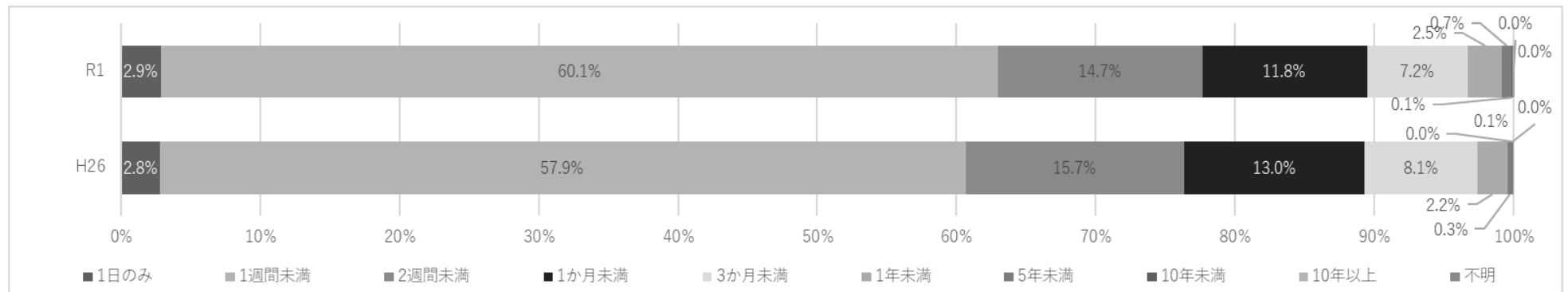


図 42 6月に精神病床で隔離指示が解除された患者の、当該エピソードにおける隔離期間の内訳の推移（令和元年と平成26年の比較）

表 93 6月に精神病床で身体的拘束指示が解除された患者の、当該エピソードにおける身体的拘束期間の内訳（令和元年と平成21年の比較）

	身体的拘束指示が出されていた各期間に該当するエピソード件数 ( ) 内は各期間の内訳 (%)											最大値 (日)	最小値 (日)	平均値 (日)	中央値 (日)
	1日のみ	1週間未満	2週間未満	1か月未満	3か月未満	1年未満	5年未満	10年未満	10年以上	不明	合計				
平成21年	27 (16.3%)	73 (44.0%)	20 (12.0%)	21 (12.7%)	16 (9.6%)	7 (4.2%)	2 (1.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	166 (100.0%)	453	1	21	4
令和元年	8 (5.9%)	68 (50.4%)	26 (19.3%)	19 (14.1%)	11 (8.1%)	3 (2.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	135 (100.0%)	295	1	13	5

※同入院で複数回の身体的拘束指示があった場合には、1エピソードごとに期間を算出

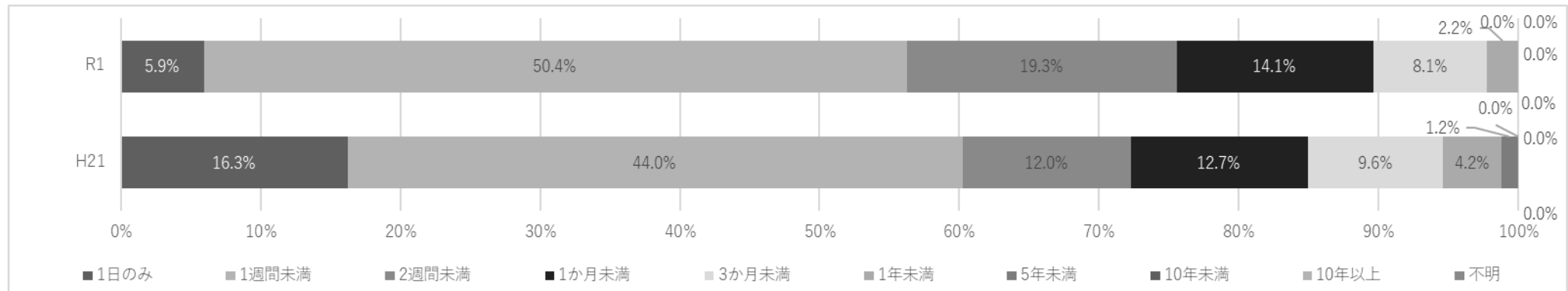


図 43 6月に精神病床で身体的拘束指示が解除された患者の、当該エピソードにおける身体的拘束期間の内訳の推移（令和元年と平成21年の比較）

表 94 6月に精神病床で身体的拘束指示が解除された患者の、当該エピソードにおける身体的拘束期間の内訳（令和元年と平成26年の比較）

	身体的拘束指示が出されていた各期間に該当するエピソード件数 ( ) 内は各期間の内訳 (%)											最大値 (日)	最小値 (日)	平均値 (日)	中央値 (日)
	1日のみ	1週間未満	2週間未満	1か月未満	3か月未満	1年未満	5年未満	10年未満	10年以上	不明	合計				
平成26年	103 (6.2%)	1028 (61.8%)	184 (11.1%)	164 (9.9%)	114 (6.9%)	48 (2.9%)	16 (1.0%)	4 (0.2%)	0 (0.0%)	3 (0.2%)	1664 (100.0%)	3,324	1	25	2
令和元年	104 (6.6%)	957 (61.2%)	172 (11.0%)	152 (9.7%)	106 (6.8%)	41 (2.6%)	28 (1.8%)	3 (0.2%)	2 (0.1%)	0 (0.0%)	1565 (100.0%)	5,663	1	36	2

※同入院で複数回の拘束指示があった場合には、1エピソードごとに期間を算出

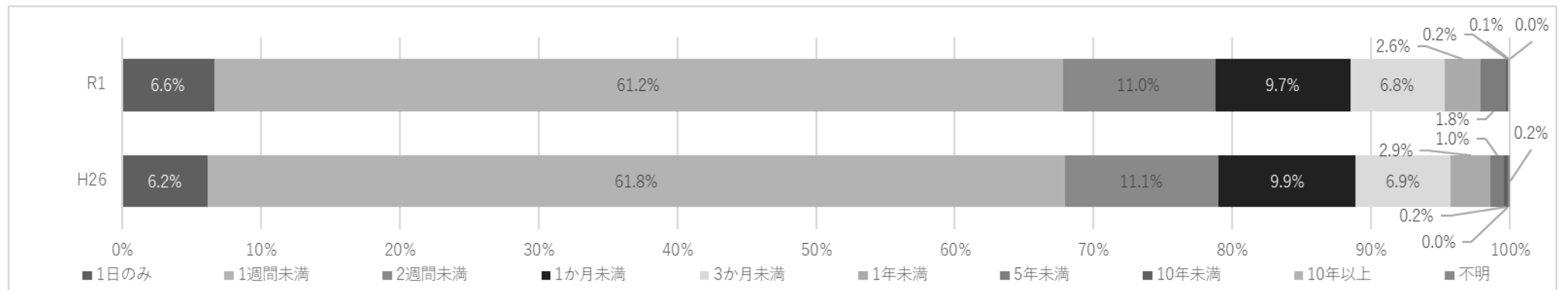


図 44 6月に精神病床で身体的拘束指示が解除された患者の、当該エピソードにおける身体的拘束期間の内訳の推移（令和元年と平成26年の比較）

表 95 6月に精神病床で隔離指示が解除された患者の、当該エピソードにおける隔離期間の内訳（入院料別、令和元年と平成21年の比較）①平成21年

病棟入院料	平成21年												中央値（日）
	隔離指示が出されていた各期間に該当するエピソード件数（）内は各期間の内訳（%）												
	1日のみ	1週間未満	2週間未満	1か月未満	3か月未満	1年未満	5年未満	10年未満	10年以上	不明	合計		
精神科救急入院料	0 (0.0%)	7 (3.2%)	8 (10.0%)	2 (3.1%)	5 (12.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	22 (5.0%)	10
精神科救急・合併症入院料	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.3%)	0 (0.0%)	2 (4.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	3 (0.7%)	32
精神科急性期治療病棟入院料（医師配置加算あり）	1 (7.7%)	26 (11.8%)	30 (37.5%)	21 (32.3%)	5 (12.2%)	2 (11.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	85 (19.2%)	10
精神科急性期治療病棟入院料（医師配置加算なし）	0 (0.0%)	15 (6.8%)	12 (15.0%)	5 (7.7%)	6 (14.6%)	4 (23.5%)	2 (40.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	44 (9.9%)	11
児童・思春期精神科入院医療管理料	1 (7.7%)	4 (1.8%)	2 (2.5%)	0 (0.0%)	1 (2.4%)	3 (17.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	11 (2.5%)	8
医療観察法入院対象者入院医学管理料	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10対1入院基本料	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
13対1入院基本料	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
15対1入院基本料	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	1 (0.2%)	23
18対1入院基本料	11 (84.6%)	168 (76.0%)	26 (32.5%)	35 (53.8%)	21 (51.2%)	8 (47.1%)	3 (60.0%)	1 (100.0%)	0 -	0 -	0 -	273 (61.6%)	2
20対1入院基本料	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	1 (0.2%)	70
特別入院基本料	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	1 (0.2%)	7
特定機能病院入院基本料(7対1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
特定機能病院入院基本料(10対1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
特定機能病院入院基本料(13対1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
特定機能病院入院基本料(15対1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	0 (0.0%)	1 (0.5%)	0 (0.0%)	1 (1.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	2 (0.5%)	16
合計	13 (100.0%)	221 (100.0%)	80 (100.0%)	65 (100.0%)	41 (100.0%)	17 (100.0%)	5 (100.0%)	1 (100.0%)	0 -	0 -	0 -	443 (100.0%)	6

表 96 6月に精神病床で隔離指示が解除された患者の、当該エピソードにおける隔離期間の内訳（入院料別、令和元年と平成21年の比較）②令和元年

病棟入院料	令和元年												中央値（日）
	隔離指示が出されていた各期間に該当するエピソード件数（）内は各期間の内訳（％）												
	1日のみ	1週間未満	2週間未満	1か月未満	3か月未満	1年未満	5年未満	10年未満	10年以上	不明	合計		
精神科救急入院料	2 (20.0%)	27 (11.9%)	20 (26.0%)	21 (26.3%)	8 (16.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	78 (16.6%)	9	
精神科救急・合併症入院料	0 (0.0%)	1 (0.4%)	3 (3.9%)	3 (3.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	7 (1.5%)	12	
精神科急性期治療病棟入院料（医師配置加算あり）	0 (0.0%)	19 (8.4%)	17 (22.1%)	14 (17.5%)	14 (29.2%)	2 (8.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	66 (14.0%)	11	
精神科急性期治療病棟入院料（医師配置加算なし）	2 (20.0%)	8 (3.5%)	8 (10.4%)	4 (5.0%)	1 (2.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	23 (4.9%)	7	
精神療養病棟入院料	1 (10.0%)	13 (5.8%)	11 (14.3%)	10 (12.5%)	6 (12.5%)	6 (24.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	47 (10.0%)	13	
認知症治療病棟入院料	0 (0.0%)	2 (0.9%)	2 (2.6%)	2 (2.5%)	1 (2.1%)	1 (4.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	8 (1.7%)	14	
特殊疾患病棟入院料	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (20.0%)	0 -	0 -	0 -	1 (0.2%)	1,567	
地域移行機能強化病棟入院料	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
児童・思春期精神科入院医療管理料	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (20.0%)	0 -	0 -	0 -	1 (0.2%)	516	
医療観察法入院対象者入院医学管理料	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
10対1入院基本料	2 (20.0%)	2 (0.9%)	1 (1.3%)	2 (2.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	7 (1.5%)	2	
13対1入院基本料	1 (10.0%)	1 (0.4%)	0 (0.0%)	1 (1.3%)	1 (2.1%)	2 (8.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	6 (1.3%)	25	
15対1入院基本料	2 (20.0%)	152 (67.3%)	14 (18.2%)	22 (27.5%)	17 (35.4%)	14 (56.0%)	3 (60.0%)	0 -	0 -	0 -	224 (47.6%)	2	
18対1入院基本料	0 (0.0%)	1 (0.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	1 (0.2%)	4	
20対1入院基本料	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.3%)	1 (1.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	2 (0.4%)	16	
特別入院基本料	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
特定機能病院入院基本料(7対1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
特定機能病院入院基本料(10対1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
特定機能病院入院基本料(13対1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
特定機能病院入院基本料(15対1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
合計	10 (100.0%)	226 (100.0%)	77 (100.0%)	80 (100.0%)	48 (100.0%)	25 (100.0%)	5 (100.0%)	0 -	0 -	0 -	471 (100.0%)	6	

表 97 6月に精神病床で隔離指示が解除された患者の、当該エピソードにおける隔離期間の内訳（入院料別、令和元年と平成26年の比較）①平成26年

病棟入院料	平成26年												中央値（日）
	隔離指示が出されていた各期間に該当するエピソード件数（）内は各期間の内訳（％）												
	1日のみ	1週間未満	2週間未満	1か月未満	3か月未満	1年未満	5年未満	10年未満	10年以上	不明	合計		
精神科救急入院料	12 (14.3%)	138 (7.9%)	153 (32.3%)	136 (34.8%)	59 (24.3%)	8 (12.1%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	0 (0.0%)	506 (16.8%)	11	
精神科救急・合併症入院料	0 (0.0%)	9 (0.5%)	7 (1.5%)	5 (1.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	0 (0.0%)	21 (0.7%)	8	
精神科急性期治療病棟入院料（医師配置加算あり）	6 (7.1%)	68 (3.9%)	39 (8.2%)	34 (8.7%)	24 (9.9%)	5 (7.6%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	0 (0.0%)	176 (5.8%)	8	
精神科急性期治療病棟入院料（医師配置加算なし）	3 (3.6%)	163 (9.3%)	43 (9.1%)	26 (6.6%)	21 (8.6%)	4 (6.1%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	0 (0.0%)	260 (8.6%)	3	
精神療養病棟入院料	14 (16.7%)	60 (3.4%)	42 (8.9%)	49 (12.5%)	40 (16.5%)	13 (19.7%)	2 (20.0%)	0 -	0 (0.0%)	0 (0.0%)	220 (7.3%)	12	
認知症治療病棟入院料	2 (2.4%)	6 (0.3%)	3 (0.6%)	4 (1.0%)	6 (2.5%)	2 (3.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	0 (0.0%)	23 (0.8%)	19	
特殊疾患病棟入院料	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
小児入院医療管理料5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
児童・思春期精神科入院医療管理料	3 (3.6%)	17 (1.0%)	12 (2.5%)	1 (0.3%)	2 (0.8%)	1 (1.5%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	0 (0.0%)	36 (1.2%)	6	
医療観察法入院対象者入院医学管理料	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.0%)	8	
10対1入院基本料	2 (2.4%)	79 (4.5%)	23 (4.9%)	19 (4.9%)	2 (0.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	0 (0.0%)	125 (4.1%)	4	
13対1入院基本料	1 (1.2%)	23 (1.3%)	17 (3.6%)	18 (4.6%)	7 (2.9%)	2 (3.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	0 (0.0%)	68 (2.3%)	11	
15対1入院基本料	38 (45.2%)	1,162 (66.6%)	134 (28.3%)	97 (24.8%)	81 (33.3%)	29 (43.9%)	8 (80.0%)	0 -	1 (100.0%)	2 (100.0%)	1,552 (51.5%)	2	
18対1入院基本料	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
20対1入院基本料	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.3%)	1 (0.4%)	1 (1.5%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (0.1%)	62	
特別入院基本料	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
特定機能病院入院基本料(7対1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
特定機能病院入院基本料(10対1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
特定機能病院入院基本料(13対1)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.3%)	0 (0.0%)	1 (1.5%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (0.1%)	98	
特定機能病院入院基本料(15対1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
その他	3 (3.6%)	20 (1.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	0 (0.0%)	23 (0.8%)	2	
合計	84 (100.0%)	1,745 (100.0%)	474 (100.0%)	391 (100.0%)	243 (100.0%)	66 (100.0%)	10 (100.0%)	0 -	1 (100.0%)	2 (100.0%)	3,016 (100.0%)	4	

表 98 6月に精神病床で隔離指示が解除された患者の、当該エピソードにおける隔離期間の内訳（入院料別、令和元年と平成26年の比較）②令和元年

病棟入院料	令和元年												中央値（日）
	隔離指示が出されていた各期間に該当するエピソード件数（）内は各期間の内訳（%）												
	1日のみ	1週間未満	2週間未満	1か月未満	3か月未満	1年未満	5年未満	10年未満	10年以上	不明	合計		
精神科救急入院料	18 (20.5%)	323 (17.7%)	191 (42.9%)	148 (41.3%)	64 (29.2%)	6 (8.0%)	1 (5.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	751 (24.8%)	7
精神科救急・合併症入院料	5 (5.7%)	11 (0.6%)	4 (0.9%)	2 (0.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	22 (0.7%)	3
精神科急性期治療病棟入院料（医師配置加算あり）	5 (5.7%)	45 (2.5%)	39 (8.8%)	42 (11.7%)	18 (8.2%)	6 (8.0%)	1 (5.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	156 (5.1%)	12
精神科急性期治療病棟入院料（医師配置加算なし）	7 (8.0%)	54 (3.0%)	36 (8.1%)	18 (5.0%)	17 (7.8%)	3 (4.0%)	1 (5.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (100.0%)	137 (4.5%)	7
精神療養病棟入院料	3 (3.4%)	100 (5.5%)	31 (7.0%)	27 (7.5%)	28 (12.8%)	14 (18.7%)	2 (10.0%)	1 (33.3%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	207 (6.8%)	7
認知症治療病棟入院料	5 (5.7%)	10 (0.5%)	10 (2.2%)	2 (0.6%)	1 (0.5%)	2 (2.7%)	1 (5.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	31 (1.0%)	7
特殊疾患病棟入院料	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (0.9%)	3 (4.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	5 (0.2%)	156
地域移行機能強化病棟入院料	0 (0.0%)	1 (0.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.0%)	2
児童・思春期精神科入院医療管理料	3 (3.4%)	22 (1.2%)	10 (2.2%)	4 (1.1%)	3 (1.4%)	2 (2.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	44 (1.5%)	6
医療観察法入院対象者入院医学管理料	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10対1入院基本料	5 (5.7%)	86 (4.7%)	10 (2.2%)	9 (2.5%)	4 (1.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	114 (3.8%)	2
13対1入院基本料	3 (3.4%)	8 (0.4%)	5 (1.1%)	6 (1.7%)	3 (1.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	25 (0.8%)	7
15対1入院基本料	30 (34.1%)	1,113 (61.1%)	109 (24.5%)	100 (27.9%)	79 (36.1%)	39 (52.0%)	14 (70.0%)	2 (66.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1,486 (49.0%)	2
18対1入院基本料	1 (1.1%)	8 (0.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	9 (0.3%)	2
20対1入院基本料	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
特別入院基本料	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
特定機能病院入院基本料(7対1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
特定機能病院入院基本料(10対1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
特定機能病院入院基本料(13対1)	0 (0.0%)	1 (0.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.0%)	6
特定機能病院入院基本料(15対1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	3 (3.4%)	41 (2.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	44 (1.5%)	2
合計	88 (100.0%)	1,823 (100.0%)	445 (100.0%)	358 (100.0%)	219 (100.0%)	75 (100.0%)	20 (100.0%)	3 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	3,033 (100.0%)	3

表 99 6月に精神病床で身体的拘束指示が解除された患者の、当該エピソードにおける身体的拘束期間の内訳（入院料別、令和元年と平成21年の比較）①平成21年

病棟入院料	平成21年												中央値（日）
	身体的拘束指示が出されていた各期間に該当するエピソード件数（）内は各期間の内訳（%）												
	1日のみ	1週間未満	2週間未満	1か月未満	3か月未満	1年未満	5年未満	10年未満	10年以上	不明	合計		
精神科救急入院料	0 (0.0%)	3 (4.1%)	1 (5.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	4 (2.4%)	6
精神科救急・合併症入院料	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
精神科急性期治療病棟入院料（医師配置加算あり）	17 (63.0%)	14 (19.2%)	4 (20.0%)	3 (14.3%)	2 (12.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	0 -	40 (24.1%)	2
精神科急性期治療病棟入院料（医師配置加算なし）	5 (18.5%)	8 (11.0%)	1 (5.0%)	1 (4.8%)	0 (0.0%)	1 (14.3%)	2 (100.0%)	0 -	0 -	0 -	0 -	18 (10.8%)	3
児童・思春期精神科入院医療管理料	0 (0.0%)	8 (11.0%)	2 (10.0%)	1 (4.8%)	1 (6.3%)	5 (71.4%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	0 -	17 (10.2%)	7
医療観察法入院対象者入院医学管理料	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10対1入院基本料	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
13対1入院基本料	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
15対1入院基本料	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
18対1入院基本料	5 (18.5%)	39 (53.4%)	12 (60.0%)	16 (76.2%)	13 (81.3%)	1 (14.3%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	0 -	86 (51.8%)	6
20対1入院基本料	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
特別入院基本料	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
特定機能病院入院基本料(7対1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
特定機能病院入院基本料(10対1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
特定機能病院入院基本料(13対1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
特定機能病院入院基本料(15対1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	0 (0.0%)	1 (1.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	0 -	1 (0.6%)	2
合計	27 (100.0%)	73 (100.0%)	20 (100.0%)	21 (100.0%)	16 (100.0%)	7 (100.0%)	2 (100.0%)	0 -	0 -	0 -	0 -	166 (100.0%)	4



表 100 6月に精神病床で身体的拘束指示が解除された患者の、当該エピソードにおける身体的拘束期間の内訳（入院料別、令和元年と平成21年の比較）②令和元年

病棟入院料	令和元年												中央値（日）
	身体的拘束指示が出されていた各期間に該当するエピソード件数（）内は各期間の内訳（％）												
	1日のみ	1週間未満	2週間未満	1か月未満	3か月未満	1年未満	5年未満	10年未満	10年以上	不明	合計		
精神科救急入院料	1 (12.5%)	6 (8.8%)	5 (19.2%)	4 (21.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	0 -	16 (11.9%)	7	
精神科救急・合併症入院料	0 (0.0%)	7 (10.3%)	6 (23.1%)	3 (15.8%)	1 (9.1%)	1 (33.3%)	0 -	0 -	0 -	0 -	18 (13.3%)	8	
精神科急性期治療病棟入院料（医師配置加算あり）	0 (0.0%)	8 (11.8%)	4 (15.4%)	3 (15.8%)	3 (27.3%)	1 (33.3%)	0 -	0 -	0 -	0 -	19 (14.1%)	7	
精神科急性期治療病棟入院料（医師配置加算なし）	4 (50.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	0 -	4 (3.0%)	1	
精神療養病棟入院料	0 (0.0%)	4 (5.9%)	1 (3.8%)	2 (10.5%)	1 (9.1%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	0 -	8 (5.9%)	7	
認知症治療病棟入院料	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (3.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	0 -	1 (0.7%)	10	
特殊疾患病棟入院料	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
地域移行機能強化病棟入院料	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
児童・思春期精神科入院医療管理料	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
医療観察法入院対象者入院医学管理料	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
10対1入院基本料	2 (25.0%)	24 (35.3%)	0 (0.0%)	2 (10.5%)	1 (9.1%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	0 -	29 (21.5%)	2	
13対1入院基本料	1 (12.5%)	3 (4.4%)	3 (11.5%)	1 (5.3%)	2 (18.2%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	0 -	10 (7.4%)	8	
15対1入院基本料	0 (0.0%)	16 (23.5%)	6 (23.1%)	4 (21.1%)	3 (27.3%)	1 (33.3%)	0 -	0 -	0 -	0 -	30 (22.2%)	6	
18対1入院基本料	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
20対1入院基本料	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
特別入院基本料	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
特定機能病院入院基本料(7対1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
特定機能病院入院基本料(10対1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
特定機能病院入院基本料(13対1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
特定機能病院入院基本料(15対1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
合計	8 (100.0%)	68 (100.0%)	26 (100.0%)	19 (100.0%)	11 (100.0%)	3 (100.0%)	0 -	0 -	0 -	0 -	135 (100.0%)	5	

表 101 6月に精神病床で身体的拘束指示が解除された患者の、当該エピソードにおける身体的拘束期間の内訳（入院料別、令和元年と平成26年の比較）①平成26年

病棟入院料	平成26年												中央値（日）
	身体的拘束指示が出されていた各期間に該当するエピソード件数（）内は各期間の内訳（％）												
	1日のみ	1週間未満	2週間未満	1か月未満	3か月未満	1年未満	5年未満	10年未満	10年以上	不明	合計		
精神科救急入院料	11 (10.7%)	53 (5.2%)	30 (16.3%)	11 (6.7%)	7 (6.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	112 (6.7%)	5	
精神科救急・合併症入院料	0 (0.0%)	14 (1.4%)	5 (2.7%)	5 (3.0%)	4 (3.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	28 (1.7%)	7	
精神科急性期治療病棟入院料（医師配置加算あり）	2 (1.9%)	36 (3.5%)	11 (6.0%)	16 (9.8%)	5 (4.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	70 (4.2%)	6	
精神科急性期治療病棟入院料（医師配置加算なし）	11 (10.7%)	41 (4.0%)	12 (6.5%)	2 (1.2%)	5 (4.4%)	2 (4.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	73 (4.4%)	3	
精神療養病棟入院料	8 (7.8%)	43 (4.2%)	17 (9.2%)	18 (11.0%)	16 (14.0%)	9 (18.8%)	6 (37.5%)	2 (50.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	119 (7.2%)	8	
認知症治療病棟入院料	1 (1.0%)	20 (1.9%)	13 (7.1%)	13 (7.9%)	10 (8.8%)	11 (22.9%)	1 (6.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	69 (4.1%)	14	
特殊疾患病棟入院料	0 (0.0%)	1 (0.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	1 (2.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (0.2%)	34	
小児入院医療管理料5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
児童・思春期精神科入院医療管理料	0 (0.0%)	3 (0.3%)	1 (0.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	5 (0.3%)	6	
医療観察法入院対象者入院医学管理料	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
10対1入院基本料	17 (16.5%)	55 (5.4%)	27 (14.7%)	14 (8.5%)	9 (7.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	122 (7.3%)	5	
13対1入院基本料	16 (15.5%)	39 (3.8%)	15 (8.2%)	14 (8.5%)	10 (8.8%)	2 (4.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (33.3%)	97 (5.8%)	5	
15対1入院基本料	15 (14.6%)	620 (60.3%)	53 (28.8%)	71 (43.3%)	47 (41.2%)	22 (45.8%)	9 (56.3%)	2 (50.0%)	0 (0.0%)	2 (66.7%)	841 (50.5%)	2	
18対1入院基本料	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
20対1入院基本料	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
特別入院基本料	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
特定機能病院入院基本料(7対1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
特定機能病院入院基本料(10対1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
特定機能病院入院基本料(13対1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
特定機能病院入院基本料(15対1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
その他	22 (21.4%)	103 (10.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	125 (7.5%)	2	
合計	103 (100.0%)	1,028 (100.0%)	184 (100.0%)	164 (100.0%)	114 (100.0%)	48 (100.0%)	16 (100.0%)	4 (100.0%)	0 (0.0%)	3 (100.0%)	1,664 (100.0%)	2	

表 102 6月に精神病床で身体的拘束指示が解除された患者の、当該エピソードにおける身体的拘束期間の内訳（入院料別、令和元年と平成26年の比較）②令和元年

病棟入院料	令和元年												中央値（日）
	身体的拘束指示が出されていた各期間に該当するエピソード件数（）内は各期間の内訳（%）												
	1日のみ	1週間未満	2週間未満	1か月未満	3か月未満	1年未満	5年未満	10年未満	10年以上	不明	合計		
精神科救急入院料	10 (9.6%)	106 (11.1%)	48 (27.9%)	25 (16.4%)	13 (12.3%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	203 (13.0%)	6
精神科救急・合併症入院料	5 (4.8%)	19 (2.0%)	7 (4.1%)	3 (2.0%)	3 (2.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	37 (2.4%)	3
精神科急性期治療病棟入院料（医師配置加算あり）	9 (8.7%)	24 (2.5%)	14 (8.1%)	12 (7.9%)	4 (3.8%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	64 (4.1%)	6
精神科急性期治療病棟入院料（医師配置加算なし）	0 (0.0%)	20 (2.1%)	9 (5.2%)	6 (3.9%)	4 (3.8%)	2 (4.9%)	1 (3.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	42 (2.7%)	8
精神療養病棟入院料	13 (12.5%)	27 (2.8%)	17 (9.9%)	18 (11.8%)	13 (12.3%)	8 (19.5%)	7 (25.0%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	104 (6.6%)	12
認知症治療病棟入院料	7 (6.7%)	23 (2.4%)	10 (5.8%)	14 (9.2%)	12 (11.3%)	6 (14.6%)	4 (14.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	76 (4.9%)	10
特殊疾患病棟入院料	0 (0.0%)	3 (0.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)	1 (3.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	5 (0.3%)	5
地域移行機能強化病棟入院料	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
児童・思春期精神科入院医療管理料	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.6%)	1 (0.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	2 (0.1%)	14
医療観察法入院対象者入院医学管理料	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10対1入院基本料	2 (1.9%)	31 (3.2%)	9 (5.2%)	12 (7.9%)	5 (4.7%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	60 (3.8%)	6
13対1入院基本料	34 (32.7%)	23 (2.4%)	11 (6.4%)	10 (6.6%)	9 (8.5%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	88 (5.6%)	2
15対1入院基本料	12 (11.5%)	527 (55.1%)	46 (26.7%)	51 (33.6%)	42 (39.6%)	21 (51.2%)	15 (53.6%)	1 (33.3%)	2 (100.0%)	0 -	717 (45.8%)	2	
18対1入院基本料	2 (1.9%)	21 (2.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	23 (1.5%)	2
20対1入院基本料	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
特別入院基本料	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
特定機能病院入院基本料(7対1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
特定機能病院入院基本料(10対1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
特定機能病院入院基本料(13対1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
特定機能病院入院基本料(15対1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	10 (9.6%)	133 (13.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	144 (9.2%)	2
合計	104 (100.0%)	957 (100.0%)	172 (100.0%)	152 (100.0%)	106 (100.0%)	41 (100.0%)	28 (100.0%)	3 (100.0%)	2 (100.0%)	0 -	1,565 (100.0%)	2	

表 103 6月に精神病床で隔離指示が解除された患者の、当該エピソードにおける隔離期間の内訳（年齢性別、令和元年と平成21年の比較）①平成21年

年齢	性別	平成21年											中央値（日）	
		隔離指示が出されていた各期間に該当するエピソード件数（）内は各期間の内訳（%）												
		1日のみ	1週間未満	2週間未満	1か月未満	3か月未満	1年未満	5年未満	10年未満	10年以上	不明	合計		
20歳未満	男性	0 (0.0%)	2 (0.9%)	1 (1.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (0.7%)	6
	女性	2 (15.4%)	1 (0.5%)	2 (2.5%)	1 (1.5%)	0 (0.0%)	1 (5.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (1.6%)	7
	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳以上 40歳未満	男性	2 (15.4%)	17 (7.7%)	6 (7.5%)	14 (21.5%)	6 (14.6%)	1 (5.9%)	1 (20.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	47 (10.6%)	13
	女性	2 (15.4%)	10 (4.5%)	13 (16.3%)	10 (15.4%)	5 (12.2%)	3 (17.6%)	1 (20.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	44 (9.9%)	11
	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
40歳以上 65歳未満	男性	1 (7.7%)	67 (30.3%)	19 (23.8%)	16 (24.6%)	16 (39.0%)	4 (23.5%)	1 (20.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	125 (28.2%)	6
	女性	2 (15.4%)	102 (46.2%)	21 (26.3%)	17 (26.2%)	7 (17.1%)	4 (23.5%)	2 (40.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	155 (35.0%)	2
	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
65歳以上 75歳未満	男性	1 (7.7%)	8 (3.6%)	2 (2.5%)	1 (1.5%)	0 (0.0%)	1 (5.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	13 (2.9%)	4
	女性	1 (7.7%)	5 (2.3%)	8 (10.0%)	0 (0.0%)	3 (7.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	17 (3.8%)	10
	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
75歳以上	男性	2 (15.4%)	6 (2.7%)	6 (7.5%)	4 (6.2%)	4 (9.8%)	3 (17.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	25 (5.6%)	13
	女性	0 (0.0%)	3 (1.4%)	2 (2.5%)	2 (3.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (1.6%)	7
	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計		13 (100.0%)	221 (100.0%)	80 (100.0%)	65 (100.0%)	41 (100.0%)	17 (100.0%)	5 (100.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	443 (100.0%)	6	

表 104 6月に精神病床で隔離指示が解除された患者の、当該エピソードにおける隔離期間の内訳（年齢性別、令和元年と平成21年の比較）②令和元年

年齢	性別	令和元年											中央値（日）	
		隔離指示が出されていた各期間に該当するエピソード件数（）内は各期間の内訳（%）												
		1日のみ	1週間未満	2週間未満	1か月未満	3か月未満	1年未満	5年未満	10年未満	10年以上	不明	合計		
20歳未満	男性	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (20.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.2%)	516
	女性	1 (10.0%)	5 (2.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (4.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (1.5%)	4
	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳以上 40歳未満	男性	2 (20.0%)	57 (25.2%)	11 (14.3%)	9 (11.3%)	7 (14.6%)	3 (12.0%)	1 (20.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	90 (19.1%)	3
	女性	0 (0.0%)	15 (6.6%)	9 (11.7%)	9 (11.3%)	4 (8.3%)	3 (12.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	40 (8.5%)	8
	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
40歳以上 65歳未満	男性	2 (20.0%)	35 (15.5%)	25 (32.5%)	21 (26.3%)	16 (33.3%)	5 (20.0%)	1 (20.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	105 (22.3%)	10
	女性	1 (10.0%)	88 (38.9%)	10 (13.0%)	17 (21.3%)	10 (20.8%)	4 (16.0%)	2 (40.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	132 (28.0%)	2
	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
65歳以上 75歳未満	男性	0 (0.0%)	5 (2.2%)	10 (13.0%)	4 (5.0%)	5 (10.4%)	2 (8.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	26 (5.5%)	11
	女性	1 (10.0%)	4 (1.8%)	1 (1.3%)	11 (13.8%)	3 (6.3%)	3 (12.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	23 (4.9%)	19
	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
75歳以上	男性	3 (30.0%)	7 (3.1%)	6 (7.8%)	4 (5.0%)	1 (2.1%)	4 (16.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	25 (5.3%)	9
	女性	0 (0.0%)	10 (4.4%)	5 (6.5%)	5 (6.3%)	2 (4.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	22 (4.7%)	7
	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計		10 (100.0%)	226 (100.0%)	77 (100.0%)	80 (100.0%)	48 (100.0%)	25 (100.0%)	5 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	471 (100.0%)	6	

表 105 6月に精神病床上で隔離指示が解除された患者の、当該エピソードにおける隔離期間の内訳（年齢性別、令和元年と平成26年の比較）①平成26年

年齢	性別	平成21年											中央値（日）
		隔離指示が出されていた各期間に該当するエピソード件数（）内は各期間の内訳（%）											
		1日のみ	1週間未満	2週間未満	1か月未満	3か月未満	1年未満	5年未満	10年未満	10年以上	不明	合計	
20歳未満	男性	2 (2.4%)	26 (1.5%)	11 (2.3%)	4 (1.0%)	5 (2.1%)	0 (0.0%)	1 (10.0%)	0 -	0 (0.0%)	0 (0.0%)	49 (1.6%)	4
	女性	2 (2.4%)	23 (1.3%)	9 (1.9%)	2 (0.5%)	0 (0.0%)	1 (1.5%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	0 (0.0%)	37 (1.2%)	5
	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳以上 40歳未満	男性	3 (3.6%)	234 (13.4%)	71 (15.0%)	58 (14.8%)	29 (11.9%)	9 (13.6%)	1 (10.0%)	0 -	0 (0.0%)	1 (50.0%)	406 (13.5%)	5
	女性	19 (22.6%)	305 (17.5%)	75 (15.8%)	51 (13.0%)	30 (12.3%)	7 (10.6%)	1 (10.0%)	0 -	0 (0.0%)	0 (0.0%)	488 (16.2%)	3
	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
40歳以上 65歳未満	男性	29 (34.5%)	506 (29.0%)	107 (22.6%)	115 (29.4%)	68 (28.0%)	18 (27.3%)	1 (10.0%)	0 -	1 (100.0%)	1 (50.0%)	846 (28.1%)	3
	女性	16 (19.0%)	425 (24.4%)	106 (22.4%)	83 (21.2%)	56 (23.0%)	17 (25.8%)	3 (30.0%)	0 -	0 (0.0%)	0 (0.0%)	706 (23.4%)	2
	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
65歳以上 75歳未満	男性	4 (4.8%)	48 (2.8%)	33 (7.0%)	23 (5.9%)	12 (4.9%)	3 (4.5%)	2 (20.0%)	0 -	0 (0.0%)	0 (0.0%)	125 (4.1%)	8
	女性	1 (1.2%)	130 (7.4%)	23 (4.9%)	24 (6.1%)	18 (7.4%)	5 (7.6%)	1 (10.0%)	0 -	0 (0.0%)	0 (0.0%)	202 (6.7%)	2
	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
75歳以上	男性	3 (3.6%)	24 (1.4%)	19 (4.0%)	17 (4.3%)	13 (5.3%)	3 (4.5%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	0 (0.0%)	79 (2.6%)	11
	女性	5 (6.0%)	24 (1.4%)	20 (4.2%)	14 (3.6%)	12 (4.9%)	3 (4.5%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	0 (0.0%)	78 (2.6%)	10
	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計		84 (100.0%)	1,745 (100.0%)	474 (100.0%)	391 (100.0%)	243 (100.0%)	66 (100.0%)	10 (100.0%)	0 -	1 (100.0%)	2 (100.0%)	3,016 (100.0%)	4

表 106 6月に精神病床上で隔離指示が解除された患者の、当該エピソードにおける隔離期間の内訳（年齢性別、令和元年と平成26年の比較）②令和元年

年齢	性別	令和元年											中央値（日）
		隔離指示が出されていた各期間に該当するエピソード件数（）内は各期間の内訳（%）											
		1日のみ	1週間未満	2週間未満	1か月未満	3か月未満	1年未満	5年未満	10年未満	10年以上	不明	合計	
20歳未満	男性	1 (1.1%)	24 (1.3%)	21 (4.7%)	8 (2.2%)	1 (0.5%)	1 (1.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	56 (1.8%)	7
	女性	3 (3.4%)	30 (1.6%)	9 (2.0%)	4 (1.1%)	3 (1.4%)	1 (1.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	50 (1.6%)	4
	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳以上 40歳未満	男性	10 (11.4%)	182 (10.0%)	49 (11.0%)	42 (11.7%)	30 (13.7%)	14 (18.7%)	3 (15.0%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	331 (10.9%)	4
	女性	15 (17.0%)	304 (16.7%)	59 (13.3%)	48 (13.4%)	23 (10.5%)	4 (5.3%)	4 (20.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	457 (15.1%)	2
	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
40歳以上 65歳未満	男性	16 (18.2%)	508 (27.9%)	97 (21.8%)	91 (25.4%)	52 (23.7%)	15 (20.0%)	6 (30.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	785 (25.9%)	2
	女性	18 (20.5%)	444 (24.4%)	105 (23.6%)	82 (22.9%)	52 (23.7%)	22 (29.3%)	3 (15.0%)	1 (33.3%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	728 (24.0%)	2
	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
65歳以上 75歳未満	男性	7 (8.0%)	140 (7.7%)	32 (7.2%)	25 (7.0%)	27 (12.3%)	5 (6.7%)	2 (10.0%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)	1 (100.0%)	240 (7.9%)	3
	女性	2 (2.3%)	62 (3.4%)	32 (7.2%)	16 (4.5%)	14 (6.4%)	8 (10.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	134 (4.4%)	7
	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
75歳以上	男性	11 (12.5%)	49 (2.7%)	22 (4.9%)	25 (7.0%)	9 (4.1%)	4 (5.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	120 (4.0%)	7
	女性	5 (5.7%)	80 (4.4%)	19 (4.3%)	17 (4.7%)	8 (3.7%)	1 (1.3%)	2 (10.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	132 (4.4%)	3
	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計		88 (100.0%)	1,823 (100.0%)	445 (100.0%)	358 (100.0%)	219 (100.0%)	75 (100.0%)	20 (100.0%)	3 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	3,033 (100.0%)	3

表 107 6月に精神病床で身体的拘束指示が解除された患者の、当該エピソードにおける身体的拘束期間の内訳（年齢性別、令和元年と平成21年の比較）①平成21年

年齢	性別	平成21年											中央値（日）	
		身体的拘束指示が出されていた各期間に該当するエピソード件数（）内は各期間の内訳（％）												
		1日のみ	1週間未満	2週間未満	1か月未満	3か月未満	1年未満	5年未満	10年未満	10年以上	不明	合計		
20歳未満	男性	0 (0.0%)	1 (1.4%)	0 (0.0%)	1 (4.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	2 (1.2%)	16
	女性	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (5.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	1 (0.6%)	8
	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳以上 40歳未満	男性	0 (0.0%)	6 (8.2%)	1 (5.0%)	2 (9.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	9 (5.4%)	4
	女性	2 (7.4%)	8 (11.0%)	1 (5.0%)	0 (0.0%)	2 (12.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	13 (7.8%)	3
	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
40歳以上 65歳未満	男性	1 (3.7%)	14 (19.2%)	6 (30.0%)	4 (19.0%)	3 (18.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	28 (16.9%)	6
	女性	17 (63.0%)	10 (13.7%)	3 (15.0%)	2 (9.5%)	2 (12.5%)	1 (14.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	35 (21.1%)	2
	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
65歳以上 75歳未満	男性	1 (3.7%)	6 (8.2%)	3 (15.0%)	3 (14.3%)	3 (18.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	16 (9.6%)	8
	女性	4 (14.8%)	17 (23.3%)	0 (0.0%)	2 (9.5%)	3 (18.8%)	3 (42.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	29 (17.5%)	2
	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
75歳以上	男性	2 (7.4%)	8 (11.0%)	4 (20.0%)	3 (14.3%)	3 (18.8%)	1 (14.3%)	1 (50.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	22 (13.3%)	9
	女性	0 (0.0%)	3 (4.1%)	1 (5.0%)	4 (19.0%)	0 (0.0%)	2 (28.6%)	1 (50.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	11 (6.6%)	14
	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計		27 (100.0%)	73 (100.0%)	20 (100.0%)	21 (100.0%)	16 (100.0%)	7 (100.0%)	2 (100.0%)	0 -	0 -	0 -	166 (100.0%)	4	

表 108 6月に精神病床で身体的拘束指示が解除された患者の、当該エピソードにおける身体的拘束期間の内訳（年齢性別、令和元年と平成21年の比較）②令和元年

年齢	性別	令和元年											中央値（日）	
		身体的拘束指示が出されていた各期間に該当するエピソード件数（）内は各期間の内訳（％）												
		1日のみ	1週間未満	2週間未満	1か月未満	3か月未満	1年未満	5年未満	10年未満	10年以上	不明	合計		
20歳未満	男性	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (3.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	0 -	1 (0.7%)	7
	女性	2 (25.0%)	6 (8.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	0 -	8 (5.9%)	3
	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳以上 40歳未満	男性	3 (37.5%)	2 (2.9%)	4 (15.4%)	4 (21.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	0 -	13 (9.6%)	9
	女性	0 (0.0%)	3 (4.4%)	3 (11.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	0 -	7 (5.2%)	7
	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
40歳以上 65歳未満	男性	1 (12.5%)	11 (16.2%)	5 (19.2%)	4 (21.1%)	2 (18.2%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	24 (17.8%)	7
	女性	0 (0.0%)	10 (14.7%)	5 (19.2%)	3 (15.8%)	2 (18.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	20 (14.8%)	6
	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
65歳以上 75歳未満	男性	1 (12.5%)	3 (4.4%)	3 (11.5%)	1 (5.3%)	3 (27.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	11 (8.1%)	8
	女性	0 (0.0%)	25 (36.8%)	0 (0.0%)	3 (15.8%)	2 (18.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	30 (22.2%)	2
	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
75歳以上	男性	1 (12.5%)	4 (5.9%)	1 (3.8%)	3 (15.8%)	1 (9.1%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	11 (8.1%)	10
	女性	0 (0.0%)	4 (5.9%)	4 (15.4%)	1 (5.3%)	1 (9.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	10 (7.4%)	8
	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計		8 (100.0%)	68 (100.0%)	26 (100.0%)	19 (100.0%)	11 (100.0%)	3 (100.0%)	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	135 (100.0%)	5

表 109 6月に精神病床で身体的拘束指示が解除された患者の、当該エピソードにおける身体的拘束期間の内訳（年齢性別、令和元年と平成26年の比較）①平成26年

年齢	性別	平成26年											中央値（日）	
		身体的拘束指示が出されていた各期間に該当するエピソード件数（）内は各期間の内訳（%）												
		1日のみ	1週間未満	2週間未満	1か月未満	3か月未満	1年未満	5年未満	10年未満	10年以上	不明	合計		
20歳未満	男性	0 (0.0%)	1 (0.1%)	1 (0.5%)	1 (0.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (0.2%)	8
	女性	0 (0.0%)	8 (0.8%)	2 (1.1%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	1 (2.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	12 (0.7%)	6
	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳以上 40歳未満	男性	6 (5.8%)	42 (4.1%)	20 (10.9%)	11 (6.7%)	8 (7.0%)	1 (2.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (33.3%)	89 (5.3%)	6
	女性	29 (28.2%)	84 (8.2%)	12 (6.5%)	13 (7.9%)	8 (7.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	146 (8.8%)	2
	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
40歳以上 65歳未満	男性	19 (18.4%)	230 (22.4%)	43 (23.4%)	30 (18.3%)	14 (12.3%)	10 (20.8%)	4 (25.0%)	1 (25.0%)	0 (0.0%)	1 (33.3%)	352 (21.2%)	2	
	女性	13 (12.6%)	242 (23.5%)	34 (18.5%)	22 (13.4%)	14 (12.3%)	3 (6.3%)	4 (25.0%)	1 (25.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	333 (20.0%)	2	
	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
65歳以上 75歳未満	男性	17 (16.5%)	165 (16.1%)	14 (7.6%)	18 (11.0%)	15 (13.2%)	6 (12.5%)	1 (6.3%)	1 (25.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	237 (14.2%)	2	
	女性	1 (1.0%)	162 (15.8%)	13 (7.1%)	12 (7.3%)	10 (8.8%)	6 (12.5%)	3 (18.8%)	1 (25.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	208 (12.5%)	2	
	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
75歳以上	男性	4 (3.9%)	54 (5.3%)	25 (13.6%)	29 (17.7%)	27 (23.7%)	13 (27.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (33.3%)	153 (9.2%)	12	
	女性	14 (13.6%)	40 (3.9%)	20 (10.9%)	28 (17.1%)	17 (14.9%)	8 (16.7%)	4 (25.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	131 (7.9%)	9	
	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
合計		103 (100.0%)	1,028 (100.0%)	184 (100.0%)	164 (100.0%)	114 (100.0%)	48 (100.0%)	16 (100.0%)	4 (100.0%)	0 (0.0%)	3 (100.0%)	1,664 (100.0%)	2	

表 110 6月に精神病床で身体的拘束指示が解除された患者の、当該エピソードにおける身体的拘束期間の内訳（年齢性別、令和元年と平成26年の比較）②令和元年

年齢	性別	令和元年											中央値（日）	
		身体的拘束指示が出されていた各期間に該当するエピソード件数（）内は各期間の内訳（%）												
		1日のみ	1週間未満	2週間未満	1か月未満	3か月未満	1年未満	5年未満	10年未満	10年以上	不明	合計		
20歳未満	男性	0 (0.0%)	2 (0.2%)	1 (0.6%)	1 (0.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (0.3%)	7
	女性	1 (1.0%)	3 (0.3%)	2 (1.2%)	1 (0.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (0.4%)	3
	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
20歳以上 40歳未満	男性	10 (9.6%)	112 (11.7%)	10 (5.8%)	4 (2.6%)	3 (2.8%)	2 (4.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	141 (9.0%)	2	
	女性	9 (8.7%)	51 (5.3%)	15 (8.7%)	12 (7.9%)	4 (3.8%)	0 (0.0%)	1 (3.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	92 (5.9%)	3	
	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
40歳以上 65歳未満	男性	9 (8.7%)	226 (23.6%)	34 (19.8%)	26 (17.1%)	12 (11.3%)	2 (4.9%)	5 (17.9%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	315 (20.1%)	2	
	女性	18 (17.3%)	160 (16.7%)	28 (16.3%)	32 (21.1%)	9 (8.5%)	7 (17.1%)	5 (17.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	259 (16.5%)	2	
	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
65歳以上 75歳未満	男性	5 (4.8%)	108 (11.3%)	19 (11.0%)	15 (9.9%)	19 (17.9%)	7 (17.1%)	6 (21.4%)	0 (0.0%)	1 (50.0%)	0 (0.0%)	180 (11.5%)	3	
	女性	2 (1.9%)	146 (15.3%)	14 (8.1%)	13 (8.6%)	8 (7.5%)	5 (12.2%)	5 (17.9%)	0 (0.0%)	1 (50.0%)	0 (0.0%)	194 (12.4%)	2	
	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
75歳以上	男性	9 (8.7%)	61 (6.4%)	33 (19.2%)	28 (18.4%)	28 (26.4%)	6 (14.6%)	4 (14.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	169 (10.8%)	9	
	女性	40 (38.5%)	88 (9.2%)	16 (9.3%)	20 (13.2%)	23 (21.7%)	12 (29.3%)	2 (7.1%)	2 (66.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	203 (13.0%)	2	
	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
合計		104 (100.0%)	957 (100.0%)	172 (100.0%)	152 (100.0%)	106 (100.0%)	41 (100.0%)	28 (100.0%)	3 (100.0%)	2 (100.0%)	0 (0.0%)	1,565 (100.0%)	2	

表 111 6月に精神病床で隔離指示が解除された患者の、当該エピソードにおける隔離期間の内訳（主診断別、令和元年と平成21年の比較）①平成21年

主診断	平成21年												中央値（日）
	隔離指示が出されていた各期間に該当するエピソード件数（）内は各期間の内訳（％）												
	1日のみ	1週間未満	2週間未満	1か月未満	3か月未満	1年未満	5年未満	10年未満	10年以上	不明	合計		
F0	症状性を含む器質性精神障害	1 (7.7%)	12 (5.4%)	10 (12.5%)	6 (9.2%)	4 (9.8%)	3 (17.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	36 (8.1%)	12
	F00 アルツハイマー型認知症	0 (0.0%)	9 (4.1%)	6 (7.5%)	3 (4.6%)	3 (7.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	21 (4.7%)	7
	F01 血管性認知症	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.3%)	2 (3.1%)	0 (0.0%)	1 (5.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	4 (0.9%)	17
	F02-09 上記以外の症状性を含む器質性精神障害	1 (7.7%)	3 (1.4%)	3 (3.8%)	1 (1.5%)	1 (2.4%)	2 (11.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	11 (2.5%)	13
F1	精神作用物質による精神及び行動の障害	0 (0.0%)	7 (3.2%)	3 (3.8%)	3 (4.6%)	0 (0.0%)	1 (5.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	14 (3.2%)	6
	F10 アルコール使用による精神及び行動の障害	0 (0.0%)	5 (2.3%)	3 (3.8%)	2 (3.1%)	0 (0.0%)	1 (5.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	11 (2.5%)	7
	覚せい剤による精神及び行動の障害	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	1 (0.2%)	27
	アルコール、覚せい剤を除く精神作用物質使用による精神及び行動の障害	0 (0.0%)	2 (0.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	2 (0.5%)	3
F2	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	9 (69.2%)	175 (79.2%)	47 (58.8%)	47 (72.3%)	30 (73.2%)	12 (70.6%)	5 (100.0%)	1 (100.0%)	0 -	0 -	326 (73.6%)	4
F3	気分（感情）障害	0 (0.0%)	17 (7.7%)	14 (17.5%)	4 (6.2%)	3 (7.3%)	1 (5.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	39 (8.8%)	7
	F30-31 躁病エピソード・双極性感情障害(躁うつ病)	0 (0.0%)	13 (5.9%)	12 (15.0%)	3 (4.6%)	3 (7.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	31 (7.0%)	7
	F32-39 その他の気分障害	0 (0.0%)	4 (1.8%)	2 (2.5%)	1 (1.5%)	0 (0.0%)	1 (5.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	8 (1.8%)	7
F4	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	0 (0.0%)	3 (1.4%)	4 (5.0%)	2 (3.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	9 (2.0%)	9
F5	生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	1 (0.2%)	34
F6	成人のパーソナリティ及び行動の障害	1 (7.7%)	1 (0.5%)	1 (1.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	3 (0.7%)	4
F7	精神遅滞(知的障害)	2 (15.4%)	6 (2.7%)	1 (1.3%)	1 (1.5%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	11 (2.5%)	3
F8	心理的発達障害	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (4.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	2 (0.5%)	34
F9	小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害及び特定不能の精神障害	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
てんかん（F0に属さないものを計上する）		0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	1 (0.2%)	29
その他		0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	1 (0.2%)	21
不明		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計*		13 (100.0%)	221 (100.0%)	80 (100.0%)	65 (100.0%)	41 (100.0%)	17 (100.0%)	5 (100.0%)	1 (100.0%)	0 -	0 -	443 (100.0%)	6

\*大項目の総和を算出。



表 112 6月に精神科病棟で隔離指示が解除された患者の、当該エピソードにおける隔離期間の内訳（主診断別、令和元年と平成21年の比較）②令和元年

主診断	令和元年												中央値（日）
	隔離指示が出されていた各期間に該当するエピソード件数（）内は各期間の内訳（％）												
	1日のみ	1週間未満	2週間未満	1か月未満	3か月未満	1年未満	5年未満	10年未満	10年以上	不明	合計		
F0 症状性を含む器質性精神障害	2 (20.0%)	19 (8.4%)	9 (11.7%)	9 (11.3%)	3 (6.3%)	5 (20.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	47 (10.0%)	8	
	F00 アルツハイマー型認知症	2 (20.0%)	10 (4.4%)	5 (6.5%)	6 (7.5%)	3 (6.3%)	2 (8.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	28 (5.9%)	9	
	F01 血管性認知症	0 (0.0%)	4 (1.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	4 (0.8%)	4	
	F02-09 上記以外の症状性を含む器質性精神障害	0 (0.0%)	5 (2.2%)	4 (5.2%)	3 (3.8%)	0 (0.0%)	3 (12.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	15 (3.2%)	8	
F1 精神作用物質による精神及び行動の障害	0 (0.0%)	31 (13.7%)	4 (5.2%)	4 (5.0%)	2 (4.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	41 (8.7%)	2	
	F10 アルコール使用による精神及び行動の障害	0 (0.0%)	6 (2.7%)	4 (5.2%)	4 (5.0%)	2 (4.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	16 (3.4%)	8	
	覚せい剤による精神及び行動の障害	0 (0.0%)	25 (11.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	25 (5.3%)	2	
	アルコール、覚せい剤を除く精神作用物質使用による精神及び行動の障害	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
F2 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	5 (50.0%)	144 (63.7%)	41 (53.2%)	49 (61.3%)	28 (58.3%)	15 (60.0%)	2 (40.0%)	0 -	0 -	0 -	284 (60.3%)	6	
F3 気分（感情）障害	2 (20.0%)	16 (7.1%)	11 (14.3%)	9 (11.3%)	10 (20.8%)	1 (4.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	49 (10.4%)	10	
	F30-31 躁病エピソード・双極性感情障害(躁うつ病)	0 (0.0%)	14 (6.2%)	8 (10.4%)	9 (11.3%)	7 (14.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	38 (8.1%)	11	
	F32-39 その他の気分障害	2 (20.0%)	2 (0.9%)	3 (3.9%)	0 (0.0%)	3 (6.3%)	1 (4.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	11 (2.3%)	10	
F4 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	0 (0.0%)	5 (2.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	5 (1.1%)	4	
F5 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	1 (0.2%)	10	
F6 成人のパーソナリティ及び行動の障害	0 (0.0%)	2 (0.9%)	3 (3.9%)	1 (1.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	6 (1.3%)	9	
F7 精神遅滞(知的障害)	0 (0.0%)	6 (2.7%)	6 (7.8%)	5 (6.3%)	3 (6.3%)	4 (16.0%)	1 (20.0%)	0 -	0 -	0 -	25 (5.3%)	15	
F8 心理的発達障害	0 (0.0%)	1 (0.4%)	1 (1.3%)	2 (2.5%)	1 (2.1%)	0 (0.0%)	1 (20.0%)	0 -	0 -	0 -	6 (1.3%)	19	
F9 小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害及び特定不能の精神障害	1 (10.0%)	2 (0.9%)	1 (1.3%)	0 (0.0%)	1 (2.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	5 (1.1%)	2	
てんかん（F0に属さないものを計上する）	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (20.0%)	0 -	0 -	0 -	1 (0.2%)	1,567	
その他	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	1 (0.2%)	15	
不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
合計*	10 (100.0%)	226 (100.0%)	77 (100.0%)	80 (100.0%)	48 (100.0%)	25 (100.0%)	5 (100.0%)	0 -	0 -	0 -	471 (100.0%)	6	

\*大項目の総和を算出。

表 113 6月に精神病床で隔離指示が解除された患者の、当該エピソードにおける隔離期間の内訳（主診断別、令和元年と平成26年の比較）①平成26年

主診断		平成26年											中央値（日）
		隔離指示が出されていた各期間に該当するエピソード件数（）内は各期間の内訳（％）											
		1日のみ	1週間未満	2週間未満	1か月未満	3か月未満	1年未満	5年未満	10年未満	10年以上	不明	合計	
F0	症状性を含む器質性精神障害	6 (7.1%)	91 (5.2%)	41 (8.6%)	32 (8.2%)	29 (11.9%)	9 (13.6%)	1 (10.0%)	0 -	0 (0.0%)	1 (50.0%)	210 (7.0%)	7
	F00 アルツハイマー型認知症	0 (0.0%)	27 (1.5%)	17 (3.6%)	19 (4.9%)	17 (7.0%)	4 (6.1%)	1 (10.0%)	0 -	0 (0.0%)	0 (0.0%)	85 (2.8%)	13
	F01 血管性認知症	0 (0.0%)	4 (0.2%)	3 (0.6%)	0 (0.0%)	1 (0.4%)	1 (1.5%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	0 (0.0%)	9 (0.3%)	7
	F02-09 上記以外の症状性を含む器質性精神障害	6 (7.1%)	60 (3.4%)	21 (4.4%)	13 (3.3%)	11 (4.5%)	4 (6.1%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	1 (50.0%)	116 (3.8%)	4
F1	精神作用物質による精神及び行動の障害	6 (7.1%)	43 (2.5%)	19 (4.0%)	11 (2.8%)	9 (3.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	0 (0.0%)	88 (2.9%)	5
	F10 アルコール使用による精神及び行動の障害	4 (4.8%)	34 (1.9%)	15 (3.2%)	8 (2.0%)	5 (2.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	0 (0.0%)	66 (2.2%)	5
	覚せい剤による精神及び行動の障害	1 (1.2%)	4 (0.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (0.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (0.2%)	6
	アルコール、覚せい剤を除く精神作用物質使用による精神及び行動の障害	1 (1.2%)	5 (0.3%)	4 (0.8%)	3 (0.8%)	2 (0.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	0 (0.0%)	15 (0.5%)	8
F2	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	46 (54.8%)	1,222 (70.0%)	277 (58.4%)	245 (62.7%)	140 (57.6%)	46 (69.7%)	6 (60.0%)	0 -	1 (100.0%)	0 (0.0%)	1,983 (65.7%)	2
F3	気分（感情）障害	12 (14.3%)	146 (8.4%)	86 (18.1%)	61 (15.6%)	33 (13.6%)	1 (1.5%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	0 (0.0%)	339 (11.2%)	8
	F30-31 躁病エピソード・双極性感情障害(躁うつ病)	4 (4.8%)	107 (6.1%)	65 (13.7%)	46 (11.8%)	22 (9.1%)	1 (1.5%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	0 (0.0%)	245 (8.1%)	8
	F32-39 その他の気分障害	8 (9.5%)	39 (2.2%)	21 (4.4%)	15 (3.8%)	11 (4.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	0 (0.0%)	94 (3.1%)	7
F4	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	6 (7.1%)	40 (2.3%)	12 (2.5%)	4 (1.0%)	1 (0.4%)	2 (3.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	0 (0.0%)	65 (2.2%)	4
F5	生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	1 (1.2%)	5 (0.3%)	0 (0.0%)	2 (0.5%)	1 (0.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	0 (0.0%)	9 (0.3%)	4
F6	成人のパーソナリティ及び行動の障害	2 (2.4%)	18 (1.0%)	5 (1.1%)	4 (1.0%)	4 (1.6%)	1 (1.5%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	0 (0.0%)	34 (1.1%)	6
F7	精神遅滞(知的障害)	2 (2.4%)	112 (6.4%)	11 (2.3%)	8 (2.0%)	9 (3.7%)	1 (1.5%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	1 (50.0%)	144 (4.8%)	2
F8	心理的発達の障害	0 (0.0%)	40 (2.3%)	14 (3.0%)	10 (2.6%)	9 (3.7%)	4 (6.1%)	3 (30.0%)	0 -	0 (0.0%)	0 (0.0%)	80 (2.7%)	7
F9	小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害及び特定不能の精神障害	3 (3.6%)	6 (0.3%)	1 (0.2%)	1 (0.3%)	2 (0.8%)	2 (3.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	0 (0.0%)	15 (0.5%)	3
	てんかん（F0に属さないものを計上する）	0 (0.0%)	7 (0.4%)	3 (0.6%)	4 (1.0%)	2 (0.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	0 (0.0%)	16 (0.5%)	8
	その他	0 (0.0%)	12 (0.7%)	2 (0.4%)	5 (1.3%)	3 (1.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	0 (0.0%)	22 (0.7%)	6
	不明	0 (0.0%)	3 (0.2%)	3 (0.6%)	4 (1.0%)	1 (0.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	0 (0.0%)	11 (0.4%)	13
	合計*	84 (100.0%)	1,745 (100.0%)	474 (100.0%)	391 (100.0%)	243 (100.0%)	66 (100.0%)	10 (100.0%)	0 -	1 (100.0%)	2 (100.0%)	3,016 (100.0%)	4

\*大項目の総和を算出。

表 114 6月に精神病床で隔離指示が解除された患者の、当該エピソードにおける隔離期間の内訳（主診断別、令和元年と平成26年の比較）②令和元年

主診断	令和元年												中央値（日）
	隔離指示が出されていた各期間に該当するエピソード件数（）内は各期間の内訳（％）												
	1日のみ	1週間未満	2週間未満	1か月未満	3か月未満	1年未満	5年未満	10年未満	10年以上	不明	合計		
F0 症状性を含む器質性精神障害	17 (19.3%)	187 (10.3%)	47 (10.6%)	51 (14.2%)	21 (9.6%)	9 (12.0%)	2 (10.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (100.0%)	335 (11.0%)	4	
F00 アルツハイマー型認知症	8 (9.1%)	78 (4.3%)	22 (4.9%)	26 (7.3%)	10 (4.6%)	3 (4.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (100.0%)	148 (4.9%)	4	
F01 血管性認知症	1 (1.1%)	8 (0.4%)	5 (1.1%)	3 (0.8%)	2 (0.9%)	1 (1.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	20 (0.7%)	7	
F02-09 上記以外の症状性を含む器質性精神障害	8 (9.1%)	101 (5.5%)	20 (4.5%)	22 (6.1%)	9 (4.1%)	5 (6.7%)	2 (10.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	167 (5.5%)	3	
F1 精神作用物質による精神及び行動の障害	3 (3.4%)	57 (3.1%)	21 (4.7%)	12 (3.4%)	9 (4.1%)	1 (1.3%)	1 (5.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	104 (3.4%)	5	
F10 アルコール使用による精神及び行動の障害	2 (2.3%)	43 (2.4%)	12 (2.7%)	11 (3.1%)	5 (2.3%)	0 (0.0%)	1 (5.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	74 (2.4%)	5	
覚せい剤による精神及び行動の障害	0 (0.0%)	6 (0.3%)	2 (0.4%)	0 (0.0%)	2 (0.9%)	1 (1.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	11 (0.4%)	5	
アルコール、覚せい剤を除く精神作用物質使用による精神及び行動の障害	1 (1.1%)	8 (0.4%)	7 (1.6%)	1 (0.3%)	2 (0.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	19 (0.6%)	7	
F2 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	37 (42.0%)	1,207 (66.2%)	231 (51.9%)	200 (55.9%)	132 (60.3%)	57 (76.0%)	11 (55.0%)	2 (66.7%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	1,878 (61.9%)	2	
F3 気分（感情）障害	12 (13.6%)	147 (8.1%)	74 (16.6%)	50 (14.0%)	30 (13.7%)	4 (5.3%)	1 (5.0%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	319 (10.5%)	7	
F30-31 躁病エピソード・双極性感情障害(躁うつ病)	8 (9.1%)	116 (6.4%)	55 (12.4%)	36 (10.1%)	23 (10.5%)	2 (2.7%)	1 (5.0%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	242 (8.0%)	6	
F32-39 その他の気分障害	4 (4.5%)	31 (1.7%)	19 (4.3%)	14 (3.9%)	7 (3.2%)	2 (2.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	77 (2.5%)	7	
F4 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	5 (5.7%)	61 (3.3%)	18 (4.0%)	8 (2.2%)	6 (2.7%)	1 (1.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	99 (3.3%)	2	
F5 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	0 (0.0%)	37 (2.0%)	3 (0.7%)	3 (0.8%)	1 (0.5%)	0 (0.0%)	1 (5.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	45 (1.5%)	2	
F6 成人のパーソナリティ及び行動の障害	3 (3.4%)	9 (0.5%)	2 (0.4%)	1 (0.3%)	1 (0.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	16 (0.5%)	4	
F7 精神遅滞(知的障害)	7 (8.0%)	58 (3.2%)	14 (3.1%)	18 (5.0%)	9 (4.1%)	1 (1.3%)	1 (5.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	108 (3.6%)	3	
F8 心理的発達の障害	0 (0.0%)	44 (2.4%)	19 (4.3%)	7 (2.0%)	7 (3.2%)	1 (1.3%)	3 (15.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	81 (2.7%)	6	
F9 小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害及び特定不能の精神障害	2 (2.3%)	0 (0.0%)	5 (1.1%)	3 (0.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	10 (0.3%)	11	
てんかん（F0に属さないものを計上する）	0 (0.0%)	6 (0.3%)	5 (1.1%)	1 (0.3%)	1 (0.5%)	1 (1.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	14 (0.5%)	7	
その他	2 (2.3%)	9 (0.5%)	6 (1.3%)	3 (0.8%)	2 (0.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	22 (0.7%)	8	
不明	0 (0.0%)	1 (0.1%)	0 (0.0%)	1 (0.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (0.1%)	10	
合計*	88 (100.0%)	1,823 (100.0%)	445 (100.0%)	358 (100.0%)	219 (100.0%)	75 (100.0%)	20 (100.0%)	3 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	3,033 (100.0%)	3	

\*大項目の総和を算出。

表 115 6月に精神病床で身体的拘束指示が解除された患者の、当該エピソードにおける身体的拘束期間の内訳（主診断別、令和元年と平成21年の比較）①平成21年

主診断	平成21年												中央値（日）
	身体的拘束指示が出されていた各期間に該当するエピソード件数（）内は各期間の内訳（%）												
	1日のみ	1週間未満	2週間未満	1か月未満	3か月未満	1年未満	5年未満	10年未満	10年以上	不明	合計		
症状性を含む器質性精神障害	17 (63.0%)	20 (27.4%)	5 (25.0%)	8 (38.1%)	6 (37.5%)	5 (71.4%)	1 (50.0%)	0 -	0 -	0 -	62 (37.3%)	5	
F0													
F00 アルツハイマー型認知症	1 (3.7%)	5 (6.8%)	3 (15.0%)	3 (14.3%)	5 (31.3%)	5 (71.4%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	22 (13.3%)	22	
F01 血管性認知症	0 (0.0%)	2 (2.7%)	2 (10.0%)	1 (4.8%)	1 (6.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	6 (3.6%)	8	
F02-09 上記以外の症状性を含む器質性精神障害	16 (59.3%)	13 (17.8%)	0 (0.0%)	4 (19.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (50.0%)	0 -	0 -	0 -	34 (20.5%)	2	
F1													
精神作用物質による精神及び行動の障害	1 (3.7%)	1 (1.4%)	1 (5.0%)	1 (4.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	4 (2.4%)	10	
F10 アルコール使用による精神及び行動の障害	1 (3.7%)	1 (1.4%)	1 (5.0%)	1 (4.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	4 (2.4%)	10	
覚せい剤による精神及び行動の障害	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
アルコール、覚せい剤を除く精神作用物質使用による精神及び行動の障害	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
F2 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	7 (25.9%)	27 (37.0%)	12 (60.0%)	9 (42.9%)	8 (50.0%)	1 (14.3%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	64 (38.6%)	5	
F3													
気分（感情）障害	2 (7.4%)	6 (8.2%)	1 (5.0%)	3 (14.3%)	2 (12.5%)	1 (14.3%)	1 (50.0%)	0 -	0 -	0 -	16 (9.6%)	6	
F30-31 躁病エピソード・双極性感情障害(躁うつ病)	2 (7.4%)	5 (6.8%)	1 (5.0%)	2 (9.5%)	2 (12.5%)	1 (14.3%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	13 (7.8%)	5	
F32-39 その他の気分障害	0 (0.0%)	1 (1.4%)	0 (0.0%)	1 (4.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (50.0%)	0 -	0 -	0 -	3 (1.8%)	14	
F4 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	0 (0.0%)	1 (1.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	1 (0.6%)	3	
F5 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (5.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	1 (0.6%)	10	
F6 成人のパーソナリティ及び行動の障害	0 (0.0%)	1 (1.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	1 (0.6%)	3	
F7 精神遅滞(知的障害)	0 (0.0%)	1 (1.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	1 (0.6%)	3	
F8 心理的発達障害	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
F9 小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害及び特定不能の精神障害	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
てんかん（F0に属さないものを計上する）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
その他	0 (0.0%)	16 (21.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	16 (9.6%)	2	
不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
合計*	27 (100.0%)	73 (100.0%)	20 (100.0%)	21 (100.0%)	16 (100.0%)	7 (100.0%)	2 (100.0%)	0 -	0 -	0 -	166 (100.0%)	4	

\*大項目の総和を算出。

表 116 6月に精神病床で身体的拘束指示が解除された患者の、当該エピソードにおける身体的拘束期間の内訳（主診断別、令和元年と平成21年の比較）②令和元年

主診断	令和元年												中央値（日）
	身体的拘束指示が出されていた各期間に該当するエピソード件数（）内は各期間の内訳（%）												
	1日のみ	1週間未満	2週間未満	1か月未満	3か月未満	1年未満	5年未満	10年未満	10年以上	不明	合計		
症状性を含む器質性精神障害	1 (12.5%)	4 (5.9%)	4 (15.4%)	4 (21.1%)	4 (36.4%)	1 (33.3%)	0 -	0 -	0 -	0 -	18 (13.3%)	13	
F0 F00 アルツハイマー型認知症	1 (12.5%)	2 (2.9%)	2 (7.7%)	2 (10.5%)	1 (9.1%)	1 (33.3%)	0 -	0 -	0 -	0 -	9 (6.7%)	10	
F0 F01 血管性認知症	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (3.8%)	1 (5.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	0 -	2 (1.5%)	15	
F0 F02-09 上記以外の症状性を含む器質性精神障害	0 (0.0%)	2 (2.9%)	1 (3.8%)	1 (5.3%)	3 (27.3%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	0 -	7 (5.2%)	16	
F1 精神作用物質による精神及び行動の障害	0 (0.0%)	3 (4.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (9.1%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	0 -	4 (3.0%)	3	
F1 F10 アルコール使用による精神及び行動の障害	0 (0.0%)	3 (4.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (9.1%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	0 -	4 (3.0%)	3	
F1 覚せい剤による精神及び行動の障害	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
F1 アルコール、覚せい剤を除く精神作用物質使用による精神及び行動の障害	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
F2 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	1 (12.5%)	42 (61.8%)	17 (65.4%)	8 (42.1%)	6 (54.5%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	0 -	74 (54.8%)	5	
F3 気分（感情）障害	2 (25.0%)	8 (11.8%)	1 (3.8%)	2 (10.5%)	0 (0.0%)	1 (33.3%)	0 -	0 -	0 -	0 -	14 (10.4%)	4	
F3 F30-31 躁病エピソード・双極性感情障害(躁うつ病)	2 (25.0%)	5 (7.4%)	0 (0.0%)	2 (10.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	0 -	9 (6.7%)	3	
F3 F32-39 その他の気分障害	0 (0.0%)	3 (4.4%)	1 (3.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (33.3%)	0 -	0 -	0 -	0 -	5 (3.7%)	5	
F4 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	0 (0.0%)	5 (7.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	0 -	5 (3.7%)	4	
F5 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	0 (0.0%)	2 (2.9%)	1 (3.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	0 -	3 (2.2%)	3	
F6 成人のパーソナリティ及び行動の障害	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (3.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	0 -	1 (0.7%)	7	
F7 精神遅滞(知的障害)	0 (0.0%)	2 (2.9%)	2 (7.7%)	3 (15.8%)	0 (0.0%)	1 (33.3%)	0 -	0 -	0 -	0 -	8 (5.9%)	12	
F8 心理的発達障害	0 (0.0%)	2 (2.9%)	0 (0.0%)	1 (5.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	0 -	3 (2.2%)	4	
F9 小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害及び特定不能の精神障害	4 (50.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	0 -	4 (3.0%)	1	
てんかん（F0に属さないものを計上する）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
その他	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (5.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	0 -	1 (0.7%)	28	
不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
合計*	8 (100.0%)	68 (100.0%)	26 (100.0%)	19 (100.0%)	11 (100.0%)	3 (100.0%)	0 -	0 -	0 -	0 -	135 (100.0%)	5	

\*大項目の総和を算出。

表 117 6月に精神病床で身体的拘束指示が解除された患者の、当該エピソードにおける身体的拘束期間の内訳（主診断別、令和元年と平成26年の比較）①平成26年

主診断	平成26年												中央値（日）
	身体的拘束指示が出されていた各期間に該当するエピソード件数（）内は各期間の内訳（％）												
	1日のみ	1週間未満	2週間未満	1か月未満	3か月未満	1年未満	5年未満	10年未満	10年以上	不明	合計		
症状性を含む器質性精神障害	21 (20.4%)	111 (10.8%)	41 (22.3%)	57 (34.8%)	35 (30.7%)	22 (45.8%)	1 (6.3%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	288 (17.3%)	8	
F00 アルツハイマー型認知症	15 (14.6%)	46 (4.5%)	23 (12.5%)	30 (18.3%)	20 (17.5%)	14 (29.2%)	1 (6.3%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	149 (9.0%)	11	
F01 血管性認知症	1 (1.0%)	6 (0.6%)	4 (2.2%)	3 (1.8%)	4 (3.5%)	3 (6.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	21 (1.3%)	10	
F02-09 上記以外の症状性を含む器質性精神障害	5 (4.9%)	59 (5.7%)	14 (7.6%)	24 (14.6%)	11 (9.6%)	5 (10.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	118 (7.1%)	5	
精神作用物質による精神及び行動の障害	3 (2.9%)	55 (5.4%)	10 (5.4%)	6 (3.7%)	9 (7.9%)	1 (2.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	84 (5.0%)	2	
F10 アルコール使用による精神及び行動の障害	1 (1.0%)	51 (5.0%)	9 (4.9%)	4 (2.4%)	9 (7.9%)	1 (2.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	75 (4.5%)	2	
覚せい剤による精神及び行動の障害	0 (0.0%)	1 (0.1%)	0 (0.0%)	1 (0.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	2 (0.1%)	8	
アルコール、覚せい剤を除く精神作用物質使用による精神及び行動の障害	2 (1.9%)	3 (0.3%)	1 (0.5%)	1 (0.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	7 (0.4%)	2	
F2 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	35 (34.0%)	657 (63.9%)	88 (47.8%)	74 (45.1%)	41 (36.0%)	22 (45.8%)	12 (75.0%)	4 (100.0%)	0 -	1 (33.3%)	934 (56.1%)	2	
気分（感情）障害	10 (9.7%)	105 (10.2%)	35 (19.0%)	16 (9.8%)	15 (13.2%)	2 (4.2%)	2 (12.5%)	0 (0.0%)	0 -	1 (33.3%)	186 (11.2%)	4	
F3 F30-31 躁病エピソード・双極性感情障害(躁うつ病)	6 (5.8%)	66 (6.4%)	23 (12.5%)	7 (4.3%)	8 (7.0%)	1 (2.1%)	2 (12.5%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	113 (6.8%)	3	
F32-39 その他の気分障害	4 (3.9%)	39 (3.8%)	12 (6.5%)	9 (5.5%)	7 (6.1%)	1 (2.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	1 (33.3%)	73 (4.4%)	4	
F4 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	16 (15.5%)	9 (0.9%)	0 (0.0%)	1 (0.6%)	2 (1.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	28 (1.7%)	1	
F5 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	1 (1.0%)	29 (2.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	1 (2.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	32 (1.9%)	2	
F6 成人のパーソナリティ及び行動の障害	0 (0.0%)	6 (0.6%)	2 (1.1%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	9 (0.5%)	4	
F7 精神遅滞(知的障害)	11 (10.7%)	24 (2.3%)	2 (1.1%)	4 (2.4%)	3 (2.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	1 (33.3%)	45 (2.7%)	2	
F8 心理的発達障害	2 (1.9%)	5 (0.5%)	1 (0.5%)	1 (0.6%)	2 (1.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	11 (0.7%)	5	
F9 小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害及び特定不能の精神障害	2 (1.9%)	5 (0.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	7 (0.4%)	2	
てんかん（F0に属さないものを計上する）	2 (1.9%)	7 (0.7%)	1 (0.5%)	1 (0.6%)	3 (2.6%)	0 (0.0%)	1 (6.3%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	15 (0.9%)	3	
その他	0 (0.0%)	9 (0.9%)	4 (2.2%)	4 (2.4%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	18 (1.1%)	6	
不明	0 (0.0%)	6 (0.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	7 (0.4%)	5	
合計*	103 (100.0%)	1,028 (100.0%)	184 (100.0%)	164 (100.0%)	114 (100.0%)	48 (100.0%)	16 (100.0%)	4 (100.0%)	0 -	3 (100.0%)	1,664 (100.0%)	2	

\*大項目の総和を算出。

表 118 6月に精神病床で身体的拘束指示が解除された患者の、当該エピソードにおける身体的拘束期間の内訳（主診断別、令和元年と平成26年の比較）①令和元年

主診断	令和元年												中央値（日）
	身体的拘束指示が出されていた各期間に該当するエピソード件数（）内は各期間の内訳（％）												
	1日のみ	1週間未満	2週間未満	1か月未満	3か月未満	1年未満	5年未満	10年未満	10年以上	不明	合計		
症状性を含む器質性精神障害	48 (46.2%)	264 (27.6%)	52 (30.2%)	55 (36.2%)	42 (39.6%)	22 (53.7%)	6 (21.4%)	2 (66.7%)	0 (0.0%)	0 -	491 (31.4%)	2	
F00 アルツハイマー型認知症	39 (37.5%)	96 (10.0%)	26 (15.1%)	33 (21.7%)	24 (22.6%)	14 (34.1%)	4 (14.3%)	2 (66.7%)	0 (0.0%)	0 -	238 (15.2%)	3	
F01 血管性認知症	4 (3.8%)	19 (2.0%)	5 (2.9%)	3 (2.0%)	5 (4.7%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	37 (2.4%)	2	
F02-09 上記以外の症状性を含む器質性精神障害	5 (4.8%)	149 (15.6%)	21 (12.2%)	19 (12.5%)	13 (12.3%)	7 (17.1%)	2 (7.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	216 (13.8%)	2	
精神作用物質による精神及び行動の障害	1 (1.0%)	57 (6.0%)	5 (2.9%)	9 (5.9%)	0 (0.0%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	73 (4.7%)	2	
F10 アルコール使用による精神及び行動の障害	1 (1.0%)	48 (5.0%)	4 (2.3%)	8 (5.3%)	0 (0.0%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	62 (4.0%)	2	
覚せい剤による精神及び行動の障害	0 (0.0%)	5 (0.5%)	1 (0.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	6 (0.4%)	4	
アルコール、覚せい剤を除く精神作用物質使用による精神及び行動の障害	0 (0.0%)	4 (0.4%)	0 (0.0%)	1 (0.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	5 (0.3%)	2	
F2 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	38 (36.5%)	523 (54.6%)	70 (40.7%)	57 (37.5%)	41 (38.7%)	14 (34.1%)	22 (78.6%)	1 (33.3%)	2 (100.0%)	0 -	768 (49.1%)	2	
気分（感情）障害	11 (10.6%)	58 (6.1%)	18 (10.5%)	15 (9.9%)	9 (8.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	111 (7.1%)	5	
F3 F30-31 躁病エピソード・双極性感情障害(躁うつ病)	6 (5.8%)	39 (4.1%)	9 (5.2%)	10 (6.6%)	2 (1.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	66 (4.2%)	4	
F32-39 その他の気分障害	5 (4.8%)	19 (2.0%)	9 (5.2%)	5 (3.3%)	7 (6.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	45 (2.9%)	6	
F4 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	2 (1.9%)	19 (2.0%)	4 (2.3%)	2 (1.3%)	3 (2.8%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	31 (2.0%)	5	
F5 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	0 (0.0%)	1 (0.1%)	2 (1.2%)	4 (2.6%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	8 (0.5%)	14	
F6 成人のパーソナリティ及び行動の障害	0 (0.0%)	5 (0.5%)	1 (0.6%)	1 (0.7%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	8 (0.5%)	5	
F7 精神遅滞(知的障害)	1 (1.0%)	11 (1.1%)	3 (1.7%)	6 (3.9%)	5 (4.7%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	27 (1.7%)	10	
F8 心理的発達障害	0 (0.0%)	5 (0.5%)	4 (2.3%)	1 (0.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	10 (0.6%)	7	
F9 小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害及び特定不能の精神障害	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
てんかん（F0に属さないものを計上する）	1 (1.0%)	8 (0.8%)	2 (1.2%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	13 (0.8%)	4	
その他	2 (1.9%)	5 (0.5%)	9 (5.2%)	1 (0.7%)	3 (2.8%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	21 (1.3%)	8	
不明	0 (0.0%)	1 (0.1%)	2 (1.2%)	1 (0.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	4 (0.3%)	9	
合計*	104 (100.0%)	957 (100.0%)	172 (100.0%)	152 (100.0%)	106 (100.0%)	41 (100.0%)	28 (100.0%)	3 (100.0%)	2 (100.0%)	0 -	1,565 (100.0%)	2	

\*大項目の総和を算出。

表 119 6月に精神病床で隔離指示が解除された患者の、当該エピソードにおける隔離期間の内訳（入院形態別、令和元年と平成21年の比較）①平成21年

入院形態	平成21年												中央値（日）
	隔離指示が出されていた各期間に該当するエピソード件数（）内は各期間の内訳（%）												
	1日のみ	1週間未満	2週間未満	1か月未満	3か月未満	1年未満	5年未満	10年未満	10年以上	不明	合計		
任意入院	3 (23.1%)	76 (34.4%)	11 (13.8%)	9 (13.8%)	7 (17.1%)	0 (0.0%)	1 (20.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	107 (24.2%)	3	
医療保護入院	9 (69.2%)	141 (63.8%)	68 (85.0%)	54 (83.1%)	33 (80.5%)	17 (100.0%)	4 (80.0%)	1 (100.0%)	0 -	0 -	327 (73.8%)	8	
緊急措置入院	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
措置入院	0 (0.0%)	3 (1.4%)	1 (1.3%)	1 (1.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	5 (1.1%)	6	
応急入院	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
鑑定入院	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.5%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	2 (0.5%)	35	
医療観察法による入院	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
不明	1 (7.7%)	1 (0.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	2 (0.5%)	2	
合計	13 (100.0%)	221 (100.0%)	80 (100.0%)	65 (100.0%)	41 (100.0%)	17 (100.0%)	5 (100.0%)	1 (100.0%)	0 -	0 -	443 (100.0%)	6	

表 120 6月に精神病床で隔離指示が解除された患者の、当該エピソードにおける隔離期間の内訳（入院形態別、令和元年と平成21年の比較）②令和元年

入院形態	令和元年												中央値（日）
	隔離指示が出されていた各期間に該当するエピソード件数（）内は各期間の内訳（%）												
	1日のみ	1週間未満	2週間未満	1か月未満	3か月未満	1年未満	5年未満	10年未満	10年以上	不明	合計		
任意入院	1 (10.0%)	113 (50.0%)	14 (18.2%)	6 (7.5%)	3 (6.3%)	1 (4.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	138 (29.3%)	2	
医療保護入院	9 (90.0%)	98 (43.4%)	62 (80.5%)	68 (85.0%)	42 (87.5%)	24 (96.0%)	4 (80.0%)	0 -	0 -	0 -	307 (65.2%)	11	
緊急措置入院	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	1 (0.2%)	9	
措置入院	0 (0.0%)	14 (6.2%)	0 (0.0%)	5 (6.3%)	2 (4.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	21 (4.5%)	3	
応急入院	0 (0.0%)	1 (0.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	1 (0.2%)	2	
鑑定入院	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.3%)	1 (2.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	2 (0.4%)	44	
医療観察法による入院	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (20.0%)	0 -	0 -	0 -	1 (0.2%)	1,567	
合計	10 (100.0%)	226 (100.0%)	77 (100.0%)	80 (100.0%)	48 (100.0%)	25 (100.0%)	5 (100.0%)	0 -	0 -	0 -	471 (100.0%)	6	



表 121 6月に精神病床で隔離指示が解除された患者の、当該エピソードにおける隔離期間の内訳（入院形態別、令和元年と平成26年の比較）①平成26年

入院形態	平成26年												中央値（日）
	隔離指示が出されていた各期間に該当するエピソード件数（）内は各期間の内訳（%）												
	1日のみ	1週間未満	2週間未満	1か月未満	3か月未満	1年未満	5年未満	10年未満	10年以上	不明	合計		
任意入院	31 (36.9%)	586 (33.6%)	68 (14.3%)	48 (12.3%)	20 (8.2%)	6 (9.1%)	2 (20.0%)	0 -	0 (0.0%)	0 (0.0%)	761 (25.2%)	2	
医療保護入院	51 (60.7%)	1,068 (61.2%)	372 (78.5%)	312 (79.8%)	209 (86.0%)	59 (89.4%)	8 (80.0%)	0 -	1 (100.0%)	2 (100.0%)	2,082 (69.0%)	6	
緊急措置入院	1 (1.2%)	17 (1.0%)	4 (0.8%)	3 (0.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	0 (0.0%)	25 (0.8%)	2	
措置入院	1 (1.2%)	59 (3.4%)	27 (5.7%)	26 (6.6%)	8 (3.3%)	1 (1.5%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	0 (0.0%)	122 (4.0%)	7	
応急入院	0 (0.0%)	2 (0.1%)	1 (0.2%)	0 (0.0%)	1 (0.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (0.1%)	6	
鑑定入院	0 (0.0%)	1 (0.1%)	1 (0.2%)	1 (0.3%)	2 (0.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	0 (0.0%)	5 (0.2%)	20	
医療観察法による入院	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.2%)	0 (0.0%)	1 (0.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (0.1%)	41	
不明	0 (0.0%)	12 (0.7%)	0 (0.0%)	1 (0.3%)	2 (0.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	0 (0.0%)	15 (0.5%)	3	
合計	84 (100.0%)	1,745 (100.0%)	474 (100.0%)	391 (100.0%)	243 (100.0%)	66 (100.0%)	10 (100.0%)	0 -	1 (100.0%)	2 (100.0%)	3,016 (100.0%)	4	

表 122 6月に精神病床で隔離指示が解除された患者の、当該エピソードにおける隔離期間の内訳（入院形態別、令和元年と平成26年の比較）②令和元年

入院形態	令和元年												中央値（日）
	隔離指示が出されていた各期間に該当するエピソード件数（）内は各期間の内訳（%）												
	1日のみ	1週間未満	2週間未満	1か月未満	3か月未満	1年未満	5年未満	10年未満	10年以上	不明	合計		
任意入院	11 (12.5%)	550 (30.2%)	49 (11.0%)	40 (11.2%)	27 (12.3%)	8 (10.7%)	2 (10.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	687 (22.7%)	2	
医療保護入院	69 (78.4%)	1,208 (66.3%)	370 (83.1%)	308 (86.0%)	182 (83.1%)	64 (85.3%)	18 (90.0%)	3 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	2,224 (73.3%)	4	
緊急措置入院	5 (5.7%)	9 (0.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	14 (0.5%)	2	
措置入院	1 (1.1%)	45 (2.5%)	24 (5.4%)	10 (2.8%)	8 (3.7%)	3 (4.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	91 (3.0%)	6	
応急入院	2 (2.3%)	8 (0.4%)	1 (0.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	11 (0.4%)	3	
鑑定入院	0 (0.0%)	2 (0.1%)	1 (0.2%)	0 (0.0%)	1 (0.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (0.1%)	7	
医療観察法による入院	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
不明	0 (0.0%)	1 (0.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (0.1%)	33	
合計	88 (100.0%)	1,823 (100.0%)	445 (100.0%)	358 (100.0%)	219 (100.0%)	75 (100.0%)	20 (100.0%)	3 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	3,033 (100.0%)	3	

表 123 6月に精神病床で身体的拘束指示が解除された患者の、当該エピソードにおける身体的拘束期間の内訳（入院形態別、令和元年と平成21年の比較）①平成21年

入院形態	平成21年												中央値（日）
	身体的拘束指示が出されていた各期間に該当するエピソード件数（）内は各期間の内訳（%）												
	1日のみ	1週間未満	2週間未満	1か月未満	3か月未満	1年未満	5年未満	10年未満	10年以上	不明	合計		
任意入院	4 (14.8%)	7 (9.6%)	2 (10.0%)	5 (23.8%)	0 (0.0%)	2 (28.6%)	1 (50.0%)	0 -	0 -	0 -	21 (12.7%)	6	
医療保護入院	23 (85.2%)	66 (90.4%)	18 (90.0%)	16 (76.2%)	16 (100.0%)	5 (71.4%)	1 (50.0%)	0 -	0 -	0 -	145 (87.3%)	4	
緊急措置入院	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
措置入院	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
応急入院	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
鑑定入院	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
医療観察法による入院	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
合計	27 (100.0%)	73 (100.0%)	20 (100.0%)	21 (100.0%)	16 (100.0%)	7 (100.0%)	2 (100.0%)	0 -	0 -	0 -	166 (100.0%)	4	

表 124 6月に精神病床で身体的拘束指示が解除された患者の、当該エピソードにおける身体的拘束期間の内訳（入院形態別、令和元年と平成21年の比較）②令和元年

入院形態	令和元年												中央値（日）
	身体的拘束指示が出されていた各期間に該当するエピソード件数（）内は各期間の内訳（%）												
	1日のみ	1週間未満	2週間未満	1か月未満	3か月未満	1年未満	5年未満	10年未満	10年以上	不明	合計		
任意入院	1 (12.5%)	5 (7.4%)	2 (7.7%)	2 (10.5%)	2 (18.2%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	0 -	12 (8.9%)	9	
医療保護入院	7 (87.5%)	62 (91.2%)	23 (88.5%)	17 (89.5%)	9 (81.8%)	3 (100.0%)	0 -	0 -	0 -	0 -	121 (89.6%)	5	
緊急措置入院	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
措置入院	0 (0.0%)	1 (1.5%)	1 (3.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 -	0 -	0 -	2 (1.5%)	6	
応急入院	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
鑑定入院	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
医療観察法による入院	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
合計	8 (100.0%)	68 (100.0%)	26 (100.0%)	19 (100.0%)	11 (100.0%)	3 (100.0%)	0 -	0 -	0 -	0 -	135 (100.0%)	5	

表 125 6月に精神病床で身体的拘束指示が解除された患者の、当該エピソードにおける身体的拘束期間の内訳（入院形態別、令和元年と平成26年の比較）①平成26年

入院形態	平成26年												中央値（日）
	身体的拘束指示が出されていた各期間に該当するエピソード件数（）内は各期間の内訳（%）												
	1日のみ	1週間未満	2週間未満	1か月未満	3か月未満	1年未満	5年未満	10年未満	10年以上	不明	合計		
任意入院	19 (18.4%)	176 (17.1%)	37 (20.1%)	23 (14.0%)	16 (14.0%)	3 (6.3%)	5 (31.3%)	1 (25.0%)	0 -	1 (33.3%)	281 (16.9%)	2	
医療保護入院	71 (68.9%)	817 (79.5%)	135 (73.4%)	134 (81.7%)	98 (86.0%)	45 (93.8%)	11 (68.8%)	3 (75.0%)	0 -	2 (66.7%)	1,316 (79.1%)	2	
緊急措置入院	12 (11.7%)	18 (1.8%)	0 (0.0%)	2 (1.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	32 (1.9%)	2	
措置入院	1 (1.0%)	12 (1.2%)	9 (4.9%)	2 (1.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	24 (1.4%)	6	
応急入院	0 (0.0%)	2 (0.2%)	2 (1.1%)	1 (0.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	5 (0.3%)	7	
鑑定入院	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	1 (0.1%)	21	
医療観察法による入院	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	-	
不明	0 (0.0%)	3 (0.3%)	1 (0.5%)	1 (0.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	5 (0.3%)	4	
合計	103 (100.0%)	1,028 (100.0%)	184 (100.0%)	164 (100.0%)	114 (100.0%)	48 (100.0%)	16 (100.0%)	4 (100.0%)	0 -	3 (100.0%)	1,664 (100.0%)	2	

表 126 6月に精神病床で身体的拘束指示が解除された患者の、当該エピソードにおける身体的拘束期間の内訳（入院形態別、令和元年と平成26年の比較）②令和元年

入院形態	令和元年												中央値（日）
	身体的拘束指示が出されていた各期間に該当するエピソード件数（）内は各期間の内訳（%）												
	1日のみ	1週間未満	2週間未満	1か月未満	3か月未満	1年未満	5年未満	10年未満	10年以上	不明	合計		
任意入院	14 (13.5%)	51 (5.3%)	20 (11.6%)	14 (9.2%)	11 (10.4%)	4 (9.8%)	2 (7.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	116 (7.4%)	4	
医療保護入院	81 (77.9%)	864 (90.3%)	145 (84.3%)	135 (88.8%)	94 (88.7%)	37 (90.2%)	26 (92.9%)	3 (100.0%)	2 (100.0%)	0 -	1,387 (88.6%)	2	
緊急措置入院	4 (3.8%)	15 (1.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	19 (1.2%)	2	
措置入院	3 (2.9%)	20 (2.1%)	7 (4.1%)	3 (2.0%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	34 (2.2%)	6	
応急入院	2 (1.9%)	6 (0.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	8 (0.5%)	3	
鑑定入院	0 (0.0%)	1 (0.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	1 (0.1%)	4	
医療観察法による入院	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	-	
不明	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	-	
合計	104 (100.0%)	957 (100.0%)	172 (100.0%)	152 (100.0%)	106 (100.0%)	41 (100.0%)	28 (100.0%)	3 (100.0%)	2 (100.0%)	0 -	1,565 (100.0%)	2	

表 127 6月に精神病床で隔離指示が解除された患者の、当該エピソードにおける隔離期間の内訳（該当要件別、令和元年と平成21年の比較）①平成21年

隔離該当要件の内訳※1	平成21年														
	隔離指示が出されていた各期間に該当するエピソード件数（）内は各期間の内訳（%）										中央値 （日）				
	1日のみ	2日以上 1週間未満	1週間以上 2週間未満	2週間以上 1か月未満	1か月以上	不明	合計								
ア.他の患者との人間関係を著しく損なうおそれがある等、その言動が患者の病状の経過や予後に著しく悪く影響する場合	4	(30.8%)	80	(36.2%)	14	(17.5%)	11	(16.9%)	18	(28.1%)	0	-	127	(28.7%)	2
イ.自殺企画又は自傷行為が切迫している場合	0	(0.0%)	7	(3.2%)	4	(5.0%)	6	(9.2%)	1	(1.6%)	0	-	18	(4.1%)	10
ウ.他の患者に対する暴力行為や著しい迷惑行為、器物破損行為が認められ、他の方法ではこれを防ぎきれない場合	1	(7.7%)	26	(11.8%)	25	(31.3%)	13	(20.0%)	15	(23.4%)	0	-	80	(18.1%)	11
エ.急性精神運動興奮等のため、不穏、多動、爆発性などが目立ち、一般の精神病室では医療又は保護を図ることが著しく困難な場合	7	(53.8%)	101	(45.7%)	36	(45.0%)	34	(52.3%)	27	(42.2%)	0	-	205	(46.3%)	6
オ.身体的合併症を有する患者について、検査及び処置等のため、隔離が必要な場合	0	(0.0%)	8	(3.6%)	2	(2.5%)	4	(6.2%)	0	(0.0%)	0	-	14	(3.2%)	5
カ.その他 ※2	0	(0.0%)	10	(4.5%)	11	(13.8%)	2	(3.1%)	4	(6.3%)	0	-	27	(6.1%)	8
水中毒	0	(0.0%)	1	(0.5%)	2	(2.5%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	-	3	(0.7%)	7
転倒転落	0	(0.0%)	2	(0.9%)	2	(2.5%)	1	(1.5%)	1	(1.6%)	0	-	6	(1.4%)	8
自己抜去	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	-	0	(0.0%)	-
身体管理系（身体管理・合併安静保持・検査処置等）	0	(0.0%)	0	(0.0%)	1	(1.3%)	0	(0.0%)	1	(1.6%)	0	-	2	(0.5%)	66
その他：精神症状に起因する	0	(0.0%)	6	(2.7%)	7	(8.8%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	-	13	(2.9%)	7
その他：それ以外に起因する	0	(0.0%)	3	(1.4%)	0	(0.0%)	1	(1.5%)	1	(1.6%)	0	-	5	(1.1%)	4
記述内容不明	0	(0.0%)	1	(0.5%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)	1	(1.6%)	0	-	2	(0.5%)	73
不明	3	(23.1%)	10	(4.5%)	10	(12.5%)	8	(12.3%)	13	(20.3%)	0	-	44	(9.9%)	13
患者数 計	13		221		80		65		64		0		443		6

※1 1つの指示に対して、複数の該当要件を選択する場合も含む

※2 「カ.その他」の記述に複数の項目を含む場合には、それぞれの項目について分類し、内訳に計上する。

表 128 6月に精神病床で隔離指示が解除された患者の、当該エピソードにおける隔離期間の内訳（該当要件別、令和元年と平成21年の比較）②令和元年

隔離該当要件の内訳※1	令和元年										中央値 (日)
	隔離指示が出されていた各期間に該当するエピソード件数 ( )内は各期間の内訳(%)										
	1日のみ	2日以上 1週間未満	1週間以上 2週間未満	2週間以上 1か月未満	1か月以上	不明	合計				
ア.他の患者との人間関係を著しく損なうおそれがある等、その言動が患者の病状の経過や予後に著しく悪く影響する場合	5 (50.0%)	128 (56.6%)	25 (32.5%)	28 (35.0%)	26 (33.3%)	0 -	212 (45.0%)			3	
イ.自殺企画又は自傷行為が切迫している場合	0 (0.0%)	10 (4.4%)	4 (5.2%)	3 (3.8%)	7 (9.0%)	0 -	24 (5.1%)			10	
ウ.他の患者に対する暴力行為や著しい迷惑行為、器物破損行為が認められ、他の方法ではこれを防ぎきれない場合	2 (20.0%)	16 (7.1%)	15 (19.5%)	24 (30.0%)	22 (28.2%)	0 -	79 (16.8%)			17	
エ.急性精神運動興奮等のため、不穏、多動、爆発性などが目立ち、一般の精神病室では医療又は保護を図ることが著しく困難な場合	6 (60.0%)	79 (35.0%)	42 (54.5%)	39 (48.8%)	36 (46.2%)	0 -	202 (42.9%)			8	
オ.身体的合併症を有する患者について、検査及び処置等のため、隔離が必要な場合	0 (0.0%)	2 (0.9%)	4 (5.2%)	3 (3.8%)	2 (2.6%)	0 -	11 (2.3%)			13	
カ.その他 ※2	1 (10.0%)	14 (6.2%)	4 (5.2%)	6 (7.5%)	8 (10.3%)	0 -	33 (7.0%)			7	
水中毒	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.3%)	0 (0.0%)	1 (1.3%)	0 -	2 (0.4%)			21	
転倒転落	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.3%)	0 -	1 (0.2%)			42	
自己抜去	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)			-	
身体管理系(身体管理・合併安静保持・検査処置等)	0 (0.0%)	3 (1.3%)	1 (1.3%)	2 (2.5%)	0 (0.0%)	0 -	6 (1.3%)			7	
その他：精神症状に起因する	0 (0.0%)	7 (3.1%)	1 (1.3%)	2 (2.5%)	6 (7.7%)	0 -	16 (3.4%)			11	
その他：それ以外に起因する	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (2.5%)	0 (0.0%)	0 -	2 (0.4%)			22	
記述内容不明	1 (10.0%)	7 (3.1%)	2 (2.6%)	0 (0.0%)	1 (1.3%)	0 -	11 (2.3%)			4	
不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)			-	
患者数 計	10	226	77	80	78	0	471			6	

※1 1つの指示に対して、複数の該当要件を選択する場合も含む

※2 「カ.その他」の記述に複数の項目を含む場合には、それぞれの項目について分類し、内訳に計上する。

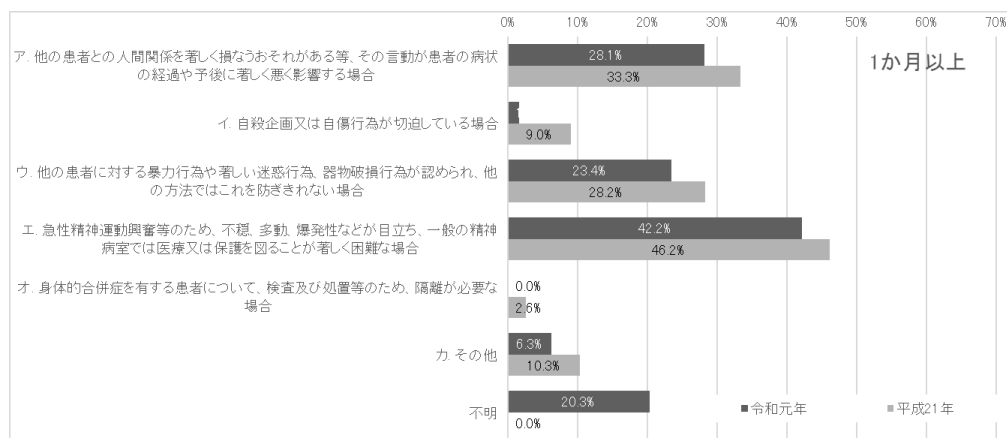
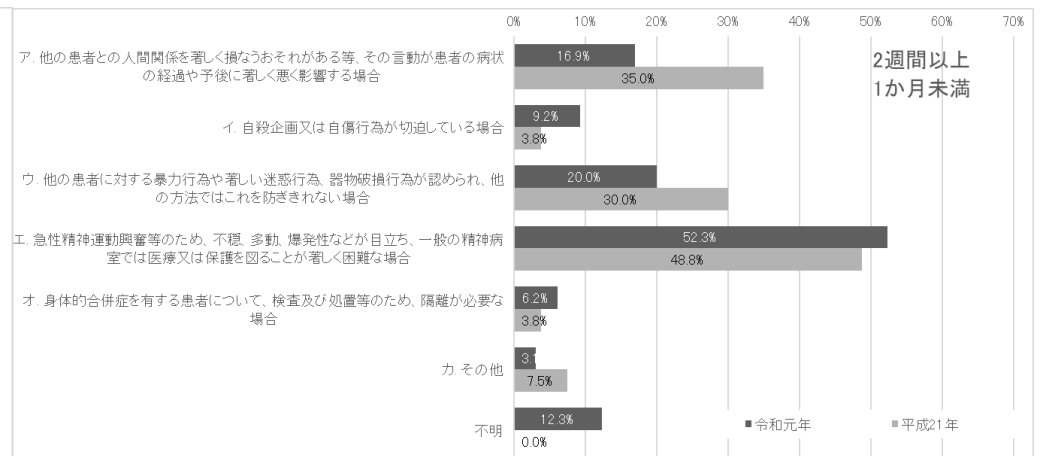
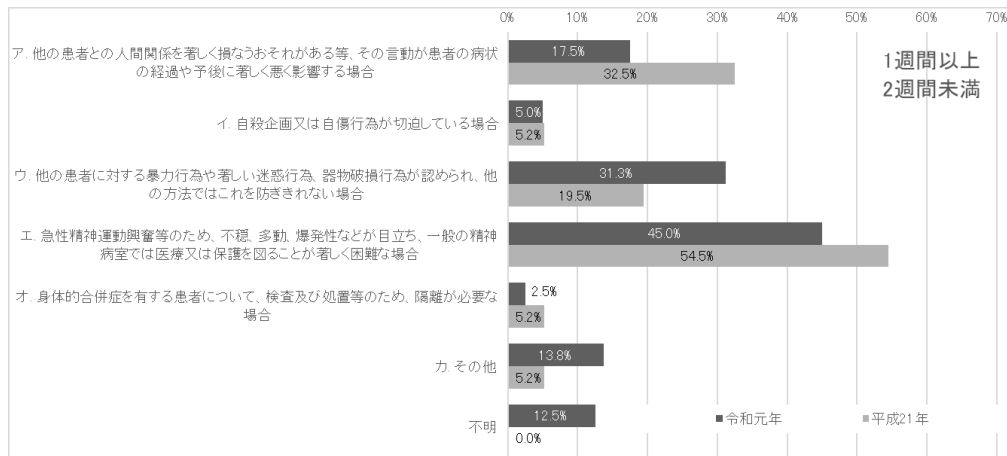
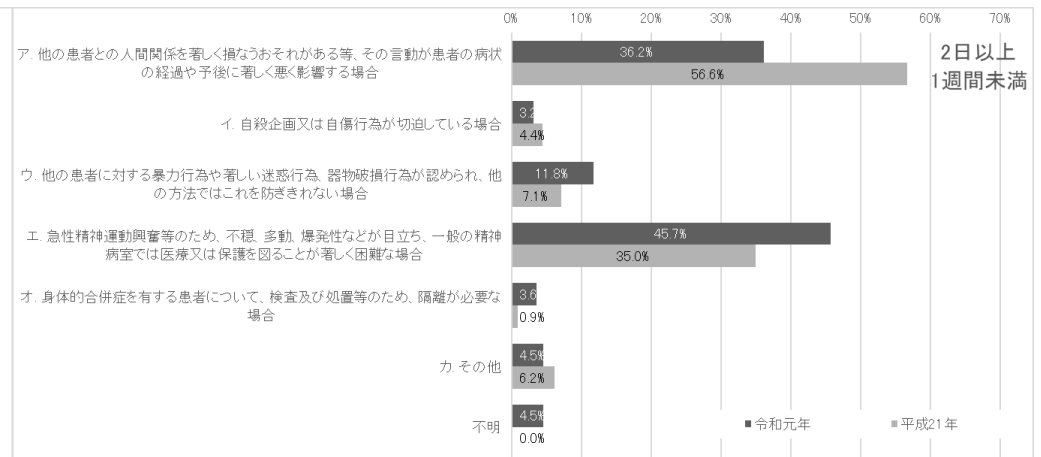
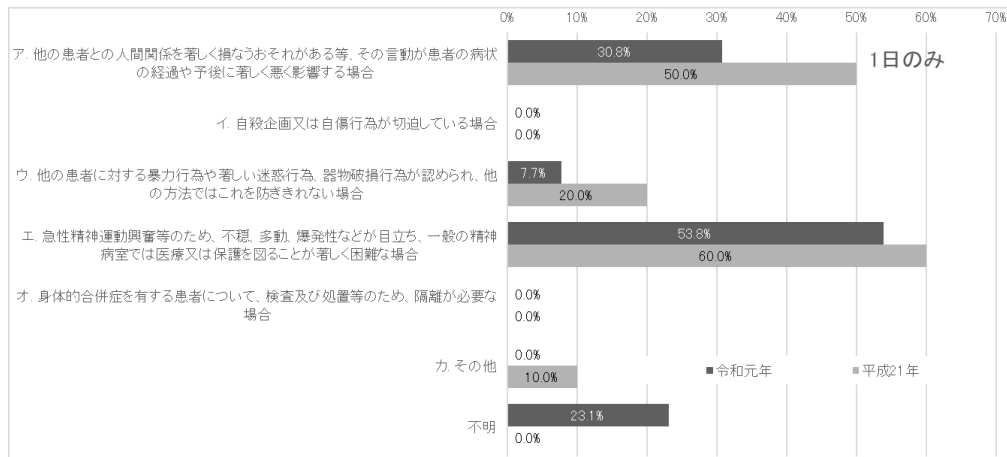


図 45 6月に精神病床で隔離指示が解除された患者の、当該エピソードにおける該当要件の内訳の推移（隔離期間別、令和元年と平成21年の比較）

表 129 6月に精神病床で隔離指示が解除された患者の、当該エピソードにおける隔離期間の内訳（該当要件別、令和元年と平成26年の比較）

隔離該当要件の内訳※1	平成26年										中央値 (日)
	隔離指示が出されていた各期間に該当するエピソード件数 ( )内は各期間の内訳 (%)										
	1日のみ	2日以上 1週間未満	1週間以上 2週間未満	2週間以上 1か月未満	1か月以上	不明	合計				
ア.他の患者との人間関係を著しく損なうおそれがある等、その言動が患者の病状の経過や予後に著しく悪く影響する場合	20 (23.8%)	601 (34.4%)	111 (23.4%)	101 (25.8%)	90 (28.1%)	0 (0.0%)	923 (30.6%)			2	
イ.自殺企画又は自傷行為が切迫している場合	8 (9.5%)	68 (3.9%)	54 (11.4%)	21 (5.4%)	17 (5.3%)	0 (0.0%)	168 (5.6%)			7	
ウ.他の患者に対する暴力行為や著しい迷惑行為、器物破損行為が認められ、他の方法ではこれを防ぎきれない場合	18 (21.4%)	202 (11.6%)	89 (18.8%)	69 (17.6%)	83 (25.9%)	1 (50.0%)	462 (15.3%)			7	
エ.急性精神運動興奮等のため、不穏、多動、爆発性などが目立ち、一般の精神病室では医療又は保護を図ることが著しく困難な場合	45 (53.6%)	879 (50.4%)	275 (58.0%)	243 (62.1%)	184 (57.5%)	0 (0.0%)	1,626 (53.9%)			4	
オ.身体的合併症を有する患者について、検査及び処置等のため、隔離が必要な場合	7 (8.3%)	36 (2.1%)	15 (3.2%)	12 (3.1%)	11 (3.4%)	0 (0.0%)	81 (2.7%)			6	
カ.その他 ※2	14 (16.7%)	137 (7.9%)	23 (4.9%)	27 (6.9%)	20 (6.3%)	0 (0.0%)	221 (7.3%)			2	
水中毒	7 (8.3%)	25 (1.4%)	1 (0.2%)	4 (1.0%)	2 (0.6%)	0 (0.0%)	39 (1.3%)			2	
転倒転落	0 (0.0%)	1 (0.1%)	3 (0.6%)	3 (0.8%)	1 (0.3%)	0 (0.0%)	8 (0.3%)			12	
自己抜去	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)			-	
身体管理系（身体管理・合併安静保持・検査処置等）	1 (1.2%)	49 (2.8%)	4 (0.8%)	7 (1.8%)	3 (0.9%)	0 (0.0%)	64 (2.1%)			2	
その他：精神症状に起因する	1 (1.2%)	32 (1.8%)	13 (2.7%)	15 (3.8%)	11 (3.4%)	0 (0.0%)	72 (2.4%)			9	
その他：それ以外に起因する	3 (3.6%)	30 (1.7%)	2 (0.4%)	3 (0.8%)	3 (0.9%)	0 (0.0%)	41 (1.4%)			2	
記述内容不明	2 (2.4%)	1 (0.1%)	0 (0.0%)	1 (0.3%)	1 (0.3%)	0 (0.0%)	5 (0.2%)			3	
不明	2 (2.4%)	1 (0.1%)	1 (0.2%)	2 (0.5%)	3 (0.9%)	1 (50.0%)	10 (0.3%)			17	
患者数 計	84	1,745	474	391	320	2	3,016			4	

※1 1つの指示に対して、複数の該当要件を選択する場合も含む

※2 「カ.その他」の記述に複数の項目を含む場合には、それぞれの項目について分類し、内訳に計上する。

表 130 6月に精神病床で隔離指示が解除された患者の、当該エピソードにおける隔離期間の内訳（該当要件別、令和元年と平成26年の比較）②令和元年

隔離該当要件の内訳※1	令和元年											中央値 (日)
	隔離指示が出されていた各期間に該当するエピソード件数 ( )内は各期間の内訳 (%)											
	1日のみ	2日以上 1週間未満	1週間以上 2週間未満	2週間以上 1か月未満	1か月以上	不明	合計					
ア.他の患者との人間関係を著しく損なうおそれがある等、その言動が患者の病状の経過や予後に著しく悪く影響する場合	20 (22.7%)	250 (13.7%)	132 (29.7%)	102 (28.5%)	92 (28.9%)	0 (0.0%)	596 (19.7%)					7
イ.自殺企画又は自傷行為が切迫している場合	7 (8.0%)	140 (7.7%)	48 (10.8%)	39 (10.9%)	18 (5.7%)	0 (0.0%)	252 (8.3%)					5
ウ.他の患者に対する暴力行為や著しい迷惑行為、器物破損行為が認められ、他の方法ではこれを防ぎきれない場合	19 (21.6%)	378 (20.7%)	100 (22.5%)	85 (23.7%)	91 (28.6%)	0 (0.0%)	673 (22.2%)					3
エ.急性精神運動興奮等のため、不穏、多動、爆発性などが目立ち、一般の精神病室では医療又は保護を図ることが著しく困難な場合	36 (40.9%)	1,110 (60.9%)	232 (52.1%)	188 (52.5%)	145 (45.6%)	1 (100.0%)	1,712 (56.4%)					2
オ.身体的合併症を有する患者について、検査及び処置等のため、隔離が必要な場合	7 (8.0%)	49 (2.7%)	16 (3.6%)	10 (2.8%)	10 (3.1%)	0 (0.0%)	92 (3.0%)					4
カ.その他 ※2	9 (10.2%)	119 (6.5%)	13 (2.9%)	11 (3.1%)	21 (6.6%)	0 (0.0%)	173 (5.7%)					2
水中毒	8 (9.1%)	44 (2.4%)	0 (0.0%)	1 (0.3%)	5 (1.6%)	0 (0.0%)	58 (1.9%)					2
転倒転落	0 (0.0%)	3 (0.2%)	2 (0.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	5 (0.2%)					6
自己抜去	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)					-
身体管理系（身体管理・合併安静保持・検査処置等）	0 (0.0%)	29 (1.6%)	2 (0.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	31 (1.0%)					2
その他：精神症状に起因する	1 (1.1%)	13 (0.7%)	7 (1.6%)	4 (1.1%)	8 (2.5%)	0 (0.0%)	33 (1.1%)					9
その他：それ以外に起因する	0 (0.0%)	4 (0.2%)	2 (0.4%)	6 (1.7%)	7 (2.2%)	0 (0.0%)	19 (0.6%)					23
記述内容不明	0 (0.0%)	28 (1.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.3%)	0 (0.0%)	29 (1.0%)					2
不明	1 (1.1%)	1 (0.1%)	1 (0.2%)	1 (0.3%)	3 (0.9%)	0 (0.0%)	7 (0.2%)					14
患者数 計	88	1,823	445	358	318	1	3,033					3

※1 1つの指示に対して、複数の該当要件を選択する場合も含む

※2 「カ.その他」の記述に複数の項目を含む場合には、それぞれの項目について分類し、内訳に計上する。



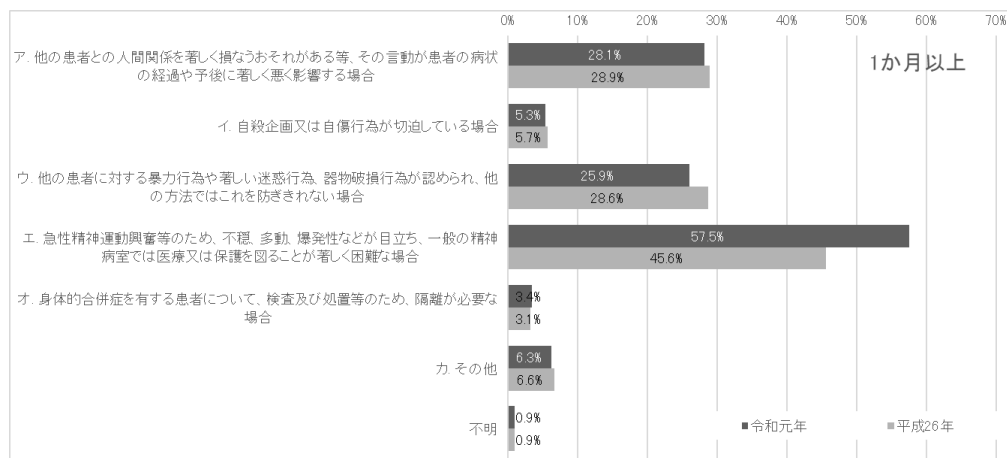
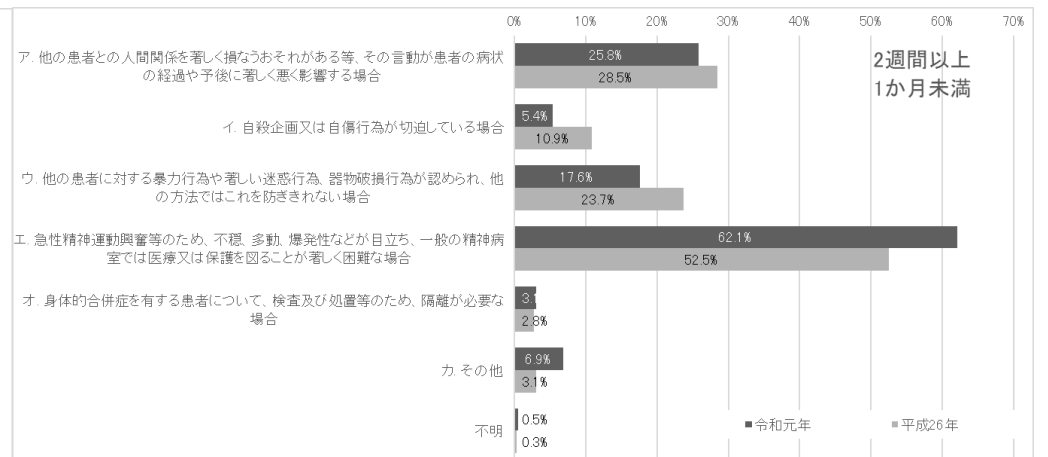
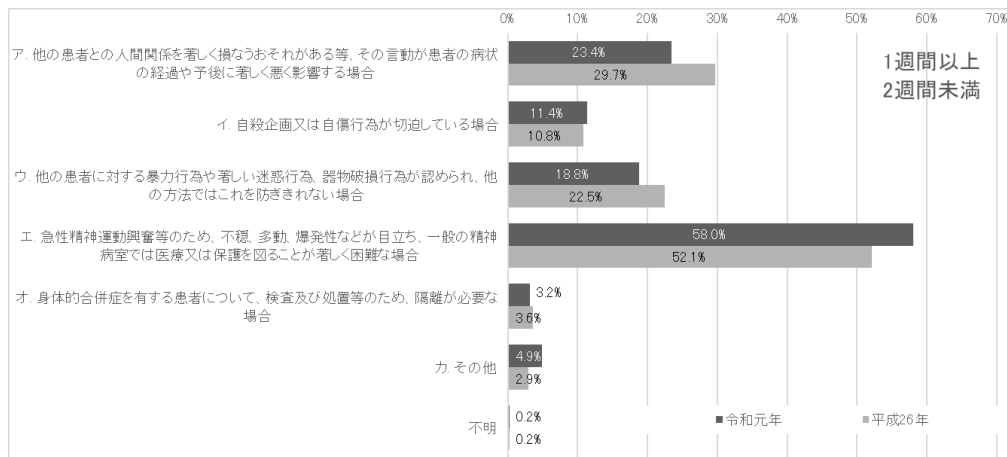
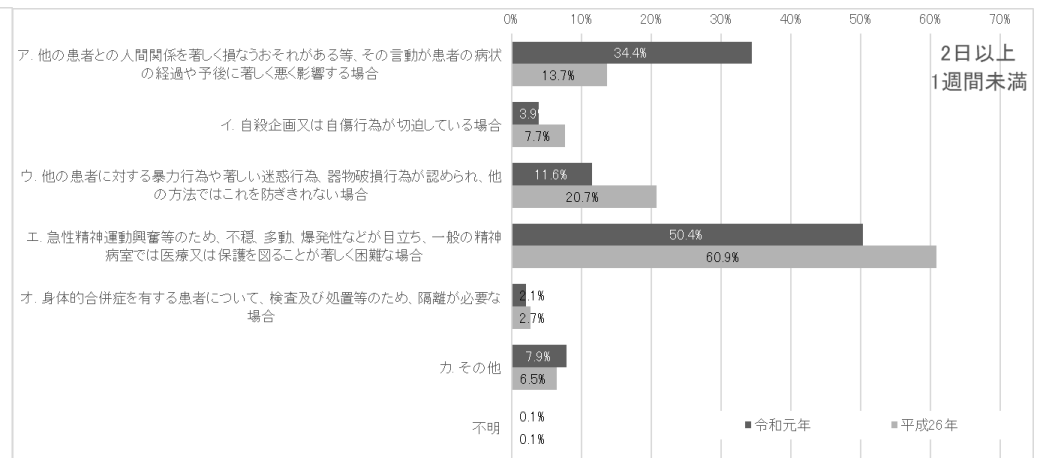
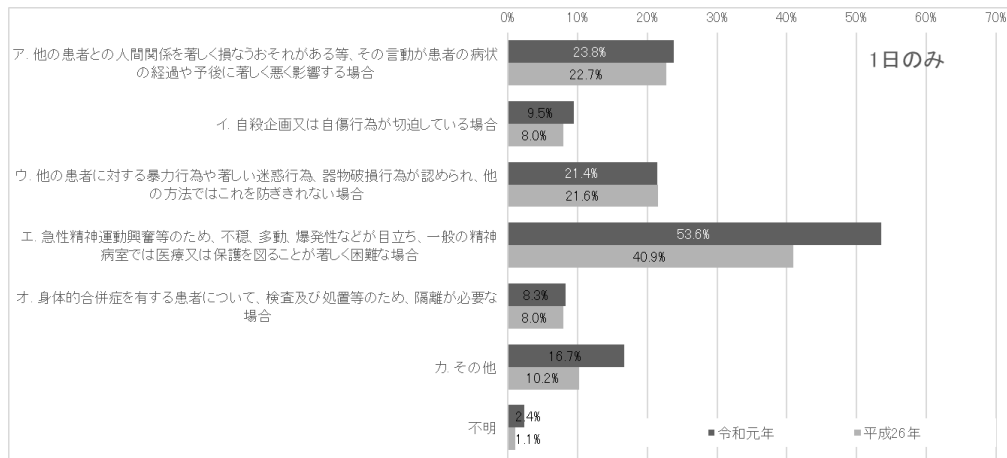


図 46 6月に精神病床で隔離指示が解除された患者の、当該エピソードにおける該当要件の内訳の推移（隔離期間別、令和元年と平成26年の比較）

表 131 6月に精神病床で身体的拘束指示が解除された患者の、当該エピソードにおける拘束期間の内訳（該当要件別、令和元年と平成21年の比較）①平成21年

身体的拘束該当要件の内訳※1	平成21年								中央値 (日)
	身体的拘束指示が出されていた各期間に該当するエピソード件数 ( )内は各期間の内訳 (%)								
	1日のみ	2日以上 1週間未満	1週間以上 2週間未満	2週間以上 1か月未満	1か月以上	不明	合計		
ア.自殺企画又は自傷行為が著しく切迫している場合	1 (3.7%)	3 (4.1%)	1 (5.0%)	0 (0.0%)	1 (4.0%)	0 -	6 (3.6%)	3	
イ.多動又は不穏が顕著である場合	6 (22.2%)	27 (37.0%)	8 (40.0%)	12 (57.1%)	11 (44.0%)	0 -	64 (38.6%)	6	
ウ.ア又はイのほか精神障害のために、そのまま放置すれば患者の生命にまで危険が及ぶおそれがある場合	3 (11.1%)	21 (28.8%)	3 (15.0%)	3 (14.3%)	4 (16.0%)	0 -	34 (20.5%)	2	
エ.その他 ※2	5 (18.5%)	26 (35.6%)	7 (35.0%)	9 (42.9%)	11 (44.0%)	0 -	58 (34.9%)	6	
水中毒	0 (0.0%)	2 (2.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (4.0%)	0 -	3 (1.8%)	5	
転倒転落	1 (3.7%)	8 (11.0%)	3 (15.0%)	2 (9.5%)	3 (12.0%)	0 -	17 (10.2%)	5	
自己抜去	0 (0.0%)	3 (4.1%)	1 (5.0%)	1 (4.8%)	1 (4.0%)	0 -	6 (3.6%)	7	
身体管理系 (身体管理・合併安静保持・検査処置等)	3 (11.1%)	14 (19.2%)	4 (20.0%)	6 (28.6%)	5 (20.0%)	0 -	32 (19.3%)	6	
その他：精神症状に起因する	0 (0.0%)	1 (1.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	1 (0.6%)	5	
その他：それ以外に起因する	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (4.0%)	0 -	1 (0.6%)	47	
記述内容不明	1 (3.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	1 (0.6%)	1	
不明	15 (55.6%)	5 (6.8%)	2 (10.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	22 (13.3%)	1	
患者数 計	27	73	20	21	25	0	166	4	

※1 1つの指示に対して、複数の該当要件を選択する場合も含む

※2 「エ.その他」の記述に複数の項目を含む場合には、それぞれの項目について分類し、内訳に計上する。

表 132 6月に精神病床で身体的拘束指示が解除された患者の、当該エピソードにおける拘束期間の内訳（該当要件別、令和元年と平成21年の比較）②令和元年

身体的拘束該当要件の内訳※1	令和元年								
	身体的拘束指示が出されていた各期間に該当するエピソード件数（）内は各期間の内訳（％）								中央値 （日）
	1日のみ	2日以上 1週間未満	1週間以上 2週間未満	2週間以上 1か月未満	1か月以上	不明	合計		
ア.自殺企画又は自傷行為が著しく切迫している場合	1 (12.5%)	15 (22.1%)	2 (7.7%)	2 (10.5%)	1 (7.1%)	0 -	21 (15.6%)	4	
イ.多動又は不穏が顕著である場合	7 (87.5%)	40 (58.8%)	14 (53.8%)	14 (73.7%)	8 (57.1%)	0 -	83 (61.5%)	5	
ウ.ア又はイのほか精神障害のために、そのまま放置すれば患者の生命にまで危険が及ぶおそれがある場合	1 (12.5%)	7 (10.3%)	7 (26.9%)	4 (21.1%)	2 (14.3%)	0 -	21 (15.6%)	8	
エ.その他 ※2	2 (25.0%)	14 (20.6%)	9 (34.6%)	3 (15.8%)	4 (28.6%)	0 -	32 (23.7%)	7	
水中毒	0 (0.0%)	1 (1.5%)	1 (3.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	2 (1.5%)	5	
転倒転落	0 (0.0%)	3 (4.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (7.1%)	0 -	4 (3.0%)	6	
自己抜去	0 (0.0%)	2 (2.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	2 (1.5%)	4	
身体管理系（身体管理・合併安静保持・検査処置等）	1 (12.5%)	8 (11.8%)	9 (34.6%)	2 (10.5%)	3 (21.4%)	0 -	23 (17.0%)	7	
その他：精神症状に起因する	0 (0.0%)	4 (5.9%)	0 (0.0%)	1 (5.3%)	1 (7.1%)	0 -	6 (4.4%)	6	
その他：それ以外に起因する	0 (0.0%)	1 (1.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	1 (0.7%)	6	
記述内容不明	1 (12.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	1 (0.7%)	1	
不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 -	0 (0.0%)	-	
患者数 計	8	68	26	19	14	0	135	5	

※1 1つの指示に対して、複数の該当要件を選択する場合も含む

※2 「エ.その他」の記述に複数の項目を含む場合には、それぞれの項目について分類し、内訳に計上する。

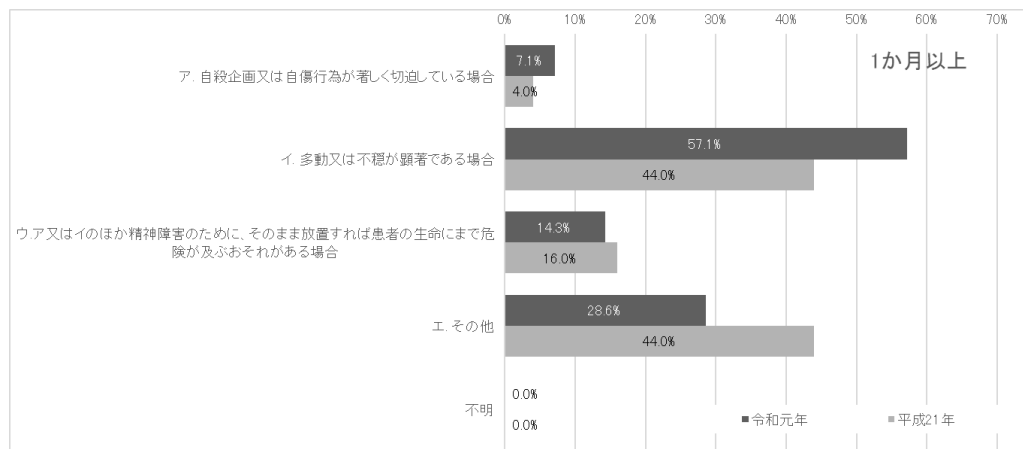
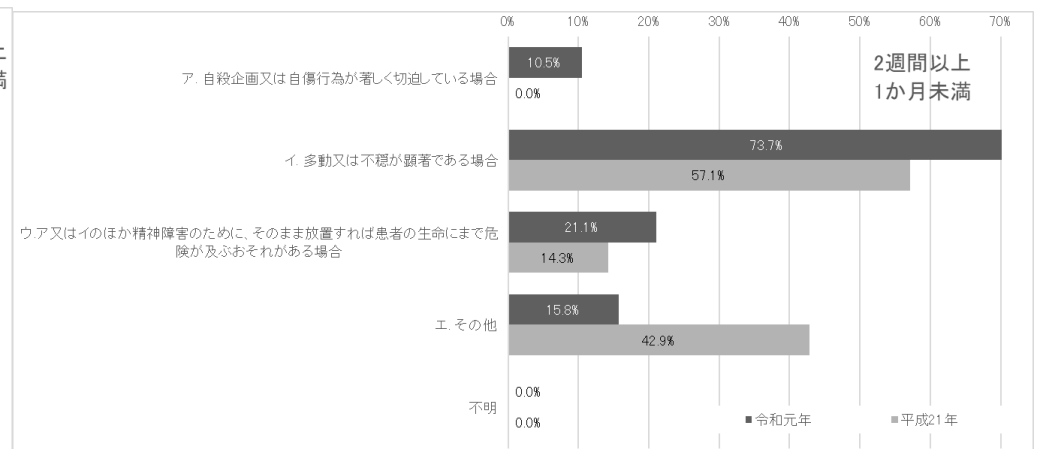
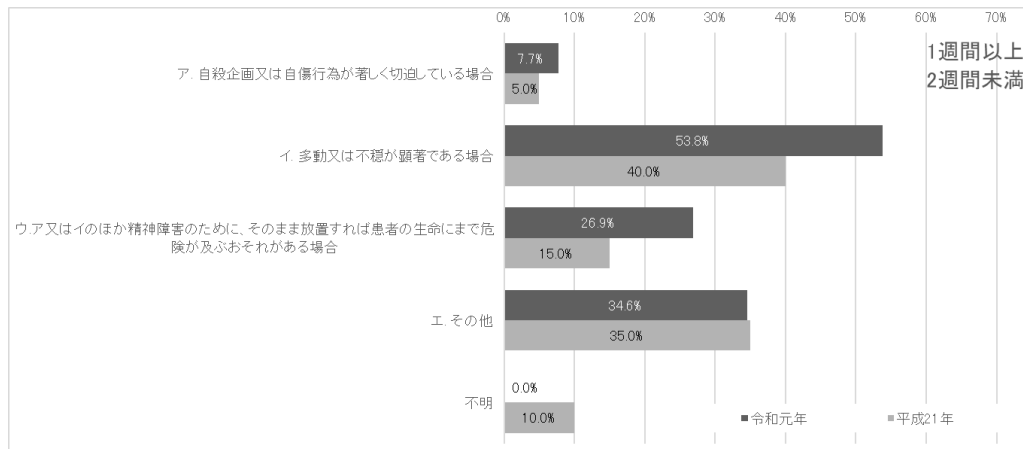
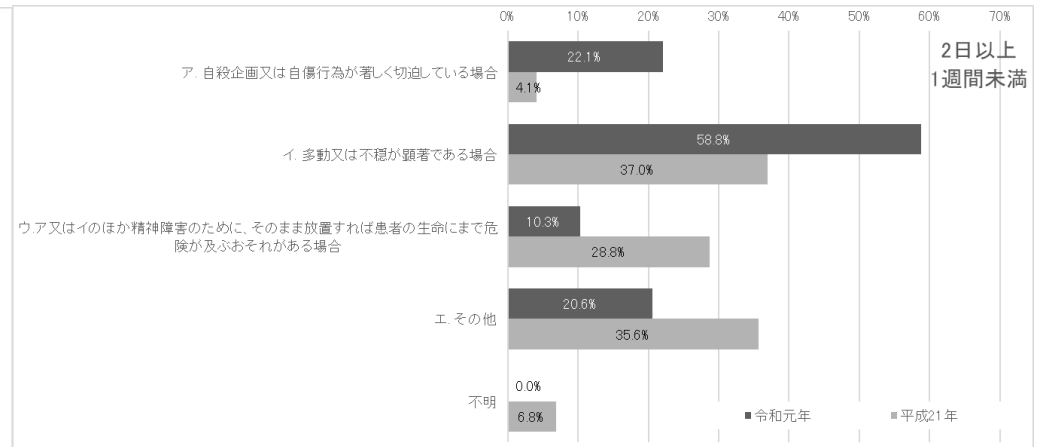
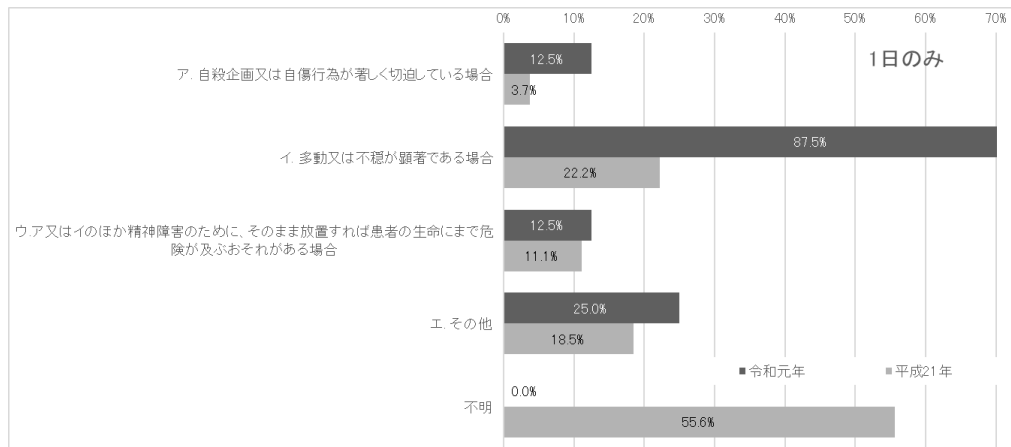


図 47 6月に精神病床で身体的拘束指示が解除された患者の、当該エピソードにおける該当要件の内訳の推移（身体的拘束期間別、令和元年と平成21年の比較）

表 133 6月に精神病床で身体的拘束指示が解除された患者の、当該エピソードにおける拘束期間の内訳（該当要件別、令和元年と平成26年の比較）①平成26年

身体的拘束該当要件の内訳※1	平成26年								中央値 (日)
	身体的拘束指示が出されていた各期間に該当するエピソード件数 ( )内は各期間の内訳 (%)							合計	
	1日のみ	2日以上 1週間未満	1週間以上 2週間未満	2週間以上 1か月未満	1か月以上	不明			
ア.自殺企画又は自傷行為が著しく切迫している場合	7 (6.8%)	50 (4.9%)	23 (12.5%)	8 (4.9%)	13 (7.1%)	0 (0.0%)	101 (6.1%)	5	
イ.多動又は不穏が顕著である場合	67 (65.0%)	701 (68.2%)	128 (69.6%)	110 (67.1%)	123 (67.6%)	1 (33.3%)	1,130 (67.9%)	2	
ウ.ア又はイのほか精神障害のために、そのまま放置すれば患者の生命にまで危険が及ぶおそれがある場合	13 (12.6%)	135 (13.1%)	35 (19.0%)	26 (15.9%)	26 (14.3%)	0 (0.0%)	235 (14.1%)	3	
エ.その他 ※2	33 (32.0%)	218 (21.2%)	28 (15.2%)	34 (20.7%)	45 (24.7%)	0 (0.0%)	358 (21.5%)	2	
水中毒	0 (0.0%)	18 (1.8%)	2 (1.1%)	0 (0.0%)	2 (1.1%)	0 (0.0%)	22 (1.3%)	2	
転倒転落	3 (2.9%)	76 (7.4%)	7 (3.8%)	5 (3.0%)	20 (11.0%)	0 (0.0%)	111 (6.7%)	2	
自己抜去	7 (6.8%)	48 (4.7%)	5 (2.7%)	5 (3.0%)	8 (4.4%)	0 (0.0%)	73 (4.4%)	2	
身体管理系（身体管理・合併安静保持・検査処置等）	23 (22.3%)	30 (2.9%)	13 (7.1%)	15 (9.1%)	10 (5.5%)	0 (0.0%)	91 (5.5%)	5	
その他：精神症状に起因する	8 (7.8%)	19 (1.8%)	3 (1.6%)	8 (4.9%)	8 (4.4%)	0 (0.0%)	46 (2.8%)	3	
その他：それ以外に起因する	0 (0.0%)	1 (0.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.1%)	2	
記述内容不明	0 (0.0%)	62 (6.0%)	1 (0.5%)	1 (0.6%)	3 (1.6%)	0 (0.0%)	67 (4.0%)	2	
不明	0 (0.0%)	1 (0.1%)	2 (1.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (66.7%)	5 (0.3%)	7	
患者数 計	103	1,028	184	164	182	3	1,664	2	

※1 1つの指示に対して、複数の該当要件を選択する場合も含む

※2 「エ.その他」の記述に複数の項目を含む場合には、それぞれの項目について分類し、内訳に計上する。

表 134 6月に精神病床で身体的拘束指示が解除された患者の、当該エピソードにおける拘束期間の内訳（該当要件別、令和元年と平成26年の比較）②令和元年

身体的拘束該当要件の内訳※1	令和元年								
	身体的拘束指示が出されていた各期間に該当するエピソード件数（）内は各期間の内訳（%）								中央値 （日）
	1日のみ	2日以上 1週間未満	1週間以上 2週間未満	2週間以上 1か月未満	1か月以上	不明	合計		
ア.自殺企画又は自傷行為が著しく切迫している場合	5 (4.8%)	99 (10.3%)	11 (6.4%)	17 (11.2%)	4 (2.2%)	-	-	136 (8.7%)	2
イ.多動又は不穏が顕著である場合	47 (45.2%)	599 (62.6%)	106 (61.6%)	96 (63.2%)	117 (65.0%)	-	-	965 (61.7%)	2
ウ.ア又はイのほか精神障害のために、そのまま放置すれば患者の生命にまで危険が及ぶおそれがある場合	17 (16.3%)	135 (14.1%)	36 (20.9%)	33 (21.7%)	25 (13.9%)	-	-	246 (15.7%)	4
エ.その他 ※2	51 (49.0%)	288 (30.1%)	41 (23.8%)	29 (19.1%)	61 (33.9%)	-	-	470 (30.0%)	2
水中毒	0 (0.0%)	2 (0.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	-	-	2 (0.1%)	3
転倒転落	2 (1.9%)	65 (6.8%)	12 (7.0%)	12 (7.9%)	36 (20.0%)	-	-	127 (8.1%)	3
自己抜去	4 (3.8%)	29 (3.0%)	8 (4.7%)	5 (3.3%)	10 (5.6%)	-	-	56 (3.6%)	4
身体管理系（身体管理・合併安静保持・検査処置等）	12 (11.5%)	45 (4.7%)	14 (8.1%)	14 (9.2%)	9 (5.0%)	-	-	94 (6.0%)	4
その他：精神症状に起因する	32 (30.8%)	68 (7.1%)	9 (5.2%)	2 (1.3%)	7 (3.9%)	-	-	118 (7.5%)	2
その他：それ以外に起因する	2 (1.9%)	6 (0.6%)	4 (2.3%)	1 (0.7%)	0 (0.0%)	-	-	13 (0.8%)	2
記述内容不明	1 (1.0%)	91 (9.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (1.7%)	-	-	95 (6.1%)	2
不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.6%)	-	-	1 (0.1%)	104
患者数 計	104	957	172	152	180	-	-	1,565	5

※1 1つの指示に対して、複数の該当要件を選択する場合も含む

※2 「エ.その他」の記述に複数の項目を含む場合には、それぞれの項目について分類し、内訳に計上する。

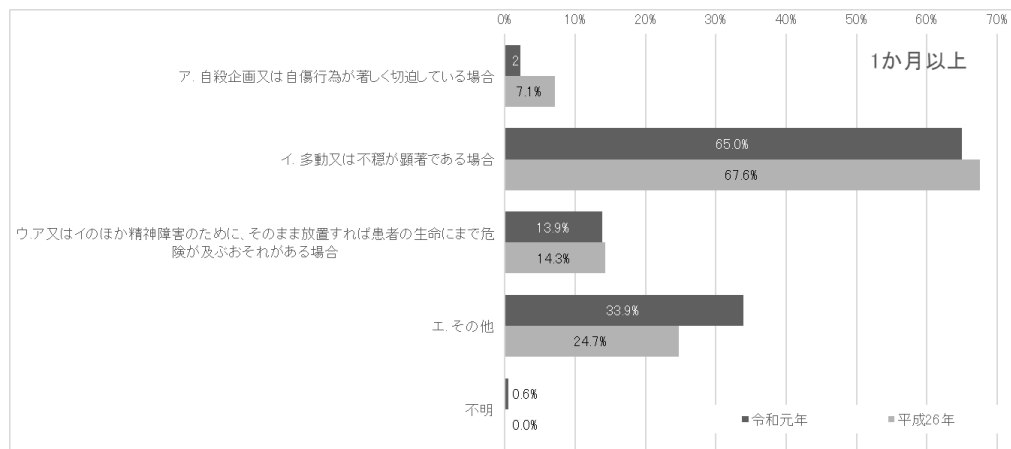
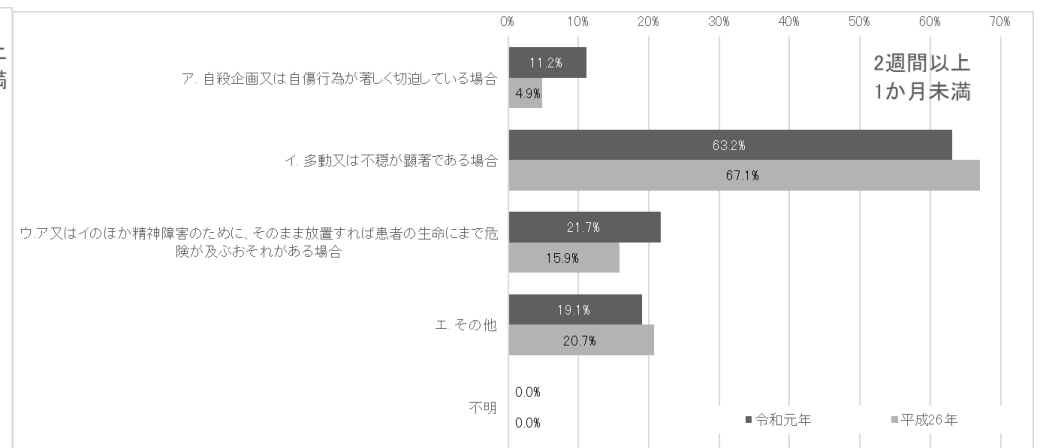
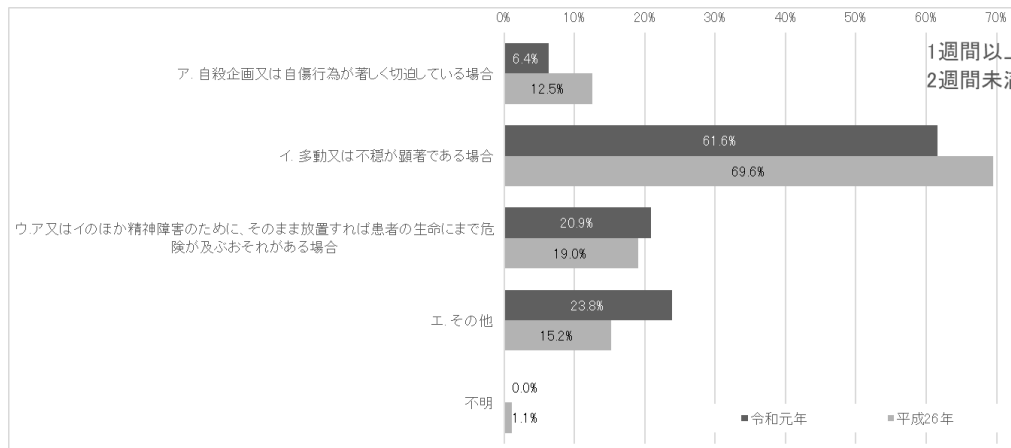
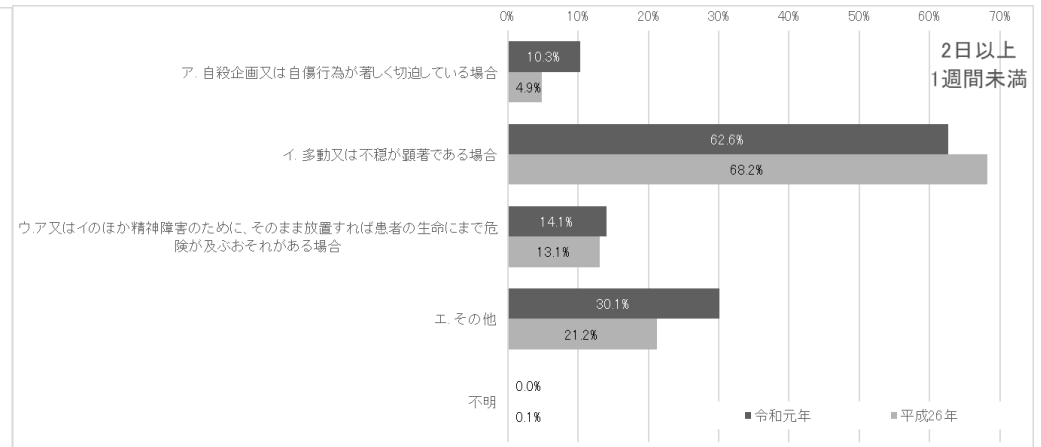
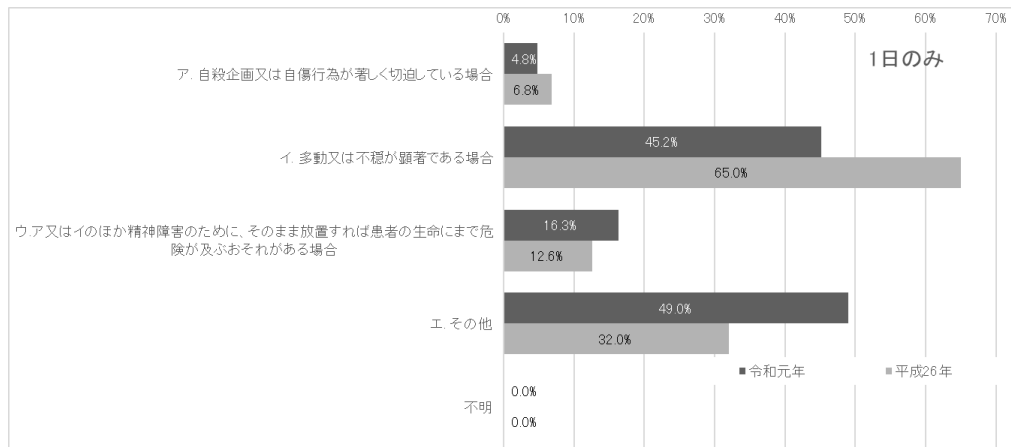


図 48 6月に精神病床で身体的拘束指示が解除された患者の、当該エピソードにおける該当要件の内訳の推移（身体的拘束期間別、令和元年と平成26年の比較）

## 付録 2

調査票 1～3: 医療機関機能別にみた  
行動制限に関する図表



## □掲載表の一覧

表番号		集計項目
表 1(調査 1)	表 3(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>指示</b> 患者数と病棟の開放区分別比率
表 2(調査 1)	表 4(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>指示</b> 患者の在院患者に占める割合（病棟の開放区分別）
表 5(調査 1)	表 7(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>実施</b> 患者数と病棟の開放区分別比率
表 6(調査 1)	表 8(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>実施</b> 患者の在院患者に占める割合（病棟の開放区分別）
表 9(調査 1)	表 11(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>指示</b> 患者数と応急入院の有無別比率
表 10(調査 1)	表 12(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>指示</b> 患者の在院患者に占める割合（応急入院の有無別）
表 13(調査 1)	表 15(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>実施</b> 患者数と応急入院の有無別比率
表 14(調査 1)	表 16(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>実施</b> 患者の在院患者に占める割合（応急入院の有無別）
表 17(調査 1)	表 19(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>指示</b> 患者数と精神科医師数の区分別比率
表 18(調査 1)	表 20(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>指示</b> 患者の在院患者に占める割合（精神科医師数の区分別）
表 21(調査 1)	表 23(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>実施</b> 患者数と精神科医師数の区分別比率
表 22(調査 1)	表 24(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>実施</b> 患者の在院患者に占める割合（精神科医師数の区分別）
表 25(調査 1)	表 27(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>指示</b> 患者数と精神科医師 1 人当たりの平均受け持ち患者数の区分別比率
表 26(調査 1)	表 28(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>指示</b> 患者の在院患者に占める割合（精神科医師 1 人当たりの平均受け持ち患者数の区分別）
表 29(調査 1)	表 31(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>実施</b> 患者数と精神科医師 1 人当たりの平均受け持ち患者数の区分別比率
表 30(調査 1)	表 32(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>実施</b> 患者の在院患者に占める割合（精神科医師 1 人当たりの平均受け持ち患者数の区分別）
表 33(調査 1)	表 35(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>指示</b> 患者数と精神保健指定医数(常勤、非常勤の合計)の区分別比率
表 34(調査 1)	表 36(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>指示</b> 患者の在院患者に占める割合（精神保健指定医数(常勤、非常勤の合計)の区分別）
表 37(調査 1)	表 39(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>実施</b> 患者数と精神保健指定医数(常勤、非常勤の合計)の区分別比率
表 38(調査 1)	表 40(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>実施</b> 患者の在院患者に占める割合（精神保健指定医数(常勤、非常勤の合計)の区分別）
表 41(調査 1)	表 43(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>指示</b> 患者数と精神保健指定医 1 人当たりの平均受け持ち患者数の区分別比率
表 42(調査 1)	表 44(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>指示</b> 患者の在院患者に占める割合（精神保健指定医 1 人当たりの平均受け持ち患者数の区分別）
表 45(調査 1)	表 47(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>実施</b> 患者数と精神保健指定医 1 人当たりの平均受け持ち患者数の区分別比率
表 46(調査 1)	表 48(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>実施</b> 患者の在院患者に占める割合（精神保健指定医 1 人当たりの平均受け持ち患者数の区分別）
表 49(調査 1)	表 51(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>指示</b> 患者数と 6 月 30 日の看護職員数（0 時）の区分別比率

表番号	集計項目
表 50(調査 1) 表 52(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>指示</b> 患者の在院患者に占める割合（6月30日の看護職員数（0時）の区分別）
表 53(調査 1) 表 55(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>実施</b> 患者数と6月30日の看護職員数（0時）の区分別比率
表 54(調査 1) 表 56(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>実施</b> 患者の在院患者に占める割合（6月30日の看護職員数（0時）の区分別）
表 57(調査 1) 表 59(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>指示</b> 患者数と6月30日の看護職員数（12時）の区分別比率
表 58(調査 1) 表 60(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>指示</b> 患者の在院患者に占める割合（6月30日の看護職員数（12時）の区分別）
表 61(調査 1) 表 63(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>実施</b> 患者数と6月30日の看護職員数（12時）の区分別比率
表 62(調査 1) 表 64(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>実施</b> 患者の在院患者に占める割合（6月30日の看護職員数（12時）の区分別）
表 65(調査 1) 表 67(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>指示</b> 患者数と6月30日の看護職員1人当たりの受け持ち患者数（0時）の区分別比率
表 66(調査 1) 表 68(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>指示</b> 患者の在院患者に占める割合（6月30日の看護職員1人当たりの受け持ち患者数（0時）の区分別）
表 69(調査 1) 表 71(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>実施</b> 患者数と6月30日の看護職員1人当たりの受け持ち患者数（0時）の区分別比率
表 70(調査 1) 表 72(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>実施</b> 患者の在院患者に占める割合（6月30日の看護職員1人当たりの受け持ち患者数（0時）の区分別）
表 73(調査 1) 表 75(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>指示</b> 患者数と6月30日の看護職員1人当たりの受け持ち患者数（12時）の区分別比率
表 74(調査 1) 表 76(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>指示</b> 患者の在院患者に占める割合（6月30日の看護職員1人当たりの受け持ち患者数（12時）の区分別）
表 77(調査 1) 表 79(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>実施</b> 患者数と6月30日の看護職員1人当たりの受け持ち患者数（12時）の区分別比率
表 78(調査 1) 表 80(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>実施</b> 患者の在院患者に占める割合（6月30日の看護職員1人当たりの受け持ち患者数（12時）の区分別）
表 81(調査 1) 表 83(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>指示</b> 患者数と設立主体別比率
表 82(調査 1) 表 84(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>指示</b> 患者の在院患者に占める割合（設立主体別）
表 85(調査 1) 表 87(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>実施</b> 患者数と設立主体別比率
表 86(調査 1) 表 88(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>実施</b> 患者の在院患者に占める割合（設立主体別）
表 89(調査 1) 表 91(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>指示</b> 患者数と病院区分別比率
表 90(調査 1) 表 92(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>指示</b> 患者の在院患者に占める割合（病院区分別）
表 93(調査 1) 表 95(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>実施</b> 患者数と病院区分別比率
表 94(調査 1) 表 96(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>実施</b> 患者の在院患者に占める割合（病院区分別）
表 97(調査 1) 表 98(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>指示</b> 患者に対して、 <b>実施</b> 患者の割合（病棟の開放区分別）
表 99(調査 1) 表 100(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>指示</b> 患者に対して、 <b>実施</b> 患者の割合（応急入院の有無別）
表 101(調査 1) 表 102(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>指示</b> 患者に対して、 <b>実施</b> 患者の割合（精神科医師数の区分別）
表 103(調査 1) 表 104(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>指示</b> 患者に対して、 <b>実施</b> 患者の割合（神科医師1人当たりの平均受け持ち患者数の区分別）

表番号	集計項目
表 105(調査 1) 表 106(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>指示</b> 患者に対して、 <b>実施</b> 患者の割合（精神保健指定医数の区分別）
表 107(調査 1) 表 108(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>指示</b> 患者に対して、 <b>実施</b> 患者の割合（精神保健指定医 1 人当たりの平均受け持ち患者数の区分別）
表 109(調査 1) 表 110(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>指示</b> 患者に対して、 <b>実施</b> 患者の割合（6 月 30 日の看護職員数（0 時）の区分別）
表 111(調査 1) 表 112(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>指示</b> 患者に対して、 <b>実施</b> 患者の割合（6 月 30 日の看護職員数（12 時）の区分別）
表 113(調査 1) 表 114(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>指示</b> 患者に対して、 <b>実施</b> 患者の割合（6 月 30 日の看護職員 1 人当たりの受け持ち患者数（0 時）区分別）
表 115(調査 1) 表 116(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>指示</b> 患者に対して、 <b>実施</b> 患者の割合（6 月 30 日の看護職員 1 人当たりの受け持ち患者数（12 時）区分別）
表 117(調査 1) 表 118(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>指示</b> 患者に対して、 <b>実施</b> 患者の割合（設立主体別）
表 119(調査 1) 表 120(調査 2)	隔離・身体的拘束 <b>指示</b> 患者に対して、 <b>実施</b> 患者の割合（病院区分別）

※調査 1：平成 21 年と令和元年の組み合わせで回答した医療機関 44 施設が分析対象となる調査

※調査 2：平成 26 年と令和元年の組み合わせで回答した医療機関 188 施設が分析対象となる調査

# □掲載している主な表の概要

## ① 区分別比率の表

病棟や医療機関が該当するそれぞれの区分ごとの比率（構成比）と、その病棟や医療機関に属する患者についてもそれぞれの区分ごとの比率（構成比）

表 1 隔離・身体的拘束指示患者数と病棟の開放区分別比率（病棟の開放区分別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）

平成21年												
開放区分	病棟数		隔離指示あり			身体的拘束指示あり			隔離かつ身体的拘束指示あり		隔離身体的拘束指示なし	
	()内は開放区分比率(%)		人数(人) ()内は開放区分比率(%)			人数(人) ()内は開放区分比率(%)			人数(人) ()内は開放区分比率(%)		人数(人) ()内は開放区分比率(%)	
	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	0時	12時
夜間外開放	59 (31.2%)	2,796 (31.2%)	29 (11.4%)	29 (11.6%)	29 (11.1%)	27 (23.9%)	27 (24.3%)	27 (23.5%)	3 (20.0%)	3 (23.1%)	2,743 (31.8%)	2,743 (31.8%)
終日閉鎖	108 (57.1%)	5,116 (57.0%)	195 (76.8%)	192 (76.8%)	202 (77.4%)	73 (64.6%)	71 (64.0%)	75 (65.2%)	11 (73.3%)	9 (69.2%)	4,859 (56.4%)	4,862 (56.4%)
それ以外(不明を含む)	22 (11.6%)	1,062 (11.8%)	30 (11.8%)	29 (11.6%)	30 (11.5%)	13 (11.5%)	13 (11.7%)	13 (11.3%)	1 (6.7%)	1 (7.7%)	1,020 (11.8%)	1,021 (11.8%)
合計	189 (100.0%)	8,974 (100.0%)	254 (100.0%)	250 (100.0%)	261 (100.0%)	113 (100.0%)	111 (100.0%)	115 (100.0%)	15 (100.0%)	13 (100.0%)	8,622 (100.0%)	8,626 (100.0%)

各開放区分に該当する病棟数の区分ごとの比率（「合計」が100%）

各開放区分に該当する病棟に在院している患者の区分ごとの比率  
例) 0時に身体的拘束指示ありの患者の区分ごとの比率（「合計」が100%）

## ② 在院患者に占める割合

病棟や医療機関が該当するそれぞれの区分に在院している患者のうち、隔離・身体的拘束の指示・実施を受けている患者が、在院患者に占める割合

表 2 隔離・身体的拘束指示患者の在院患者に占める割合（病棟の開放区分別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）

例) 夜間外開放の病棟に在院している患者（2,796人）に占める、隔離指示・身体的拘束指示を各時間帯で受けている患者の割合（分母が在院患者数）

平成21年												
開放区分	病棟数	在院患者数(人)	隔離指示あり			身体的拘束指示あり			隔離かつ身体的拘束指示あり		隔離身体的拘束指示なし	
			人数(人) ()内は在院患者比率(%)			人数(人) ()内は在院患者比率(%)			人数(人) ()内は在院患者比率(%)		人数(人) ()内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
夜間外開放	59	2,796	29 (1.0%)	29 (1.0%)	29 (1.0%)	27 (1.0%)	27 (1.0%)	27 (1.0%)	3 (0.1%)	3 (0.1%)	2,743 (98.1%)	2,743 (98.1%)
終日閉鎖	108	5,116	195 (3.8%)	192 (3.8%)	202 (3.9%)	73 (1.4%)	71 (1.4%)	75 (1.5%)	11 (0.2%)	9 (0.2%)	4,859 (95.0%)	4,862 (95.0%)
それ以外(不明を含む)	22	1,062	30 (2.8%)	29 (2.7%)	30 (2.8%)	13 (1.2%)	13 (1.2%)	13 (1.2%)	1 (0.1%)	1 (0.1%)	1,020 (96.0%)	1,021 (96.1%)
合計	189	8,974	254 (2.8%)	250 (2.8%)	261 (2.9%)	113 (1.3%)	111 (1.2%)	115 (1.3%)	15 (0.2%)	13 (0.1%)	8,622 (96.1%)	8,626 (96.1%)

表 1 隔離・身体的拘束指示患者数と病棟の開放区分別比率（病棟の開放区分別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）

平成21年												
開放区分	病棟数 ()内は開放区分比率 (%)	在院患者数(人) ()内は開放区分比率 (%)	隔離指示あり 人数(人) ()内は開放区分比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は開放区分比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は開放区分比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ()内は開放区分比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
夜間外開放	59 (31.2%)	2,796 (31.2%)	29 (11.4%)	29 (11.6%)	29 (11.1%)	27 (23.9%)	27 (24.3%)	27 (23.5%)	3 (20.0%)	3 (23.1%)	2,743 (31.8%)	2,743 (31.8%)
終日閉鎖	108 (57.1%)	5,116 (57.0%)	195 (76.8%)	192 (76.8%)	202 (77.4%)	73 (64.6%)	71 (64.0%)	75 (65.2%)	11 (73.3%)	9 (69.2%)	4,859 (56.4%)	4,862 (56.4%)
それ以外(不明を含む)	22 (11.6%)	1,062 (11.8%)	30 (11.8%)	29 (11.6%)	30 (11.5%)	13 (11.5%)	13 (11.7%)	13 (11.3%)	1 (6.7%)	1 (7.7%)	1,020 (11.8%)	1,021 (11.8%)
合計	189 (100.0%)	8,974 (100.0%)	254 (100.0%)	250 (100.0%)	261 (100.0%)	113 (100.0%)	111 (100.0%)	115 (100.0%)	15 (100.0%)	13 (100.0%)	8,622 (100.0%)	8,626 (100.0%)

令和元年												
開放区分	病棟数 ()内は開放区分比率 (%)	在院患者数(人) ()内は開放区分比率 (%)	隔離指示あり 人数(人) ()内は開放区分比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は開放区分比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は開放区分比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ()内は開放区分比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
夜間外開放	47 (25.8%)	2,008 (25.0%)	47 (14.6%)	48 (15.0%)	48 (14.9%)	25 (17.6%)	24 (17.0%)	25 (17.6%)	2 (6.7%)	2 (6.7%)	1,938 (25.5%)	1,938 (25.5%)
終日閉鎖	121 (66.5%)	5,432 (67.6%)	251 (78.2%)	250 (77.9%)	252 (78.0%)	109 (76.8%)	109 (77.3%)	109 (76.8%)	28 (93.3%)	28 (93.3%)	5,100 (67.1%)	5,101 (67.1%)
それ以外(不明を含む)	14 (7.7%)	594 (7.4%)	23 (7.2%)	23 (7.2%)	23 (7.1%)	8 (5.6%)	8 (5.7%)	8 (5.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	563 (7.4%)	563 (7.4%)
合計	182 (100.0%)	8,034 (100.0%)	321 (100.0%)	321 (100.0%)	323 (100.0%)	142 (100.0%)	141 (100.0%)	142 (100.0%)	30 (100.0%)	30 (100.0%)	7,601 (100.0%)	7,602 (100.0%)

表 2 隔離・身体的拘束指示患者の在院患者に占める割合（病棟の開放区分別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）

平成21年												
開放区分	病棟数	在院患者数 (人)	隔離指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
夜間外開放	59	2,796	29 (1.0%)	29 (1.0%)	29 (1.0%)	27 (1.0%)	27 (1.0%)	27 (1.0%)	3 (0.1%)	3 (0.1%)	2,743 (98.1%)	2,743 (98.1%)
終日閉鎖	108	5,116	195 (3.8%)	192 (3.8%)	202 (3.9%)	73 (1.4%)	71 (1.4%)	75 (1.5%)	11 (0.2%)	9 (0.2%)	4,859 (95.0%)	4,862 (95.0%)
それ以外(不明を含む)	22	1,062	30 (2.8%)	29 (2.7%)	30 (2.8%)	13 (1.2%)	13 (1.2%)	13 (1.2%)	1 (0.1%)	1 (0.1%)	1,020 (96.0%)	1,021 (96.1%)
合計	189	8,974	254 (2.8%)	250 (2.8%)	261 (2.9%)	113 (1.3%)	111 (1.2%)	115 (1.3%)	15 (0.2%)	13 (0.1%)	8,622 (96.1%)	8,626 (96.1%)

令和元年												
開放区分	病棟数	在院患者数 (人)	隔離指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
夜間外開放	47	2,008	47 (2.3%)	48 (2.4%)	48 (2.4%)	25 (1.2%)	24 (1.2%)	25 (1.2%)	2 (0.1%)	2 (0.1%)	1,938 (96.5%)	1,938 (96.5%)
終日閉鎖	121	5,432	251 (4.6%)	250 (4.6%)	252 (4.6%)	109 (2.0%)	109 (2.0%)	109 (2.0%)	28 (0.5%)	28 (0.5%)	5,100 (93.9%)	5,101 (93.9%)
それ以外(不明を含む)	14	594	23 (3.9%)	23 (3.9%)	23 (3.9%)	8 (1.3%)	8 (1.3%)	8 (1.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	563 (94.8%)	563 (94.8%)
合計	182	8,034	321 (4.0%)	321 (4.0%)	323 (4.0%)	142 (1.8%)	141 (1.8%)	142 (1.8%)	30 (0.4%)	30 (0.4%)	7,601 (94.6%)	7,602 (94.6%)

表 3 隔離・身体的拘束指示患者数と病棟の開放区分別比率（病棟の開放区分別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）

平成26年												
開放区分	病棟数 ( )内は開放区分比率(%)	在院患者数(人) ( )内は開放区分比率(%)	隔離指示あり 人数(人) ( )内は開放区分比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は開放区分比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は開放区分比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ( )内は開放区分比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			夜間外開放	180 (23.8%)	8,377 (24.3%)	92 (5.6%)	88 (5.6%)	92 (5.5%)	119 (9.7%)	118 (10.0%)	121 (9.7%)	18 (9.2%)
終日閉鎖	532 (70.5%)	24,671 (71.5%)	1,499 (91.2%)	1,445 (91.2%)	1,539 (91.4%)	1,074 (87.8%)	1,040 (87.8%)	1,091 (87.8%)	175 (89.3%)	172 (89.6%)	22,273 (70.0%)	22,358 (70.0%)
それ以外(不明を含む)	43 (5.7%)	1,456 (4.2%)	53 (3.2%)	52 (3.3%)	53 (3.1%)	30 (2.5%)	26 (2.2%)	30 (2.4%)	3 (1.5%)	2 (1.0%)	1,376 (4.3%)	1,380 (4.3%)
合計	755 (100.0%)	34,504 (100.0%)	1,644 (100.0%)	1,585 (100.0%)	1,684 (100.0%)	1,223 (100.0%)	1,184 (100.0%)	1,242 (100.0%)	196 (100.0%)	192 (100.0%)	31,833 (100.0%)	31,927 (100.0%)

令和元年												
開放区分	病棟数 ( )内は開放区分比率(%)	在院患者数(人) ( )内は開放区分比率(%)	隔離指示あり 人数(人) ( )内は開放区分比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は開放区分比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は開放区分比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ( )内は開放区分比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			夜間外開放	152 (20.5%)	6,754 (20.5%)	87 (5.0%)	87 (5.0%)	89 (5.0%)	88 (8.5%)	86 (8.5%)	88 (8.3%)	15 (8.1%)
終日閉鎖	554 (74.8%)	25,181 (76.5%)	1,629 (93.2%)	1,607 (93.2%)	1,655 (93.2%)	943 (90.6%)	920 (90.6%)	965 (90.8%)	169 (90.9%)	170 (91.4%)	22,778 (75.2%)	22,824 (75.2%)
それ以外(不明を含む)	35 (4.7%)	968 (2.9%)	32 (1.8%)	31 (1.8%)	32 (1.8%)	10 (1.0%)	9 (0.9%)	10 (0.9%)	2 (1.1%)	2 (1.1%)	928 (3.1%)	930 (3.1%)
合計	741 (100.0%)	32,903 (100.0%)	1,748 (100.0%)	1,725 (100.0%)	1,776 (100.0%)	1,041 (100.0%)	1,015 (100.0%)	1,063 (100.0%)	186 (100.0%)	186 (100.0%)	30,300 (100.0%)	30,349 (100.0%)

表 4 隔離・身体的拘束指示患者の在院患者に占める割合（病棟の開放区分別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）

平成26年												
開放区分	病棟数	在院患者数 (人)	隔離指示あり 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			夜間外開放	180	8,377	92 (1.1%)	88 (1.1%)	92 (1.1%)	119 (1.4%)	118 (1.4%)	121 (1.4%)	18 (0.2%)
終日閉鎖	532	24,671	1,499 (6.1%)	1,445 (5.9%)	1,539 (6.2%)	1,074 (4.4%)	1,040 (4.2%)	1,091 (4.4%)	175 (0.7%)	172 (0.7%)	22,273 (90.3%)	22,358 (90.6%)
それ以外(不明を含む)	43	1,456	53 (3.6%)	52 (3.6%)	53 (3.6%)	30 (2.1%)	26 (1.8%)	30 (2.1%)	3 (0.2%)	2 (0.1%)	1,376 (94.5%)	1,380 (94.8%)
合計	755	34,504	1,644 (4.8%)	1,585 (4.6%)	1,684 (4.9%)	1,223 (3.5%)	1,184 (3.4%)	1,242 (3.6%)	196 (0.6%)	192 (0.6%)	31,833 (92.3%)	31,927 (92.5%)

令和元年												
開放区分	病棟数	在院患者数 (人)	隔離指示あり 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			夜間外開放	152	6,754	87 (1.3%)	87 (1.3%)	89 (1.3%)	88 (1.3%)	86 (1.3%)	88 (1.3%)	15 (0.2%)
終日閉鎖	554	25,181	1,629 (6.5%)	1,607 (6.4%)	1,655 (6.6%)	943 (3.7%)	920 (3.7%)	965 (3.8%)	169 (0.7%)	170 (0.7%)	22,778 (90.5%)	22,824 (90.6%)
それ以外(不明を含む)	35	968	32 (3.3%)	31 (3.2%)	32 (3.3%)	10 (1.0%)	9 (0.9%)	10 (1.0%)	2 (0.2%)	2 (0.2%)	928 (95.9%)	930 (96.1%)
合計	741	32,903	1,748 (5.3%)	1,725 (5.2%)	1,776 (5.4%)	1,041 (3.2%)	1,015 (3.1%)	1,063 (3.2%)	186 (0.6%)	186 (0.6%)	30,300 (92.1%)	30,349 (92.2%)

表 5 隔離・身体的拘束実施患者数と病棟の開放区分別比率（病棟の開放区分別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）

平成21年												
開放区分	病棟数 ()内は開放区分比率 (%)	在院患者数(人) ()内は開放区分比率 (%)	隔離実施あり 人数(人) ()内は開放区分比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は開放区分比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は開放区分比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ()内は開放区分比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
夜間外開放	59 (31.2%)	2,796 (31.2%)	28 (12.6%)	23 (13.8%)	28 (12.2%)	16 (18.2%)	22 (30.6%)	26 (25.5%)	3 (30.0%)	2 (28.6%)	2,755 (31.8%)	2,753 (31.5%)
終日閉鎖	108 (57.1%)	5,116 (57.0%)	171 (77.0%)	130 (77.8%)	178 (77.7%)	64 (72.7%)	43 (59.7%)	68 (66.7%)	6 (60.0%)	4 (57.1%)	4,887 (56.3%)	4,947 (56.6%)
それ以外(不明を含む)	22 (11.6%)	1,062 (11.8%)	23 (10.4%)	14 (8.4%)	23 (10.0%)	8 (9.1%)	7 (9.7%)	8 (7.8%)	1 (10.0%)	1 (14.3%)	1,032 (11.9%)	1,042 (11.9%)
合計	189 (100.0%)	8,974 (100.0%)	222 (100.0%)	167 (100.0%)	229 (100.0%)	88 (100.0%)	72 (100.0%)	102 (100.0%)	10 (100.0%)	7 (100.0%)	8,674 (100.0%)	8,742 (100.0%)

令和元年												
開放区分	病棟数 ()内は開放区分比率 (%)	在院患者数(人) ()内は開放区分比率 (%)	隔離実施あり 人数(人) ()内は開放区分比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は開放区分比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は開放区分比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ()内は開放区分比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
夜間外開放	47 (25.8%)	2,008 (25.0%)	38 (13.9%)	37 (16.2%)	42 (15.1%)	25 (21.6%)	15 (21.7%)	25 (21.2%)	2 (13.3%)	2 (18.2%)	1,947 (25.4%)	1,958 (25.3%)
終日閉鎖	121 (66.5%)	5,432 (67.6%)	222 (81.3%)	181 (79.0%)	224 (80.3%)	90 (77.6%)	53 (76.8%)	92 (78.0%)	13 (86.7%)	9 (81.8%)	5,133 (67.0%)	5,207 (67.2%)
それ以外(不明を含む)	14 (7.7%)	594 (7.4%)	13 (4.8%)	11 (4.8%)	13 (4.7%)	1 (0.9%)	1 (1.4%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	580 (7.6%)	582 (7.5%)
合計	182 (100.0%)	8,034 (100.0%)	273 (100.0%)	229 (100.0%)	279 (100.0%)	116 (100.0%)	69 (100.0%)	118 (100.0%)	15 (100.0%)	11 (100.0%)	7,660 (100.0%)	7,747 (100.0%)

表 6 隔離・身体的拘束実施患者の在院患者に占める割合（病棟の開放区分別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）

平成21年												
開放区分	病棟数	在院患者数 (人)	隔離実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
夜間外開放	59	2,796	28 (1.0%)	23 (0.8%)	28 (1.0%)	16 (0.6%)	22 (0.8%)	26 (0.9%)	3 (0.1%)	2 (0.1%)	2,755 (98.5%)	2,753 (98.5%)
終日閉鎖	108	5,116	171 (3.3%)	130 (2.5%)	178 (3.5%)	64 (1.3%)	43 (0.8%)	68 (1.3%)	6 (0.1%)	4 (0.1%)	4,887 (95.5%)	4,947 (96.7%)
それ以外(不明を含む)	22	1,062	23 (2.2%)	14 (1.3%)	23 (2.2%)	8 (0.8%)	7 (0.7%)	8 (0.8%)	1 (0.1%)	1 (0.1%)	1,032 (97.2%)	1,042 (98.1%)
合計	189	8,974	222 (2.5%)	167 (1.9%)	229 (2.6%)	88 (1.0%)	72 (0.8%)	102 (1.1%)	10 (0.1%)	7 (0.1%)	8,674 (96.7%)	8,742 (97.4%)

令和元年												
開放区分	病棟数	在院患者数 (人)	隔離実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
夜間外開放	47	2,008	38 (1.9%)	37 (1.8%)	42 (2.1%)	25 (1.2%)	15 (0.7%)	25 (1.2%)	2 (0.1%)	2 (0.1%)	1,947 (97.0%)	1,958 (97.5%)
終日閉鎖	121	5,432	222 (4.1%)	181 (3.3%)	224 (4.1%)	90 (1.7%)	53 (1.0%)	92 (1.7%)	13 (0.2%)	9 (0.2%)	5,133 (94.5%)	5,207 (95.9%)
それ以外(不明を含む)	14	594	13 (2.2%)	11 (1.9%)	13 (2.2%)	1 (0.2%)	1 (0.2%)	1 (0.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	580 (97.6%)	582 (98.0%)
合計	182	8,034	273 (3.4%)	229 (2.9%)	279 (3.5%)	116 (1.4%)	69 (0.9%)	118 (1.5%)	15 (0.2%)	11 (0.1%)	7,660 (95.3%)	7,747 (96.4%)

表 7 隔離・身体的拘束実施患者数と病棟の開放区分別比率（病棟の開放区分別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）

平成26年												
開放区分	病棟数 ( )内は開放区分比率(%)	在院患者数(人) ( )内は開放区分比率(%)	隔離実施あり 人数(人) ( )内は開放区分比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は開放区分比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は開放区分比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ( )内は開放区分比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
夜間外開放	180 (23.8%)	8,377 (24.3%)	91 (5.7%)	72 (6.0%)	91 (5.5%)	111 (9.7%)	92 (10.5%)	116 (9.7%)	18 (10.1%)	13 (8.8%)	8,193 (25.6%)	8,226 (25.2%)
終日閉鎖	532 (70.5%)	24,671 (71.5%)	1,441 (91.0%)	1,099 (92.0%)	1,505 (91.4%)	1,005 (87.7%)	767 (87.8%)	1,053 (87.8%)	157 (88.2%)	133 (89.9%)	22,382 (70.0%)	22,938 (70.4%)
それ以外(不明を含む)	43 (5.7%)	1,456 (4.2%)	51 (3.2%)	23 (1.9%)	51 (3.1%)	30 (2.6%)	15 (1.7%)	30 (2.5%)	3 (1.7%)	2 (1.4%)	1,378 (4.3%)	1,420 (4.4%)
合計	755 (100.0%)	34,504 (100.0%)	1,583 (100.0%)	1,194 (100.0%)	1,647 (100.0%)	1,146 (100.0%)	874 (100.0%)	1,199 (100.0%)	178 (100.0%)	148 (100.0%)	31,953 (100.0%)	32,584 (100.0%)

令和元年												
開放区分	病棟数 ( )内は開放区分比率(%)	在院患者数(人) ( )内は開放区分比率(%)	隔離実施あり 人数(人) ( )内は開放区分比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は開放区分比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は開放区分比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ( )内は開放区分比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
夜間外開放	152 (20.5%)	6,754 (20.5%)	85 (5.1%)	64 (5.0%)	87 (5.0%)	85 (8.6%)	72 (9.0%)	86 (8.3%)	15 (8.7%)	13 (9.3%)	6,599 (21.7%)	6,631 (21.4%)
終日閉鎖	554 (74.8%)	25,181 (76.5%)	1,562 (93.0%)	1,195 (93.3%)	1,605 (93.1%)	890 (90.4%)	721 (90.1%)	934 (90.7%)	156 (90.2%)	125 (89.3%)	22,885 (75.3%)	23,390 (75.5%)
それ以外(不明を含む)	35 (4.7%)	968 (2.9%)	32 (1.9%)	22 (1.7%)	32 (1.9%)	10 (1.0%)	7 (0.9%)	10 (1.0%)	2 (1.2%)	2 (1.4%)	928 (3.1%)	941 (3.0%)
合計	741 (100.0%)	32,903 (100.0%)	1,679 (100.0%)	1,281 (100.0%)	1,724 (100.0%)	985 (100.0%)	800 (100.0%)	1,030 (100.0%)	173 (100.0%)	140 (100.0%)	30,412 (100.0%)	30,962 (100.0%)

表 8 隔離・身体的拘束実施患者の在院患者に占める割合（病棟の開放区分別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）

平成26年												
開放区分	病棟数	在院患者数 (人)	隔離実施あり 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
夜間外開放	180	8,377	91 (1.1%)	72 (0.9%)	91 (1.1%)	111 (1.3%)	92 (1.1%)	116 (1.4%)	18 (0.2%)	13 (0.2%)	8,193 (97.8%)	8,226 (98.2%)
終日閉鎖	532	24,671	1,441 (5.8%)	1,099 (4.5%)	1,505 (6.1%)	1,005 (4.1%)	767 (3.1%)	1,053 (4.3%)	157 (0.6%)	133 (0.5%)	22,382 (90.7%)	22,938 (93.0%)
それ以外(不明を含む)	43	1,456	51 (3.5%)	23 (1.6%)	51 (3.5%)	30 (2.1%)	15 (1.0%)	30 (2.1%)	3 (0.2%)	2 (0.1%)	1,378 (94.6%)	1,420 (97.5%)
合計	755	34,504	1,583 (4.6%)	1,194 (3.5%)	1,647 (4.8%)	1,146 (3.3%)	874 (2.5%)	1,199 (3.5%)	178 (0.5%)	148 (0.4%)	31,953 (92.6%)	32,584 (94.4%)

令和元年												
開放区分	病棟数	在院患者数 (人)	隔離実施あり 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
夜間外開放	152	6,754	85 (1.3%)	64 (0.9%)	87 (1.3%)	85 (1.3%)	72 (1.1%)	86 (1.3%)	15 (0.2%)	13 (0.2%)	6,599 (97.7%)	6,631 (98.2%)
終日閉鎖	554	25,181	1,562 (6.2%)	1,195 (4.7%)	1,605 (6.4%)	890 (3.5%)	721 (2.9%)	934 (3.7%)	156 (0.6%)	125 (0.5%)	22,885 (90.9%)	23,390 (92.9%)
それ以外(不明を含む)	35	968	32 (3.3%)	22 (2.3%)	32 (3.3%)	10 (1.0%)	7 (0.7%)	10 (1.0%)	2 (0.2%)	2 (0.2%)	928 (95.9%)	941 (97.2%)
合計	741	32,903	1,679 (5.1%)	1,281 (3.9%)	1,724 (5.2%)	985 (3.0%)	800 (2.4%)	1,030 (3.1%)	173 (0.5%)	140 (0.4%)	30,412 (92.4%)	30,962 (94.1%)



表 9 隔離・身体的拘束指示患者数と応急入院の有無別比率（応急入院の有無別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）

平成21年												
応急入院の有無	病棟数 ( )内は応急入院の有無別比率(%)	在院患者数(人) ( )内は応急入院の有無別比率(%)	隔離実施あり 人数(人) ( )内は応急入院の有無別比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は応急入院の有無別比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は応急入院の有無別比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ( )内は応急入院の有無別比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
有	71 (37.6%)	3,389 (37.8%)	69 (31.1%)	40 (24.0%)	70 (30.6%)	51 (58.0%)	44 (61.1%)	64 (62.7%)	4 (40.0%)	2 (28.6%)	3,273 (37.7%)	3,307 (37.8%)
無または不明	118 (62.4%)	5,585 (62.2%)	153 (68.9%)	127 (76.0%)	159 (69.4%)	37 (42.0%)	28 (38.9%)	38 (37.3%)	6 (60.0%)	5 (71.4%)	5,401 (62.3%)	5,435 (62.2%)
合計	189 (100.0%)	8,974 (100.0%)	222 (100.0%)	167 (100.0%)	229 (100.0%)	88 (100.0%)	72 (100.0%)	102 (100.0%)	10 (100.0%)	7 (100.0%)	8,674 (100.0%)	8,742 (100.0%)

令和元年												
応急入院の有無	病棟数 ( )内は応急入院の有無別比率(%)	在院患者数(人) ( )内は応急入院の有無別比率(%)	隔離実施あり 人数(人) ( )内は応急入院の有無別比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は応急入院の有無別比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は応急入院の有無別比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ( )内は応急入院の有無別比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
有	93 (51.1%)	4,354 (54.2%)	175 (64.1%)	141 (61.6%)	181 (64.9%)	61 (52.6%)	34 (49.3%)	63 (53.4%)	14 (93.3%)	10 (90.9%)	4,132 (53.9%)	4,189 (54.1%)
無または不明	89 (48.9%)	3,680 (45.8%)	98 (35.9%)	88 (38.4%)	98 (35.1%)	55 (47.4%)	35 (50.7%)	55 (46.6%)	1 (6.7%)	1 (9.1%)	3,528 (46.1%)	3,558 (45.9%)
合計	182 (100.0%)	8,034 (100.0%)	273 (100.0%)	229 (100.0%)	279 (100.0%)	116 (100.0%)	69 (100.0%)	118 (100.0%)	15 (100.0%)	11 (100.0%)	7,660 (100.0%)	7,747 (100.0%)

表 10 隔離・身体的拘束指示患者の在院患者に占める割合（応急入院の有無別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）

平成21年												
応急入院の有無	病棟数	在院患者数 (人)	隔離指示あり 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
有	71	3,389	84 (2.5%)	83 (2.4%)	85 (2.5%)	67 (2.0%)	68 (2.0%)	69 (2.0%)	4 (0.1%)	4 (0.1%)	3,242 (95.7%)	3,242 (95.7%)
無または不明	118	5,585	170 (3.0%)	167 (3.0%)	176 (3.2%)	46 (0.8%)	43 (0.8%)	46 (0.8%)	11 (0.2%)	9 (0.2%)	5,380 (96.3%)	5,384 (96.4%)
合計	189	8,974	254 (2.8%)	250 (2.8%)	261 (2.9%)	113 (1.3%)	111 (1.2%)	115 (1.3%)	15 (0.2%)	13 (0.1%)	8,622 (96.1%)	8,626 (96.1%)

令和元年												
応急入院の有無	病棟数	在院患者数 (人)	隔離指示あり 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
有	93	4,354	212 (4.9%)	212 (4.9%)	214 (4.9%)	80 (1.8%)	80 (1.8%)	80 (1.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4,062 (93.3%)	4,062 (93.3%)
無または不明	89	3,680	109 (3.0%)	109 (3.0%)	109 (3.0%)	62 (1.7%)	61 (1.7%)	62 (1.7%)	1 (0.0%)	1 (0.0%)	3,510 (95.4%)	3,511 (95.4%)
合計	182	8,034	321 (4.0%)	321 (4.0%)	323 (4.0%)	142 (1.8%)	141 (1.8%)	142 (1.8%)	1 (0.0%)	1 (0.0%)	7,572 (94.2%)	7,573 (94.3%)

表 11 隔離・身体的拘束指示患者数と応急入院の有無別比率（応急入院の有無別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）

平成26年												
応急入院の有無	病棟数 ( )内は応急入院の有無別比率(%)	在院患者数(人) ( )内は応急入院の有無別比率(%)	隔離指示あり			身体的拘束指示あり			隔離かつ身体的拘束指示あり		隔離身体的拘束指示なし	
			人数(人) ( )内は応急入院の有無別比率(%)			人数(人) ( )内は応急入院の有無別比率(%)			人数(人) ( )内は応急入院の有無別比率(%)		人数(人) ( )内は応急入院の有無別比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
有	434 (57.5%)	19,516 (56.6%)	1,259 (76.6%)	1,199 (75.6%)	1,277 (75.8%)	801 (65.5%)	779 (65.8%)	812 (65.4%)	162 (82.7%)	159 (82.8%)	17,618 (55.3%)	17,697 (55.4%)
無または不明	321 (42.5%)	14,988 (43.4%)	385 (23.4%)	386 (24.4%)	407 (24.2%)	422 (34.5%)	405 (34.2%)	430 (34.6%)	34 (17.3%)	33 (17.2%)	14,215 (44.7%)	14,230 (44.6%)
合計	755 (100.0%)	34,504 (100.0%)	1,644 (100.0%)	1,585 (100.0%)	1,684 (100.0%)	1,223 (100.0%)	1,184 (100.0%)	1,242 (100.0%)	196 (100.0%)	192 (100.0%)	31,833 (100.0%)	31,927 (100.0%)

令和元年												
応急入院の有無	病棟数 ( )内は応急入院の有無別比率(%)	在院患者数(人) ( )内は応急入院の有無別比率(%)	隔離指示あり			身体的拘束指示あり			隔離かつ身体的拘束指示あり		隔離身体的拘束指示なし	
			人数(人) ( )内は応急入院の有無別比率(%)			人数(人) ( )内は応急入院の有無別比率(%)			人数(人) ( )内は応急入院の有無別比率(%)		人数(人) ( )内は応急入院の有無別比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
有	443 (59.8%)	19,399 (59.0%)	1,350 (77.2%)	1,323 (76.7%)	1,364 (76.8%)	675 (64.8%)	668 (65.8%)	688 (64.7%)	157 (84.4%)	158 (84.9%)	17,531 (57.9%)	17,566 (57.9%)
無または不明	298 (40.2%)	13,504 (41.0%)	398 (22.8%)	402 (23.3%)	412 (23.2%)	366 (35.2%)	347 (34.2%)	375 (35.3%)	29 (15.6%)	28 (15.1%)	12,769 (42.1%)	12,783 (42.1%)
合計	741 (100.0%)	32,903 (100.0%)	1,748 (100.0%)	1,725 (100.0%)	1,776 (100.0%)	1,041 (100.0%)	1,015 (100.0%)	1,063 (100.0%)	186 (100.0%)	186 (100.0%)	30,300 (100.0%)	30,349 (100.0%)

表 12 隔離・身体的拘束指示患者の在院患者に占める割合（応急入院の有無別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）

平成26年												
応急入院の有無	病棟数	在院患者数(人)	隔離指示あり			身体的拘束指示あり			隔離かつ身体的拘束指示あり		隔離身体的拘束指示なし	
			人数(人) ( )内は在院患者比率(%)			人数(人) ( )内は在院患者比率(%)			人数(人) ( )内は在院患者比率(%)		人数(人) ( )内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
有	434	19,516	1,259 (6.5%)	1,199 (6.1%)	1,277 (6.5%)	801 (4.1%)	779 (4.0%)	812 (4.2%)	162 (0.8%)	159 (0.8%)	17,618 (90.3%)	17,697 (90.7%)
無または不明	321	14,988	385 (2.6%)	386 (2.6%)	407 (2.7%)	422 (2.8%)	405 (2.7%)	430 (2.9%)	34 (0.2%)	33 (0.2%)	14,215 (94.8%)	14,230 (94.9%)
合計	755	34,504	1,644 (4.8%)	1,585 (4.6%)	1,684 (4.9%)	1,223 (3.5%)	1,184 (3.4%)	1,242 (3.6%)	196 (0.6%)	192 (0.6%)	31,833 (92.3%)	31,927 (92.5%)

令和元年												
応急入院の有無	病棟数	在院患者数(人)	隔離指示あり			身体的拘束指示あり			隔離かつ身体的拘束指示あり		隔離身体的拘束指示なし	
			人数(人) ( )内は在院患者比率(%)			人数(人) ( )内は在院患者比率(%)			人数(人) ( )内は在院患者比率(%)		人数(人) ( )内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
有	443	19,399	1,350 (7.0%)	1,323 (6.8%)	1,364 (7.0%)	675 (3.5%)	668 (3.4%)	688 (3.5%)	157 (0.8%)	158 (0.8%)	17,531 (90.4%)	17,566 (90.6%)
無または不明	298	13,504	398 (2.9%)	402 (3.0%)	412 (3.1%)	366 (2.7%)	347 (2.6%)	375 (2.8%)	29 (0.2%)	28 (0.2%)	12,769 (94.6%)	12,783 (94.7%)
合計	741	32,903	1,748 (5.3%)	1,725 (5.2%)	1,776 (5.4%)	1,041 (3.2%)	1,015 (3.1%)	1,063 (3.2%)	186 (0.6%)	186 (0.6%)	30,300 (92.1%)	30,349 (92.2%)

表 13 隔離・身体的拘束実施患者数と応急入院の有無別比率（応急入院の有無別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）

平成21年												
応急入院の有無	病棟数 ( )内は応急入院の有無別比率(%)	在院患者数(人) ( )内は応急入院の有無別比率(%)	隔離実施あり 人数(人) ( )内は応急入院の有無別比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は応急入院の有無別比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は応急入院の有無別比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ( )内は応急入院の有無別比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			有	71 (37.6%)	3,389 (37.8%)	69 (31.1%)	40 (24.0%)	70 (30.6%)	51 (58.0%)	44 (61.1%)	64 (62.7%)	4 (40.0%)
無または不明	118 (62.4%)	5,585 (62.2%)	153 (68.9%)	127 (76.0%)	159 (69.4%)	37 (42.0%)	28 (38.9%)	38 (37.3%)	6 (60.0%)	5 (71.4%)	5,401 (62.3%)	5,435 (62.2%)
合計	189 (100.0%)	8,974 (100.0%)	222 (100.0%)	167 (100.0%)	229 (100.0%)	88 (100.0%)	72 (100.0%)	102 (100.0%)	10 (100.0%)	7 (100.0%)	8,674 (100.0%)	8,742 (100.0%)

令和元年												
応急入院の有無	病棟数 ( )内は応急入院の有無別比率(%)	在院患者数(人) ( )内は応急入院の有無別比率(%)	隔離実施あり 人数(人) ( )内は応急入院の有無別比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は応急入院の有無別比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は応急入院の有無別比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ( )内は応急入院の有無別比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			有	93 (51.1%)	4,354 (54.2%)	175 (64.1%)	141 (61.6%)	181 (64.9%)	61 (52.6%)	34 (49.3%)	63 (53.4%)	14 (93.3%)
無または不明	89 (48.9%)	3,680 (45.8%)	98 (35.9%)	88 (38.4%)	98 (35.1%)	55 (47.4%)	35 (50.7%)	55 (46.6%)	1 (6.7%)	1 (9.1%)	3,528 (46.1%)	3,558 (45.9%)
合計	182 (100.0%)	8,034 (100.0%)	273 (100.0%)	229 (100.0%)	279 (100.0%)	116 (100.0%)	69 (100.0%)	118 (100.0%)	15 (100.0%)	11 (100.0%)	7,660 (100.0%)	7,747 (100.0%)

表 14 隔離・身体的拘束実施患者の在院患者に占める割合（応急入院の有無別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）

平成21年												
応急入院の有無	病棟数	在院患者数 (人)	隔離実施あり 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			有	71	3,389	69 (2.0%)	40 (1.2%)	70 (2.1%)	51 (1.5%)	44 (1.3%)	64 (1.9%)	4 (0.1%)
無または不明	118	5,585	153 (2.7%)	127 (2.3%)	159 (2.8%)	37 (0.7%)	28 (0.5%)	38 (0.7%)	6 (0.1%)	5 (0.1%)	5,401 (96.7%)	5,435 (97.3%)
合計	189	8,974	222 (2.5%)	167 (1.9%)	229 (2.6%)	88 (1.0%)	72 (0.8%)	102 (1.1%)	10 (0.1%)	7 (0.1%)	8,674 (96.7%)	8,742 (97.4%)

令和元年												
応急入院の有無	病棟数	在院患者数 (人)	隔離実施あり 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			有	93	4,354	175 (4.0%)	141 (3.2%)	181 (4.2%)	61 (1.4%)	34 (0.8%)	63 (1.4%)	14 (0.3%)
無または不明	89	3,680	98 (2.7%)	88 (2.4%)	98 (2.7%)	55 (1.5%)	35 (1.0%)	55 (1.5%)	1 (0.0%)	1 (0.0%)	3,528 (95.9%)	3,558 (96.7%)
合計	182	8,034	273 (3.4%)	229 (2.9%)	279 (3.5%)	116 (1.4%)	69 (0.9%)	118 (1.5%)	15 (0.2%)	11 (0.1%)	7,660 (95.3%)	7,747 (96.4%)

表 15 隔離・身体的拘束実施患者数と応急入院の有無別比率（応急入院の有無別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）

平成26年												
応急入院の有無	病棟数 ( )内は応急入院の有無別比率(%)	在院患者数(人) ( )内は応急入院の有無別比率(%)	隔離実施あり			身体的拘束実施あり			隔離かつ身体的拘束実施あり		隔離身体的拘束実施なし	
			人数(人) ( )内は応急入院の有無別比率(%)			人数(人) ( )内は応急入院の有無別比率(%)			人数(人) ( )内は応急入院の有無別比率(%)		人数(人) ( )内は応急入院の有無別比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
有	434 (57.5%)	19,516 (56.6%)	1,206 (76.2%)	895 (75.0%)	1,247 (75.7%)	749 (65.4%)	574 (65.7%)	779 (65.0%)	149 (83.7%)	125 (84.5%)	17,710 (55.4%)	18,172 (55.8%)
無または不明	321 (42.5%)	14,988 (43.4%)	377 (23.8%)	299 (25.0%)	400 (24.3%)	397 (34.6%)	300 (34.3%)	420 (35.0%)	29 (16.3%)	23 (15.5%)	14,243 (44.6%)	14,412 (44.2%)
合計	755 (100.0%)	34,504 (100.0%)	1,583 (100.0%)	1,194 (100.0%)	1,647 (100.0%)	1,146 (100.0%)	874 (100.0%)	1,199 (100.0%)	178 (100.0%)	148 (100.0%)	31,953 (100.0%)	32,584 (100.0%)

令和元年												
応急入院の有無	病棟数 ( )内は応急入院の有無別比率(%)	在院患者数(人) ( )内は応急入院の有無別比率(%)	隔離実施あり			身体的拘束実施あり			隔離かつ身体的拘束実施あり		隔離身体的拘束実施なし	
			人数(人) ( )内は応急入院の有無別比率(%)			人数(人) ( )内は応急入院の有無別比率(%)			人数(人) ( )内は応急入院の有無別比率(%)		人数(人) ( )内は応急入院の有無別比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
有	443 (59.8%)	19,399 (59.0%)	1,291 (76.9%)	993 (77.5%)	1,322 (76.7%)	626 (63.6%)	519 (64.9%)	660 (64.1%)	146 (84.4%)	123 (87.9%)	17,628 (58.0%)	18,010 (58.2%)
無または不明	298 (40.2%)	13,504 (41.0%)	388 (23.1%)	288 (22.5%)	402 (23.3%)	359 (36.4%)	281 (35.1%)	370 (35.9%)	27 (15.6%)	17 (12.1%)	12,784 (42.0%)	12,952 (41.8%)
合計	741 (100.0%)	32,903 (100.0%)	1,679 (100.0%)	1,281 (100.0%)	1,724 (100.0%)	985 (100.0%)	800 (100.0%)	1,030 (100.0%)	173 (100.0%)	140 (100.0%)	30,412 (100.0%)	30,962 (100.0%)

表 16 隔離・身体的拘束実施患者の在院患者に占める割合（応急入院の有無別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）

平成26年												
応急入院の有無	病棟数	在院患者数(人)	隔離実施あり			身体的拘束実施あり			隔離かつ身体的拘束実施あり		隔離身体的拘束実施なし	
			人数(人) ( )内は在院患者比率(%)			人数(人) ( )内は在院患者比率(%)			人数(人) ( )内は在院患者比率(%)		人数(人) ( )内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
有	434	19,516	1,206 (6.2%)	895 (4.6%)	1,247 (6.4%)	749 (3.8%)	574 (2.9%)	779 (4.0%)	149 (0.8%)	125 (0.6%)	17,710 (90.7%)	18,172 (93.1%)
無または不明	321	14,988	377 (2.5%)	299 (2.0%)	400 (2.7%)	397 (2.6%)	300 (2.0%)	420 (2.8%)	29 (0.2%)	23 (0.2%)	14,243 (95.0%)	14,412 (96.2%)
合計	755	34,504	1,583 (4.6%)	1,194 (3.5%)	1,647 (4.8%)	1,146 (3.3%)	874 (2.5%)	1,199 (3.5%)	178 (0.5%)	148 (0.4%)	31,953 (92.6%)	32,584 (94.4%)

令和元年												
応急入院の有無	病棟数	在院患者数(人)	隔離実施あり			身体的拘束実施あり			隔離かつ身体的拘束実施あり		隔離身体的拘束実施なし	
			人数(人) ( )内は在院患者比率(%)			人数(人) ( )内は在院患者比率(%)			人数(人) ( )内は在院患者比率(%)		人数(人) ( )内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
有	443	19,399	1,291 (6.7%)	993 (5.1%)	1,322 (6.8%)	626 (3.2%)	519 (2.7%)	660 (3.4%)	146 (0.8%)	123 (0.6%)	17,628 (90.9%)	18,010 (92.8%)
無または不明	298	13,504	388 (2.9%)	288 (2.1%)	402 (3.0%)	359 (2.7%)	281 (2.1%)	370 (2.7%)	27 (0.2%)	17 (0.1%)	12,784 (94.7%)	12,952 (95.9%)
合計	741	32,903	1,679 (5.1%)	1,281 (3.9%)	1,724 (5.2%)	985 (3.0%)	800 (2.4%)	1,030 (3.1%)	173 (0.5%)	140 (0.4%)	30,412 (92.4%)	30,962 (94.1%)

表 17 隔離・身体的拘束指示患者数と精神科医師数の区分別比率（精神科医師数の区分別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）

平成21年												
精神科医師数 (常勤、非常勤の合計) ※	医療機関数 ( )内は該当する区分の比率(%)	在院患者数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	隔離指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			3人未満	8 (18.2%)	640 (7.1%)	5 (2.0%)	3 (1.2%)	5 (1.9%)	7 (6.2%)	6 (5.4%)	7 (6.1%)	1 (6.7%)
3人以上 5人未満	7 (15.9%)	825 (9.2%)	11 (4.3%)	12 (4.8%)	12 (4.6%)	2 (1.8%)	2 (1.8%)	2 (1.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	812 (9.4%)	811 (9.4%)
5人以上 10人未満	14 (31.8%)	2,532 (28.2%)	96 (37.8%)	90 (36.0%)	99 (37.9%)	36 (31.9%)	33 (29.7%)	36 (31.3%)	2 (13.3%)	1 (7.7%)	2,402 (27.9%)	2,410 (27.9%)
10人以上	11 (25.0%)	3,682 (41.0%)	98 (38.6%)	98 (39.2%)	98 (37.5%)	51 (45.1%)	53 (47.7%)	53 (46.1%)	9 (60.0%)	9 (69.2%)	3,542 (41.1%)	3,540 (41.0%)
不明	4 (9.1%)	1,295 (14.4%)	44 (17.3%)	47 (18.8%)	47 (18.0%)	17 (15.0%)	17 (15.3%)	17 (14.8%)	3 (20.0%)	3 (23.1%)	1,237 (14.3%)	1,234 (14.3%)
合計	44 (100.0%)	8,974 (100.0%)	254 (100.0%)	250 (100.0%)	261 (100.0%)	113 (100.0%)	111 (100.0%)	115 (100.0%)	15 (100.0%)	13 (100.0%)	8,622 (100.0%)	8,626 (100.0%)

令和元年												
精神科医師数 (常勤、非常勤の合計) ※	医療機関数 ( )内は該当する区分の比率(%)	在院患者数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	隔離指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			3人未満	8 (18.2%)	793 (9.9%)	12 (3.7%)	12 (3.7%)	12 (3.7%)	26 (18.3%)	26 (18.4%)	26 (18.3%)	1 (3.3%)
3人以上 5人未満	9 (20.5%)	1,065 (13.3%)	34 (10.6%)	34 (10.6%)	34 (10.5%)	8 (5.6%)	8 (5.7%)	8 (5.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1,023 (13.5%)	1,023 (13.5%)
5人以上 10人未満	17 (38.6%)	2,766 (34.4%)	127 (39.6%)	126 (39.3%)	128 (39.6%)	88 (62.0%)	87 (61.7%)	88 (62.0%)	19 (63.3%)	19 (63.3%)	2,570 (33.8%)	2,572 (33.8%)
10人以上	10 (22.7%)	3,410 (42.4%)	148 (46.1%)	149 (46.4%)	149 (46.1%)	20 (14.1%)	20 (14.2%)	20 (14.1%)	10 (33.3%)	10 (33.3%)	3,252 (42.8%)	3,251 (42.8%)
不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
合計	44 (100.0%)	8,034 (100.0%)	321 (100.0%)	321 (100.0%)	323 (100.0%)	142 (100.0%)	141 (100.0%)	142 (100.0%)	30 (100.0%)	30 (100.0%)	7,601 (100.0%)	7,602 (100.0%)

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 18 隔離・身体的拘束指示患者の在院患者に占める割合（精神科医師数の区分別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）

平成21年												
精神科医師数 (常勤、非常勤の合計) ※	医療機関数	在院患者数 (人)	隔離指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			3人未満	8	640	5 (0.8%)	3 (0.5%)	5 (0.8%)	7 (1.1%)	6 (0.9%)	7 (1.1%)	1 (0.2%)
3人以上 5人未満	7	825	11 (1.3%)	12 (1.5%)	12 (1.5%)	2 (0.2%)	2 (0.2%)	2 (0.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	812 (98.4%)	811 (98.3%)
5人以上 10人未満	14	2,532	96 (3.8%)	90 (3.6%)	99 (3.9%)	36 (1.4%)	33 (1.3%)	36 (1.4%)	2 (0.1%)	1 (0.0%)	2,402 (94.9%)	2,410 (95.2%)
10人以上	11	3,682	98 (2.7%)	98 (2.7%)	98 (2.7%)	51 (1.4%)	53 (1.4%)	53 (1.4%)	9 (0.2%)	9 (0.2%)	3,542 (96.2%)	3,540 (96.1%)
不明	4	1,295	44 (3.4%)	47 (3.6%)	47 (3.6%)	17 (1.3%)	17 (1.3%)	17 (1.3%)	3 (0.2%)	3 (0.2%)	1,237 (95.5%)	1,234 (95.3%)
合計	44	8,974	254 (2.8%)	250 (2.8%)	261 (2.9%)	113 (1.3%)	111 (1.2%)	115 (1.3%)	15 (0.2%)	13 (0.1%)	8,622 (96.1%)	8,626 (96.1%)

令和元年												
精神科医師数 (常勤、非常勤の合計) ※	医療機関数	在院患者数 (人)	隔離指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			3人未満	8	793	12 (1.5%)	12 (1.5%)	12 (1.5%)	26 (3.3%)	26 (3.3%)	26 (3.3%)	1 (0.1%)
3人以上 5人未満	9	1,065	34 (3.2%)	34 (3.2%)	34 (3.2%)	8 (0.8%)	8 (0.8%)	8 (0.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1,023 (96.1%)	1,023 (96.1%)
5人以上 10人未満	17	2,766	127 (4.6%)	126 (4.6%)	128 (4.6%)	88 (3.2%)	87 (3.1%)	88 (3.2%)	19 (0.7%)	19 (0.7%)	2,570 (92.9%)	2,572 (93.0%)
10人以上	10	3,410	148 (4.3%)	149 (4.4%)	149 (4.4%)	20 (0.6%)	20 (0.6%)	20 (0.6%)	10 (0.3%)	10 (0.3%)	3,252 (95.4%)	3,251 (95.3%)
不明	0	0	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
合計	44	8,034	321 (4.0%)	321 (4.0%)	323 (4.0%)	142 (1.8%)	141 (1.8%)	142 (1.8%)	30 (0.4%)	30 (0.4%)	7,601 (94.6%)	7,602 (94.6%)

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 19 隔離・身体的拘束指示患者数と精神科医師数の区分別比率（精神科医師数の区分別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）

平成26年												
精神科医師数 (常勤、非常勤の合計) ※	医療機関数 ( )内は該当する区分の比率(%)	在院患者数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	隔離指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			3人未満	25 (13.3%)	2,513 (7.3%)	36 (2.2%)	35 (2.2%)	36 (2.1%)	66 (5.4%)	55 (4.6%)	86 (10.0%)	12 (6.1%)
3人以上 5人未満	32 (17.0%)	4,105 (11.9%)	88 (5.4%)	85 (5.4%)	93 (5.5%)	119 (9.7%)	115 (9.7%)	154 (17.9%)	7 (3.6%)	7 (3.6%)	3,905 (12.3%)	3,912 (12.3%)
5人以上 10人未満	72 (38.3%)	11,852 (34.3%)	588 (35.8%)	570 (36.0%)	608 (36.1%)	470 (38.4%)	456 (38.5%)	376 (43.6%)	75 (38.3%)	75 (39.1%)	10,869 (34.1%)	10,901 (34.1%)
10人以上	51 (27.1%)	14,601 (42.3%)	890 (54.1%)	853 (53.8%)	904 (53.7%)	532 (43.5%)	523 (44.2%)	216 (25.1%)	100 (51.0%)	97 (50.5%)	13,279 (41.7%)	13,322 (41.7%)
不明	8 (4.3%)	1,433 (4.2%)	42 (2.6%)	42 (2.6%)	43 (2.6%)	36 (2.9%)	35 (3.0%)	30 (3.5%)	2 (1.0%)	1 (0.5%)	1,357 (4.3%)	1,357 (4.3%)
合計	188 (100.0%)	34,504 (100.0%)	1,644 (100.0%)	1,585 (100.0%)	1,684 (100.0%)	1,223 (100.0%)	1,184 (100.0%)	862 (100.0%)	196 (100.0%)	192 (100.0%)	31,833 (100.0%)	31,927 (100.0%)

令和元年												
精神科医師数 (常勤、非常勤の合計) ※	医療機関数 ( )内は該当する区分の比率(%)	在院患者数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	隔離指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			3人未満	25 (13.3%)	2,513 (7.3%)	36 (2.2%)	35 (2.2%)	36 (2.1%)	66 (5.4%)	55 (4.6%)	86 (10.0%)	12 (6.1%)
3人以上 5人未満	32 (17.0%)	4,105 (11.9%)	88 (5.4%)	85 (5.4%)	93 (5.5%)	119 (9.7%)	115 (9.7%)	154 (17.9%)	7 (3.6%)	7 (3.6%)	3,905 (12.3%)	3,912 (12.3%)
5人以上 10人未満	72 (38.3%)	11,852 (34.3%)	588 (35.8%)	570 (36.0%)	608 (36.1%)	470 (38.4%)	456 (38.5%)	376 (43.6%)	75 (38.3%)	75 (39.1%)	10,869 (34.1%)	10,901 (34.1%)
10人以上	51 (27.1%)	14,601 (42.3%)	890 (54.1%)	853 (53.8%)	904 (53.7%)	532 (43.5%)	523 (44.2%)	216 (25.1%)	100 (51.0%)	97 (50.5%)	13,279 (41.7%)	13,322 (41.7%)
不明	8 (4.3%)	1,433 (4.2%)	42 (2.6%)	42 (2.6%)	43 (2.6%)	36 (2.9%)	35 (3.0%)	30 (3.5%)	2 (1.0%)	1 (0.5%)	1,357 (4.3%)	1,357 (4.3%)
合計	188 (100.0%)	34,504 (100.0%)	1,644 (100.0%)	1,585 (100.0%)	1,684 (100.0%)	1,223 (100.0%)	1,184 (100.0%)	862 (100.0%)	196 (100.0%)	192 (100.0%)	31,833 (100.0%)	31,927 (100.0%)

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 20 隔離・身体的拘束指示患者の在院患者に占める割合（精神科医師数の区分別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）

平成26年													
精神科医師数 (常勤、非常勤の合計) ※	医療機関数	在院患者数 (人)	隔離指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
			3人未満	25	2,513	36 (1.4%)	35 (1.4%)	36 (1.4%)	66 (2.6%)	55 (2.2%)	86 (3.4%)	12 (0.5%)	12 (0.5%)
3人以上 5人未満	32	4,105	88 (2.1%)	85 (2.1%)	93 (2.3%)	119 (2.9%)	115 (2.8%)	154 (3.8%)	7 (0.2%)	7 (0.2%)	3,905 (95.1%)	3,912 (95.3%)	
5人以上 10人未満	72	11,852	588 (5.0%)	570 (4.8%)	608 (5.1%)	470 (4.0%)	456 (3.8%)	376 (3.2%)	75 (0.6%)	75 (0.6%)	10,869 (91.7%)	10,901 (92.0%)	
10人以上	51	14,601	890 (6.1%)	853 (5.8%)	904 (6.2%)	532 (3.6%)	523 (3.6%)	216 (1.5%)	100 (0.7%)	97 (0.7%)	13,279 (90.9%)	13,322 (91.2%)	
不明	8	1,433	42 (2.9%)	42 (2.9%)	43 (3.0%)	36 (2.5%)	35 (2.4%)	30 (2.1%)	2 (0.1%)	1 (0.1%)	1,357 (94.7%)	1,357 (94.7%)	
合計	188	34,504	1,644 (4.8%)	1,585 (4.6%)	1,684 (4.9%)	1,223 (3.5%)	1,184 (3.4%)	862 (2.5%)	196 (0.6%)	192 (0.6%)	31,833 (92.3%)	31,927 (92.5%)	

令和元年													
精神科医師数 (常勤、非常勤の合計) ※	医療機関数	在院患者数 (人)	隔離指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
			3人未満	25	2,513	36 (1.4%)	35 (1.4%)	36 (1.4%)	66 (2.6%)	55 (2.2%)	86 (3.4%)	12 (0.5%)	12 (0.5%)
3人以上 5人未満	32	4,105	88 (2.1%)	85 (2.1%)	93 (2.3%)	119 (2.9%)	115 (2.8%)	154 (3.8%)	7 (0.2%)	7 (0.2%)	3,905 (95.1%)	3,912 (95.3%)	
5人以上 10人未満	72	11,852	588 (5.0%)	570 (4.8%)	608 (5.1%)	470 (4.0%)	456 (3.8%)	376 (3.2%)	75 (0.6%)	75 (0.6%)	10,869 (91.7%)	10,901 (92.0%)	
10人以上	51	14,601	890 (6.1%)	853 (5.8%)	904 (6.2%)	532 (3.6%)	523 (3.6%)	216 (1.5%)	100 (0.7%)	97 (0.7%)	13,279 (90.9%)	13,322 (91.2%)	
不明	8	1,433	42 (2.9%)	42 (2.9%)	43 (3.0%)	36 (2.5%)	35 (2.4%)	30 (2.1%)	2 (0.1%)	1 (0.1%)	1,357 (94.7%)	1,357 (94.7%)	
合計	188	34,504	1,644 (4.8%)	1,585 (4.6%)	1,684 (4.9%)	1,223 (3.5%)	1,184 (3.4%)	862 (2.5%)	196 (0.6%)	192 (0.6%)	31,833 (92.3%)	31,927 (92.5%)	

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定



表 21 隔離・身体的拘束実施患者数と精神科医師数の区分別比率（精神科医師数の区分別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）

平成21年												
精神科医師数 (常勤、非常勤の合計) ※	医療機関数 ( )内は該当する区分の比率(%)	在院患者数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	隔離実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			3人未満	8 (18.2%)	640 (7.1%)	5 (2.3%)	3 (1.8%)	5 (2.2%)	7 (8.0%)	6 (8.3%)	7 (6.9%)	1 (10.0%)
3人以上 5人未満	7 (15.9%)	825 (9.2%)	11 (5.0%)	6 (3.6%)	12 (5.2%)	2 (2.3%)	1 (1.4%)	2 (2.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	812 (9.4%)	818 (9.4%)
5人以上 10人未満	14 (31.8%)	2,532 (28.2%)	74 (33.3%)	54 (32.3%)	77 (33.6%)	28 (31.8%)	10 (13.9%)	28 (27.5%)	1 (10.0%)	1 (14.3%)	2,431 (28.0%)	2,469 (28.2%)
10人以上	11 (25.0%)	3,682 (41.0%)	89 (40.1%)	63 (37.7%)	89 (38.9%)	37 (42.0%)	43 (59.7%)	51 (50.0%)	5 (50.0%)	4 (57.1%)	3,561 (41.1%)	3,580 (41.0%)
不明	4 (9.1%)	1,295 (14.4%)	43 (19.4%)	41 (24.6%)	46 (20.1%)	14 (15.9%)	12 (16.7%)	14 (13.7%)	3 (30.0%)	2 (28.6%)	1,241 (14.3%)	1,244 (14.2%)
合計	44 (100.0%)	8,974 (100.0%)	222 (100.0%)	167 (100.0%)	229 (100.0%)	88 (100.0%)	72 (100.0%)	102 (100.0%)	10 (100.0%)	7 (100.0%)	8,674 (100.0%)	8,742 (100.0%)

令和元年												
精神科医師数 (常勤、非常勤の合計) ※	医療機関数 ( )内は該当する区分の比率(%)	在院患者数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	隔離実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			3人未満	8 (18.2%)	793 (9.9%)	11 (4.0%)	6 (2.6%)	11 (3.9%)	26 (22.4%)	15 (21.7%)	26 (22.0%)	1 (6.7%)
3人以上 5人未満	9 (20.5%)	1,065 (13.3%)	34 (12.5%)	30 (13.1%)	34 (12.2%)	8 (6.9%)	6 (8.7%)	8 (6.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1,023 (13.4%)	1,029 (13.3%)
5人以上 10人未満	17 (38.6%)	2,766 (34.4%)	90 (33.0%)	75 (32.8%)	94 (33.7%)	68 (58.6%)	34 (49.3%)	68 (57.6%)	7 (46.7%)	4 (36.4%)	2,615 (34.1%)	2,661 (34.3%)
10人以上	10 (22.7%)	3,410 (42.4%)	138 (50.5%)	118 (51.5%)	140 (50.2%)	14 (12.1%)	14 (20.3%)	16 (13.6%)	7 (46.7%)	6 (54.5%)	3,265 (42.6%)	3,284 (42.4%)
不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
合計	44 (100.0%)	8,034 (100.0%)	273 (100.0%)	229 (100.0%)	279 (100.0%)	116 (100.0%)	69 (100.0%)	118 (100.0%)	15 (100.0%)	11 (100.0%)	7,660 (100.0%)	7,747 (100.0%)

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 22 隔離・身体的拘束実施患者の在院患者に占める割合（精神科医師数の区分別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）

平成21年												
精神科医師数 (常勤、非常勤の合計) ※	医療機関数	在院患者数 (人)	隔離実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			3人未満	8	640	5 (0.8%)	3 (0.5%)	5 (0.8%)	7 (1.1%)	6 (0.9%)	7 (1.1%)	1 (0.2%)
3人以上 5人未満	7	825	11 (1.3%)	6 (0.7%)	12 (1.5%)	2 (0.2%)	1 (0.1%)	2 (0.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	812 (98.4%)	818 (99.2%)
5人以上 10人未満	14	2,532	74 (2.9%)	54 (2.1%)	77 (3.0%)	28 (1.1%)	10 (0.4%)	28 (1.1%)	1 (0.0%)	1 (0.0%)	2,431 (96.0%)	2,469 (97.5%)
10人以上	11	3,682	89 (2.4%)	63 (1.7%)	89 (2.4%)	37 (1.0%)	43 (1.2%)	51 (1.4%)	5 (0.1%)	4 (0.1%)	3,561 (96.7%)	3,580 (97.2%)
不明	4	1,295	43 (3.3%)	41 (3.2%)	46 (3.6%)	14 (1.1%)	12 (0.9%)	14 (1.1%)	3 (0.2%)	2 (0.2%)	1,241 (95.8%)	1,244 (96.1%)
合計	44	8,974	222 (2.5%)	167 (1.9%)	229 (2.6%)	88 (1.0%)	72 (0.8%)	102 (1.1%)	10 (0.1%)	7 (0.1%)	8,674 (96.7%)	8,742 (97.4%)

令和元年												
精神科医師数 (常勤、非常勤の合計) ※	医療機関数	在院患者数 (人)	隔離実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			3人未満	8	793	11 (1.4%)	6 (0.8%)	11 (1.4%)	26 (3.3%)	15 (1.9%)	26 (3.3%)	1 (0.1%)
3人以上 5人未満	9	1,065	34 (3.2%)	30 (2.8%)	34 (3.2%)	8 (0.8%)	6 (0.6%)	8 (0.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1,023 (96.1%)	1,029 (96.6%)
5人以上 10人未満	17	2,766	90 (3.3%)	75 (2.7%)	94 (3.4%)	68 (2.5%)	34 (1.2%)	68 (2.5%)	7 (0.3%)	4 (0.1%)	2,615 (94.5%)	2,661 (96.2%)
10人以上	10	3,410	138 (4.0%)	118 (3.5%)	140 (4.1%)	14 (0.4%)	14 (0.4%)	16 (0.5%)	7 (0.2%)	6 (0.2%)	3,265 (95.7%)	3,284 (96.3%)
不明	0	0	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
合計	44	8,034	273 (3.4%)	229 (2.9%)	279 (3.5%)	116 (1.4%)	69 (0.9%)	118 (1.5%)	15 (0.2%)	11 (0.1%)	7,660 (95.3%)	7,747 (96.4%)

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 23 隔離・身体的拘束実施患者数と精神科医師数の区分別比率（精神科医師数の区分別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）

平成26年												
精神科医師数 (常勤、非常勤の合計) ※	医療機関数 (0内は該当する区分の比率(%))	在院患者数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	隔離実施あり 人数(人) 0内は該当する区分の比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) 0内は該当する区分の比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) 0内は該当する区分の比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) 0内は該当する区分の比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			3人未満	25 (13.3%)	2,513 (7.3%)	33 (2.1%)	24 (2.0%)	34 (2.1%)	48 (4.2%)	45 (5.1%)	70 (7.9%)	11 (6.2%)
3人以上 5人未満	32 (17.0%)	4,105 (11.9%)	88 (5.6%)	73 (6.1%)	93 (5.6%)	119 (10.4%)	79 (9.0%)	130 (14.6%)	7 (3.9%)	7 (4.7%)	3,905 (12.2%)	3,960 (12.2%)
5人以上 10人未満	72 (38.3%)	11,852 (34.3%)	579 (36.6%)	422 (35.3%)	601 (36.5%)	449 (39.2%)	360 (41.2%)	409 (46.0%)	68 (38.2%)	55 (37.2%)	10,892 (34.1%)	11,125 (34.1%)
10人以上	51 (27.1%)	14,601 (42.3%)	845 (53.4%)	650 (54.4%)	880 (53.4%)	498 (43.5%)	365 (41.8%)	248 (27.9%)	90 (50.6%)	75 (50.7%)	13,348 (41.8%)	13,661 (41.9%)
不明	8 (4.3%)	1,433 (4.2%)	38 (2.4%)	25 (2.1%)	39 (2.4%)	32 (2.8%)	25 (2.9%)	33 (3.7%)	2 (1.1%)	1 (0.7%)	1,365 (4.3%)	1,384 (4.2%)
合計	188 (100.0%)	34,504 (100.0%)	1,583 (100.0%)	1,194 (100.0%)	1,647 (100.0%)	1,146 (100.0%)	874 (100.0%)	890 (100.0%)	178 (100.0%)	148 (100.0%)	31,953 (100.0%)	32,584 (100.0%)

令和元年												
精神科医師数 (常勤、非常勤の合計) ※	医療機関数 (0内は該当する区分の比率(%))	在院患者数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	隔離実施あり 人数(人) 0内は該当する区分の比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) 0内は該当する区分の比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) 0内は該当する区分の比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) 0内は該当する区分の比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			3人未満	25 (13.3%)	2,513 (7.3%)	33 (2.1%)	24 (2.0%)	34 (2.1%)	48 (4.2%)	45 (5.1%)	70 (7.9%)	11 (6.2%)
3人以上 5人未満	32 (17.0%)	4,105 (11.9%)	88 (5.6%)	73 (6.1%)	93 (5.6%)	119 (10.4%)	79 (9.0%)	130 (14.6%)	7 (3.9%)	7 (4.7%)	3,905 (12.2%)	3,960 (12.2%)
5人以上 10人未満	72 (38.3%)	11,852 (34.3%)	579 (36.6%)	422 (35.3%)	601 (36.5%)	449 (39.2%)	360 (41.2%)	409 (46.0%)	68 (38.2%)	55 (37.2%)	10,892 (34.1%)	11,125 (34.1%)
10人以上	51 (27.1%)	14,601 (42.3%)	845 (53.4%)	650 (54.4%)	880 (53.4%)	498 (43.5%)	365 (41.8%)	248 (27.9%)	90 (50.6%)	75 (50.7%)	13,348 (41.8%)	13,661 (41.9%)
不明	8 (4.3%)	1,433 (4.2%)	38 (2.4%)	25 (2.1%)	39 (2.4%)	32 (2.8%)	25 (2.9%)	33 (3.7%)	2 (1.1%)	1 (0.7%)	1,365 (4.3%)	1,384 (4.2%)
合計	188 (100.0%)	34,504 (100.0%)	1,583 (100.0%)	1,194 (100.0%)	1,647 (100.0%)	1,146 (100.0%)	874 (100.0%)	890 (100.0%)	178 (100.0%)	148 (100.0%)	31,953 (100.0%)	32,584 (100.0%)

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 24 隔離・身体的拘束実施患者の在院患者に占める割合（精神科医師数の区分別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）

平成26年													
精神科医師数 (常勤、非常勤の合計) ※	医療機関数	在院患者数 (人)	隔離実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
			3人未満	25	2,513	33 (1.3%)	24 (1.0%)	34 (1.4%)	48 (1.9%)	45 (1.8%)	70 (2.8%)	11 (0.4%)	10 (0.4%)
3人以上 5人未満	32	4,105	88 (2.1%)	73 (1.8%)	93 (2.3%)	119 (2.9%)	79 (1.9%)	130 (3.2%)	7 (0.2%)	7 (0.2%)	3,905 (95.1%)	3,960 (96.5%)	
5人以上 10人未満	72	11,852	579 (4.9%)	422 (3.6%)	601 (5.1%)	449 (3.8%)	360 (3.0%)	409 (3.5%)	68 (0.6%)	55 (0.5%)	10,892 (91.9%)	11,125 (93.9%)	
10人以上	51	14,601	845 (5.8%)	650 (4.5%)	880 (6.0%)	498 (3.4%)	365 (2.5%)	248 (1.7%)	90 (0.6%)	75 (0.5%)	13,348 (91.4%)	13,661 (93.6%)	
不明	8	1,433	38 (2.7%)	25 (1.7%)	39 (2.7%)	32 (2.2%)	25 (1.7%)	33 (2.3%)	2 (0.1%)	1 (0.1%)	1,365 (95.3%)	1,384 (96.6%)	
合計	188	34,504	1,583 (4.6%)	1,194 (3.5%)	1,647 (4.8%)	1,146 (3.3%)	874 (2.5%)	890 (2.6%)	178 (0.5%)	148 (0.4%)	31,953 (92.6%)	32,584 (94.4%)	

令和元年													
精神科医師数 (常勤、非常勤の合計) ※	医療機関数	在院患者数 (人)	隔離実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
			3人未満	25	2,513	33 (1.3%)	24 (1.0%)	34 (1.4%)	48 (1.9%)	45 (1.8%)	70 (2.8%)	11 (0.4%)	10 (0.4%)
3人以上 5人未満	32	4,105	88 (2.1%)	73 (1.8%)	93 (2.3%)	119 (2.9%)	79 (1.9%)	130 (3.2%)	7 (0.2%)	7 (0.2%)	3,905 (95.1%)	3,960 (96.5%)	
5人以上 10人未満	72	11,852	579 (4.9%)	422 (3.6%)	601 (5.1%)	449 (3.8%)	360 (3.0%)	409 (3.5%)	68 (0.6%)	55 (0.5%)	10,892 (91.9%)	11,125 (93.9%)	
10人以上	51	14,601	845 (5.8%)	650 (4.5%)	880 (6.0%)	498 (3.4%)	365 (2.5%)	248 (1.7%)	90 (0.6%)	75 (0.5%)	13,348 (91.4%)	13,661 (93.6%)	
不明	8	1,433	38 (2.7%)	25 (1.7%)	39 (2.7%)	32 (2.2%)	25 (1.7%)	33 (2.3%)	2 (0.1%)	1 (0.1%)	1,365 (95.3%)	1,384 (96.6%)	
合計	188	34,504	1,583 (4.6%)	1,194 (3.5%)	1,647 (4.8%)	1,146 (3.3%)	874 (2.5%)	890 (2.6%)	178 (0.5%)	148 (0.4%)	31,953 (92.6%)	32,584 (94.4%)	

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 25 隔離・身体的拘束指示患者数と精神科医師 1 人当たりの平均受け持ち患者数の区分別比率（平均受け持ち患者数の区分別、6 月 30 日 0 時・12 時時点、令和元年と平成 21 年の比較）

平成21年												
精神科医師(常勤、非常勤の合計) 1人当たりの平均受け持ち患者数※	医療機関数 ( )内は該当する区分の比率(%)	在院患者数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	隔離指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
10人未満	5 (11.4%)	169 (1.9%)	8 (3.1%)	6 (2.4%)	8 (3.1%)	10 (8.8%)	9 (8.1%)	10 (8.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	151 (1.8%)	154 (1.8%)
10人以上 20人未満	5 (11.4%)	679 (7.6%)	32 (12.6%)	29 (11.6%)	32 (12.3%)	18 (15.9%)	16 (14.4%)	18 (15.7%)	5 (33.3%)	3 (23.1%)	634 (7.4%)	637 (7.4%)
20人以上 30人未満	13 (29.5%)	2,651 (29.5%)	66 (26.0%)	62 (24.8%)	67 (25.7%)	28 (24.8%)	28 (25.2%)	28 (24.3%)	1 (6.7%)	1 (7.7%)	2,558 (29.7%)	2,562 (29.7%)
30人以上	17 (38.6%)	4,180 (46.6%)	104 (40.9%)	106 (42.4%)	107 (41.0%)	40 (35.4%)	41 (36.9%)	42 (36.5%)	6 (40.0%)	6 (46.2%)	4,042 (46.9%)	4,039 (46.8%)
不明	4 (9.1%)	1,295 (14.4%)	44 (17.3%)	47 (18.8%)	47 (18.0%)	17 (15.0%)	17 (15.3%)	17 (14.8%)	3 (20.0%)	3 (23.1%)	1,237 (14.3%)	1,234 (14.3%)
合計	44 (100.0%)	8,974 (100.0%)	254 (100.0%)	250 (100.0%)	261 (100.0%)	113 (100.0%)	111 (100.0%)	115 (100.0%)	15 (100.0%)	13 (100.0%)	8,622 (100.0%)	8,626 (100.0%)

令和元年												
精神科医師(常勤、非常勤の合計) 1人当たりの平均受け持ち患者数※	医療機関数 ( )内は該当する区分の比率(%)	在院患者数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	隔離指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
10人未満	8 (18.2%)	365 (4.5%)	17 (5.3%)	17 (5.3%)	17 (5.3%)	26 (18.3%)	25 (17.7%)	26 (18.3%)	2 (6.7%)	2 (6.7%)	324 (4.3%)	325 (4.3%)
10人以上 20人未満	5 (11.4%)	982 (12.2%)	26 (8.1%)	26 (8.1%)	26 (8.0%)	1 (0.7%)	1 (0.7%)	1 (0.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	955 (12.6%)	955 (12.6%)
20人以上 30人未満	13 (29.5%)	3,134 (39.0%)	151 (47.0%)	150 (46.7%)	152 (47.1%)	68 (47.9%)	68 (48.2%)	68 (47.9%)	27 (90.0%)	27 (90.0%)	2,942 (38.7%)	2,943 (38.7%)
30人以上	18 (40.9%)	3,553 (44.2%)	127 (39.6%)	128 (39.9%)	128 (39.6%)	47 (33.1%)	47 (33.3%)	47 (33.1%)	1 (3.3%)	1 (3.3%)	3,380 (44.5%)	3,379 (44.4%)
不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
合計	44 (100.0%)	8,034 (100.0%)	321 (100.0%)	321 (100.0%)	323 (100.0%)	142 (100.0%)	141 (100.0%)	142 (100.0%)	30 (100.0%)	30 (100.0%)	7,601 (100.0%)	7,602 (100.0%)

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 26 隔離・身体的拘束指示患者の在院患者に占める割合（精神科医師 1 人当たりの平均受け持ち患者数の区分別、6 月 30 日 0 時・12 時時点、令和元年と平成 21 年の比較）

平成21年												
精神科医師(常勤、非常勤の合計) 1人当たりの平均受け持ち患者数※	医療機関数	在院患者数(人)	隔離指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
10人未満	5	169	8 (4.7%)	6 (3.6%)	8 (4.7%)	10 (5.9%)	9 (5.3%)	10 (5.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	151 (89.3%)	154 (91.1%)
10人以上 20人未満	5	679	32 (4.7%)	29 (4.3%)	32 (4.7%)	18 (2.7%)	16 (2.4%)	18 (2.7%)	5 (0.7%)	3 (0.4%)	634 (93.4%)	637 (93.8%)
20人以上 30人未満	13	2,651	66 (2.5%)	62 (2.3%)	67 (2.5%)	28 (1.1%)	28 (1.1%)	28 (1.1%)	1 (0.0%)	1 (0.0%)	2,558 (96.5%)	2,562 (96.6%)
30人以上	17	4,180	104 (2.5%)	106 (2.5%)	107 (2.6%)	40 (1.0%)	41 (1.0%)	42 (1.0%)	6 (0.1%)	6 (0.1%)	4,042 (96.7%)	4,039 (96.6%)
不明	4	1,295	44 (3.4%)	47 (3.6%)	47 (3.6%)	17 (1.3%)	17 (1.3%)	17 (1.3%)	3 (0.2%)	3 (0.2%)	1,237 (95.5%)	1,234 (95.3%)
合計	44	8,974	254 (2.8%)	250 (2.8%)	261 (2.9%)	113 (1.3%)	111 (1.2%)	115 (1.3%)	15 (0.2%)	13 (0.1%)	8,622 (96.1%)	8,626 (96.1%)

令和元年												
精神科医師(常勤、非常勤の合計) 1人当たりの平均受け持ち患者数※	医療機関数	在院患者数(人)	隔離指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
10人未満	8	365	17 (4.7%)	17 (4.7%)	17 (4.7%)	26 (7.1%)	25 (6.8%)	26 (7.1%)	2 (0.5%)	2 (0.5%)	324 (88.8%)	325 (89.0%)
10人以上 20人未満	5	982	26 (2.6%)	26 (2.6%)	26 (2.6%)	1 (0.1%)	1 (0.1%)	1 (0.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	955 (97.3%)	955 (97.3%)
20人以上 30人未満	13	3,134	151 (4.8%)	150 (4.8%)	152 (4.9%)	68 (2.2%)	68 (2.2%)	68 (2.2%)	27 (0.9%)	27 (0.9%)	2,942 (93.9%)	2,943 (93.9%)
30人以上	18	3,553	127 (3.6%)	128 (3.6%)	128 (3.6%)	47 (1.3%)	47 (1.3%)	47 (1.3%)	1 (0.0%)	1 (0.0%)	3,380 (95.1%)	3,379 (95.1%)
不明	0	0	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
合計	44	8,034	321 (4.0%)	321 (4.0%)	323 (4.0%)	142 (1.8%)	141 (1.8%)	142 (1.8%)	30 (0.4%)	30 (0.4%)	7,601 (94.6%)	7,602 (94.6%)

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 27 隔離・身体的拘束指示患者数と精神科医師 1 人当たりの平均受け持ち患者数の区分別比率（平均受け持ち患者数の区分別、6 月 30 日 0 時・12 時時点、令和元年と平成 26 年の比較）

平成26年													
精神科医師(常勤、非常勤の合計) 1人当たりの平均受け持ち患者数	医療機関数 ( )内は該当する区分の比率(%)	在院患者数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	隔離指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)		
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
10人未満	28 (14.9%)	1,935 (5.6%)	202 (12.3%)	194 (12.2%)	206 (12.2%)	124 (10.1%)	127 (10.7%)	131 (10.5%)	49 (25.0%)	49 (25.5%)	1,658 (5.2%)	1,663 (5.2%)	
10人以上 20人未満	49 (26.1%)	9,171 (26.6%)	622 (37.8%)	592 (37.4%)	631 (37.5%)	373 (30.5%)	352 (29.7%)	375 (30.2%)	72 (36.7%)	69 (35.9%)	8,248 (25.9%)	8,296 (26.0%)	
20人以上 30人未満	53 (28.2%)	11,771 (34.1%)	552 (33.6%)	541 (34.1%)	576 (34.2%)	469 (38.3%)	453 (38.3%)	478 (38.5%)	59 (30.1%)	59 (30.7%)	10,809 (34.0%)	10,836 (33.9%)	
30人以上	50 (26.6%)	10,194 (29.5%)	226 (13.7%)	216 (13.6%)	228 (13.5%)	221 (18.1%)	217 (18.3%)	222 (17.9%)	14 (7.1%)	14 (7.3%)	9,761 (30.7%)	9,775 (30.6%)	
不明	8 (4.3%)	1,433 (4.2%)	42 (2.6%)	42 (2.6%)	43 (2.6%)	36 (2.9%)	35 (3.0%)	36 (2.9%)	2 (1.0%)	1 (0.5%)	1,357 (4.3%)	1,357 (4.3%)	
合計	188 (100.0%)	34,504 (100.0%)	1,644 (100.0%)	1,585 (100.0%)	1,684 (100.0%)	1,223 (100.0%)	1,184 (100.0%)	1,242 (100.0%)	196 (100.0%)	192 (100.0%)	31,833 (100.0%)	31,927 (100.0%)	

令和元年													
精神科医師(常勤、非常勤の合計) 1人当たりの平均受け持ち患者数	医療機関数 ( )内は該当する区分の比率(%)	在院患者数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	隔離指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)		
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
10人未満	34 (18.1%)	2,178 (6.6%)	316 (18.1%)	319 (18.5%)	326 (18.4%)	91 (28.8%)	98 (9.7%)	99 (9.3%)	43 (23.1%)	44 (23.7%)	1,814 (6.0%)	1,805 (5.9%)	
10人以上 20人未満	56 (29.8%)	10,809 (32.9%)	725 (41.5%)	712 (41.3%)	738 (41.6%)	410 (23.1%)	406 (40.0%)	419 (39.4%)	91 (48.9%)	91 (48.9%)	9,765 (32.2%)	9,782 (32.2%)	
20人以上 30人未満	48 (25.5%)	9,778 (29.7%)	528 (30.2%)	521 (30.2%)	532 (30.0%)	300 (0.0%)	294 (29.0%)	304 (28.6%)	47 (25.3%)	46 (24.7%)	8,997 (29.7%)	9,009 (29.7%)	
30人以上	50 (26.6%)	10,138 (30.8%)	179 (10.2%)	173 (10.0%)	180 (10.1%)	240 (100.0%)	217 (21.4%)	241 (22.7%)	5 (2.7%)	5 (2.7%)	9,724 (32.1%)	9,753 (32.1%)	
不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
合計	188 (100.0%)	32,903 (100.0%)	1,748 (100.0%)	1,725 (100.0%)	1,776 (100.0%)	1,041 (0.0%)	1,015 (100.0%)	1,063 (100.0%)	186 (100.0%)	186 (100.0%)	30,300 (100.0%)	30,349 (100.0%)	

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 28 隔離・身体的拘束指示患者の在院患者に占める割合（精神科医師 1 人当たりの平均受け持ち患者数の区分別、6 月 30 日 0 時・12 時時点、令和元年と平成 26 年の比較）

平成26年													
精神科医師(常勤、非常勤の合計) 1人当たりの平均受け持ち患者数	医療機関数	在院患者数(人)	隔離指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
10人未満	28	1,935	202 (10.4%)	194 (10.0%)	206 (10.6%)	124 (6.4%)	127 (6.6%)	131 (6.8%)	49 (2.5%)	49 (2.5%)	1,658 (85.7%)	1,663 (85.9%)	
10人以上 20人未満	49	9,171	622 (6.8%)	592 (6.5%)	631 (6.9%)	373 (4.1%)	352 (3.8%)	375 (4.1%)	72 (0.8%)	69 (0.8%)	8,248 (89.9%)	8,296 (90.5%)	
20人以上 30人未満	53	11,771	552 (4.7%)	541 (4.6%)	576 (4.9%)	469 (4.0%)	453 (3.8%)	478 (4.1%)	59 (0.5%)	59 (0.5%)	10,809 (91.8%)	10,836 (92.1%)	
30人以上	50	10,194	226 (2.2%)	216 (2.1%)	228 (2.2%)	221 (2.2%)	217 (2.1%)	222 (2.2%)	14 (0.1%)	14 (0.1%)	9,761 (95.8%)	9,775 (95.9%)	
不明	8	1,433	42 (2.9%)	42 (2.9%)	43 (3.0%)	36 (2.5%)	35 (2.4%)	36 (2.5%)	2 (0.1%)	1 (0.1%)	1,357 (94.7%)	1,357 (94.7%)	
合計	188	34,504	1,644 (4.8%)	1,585 (4.6%)	1,684 (4.9%)	1,223 (3.5%)	1,184 (3.4%)	1,242 (3.6%)	196 (0.6%)	192 (0.6%)	31,833 (92.3%)	31,927 (92.5%)	

令和元年													
精神科医師(常勤、非常勤の合計) 1人当たりの平均受け持ち患者数	医療機関数	在院患者数(人)	隔離指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
10人未満	34	2,178	316 (14.5%)	319 (14.6%)	326 (15.0%)	91 (4.2%)	98 (4.5%)	99 (4.5%)	43 (2.0%)	44 (2.0%)	1,814 (83.3%)	1,805 (82.9%)	
10人以上 20人未満	56	10,809	725 (6.7%)	712 (6.6%)	738 (6.8%)	410 (3.8%)	406 (3.8%)	419 (3.9%)	91 (0.8%)	91 (0.8%)	9,765 (90.3%)	9,782 (90.5%)	
20人以上 30人未満	48	9,778	528 (5.4%)	521 (5.3%)	532 (5.4%)	300 (3.1%)	294 (3.0%)	304 (3.1%)	47 (0.5%)	46 (0.5%)	8,997 (92.0%)	9,009 (92.1%)	
30人以上	50	10,138	179 (1.8%)	173 (1.7%)	180 (1.8%)	240 (2.4%)	217 (2.1%)	241 (2.4%)	5 (0.0%)	5 (0.0%)	9,724 (95.9%)	9,753 (96.2%)	
不明	0	0	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	
合計	188	32,903	1,748 (5.3%)	1,725 (5.2%)	1,776 (5.4%)	1,041 (3.2%)	1,015 (3.1%)	1,063 (3.2%)	186 (0.6%)	186 (0.6%)	30,300 (92.1%)	30,349 (92.2%)	

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定



表 29 隔離・身体的拘束実施患者数と精神科医師 1 人当たりの平均受け持ち患者数の区分別比率（平均受け持ち患者数の区分別、6 月 30 日 0 時・12 時時点、令和元年と平成 21 年の比較）

平成21年												
精神科医師(常勤、非常勤の合計) 1人当たりの平均受け持ち患者数※	医療機関数 ( )内は該当する区分の比率(%)	在院患者数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	隔離実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
10人未満	5 (11.4%)	169 (1.9%)	1 (0.5%)	0 (0.0%)	1 (0.4%)	10 (11.4%)	4 (5.6%)	10 (9.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	158 (1.8%)	165 (1.9%)
10人以上 20人未満	5 (11.4%)	679 (7.6%)	29 (13.1%)	19 (11.4%)	29 (12.7%)	17 (19.3%)	15 (20.8%)	17 (16.7%)	4 (40.0%)	2 (28.6%)	637 (7.3%)	647 (7.4%)
20人以上 30人未満	13 (29.5%)	2,651 (29.5%)	66 (29.7%)	46 (27.5%)	67 (29.3%)	18 (20.5%)	24 (33.3%)	28 (27.5%)	1 (10.0%)	1 (14.3%)	2,568 (29.6%)	2,582 (29.5%)
30人以上	17 (38.6%)	4,180 (46.6%)	83 (37.4%)	61 (36.5%)	86 (37.6%)	29 (33.0%)	17 (23.6%)	33 (32.4%)	2 (20.0%)	2 (28.6%)	4,070 (46.9%)	4,104 (46.9%)
不明	4 (9.1%)	1,295 (14.4%)	43 (19.4%)	41 (24.6%)	46 (20.1%)	14 (15.9%)	12 (16.7%)	14 (13.7%)	3 (30.0%)	2 (28.6%)	1,241 (14.3%)	1,244 (14.2%)
合計	44 (100.0%)	8,974 (100.0%)	222 (100.0%)	167 (100.0%)	229 (100.0%)	88 (100.0%)	72 (100.0%)	102 (100.0%)	10 (100.0%)	7 (100.0%)	8,674 (100.0%)	8,742 (100.0%)

令和元年												
精神科医師(常勤、非常勤の合計) 1人当たりの平均受け持ち患者数※	医療機関数 ( )内は該当する区分の比率(%)	在院患者数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	隔離実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
10人未満	8 (18.2%)	365 (4.5%)	14 (5.1%)	10 (4.4%)	14 (5.0%)	25 (21.6%)	15 (21.7%)	25 (21.2%)	2 (13.3%)	0 (0.0%)	328 (4.3%)	340 (4.4%)
10人以上 20人未満	5 (11.4%)	982 (12.2%)	24 (8.8%)	23 (10.0%)	24 (8.6%)	1 (0.9%)	1 (1.4%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	957 (12.5%)	958 (12.4%)
20人以上 30人未満	13 (29.5%)	3,134 (39.0%)	116 (42.5%)	86 (37.6%)	121 (43.4%)	50 (43.1%)	26 (37.7%)	52 (44.1%)	12 (80.0%)	10 (90.9%)	2,980 (38.9%)	3,032 (39.1%)
30人以上	18 (40.9%)	3,553 (44.2%)	119 (43.6%)	110 (48.0%)	120 (43.0%)	40 (34.5%)	27 (39.1%)	40 (33.9%)	1 (6.7%)	1 (9.1%)	3,395 (44.3%)	3,417 (44.1%)
不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
合計	44 (100.0%)	8,034 (100.0%)	273 (100.0%)	229 (100.0%)	279 (100.0%)	116 (100.0%)	69 (100.0%)	118 (100.0%)	15 (100.0%)	11 (100.0%)	7,660 (100.0%)	7,747 (100.0%)

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 30 隔離・身体的拘束実施患者の在院患者に占める割合（精神科医師 1 人当たりの平均受け持ち患者数の区分別、6 月 30 日 0 時・12 時時点、令和元年と平成 21 年の比較）

平成21年												
精神科医師(常勤、非常勤の合計) 1人当たりの平均受け持ち患者数※	医療機関数	在院患者数(人)	隔離実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
10人未満	5	169	1 (0.6%)	0 (0.0%)	1 (0.6%)	10 (5.9%)	4 (2.4%)	10 (5.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	158 (93.5%)	165 (97.6%)
10人以上 20人未満	5	679	29 (4.3%)	19 (2.8%)	29 (4.3%)	17 (2.5%)	15 (2.2%)	17 (2.5%)	4 (0.6%)	2 (0.3%)	637 (93.8%)	647 (95.3%)
20人以上 30人未満	13	2,651	66 (2.5%)	46 (1.7%)	67 (2.5%)	18 (0.7%)	24 (0.9%)	28 (1.1%)	1 (0.0%)	1 (0.0%)	2,568 (96.9%)	2,582 (97.4%)
30人以上	17	4,180	83 (2.0%)	61 (1.5%)	86 (2.1%)	29 (0.7%)	17 (0.4%)	33 (0.8%)	2 (0.0%)	2 (0.0%)	4,070 (97.4%)	4,104 (98.2%)
不明	4	1,295	43 (3.3%)	41 (3.2%)	46 (3.6%)	14 (1.1%)	12 (0.9%)	14 (1.1%)	3 (0.2%)	2 (0.2%)	1,241 (95.8%)	1,244 (96.1%)
合計	44	8,974	222 (2.5%)	167 (1.9%)	229 (2.6%)	88 (1.0%)	72 (0.8%)	102 (1.1%)	10 (0.1%)	7 (0.1%)	8,674 (96.7%)	8,742 (97.4%)

令和元年												
精神科医師(常勤、非常勤の合計) 1人当たりの平均受け持ち患者数※	医療機関数	在院患者数(人)	隔離実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
10人未満	8	365	14 (3.8%)	10 (2.7%)	14 (3.8%)	25 (6.8%)	15 (4.1%)	25 (6.8%)	2 (0.5%)	0 (0.0%)	328 (89.9%)	340 (93.2%)
10人以上 20人未満	5	982	24 (2.4%)	23 (2.3%)	24 (2.4%)	1 (0.1%)	1 (0.1%)	1 (0.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	957 (97.5%)	958 (97.6%)
20人以上 30人未満	13	3,134	116 (3.7%)	86 (2.7%)	121 (3.9%)	50 (1.6%)	26 (0.8%)	52 (1.7%)	12 (0.4%)	10 (0.3%)	2,980 (95.1%)	3,032 (96.7%)
30人以上	18	3,553	119 (3.3%)	110 (3.1%)	120 (3.4%)	40 (1.1%)	27 (0.8%)	40 (1.1%)	1 (0.0%)	1 (0.0%)	3,395 (95.6%)	3,417 (96.2%)
不明	0	0	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
合計	44	8,034	273 (3.4%)	229 (2.9%)	279 (3.5%)	116 (1.4%)	69 (0.9%)	118 (1.5%)	15 (0.2%)	11 (0.1%)	7,660 (95.3%)	7,747 (96.4%)

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 31 隔離・身体的拘束実施患者数と精神科医師 1 人当たりの平均受け持ち患者数の区分別比率（平均受け持ち患者数の区分別、6 月 30 日 0 時・12 時時点、令和元年と平成 26 年の比較）

平成26年													
精神科医師(常勤、非常勤の合計) 1人当たりの平均受け持ち患者数	医療機関数 ( )内は該当する区分の比率(%)	在院患者数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	隔離実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)		
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
			10人未満	28 (14.9%)	1,935 (5.6%)	195 (12.3%)	158 (13.2%)	202 (12.3%)	118 (10.3%)	106 (12.1%)	127 (10.6%)	44 (24.7%)	40 (27.0%)
10人以上 20人未満	49 (26.1%)	9,171 (26.6%)	622 (39.3%)	449 (37.6%)	631 (38.3%)	361 (31.5%)	280 (32.0%)	368 (30.7%)	68 (38.2%)	58 (39.2%)	8,256 (25.8%)	8,500 (26.1%)	
20人以上 30人未満	53 (28.2%)	11,771 (34.1%)	545 (34.4%)	398 (33.3%)	569 (34.5%)	444 (38.7%)	309 (35.4%)	461 (38.4%)	52 (29.2%)	38 (25.7%)	10,834 (33.9%)	11,102 (34.1%)	
30人以上	50 (26.6%)	10,194 (29.5%)	183 (11.6%)	164 (13.7%)	206 (12.5%)	191 (16.7%)	154 (17.6%)	211 (17.6%)	12 (6.7%)	11 (7.4%)	9,832 (30.8%)	9,887 (30.3%)	
不明	8 (4.3%)	1,433 (4.2%)	38 (2.4%)	25 (2.1%)	39 (2.4%)	32 (2.8%)	25 (2.9%)	32 (2.7%)	2 (1.1%)	1 (0.7%)	1,365 (4.3%)	1,384 (4.2%)	
合計	188 (100.0%)	34,504 (100.0%)	1,583 (100.0%)	1,194 (100.0%)	1,647 (100.0%)	1,146 (100.0%)	874 (100.0%)	1,199 (100.0%)	178 (100.0%)	148 (100.0%)	31,953 (100.0%)	32,584 (100.0%)	

令和元年													
精神科医師(常勤、非常勤の合計) 1人当たりの平均受け持ち患者数	医療機関数 ( )内は該当する区分の比率(%)	在院患者数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	隔離実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)		
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
			10人未満	34 (18.1%)	2,178 (6.6%)	308 (18.3%)	252 (19.7%)	321 (18.6%)	83 (8.4%)	79 (9.9%)	91 (8.8%)	41 (23.7%)	31 (22.1%)
10人以上 20人未満	56 (29.8%)	10,809 (32.9%)	715 (42.6%)	559 (43.6%)	728 (42.2%)	383 (38.9%)	328 (41.0%)	411 (39.9%)	85 (49.1%)	72 (51.4%)	9,796 (32.2%)	9,994 (32.3%)	
20人以上 30人未満	48 (25.5%)	9,778 (29.7%)	481 (28.6%)	361 (28.2%)	499 (28.9%)	283 (28.7%)	217 (27.1%)	289 (28.1%)	43 (24.9%)	35 (25.0%)	9,057 (29.8%)	9,235 (29.8%)	
30人以上	50 (26.6%)	10,138 (30.8%)	175 (10.4%)	109 (8.5%)	176 (10.2%)	236 (24.0%)	176 (22.0%)	239 (23.2%)	4 (2.3%)	2 (1.4%)	9,731 (32.0%)	9,855 (31.8%)	
不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
合計	188 (100.0%)	32,903 (100.0%)	1,679 (100.0%)	1,281 (100.0%)	1,724 (100.0%)	985 (100.0%)	800 (100.0%)	1,030 (100.0%)	173 (100.0%)	140 (100.0%)	30,412 (100.0%)	30,962 (100.0%)	

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 32 隔離・身体的拘束実施患者の在院患者に占める割合（精神科医師 1 人当たりの平均受け持ち患者数の区分別、6 月 30 日 0 時・12 時時点、令和元年と平成 26 年の比較）

平成26年													
精神科医師(常勤、非常勤の合計) 1人当たりの平均受け持ち患者数	医療機関数	在院患者数(人)	隔離実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
10人未満	28	1,935	195 (10.1%)	158 (8.2%)	202 (10.4%)	118 (6.1%)	106 (5.5%)	127 (6.6%)	44 (2.3%)	40 (2.1%)	1,666 (86.1%)	1,711 (88.4%)	
10人以上 20人未満	49	9,171	622 (6.8%)	449 (4.9%)	631 (6.9%)	361 (3.9%)	280 (3.1%)	368 (4.0%)	68 (0.7%)	58 (0.6%)	8,256 (90.0%)	8,500 (92.7%)	
20人以上 30人未満	53	11,771	545 (4.6%)	398 (3.4%)	569 (4.8%)	444 (3.8%)	309 (2.6%)	461 (3.9%)	52 (0.4%)	38 (0.3%)	10,834 (92.0%)	11,102 (94.3%)	
30人以上	50	10,194	183 (1.8%)	164 (1.6%)	206 (2.0%)	191 (1.9%)	154 (1.5%)	211 (2.1%)	12 (0.1%)	11 (0.1%)	9,832 (96.4%)	9,887 (97.0%)	
不明	8	1,433	38 (2.7%)	25 (1.7%)	39 (2.7%)	32 (2.2%)	25 (1.7%)	32 (2.2%)	2 (0.1%)	1 (0.1%)	1,365 (95.3%)	1,384 (96.6%)	
合計	188	34,504	1,583 (4.6%)	1,194 (3.5%)	1,647 (4.8%)	1,146 (3.3%)	874 (2.5%)	1,199 (3.5%)	178 (0.5%)	148 (0.4%)	31,953 (92.6%)	32,584 (94.4%)	

令和元年													
精神科医師(常勤、非常勤の合計) 1人当たりの平均受け持ち患者数	医療機関数	在院患者数(人)	隔離実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
10人未満	34	2,178	308 (14.1%)	252 (11.6%)	321 (14.7%)	83 (3.8%)	79 (3.6%)	91 (4.2%)	41 (1.9%)	31 (1.4%)	1,828 (83.9%)	1,878 (86.2%)	
10人以上 20人未満	56	10,809	715 (6.6%)	559 (5.2%)	728 (6.7%)	383 (3.5%)	328 (3.0%)	411 (3.8%)	85 (0.8%)	72 (0.7%)	9,796 (90.6%)	9,994 (92.5%)	
20人以上 30人未満	48	9,778	481 (4.9%)	361 (3.7%)	499 (5.1%)	283 (2.9%)	217 (2.2%)	289 (3.0%)	43 (0.4%)	35 (0.4%)	9,057 (92.6%)	9,235 (94.4%)	
30人以上	50	10,138	175 (1.7%)	109 (1.1%)	176 (1.7%)	236 (2.3%)	176 (1.7%)	239 (2.4%)	4 (0.0%)	2 (0.0%)	9,731 (96.0%)	9,855 (97.2%)	
不明	0	0	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	
合計	188	32,903	1,679 (5.1%)	1,281 (3.9%)	1,724 (5.2%)	985 (3.0%)	800 (2.4%)	1,030 (3.1%)	173 (0.5%)	140 (0.4%)	30,412 (92.4%)	30,962 (94.1%)	

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 33 隔離・身体的拘束指示患者数と精神保健指定医数(常勤、非常勤の合計)の区分別比率(精神保健指定医数の区分別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較)

平成21年										
精神保健指定医数 (常勤、非常勤の合計) ※	医療機関数 ()内は該当する区分の比率(%)	在院患者数(人) ()内は該当する区分の比率(%)	隔離指示あり 人数(人) ()内は該当する区分の比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は該当する区分の比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は該当する区分の比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時
			3人未満	12 (27.3%)	909 (10.1%)	17 (6.7%)	13 (5.2%)	17 (6.5%)	17 (15.0%)	15 (13.5%)
3人以上 5人未満	9 (20.5%)	1,256 (14.0%)	32 (12.6%)	28 (11.2%)	33 (12.6%)	5 (4.4%)	5 (4.5%)	5 (4.3%)	1 (6.7%)	1 (7.7%)
5人以上 10人未満	14 (31.8%)	3,416 (38.1%)	114 (44.9%)	115 (46.0%)	117 (44.8%)	42 (37.2%)	42 (37.8%)	44 (38.3%)	2 (13.3%)	1 (7.7%)
10人以上	5 (11.4%)	2,098 (23.4%)	47 (18.5%)	47 (18.8%)	47 (18.0%)	32 (28.3%)	32 (28.8%)	32 (27.8%)	8 (53.3%)	8 (61.5%)
不明	4 (9.1%)	1,295 (14.4%)	44 (17.3%)	47 (18.8%)	47 (18.0%)	17 (15.0%)	17 (15.3%)	17 (14.8%)	3 (20.0%)	3 (23.1%)
合計	44 (100.0%)	8,974 (100.0%)	254 (100.0%)	250 (100.0%)	261 (100.0%)	113 (100.0%)	111 (100.0%)	115 (100.0%)	15 (100.0%)	13 (100.0%)

令和元年										
精神保健指定医数 (常勤、非常勤の合計) ※	医療機関数 ()内は該当する区分の比率(%)	在院患者数(人) ()内は該当する区分の比率(%)	隔離指示あり 人数(人) ()内は該当する区分の比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は該当する区分の比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は該当する区分の比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時
			3人未満	11 (25.0%)	1,159 (14.4%)	21 (6.5%)	21 (6.5%)	21 (6.5%)	38 (26.8%)	37 (26.2%)
3人以上 5人未満	11 (25.0%)	1,370 (17.1%)	56 (17.4%)	56 (17.4%)	56 (17.3%)	15 (10.6%)	15 (10.6%)	15 (10.6%)	2 (6.7%)	2 (6.7%)
5人以上 10人未満	16 (36.4%)	3,391 (42.2%)	175 (54.5%)	174 (54.2%)	176 (54.5%)	87 (61.3%)	87 (61.7%)	87 (61.3%)	27 (90.0%)	27 (90.0%)
10人以上	6 (13.6%)	2,114 (26.3%)	69 (21.5%)	70 (21.8%)	70 (21.7%)	2 (1.4%)	2 (1.4%)	2 (1.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
合計	44 (100.0%)	8,034 (100.0%)	321 (100.0%)	321 (100.0%)	323 (100.0%)	142 (100.0%)	141 (100.0%)	142 (100.0%)	30 (100.0%)	30 (100.0%)

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 34 隔離・身体的拘束指示患者の在院患者に占める割合（精神保健指定医数の区分別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）

平成21年													
精神保健指定医数 (常勤、非常勤の合計) ※	医療機関数	在院患者数 (人)	隔離指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
			3人未満	12	909	17 (1.9%)	13 (1.4%)	17 (1.9%)	17 (1.9%)	15 (1.7%)	17 (1.9%)	1 (0.1%)	0 (0.0%)
3人以上 5人未満	9	1,256	32 (2.5%)	28 (2.2%)	33 (2.6%)	5 (0.4%)	5 (0.4%)	5 (0.4%)	1 (0.1%)	1 (0.1%)	1,220 (97.1%)	1,224 (97.5%)	
5人以上 10人未満	14	3,416	114 (3.3%)	115 (3.4%)	117 (3.4%)	42 (1.2%)	42 (1.2%)	44 (1.3%)	2 (0.1%)	1 (0.0%)	3,262 (95.5%)	3,260 (95.4%)	
10人以上	5	2,098	47 (2.2%)	47 (2.2%)	47 (2.2%)	32 (1.5%)	32 (1.5%)	32 (1.5%)	8 (0.4%)	8 (0.4%)	2,027 (96.6%)	2,027 (96.6%)	
不明	4	1,295	44 (3.4%)	47 (3.6%)	47 (3.6%)	17 (1.3%)	17 (1.3%)	17 (1.3%)	3 (0.2%)	3 (0.2%)	1,237 (95.5%)	1,234 (95.3%)	
合計	44	8,974	254 (2.8%)	250 (2.8%)	261 (2.9%)	113 (1.3%)	111 (1.2%)	115 (1.3%)	15 (0.2%)	13 (0.1%)	8,622 (96.1%)	8,626 (96.1%)	

令和元年													
精神保健指定医数 (常勤、非常勤の合計) ※	医療機関数	在院患者数 (人)	隔離指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
			3人未満	11	1,159	21 (1.8%)	21 (1.8%)	21 (1.8%)	38 (3.3%)	37 (3.2%)	38 (3.3%)	1 (0.1%)	1 (0.1%)
3人以上 5人未満	11	1,370	56 (4.1%)	56 (4.1%)	56 (4.1%)	15 (1.1%)	15 (1.1%)	15 (1.1%)	2 (0.1%)	2 (0.1%)	1,301 (95.0%)	1,301 (95.0%)	
5人以上 10人未満	16	3,391	175 (5.2%)	174 (5.1%)	176 (5.2%)	87 (2.6%)	87 (2.6%)	87 (2.6%)	27 (0.8%)	27 (0.8%)	3,156 (93.1%)	3,157 (93.1%)	
10人以上	6	2,114	69 (3.3%)	70 (3.3%)	70 (3.3%)	2 (0.1%)	2 (0.1%)	2 (0.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2,043 (96.6%)	2,042 (96.6%)	
不明	0	0	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	
合計	44	8,034	321 (4.0%)	321 (4.0%)	323 (4.0%)	142 (1.8%)	141 (1.8%)	142 (1.8%)	30 (0.4%)	30 (0.4%)	7,601 (94.6%)	7,602 (94.6%)	

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 35 隔離・身体的拘束指示患者数と精神保健指定医数(常勤、非常勤の合計)の区分別比率(精神保健指定医数の区分別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較)

平成26年												
精神保健指定医数 (常勤、非常勤の合計) ※	医療機関数 (0内は該当する区分の比率(%))	在院患者数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	隔離指示あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			身体的拘束指示あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
3人未満	53 (28.2%)	5,550 (16.1%)	98 (6.0%)	93 (5.9%)	99 (5.9%)	150 (12.3%)	143 (12.1%)	156 (12.6%)	23 (11.7%)	23 (12.0%)	5,325 (16.7%)	5,337 (16.7%)
3人以上 5人未満	37 (19.7%)	5,714 (16.6%)	189 (11.5%)	179 (11.3%)	193 (11.5%)	145 (11.9%)	141 (11.9%)	146 (11.8%)	9 (4.6%)	9 (4.7%)	5,389 (16.9%)	5,403 (16.9%)
5人以上 10人未満	66 (35.1%)	14,582 (42.3%)	760 (46.2%)	735 (46.4%)	784 (46.6%)	606 (49.6%)	583 (49.2%)	616 (49.6%)	88 (44.9%)	87 (45.3%)	13,304 (41.8%)	13,351 (41.8%)
10人以上	24 (12.8%)	7,225 (20.9%)	555 (33.8%)	536 (33.8%)	565 (33.6%)	286 (23.4%)	282 (23.8%)	288 (23.2%)	74 (37.8%)	72 (37.5%)	6,458 (20.3%)	6,479 (20.3%)
不明	8 (4.3%)	1,433 (4.2%)	42 (2.6%)	42 (2.6%)	43 (2.6%)	36 (2.9%)	35 (3.0%)	36 (2.9%)	2 (1.0%)	1 (0.5%)	1,357 (4.3%)	1,357 (4.3%)
合計	188 (100.0%)	34,504 (100.0%)	1,644 (100.0%)	1,585 (100.0%)	1,684 (100.0%)	1,223 (100.0%)	1,184 (100.0%)	1,242 (100.0%)	196 (100.0%)	192 (100.0%)	31,833 (100.0%)	31,927 (100.0%)

令和元年												
精神保健指定医数 (常勤、非常勤の合計) ※	医療機関数 (0内は該当する区分の比率(%))	在院患者数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	隔離指示あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			身体的拘束指示あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
3人未満	48 (25.5%)	4,610 (14.0%)	90 (39.6%)	84 (39.7%)	90 (39.9%)	131 (47.8%)	128 (46.6%)	131 (47.9%)	7 (35.5%)	7 (34.4%)	4,396 (14.5%)	4,405 (14.5%)
3人以上 5人未満	44 (23.4%)	6,092 (18.5%)	197 (43.9%)	192 (44.3%)	206 (43.5%)	143 (25.8%)	142 (26.8%)	151 (25.6%)	21 (49.5%)	21 (50.5%)	5,773 (19.1%)	5,779 (19.0%)
5人以上 10人未満	67 (35.6%)	13,777 (41.9%)	693 (0.0%)	685 (0.0%)	708 (0.0%)	498 (0.0%)	473 (0.0%)	509 (0.0%)	66 (0.0%)	64 (0.0%)	12,652 (41.8%)	12,683 (41.8%)
10人以上	29 (15.4%)	8,424 (25.6%)	768 (100.0%)	764 (100.0%)	772 (100.0%)	269 (100.0%)	272 (100.0%)	272 (100.0%)	92 (100.0%)	94 (100.0%)	7,479 (24.7%)	7,482 (24.7%)
不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
合計	188 (100.0%)	32,903 (100.0%)	1,748 (0.0%)	1,725 (0.0%)	1,776 (0.0%)	1,041 (0.0%)	1,015 (0.0%)	1,063 (0.0%)	186 (0.0%)	186 (0.0%)	30,300 (100.0%)	30,349 (100.0%)

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 36 隔離・身体的拘束指示患者の在院患者に占める割合（精神保健指定医数の区分別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）

平成26年													
精神保健指定医数 (常勤、非常勤の合計) ※	医療機関数	在院患者数 (人)	隔離指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
			3人未満	53	5,550	98 (1.8%)	93 (1.7%)	99 (1.8%)	150 (2.7%)	143 (2.6%)	156 (2.8%)	23 (0.4%)	23 (0.4%)
3人以上 5人未満	37	5,714	189 (3.3%)	179 (3.1%)	193 (3.4%)	145 (2.5%)	141 (2.5%)	146 (2.6%)	9 (0.2%)	9 (0.2%)	5,389 (94.3%)	5,403 (94.6%)	
5人以上 10人未満	66	14,582	760 (5.2%)	735 (5.0%)	784 (5.4%)	606 (4.2%)	583 (4.0%)	616 (4.2%)	88 (0.6%)	87 (0.6%)	13,304 (91.2%)	13,351 (91.6%)	
10人以上	24	7,225	555 (7.7%)	536 (7.4%)	565 (7.8%)	286 (4.0%)	282 (3.9%)	288 (4.0%)	74 (1.0%)	72 (1.0%)	6,458 (89.4%)	6,479 (89.7%)	
不明	8	1,433	42 (2.9%)	42 (2.9%)	43 (3.0%)	36 (2.5%)	35 (2.4%)	36 (2.5%)	2 (0.1%)	1 (0.1%)	1,357 (94.7%)	1,357 (94.7%)	
合計	188	34,504	1,644 (4.8%)	1,585 (4.6%)	1,684 (4.9%)	1,223 (3.5%)	1,184 (3.4%)	1,242 (3.6%)	196 (0.6%)	192 (0.6%)	31,833 (92.3%)	31,927 (92.5%)	

令和元年													
精神保健指定医数 (常勤、非常勤の合計) ※	医療機関数	在院患者数 (人)	隔離指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
			3人未満	48	4,610	90 (2.0%)	84 (1.8%)	90 (2.0%)	131 (2.8%)	128 (2.8%)	131 (2.8%)	7 (0.2%)	7 (0.2%)
3人以上 5人未満	44	6,092	197 (3.2%)	192 (3.2%)	206 (3.4%)	143 (2.3%)	142 (2.3%)	151 (2.5%)	21 (0.3%)	21 (0.3%)	5,773 (94.8%)	5,779 (94.9%)	
5人以上 10人未満	67	13,777	693 (5.0%)	685 (5.0%)	708 (5.1%)	498 (3.6%)	473 (3.4%)	509 (3.7%)	66 (0.5%)	64 (0.5%)	12,652 (91.8%)	12,683 (92.1%)	
10人以上	29	8,424	768 (9.1%)	764 (9.1%)	772 (9.2%)	269 (3.2%)	272 (3.2%)	272 (3.2%)	92 (1.1%)	94 (1.1%)	7,479 (88.8%)	7,482 (88.8%)	
不明	0	0	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	
合計	188	32,903	1,748 (5.3%)	1,725 (5.2%)	1,776 (5.4%)	1,041 (3.2%)	1,015 (3.1%)	1,063 (3.2%)	186 (0.6%)	186 (0.6%)	30,300 (92.1%)	30,349 (92.2%)	

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定



表 37 隔離・身体的拘束実施患者数と精神保健指定医数(常勤、非常勤の合計)の区分別比率(精神保健指定医数の区分別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較)

平成21年														
精神保健指定医数 (常勤、非常勤の合計) ※	医療機関数 (0内は該当する区分の比率(%))	在院患者数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	隔離身体的拘束指示なし 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))		隔離実施あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			身体的拘束実施あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	
			0時	12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			3人未満	12 (27.3%)	909 (10.1%)	876 (10.2%)	881 (10.2%)	10 (4.5%)	4 (2.4%)	10 (4.4%)	17 (19.3%)	10 (13.9%)	17 (16.7%)	1 (10.0%)
3人以上 5人未満	9 (20.5%)	1,256 (14.0%)	1,220 (14.1%)	1,224 (14.2%)	32 (14.4%)	17 (10.2%)	33 (14.4%)	5 (5.7%)	4 (5.6%)	5 (4.9%)	1 (10.0%)	1 (14.3%)	1,220 (14.1%)	1,236 (14.1%)
5人以上 10人未満	14 (31.8%)	3,416 (38.1%)	3,262 (37.8%)	3,260 (37.8%)	97 (43.7%)	83 (49.7%)	100 (43.7%)	23 (26.1%)	24 (33.3%)	36 (35.3%)	1 (10.0%)	1 (14.3%)	3,297 (38.0%)	3,310 (37.9%)
10人以上	5 (11.4%)	2,098 (23.4%)	2,027 (23.5%)	2,027 (23.5%)	40 (18.0%)	22 (13.2%)	40 (17.5%)	29 (33.0%)	22 (30.6%)	30 (29.4%)	4 (40.0%)	3 (42.9%)	2,033 (23.4%)	2,057 (23.5%)
不明	4 (9.1%)	1,295 (14.4%)	1,237 (14.3%)	1,234 (14.3%)	43 (19.4%)	41 (24.6%)	46 (20.1%)	14 (15.9%)	12 (16.7%)	14 (13.7%)	3 (30.0%)	2 (28.6%)	1,241 (14.3%)	1,244 (14.2%)
合計	44 (100.0%)	8,974 (100.0%)	8,622 (100.0%)	8,626 (100.0%)	222 (100.0%)	167 (100.0%)	229 (100.0%)	88 (100.0%)	72 (100.0%)	102 (100.0%)	10 (100.0%)	7 (100.0%)	8,674 (100.0%)	8,742 (100.0%)

令和元年														
精神保健指定医数 (常勤、非常勤の合計) ※	医療機関数 (0内は該当する区分の比率(%))	在院患者数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	隔離身体的拘束指示なし 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))		隔離実施あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			身体的拘束実施あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	
			0時	12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			3人未満	11 (25.0%)	1,159 (14.4%)	1,101 (14.5%)	1,102 (14.5%)	18 (6.6%)	11 (4.8%)	18 (6.5%)	38 (32.8%)	19 (27.5%)	38 (32.2%)	1 (6.7%)
3人以上 5人未満	11 (25.0%)	1,370 (17.1%)	1,301 (17.1%)	1,301 (17.1%)	55 (20.1%)	47 (20.5%)	55 (19.7%)	15 (12.9%)	10 (14.5%)	15 (12.7%)	2 (13.3%)	0 (0.0%)	1,302 (17.0%)	1,313 (16.9%)
5人以上 10人未満	16 (36.4%)	3,391 (42.2%)	3,156 (41.5%)	3,157 (41.5%)	131 (48.0%)	104 (45.4%)	136 (48.7%)	61 (52.6%)	38 (55.1%)	63 (53.4%)	12 (80.0%)	10 (90.9%)	3,211 (41.9%)	3,259 (42.1%)
10人以上	6 (13.6%)	2,114 (26.3%)	2,043 (26.9%)	2,042 (26.9%)	69 (25.3%)	67 (29.3%)	70 (25.1%)	2 (1.7%)	2 (2.9%)	2 (1.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2,043 (26.7%)	2,045 (26.4%)
不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
合計	44 (100.0%)	8,034 (100.0%)	7,601 (100.0%)	7,602 (100.0%)	273 (100.0%)	229 (100.0%)	279 (100.0%)	116 (100.0%)	69 (100.0%)	118 (100.0%)	15 (100.0%)	11 (100.0%)	7,660 (100.0%)	7,747 (100.0%)

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 38 隔離・身体的拘束実施患者の在院患者に占める割合（精神保健指定医数の区分別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）

平成21年												
精神保健指定医数 (常勤、非常勤の合計) ※	医療機関数	在院患者数 (人)	隔離実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			3人未満	12	909	10 (1.1%)	4 (0.4%)	10 (1.1%)	17 (1.9%)	10 (1.1%)	17 (1.9%)	1 (0.1%)
3人以上 5人未満	9	1,256	32 (2.5%)	17 (1.4%)	33 (2.6%)	5 (0.4%)	4 (0.3%)	5 (0.4%)	1 (0.1%)	1 (0.1%)	1,220 (97.1%)	1,236 (98.4%)
5人以上 10人未満	14	3,416	97 (2.8%)	83 (2.4%)	100 (2.9%)	23 (0.7%)	24 (0.7%)	36 (1.1%)	1 (0.0%)	1 (0.0%)	3,297 (96.5%)	3,310 (96.9%)
10人以上	5	2,098	40 (1.9%)	22 (1.0%)	40 (1.9%)	29 (1.4%)	22 (1.0%)	30 (1.4%)	4 (0.2%)	3 (0.1%)	2,033 (96.9%)	2,057 (98.0%)
不明	4	1,295	43 (3.3%)	41 (3.2%)	46 (3.6%)	14 (1.1%)	12 (0.9%)	14 (1.1%)	3 (0.2%)	2 (0.2%)	1,241 (95.8%)	1,244 (96.1%)
合計	44	8,974	222 (2.5%)	167 (1.9%)	229 (2.6%)	88 (1.0%)	72 (0.8%)	102 (1.1%)	10 (0.1%)	7 (0.1%)	8,674 (96.7%)	8,742 (97.4%)

令和元年												
精神保健指定医数 (常勤、非常勤の合計) ※	医療機関数	在院患者数 (人)	隔離実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			3人未満	11	1,159	18 (1.6%)	11 (0.9%)	18 (1.6%)	38 (3.3%)	19 (1.6%)	38 (3.3%)	1 (0.1%)
3人以上 5人未満	11	1,370	55 (4.0%)	47 (3.4%)	55 (4.0%)	15 (1.1%)	10 (0.7%)	15 (1.1%)	2 (0.1%)	0 (0.0%)	1,302 (95.0%)	1,313 (95.8%)
5人以上 10人未満	16	3,391	131 (3.9%)	104 (3.1%)	136 (4.0%)	61 (1.8%)	38 (1.1%)	63 (1.9%)	12 (0.4%)	10 (0.3%)	3,211 (94.7%)	3,259 (96.1%)
10人以上	6	2,114	69 (3.3%)	67 (3.2%)	70 (3.3%)	2 (0.1%)	2 (0.1%)	2 (0.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2,043 (96.6%)	2,045 (96.7%)
不明	0	0	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
合計	44	8,034	273 (3.4%)	229 (2.9%)	279 (3.5%)	116 (1.4%)	69 (0.9%)	118 (1.5%)	15 (0.2%)	11 (0.1%)	7,660 (95.3%)	7,747 (96.4%)

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 39 隔離・身体的拘束実施患者数と精神保健指定医数(常勤、非常勤の合計)の区分別比率(精神保健指定医数の区分別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較)

平成26年														
精神保健指定医数 (常勤、非常勤の合計) ※	医療機関数 (0内は該当する区分の比率(%))	在院患者数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	隔離身体的拘束指示なし 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))		隔離実施あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			身体的拘束実施あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	
			0時	12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
3人未満	53 (28.2%)	5,550 (16.1%)	5,325 (16.7%)	5,337 (16.7%)	95 (6.0%)	77 (6.4%)	97 (5.9%)	131 (11.4%)	127 (14.5%)	150 (12.5%)	21 (11.8%)	19 (12.8%)	5,345 (16.7%)	5,365 (16.5%)
3人以上 5人未満	37 (19.7%)	5,714 (16.6%)	5,389 (16.9%)	5,403 (16.9%)	183 (11.6%)	113 (9.5%)	189 (11.5%)	135 (11.8%)	73 (8.4%)	142 (11.8%)	7 (3.9%)	3 (2.0%)	5,403 (16.9%)	5,531 (17.0%)
5人以上 10人未満	66 (35.1%)	14,582 (42.3%)	13,304 (41.8%)	13,351 (41.8%)	756 (47.8%)	570 (47.7%)	780 (47.4%)	588 (51.3%)	453 (51.8%)	604 (50.4%)	82 (46.1%)	69 (46.6%)	13,320 (41.7%)	13,628 (41.8%)
10人以上	24 (12.8%)	7,225 (20.9%)	6,458 (20.3%)	6,479 (20.3%)	511 (32.3%)	409 (34.3%)	542 (32.9%)	260 (22.7%)	196 (22.4%)	271 (22.6%)	66 (37.1%)	56 (37.8%)	6,520 (20.4%)	6,676 (20.5%)
不明	8 (4.3%)	1,433 (4.2%)	1,357 (4.3%)	1,357 (4.3%)	38 (2.4%)	25 (2.1%)	39 (2.4%)	32 (2.8%)	25 (2.9%)	32 (2.7%)	2 (1.1%)	1 (0.7%)	1,365 (4.3%)	1,384 (4.2%)
合計	188 (100.0%)	34,504 (100.0%)	31,833 (100.0%)	31,927 (100.0%)	1,583 (100.0%)	1,194 (100.0%)	1,647 (100.0%)	1,146 (100.0%)	874 (100.0%)	1,199 (100.0%)	178 (100.0%)	148 (100.0%)	31,953 (100.0%)	32,584 (100.0%)

令和元年														
精神保健指定医数 (常勤、非常勤の合計) ※	医療機関数 (0内は該当する区分の比率(%))	在院患者数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	隔離身体的拘束指示なし 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))		隔離実施あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			身体的拘束実施あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	
			0時	12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
3人未満	48 (25.5%)	4,610 (14.0%)	4,396 (14.5%)	4,405 (14.5%)	85 (5.1%)	64 (5.0%)	87 (5.0%)	124 (12.6%)	101 (12.6%)	127 (12.3%)	6 (3.5%)	3 (2.1%)	4,407 (14.5%)	4,448 (14.4%)
3人以上 5人未満	44 (23.4%)	6,092 (18.5%)	5,773 (19.1%)	5,779 (19.0%)	196 (11.7%)	150 (11.7%)	205 (11.9%)	140 (14.2%)	114 (14.3%)	148 (14.4%)	21 (12.1%)	18 (12.9%)	5,777 (19.0%)	5,846 (18.9%)
5人以上 10人未満	67 (35.6%)	13,777 (41.9%)	12,652 (41.8%)	12,683 (41.8%)	683 (40.7%)	513 (40.0%)	698 (40.5%)	472 (47.9%)	382 (47.8%)	494 (48.0%)	60 (34.7%)	50 (35.7%)	12,682 (41.7%)	12,932 (41.8%)
10人以上	29 (15.4%)	8,424 (25.6%)	7,479 (24.7%)	7,482 (24.7%)	715 (42.6%)	554 (43.2%)	734 (42.6%)	249 (25.3%)	203 (25.4%)	261 (25.3%)	86 (49.7%)	69 (49.3%)	7,546 (24.8%)	7,736 (25.0%)
不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
合計	188 (100.0%)	32,903 (100.0%)	30,300 (100.0%)	30,349 (100.0%)	1,679 (100.0%)	1,281 (100.0%)	1,724 (100.0%)	985 (100.0%)	800 (100.0%)	1,030 (100.0%)	173 (100.0%)	140 (100.0%)	30,412 (100.0%)	30,962 (100.0%)

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 40 隔離・身体的拘束実施患者の在院患者に占める割合（精神保健指定医数の区分別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）

平成26年													
精神保健指定医数 (常勤、非常勤の合計) ※	医療機関数	在院患者数 (人)	隔離実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
			3人未満	53	5,550	95 (1.7%)	77 (1.4%)	97 (1.7%)	131 (2.4%)	127 (2.3%)	150 (2.7%)	21 (0.4%)	19 (0.3%)
3人以上 5人未満	37	5,714	183 (3.2%)	113 (2.0%)	189 (3.3%)	135 (2.4%)	73 (1.3%)	142 (2.5%)	7 (0.1%)	3 (0.1%)	5,403 (94.6%)	5,531 (96.8%)	
5人以上 10人未満	66	14,582	756 (5.2%)	570 (3.9%)	780 (5.3%)	588 (4.0%)	453 (3.1%)	604 (4.1%)	82 (0.6%)	69 (0.5%)	13,320 (91.3%)	13,628 (93.5%)	
10人以上	24	7,225	511 (7.1%)	409 (5.7%)	542 (7.5%)	260 (3.6%)	196 (2.7%)	271 (3.8%)	66 (0.9%)	56 (0.8%)	6,520 (90.2%)	6,676 (92.4%)	
不明	8	1,433	38 (2.7%)	25 (1.7%)	39 (2.7%)	32 (2.2%)	25 (1.7%)	32 (2.2%)	2 (0.1%)	1 (0.1%)	1,365 (95.3%)	1,384 (96.6%)	
合計	188	34,504	1,583 (4.6%)	1,194 (3.5%)	1,647 (4.8%)	1,146 (3.3%)	874 (2.5%)	1,199 (3.5%)	178 (0.5%)	148 (0.4%)	31,953 (92.6%)	32,584 (94.4%)	

令和元年													
精神保健指定医数 (常勤、非常勤の合計) ※	医療機関数	在院患者数 (人)	隔離実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
			3人未満	48	4,610	85 (1.8%)	64 (1.4%)	87 (1.9%)	124 (2.7%)	101 (2.2%)	127 (2.8%)	6 (0.1%)	3 (0.1%)
3人以上 5人未満	44	6,092	196 (3.2%)	150 (2.5%)	205 (3.4%)	140 (2.3%)	114 (1.9%)	148 (2.4%)	21 (0.3%)	18 (0.3%)	5,777 (94.8%)	5,846 (96.0%)	
5人以上 10人未満	67	13,777	683 (5.0%)	513 (3.7%)	698 (5.1%)	472 (3.4%)	382 (2.8%)	494 (3.6%)	60 (0.4%)	50 (0.4%)	12,682 (92.1%)	12,932 (93.9%)	
10人以上	29	8,424	715 (8.5%)	554 (6.6%)	734 (8.7%)	249 (3.0%)	203 (2.4%)	261 (3.1%)	86 (1.0%)	69 (0.8%)	7,546 (89.6%)	7,736 (91.8%)	
不明	0	0	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	
合計	188	32,903	1,679 (5.1%)	1,281 (3.9%)	1,724 (5.2%)	985 (3.0%)	800 (2.4%)	1,030 (3.1%)	173 (0.5%)	140 (0.4%)	30,412 (92.4%)	30,962 (94.1%)	

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 41 隔離・身体的拘束指示患者数と精神保健指定医 1 人当たりの平均受け持ち患者数の区分別比率（平均受け持ち患者数の区分別、6 月 30 日 0 時・12 時時点、令和元年と平成 21 年の比較）

平成21年															
精神保健指定医(常勤、非常勤の合計) 1人当たりの平均受け持ち患者数※	医療機関数 (0内は該当する区分の比率(%))	在院患者数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	隔離指示あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))				身体的拘束指示あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))				隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))		
			0時	12時	0時かつ12時	0時または12時	0時	12時	0時かつ12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
			15人未満	7 (15.9%)	329 (3.7%)	21 (8.3%)	16 (6.4%)	16 (6.6%)	21 (8.0%)	10 (8.8%)	8 (7.2%)	8 (7.3%)	10 (8.7%)	2 (13.3%)	0 (0.0%)
15人以上 30人未満	9 (20.5%)	1,772 (19.7%)	50 (19.7%)	50 (20.0%)	50 (20.6%)	50 (19.2%)	34 (30.1%)	34 (30.6%)	34 (31.2%)	34 (29.6%)	4 (26.7%)	4 (30.8%)	1,692 (19.6%)	1,692 (19.6%)	
30人以上 50人未満	18 (40.9%)	3,993 (44.5%)	88 (34.6%)	86 (34.4%)	82 (33.7%)	92 (35.2%)	42 (37.2%)	42 (37.8%)	40 (36.7%)	44 (38.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3,863 (44.8%)	3,865 (44.8%)	
50人以上	6 (13.6%)	1,585 (17.7%)	51 (20.1%)	51 (20.4%)	51 (21.0%)	51 (19.5%)	10 (8.8%)	10 (9.0%)	10 (9.2%)	10 (8.7%)	6 (40.0%)	6 (46.2%)	1,530 (17.7%)	1,530 (17.7%)	
不明	4 (9.1%)	1,295 (14.4%)	44 (17.3%)	47 (18.8%)	44 (18.1%)	47 (18.0%)	17 (15.0%)	17 (15.3%)	17 (15.6%)	17 (14.8%)	3 (20.0%)	3 (23.1%)	1,237 (14.3%)	1,234 (14.3%)	
合計	44 (100.0%)	8,974 (100.0%)	254 (100.0%)	250 (100.0%)	243 (100.0%)	261 (100.0%)	113 (100.0%)	111 (100.0%)	109 (100.0%)	115 (100.0%)	15 (100.0%)	13 (100.0%)	8,622 (100.0%)	8,626 (100.0%)	

令和元年															
精神保健指定医(常勤、非常勤の合計) 1人当たりの平均受け持ち患者数※	医療機関数 (0内は該当する区分の比率(%))	在院患者数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	隔離指示あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))				身体的拘束指示あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))				隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))		
			0時	12時	0時かつ12時	0時または12時	0時	12時	0時かつ12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
			15人未満	5 (11.4%)	152 (1.9%)	13 (4.0%)	13 (4.0%)	13 (4.1%)	13 (4.0%)	12 (8.5%)	12 (8.5%)	12 (8.5%)	12 (8.5%)	2 (6.7%)	2 (6.7%)
15人以上 30人未満	4 (9.1%)	312 (3.9%)	9 (2.8%)	9 (2.8%)	9 (2.8%)	9 (2.8%)	14 (9.9%)	13 (9.2%)	13 (9.2%)	14 (9.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	289 (3.8%)	290 (3.8%)	
30人以上 50人未満	9 (20.5%)	1,810 (22.5%)	93 (29.0%)	94 (29.3%)	93 (29.2%)	94 (29.1%)	43 (30.3%)	43 (30.5%)	43 (30.5%)	43 (30.3%)	14 (46.7%)	14 (46.7%)	1,688 (22.2%)	1,687 (22.2%)	
50人以上	26 (59.1%)	5,760 (71.7%)	206 (64.2%)	205 (63.9%)	204 (63.9%)	207 (64.1%)	73 (51.4%)	73 (51.8%)	73 (51.8%)	73 (51.4%)	14 (46.7%)	14 (46.7%)	5,495 (72.3%)	5,496 (72.3%)	
不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
合計	44 (100.0%)	8,034 (100.0%)	321 (100.0%)	321 (100.0%)	319 (100.0%)	323 (100.0%)	142 (100.0%)	141 (100.0%)	141 (100.0%)	142 (100.0%)	30 (100.0%)	30 (100.0%)	7,601 (100.0%)	7,602 (100.0%)	

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 42 隔離・身体的拘束指示患者の在院患者に占める割合（精神保健指定医1人当たりの平均受け持ち患者数の区別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）

平成21年												
精神保健指定医(常勤、非常勤の合計)1人当たりの平均受け持ち患者数※	医療機関数	在院患者数(人)	隔離指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
15人未満	7	329	21 (6.4%)	16 (4.9%)	21 (6.4%)	10 (3.0%)	8 (2.4%)	10 (3.0%)	2 (0.6%)	0 (0.0%)	300 (91.2%)	305 (92.7%)
15人以上 30人未満	9	1,772	50 (2.8%)	50 (2.8%)	50 (2.8%)	34 (1.9%)	34 (1.9%)	34 (1.9%)	4 (0.2%)	4 (0.2%)	1,692 (95.5%)	1,692 (95.5%)
30人以上 50人未満	18	3,993	88 (2.2%)	86 (2.2%)	92 (2.3%)	42 (1.1%)	42 (1.1%)	44 (1.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3,863 (96.7%)	3,865 (96.8%)
50人以上	6	1,585	51 (3.2%)	51 (3.2%)	51 (3.2%)	10 (0.6%)	10 (0.6%)	10 (0.6%)	6 (0.4%)	6 (0.4%)	1,530 (96.5%)	1,530 (96.5%)
不明	4	1,295	44 (3.4%)	47 (3.6%)	47 (3.6%)	17 (1.3%)	17 (1.3%)	17 (1.3%)	3 (0.2%)	3 (0.2%)	1,237 (95.5%)	1,234 (95.3%)
合計	44	8,974	254 (2.8%)	250 (2.8%)	261 (2.9%)	113 (1.3%)	111 (1.2%)	115 (1.3%)	15 (0.2%)	13 (0.1%)	8,622 (96.1%)	8,626 (96.1%)

令和元年												
精神保健指定医(常勤、非常勤の合計)1人当たりの平均受け持ち患者数※	医療機関数	在院患者数(人)	隔離指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
15人未満	5	152	13 (8.6%)	13 (8.6%)	13 (8.6%)	12 (7.9%)	12 (7.9%)	12 (7.9%)	2 (1.3%)	2 (1.3%)	129 (84.9%)	129 (84.9%)
15人以上 30人未満	4	312	9 (2.9%)	9 (2.9%)	9 (2.9%)	14 (4.5%)	13 (4.2%)	14 (4.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	289 (92.6%)	290 (92.9%)
30人以上 50人未満	9	1,810	93 (5.1%)	94 (5.2%)	94 (5.2%)	43 (2.4%)	43 (2.4%)	43 (2.4%)	14 (0.8%)	14 (0.8%)	1,688 (93.3%)	1,687 (93.2%)
50人以上	26	5,760	206 (3.6%)	205 (3.6%)	207 (3.6%)	73 (1.3%)	73 (1.3%)	73 (1.3%)	14 (0.2%)	14 (0.2%)	5,495 (95.4%)	5,496 (95.4%)
不明	0	0	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
合計	44	8,034	321 (4.0%)	321 (4.0%)	323 (4.0%)	142 (1.8%)	141 (1.8%)	142 (1.8%)	30 (0.4%)	30 (0.4%)	7,601 (94.6%)	7,602 (94.6%)

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 43 隔離・身体的拘束指示患者数と精神保健指定医 1 人当たりの平均受け持ち患者数の区分別比率（平均受け持ち患者数の区分別、6 月 30 日 0 時・12 時時点、令和元年と平成 26 年の比較）

平成26年													
精神保健指定医(常勤、非常勤の合計) 1人当たりの平均受け持ち患者数※	医療機関数 ( )内は該当する区分の比率(%)	在院患者数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	隔離指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)		
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
			15人未満	28 (14.9%)	1,847 (5.4%)	206 (12.5%)	202 (12.7%)	212 (12.6%)	158 (12.9%)	160 (13.5%)	164 (13.2%)	54 (27.6%)	55 (28.6%)
15人以上 30人未満	49 (26.1%)	8,992 (26.1%)	617 (37.5%)	572 (36.1%)	626 (37.2%)	374 (30.6%)	365 (30.8%)	379 (30.5%)	60 (30.6%)	57 (29.7%)	8,061 (25.3%)	8,112 (25.4%)	
30人以上 50人未満	70 (37.2%)	14,748 (42.7%)	593 (36.1%)	595 (37.5%)	616 (36.6%)	419 (34.3%)	400 (33.8%)	426 (34.3%)	57 (29.1%)	57 (29.7%)	13,793 (43.3%)	13,810 (43.3%)	
50人以上	33 (17.6%)	7,484 (21.7%)	186 (11.3%)	174 (11.0%)	187 (11.1%)	236 (19.3%)	224 (18.9%)	237 (19.1%)	23 (11.7%)	22 (11.5%)	7,085 (22.3%)	7,108 (22.3%)	
不明	8 (4.3%)	1,433 (4.2%)	42 (2.6%)	42 (2.6%)	43 (2.6%)	36 (2.9%)	35 (3.0%)	36 (2.9%)	2 (1.0%)	1 (0.5%)	1,357 (4.3%)	1,357 (4.3%)	
合計	188 (100.0%)	34,504 (100.0%)	1,644 (100.0%)	1,585 (100.0%)	1,684 (100.0%)	1,223 (100.0%)	1,184 (100.0%)	1,242 (100.0%)	196 (100.0%)	192 (100.0%)	31,833 (100.0%)	31,927 (100.0%)	

令和元年													
精神保健指定医(常勤、非常勤の合計) 1人当たりの平均受け持ち患者数※	医療機関数 ( )内は該当する区分の比率(%)	在院患者数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	隔離指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)		
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
			15人未満	18 (9.6%)	784 (2.4%)	74 (4.2%)	78 (4.5%)	79 (4.4%)	38 (3.7%)	44 (4.3%)	45 (4.2%)	9 (4.8%)	9 (4.8%)
15人以上 30人未満	29 (15.4%)	3,160 (9.6%)	394 (22.5%)	394 (22.8%)	400 (22.5%)	104 (10.0%)	105 (10.3%)	105 (9.9%)	46 (24.7%)	47 (25.3%)	2,708 (8.9%)	2,708 (8.9%)	
30人以上 50人未満	50 (26.6%)	10,596 (32.2%)	687 (39.3%)	677 (39.2%)	703 (39.6%)	415 (39.9%)	411 (40.5%)	426 (40.1%)	84 (45.2%)	83 (44.6%)	9,578 (31.6%)	9,591 (31.6%)	
50人以上	91 (48.4%)	18,363 (55.8%)	593 (33.9%)	576 (33.4%)	594 (33.4%)	484 (46.5%)	455 (44.8%)	487 (45.8%)	47 (25.3%)	47 (25.3%)	17,333 (57.2%)	17,379 (57.3%)	
不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
合計	188 (100.0%)	32,903 (100.0%)	1,748 (100.0%)	1,725 (100.0%)	1,776 (100.0%)	1,041 (100.0%)	1,015 (100.0%)	1,063 (100.0%)	186 (100.0%)	186 (100.0%)	30,300 (100.0%)	30,349 (100.0%)	

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 44 隔離・身体的拘束指示患者の在院患者に占める割合（精神保健指定医 1 人当たりの平均受け持ち患者数の区分別、6 月 30 日 0 時・12 時時点、令和元年と平成 26 年の比較）

平成26年													
精神保健指定医(常勤、非常勤の合計) 1人当たりの平均受け持ち患者数※	医療機関数	在院患者数(人)	隔離指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
15人未満	28	1,847	206 (11.2%)	202 (10.9%)	212 (11.5%)	158 (8.6%)	160 (8.7%)	164 (8.9%)	54 (2.9%)	55 (3.0%)	1,537 (83.2%)	1,540 (83.4%)	
15人以上 30人未満	49	8,992	617 (6.9%)	572 (6.4%)	626 (7.0%)	374 (4.2%)	365 (4.1%)	379 (4.2%)	60 (0.7%)	57 (0.6%)	8,061 (89.6%)	8,112 (90.2%)	
30人以上 50人未満	70	14,748	593 (4.0%)	595 (4.0%)	616 (4.2%)	419 (2.8%)	400 (2.7%)	426 (2.9%)	57 (0.4%)	57 (0.4%)	13,793 (93.5%)	13,810 (93.6%)	
50人以上	33	7,484	186 (2.5%)	174 (2.3%)	187 (2.5%)	236 (3.2%)	224 (3.0%)	237 (3.2%)	23 (0.3%)	22 (0.3%)	7,085 (94.7%)	7,108 (95.0%)	
不明	8	1,433	42 (2.9%)	42 (2.9%)	43 (3.0%)	36 (2.5%)	35 (2.4%)	36 (2.5%)	2 (0.1%)	1 (0.1%)	1,357 (94.7%)	1,357 (94.7%)	
合計	188	34,504	1,644 (4.8%)	1,585 (4.6%)	1,684 (4.9%)	1,223 (3.5%)	1,184 (3.4%)	1,242 (3.6%)	196 (0.6%)	192 (0.6%)	31,833 (92.3%)	31,927 (92.5%)	

令和元年													
精神保健指定医(常勤、非常勤の合計) 1人当たりの平均受け持ち患者数※	医療機関数	在院患者数(人)	隔離指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
15人未満	18	784	74 (9.4%)	78 (9.9%)	79 (10.1%)	38 (4.8%)	44 (5.6%)	45 (5.7%)	9 (1.1%)	9 (1.1%)	681 (86.9%)	671 (85.6%)	
15人以上 30人未満	29	3,160	394 (12.5%)	394 (12.5%)	400 (12.7%)	104 (3.3%)	105 (3.3%)	105 (3.3%)	46 (1.5%)	47 (1.5%)	2,708 (85.7%)	2,708 (85.7%)	
30人以上 50人未満	50	10,596	687 (6.5%)	677 (6.4%)	703 (6.6%)	415 (3.9%)	411 (3.9%)	426 (4.0%)	84 (0.8%)	83 (0.8%)	9,578 (90.4%)	9,591 (90.5%)	
50人以上	91	18,363	593 (3.2%)	576 (3.1%)	594 (3.2%)	484 (2.6%)	455 (2.5%)	487 (2.7%)	47 (0.3%)	47 (0.3%)	17,333 (94.4%)	17,379 (94.6%)	
不明	0	0	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	
合計	188	32,903	1,748 (5.3%)	1,725 (5.2%)	1,776 (5.4%)	1,041 (3.2%)	1,015 (3.1%)	1,063 (3.2%)	186 (0.6%)	186 (0.6%)	30,300 (92.1%)	30,349 (92.2%)	

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定



表 45 隔離・身体的拘束実施患者数と精神保健指定医 1 人当たりの平均受け持ち患者数の区分別比率（平均受け持ち患者数の区分別、6 月 30 日 0 時・12 時時点、令和元年と平成 21 年の比較）

平成21年												
精神保健指定医(常勤、非常勤の合計) 1人当たりの平均受け持ち患者数※	医療機関数 ( )内は該当する区分の比率(%)	在院患者数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	隔離実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
15人未満	7 (15.9%)	329 (3.7%)	12 (5.4%)	7 (4.2%)	12 (5.2%)	9 (10.2%)	7 (9.7%)	9 (8.8%)	1 (10.0%)	0 (0.0%)	309 (3.6%)	315 (3.6%)
15人以上 30人未満	9 (20.5%)	1,772 (19.7%)	49 (22.1%)	35 (21.0%)	49 (21.4%)	24 (27.3%)	30 (41.7%)	34 (33.3%)	4 (40.0%)	3 (42.9%)	1,703 (19.6%)	1,710 (19.6%)
30人以上 50人未満	18 (40.9%)	3,993 (44.5%)	74 (33.3%)	51 (30.5%)	78 (34.1%)	34 (38.6%)	17 (23.6%)	37 (36.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3,885 (44.8%)	3,925 (44.9%)
50人以上	6 (13.6%)	1,585 (17.7%)	44 (19.8%)	33 (19.8%)	44 (19.2%)	7 (8.0%)	6 (8.3%)	8 (7.8%)	2 (20.0%)	2 (28.6%)	1,536 (17.7%)	1,548 (17.7%)
不明	4 (9.1%)	1,295 (14.4%)	43 (19.4%)	41 (24.6%)	46 (20.1%)	14 (15.9%)	12 (16.7%)	14 (13.7%)	3 (30.0%)	2 (28.6%)	1,241 (14.3%)	1,244 (14.2%)
合計	44 (100.0%)	8,974 (100.0%)	222 (100.0%)	167 (100.0%)	229 (100.0%)	88 (100.0%)	72 (100.0%)	102 (100.0%)	10 (100.0%)	7 (100.0%)	8,674 (100.0%)	8,742 (100.0%)

令和元年												
精神保健指定医(常勤、非常勤の合計) 1人当たりの平均受け持ち患者数※	医療機関数 ( )内は該当する区分の比率(%)	在院患者数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	隔離実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
15人未満	5 (11.4%)	152 (1.9%)	11 (4.0%)	7 (3.1%)	11 (3.9%)	11 (9.5%)	8 (11.6%)	11 (9.3%)	2 (13.3%)	0 (0.0%)	132 (1.7%)	137 (1.8%)
15人以上 30人未満	4 (9.1%)	312 (3.9%)	6 (2.2%)	6 (2.6%)	6 (2.2%)	14 (12.1%)	7 (10.1%)	14 (11.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	292 (3.8%)	299 (3.9%)
30人以上 50人未満	9 (20.5%)	1,810 (22.5%)	69 (25.3%)	63 (27.5%)	73 (26.2%)	31 (26.7%)	9 (13.0%)	31 (26.3%)	2 (13.3%)	2 (18.2%)	1,712 (22.3%)	1,740 (22.5%)
50人以上	26 (59.1%)	5,760 (71.7%)	187 (68.5%)	153 (66.8%)	189 (67.7%)	60 (51.7%)	45 (65.2%)	62 (52.5%)	11 (73.3%)	9 (81.8%)	5,524 (72.1%)	5,571 (71.9%)
不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
合計	44 (100.0%)	8,034 (100.0%)	273 (100.0%)	229 (100.0%)	279 (100.0%)	116 (100.0%)	69 (100.0%)	118 (100.0%)	15 (100.0%)	11 (100.0%)	7,660 (100.0%)	7,747 (100.0%)

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 46 隔離・身体的拘束実施患者の在院患者に占める割合（精神保健指定医 1 人当たりの平均受け持ち患者数の区分別、6 月 30 日 0 時・12 時時点、令和元年と平成 21 年の比較）

平成21年												
精神保健指定医(常勤、非常勤の合計) 1人当たりの平均受け持ち患者数※	医療機関数	在院患者数(人)	隔離実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
15人未満	7	329	12 (3.6%)	7 (2.1%)	12 (3.6%)	9 (2.7%)	7 (2.1%)	9 (2.7%)	1 (0.3%)	0 (0.0%)	309 (93.9%)	315 (95.7%)
15人以上 30人未満	9	1,772	49 (2.8%)	35 (2.0%)	49 (2.8%)	24 (1.4%)	30 (1.7%)	34 (1.9%)	4 (0.2%)	3 (0.2%)	1,703 (96.1%)	1,710 (96.5%)
30人以上 50人未満	18	3,993	74 (1.9%)	51 (1.3%)	78 (2.0%)	34 (0.9%)	17 (0.4%)	37 (0.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3,885 (97.3%)	3,925 (98.3%)
50人以上	6	1,585	44 (2.8%)	33 (2.1%)	44 (2.8%)	7 (0.4%)	6 (0.4%)	8 (0.5%)	2 (0.1%)	2 (0.1%)	1,536 (96.9%)	1,548 (97.7%)
不明	4	1,295	43 (3.3%)	41 (3.2%)	46 (3.6%)	14 (1.1%)	12 (0.9%)	14 (1.1%)	3 (0.2%)	2 (0.2%)	1,241 (95.8%)	1,244 (96.1%)
合計	44	8,974	222 (2.5%)	167 (1.9%)	229 (2.6%)	88 (1.0%)	72 (0.8%)	102 (1.1%)	10 (0.1%)	7 (0.1%)	8,674 (96.7%)	8,742 (97.4%)

令和元年												
精神保健指定医(常勤、非常勤の合計) 1人当たりの平均受け持ち患者数※	医療機関数	在院患者数(人)	隔離実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
15人未満	5	152	11 (7.2%)	7 (4.6%)	11 (7.2%)	11 (7.2%)	8 (5.3%)	11 (7.2%)	2 (1.3%)	0 (0.0%)	132 (86.8%)	137 (90.1%)
15人以上 30人未満	4	312	6 (1.9%)	6 (1.9%)	6 (1.9%)	14 (4.5%)	7 (2.2%)	14 (4.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	292 (93.6%)	299 (95.8%)
30人以上 50人未満	9	1,810	69 (3.8%)	63 (3.5%)	73 (4.0%)	31 (1.7%)	9 (0.5%)	31 (1.7%)	2 (0.1%)	2 (0.1%)	1,712 (94.6%)	1,740 (96.1%)
50人以上	26	5,760	187 (3.2%)	153 (2.7%)	189 (3.3%)	60 (1.0%)	45 (0.8%)	62 (1.1%)	11 (0.2%)	9 (0.2%)	5,524 (95.9%)	5,571 (96.7%)
不明	0	0	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
合計	44	8,034	273 (3.4%)	229 (2.9%)	279 (3.5%)	116 (1.4%)	69 (0.9%)	118 (1.5%)	15 (0.2%)	11 (0.1%)	7,660 (95.3%)	7,747 (96.4%)

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 47 隔離・身体的拘束実施患者数と精神保健指定医 1 人当たりの平均受け持ち患者数の区分別比率（平均受け持ち患者数の区分別、6 月 30 日 0 時・12 時時点、令和元年と平成 26 年の比較）

平成26年												
精神保健指定医(常勤、非常勤の合計) 1人当たりの平均受け持ち患者数※	医療機関数 ( )内は該当する区分の比率(%)	在院患者数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	隔離実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
15人未満	28 (14.9%)	1,847 (5.4%)	200 (12.6%)	163 (13.7%)	209 (12.7%)	155 (13.5%)	134 (15.3%)	163 (13.6%)	52 (29.2%)	48 (32.4%)	1,544 (4.8%)	1,598 (4.9%)
15人以上 30人未満	49 (26.1%)	8,992 (26.1%)	616 (38.9%)	440 (36.9%)	625 (37.9%)	349 (30.5%)	274 (31.4%)	362 (30.2%)	53 (29.8%)	47 (31.8%)	8,080 (25.3%)	8,325 (25.5%)
30人以上 50人未満	70 (37.2%)	14,748 (42.7%)	549 (34.7%)	428 (35.8%)	592 (35.9%)	394 (34.4%)	289 (33.1%)	411 (34.3%)	49 (27.5%)	35 (23.6%)	13,854 (43.4%)	14,066 (43.2%)
50人以上	33 (17.6%)	7,484 (21.7%)	180 (11.4%)	138 (11.6%)	182 (11.1%)	216 (18.8%)	152 (17.4%)	231 (19.3%)	22 (12.4%)	17 (11.5%)	7,110 (22.3%)	7,211 (22.1%)
不明	8 (4.3%)	1,433 (4.2%)	38 (2.4%)	25 (2.1%)	39 (2.4%)	32 (2.8%)	25 (2.9%)	32 (2.7%)	2 (1.1%)	1 (0.7%)	1,365 (4.3%)	1,384 (4.2%)
合計	188 (100.0%)	34,504 (100.0%)	1,583 (100.0%)	1,194 (100.0%)	1,647 (100.0%)	1,146 (100.0%)	874 (100.0%)	1,199 (100.0%)	178 (100.0%)	148 (100.0%)	31,953 (100.0%)	32,584 (100.0%)

令和元年												
精神保健指定医(常勤、非常勤の合計) 1人当たりの平均受け持ち患者数※	医療機関数 ( )内は該当する区分の比率(%)	在院患者数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	隔離実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
15人未満	18 (9.6%)	784 (2.4%)	72 (4.3%)	64 (5.0%)	77 (4.5%)	36 (3.7%)	37 (4.6%)	43 (2.6%)	9 (5.2%)	8 (5.7%)	685 (2.3%)	691 (2.2%)
15人以上 30人未満	29 (15.4%)	3,160 (9.6%)	389 (23.2%)	299 (23.3%)	396 (23.0%)	96 (9.7%)	85 (10.6%)	151 (9.1%)	44 (25.4%)	33 (23.6%)	2,719 (8.9%)	2,809 (9.1%)
30人以上 50人未満	50 (26.6%)	10,596 (32.2%)	671 (40.0%)	538 (42.0%)	687 (39.8%)	379 (38.5%)	328 (41.0%)	677 (40.7%)	77 (44.5%)	67 (47.9%)	9,623 (31.6%)	9,797 (31.6%)
50人以上	91 (48.4%)	18,363 (55.8%)	547 (32.6%)	380 (29.7%)	564 (32.7%)	474 (48.1%)	350 (43.8%)	794 (47.7%)	43 (24.9%)	32 (22.9%)	17,385 (57.2%)	17,665 (57.1%)
不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
合計	188 (100.0%)	32,903 (100.0%)	1,679 (100.0%)	1,281 (100.0%)	1,724 (100.0%)	985 (100.0%)	800 (100.0%)	1,665 (100.0%)	173 (100.0%)	140 (100.0%)	30,412 (100.0%)	30,962 (100.0%)

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 48 隔離・身体的拘束実施患者の在院患者に占める割合（精神保健指定医 1 人当たりの平均受け持ち患者数の区分別、6 月 30 日 0 時・12 時時点、令和元年と平成 26 年の比較）

平成26年													
精神保健指定医(常勤、非常勤の合計) 1人当たりの平均受け持ち患者数※	医療機関数	在院患者数(人)	隔離実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
15人未満	28	1,847	200 (10.8%)	163 (8.8%)	209 (11.3%)	155 (8.4%)	134 (7.3%)	163 (8.8%)	52 (2.8%)	48 (2.6%)	1,544 (83.6%)	1,598 (86.5%)	
15人以上 30人未満	49	8,992	616 (6.9%)	440 (4.9%)	625 (7.0%)	349 (3.9%)	274 (3.0%)	362 (4.0%)	53 (0.6%)	47 (0.5%)	8,080 (89.9%)	8,325 (92.6%)	
30人以上 50人未満	70	14,748	549 (3.7%)	428 (2.9%)	592 (4.0%)	394 (2.7%)	289 (2.0%)	411 (2.8%)	49 (0.3%)	35 (0.2%)	13,854 (93.9%)	14,066 (95.4%)	
50人以上	33	7,484	180 (2.4%)	138 (1.8%)	182 (2.4%)	216 (2.9%)	152 (2.0%)	231 (3.1%)	22 (0.3%)	17 (0.2%)	7,110 (95.0%)	7,211 (96.4%)	
不明	8	1,433	38 (2.7%)	25 (1.7%)	39 (2.7%)	32 (2.2%)	25 (1.7%)	32 (2.2%)	2 (0.1%)	1 (0.1%)	1,365 (95.3%)	1,384 (96.6%)	
合計	188	34,504	1,583 (4.6%)	1,194 (3.5%)	1,647 (4.8%)	1,146 (3.3%)	874 (2.5%)	1,199 (3.5%)	178 (0.5%)	148 (0.4%)	31,953 (92.6%)	32,584 (94.4%)	

令和元年													
精神保健指定医(常勤、非常勤の合計) 1人当たりの平均受け持ち患者数※	医療機関数	在院患者数(人)	隔離実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
15人未満	18	784	72 (9.2%)	64 (8.2%)	77 (9.8%)	36 (4.6%)	37 (4.7%)	43 (5.5%)	9 (1.1%)	8 (1.0%)	685 (87.4%)	691 (88.1%)	
15人以上 30人未満	29	3,160	389 (12.3%)	299 (9.5%)	396 (12.5%)	96 (3.0%)	85 (2.7%)	151 (4.8%)	44 (1.4%)	33 (1.0%)	2,719 (86.0%)	2,809 (88.9%)	
30人以上 50人未満	50	10,596	671 (6.3%)	538 (5.1%)	687 (6.5%)	379 (3.6%)	328 (3.1%)	677 (6.4%)	77 (0.7%)	67 (0.6%)	9,623 (90.8%)	9,797 (92.5%)	
50人以上	91	18,363	547 (3.0%)	380 (2.1%)	564 (3.1%)	474 (2.6%)	350 (1.9%)	794 (4.3%)	43 (0.2%)	32 (0.2%)	17,385 (94.7%)	17,665 (96.2%)	
不明	0	0	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	
合計	188	32,903	1,679 (5.1%)	1,281 (3.9%)	1,724 (5.2%)	985 (3.0%)	800 (2.4%)	1,665 (5.1%)	173 (0.5%)	140 (0.4%)	30,412 (92.4%)	30,962 (94.1%)	

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 49 隔離・身体的拘束指示患者数と6月30日の看護職員数(0時)の区分別比率(看護職員数の区分別、6月30日0時時点、令和元年と平成21年の比較)

平成21年												
6月30日の看護職員数 (0時時点) ※	医療機関数 ( )内は該当する区分の比率(%)	在院患者数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	隔離指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			5人未満	20 (45.5%)	2,030 (22.6%)	51 (20.1%)			24 (21.2%)			2 (13.3%)
5人以上 10人未満	10 (22.7%)	1,923 (21.4%)	57 (22.4%)			45 (39.8%)			4 (26.7%)		1,825 (21.2%)	
10人以上 20人未満	7 (15.9%)	2,656 (29.6%)	74 (29.1%)			26 (23.0%)			6 (40.0%)		2,562 (29.7%)	
20人以上	3 (6.8%)	984 (11.0%)	33 (13.0%)			7 (6.2%)			1 (6.7%)		945 (11.0%)	
不明	4 (9.1%)	1,381 (15.4%)	39 (15.4%)			11 (9.7%)			2 (13.3%)		1,333 (15.5%)	
合計	44 (100.0%)	8,974 (100.0%)	254 (100.0%)			113 (100.0%)			15 (100.0%)		8,622 (100.0%)	

令和元年												
6月30日の看護職員数 (0時時点) ※	医療機関数 ( )内は該当する区分の比率(%)	在院患者数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	隔離指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			5人未満	20 (45.5%)	1,749 (21.8%)	45 (14.0%)			37 (26.1%)			3 (10.0%)
5人以上 10人未満	15 (34.1%)	2,909 (36.2%)	126 (39.3%)			83 (58.5%)			17 (56.7%)		2,717 (35.7%)	
10人以上 20人未満	5 (11.4%)	2,066 (25.7%)	100 (31.2%)			19 (13.4%)			10 (33.3%)		1,957 (25.7%)	
20人以上	4 (9.1%)	1,310 (16.3%)	50 (15.6%)			3 (2.1%)			0 (0.0%)		1,257 (16.5%)	
不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)			0 (0.0%)			0 (0.0%)		0 (0.0%)	
合計	44 (100.0%)	8,034 (100.0%)	321 (100.0%)			142 (100.0%)			30 (100.0%)		7,601 (100.0%)	

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 50 隔離・身体的拘束指示患者の在院患者に占める割合（6月30日の看護職員数（0時）の区別、6月30日0時時点、令和元年と平成21年の比較）

平成21年												
6月30日の看護職員数 （0時時点）※	医療機関数	在院患者数 （人）	隔離指示あり 人数（人）（）内は在院患者比率（%）			身体的拘束指示あり 人数（人）（）内は在院患者比率（%）			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数（人）（）内は在院患者比率（%）		隔離身体的拘束指示なし 人数（人）（）内は在院患者比率（%）	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			5人未満	20	2,030	51 (2.5%)			24 (1.2%)			2 (0.1%)
5人以上 10人未満	10	1,923	57 (3.0%)			45 (2.3%)			4 (0.2%)		1,825 (94.9%)	
10人以上 20人未満	7	2,656	74 (2.8%)			26 (1.0%)			6 (0.2%)		2,562 (96.5%)	
20人以上	3	984	33 (3.4%)			7 (0.7%)			1 (0.1%)		945 (96.0%)	
不明	4	1,381	39 (2.8%)			11 (0.8%)			2 (0.1%)		1,333 (96.5%)	
合計	44	8,974	254 (2.8%)			113 (1.3%)			15 (0.2%)		8,622 (96.1%)	

令和元年												
6月30日の看護職員数 （0時時点）※	医療機関数	在院患者数 （人）	隔離指示あり 人数（人）（）内は在院患者比率（%）			身体的拘束指示あり 人数（人）（）内は在院患者比率（%）			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数（人）（）内は在院患者比率（%）		隔離身体的拘束指示なし 人数（人）（）内は在院患者比率（%）	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			5人未満	20	1,749	45 (2.6%)			37 (2.1%)			3 (0.2%)
5人以上 10人未満	15	2,909	126 (4.3%)			83 (2.9%)			17 (0.6%)		2,717 (93.4%)	
10人以上 20人未満	5	2,066	100 (4.8%)			19 (0.9%)			10 (0.5%)		1,957 (94.7%)	
20人以上	4	1,310	50 (3.8%)			3 (0.2%)			0 (0.0%)		1,257 (96.0%)	
不明	0	0	0 (-)			0 (-)			0 (-)		0 (-)	
合計	44	8,034	321 (4.0%)			142 (1.8%)			30 (0.4%)		7,601 (94.6%)	

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 51 隔離・身体的拘束指示患者数と6月30日の看護職員数（0時）の区分別比率（看護職員数の区分別、6月30日0時時点、令和元年と平成26年の比較）

平成26年												
6月30日の看護職員数 (0時時点) ※	医療機関数 (0内は該当する区分の比率(%))	在院患者数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	隔離指示あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			身体的拘束指示あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			5人未満	56 (29.8%)	4,483 (13.0%)	171 (10.4%)			222 (18.2%)			49 (25.0%)
5人以上 10人未満	67 (35.6%)	13,333 (38.6%)	480 (29.2%)			446 (36.5%)			42 (21.4%)		12,449 (39.1%)	
10人以上 20人未満	38 (20.2%)	10,337 (30.0%)	721 (43.9%)			365 (29.8%)			76 (38.8%)		9,327 (29.3%)	
20人以上	16 (8.5%)	4,727 (13.7%)	189 (11.5%)			165 (13.5%)			22 (11.2%)		4,395 (13.8%)	
不明	11 (5.9%)	1,624 (4.7%)	83 (5.0%)			25 (2.0%)			7 (3.6%)		1,523 (4.8%)	
合計	188 (100.0%)	34,504 (100.0%)	1,644 (100.0%)			1,223 (100.0%)			196 (100.0%)		31,833 (100.0%)	

令和元年												
6月30日の看護職員数 (0時時点) ※	医療機関数 (0内は該当する区分の比率(%))	在院患者数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	隔離指示あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			身体的拘束指示あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			5人未満	58 (30.9%)	4,561 (13.9%)	156 (8.9%)			197 (18.9%)			35 (18.8%)
5人以上 10人未満	72 (38.3%)	13,018 (39.6%)	554 (31.7%)			309 (29.7%)			49 (26.3%)		12,204 (40.3%)	
10人以上 20人未満	39 (20.7%)	9,825 (29.9%)	693 (39.6%)			351 (33.7%)			49 (26.3%)		8,830 (29.1%)	
20人以上	19 (10.1%)	5,499 (16.7%)	345 (19.7%)			184 (17.7%)			53 (28.5%)		5,023 (16.6%)	
不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)			0 (0.0%)			0 (0.0%)		0 (0.0%)	
合計	188 (100.0%)	32,903 (100.0%)	1,748 (100.0%)			1,041 (100.0%)			186 (100.0%)		30,300 (100.0%)	

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 52 隔離・身体的拘束指示患者の在院患者に占める割合（6月30日の看護職員数（0時）の区別、6月30日0時時点、令和元年と平成26年の比較）

平成26年												
6月30日の看護職員数 （0時時点）※	医療機関数	在院患者数 （人）	隔離指示あり 人数（人）（）内は在院患者比率（%）			身体的拘束指示あり 人数（人）（）内は在院患者比率（%）			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数（人）（）内は在院患者比率（%）		隔離身体的拘束指示なし 人数（人）（）内は在院患者比率（%）	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			5人未満	56	4,483	171 (3.8%)			222 (5.0%)			49 (1.1%)
5人以上 10人未満	67	13,333	480 (3.6%)			446 (3.3%)			42 (0.3%)		12,449 (93.4%)	
10人以上 20人未満	38	10,337	721 (7.0%)			365 (3.5%)			76 (0.7%)		9,327 (90.2%)	
20人以上	16	4,727	189 (4.0%)			165 (3.5%)			22 (0.5%)		4,395 (93.0%)	
不明	11	1,624	83 (5.1%)			25 (1.5%)			7 (0.4%)		1,523 (93.8%)	
合計	188	34,504	1,644 (4.8%)			1,223 (3.5%)			196 (0.6%)		31,833 (92.3%)	

令和元年												
6月30日の看護職員数 （0時時点）※	医療機関数	在院患者数 （人）	隔離指示あり 人数（人）（）内は在院患者比率（%）			身体的拘束指示あり 人数（人）（）内は在院患者比率（%）			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数（人）（）内は在院患者比率（%）		隔離身体的拘束指示なし 人数（人）（）内は在院患者比率（%）	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			5人未満	58	4,561	156 (3.4%)			197 (4.3%)			35 (0.8%)
5人以上 10人未満	72	13,018	554 (4.3%)			309 (2.4%)			49 (0.4%)		12,204 (93.7%)	
10人以上 20人未満	39	9,825	693 (7.1%)			351 (3.6%)			49 (0.5%)		8,830 (89.9%)	
20人以上	19	5,499	345 (6.3%)			184 (3.3%)			53 (1.0%)		5,023 (91.3%)	
不明	0	0	0 (-)			0 (-)			0 (-)		0 (-)	
合計	188	32,903	1,748 (5.3%)			1,041 (3.2%)			186 (0.6%)		30,300 (92.1%)	

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定



表 53 隔離・身体的拘束実施患者数と6月30日の看護職員数(0時)の区分別比率(看護職員数の区分別、6月30日0時時点、令和元年と平成21年の比較)

平成21年												
6月30日の看護職員数 (0時時点) ※	医療機関数 ( )内は該当する区分の比率(%)	在院患者数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	隔離実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			5人未満	20 (45.5%)	2,030 (22.6%)	35 (15.8%)			18 (20.5%)			1 (10.0%)
5人以上 10人未満	10 (22.7%)	1,923 (21.4%)	51 (23.0%)			33 (37.5%)			4 (40.0%)		1,843 (21.2%)	
10人以上 20人未満	7 (15.9%)	2,656 (29.6%)	65 (29.3%)			19 (21.6%)			2 (20.0%)		2,574 (29.7%)	
20人以上	3 (6.8%)	984 (11.0%)	32 (14.4%)			7 (8.0%)			1 (10.0%)		946 (10.9%)	
不明	4 (9.1%)	1,381 (15.4%)	39 (17.6%)			11 (12.5%)			2 (20.0%)		1,333 (15.4%)	
合計	44 (100.0%)	8,974 (100.0%)	222 (100.0%)			88 (100.0%)			10 (100.0%)		8,674 (100.0%)	

令和元年												
6月30日の看護職員数 (0時時点) ※	医療機関数 ( )内は該当する区分の比率(%)	在院患者数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	隔離実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			5人未満	20 (45.5%)	1,749 (21.8%)	33 (12.1%)			29 (25.0%)			3 (20.0%)
5人以上 10人未満	15 (34.1%)	2,909 (36.2%)	100 (36.6%)			71 (61.2%)			5 (33.3%)		2,743 (35.8%)	
10人以上 20人未満	5 (11.4%)	2,066 (25.7%)	90 (33.0%)			13 (11.2%)			7 (46.7%)		1,970 (25.7%)	
20人以上	4 (9.1%)	1,310 (16.3%)	50 (18.3%)			3 (2.6%)			0 (0.0%)		1,257 (16.4%)	
不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)			0 (0.0%)			0 (0.0%)		0 (0.0%)	
合計	44 (100.0%)	8,034 (100.0%)	273 (100.0%)			116 (100.0%)			15 (100.0%)		7,660 (100.0%)	

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 54 隔離・身体的拘束実施患者の在院患者に占める割合（6月30日の看護職員数（0時）の区別、6月30日0時時点、令和元年と平成21年の比較）

平成21年												
6月30日の看護職員数 （0時時点）※	医療機関数	在院患者数 （人）	隔離実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
5人未満	20	2,030	35 (1.7%)			18 (0.9%)			1 (0.0%)		1,978 (97.4%)	
5人以上 10人未満	10	1,923	51 (2.7%)			33 (1.7%)			4 (0.2%)		1,843 (95.8%)	
10人以上 20人未満	7	2,656	65 (2.4%)			19 (0.7%)			2 (0.1%)		2,574 (96.9%)	
20人以上	3	984	32 (3.3%)			7 (0.7%)			1 (0.1%)		946 (96.1%)	
不明	4	1,381	39 (2.8%)			11 (0.8%)			2 (0.1%)		1,333 (96.5%)	
合計	44	8,974	222 (2.5%)			88 (1.0%)			10 (0.1%)		8,674 (96.7%)	

令和元年												
6月30日の看護職員数 （0時時点）※	医療機関数	在院患者数 （人）	隔離実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
5人未満	20	1,749	33 (1.9%)			29 (1.7%)			3 (0.2%)		1,690 (96.6%)	
5人以上 10人未満	15	2,909	100 (3.4%)			71 (2.4%)			5 (0.2%)		2,743 (94.3%)	
10人以上 20人未満	5	2,066	90 (4.4%)			13 (0.6%)			7 (0.3%)		1,970 (95.4%)	
20人以上	4	1,310	50 (3.8%)			3 (0.2%)			0 (0.0%)		1,257 (96.0%)	
不明	0	0	0 (-)			0 (-)			0 (-)		0 (-)	
合計	44	8,034	273 (3.4%)			116 (1.4%)			15 (0.2%)		7,660 (95.3%)	

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 55 隔離・身体的拘束実施患者数と6月30日の看護職員数(0時)の区分別比率(看護職員数の区分別、6月30日0時時点、令和元年と平成26年の比較)

平成26年												
6月30日の看護職員数 (0時時点) ※	医療機関数 ( )内は該当する区分の比率(%)	在院患者数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	隔離実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			5人未満	56 (29.8%)	4,483 (13.0%)	166 (10.5%)			216 (18.8%)			45 (25.3%)
5人以上 10人未満	67 (35.6%)	13,333 (38.6%)	474 (29.9%)			407 (35.5%)			38 (21.3%)		12,490 (39.1%)	
10人以上 20人未満	38 (20.2%)	10,337 (30.0%)	675 (42.6%)			336 (29.3%)			66 (37.1%)		9,392 (29.4%)	
20人以上	16 (8.5%)	4,727 (13.7%)	189 (11.9%)			165 (14.4%)			22 (12.4%)		4,395 (13.8%)	
不明	11 (5.9%)	1,624 (4.7%)	79 (5.0%)			22 (1.9%)			7 (3.9%)		1,530 (4.8%)	
合計	188 (100.0%)	34,504 (100.0%)	1,583 (100.0%)			1,146 (100.0%)			178 (100.0%)		31,953 (100.0%)	

令和元年												
6月30日の看護職員数 (0時時点) ※	医療機関数 ( )内は該当する区分の比率(%)	在院患者数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	隔離実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			5人未満	58 (30.9%)	4,561 (13.9%)	152 (9.1%)			191 (19.4%)			34 (19.7%)
5人以上 10人未満	72 (38.3%)	13,018 (39.6%)	542 (32.3%)			287 (29.1%)			45 (26.0%)		12,234 (40.2%)	
10人以上 20人未満	39 (20.7%)	9,825 (29.9%)	641 (38.2%)			325 (33.0%)			42 (24.3%)		8,901 (29.3%)	
20人以上	19 (10.1%)	5,499 (16.7%)	344 (20.5%)			182 (18.5%)			52 (30.1%)		5,025 (16.5%)	
不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)			0 (0.0%)			0 (0.0%)		0 (0.0%)	
合計	188 (100.0%)	32,903 (100.0%)	1,679 (100.0%)			985 (100.0%)			173 (100.0%)		30,412 (100.0%)	

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 56 隔離・身体的拘束実施患者の在院患者に占める割合（6月30日の看護職員数（0時）の区分別、6月30日0時時点、令和元年と平成26年の比較）

平成26年												
6月30日の看護職員数 （0時時点）※	医療機関数	在院患者数 （人）	隔離実施あり 人数（人）（）内は在院患者比率（%）			身体的拘束実施あり 人数（人）（）内は在院患者比率（%）			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数（人）（）内は在院患者比率（%）		隔離身体的拘束実施なし 人数（人）（）内は在院患者比率（%）	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			5人未満	56	4,483	166 (3.7%)			216 (4.8%)			45 (1.0%)
5人以上 10人未満	67	13,333	474 (3.6%)			407 (3.1%)			38 (0.3%)		12,490 (93.7%)	
10人以上 20人未満	38	10,337	675 (6.5%)			336 (3.3%)			66 (0.6%)		9,392 (90.9%)	
20人以上	16	4,727	189 (4.0%)			165 (3.5%)			22 (0.5%)		4,395 (93.0%)	
不明	11	1,624	79 (4.9%)			22 (1.4%)			7 (0.4%)		1,530 (94.2%)	
合計	188	34,504	1,583 (4.6%)			1,146 (3.3%)			178 (0.5%)		31,953 (92.6%)	

令和元年												
6月30日の看護職員数 （0時時点）※	医療機関数	在院患者数 （人）	隔離実施あり 人数（人）（）内は在院患者比率（%）			身体的拘束実施あり 人数（人）（）内は在院患者比率（%）			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数（人）（）内は在院患者比率（%）		隔離身体的拘束実施なし 人数（人）（）内は在院患者比率（%）	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			5人未満	58	4,561	152 (3.3%)			191 (4.2%)			34 (0.7%)
5人以上 10人未満	72	13,018	542 (4.2%)			287 (2.2%)			45 (0.3%)		12,234 (94.0%)	
10人以上 20人未満	39	9,825	641 (6.5%)			325 (3.3%)			42 (0.4%)		8,901 (90.6%)	
20人以上	19	5,499	344 (6.3%)			182 (3.3%)			52 (0.9%)		5,025 (91.4%)	
不明	0	0	0 (-)			0 (-)			0 (-)		0 (-)	
合計	188	32,903	1,679 (5.1%)			985 (3.0%)			173 (0.5%)		30,412 (92.4%)	

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 57 隔離・身体的拘束指示患者数と6月30日の看護職員数(12時)の区分別比率(看護職員数の区分別、6月30日12時時点、令和元年と平成21年の比較)

平成21年												
6月30日の看護職員数 (12時時点)※	医療機関数 (0内は該当する区分の比率(%))	在院患者数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	隔離指示あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			身体的拘束指示あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			10人未満	7 (15.9%)	337 (3.8%)		2 (0.8%)			7 (6.3%)		
10人以上 20人未満	9 (20.5%)	835 (9.3%)		20 (8.0%)			11 (9.9%)			1 (7.7%)		805 (9.3%)
20人以上 30人未満	7 (15.9%)	1,276 (14.2%)		38 (15.2%)			27 (24.3%)			3 (23.1%)		1,214 (14.1%)
30人以上	17 (38.6%)	5,145 (57.3%)		148 (59.2%)			55 (49.5%)			7 (53.8%)		4,949 (57.4%)
不明	4 (9.1%)	1,381 (15.4%)		42 (16.8%)			11 (9.9%)			2 (15.4%)		1,330 (15.4%)
合計	44 (100.0%)	8,974 (100.0%)		250 (100.0%)			111 (100.0%)			13 (100.0%)		8,626 (100.0%)

令和元年												
6月30日の看護職員数 (12時時点)※	医療機関数 (0内は該当する区分の比率(%))	在院患者数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	隔離指示あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			身体的拘束指示あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			10人未満	16 (36.4%)	993 (12.4%)		29 (9.0%)			30 (21.3%)		
10人以上 20人未満	9 (20.5%)	1,548 (19.3%)		37 (11.5%)			19 (13.5%)			3 (10.0%)		1,495 (19.7%)
20人以上 30人未満	6 (13.6%)	1,257 (15.6%)		30 (9.3%)			23 (16.3%)			0 (0.0%)		1,204 (15.8%)
30人以上	13 (29.5%)	4,236 (52.7%)		225 (70.1%)			69 (48.9%)			24 (80.0%)		3,966 (52.2%)
不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)		0 (0.0%)			0 (0.0%)			0 (0.0%)		0 (0.0%)
合計	44 (100.0%)	8,034 (100.0%)		321 (100.0%)			141 (100.0%)			30 (100.0%)		7,602 (100.0%)

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 58 隔離・身体的拘束指示患者の在院患者に占める割合（6月30日の看護職員数（12時）の区別、6月30日12時時点、令和元年と平成21年の比較）

平成21年												
6月30日の看護職員数 (12時時点)※	医療機関数	在院患者数 (人)	隔離指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			10人未満	7	337		2 (0.6%)			7 (2.1%)		
10人以上 20人未満	9	835		20 (2.4%)			11 (1.3%)			1 (0.1%)		805 (96.4%)
20人以上 30人未満	7	1,276		38 (3.0%)			27 (2.1%)			3 (0.2%)		1,214 (95.1%)
30人以上	17	5,145		148 (2.9%)			55 (1.1%)			7 (0.1%)		4,949 (96.2%)
不明	4	1,381		42 (3.0%)			11 (0.8%)			2 (0.1%)		1,330 (96.3%)
合計	44	8,974		250 (2.8%)			111 (1.2%)			13 (0.1%)		8,626 (96.1%)

令和元年												
6月30日の看護職員数 (12時時点)※	医療機関数	在院患者数 (人)	隔離指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			10人未満	16	993		29 (2.9%)			30 (3.0%)		
10人以上 20人未満	9	1,548		37 (2.4%)			19 (1.2%)			3 (0.2%)		1,495 (96.6%)
20人以上 30人未満	6	1,257		30 (2.4%)			23 (1.8%)			0 (0.0%)		1,204 (95.8%)
30人以上	13	4,236		225 (5.3%)			69 (1.6%)			24 (0.6%)		3,966 (93.6%)
不明	0	0		0 (-)			0 (-)			0 (-)		0 (-)
合計	44	8,034		321 (4.0%)			141 (1.8%)			30 (0.4%)		7,602 (94.6%)

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 59 隔離・身体的拘束指示患者数と6月30日の看護職員数(12時)の区分別比率(看護職員数の区分別、6月30日12時時点、令和元年と平成26年の比較)

平成26年												
6月30日の看護職員数 (12時時点)※	医療機関数 (0内は該当する区分の比率(%))	在院患者数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	隔離指示あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			身体的拘束指示あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
10人未満	2 (1.1%)	144 (0.4%)		6 (0.4%)			9 (0.8%)			0 (0.0%)		129 (0.4%)
10人以上 20人未満	17 (9.0%)	1,211 (3.5%)		41 (2.6%)			87 (7.3%)			14 (7.3%)		1,097 (3.4%)
20人以上 30人未満	45 (23.9%)	4,199 (12.2%)		134 (8.5%)			142 (12.0%)			33 (17.2%)		3,956 (12.4%)
30人以上	113 (60.1%)	27,326 (79.2%)		1,322 (83.4%)			923 (78.0%)			139 (72.4%)		25,220 (79.0%)
不明	11 (5.9%)	1,624 (4.7%)		82 (5.2%)			23 (1.9%)			6 (3.1%)		1,525 (4.8%)
合計	188 (100.0%)	34,504 (100.0%)		1,585 (100.0%)			1,184 (100.0%)			192 (100.0%)		31,927 (100.0%)

令和元年												
6月30日の看護職員数 (12時時点)※	医療機関数 (0内は該当する区分の比率(%))	在院患者数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	隔離指示あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			身体的拘束指示あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
10人未満	48 (25.5%)	3,620 (11.0%)		129 (7.5%)			219 (21.6%)			25 (13.4%)		3,297 (10.9%)
10人以上 20人未満	62 (33.0%)	9,061 (27.5%)		394 (22.8%)			200 (19.7%)			40 (21.5%)		8,507 (28.0%)
20人以上 30人未満	32 (17.0%)	6,880 (20.9%)		400 (23.2%)			147 (14.5%)			35 (18.8%)		6,368 (21.0%)
30人以上	46 (24.5%)	13,342 (40.5%)		802 (46.5%)			449 (44.2%)			86 (46.2%)		12,177 (40.1%)
不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)		0 (0.0%)			0 (0.0%)			0 (0.0%)		0 (0.0%)
合計	188 (100.0%)	32,903 (100.0%)		1,725 (100.0%)			1,015 (100.0%)			186 (100.0%)		30,349 (100.0%)

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 60 隔離・身体的拘束指示患者の在院患者に占める割合（6月30日の看護職員数（12時）の区別、6月30日12時時点、令和元年と平成26年の比較）

平成26年												
6月30日の看護職員数 (12時時点)※	医療機関数	在院患者数 (人)	隔離指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			10人未満	2	144		6 (4.2%)			9 (6.3%)		
10人以上 20人未満	17	1,211		41 (3.4%)			87 (7.2%)			14 (1.2%)		1,097 (90.6%)
20人以上 30人未満	45	4,199		134 (3.2%)			142 (3.4%)			33 (0.8%)		3,956 (94.2%)
30人以上	113	27,326		1,322 (4.8%)			923 (3.4%)			139 (0.5%)		25,220 (92.3%)
不明	11	1,624		82 (5.0%)			23 (1.4%)			6 (0.4%)		1,525 (93.9%)
合計	188	34,504		1,585 (4.6%)			1,184 (3.4%)			192 (0.6%)		31,927 (92.5%)

令和元年												
6月30日の看護職員数 (12時時点)※	医療機関数	在院患者数 (人)	隔離指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			10人未満	48	3,620		129 (3.6%)			219 (6.0%)		
10人以上 20人未満	62	9,061		394 (4.3%)			200 (2.2%)			40 (0.4%)		8,507 (93.9%)
20人以上 30人未満	32	6,880		400 (5.8%)			147 (2.1%)			35 (0.5%)		6,368 (92.6%)
30人以上	46	13,342		802 (6.0%)			449 (3.4%)			86 (0.6%)		12,177 (91.3%)
不明	0	0		0 (-)			0 (-)			0 (-)		0 (-)
合計	188	32,903		1,725 (5.2%)			1,015 (3.1%)			186 (0.6%)		30,349 (92.2%)

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定



表 61 隔離・身体的拘束実施患者数と6月30日の看護職員数(12時)の区分別比率(看護職員数の区分別、6月30日12時時点、令和元年と平成21年の比較)

平成21年												
6月30日の看護職員数 (12時時点)※	医療機関数 ( )内は該当する区分の比率(%)	在院患者数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	隔離実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			10人未満	7 (15.9%)	337 (3.8%)		1 (0.6%)			2 (2.8%)		
10人以上 20人未満	9 (20.5%)	835 (9.3%)		9 (5.4%)			10 (13.9%)			1 (14.3%)		817 (9.3%)
20人以上 30人未満	7 (15.9%)	1,276 (14.2%)		26 (15.6%)			27 (37.5%)			2 (28.6%)		1,225 (14.0%)
30人以上	17 (38.6%)	5,145 (57.3%)		89 (53.3%)			23 (31.9%)			2 (28.6%)		5,035 (57.6%)
不明	4 (9.1%)	1,381 (15.4%)		42 (25.1%)			10 (13.9%)			2 (28.6%)		1,331 (15.2%)
合計	44 (100.0%)	8,974 (100.0%)		167 (100.0%)			72 (100.0%)			7 (100.0%)		8,742 (100.0%)

令和元年												
6月30日の看護職員数 (12時時点)※	医療機関数 ( )内は該当する区分の比率(%)	在院患者数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	隔離実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			10人未満	16 (36.4%)	993 (12.4%)		20 (8.7%)			19 (27.5%)		
10人以上 20人未満	9 (20.5%)	1,548 (19.3%)		35 (15.3%)			18 (26.1%)			2 (18.2%)		1,497 (19.3%)
20人以上 30人未満	6 (13.6%)	1,257 (15.6%)		19 (8.3%)			10 (14.5%)			0 (0.0%)		1,228 (15.9%)
30人以上	13 (29.5%)	4,236 (52.7%)		155 (67.7%)			22 (31.9%)			8 (72.7%)		4,067 (52.5%)
不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)		0 (0.0%)			0 (0.0%)			0 (0.0%)		0 (0.0%)
合計	44 (100.0%)	8,034 (100.0%)		229 (100.0%)			69 (100.0%)			11 (100.0%)		7,747 (100.0%)

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 62 隔離・身体的拘束実施患者の在院患者に占める割合（6月30日の看護職員数（12時）の区別、6月30日12時時点、令和元年と平成21年の比較）

平成21年												
6月30日の看護職員数 (12時時点)※	医療機関数	在院患者数 (人)	隔離実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			10人未満	7	337		1 (0.3%)			2 (0.6%)		
10人以上 20人未満	9	835		9 (1.1%)			10 (1.2%)			1 (0.1%)		817 (97.8%)
20人以上 30人未満	7	1,276		26 (2.0%)			27 (2.1%)			2 (0.2%)		1,225 (96.0%)
30人以上	17	5,145		89 (1.7%)			23 (0.4%)			2 (0.0%)		5,035 (97.9%)
不明	4	1,381		42 (3.0%)			10 (0.7%)			2 (0.1%)		1,331 (96.4%)
合計	44	8,974		167 (1.9%)			72 (0.8%)			7 (0.1%)		8,742 (97.4%)

令和元年												
6月30日の看護職員数 (12時時点)※	医療機関数	在院患者数 (人)	隔離実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			10人未満	16	993		20 (2.0%)			19 (1.9%)		
10人以上 20人未満	9	1,548		35 (2.3%)			18 (1.2%)			2 (0.1%)		1,497 (96.7%)
20人以上 30人未満	6	1,257		19 (1.5%)			10 (0.8%)			0 (0.0%)		1,228 (97.7%)
30人以上	13	4,236		155 (3.7%)			22 (0.5%)			8 (0.2%)		4,067 (96.0%)
不明	0	0		0 (-)			0 (-)			0 (-)		0 (-)
合計	44	8,034		229 (2.9%)			69 (0.9%)			11 (0.1%)		7,747 (96.4%)

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 63 隔離・身体的拘束実施患者数と6月30日の看護職員数(12時)の区分別比率(看護職員数の区分別、6月30日12時時点、令和元年と平成26年の比較)

平成26年												
6月30日の看護職員数 (12時時点)※	医療機関数 (0内は該当する区分の比率(%))	在院患者数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	隔離実施あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			身体的拘束実施あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
10人未満	2 (1.1%)	144 (0.4%)		5 (0.4%)			9 (1.0%)			0 (0.0%)		130 (0.4%)
10人以上 20人未満	17 (9.0%)	1,211 (3.5%)		39 (3.3%)			81 (9.3%)			12 (8.1%)		1,103 (3.4%)
20人以上 30人未満	45 (23.9%)	4,199 (12.2%)		120 (10.1%)			120 (13.7%)			30 (20.3%)		3,989 (12.2%)
30人以上	113 (60.1%)	27,326 (79.2%)		965 (80.8%)			642 (73.5%)			101 (68.2%)		25,820 (79.2%)
不明	11 (5.9%)	1,624 (4.7%)		65 (5.4%)			22 (2.5%)			5 (3.4%)		1,542 (4.7%)
合計	188 (100.0%)	34,504 (100.0%)		1,194 (100.0%)			874 (100.0%)			148 (100.0%)		32,584 (100.0%)

令和元年												
6月30日の看護職員数 (12時時点)※	医療機関数 (0内は該当する区分の比率(%))	在院患者数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	隔離実施あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			身体的拘束実施あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
10人未満	48 (25.5%)	3,620 (11.0%)		105 (8.2%)			186 (23.3%)			19 (13.6%)		3,348 (10.8%)
10人以上 20人未満	62 (33.0%)	9,061 (27.5%)		282 (22.0%)			160 (20.0%)			33 (23.6%)		8,652 (27.9%)
20人以上 30人未満	32 (17.0%)	6,880 (20.9%)		277 (21.6%)			111 (13.9%)			23 (16.4%)		6,515 (21.0%)
30人以上	46 (24.5%)	13,342 (40.5%)		617 (48.2%)			343 (42.9%)			65 (46.4%)		12,447 (40.2%)
不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)		0 (0.0%)			0 (0.0%)			0 (0.0%)		0 (0.0%)
合計	188 (100.0%)	32,903 (100.0%)		1,281 (100.0%)			800 (100.0%)			140 (100.0%)		30,962 (100.0%)

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 64 隔離・身体的拘束実施患者の在院患者に占める割合（6月30日の看護職員数（12時）の区分別、6月30日12時時点、令和元年と平成26年の比較）

平成26年												
6月30日の看護職員数 (12時時点)※	医療機関数	在院患者数 (人)	隔離実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			10人未満	2	144		5 (3.5%)			9 (6.3%)		
10人以上 20人未満	17	1,211		39 (3.2%)			81 (6.7%)			12 (1.0%)		1,103 (91.1%)
20人以上 30人未満	45	4,199		120 (2.9%)			120 (2.9%)			30 (0.7%)		3,989 (95.0%)
30人以上	113	27,326		965 (3.5%)			642 (2.3%)			101 (0.4%)		25,820 (94.5%)
不明	11	1,624		65 (4.0%)			22 (1.4%)			5 (0.3%)		1,542 (95.0%)
合計	188	34,504		1,194 (3.5%)			874 (2.5%)			148 (0.4%)		32,584 (94.4%)

令和元年												
6月30日の看護職員数 (12時時点)※	医療機関数	在院患者数 (人)	隔離実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			10人未満	48	3,620		105 (2.9%)			186 (5.1%)		
10人以上 20人未満	62	9,061		282 (3.1%)			160 (1.8%)			33 (0.4%)		8,652 (95.5%)
20人以上 30人未満	32	6,880		277 (4.0%)			111 (1.6%)			23 (0.3%)		6,515 (94.7%)
30人以上	46	13,342		617 (4.6%)			343 (2.6%)			65 (0.5%)		12,447 (93.3%)
不明	0	0		0 (-)			0 (-)			0 (-)		0 (-)
合計	188	32,903		1,281 (3.9%)			800 (2.4%)			140 (0.4%)		30,962 (94.1%)

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 65 隔離・身体的拘束指示患者数と6月30日の看護職員1人当たりの受け持ち患者数(0時)の区分別比率(平均受け持ち患者数の区分別、6月30日0時時点、令和元年と平成21年の比較)

平成21年												
6月30日の看護職員1人当たりの平均受け持ち患者数(0時時点)※	医療機関数 ( )内は該当する区分の比率(%)	在院患者数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	隔離指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
10人未満	2 (4.5%)	484 (5.4%)	7 (2.8%)			6 (5.3%)			0 (0.0%)		471 (5.5%)	
10人以上 20人未満	9 (20.5%)	790 (8.8%)	38 (15.0%)			12 (10.6%)			2 (13.3%)		742 (8.6%)	
20人以上 30人未満	15 (34.1%)	2,759 (30.7%)	81 (31.9%)			49 (43.4%)			6 (40.0%)		2,635 (30.6%)	
30人以上	14 (31.8%)	3,560 (39.7%)	89 (35.0%)			35 (31.0%)			5 (33.3%)		3,441 (39.9%)	
不明	4 (9.1%)	1,381 (15.4%)	39 (15.4%)			11 (9.7%)			2 (13.3%)		1,333 (15.5%)	
合計	44 (100.0%)	8,974 (100.0%)	254 (100.0%)			113 (100.0%)			15 (100.0%)		8,622 (100.0%)	

令和元年												
6月30日の看護職員1人当たりの平均受け持ち患者数(0時時点)※	医療機関数 ( )内は該当する区分の比率(%)	在院患者数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	隔離指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
10人未満	7 (15.9%)	867 (10.8%)	23 (7.2%)			11 (7.7%)			0 (0.0%)		833 (11.0%)	
10人以上 20人未満	9 (20.5%)	773 (9.6%)	24 (7.5%)			23 (16.2%)			3 (10.0%)		729 (9.6%)	
20人以上 30人未満	18 (40.9%)	4,338 (54.0%)	232 (72.3%)			78 (54.9%)			21 (70.0%)		4,049 (53.3%)	
30人以上	10 (22.7%)	2,056 (25.6%)	42 (13.1%)			30 (21.1%)			6 (20.0%)		1,990 (26.2%)	
不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)			0 (0.0%)			0 (0.0%)		0 (0.0%)	
合計	44 (100.0%)	8,034 (100.0%)	321 (100.0%)			142 (100.0%)			30 (100.0%)		7,601 (100.0%)	

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 66 隔離・身体的拘束指示患者の在院患者に占める割合（6月30日の看護職員1人当たりの受け持ち患者数（0時）区分別、6月30日0時時点、令和元年と平成21年の比較）

平成21年												
6月30日の看護職員1人当たりの平均受け持ち患者数（0時時点）※	医療機関数	在院患者数（人）	隔離指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
10人未満	2	484	7 (1.4%)			6 (1.2%)			0 (0.0%)		471 (97.3%)	
10人以上 20人未満	9	790	38 (4.8%)			12 (1.5%)			2 (0.3%)		742 (93.9%)	
20人以上 30人未満	15	2,759	81 (2.9%)			49 (1.8%)			6 (0.2%)		2,635 (95.5%)	
30人以上	14	3,560	89 (2.5%)			35 (1.0%)			5 (0.1%)		3,441 (96.7%)	
不明	4	1,381	39 (2.8%)			11 (0.8%)			2 (0.1%)		1,333 (96.5%)	
合計	44	8,974	254 (2.8%)			113 (1.3%)			15 (0.2%)		8,622 (96.1%)	

令和元年												
6月30日の看護職員1人当たりの平均受け持ち患者数（0時時点）※	医療機関数	在院患者数（人）	隔離指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
10人未満	7	867	23 (2.7%)			11 (1.3%)			0 (0.0%)		833 (96.1%)	
10人以上 20人未満	9	773	24 (3.1%)			23 (3.0%)			3 (0.4%)		729 (94.3%)	
20人以上 30人未満	18	4,338	232 (5.3%)			78 (1.8%)			21 (0.5%)		4,049 (93.3%)	
30人以上	10	2,056	42 (2.0%)			30 (1.5%)			6 (0.3%)		1,990 (96.8%)	
不明	0	0	0 (-)			0 (-)			0 (-)		0 (-)	
合計	44	8,034	321 (4.0%)			142 (1.8%)			30 (0.4%)		7,601 (94.6%)	

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 67 隔離・身体的拘束指示患者数と6月30日の看護職員1人当たりの受け持ち患者数(0時)の区分別比率(平均受け持ち患者数の区分別、6月30日0時時点、令和元年と平成26年の比較)

平成26年												
6月30日の看護職員1人当たりの平均受け持ち患者数(0時時点)※	医療機関数 (0内は該当する区分の比率(%))	在院患者数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	隔離指示あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			身体的拘束指示あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
10人未満	24 (12.8%)	3,456 (10.0%)	133 (8.1%)			145 (11.9%)			15 (7.7%)		3,193 (10.0%)	
10人以上 20人未満	44 (23.4%)	5,315 (15.4%)	549 (33.4%)			241 (19.7%)			77 (39.3%)		4,602 (14.5%)	
20人以上 30人未満	70 (37.2%)	15,945 (46.2%)	620 (37.7%)			559 (45.7%)			74 (37.8%)		14,840 (46.6%)	
30人以上	39 (20.7%)	8,164 (23.7%)	259 (15.8%)			253 (20.7%)			23 (11.7%)		7,675 (24.1%)	
不明	11 (5.9%)	1,624 (4.7%)	83 (5.0%)			25 (2.0%)			7 (3.6%)		1,523 (4.8%)	
合計	188 (100.0%)	34,504 (100.0%)	1,644 (100.0%)			1,223 (100.0%)			196 (100.0%)		31,833 (100.0%)	

令和元年												
6月30日の看護職員1人当たりの平均受け持ち患者数(0時時点)※	医療機関数 (0内は該当する区分の比率(%))	在院患者数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	隔離指示あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			身体的拘束指示あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
10人未満	30 (16.0%)	3,508 (10.7%)	240 (13.7%)			151 (14.5%)			30 (16.1%)		3,147 (10.4%)	
10人以上 20人未満	47 (25.0%)	6,123 (18.6%)	543 (31.1%)			257 (24.7%)			45 (24.2%)		5,368 (17.7%)	
20人以上 30人未満	77 (41.0%)	16,768 (51.0%)	772 (44.2%)			450 (43.2%)			94 (50.5%)		15,640 (51.6%)	
30人以上	34 (18.1%)	6,504 (19.8%)	193 (11.0%)			183 (17.6%)			17 (9.1%)		6,145 (20.3%)	
不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)			0 (0.0%)			0 (0.0%)		0 (0.0%)	
合計	188 (100.0%)	32,903 (100.0%)	1,748 (100.0%)			1,041 (100.0%)			186 (100.0%)		30,300 (100.0%)	

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 68 隔離・身体的拘束指示患者の在院患者に占める割合（6月30日の看護職員1人当たりの受け持ち患者数（0時）区分別、6月30日0時時点、令和元年と平成26年の比較）

平成26年												
6月30日の看護職員1人当たりの平均受け持ち患者数（0時時点）※	医療機関数	在院患者数（人）	隔離指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
10人未満	24	3,456	133 (3.8%)			145 (4.2%)			15 (0.4%)		3,193 (92.4%)	
10人以上 20人未満	44	5,315	549 (10.3%)			241 (4.5%)			77 (1.4%)		4,602 (86.6%)	
20人以上 30人未満	70	15,945	620 (3.9%)			559 (3.5%)			74 (0.5%)		14,840 (93.1%)	
30人以上	39	8,164	259 (3.2%)			253 (3.1%)			23 (0.3%)		7,675 (94.0%)	
不明	11	1,624	83 (5.1%)			25 (1.5%)			7 (0.4%)		1,523 (93.8%)	
合計	188	34,504	1,644 (4.8%)			1,223 (3.5%)			196 (0.6%)		31,833 (92.3%)	

令和元年												
6月30日の看護職員1人当たりの平均受け持ち患者数（0時時点）※	医療機関数	在院患者数（人）	隔離指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
10人未満	30	3,508	240 (6.8%)			151 (4.3%)			30 (0.9%)		3,147 (89.7%)	
10人以上 20人未満	47	6,123	543 (8.9%)			257 (4.2%)			45 (0.7%)		5,368 (87.7%)	
20人以上 30人未満	77	16,768	772 (4.6%)			450 (2.7%)			94 (0.6%)		15,640 (93.3%)	
30人以上	34	6,504	193 (3.0%)			183 (2.8%)			17 (0.3%)		6,145 (94.5%)	
不明	0	0	0 (-)			0 (-)			0 (-)		0 (-)	
合計	188	32,903	1,748 (5.3%)			1,041 (3.2%)			186 (0.6%)		30,300 (92.1%)	

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定



表 69 隔離・身体的拘束実施患者数と6月30日の看護職員1人当たりの受け持ち患者数(0時)の区分別比率(平均受け持ち患者数の区分別、6月30日0時時点、令和元年と平成21年の比較)

平成21年												
6月30日の看護職員1人当たりの平均受け持ち患者数(0時時点)※	医療機関数 ( )内は該当する区分の比率(%)	在院患者数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	隔離実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
10人未満	2 (4.5%)	484 (5.4%)	7 (3.2%)			6 (6.8%)			0 (0.0%)		471 (5.4%)	
10人以上 20人未満	9 (20.5%)	790 (8.8%)	30 (13.5%)			9 (10.2%)			2 (20.0%)		753 (8.7%)	
20人以上 30人未満	15 (34.1%)	2,759 (30.7%)	72 (32.4%)			46 (52.3%)			5 (50.0%)		2,646 (30.5%)	
30人以上	14 (31.8%)	3,560 (39.7%)	74 (33.3%)			16 (18.2%)			1 (10.0%)		3,471 (40.0%)	
不明	4 (9.1%)	1,381 (15.4%)	39 (17.6%)			11 (12.5%)			2 (20.0%)		1,333 (15.4%)	
合計	44 (100.0%)	8,974 (100.0%)	222 (100.0%)			88 (100.0%)			10 (100.0%)		8,674 (100.0%)	

令和元年												
6月30日の看護職員1人当たりの平均受け持ち患者数(0時時点)※	医療機関数 ( )内は該当する区分の比率(%)	在院患者数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	隔離実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
10人未満	7 (15.9%)	867 (10.8%)	22 (8.1%)			10 (8.6%)			0 (0.0%)		835 (10.9%)	
10人以上 20人未満	9 (20.5%)	773 (9.6%)	19 (7.0%)			23 (19.8%)			3 (20.0%)		734 (9.6%)	
20人以上 30人未満	18 (40.9%)	4,338 (54.0%)	197 (72.2%)			61 (52.6%)			7 (46.7%)		4,087 (53.4%)	
30人以上	10 (22.7%)	2,056 (25.6%)	35 (12.8%)			22 (19.0%)			5 (33.3%)		2,004 (26.2%)	
不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)			0 (0.0%)			0 (0.0%)		0 (0.0%)	
合計	44 (100.0%)	8,034 (100.0%)	273 (100.0%)			116 (100.0%)			15 (100.0%)		7,660 (100.0%)	

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 70 隔離・身体的拘束実施患者の在院患者に占める割合（6月30日の看護職員1人当たりの受け持ち患者数（0時）区分別、6月30日0時時点、令和元年と平成21年の比較）

平成21年												
6月30日の看護職員1人当たりの平均受け持ち患者数（0時時点）※	医療機関数	在院患者数（人）	隔離実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
10人未満	2	484	7 (1.4%)			6 (1.2%)			0 (0.0%)		471 (97.3%)	
10人以上 20人未満	9	790	30 (3.8%)			9 (1.1%)			2 (0.3%)		753 (95.3%)	
20人以上 30人未満	15	2,759	72 (2.6%)			46 (1.7%)			5 (0.2%)		2,646 (95.9%)	
30人以上	14	3,560	74 (2.1%)			16 (0.4%)			1 (0.0%)		3,471 (97.5%)	
不明	4	1,381	39 (2.8%)			11 (0.8%)			2 (0.1%)		1,333 (96.5%)	
合計	44	8,974	222 (2.5%)			88 (1.0%)			10 (0.1%)		8,674 (96.7%)	

令和元年												
6月30日の看護職員1人当たりの平均受け持ち患者数（0時時点）※	医療機関数	在院患者数（人）	隔離実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
10人未満	7	867	22 (2.5%)			10 (1.2%)			0 (0.0%)		835 (96.3%)	
10人以上 20人未満	9	773	19 (2.5%)			23 (3.0%)			3 (0.4%)		734 (95.0%)	
20人以上 30人未満	18	4,338	197 (4.5%)			61 (1.4%)			7 (0.2%)		4,087 (94.2%)	
30人以上	10	2,056	35 (1.7%)			22 (1.1%)			5 (0.2%)		2,004 (97.5%)	
不明	0	0	0 (-)			0 (-)			0 (-)		0 (-)	
合計	44	8,034	273 (3.4%)			116 (1.4%)			15 (0.2%)		7,660 (95.3%)	

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 71 隔離・身体的拘束実施患者数と6月30日の看護職員1人当たりの受け持ち患者数(0時)の区分別比率(平均受け持ち患者数の区分別、6月30日0時時点、令和元年と平成26年の比較)

平成26年												
6月30日の看護職員1人当たりの平均受け持ち患者数(0時時点)※	医療機関数 (0内は該当する区分の比率(%))	在院患者数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	隔離実施あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			身体的拘束実施あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
10人未満	24 (12.8%)	3,456 (10.0%)	133 (8.4%)			145 (12.7%)			15 (8.4%)		3,193 (10.0%)	
10人以上 20人未満	44 (23.4%)	5,315 (15.4%)	542 (34.2%)			232 (20.2%)			72 (40.4%)		4,613 (14.4%)	
20人以上 30人未満	70 (37.2%)	15,945 (46.2%)	575 (36.3%)			514 (44.9%)			65 (36.5%)		14,921 (46.7%)	
30人以上	39 (20.7%)	8,164 (23.7%)	254 (16.0%)			233 (20.3%)			19 (10.7%)		7,696 (24.1%)	
不明	11 (5.9%)	1,624 (4.7%)	79 (5.0%)			22 (1.9%)			7 (3.9%)		1,530 (4.8%)	
合計	188 (100.0%)	34,504 (100.0%)	1,583 (100.0%)			1,146 (100.0%)			178 (100.0%)		31,953 (100.0%)	

令和元年												
6月30日の看護職員1人当たりの平均受け持ち患者数(0時時点)※	医療機関数 (0内は該当する区分の比率(%))	在院患者数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	隔離実施あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			身体的拘束実施あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
10人未満	30 (16.0%)	3,508 (10.7%)	236 (14.1%)			143 (14.5%)			28 (16.2%)		3,157 (10.4%)	
10人以上 20人未満	47 (25.0%)	6,123 (18.6%)	532 (31.7%)			240 (24.4%)			43 (24.9%)		5,394 (17.7%)	
20人以上 30人未満	77 (41.0%)	16,768 (51.0%)	722 (43.0%)			434 (44.1%)			88 (50.9%)		15,700 (51.6%)	
30人以上	34 (18.1%)	6,504 (19.8%)	189 (11.3%)			168 (17.1%)			14 (8.1%)		6,161 (20.3%)	
不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)			0 (0.0%)			0 (0.0%)		0 (0.0%)	
合計	188 (100.0%)	32,903 (100.0%)	1,679 (100.0%)			985 (100.0%)			173 (100.0%)		30,412 (100.0%)	

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 72 隔離・身体的拘束実施患者の在院患者に占める割合（6月30日の看護職員1人当たりの受け持ち患者数（0時）区分別、6月30日0時時点、令和元年と平成26年の比較）

平成26年												
6月30日の看護職員1人当たりの平均受け持ち患者数（0時時点）※	医療機関数	在院患者数（人）	隔離実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
10人未満	24	3,456	133 (3.8%)			145 (4.2%)			15 (0.4%)		3,193 (92.4%)	
10人以上 20人未満	44	5,315	542 (10.2%)			232 (4.4%)			72 (1.4%)		4,613 (86.8%)	
20人以上 30人未満	70	15,945	575 (3.6%)			514 (3.2%)			65 (0.4%)		14,921 (93.6%)	
30人以上	39	8,164	254 (3.1%)			233 (2.9%)			19 (0.2%)		7,696 (94.3%)	
不明	11	1,624	79 (4.9%)			22 (1.4%)			7 (0.4%)		1,530 (94.2%)	
合計	188	34,504	1,583 (4.6%)			1,146 (3.3%)			178 (0.5%)		31,953 (92.6%)	

令和元年												
6月30日の看護職員1人当たりの平均受け持ち患者数（0時時点）※	医療機関数	在院患者数（人）	隔離実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
10人未満	30	3,508	236 (6.7%)			143 (4.1%)			28 (0.8%)		3,157 (90.0%)	
10人以上 20人未満	47	6,123	532 (8.7%)			240 (3.9%)			43 (0.7%)		5,394 (88.1%)	
20人以上 30人未満	77	16,768	722 (4.3%)			434 (2.6%)			88 (0.5%)		15,700 (93.6%)	
30人以上	34	6,504	189 (2.9%)			168 (2.6%)			14 (0.2%)		6,161 (94.7%)	
不明	0	0	0 (-)			0 (-)			0 (-)		0 (-)	
合計	188	32,903	1,679 (5.1%)			985 (3.0%)			173 (0.5%)		30,412 (92.4%)	

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 73 隔離・身体的拘束指示患者数と6月30日の看護職員1人当たりの受け持ち患者数(12時)の区分別比率(平均受け持ち患者数の区分別、6月30日12時時点、令和元年と平成21年の比較)

平成21年												
6月30日の看護職員1人当たりの平均受け持ち患者数(12時時点)※	医療機関数 (0内は該当する区分の比率(%))	在院患者数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	隔離指示あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			身体的拘束指示あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
5人未満	15 (34.1%)	2,771 (30.9%)		108 (43.2%)			41 (36.9%)			6 (46.2%)		2,628 (30.5%)
5人以上 7人未満	15 (34.1%)	2,500 (27.9%)		70 (28.0%)			23 (20.7%)			1 (7.7%)		2,408 (27.9%)
7人以上 10人未満	7 (15.9%)	1,928 (21.5%)		26 (10.4%)			21 (18.9%)			4 (30.8%)		1,885 (21.9%)
10人以上	3 (6.8%)	394 (4.4%)		4 (1.6%)			15 (13.5%)			0 (0.0%)		375 (4.3%)
不明	4 (9.1%)	1,381 (15.4%)		42 (16.8%)			11 (9.9%)			2 (15.4%)		1,330 (15.4%)
合計	44 (100.0%)	8,974 (100.0%)		250 (100.0%)			111 (100.0%)			13 (100.0%)		8,626 (100.0%)

令和元年												
6月30日の看護職員1人当たりの平均受け持ち患者数(12時時点)※	医療機関数 (0内は該当する区分の比率(%))	在院患者数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	隔離指示あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			身体的拘束指示あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
5人未満	9 (20.5%)	1,612 (20.1%)		78 (24.3%)			63 (44.7%)			19 (63.3%)		1,490 (19.6%)
5人以上 7人未満	8 (18.2%)	1,212 (15.1%)		48 (15.0%)			21 (14.9%)			3 (10.0%)		1,146 (15.1%)
7人以上 10人未満	11 (25.0%)	1,951 (24.3%)		99 (30.8%)			32 (22.7%)			4 (13.3%)		1,824 (24.0%)
10人以上	16 (36.4%)	3,259 (40.6%)		96 (29.9%)			25 (17.7%)			4 (13.3%)		3,142 (41.3%)
不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)		0 (0.0%)			0 (0.0%)			0 (0.0%)		0 (0.0%)
合計	44 (100.0%)	8,034 (100.0%)		321 (100.0%)			141 (100.0%)			30 (100.0%)		7,602 (100.0%)

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 74 隔離・身体的拘束指示患者の在院患者に占める割合（6月30日の看護職員1人当たりの受け持ち患者数（12時）区分別、6月30日12時時点、令和元年と平成21年の比較）

平成21年												
6月30日の看護職員1人当たりの平均受け持ち患者数（12時時点）※	医療機関数	在院患者数（人）	隔離指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
5人未満	15	2,771		108 (3.9%)			41 (1.5%)			6 (0.2%)		2,628 (94.8%)
5人以上 7人未満	15	2,500		70 (2.8%)			23 (0.9%)			1 (0.0%)		2,408 (96.3%)
7人以上 10人未満	7	1,928		26 (1.3%)			21 (1.1%)			4 (0.2%)		1,885 (97.8%)
10人以上	3	394		4 (1.0%)			15 (3.8%)			0 (0.0%)		375 (95.2%)
不明	4	1,381		42 (3.0%)			11 (0.8%)			2 (0.1%)		1,330 (96.3%)
合計	44	8,974		250 (2.8%)			111 (1.2%)			13 (0.1%)		8,626 (96.1%)

令和元年												
6月30日の看護職員1人当たりの平均受け持ち患者数（12時時点）※	医療機関数	在院患者数（人）	隔離指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
5人未満	9	1,612		78 (4.8%)			63 (3.9%)			19 (1.2%)		1,490 (92.4%)
5人以上 7人未満	8	1,212		48 (4.0%)			21 (1.7%)			3 (0.2%)		1,146 (94.6%)
7人以上 10人未満	11	1,951		99 (5.1%)			32 (1.6%)			4 (0.2%)		1,824 (93.5%)
10人以上	16	3,259		96 (2.9%)			25 (0.8%)			4 (0.1%)		3,142 (96.4%)
不明	0	0		0 (-)			0 (-)			0 (-)		0 (-)
合計	44	8,034		321 (4.0%)			141 (1.8%)			30 (0.4%)		7,602 (94.6%)

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 75 隔離・身体的拘束指示患者数と6月30日の看護職員1人当たりの受け持ち患者数(12時)の区分別比率(平均受け持ち患者数の区分別、6月30日12時時点、令和元年と平成26年の比較)

平成26年												
6月30日の看護職員1人当たりの平均受け持ち患者数(12時時点)※	医療機関数 ( )内は該当する区分の比率(%)	在院患者数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	隔離指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
5人未満	61 (32.4%)	8,697 (25.2%)		624 (39.4%)			330 (27.9%)			88 (45.8%)		7,831 (24.5%)
5人以上 7人未満	69 (36.7%)	15,081 (43.7%)		581 (36.7%)			541 (45.7%)			66 (34.4%)		14,025 (43.9%)
7人以上 10人未満	40 (21.3%)	7,843 (22.7%)		278 (17.5%)			238 (20.1%)			29 (15.1%)		7,356 (23.0%)
10人以上	7 (3.7%)	1,259 (3.6%)		20 (1.3%)			52 (4.4%)			3 (1.6%)		1,190 (3.7%)
不明	11 (5.9%)	1,624 (4.7%)		82 (5.2%)			23 (1.9%)			6 (3.1%)		1,525 (4.8%)
合計	188 (100.0%)	34,504 (100.0%)		1,585 (100.0%)			1,184 (100.0%)			192 (100.0%)		31,927 (100.0%)

令和元年												
6月30日の看護職員1人当たりの平均受け持ち患者数(12時時点)※	医療機関数 ( )内は該当する区分の比率(%)	在院患者数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	隔離指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
5人未満	31 (16.5%)	4,474 (13.6%)		302 (17.5%)			191 (18.8%)			39 (21.0%)		4,020 (13.2%)
5人以上 7人未満	33 (17.6%)	4,149 (12.6%)		367 (21.3%)			132 (13.0%)			20 (10.8%)		3,670 (12.1%)
7人以上 10人未満	62 (33.0%)	11,910 (36.2%)		587 (34.0%)			354 (34.9%)			69 (37.1%)		11,038 (36.4%)
10人以上	62 (33.0%)	12,370 (37.6%)		469 (27.2%)			338 (33.3%)			58 (31.2%)		11,621 (38.3%)
不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)		0 (0.0%)			0 (0.0%)			0 (0.0%)		0 (0.0%)
合計	188 (100.0%)	32,903 (100.0%)		1,725 (100.0%)			1,015 (100.0%)			186 (100.0%)		30,349 (100.0%)

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 76 隔離・身体的拘束指示患者の在院患者に占める割合（6月30日の看護職員1人当たりの受け持ち患者数（12時）区分別、6月30日12時時点、令和元年と平成26年の比較）

平成26年												
6月30日の看護職員1人当たりの平均受け持ち患者数（12時時点）※	医療機関数	在院患者数（人）	隔離指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
5人未満	61	8,697		624 (7.2%)			330 (3.8%)			88 (1.0%)		7,831 (90.0%)
5人以上 7人未満	69	15,081		581 (3.9%)			541 (3.6%)			66 (0.4%)		14,025 (93.0%)
7人以上 10人未満	40	7,843		278 (3.5%)			238 (3.0%)			29 (0.4%)		7,356 (93.8%)
10人以上	7	1,259		20 (1.6%)			52 (4.1%)			3 (0.2%)		1,190 (94.5%)
不明	11	1,624		82 (5.0%)			23 (1.4%)			6 (0.4%)		1,525 (93.9%)
合計	188	34,504		1,585 (4.6%)			1,184 (3.4%)			192 (0.6%)		31,927 (92.5%)

令和元年												
6月30日の看護職員1人当たりの平均受け持ち患者数（12時時点）※	医療機関数	在院患者数（人）	隔離指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
5人未満	31	4,474		302 (6.8%)			191 (4.3%)			39 (0.9%)		4,020 (89.9%)
5人以上 7人未満	33	4,149		367 (8.8%)			132 (3.2%)			20 (0.5%)		3,670 (88.5%)
7人以上 10人未満	62	11,910		587 (4.9%)			354 (3.0%)			69 (0.6%)		11,038 (92.7%)
10人以上	62	12,370		469 (3.8%)			338 (2.7%)			58 (0.5%)		11,621 (93.9%)
不明	0	0		0 (-)			0 (-)			0 (-)		0 (-)
合計	188	32,903		1,725 (5.2%)			1,015 (3.1%)			186 (0.6%)		30,349 (92.2%)

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定



表 77 隔離・身体的拘束実施患者数と6月30日の看護職員1人当たりの受け持ち患者数(12時)の区分別比率(平均受け持ち患者数の区分別、6月30日12時時点、令和元年と平成21年の比較)

平成21年												
6月30日の看護職員1人当たりの平均受け持ち患者数(12時時点)※	医療機関数 (0内は該当する区分の比率(%))	在院患者数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	隔離実施あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			身体的拘束実施あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
5人未満	15 (34.1%)	2,771 (30.9%)		58 (34.7%)			19 (26.4%)			2 (28.6%)		2,696 (30.8%)
5人以上 7人未満	15 (34.1%)	2,500 (27.9%)		47 (28.1%)			9 (12.5%)			0 (0.0%)		2,444 (28.0%)
7人以上 10人未満	7 (15.9%)	1,928 (21.5%)		16 (9.6%)			19 (26.4%)			3 (42.9%)		1,896 (21.7%)
10人以上	3 (6.8%)	394 (4.4%)		4 (2.4%)			15 (20.8%)			0 (0.0%)		375 (4.3%)
不明	4 (9.1%)	1,381 (15.4%)		42 (25.1%)			10 (13.9%)			2 (28.6%)		1,331 (15.2%)
合計	44 (100.0%)	8,974 (100.0%)		167 (100.0%)			72 (100.0%)			7 (100.0%)		8,742 (100.0%)

令和元年												
6月30日の看護職員1人当たりの平均受け持ち患者数(12時時点)※	医療機関数 (0内は該当する区分の比率(%))	在院患者数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	隔離実施あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			身体的拘束実施あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
5人未満	9 (20.5%)	1,612 (20.1%)		34 (14.8%)			22 (31.9%)			4 (36.4%)		1,560 (20.1%)
5人以上 7人未満	8 (18.2%)	1,212 (15.1%)		29 (12.7%)			7 (10.1%)			2 (18.2%)		1,178 (15.2%)
7人以上 10人未満	11 (25.0%)	1,951 (24.3%)		75 (32.8%)			17 (24.6%)			2 (18.2%)		1,861 (24.0%)
10人以上	16 (36.4%)	3,259 (40.6%)		91 (39.7%)			23 (33.3%)			3 (27.3%)		3,148 (40.6%)
不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)		0 (0.0%)			0 (0.0%)			0 (0.0%)		0 (0.0%)
合計	44 (100.0%)	8,034 (100.0%)		229 (100.0%)			69 (100.0%)			11 (100.0%)		7,747 (100.0%)

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 78 隔離・身体的拘束実施患者の在院患者に占める割合（6月30日の看護職員1人当たりの受け持ち患者数（12時）区分別、6月30日12時時点、令和元年と平成21年の比較）

平成21年												
6月30日の看護職員1人当たりの平均受け持ち患者数（12時時点）※	医療機関数	在院患者数（人）	隔離実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
5人未満	15	2,771		58 (2.1%)			19 (0.7%)			2 (0.1%)		2,696 (97.3%)
5人以上 7人未満	15	2,500		47 (1.9%)			9 (0.4%)			0 (0.0%)		2,444 (97.8%)
7人以上 10人未満	7	1,928		16 (0.8%)			19 (1.0%)			3 (0.2%)		1,896 (98.3%)
10人以上	3	394		4 (1.0%)			15 (3.8%)			0 (0.0%)		375 (95.2%)
不明	4	1,381		42 (3.0%)			10 (0.7%)			2 (0.1%)		1,331 (96.4%)
合計	44	8,974		167 (1.9%)			72 (0.8%)			7 (0.1%)		8,742 (97.4%)

令和元年												
6月30日の看護職員1人当たりの平均受け持ち患者数（12時時点）※	医療機関数	在院患者数（人）	隔離実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
5人未満	9	1,612		34 (2.1%)			22 (1.4%)			4 (0.2%)		1,560 (96.8%)
5人以上 7人未満	8	1,212		29 (2.4%)			7 (0.6%)			2 (0.2%)		1,178 (97.2%)
7人以上 10人未満	11	1,951		75 (3.8%)			17 (0.9%)			2 (0.1%)		1,861 (95.4%)
10人以上	16	3,259		91 (2.8%)			23 (0.7%)			3 (0.1%)		3,148 (96.6%)
不明	0	0		0 (-)			0 (-)			0 (-)		0 (-)
合計	44	8,034		229 (2.9%)			69 (0.9%)			11 (0.1%)		7,747 (96.4%)

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 79 隔離・身体的拘束実施患者数と6月30日の看護職員1人当たりの受け持ち患者数(12時)の区分別比率(平均受け持ち患者数の区分別、6月30日12時時点、令和元年と平成26年の比較)

平成26年												
6月30日の看護職員1人当たりの平均受け持ち患者数(12時時点)※	医療機関数 (0内は該当する区分の比率(%))	在院患者数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	隔離実施あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			身体的拘束実施あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
5人未満	61 (32.4%)	8,697 (25.2%)		471 (39.4%)			249 (28.5%)			71 (48.0%)		8,048 (24.7%)
5人以上 7人未満	69 (36.7%)	15,081 (43.7%)		443 (37.1%)			382 (43.7%)			50 (33.8%)		14,306 (43.9%)
7人以上 10人未満	40 (21.3%)	7,843 (22.7%)		195 (16.3%)			169 (19.3%)			19 (12.8%)		7,498 (23.0%)
10人以上	7 (3.7%)	1,259 (3.6%)		20 (1.7%)			52 (5.9%)			3 (2.0%)		1,190 (3.7%)
不明	11 (5.9%)	1,624 (4.7%)		65 (5.4%)			22 (2.5%)			5 (3.4%)		1,542 (4.7%)
合計	188 (100.0%)	34,504 (100.0%)		1,194 (100.0%)			874 (100.0%)			148 (100.0%)		32,584 (100.0%)

令和元年												
6月30日の看護職員1人当たりの平均受け持ち患者数(12時時点)※	医療機関数 (0内は該当する区分の比率(%))	在院患者数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	隔離実施あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			身体的拘束実施あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
5人未満	31 (16.5%)	4,474 (13.6%)		249 (19.4%)			152 (19.0%)			30 (21.4%)		4,103 (13.3%)
5人以上 7人未満	33 (17.6%)	4,149 (12.6%)		262 (20.5%)			81 (10.1%)			12 (8.6%)		3,818 (12.3%)
7人以上 10人未満	62 (33.0%)	11,910 (36.2%)		447 (34.9%)			268 (33.5%)			54 (38.6%)		11,249 (36.3%)
10人以上	62 (33.0%)	12,370 (37.6%)		323 (25.2%)			299 (37.4%)			44 (31.4%)		11,792 (38.1%)
不明	0 (0.0%)	0 (0.0%)		0 (0.0%)			0 (0.0%)			0 (0.0%)		0 (0.0%)
合計	188 (100.0%)	32,903 (100.0%)		1,281 (100.0%)			800 (100.0%)			140 (100.0%)		30,962 (100.0%)

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 80 隔離・身体的拘束実施患者の在院患者に占める割合（6月30日の看護職員1人当たりの受け持ち患者数（12時）区分別、6月30日12時時点、令和元年と平成26年の比較）

平成26年												
6月30日の看護職員1人当たりの平均受け持ち患者数（12時時点）※	医療機関数	在院患者数（人）	隔離実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
5人未満	61	8,697		471 (5.4%)			249 (2.9%)			71 (0.8%)		8,048 (92.5%)
5人以上 7人未満	69	15,081		443 (2.9%)			382 (2.5%)			50 (0.3%)		14,306 (94.9%)
7人以上 10人未満	40	7,843		195 (2.5%)			169 (2.2%)			19 (0.2%)		7,498 (95.6%)
10人以上	7	1,259		20 (1.6%)			52 (4.1%)			3 (0.2%)		1,190 (94.5%)
不明	11	1,624		65 (4.0%)			22 (1.4%)			5 (0.3%)		1,542 (95.0%)
合計	188	34,504		1,194 (3.5%)			874 (2.5%)			148 (0.4%)		32,584 (94.4%)

令和元年												
6月30日の看護職員1人当たりの平均受け持ち患者数（12時時点）※	医療機関数	在院患者数（人）	隔離実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
5人未満	31	4,474		249 (5.6%)			152 (3.4%)			30 (0.7%)		4,103 (91.7%)
5人以上 7人未満	33	4,149		262 (6.3%)			81 (2.0%)			12 (0.3%)		3,818 (92.0%)
7人以上 10人未満	62	11,910		447 (3.8%)			268 (2.3%)			54 (0.5%)		11,249 (94.5%)
10人以上	62	12,370		323 (2.6%)			299 (2.4%)			44 (0.4%)		11,792 (95.3%)
不明	0	0		0 (-)			0 (-)			0 (-)		0 (-)
合計	188	32,903		1,281 (3.9%)			800 (2.4%)			140 (0.4%)		30,962 (94.1%)

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 81 隔離・身体的拘束指示患者数と設立主体別比率（設立主体別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）

平成21年													
設立主体別	医療機関数 (0内は該当する区分の比率(%))	在院患者数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	隔離指示あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			身体的拘束指示あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))		
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
			国等設立医療機関	6 (13.6%)	243 (2.7%)	16 (6.3%)	12 (4.8%)	16 (6.1%)	17 (15.0%)	15 (13.5%)	17 (14.8%)	1 (6.7%)	0 (0.0%)
その他の公的医療機関	1 (2.3%)	29 (0.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	29 (0.3%)	29 (0.3%)	
うち 指定病院	1 (2.3%)	29 (0.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	29 (0.3%)	29 (0.3%)	
非指定病院	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
民間、その他医療機関	37 (84.1%)	8,702 (97.0%)	238 (93.7%)	238 (95.2%)	245 (93.9%)	96 (85.0%)	96 (86.5%)	98 (85.2%)	14 (93.3%)	13 (100.0%)	8,382 (97.2%)	8,381 (97.2%)	
うち 指定病院	26 (59.1%)	7,113 (79.3%)	224 (88.2%)	225 (90.0%)	231 (88.5%)	94 (83.2%)	94 (84.7%)	96 (83.5%)	14 (93.3%)	13 (100.0%)	6,809 (79.0%)	6,807 (78.9%)	
非指定病院	11 (25.0%)	1,589 (17.7%)	14 (5.5%)	13 (5.2%)	14 (5.4%)	2 (1.8%)	2 (1.8%)	2 (1.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1,573 (18.2%)	1,574 (18.2%)	
合計	44 (100.0%)	8,974 (100.0%)	254 (100.0%)	250 (100.0%)	261 (100.0%)	113 (100.0%)	111 (100.0%)	115 (100.0%)	15 (100.0%)	13 (100.0%)	8,622 (100.0%)	8,626 (100.0%)	

令和元年													
設立主体別	医療機関数 (0内は該当する区分の比率(%))	在院患者数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	隔離指示あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			身体的拘束指示あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))		
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
			国等設立医療機関	6 (13.6%)	195 (2.4%)	17 (5.3%)	17 (5.3%)	17 (5.3%)	24 (16.9%)	23 (16.3%)	24 (16.9%)	2 (6.7%)	2 (6.7%)
その他の公的医療機関	1 (2.3%)	20 (0.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.7%)	1 (0.7%)	1 (0.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	19 (0.2%)	19 (0.2%)	
うち 指定病院	1 (2.3%)	20 (0.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.7%)	1 (0.7%)	1 (0.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	19 (0.2%)	19 (0.2%)	
非指定病院	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
民間、その他医療機関	37 (84.1%)	7,819 (97.3%)	304 (94.7%)	304 (94.7%)	306 (94.7%)	117 (82.4%)	117 (83.0%)	117 (82.4%)	28 (93.3%)	28 (93.3%)	7,426 (97.7%)	7,426 (97.7%)	
うち 指定病院	26 (59.1%)	6,347 (79.0%)	282 (87.9%)	282 (87.9%)	284 (87.9%)	92 (64.8%)	92 (65.2%)	92 (64.8%)	24 (80.0%)	24 (80.0%)	5,997 (78.9%)	5,997 (78.9%)	
非指定病院	11 (25.0%)	1,472 (18.3%)	22 (6.9%)	22 (6.9%)	22 (6.8%)	25 (17.6%)	25 (17.7%)	25 (17.6%)	4 (13.3%)	4 (13.3%)	1,429 (18.8%)	1,429 (18.8%)	
合計	44 (100.0%)	8,034 (100.0%)	321 (100.0%)	321 (100.0%)	323 (100.0%)	142 (100.0%)	141 (100.0%)	142 (100.0%)	30 (100.0%)	30 (100.0%)	7,601 (100.0%)	7,602 (100.0%)	

表 82 隔離・身体的拘束指示患者の在院患者に占める割合（設立主体別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）

平成21年													
設立主体別	医療機関数	在院患者数 (人)	隔離指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
			国等設立医療機関	6	243	16 (6.6%)	12 (4.9%)	16 (6.6%)	17 (7.0%)	15 (6.2%)	17 (7.0%)	1 (0.4%)	0 (0.0%)
その他の公的医療機関	1	29	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	29 (100.0%)	29 (100.0%)	
うち 指定病院	1	29	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	29 (100.0%)	29 (100.0%)	
非指定病院	0	0	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	
民間、その他医療機関	37	8,702	238 (2.7%)	238 (2.7%)	245 (2.8%)	96 (1.1%)	96 (1.1%)	98 (1.1%)	14 (0.2%)	13 (0.1%)	8,382 (96.3%)	8,381 (96.3%)	
うち 指定病院	26	7,113	224 (3.1%)	225 (3.2%)	231 (3.2%)	94 (1.3%)	94 (1.3%)	96 (1.3%)	14 (0.2%)	13 (0.2%)	6,809 (95.7%)	6,807 (95.7%)	
非指定病院	11	1,589	14 (0.9%)	13 (0.8%)	14 (0.9%)	2 (0.1%)	2 (0.1%)	2 (0.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1,573 (99.0%)	1,574 (99.1%)	
合計	44	8,974	254 (2.8%)	250 (2.8%)	261 (2.9%)	113 (1.3%)	111 (1.2%)	115 (1.3%)	15 (0.2%)	13 (0.1%)	8,622 (96.1%)	8,626 (96.1%)	

令和元年													
設立主体別	医療機関数	在院患者数 (人)	隔離指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
			国等設立医療機関	6	195	17 (8.7%)	17 (8.7%)	17 (8.7%)	24 (12.3%)	23 (11.8%)	24 (12.3%)	2 (1.0%)	2 (1.0%)
その他の公的医療機関	1	20	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (5.0%)	1 (5.0%)	1 (5.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	19 (95.0%)	19 (95.0%)	
うち 指定病院	1	20	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (5.0%)	1 (5.0%)	1 (5.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	19 (95.0%)	19 (95.0%)	
非指定病院	0	0	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	
民間、その他医療機関	37	7,819	304 (3.9%)	304 (3.9%)	306 (3.9%)	117 (1.5%)	117 (1.5%)	117 (1.5%)	28 (0.4%)	28 (0.4%)	7,426 (95.0%)	7,426 (95.0%)	
うち 指定病院	26	6,347	282 (4.4%)	282 (4.4%)	284 (4.5%)	92 (1.4%)	92 (1.4%)	92 (1.4%)	24 (0.4%)	24 (0.4%)	5,997 (94.5%)	5,997 (94.5%)	
非指定病院	11	1,472	22 (1.5%)	22 (1.5%)	22 (1.5%)	25 (1.7%)	25 (1.7%)	25 (1.7%)	4 (0.3%)	4 (0.3%)	1,429 (97.1%)	1,429 (97.1%)	
合計	44	8,034	321 (4.0%)	321 (4.0%)	323 (4.0%)	142 (1.8%)	141 (1.8%)	142 (1.8%)	30 (0.4%)	30 (0.4%)	7,601 (94.6%)	7,602 (94.6%)	

表 83 隔離・身体的拘束指示患者数と設立主体別比率（設立主体別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）

平成26年													
設立主体別	医療機関数 (0内は該当する区分の比率(%))	在院患者数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	隔離指示あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			身体的拘束指示あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))		
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
			国等設立医療機関	28 (14.9%)	3,185 (9.2%)	351 (21.4%)	339 (21.4%)	355 (21.1%)	148 (12.1%)	132 (11.1%)	150 (12.1%)	53 (27.0%)	50 (26.0%)
その他の公的医療機関	19 (10.1%)	1,465 (4.2%)	142 (8.6%)	126 (7.9%)	142 (8.4%)	80 (6.5%)	83 (7.0%)	85 (6.8%)	16 (8.2%)	15 (7.8%)	1,259 (4.0%)	1,271 (4.0%)	
うち 指定病院	14 (7.4%)	1,254 (3.6%)	115 (7.0%)	100 (6.3%)	115 (6.8%)	63 (5.2%)	66 (5.6%)	68 (5.5%)	11 (5.6%)	10 (5.2%)	1,087 (3.4%)	1,098 (3.4%)	
非指定病院	5 (2.7%)	211 (0.6%)	27 (1.6%)	26 (1.6%)	27 (1.6%)	17 (1.4%)	17 (1.4%)	17 (1.4%)	5 (2.6%)	5 (2.6%)	172 (0.5%)	173 (0.5%)	
民間、その他医療機関	141 (75.0%)	29,854 (86.5%)	1,151 (70.0%)	1,120 (70.7%)	1,187 (70.5%)	995 (81.4%)	969 (81.8%)	1,007 (81.1%)	127 (64.8%)	127 (66.1%)	27,835 (87.4%)	27,892 (87.4%)	
うち 指定病院	98 (52.1%)	23,904 (69.3%)	1,076 (65.5%)	1,048 (66.1%)	1,111 (66.0%)	858 (70.2%)	835 (70.5%)	870 (70.0%)	125 (63.8%)	125 (65.1%)	22,095 (69.4%)	22,146 (69.4%)	
非指定病院	43 (22.9%)	5,950 (17.2%)	75 (4.6%)	72 (4.5%)	76 (4.5%)	137 (11.2%)	134 (11.3%)	137 (11.0%)	2 (1.0%)	2 (1.0%)	5,740 (18.0%)	5,746 (18.0%)	
合計	188 (100.0%)	34,504 (100.0%)	1,644 (100.0%)	1,585 (100.0%)	1,684 (100.0%)	1,223 (100.0%)	1,184 (100.0%)	1,242 (100.0%)	196 (100.0%)	192 (100.0%)	31,833 (100.0%)	31,927 (100.0%)	

令和元年													
設立主体別	医療機関数 (0内は該当する区分の比率(%))	在院患者数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	隔離指示あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			身体的拘束指示あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))		
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
			国等設立医療機関	28 (14.9%)	2,911 (8.8%)	357 (20.4%)	354 (20.5%)	361 (20.3%)	100 (9.6%)	99 (9.8%)	102 (9.6%)	28 (15.1%)	28 (15.1%)
その他の公的医療機関	19 (10.1%)	1,307 (4.0%)	148 (8.5%)	138 (8.0%)	153 (8.6%)	62 (6.0%)	66 (6.5%)	68 (6.4%)	17 (9.1%)	17 (9.1%)	1,114 (3.7%)	1,120 (3.7%)	
うち 指定病院	14 (7.4%)	1,113 (3.4%)	129 (7.4%)	118 (6.8%)	133 (7.5%)	54 (5.2%)	59 (5.8%)	60 (5.6%)	16 (8.6%)	17 (9.1%)	946 (3.1%)	953 (3.1%)	
非指定病院	5 (2.7%)	194 (0.6%)	19 (1.1%)	20 (1.2%)	20 (1.1%)	8 (0.8%)	7 (0.7%)	8 (0.8%)	1 (0.5%)	0 (0.0%)	168 (0.6%)	167 (0.6%)	
民間、その他医療機関	141 (75.0%)	28,685 (87.2%)	1,243 (71.1%)	1,233 (71.5%)	1,262 (71.1%)	879 (84.4%)	850 (83.7%)	893 (84.0%)	141 (75.8%)	141 (75.8%)	26,704 (88.1%)	26,743 (88.1%)	
うち 指定病院	98 (52.1%)	22,879 (69.5%)	1,145 (65.5%)	1,141 (66.1%)	1,164 (65.5%)	772 (74.2%)	743 (73.2%)	786 (73.9%)	135 (72.6%)	135 (72.6%)	21,097 (69.6%)	21,130 (69.6%)	
非指定病院	43 (22.9%)	5,806 (17.6%)	98 (5.6%)	92 (5.3%)	98 (5.5%)	107 (10.3%)	107 (10.5%)	107 (10.1%)	6 (3.2%)	6 (3.2%)	5,607 (18.5%)	5,613 (18.5%)	
合計	188 (100.0%)	32,903 (100.0%)	1,748 (100.0%)	1,725 (100.0%)	1,776 (100.0%)	1,041 (100.0%)	1,015 (100.0%)	1,063 (100.0%)	186 (100.0%)	186 (100.0%)	30,300 (100.0%)	30,349 (100.0%)	

表 84 隔離・身体的拘束指示患者の在院患者に占める割合（設立主体別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）

平成26年													
設立主体別	医療機関数	在院患者数 (人)	隔離指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
			国等設立医療機関	28	3,185	351 (11.0%)	339 (10.6%)	355 (11.1%)	148 (4.6%)	132 (4.1%)	150 (4.7%)	53 (1.7%)	50 (1.6%)
その他の公的医療機関	19	1,465	142 (9.7%)	126 (8.6%)	142 (9.7%)	80 (5.5%)	83 (5.7%)	85 (5.8%)	16 (1.1%)	15 (1.0%)	1,259 (85.9%)	1,271 (86.8%)	
うち 指定病院	14	1,254	115 (9.2%)	100 (8.0%)	115 (9.2%)	63 (5.0%)	66 (5.3%)	68 (5.4%)	11 (0.9%)	10 (0.8%)	1,087 (86.7%)	1,098 (87.6%)	
非指定病院	5	211	27 (12.8%)	26 (12.3%)	27 (12.8%)	17 (8.1%)	17 (8.1%)	17 (8.1%)	5 (2.4%)	5 (2.4%)	172 (81.5%)	173 (82.0%)	
民間、その他医療機関	141	29,854	1,151 (3.9%)	1,120 (3.8%)	1,187 (4.0%)	995 (3.3%)	969 (3.2%)	1,007 (3.4%)	127 (0.4%)	127 (0.4%)	27,835 (93.2%)	27,892 (93.4%)	
うち 指定病院	98	23,904	1,076 (4.5%)	1,048 (4.4%)	1,111 (4.6%)	858 (3.6%)	835 (3.5%)	870 (3.6%)	125 (0.5%)	125 (0.5%)	22,095 (92.4%)	22,146 (92.6%)	
非指定病院	43	5,950	75 (1.3%)	72 (1.2%)	76 (1.3%)	137 (2.3%)	134 (2.3%)	137 (2.3%)	2 (0.0%)	2 (0.0%)	5,740 (96.5%)	5,746 (96.6%)	
合計	188	34,504	1,644 (4.8%)	1,585 (4.6%)	1,684 (4.9%)	1,223 (3.5%)	1,184 (3.4%)	1,242 (3.6%)	196 (0.6%)	192 (0.6%)	31,833 (92.3%)	31,927 (92.5%)	

令和元年													
設立主体別	医療機関数	在院患者数 (人)	隔離指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
			国等設立医療機関	28	2,911	357 (12.3%)	354 (12.2%)	361 (12.4%)	100 (3.4%)	99 (3.4%)	102 (3.5%)	28 (1.0%)	28 (1.0%)
その他の公的医療機関	19	1,307	148 (11.3%)	138 (10.6%)	153 (11.7%)	62 (4.7%)	66 (5.0%)	68 (5.2%)	17 (1.3%)	17 (1.3%)	1,114 (85.2%)	1,120 (85.7%)	
うち 指定病院	14	1,113	129 (11.6%)	118 (10.6%)	133 (11.9%)	54 (4.9%)	59 (5.3%)	60 (5.4%)	16 (1.4%)	17 (1.5%)	946 (85.0%)	953 (85.6%)	
非指定病院	5	194	19 (9.8%)	20 (10.3%)	20 (10.3%)	8 (4.1%)	7 (3.6%)	8 (4.1%)	1 (0.5%)	0 (0.0%)	168 (86.6%)	167 (86.1%)	
民間、その他医療機関	141	28,685	1,243 (4.3%)	1,233 (4.3%)	1,262 (4.4%)	879 (3.1%)	850 (3.0%)	893 (3.1%)	141 (0.5%)	141 (0.5%)	26,704 (93.1%)	26,743 (93.2%)	
うち 指定病院	98	22,879	1,145 (5.0%)	1,141 (5.0%)	1,164 (5.1%)	772 (3.4%)	743 (3.2%)	786 (3.4%)	135 (0.6%)	135 (0.6%)	21,097 (92.2%)	21,130 (92.4%)	
非指定病院	43	5,806	98 (1.7%)	92 (1.6%)	98 (1.7%)	107 (1.8%)	107 (1.8%)	107 (1.8%)	6 (0.1%)	6 (0.1%)	5,607 (96.6%)	5,613 (96.7%)	
合計	188	32,903	1,748 (5.3%)	1,725 (5.2%)	1,776 (5.4%)	1,041 (3.2%)	1,015 (3.1%)	1,063 (3.2%)	186 (0.6%)	186 (0.6%)	30,300 (92.1%)	30,349 (92.2%)	



表 85 隔離・身体的拘束実施患者数と設立主体別比率（設立主体別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）

平成21年													
設立主体別	医療機関数 (0内は該当する区分の比率(%))	在院患者数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	隔離実施あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			身体的拘束実施あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))		
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
			国等設立医療機関	6 (13.6%)	243 (2.7%)	9 (4.1%)	3 (1.8%)	9 (3.9%)	17 (19.3%)	9 (12.5%)	17 (16.7%)	1 (10.0%)	0 (0.0%)
その他の公的医療機関	1 (2.3%)	29 (0.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	29 (0.3%)	29 (0.3%)	
うち 指定病院	1 (2.3%)	29 (0.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	29 (0.3%)	29 (0.3%)	
非指定病院	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
民間、その他医療機関	37 (84.1%)	8,702 (97.0%)	213 (95.9%)	164 (98.2%)	220 (96.1%)	71 (80.7%)	63 (87.5%)	85 (83.3%)	9 (90.0%)	7 (100.0%)	8,427 (97.2%)	8,482 (97.0%)	
うち 指定病院	26 (59.1%)	7,113 (79.3%)	199 (89.6%)	157 (94.0%)	206 (90.0%)	69 (78.4%)	62 (86.1%)	83 (81.4%)	9 (90.0%)	7 (100.0%)	6,854 (79.0%)	6,901 (78.9%)	
非指定病院	11 (25.0%)	1,589 (17.7%)	14 (6.3%)	7 (4.2%)	14 (6.1%)	2 (2.3%)	1 (1.4%)	2 (2.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1,573 (18.1%)	1,581 (18.1%)	
合計	44 (100.0%)	8,974 (100.0%)	222 (100.0%)	167 (100.0%)	229 (100.0%)	88 (100.0%)	72 (100.0%)	102 (100.0%)	10 (100.0%)	7 (100.0%)	8,674 (100.0%)	8,742 (100.0%)	

令和元年													
設立主体別	医療機関数 (0内は該当する区分の比率(%))	在院患者数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	隔離実施あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			身体的拘束実施あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))		
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
			国等設立医療機関	6 (13.6%)	195 (2.4%)	14 (5.1%)	10 (4.4%)	14 (5.0%)	23 (19.8%)	13 (18.8%)	23 (19.5%)	2 (13.3%)	0 (0.0%)
その他の公的医療機関	1 (2.3%)	20 (0.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	1 (1.4%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	19 (0.2%)	19 (0.2%)	
うち 指定病院	1 (2.3%)	20 (0.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	1 (1.4%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	19 (0.2%)	19 (0.2%)	
非指定病院	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
民間、その他医療機関	37 (84.1%)	7,819 (97.3%)	259 (94.9%)	219 (95.6%)	265 (95.0%)	92 (79.3%)	55 (79.7%)	94 (79.7%)	13 (86.7%)	11 (100.0%)	7,481 (97.7%)	7,556 (97.5%)	
うち 指定病院	26 (59.1%)	6,347 (79.0%)	238 (87.2%)	205 (89.5%)	244 (87.5%)	67 (57.8%)	42 (60.9%)	69 (58.5%)	9 (60.0%)	8 (72.7%)	6,051 (79.0%)	6,108 (78.8%)	
非指定病院	11 (25.0%)	1,472 (18.3%)	21 (7.7%)	14 (6.1%)	21 (7.5%)	25 (21.6%)	13 (18.8%)	25 (21.2%)	4 (26.7%)	3 (27.3%)	1,430 (18.7%)	1,448 (18.7%)	
合計	44 (100.0%)	8,034 (100.0%)	273 (100.0%)	229 (100.0%)	279 (100.0%)	116 (100.0%)	69 (100.0%)	118 (100.0%)	15 (100.0%)	11 (100.0%)	7,660 (100.0%)	7,747 (100.0%)	

表 86 隔離・身体的拘束実施患者の在院患者に占める割合（設立主体別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）

平成21年													
設立主体別	医療機関数	在院患者数 (人)	隔離実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
			国等設立医療機関	6	243	9 (3.7%)	3 (1.2%)	9 (3.7%)	17 (7.0%)	9 (3.7%)	17 (7.0%)	1 (0.4%)	0 (0.0%)
その他の公的医療機関	1	29	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	29 (100.0%)	29 (100.0%)	
うち 指定病院	1	29	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	29 (100.0%)	29 (100.0%)	
非指定病院	0	0	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	
民間、その他医療機関	37	8,702	213 (2.4%)	164 (1.9%)	220 (2.5%)	71 (0.8%)	63 (0.7%)	85 (1.0%)	9 (0.1%)	7 (0.1%)	8,427 (96.8%)	8,482 (97.5%)	
うち 指定病院	26	7,113	199 (2.8%)	157 (2.2%)	206 (2.9%)	69 (1.0%)	62 (0.9%)	83 (1.2%)	9 (0.1%)	7 (0.1%)	6,854 (96.4%)	6,901 (97.0%)	
非指定病院	11	1,589	14 (0.9%)	7 (0.4%)	14 (0.9%)	2 (0.1%)	1 (0.1%)	2 (0.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1,573 (99.0%)	1,581 (99.5%)	
合計	44	8,974	222 (2.5%)	167 (1.9%)	229 (2.6%)	88 (1.0%)	72 (0.8%)	102 (1.1%)	10 (0.1%)	7 (0.1%)	8,674 (96.7%)	8,742 (97.4%)	

令和元年													
設立主体別	医療機関数	在院患者数 (人)	隔離実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
			国等設立医療機関	6	195	14 (7.2%)	10 (5.1%)	14 (7.2%)	23 (11.8%)	13 (6.7%)	23 (11.8%)	2 (1.0%)	0 (0.0%)
その他の公的医療機関	1	20	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (5.0%)	1 (5.0%)	1 (5.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	19 (95.0%)	19 (95.0%)	
うち 指定病院	1	20	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (5.0%)	1 (5.0%)	1 (5.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	19 (95.0%)	19 (95.0%)	
非指定病院	0	0	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	
民間、その他医療機関	37	7,819	259 (3.3%)	219 (2.8%)	265 (3.4%)	92 (1.2%)	55 (0.7%)	94 (1.2%)	13 (0.2%)	11 (0.1%)	7,481 (95.7%)	7,556 (96.6%)	
うち 指定病院	26	6,347	238 (3.7%)	205 (3.2%)	244 (3.8%)	67 (1.1%)	42 (0.7%)	69 (1.1%)	9 (0.1%)	8 (0.1%)	6,051 (95.3%)	6,108 (96.2%)	
非指定病院	11	1,472	21 (1.4%)	14 (1.0%)	21 (1.4%)	25 (1.7%)	13 (0.9%)	25 (1.7%)	4 (0.3%)	3 (0.2%)	1,430 (97.1%)	1,448 (98.4%)	
合計	44	8,034	273 (3.4%)	229 (2.9%)	279 (3.5%)	116 (1.4%)	69 (0.9%)	118 (1.5%)	15 (0.2%)	11 (0.1%)	7,660 (95.3%)	7,747 (96.4%)	

表 87 隔離・身体的拘束実施患者数と設立主体別比率（設立主体別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）

平成26年													
設立主体別	医療機関数 (0内は該当する区分の比率(%))	在院患者数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	隔離実施あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			身体的拘束実施あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))		
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
			国等設立医療機関	28 (14.9%)	3,185 (9.2%)	346 (21.9%)	239 (20.0%)	350 (21.3%)	141 (12.3%)	101 (11.6%)	145 (12.1%)	48 (27.0%)	41 (27.7%)
その他の公的医療機関	19 (10.1%)	1,465 (4.2%)	138 (8.7%)	98 (8.2%)	140 (8.5%)	79 (6.9%)	80 (9.2%)	85 (7.1%)	16 (9.0%)	13 (8.8%)	1,264 (4.0%)	1,300 (4.0%)	
うち 指定病院	14 (7.4%)	1,254 (3.6%)	115 (7.3%)	77 (6.4%)	115 (7.0%)	62 (5.4%)	65 (7.4%)	68 (5.7%)	11 (6.2%)	10 (6.8%)	1,088 (3.4%)	1,122 (3.4%)	
非指定病院	5 (2.7%)	211 (0.6%)	23 (1.5%)	21 (1.8%)	25 (1.5%)	17 (1.5%)	15 (1.7%)	17 (1.4%)	5 (2.8%)	3 (2.0%)	176 (0.6%)	178 (0.5%)	
民間、その他医療機関	141 (75.0%)	29,854 (86.5%)	1,099 (69.4%)	857 (71.8%)	1,157 (70.2%)	926 (80.8%)	693 (79.3%)	969 (80.8%)	114 (64.0%)	94 (63.5%)	27,943 (87.5%)	28,398 (87.2%)	
うち 指定病院	98 (52.1%)	23,904 (69.3%)	1,027 (64.9%)	803 (67.3%)	1,083 (65.8%)	811 (70.8%)	617 (70.6%)	837 (69.8%)	113 (63.5%)	93 (62.8%)	22,179 (69.4%)	22,577 (69.3%)	
非指定病院	43 (22.9%)	5,950 (17.2%)	72 (4.5%)	54 (4.5%)	74 (4.5%)	115 (10.0%)	76 (8.7%)	132 (11.0%)	1 (0.6%)	1 (0.7%)	5,764 (18.0%)	5,821 (17.9%)	
合計	188 (100.0%)	34,504 (100.0%)	1,583 (100.0%)	1,194 (100.0%)	1,647 (100.0%)	1,146 (100.0%)	874 (100.0%)	1,199 (100.0%)	178 (100.0%)	148 (100.0%)	31,953 (100.0%)	32,584 (100.0%)	

令和元年													
設立主体別	医療機関数 (0内は該当する区分の比率(%))	在院患者数(人) (0内は該当する区分の比率(%))	隔離実施あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			身体的拘束実施あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) (0内は該当する区分の比率(%))		
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
			国等設立医療機関	28 (14.9%)	2,911 (8.8%)	353 (21.0%)	258 (20.1%)	358 (20.8%)	93 (9.4%)	70 (8.8%)	96 (9.3%)	26 (15.0%)	20 (14.3%)
その他の公的医療機関	19 (10.1%)	1,307 (4.0%)	144 (8.6%)	114 (8.9%)	151 (8.8%)	57 (5.8%)	60 (7.5%)	65 (6.3%)	17 (9.8%)	12 (8.6%)	1,123 (3.7%)	1,145 (3.7%)	
うち 指定病院	14 (7.4%)	1,113 (3.4%)	128 (7.6%)	95 (7.4%)	132 (7.7%)	51 (5.2%)	55 (6.9%)	59 (5.7%)	16 (9.2%)	12 (8.6%)	950 (3.1%)	975 (3.1%)	
非指定病院	5 (2.7%)	194 (0.6%)	16 (1.0%)	19 (1.5%)	19 (1.1%)	6 (0.6%)	5 (0.6%)	6 (0.6%)	1 (0.6%)	0 (0.0%)	173 (0.6%)	170 (0.5%)	
民間、その他医療機関	141 (75.0%)	28,685 (87.2%)	1,182 (70.4%)	909 (71.0%)	1,215 (70.5%)	835 (84.8%)	670 (83.8%)	869 (84.4%)	130 (75.1%)	108 (77.1%)	26,798 (88.1%)	27,214 (87.9%)	
うち 指定病院	98 (52.1%)	22,879 (69.5%)	1,086 (64.7%)	836 (65.3%)	1,119 (64.9%)	731 (74.2%)	593 (74.1%)	763 (74.1%)	124 (71.7%)	103 (73.6%)	21,186 (69.7%)	21,553 (69.6%)	
非指定病院	43 (22.9%)	5,806 (17.6%)	96 (5.7%)	73 (5.7%)	96 (5.6%)	104 (10.6%)	77 (9.6%)	106 (10.3%)	6 (3.5%)	5 (3.6%)	5,612 (18.5%)	5,661 (18.3%)	
合計	188 (100.0%)	32,903 (100.0%)	1,679 (100.0%)	1,281 (100.0%)	1,724 (100.0%)	985 (100.0%)	800 (100.0%)	1,030 (100.0%)	173 (100.0%)	140 (100.0%)	30,412 (100.0%)	30,962 (100.0%)	

表 88 隔離・身体的拘束実施患者の在院患者に占める割合（設立主体別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）

平成26年													
設立主体別	医療機関数	在院患者数 (人)	隔離実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
			国等設立医療機関	28	3,185	346 (10.9%)	239 (7.5%)	350 (11.0%)	141 (4.4%)	101 (3.2%)	145 (4.6%)	48 (1.5%)	41 (1.3%)
その他の公的医療機関	19	1,465	138 (9.4%)	98 (6.7%)	140 (9.6%)	79 (5.4%)	80 (5.5%)	85 (5.8%)	16 (1.1%)	13 (0.9%)	1,264 (86.3%)	1,300 (88.7%)	
うち 指定病院	14	1,254	115 (9.2%)	77 (6.1%)	115 (9.2%)	62 (4.9%)	65 (5.2%)	68 (5.4%)	11 (0.9%)	10 (0.8%)	1,088 (86.8%)	1,122 (89.5%)	
非指定病院	5	211	23 (10.9%)	21 (10.0%)	25 (11.8%)	17 (8.1%)	15 (7.1%)	17 (8.1%)	5 (2.4%)	3 (1.4%)	176 (83.4%)	178 (84.4%)	
民間、その他医療機関	141	29,854	1,099 (3.7%)	857 (2.9%)	1,157 (3.9%)	926 (3.1%)	693 (2.3%)	969 (3.2%)	114 (0.4%)	94 (0.3%)	27,943 (93.6%)	28,398 (95.1%)	
うち 指定病院	98	23,904	1,027 (4.3%)	803 (3.4%)	1,083 (4.5%)	811 (3.4%)	617 (2.6%)	837 (3.5%)	113 (0.5%)	93 (0.4%)	22,179 (92.8%)	22,577 (94.4%)	
非指定病院	43	5,950	72 (1.2%)	54 (0.9%)	74 (1.2%)	115 (1.9%)	76 (1.3%)	132 (2.2%)	1 (0.0%)	1 (0.0%)	5,764 (96.9%)	5,821 (97.8%)	
合計	188	34,504	1,583 (4.6%)	1,194 (3.5%)	1,647 (4.8%)	1,146 (3.3%)	874 (2.5%)	1,199 (3.5%)	178 (0.5%)	148 (0.4%)	31,953 (92.6%)	32,584 (94.4%)	

令和元年													
設立主体別	医療機関数	在院患者数 (人)	隔離実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ()内は在院患者比率(%)		
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時	
			国等設立医療機関	28	2,911	353 (12.1%)	258 (8.9%)	358 (12.3%)	93 (3.2%)	70 (2.4%)	96 (3.3%)	26 (0.9%)	20 (0.7%)
その他の公的医療機関	19	1,307	144 (11.0%)	114 (8.7%)	151 (11.6%)	57 (4.4%)	60 (4.6%)	65 (5.0%)	17 (1.3%)	12 (0.9%)	1,123 (85.9%)	1,145 (87.6%)	
うち 指定病院	14	1,113	128 (11.5%)	95 (8.5%)	132 (11.9%)	51 (4.6%)	55 (4.9%)	59 (5.3%)	16 (1.4%)	12 (1.1%)	950 (85.4%)	975 (87.6%)	
非指定病院	5	194	16 (8.2%)	19 (9.8%)	19 (9.8%)	6 (3.1%)	5 (2.6%)	6 (3.1%)	1 (0.5%)	0 (0.0%)	173 (89.2%)	170 (87.6%)	
民間、その他医療機関	141	28,685	1,182 (4.1%)	909 (3.2%)	1,215 (4.2%)	835 (2.9%)	670 (2.3%)	869 (3.0%)	130 (0.5%)	108 (0.4%)	26,798 (93.4%)	27,214 (94.9%)	
うち 指定病院	98	22,879	1,086 (4.7%)	836 (3.7%)	1,119 (4.9%)	731 (3.2%)	593 (2.6%)	763 (3.3%)	124 (0.5%)	103 (0.5%)	21,186 (92.6%)	21,553 (94.2%)	
非指定病院	43	5,806	96 (1.7%)	73 (1.3%)	96 (1.7%)	104 (1.8%)	77 (1.3%)	106 (1.8%)	6 (0.1%)	5 (0.1%)	5,612 (96.7%)	5,661 (97.5%)	
合計	188	32,903	1,679 (5.1%)	1,281 (3.9%)	1,724 (5.2%)	985 (3.0%)	800 (2.4%)	1,030 (3.1%)	173 (0.5%)	140 (0.4%)	30,412 (92.4%)	30,962 (94.1%)	

表 89 隔離・身体的拘束指示患者数と病院区分別比率（病院区分別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）

平成21年												
病院区分別	医療機関数 ( )内は該当する区分の比率(%)	在院患者数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	隔離指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			総合病院 ※1	7 (15.9%)	272 (3.0%)	16 (6.3%)	12 (4.8%)	16 (6.1%)	17 (15.0%)	15 (13.5%)	17 (14.8%)	1 (6.7%)
その他の医療機関 ※2	37 (84.1%)	8,702 (97.0%)	238 (93.7%)	238 (95.2%)	245 (93.9%)	96 (85.0%)	96 (86.5%)	98 (85.2%)	14 (93.3%)	13 (100.0%)	8,382 (97.2%)	8,381 (97.2%)
合計	44 (100.0%)	8,974 (100.0%)	254 (100.0%)	250 (100.0%)	261 (100.0%)	113 (100.0%)	111 (100.0%)	115 (100.0%)	15 (100.0%)	13 (100.0%)	8,622 (100.0%)	8,626 (100.0%)

令和元年												
病院区分別	医療機関数 ( )内は該当する区分の比率(%)	在院患者数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	隔離指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			総合病院 ※1	7 (15.9%)	215 (2.7%)	17 (5.3%)	17 (5.3%)	17 (5.3%)	25 (17.6%)	24 (17.0%)	25 (17.6%)	2 (6.7%)
その他の医療機関 ※2	37 (84.1%)	7,819 (97.3%)	304 (94.7%)	304 (94.7%)	306 (94.7%)	117 (82.4%)	117 (83.0%)	117 (82.4%)	28 (93.3%)	28 (93.3%)	7,426 (97.7%)	7,426 (97.7%)
合計	44 (100.0%)	8,034 (100.0%)	321 (100.0%)	321 (100.0%)	323 (100.0%)	142 (100.0%)	141 (100.0%)	142 (100.0%)	30 (100.0%)	30 (100.0%)	7,601 (100.0%)	7,602 (100.0%)

※1 総合病院：「内科、外科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科の全ての科がある」かつ「医療機関全体で100床以上を持つ」病院

※2 その他の病院：精神科病院や、例えば内科と精神科があり病床を持つ病院を含む

表 90 隔離・身体的拘束指示患者の在院患者に占める割合（病院区分別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）

平成21年												
病院区分別	医療機関数	在院患者数 (人)	隔離指示あり 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			総合病院 ※1	7	272	16 (5.9%)	12 (4.4%)	16 (5.9%)	17 (6.3%)	15 (5.5%)	17 (6.3%)	1 (0.4%)
その他の医療機関 ※2	37	8,702	238 (2.7%)	238 (2.7%)	245 (2.8%)	96 (1.1%)	96 (1.1%)	98 (1.1%)	14 (0.2%)	13 (0.1%)	8,382 (96.3%)	8,381 (96.3%)
合計	44	8,974	254 (2.8%)	250 (2.8%)	261 (2.9%)	113 (1.3%)	111 (1.2%)	115 (1.3%)	15 (0.2%)	13 (0.1%)	8,622 (96.1%)	8,626 (96.1%)

令和元年												
病院区分別	医療機関数	在院患者数 (人)	隔離指示あり 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			総合病院 ※1	7	215	17 (7.9%)	17 (7.9%)	17 (7.9%)	25 (11.6%)	24 (11.2%)	25 (11.6%)	2 (0.9%)
その他の医療機関 ※2	37	7,819	304 (3.9%)	304 (3.9%)	306 (3.9%)	117 (1.5%)	117 (1.5%)	117 (1.5%)	28 (0.4%)	28 (0.4%)	7,426 (95.0%)	7,426 (95.0%)
合計	44	8,034	321 (4.0%)	321 (4.0%)	323 (4.0%)	142 (1.8%)	141 (1.8%)	142 (1.8%)	30 (0.4%)	30 (0.4%)	7,601 (94.6%)	7,602 (94.6%)

※1 総合病院：「内科、外科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科の全ての科がある」かつ「医療機関全体で100床以上を持つ」病院

※2 その他の病院：精神科病院や、例えば内科と精神科があり病床を持つ病院を含む

表 91 隔離・身体的拘束指示患者数と病院区分別比率（病院区分別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）

平成26年												
病院区分別	医療機関数 ( )内は該当する区分の比率(%)	在院患者数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	隔離指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			総合病院 ※1	33 (17.6%)	1,677 (4.9%)	110 (6.7%)	105 (6.6%)	112 (6.7%)	129 (10.5%)	122 (10.3%)	135 (10.9%)	34 (17.3%)
その他の医療機関 ※2	155 (82.4%)	32,827 (95.1%)	1,534 (93.3%)	1,480 (93.4%)	1,572 (93.3%)	1,094 (89.5%)	1,062 (89.7%)	1,107 (89.1%)	162 (82.7%)	157 (81.8%)	30,361 (95.4%)	30,442 (95.3%)
合計	188 (100.0%)	34,504 (100.0%)	1,644 (100.0%)	1,585 (100.0%)	1,684 (100.0%)	1,223 (100.0%)	1,184 (100.0%)	1,242 (100.0%)	196 (100.0%)	192 (100.0%)	31,833 (100.0%)	31,927 (100.0%)

令和元年												
病院区分別	医療機関数 ( )内は該当する区分の比率(%)	在院患者数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	隔離指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			総合病院 ※1	33 (17.6%)	1,570 (4.8%)	101 (5.8%)	102 (5.9%)	105 (5.9%)	111 (10.7%)	113 (11.1%)	116 (10.9%)	2 (6.7%)
その他の医療機関 ※2	155 (82.4%)	31,333 (95.2%)	1,647 (94.2%)	1,623 (94.1%)	1,671 (94.1%)	930 (89.3%)	902 (88.9%)	947 (89.1%)	28 (93.3%)	28 (93.3%)	28,784 (95.5%)	28,836 (95.5%)
合計	188 (100.0%)	32,903 (100.0%)	1,748 (100.0%)	1,725 (100.0%)	1,776 (100.0%)	1,041 (100.0%)	1,015 (100.0%)	1,063 (100.0%)	30 (100.0%)	30 (100.0%)	30,144 (100.0%)	30,193 (100.0%)

※1 総合病院：「内科、外科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科の全ての科がある」かつ「医療機関全体で100床以上を持つ」病院

※2 その他の病院：精神科病院や、例えば内科と精神科があり病床を持つ病院を含む

表 92 隔離・身体的拘束指示患者の在院患者に占める割合（病院区分別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）

平成26年												
病院区分別	医療機関数	在院患者数 (人)	隔離指示あり 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			総合病院 ※1	33	1,677	110 (6.6%)	105 (6.3%)	112 (6.7%)	129 (7.7%)	122 (7.3%)	135 (8.1%)	34 (2.0%)
その他の医療機関 ※2	155	32,827	1,534 (4.7%)	1,480 (4.5%)	1,572 (4.8%)	1,094 (3.3%)	1,062 (3.2%)	1,107 (3.4%)	162 (0.5%)	157 (0.5%)	30,361 (92.5%)	30,442 (92.7%)
合計	188	34,504	1,644 (4.8%)	1,585 (4.6%)	1,684 (4.9%)	1,223 (3.5%)	1,184 (3.4%)	1,242 (3.6%)	196 (0.6%)	192 (0.6%)	31,833 (92.3%)	31,927 (92.5%)

令和元年												
病院区分別	医療機関数	在院患者数 (人)	隔離指示あり 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)			身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束指示あり 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束指示なし 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			総合病院 ※1	33	1,570	101 (6.4%)	102 (6.5%)	105 (6.7%)	111 (7.1%)	113 (7.2%)	116 (7.4%)	2 (0.1%)
その他の医療機関 ※2	155	31,333	1,647 (5.3%)	1,623 (5.2%)	1,671 (5.3%)	930 (3.0%)	902 (2.9%)	947 (3.0%)	28 (0.1%)	28 (0.1%)	28,784 (91.9%)	28,836 (92.0%)
合計	188	32,903	1,748 (5.3%)	1,725 (5.2%)	1,776 (5.4%)	1,041 (3.2%)	1,015 (3.1%)	1,063 (3.2%)	30 (0.1%)	30 (0.1%)	30,144 (91.6%)	30,193 (91.8%)

※1 総合病院：「内科、外科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科の全ての科がある」かつ「医療機関全体で100床以上を持つ」病院

※2 その他の病院：精神科病院や、例えば内科と精神科があり病床を持つ病院を含む

表 93 隔離・身体的拘束実施患者数と病院区分別比率（病院区分別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）

平成21年												
病院区分別	医療機関数 ( )内は該当する区分の比率(%)	在院患者数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	隔離実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			総合病院 ※1	7 (15.9%)	272 (3.0%)	9 (4.1%)	3 (1.8%)	9 (3.9%)	17 (19.3%)	9 (12.5%)	17 (16.7%)	1 (10.0%)
その他の医療機関 ※2	37 (84.1%)	8,702 (97.0%)	213 (95.9%)	164 (98.2%)	220 (96.1%)	71 (80.7%)	63 (87.5%)	85 (83.3%)	9 (90.0%)	7 (100.0%)	8,427 (97.2%)	8,482 (97.0%)
合計	44 (100.0%)	8,974 (100.0%)	222 (100.0%)	167 (100.0%)	229 (100.0%)	88 (100.0%)	72 (100.0%)	102 (100.0%)	10 (100.0%)	7 (100.0%)	8,674 (100.0%)	8,742 (100.0%)

令和元年												
病院区分別	医療機関数 ( )内は該当する区分の比率(%)	在院患者数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	隔離実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			総合病院 ※1	7 (15.9%)	215 (2.7%)	14 (5.1%)	10 (4.4%)	14 (5.0%)	24 (20.7%)	14 (20.3%)	24 (20.3%)	2 (13.3%)
その他の医療機関 ※2	37 (84.1%)	7,819 (97.3%)	259 (94.9%)	219 (95.6%)	265 (95.0%)	92 (79.3%)	55 (79.7%)	94 (79.7%)	13 (86.7%)	11 (100.0%)	7,481 (97.7%)	7,556 (97.5%)
合計	44 (100.0%)	8,034 (100.0%)	273 (100.0%)	229 (100.0%)	279 (100.0%)	116 (100.0%)	69 (100.0%)	118 (100.0%)	15 (100.0%)	11 (100.0%)	7,660 (100.0%)	7,747 (100.0%)

※1 総合病院：「内科、外科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科の全ての科がある」かつ「医療機関全体で100床以上を持つ」病院

※2 その他の病院：精神科病院や、例えば内科と精神科があり病床を持つ病院を含む

表 94 隔離・身体的拘束実施患者の在院患者に占める割合（病院区分別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）

平成21年												
病院区分別	医療機関数	在院患者数 (人)	隔離実施あり 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			総合病院 ※1	7	272	9 (3.3%)	3 (1.1%)	9 (3.3%)	17 (6.3%)	9 (3.3%)	17 (6.3%)	1 (0.4%)
その他の医療機関 ※2	37	8,702	213 (2.4%)	164 (1.9%)	220 (2.5%)	71 (0.8%)	63 (0.7%)	85 (1.0%)	9 (0.1%)	7 (0.1%)	8,427 (96.8%)	8,482 (97.5%)
合計	44	8,974	222 (2.5%)	167 (1.9%)	229 (2.6%)	88 (1.0%)	72 (0.8%)	102 (1.1%)	10 (0.1%)	7 (0.1%)	8,674 (96.7%)	8,742 (97.4%)

令和元年												
病院区分別	医療機関数	在院患者数 (人)	隔離実施あり 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			総合病院 ※1	7	215	14 (6.5%)	10 (4.7%)	14 (6.5%)	24 (11.2%)	14 (6.5%)	24 (11.2%)	2 (0.9%)
その他の医療機関 ※2	37	7,819	259 (3.3%)	219 (2.8%)	265 (3.4%)	92 (1.2%)	55 (0.7%)	94 (1.2%)	13 (0.2%)	11 (0.1%)	7,481 (95.7%)	7,556 (96.6%)
合計	44	8,034	273 (3.4%)	229 (2.9%)	279 (3.5%)	116 (1.4%)	69 (0.9%)	118 (1.5%)	15 (0.2%)	11 (0.1%)	7,660 (95.3%)	7,747 (96.4%)

※1 総合病院：「内科、外科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科の全ての科がある」かつ「医療機関全体で100床以上を持つ」病院

※2 その他の病院：精神科病院や、例えば内科と精神科があり病床を持つ病院を含む

表 95 隔離・身体的拘束実施患者数と病院区分別比率（病院区分別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）

平成26年												
病院区分別	医療機関数 ( )内は該当する区分の比率(%)	在院患者数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	隔離実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			総合病院 ※1	33 (17.6%)	1,677 (4.9%)	108 (6.8%)	93 (7.8%)	112 (6.8%)	126 (11.0%)	113 (12.9%)	132 (11.0%)	33 (18.5%)
その他の医療機関 ※2	155 (82.4%)	32,827 (95.1%)	1,475 (93.2%)	1,101 (92.2%)	1,535 (93.2%)	1,020 (89.0%)	761 (87.1%)	1,067 (89.0%)	145 (81.5%)	116 (78.4%)	30,477 (95.4%)	31,081 (95.4%)
合計	188 (100.0%)	34,504 (100.0%)	1,583 (100.0%)	1,194 (100.0%)	1,647 (100.0%)	1,146 (100.0%)	874 (100.0%)	1,199 (100.0%)	178 (100.0%)	148 (100.0%)	31,953 (100.0%)	32,584 (100.0%)

令和元年												
病院区分別	医療機関数 ( )内は該当する区分の比率(%)	在院患者数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	隔離実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ( )内は該当する区分の比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			総合病院 ※1	33 (17.6%)	1,570 (4.8%)	96 (5.7%)	86 (6.7%)	102 (5.9%)	103 (10.5%)	94 (11.8%)	111 (10.8%)	2 (13.3%)
その他の医療機関 ※2	155 (82.4%)	31,333 (95.2%)	1,583 (94.3%)	1,195 (93.3%)	1,622 (94.1%)	882 (89.5%)	706 (88.3%)	919 (89.2%)	13 (86.7%)	11 (100.0%)	28,881 (95.5%)	29,443 (95.5%)
合計	188 (100.0%)	32,903 (100.0%)	1,679 (100.0%)	1,281 (100.0%)	1,724 (100.0%)	985 (100.0%)	800 (100.0%)	1,030 (100.0%)	15 (100.0%)	11 (100.0%)	30,254 (100.0%)	30,833 (100.0%)

※1 総合病院：「内科、外科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科の全ての科がある」かつ「医療機関全体で100床以上を持つ」病院

※2 その他の病院：精神科病院や、例えば内科と精神科があり病床を持つ病院を含む

表 96 隔離・身体的拘束実施患者の在院患者に占める割合（病院区分別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）

平成26年												
病院区分別	医療機関数	在院患者数 (人)	隔離実施あり 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			総合病院 ※1	33	1,677	108 (6.4%)	93 (5.5%)	112 (6.7%)	126 (7.5%)	113 (6.7%)	132 (7.9%)	33 (2.0%)
その他の医療機関 ※2	155	32,827	1,475 (4.5%)	1,101 (3.4%)	1,535 (4.7%)	1,020 (3.1%)	761 (2.3%)	1,067 (3.3%)	145 (0.4%)	116 (0.4%)	30,477 (92.8%)	31,081 (94.7%)
合計	188	34,504	1,583 (4.6%)	1,194 (3.5%)	1,647 (4.8%)	1,146 (3.3%)	874 (2.5%)	1,199 (3.5%)	178 (0.5%)	148 (0.4%)	31,953 (92.6%)	32,584 (94.4%)

令和元年												
病院区分別	医療機関数	在院患者数 (人)	隔離実施あり 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)			身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)			隔離かつ身体的拘束実施あり 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)		隔離身体的拘束実施なし 人数(人) ( )内は在院患者比率(%)	
			0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時または12時	0時	12時	0時	12時
			総合病院 ※1	33	1,570	96 (6.1%)	86 (5.5%)	102 (6.5%)	103 (6.6%)	94 (6.0%)	111 (7.1%)	2 (0.1%)
その他の医療機関 ※2	155	31,333	1,583 (5.1%)	1,195 (3.8%)	1,622 (5.2%)	882 (2.8%)	706 (2.3%)	919 (2.9%)	13 (0.0%)	11 (0.0%)	28,881 (92.2%)	29,443 (94.0%)
合計	188	32,903	1,679 (5.1%)	1,281 (3.9%)	1,724 (5.2%)	985 (3.0%)	800 (2.4%)	1,030 (3.1%)	15 (0.0%)	11 (0.0%)	30,254 (91.9%)	30,833 (93.7%)

※1 総合病院：「内科、外科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科の全ての科がある」かつ「医療機関全体で100床以上を持つ」病院

※2 その他の病院：精神科病院や、例えば内科と精神科があり病床を持つ病院を含む



表 97 隔離・身体的拘束指示患者に対して、実施患者の割合（病棟の開放区分別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）

開放区分	平成21年																	
	0時時点						12時時点						0時または12時時点					
	隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束		
	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)
夜間外開放	29	28	96.6%	27	16	59.3%	29	23	79.3%	27	22	81.5%	29	28	96.6%	27	26	96.3%
終日閉鎖	195	171	87.7%	73	64	87.7%	192	130	67.7%	71	43	60.6%	202	178	88.1%	75	68	90.7%
それ以外(不明を含む)	30	23	76.7%	13	8	61.5%	29	14	48.3%	13	7	53.8%	30	23	76.7%	13	8	61.5%
合計	254	222	87.4%	113	88	77.9%	250	167	66.8%	111	72	64.9%	261	229	87.7%	115	102	88.7%

開放区分	令和元年																	
	0時時点						12時時点						0時または12時時点					
	隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束		
	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)
夜間外開放	47	38	80.9%	25	25	100.0%	48	37	77.1%	24	15	62.5%	48	42	87.5%	25	25	100.0%
終日閉鎖	251	222	88.4%	109	90	82.6%	250	181	72.4%	109	53	48.6%	252	224	88.9%	109	92	84.4%
それ以外(不明を含む)	23	13	56.5%	8	1	12.5%	23	11	47.8%	8	1	12.5%	23	13	56.5%	8	1	12.5%
合計	321	273	85.0%	142	116	81.7%	321	229	71.3%	141	69	48.9%	323	279	86.4%	142	118	83.1%

表 98 隔離・身体的拘束指示患者に対して、実施患者の割合（病棟の開放区分別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）

開放区分	平成26年																	
	0時時点						12時時点						0時または12時時点					
	隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束		
	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)
夜間外開放	92	91	98.9%	119	111	93.3%	88	72	81.8%	118	92	78.0%	92	91	98.9%	121	116	95.9%
終日閉鎖	1,499	1,441	96.1%	1,074	1,005	93.6%	1,445	1,099	76.1%	1,040	767	73.8%	1,539	1,505	97.8%	1,091	1,053	96.5%
それ以外(不明を含む)	53	51	96.2%	30	30	100.0%	52	23	44.2%	26	15	57.7%	53	51	96.2%	30	30	100.0%
合計	1,644	1,583	96.3%	1,223	1,146	93.7%	1,585	1,194	75.3%	1,184	874	73.8%	1,684	1,647	97.8%	1,242	1,199	96.5%

開放区分	令和元年																	
	0時時点						12時時点						0時または12時時点					
	隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束		
	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)
夜間外開放	87	85	97.7%	88	85	96.6%	87	64	73.6%	86	72	83.7%	89	87	97.8%	88	86	97.7%
終日閉鎖	1,629	1,562	95.9%	943	890	94.4%	1,607	1,195	74.4%	920	721	78.4%	1,655	1,605	97.0%	965	934	96.8%
それ以外(不明を含む)	32	32	100.0%	10	10	100.0%	31	22	71.0%	9	7	77.8%	32	32	100.0%	10	10	100.0%
合計	1,748	1,679	96.1%	1,041	985	94.6%	1,725	1,281	74.3%	1,015	800	78.8%	1,776	1,724	97.1%	1,063	1,030	96.9%

表 99 隔離・身体的拘束指示患者に対して、実施患者の割合（応急入院の有無別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）

応急入院の有無	平成21年																	
	0時時点						12時時点						0時または12時時点					
	隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束		
	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)
有	84	69	82.1%	67	51	76.1%	83	40	48.2%	68	44	64.7%	85	70	82.4%	69	64	92.8%
無または不明	170	153	90.0%	46	37	80.4%	167	127	76.0%	43	28	65.1%	176	159	90.3%	46	38	82.6%
合計	254	222	87.4%	113	88	77.9%	250	167	66.8%	111	72	64.9%	261	229	87.7%	115	102	88.7%

応急入院の有無	令和元年																	
	0時時点						12時時点						0時または12時時点					
	隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束		
	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)
有	212	175	82.5%	80	61	76.3%	212	141	66.5%	80	34	42.5%	214	181	84.6%	80	63	78.8%
無または不明	109	98	89.9%	62	55	88.7%	109	88	80.7%	61	35	57.4%	109	98	89.9%	62	55	88.7%
合計	321	273	85.0%	142	116	81.7%	321	229	71.3%	141	69	48.9%	323	279	86.4%	142	118	83.1%

表 100 隔離・身体的拘束指示患者に対して、実施患者の割合（応急入院の有無別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）

応急入院の有無	平成26年																	
	0時時点						12時時点						0時または12時時点					
	隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束		
	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)
有	1,259	1,206	95.8%	801	749	93.5%	1,199	895	74.6%	779	574	73.7%	1,277	1,247	97.7%	812	779	95.9%
無または不明	385	377	97.9%	422	397	94.1%	386	299	77.5%	405	300	74.1%	407	400	98.3%	430	420	97.7%
合計	1,644	1,583	96.3%	1,223	1,146	93.7%	1,585	1,194	75.3%	1,184	874	73.8%	1,684	1,647	97.8%	1,242	1,199	96.5%

応急入院の有無	令和元年																	
	0時時点						12時時点						0時または12時時点					
	隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束		
	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)
有	1,350	1,291	95.6%	675	626	92.7%	1,323	993	75.1%	668	519	77.7%	1,364	1,322	96.9%	688	660	95.9%
無または不明	398	388	97.5%	366	359	98.1%	402	288	71.6%	347	281	81.0%	412	402	97.6%	375	370	98.7%
合計	1,748	1,679	96.1%	1,041	985	94.6%	1,725	1,281	74.3%	1,015	800	78.8%	1,776	1,724	97.1%	1,063	1,030	96.9%

表 101 隔離・身体的拘束指示患者に対して、実施患者の割合（精神科医師数の区別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）

精神科医師数 (常勤、非常勤の合計) ※	平成21年																	
	0時時点						12時時点						0時または12時時点					
	隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束		
	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)
3人未満	5	5	100.0%	7	7	100.0%	3	3	100.0%	6	6	100.0%	5	5	100.0%	7	7	100.0%
3人以上 5人未満	11	11	100.0%	2	2	100.0%	12	6	50.0%	2	1	50.0%	12	12	100.0%	2	2	100.0%
5人以上 10人未満	96	74	77.1%	36	28	77.8%	90	54	60.0%	33	10	30.3%	99	77	77.8%	36	28	77.8%
10人以上	98	89	90.8%	51	37	72.5%	98	63	64.3%	53	43	81.1%	98	89	90.8%	53	51	96.2%
不明	44	43	97.7%	17	14	82.4%	47	41	87.2%	17	12	70.6%	47	46	97.9%	17	14	82.4%
合計	254	222	87.4%	113	88	77.9%	250	167	66.8%	111	72	64.9%	261	229	87.7%	115	102	88.7%

精神科医師数 (常勤、非常勤の合計) ※	令和元年																	
	0時時点						12時時点						0時または12時時点					
	隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束		
	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)
3人未満	12	11	91.7%	26	26	100.0%	12	6	50.0%	26	15	57.7%	12	11	91.7%	26	26	100.0%
3人以上 5人未満	34	34	100.0%	8	8	100.0%	34	30	88.2%	8	6	75.0%	34	34	100.0%	8	8	100.0%
5人以上 10人未満	127	90	70.9%	88	68	77.3%	126	75	59.5%	87	34	39.1%	128	94	73.4%	88	68	77.3%
10人以上	148	138	93.2%	20	14	70.0%	149	118	79.2%	20	14	70.0%	149	140	94.0%	20	16	80.0%
不明	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
合計	321	273	85.0%	142	116	81.7%	321	229	71.3%	141	69	48.9%	323	279	86.4%	142	118	83.1%

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 102 隔離・身体的拘束指示患者に対して、実施患者の割合（精神科医師数の区別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）

精神科医師数 (常勤、非常勤の合計) ※	平成26年																	
	0時時点						12時時点						0時または12時時点					
	隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束		
	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)
3人未満	36	33	91.7%	66	48	72.7%	35	24	68.6%	55	45	81.8%	36	34	94.4%	86	70	81.4%
3人以上 5人未満	88	88	100.0%	119	119	100.0%	85	73	85.9%	115	79	68.7%	93	93	100.0%	154	130	84.4%
5人以上 10人未満	588	579	98.5%	470	449	95.5%	570	422	74.0%	456	360	78.9%	608	601	98.8%	376	409	108.8%
10人以上	890	845	94.9%	532	498	93.6%	853	650	76.2%	523	365	69.8%	904	880	97.3%	216	248	114.8%
不明	42	38	90.5%	36	32	88.9%	42	25	59.5%	35	25	71.4%	43	39	90.7%	30	33	110.0%
合計	1,644	1,583	96.3%	1,223	1,146	93.7%	1,585	1,194	75.3%	1,184	874	73.8%	1,684	1,647	97.8%	862	890	103.2%

精神科医師数 (常勤、非常勤の合計) ※	令和元年																	
	0時時点						12時時点						0時または12時時点					
	隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束		
	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)
3人未満	36	33	91.7%	66	48	72.7%	35	24	68.6%	55	45	81.8%	36	34	94.4%	86	70	81.4%
3人以上 5人未満	88	88	100.0%	119	119	100.0%	85	73	85.9%	115	79	68.7%	93	93	100.0%	154	130	84.4%
5人以上 10人未満	588	579	98.5%	470	449	95.5%	570	422	74.0%	456	360	78.9%	608	601	98.8%	376	409	108.8%
10人以上	890	845	94.9%	532	498	93.6%	853	650	76.2%	523	365	69.8%	904	880	97.3%	216	248	114.8%
不明	42	38	90.5%	36	32	88.9%	42	25	59.5%	35	25	71.4%	43	39	90.7%	30	33	110.0%
合計	1,644	1,583	96.3%	1,223	1,146	93.7%	1,585	1,194	75.3%	1,184	874	73.8%	1,684	1,647	97.8%	862	890	103.2%

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 103 隔離・身体的拘束指示患者に対して、実施患者の割合（精神科医師1人当たりの平均受け持ち患者数の区別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）

精神科医師(常勤、非常勤の合計) 1人当たりの平均受け持ち患者数※	平成21年																	
	0時時点						12時時点						0時または12時時点					
	隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束		
	指示あり(人)	うち実施あり(人)	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合(%)	指示あり(人)	うち実施あり(人)	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合(%)	指示あり(人)	うち実施あり(人)	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合(%)	指示あり(人)	うち実施あり(人)	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合(%)	指示あり(人)	うち実施あり(人)	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合(%)	指示あり(人)	うち実施あり(人)	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合(%)
10人未満	8	1	12.5%	10	10	100.0%	6	0	0.0%	9	4	44.4%	8	1	12.5%	10	10	100.0%
10人以上 20人未満	32	29	90.6%	18	17	94.4%	29	19	65.5%	16	15	93.8%	32	29	90.6%	18	17	94.4%
20人以上 30人未満	66	66	100.0%	28	18	64.3%	62	46	74.2%	28	24	85.7%	67	67	100.0%	28	28	100.0%
30人以上	104	83	79.8%	40	29	72.5%	106	61	57.5%	41	17	41.5%	107	86	80.4%	42	33	78.6%
不明	44	43	97.7%	17	14	82.4%	47	41	87.2%	17	12	70.6%	47	46	97.9%	17	14	82.4%
合計	254	222	87.4%	113	88	77.9%	250	167	66.8%	111	72	64.9%	261	229	87.7%	115	102	88.7%

精神科医師(常勤、非常勤の合計) 1人当たりの平均受け持ち患者数※	令和元年																	
	0時時点						12時時点						0時または12時時点					
	隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束		
	指示あり(人)	うち実施あり(人)	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合(%)	指示あり(人)	うち実施あり(人)	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合(%)	指示あり(人)	うち実施あり(人)	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合(%)	指示あり(人)	うち実施あり(人)	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合(%)	指示あり(人)	うち実施あり(人)	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合(%)	指示あり(人)	うち実施あり(人)	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合(%)
10人未満	17	14	82.4%	26	25	96.2%	17	10	58.8%	25	15	60.0%	17	14	82.4%	26	25	96.2%
10人以上 20人未満	26	24	92.3%	1	1	100.0%	26	23	88.5%	1	1	100.0%	26	24	92.3%	1	1	100.0%
20人以上 30人未満	151	116	76.8%	68	50	73.5%	150	86	57.3%	68	26	38.2%	152	121	79.6%	68	52	76.5%
30人以上	127	119	93.7%	47	40	85.1%	128	110	85.9%	47	27	57.4%	128	120	93.8%	47	40	85.1%
不明	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
合計	321	273	85.0%	142	116	81.7%	321	229	71.3%	141	69	48.9%	323	279	86.4%	142	118	83.1%

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 104 隔離・身体的拘束指示患者に対して、実施患者の割合（精神科医師 1 人当たりの平均受け持ち患者数の区別、6 月 30 日 0 時・12 時時点、令和元年と平成 26 年の比較）

精神科医師(常勤、非常勤の合計) 1人当たりの平均受け持ち患者数	平成26年																	
	0時時点						12時時点						0時または12時時点					
	隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束		
	指示あり(人)	うち実施あり(人)	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合(%)	指示あり(人)	うち実施あり(人)	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合(%)	指示あり(人)	うち実施あり(人)	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合(%)	指示あり(人)	うち実施あり(人)	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合(%)	指示あり(人)	うち実施あり(人)	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合(%)	指示あり(人)	うち実施あり(人)	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合(%)
10人未満	202	195	96.5%	124	118	95.2%	194	158	81.4%	127	106	83.5%	206	202	98.1%	131	127	96.9%
10人以上 20人未満	622	622	100.0%	373	361	96.8%	592	449	75.8%	352	280	79.5%	631	631	100.0%	375	368	98.1%
20人以上 30人未満	552	545	98.7%	469	444	94.7%	541	398	73.6%	453	309	68.2%	576	569	98.8%	478	461	96.4%
30人以上	226	183	81.0%	221	191	86.4%	216	164	75.9%	217	154	71.0%	228	206	90.4%	222	211	95.0%
不明	42	38	90.5%	36	32	88.9%	42	25	59.5%	35	25	71.4%	43	39	90.7%	36	32	88.9%
合計	1,644	1,583	96.3%	1,223	1,146	93.7%	1,585	1,194	75.3%	1,184	874	73.8%	1,684	1,647	97.8%	1,242	1,199	96.5%

精神科医師(常勤、非常勤の合計) 1人当たりの平均受け持ち患者数	令和元年																	
	0時時点						12時時点						0時または12時時点					
	隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束		
	指示あり(人)	うち実施あり(人)	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合(%)	指示あり(人)	うち実施あり(人)	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合(%)	指示あり(人)	うち実施あり(人)	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合(%)	指示あり(人)	うち実施あり(人)	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合(%)	指示あり(人)	うち実施あり(人)	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合(%)	指示あり(人)	うち実施あり(人)	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合(%)
10人未満	316	308	97.5%	91	83	91.2%	319	252	79.0%	98	79	80.6%	326	321	98.5%	99	91	91.9%
10人以上 20人未満	725	715	98.6%	410	383	93.4%	712	559	78.5%	406	328	80.8%	738	728	98.6%	419	411	98.1%
20人以上 30人未満	528	481	91.1%	300	283	94.3%	521	361	69.3%	294	217	73.8%	532	499	93.8%	304	289	95.1%
30人以上	179	175	97.8%	240	236	98.3%	173	109	63.0%	217	176	81.1%	180	176	97.8%	241	239	99.2%
不明	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
合計	1,748	1,679	96.1%	1,041	985	94.6%	1,725	1,281	74.3%	1,015	800	78.8%	1,776	1,724	97.1%	1,063	1,030	96.9%

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定



表 105 隔離・身体的拘束指示患者に対して、実施患者の割合（精神保健指定医数の区分別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）

精神保健指定医数 (常勤、非常勤の合計) ※	平成21年																	
	0時時点						12時時点						0時または12時時点					
	隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束		
	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)
3人未満	17	10	58.8%	17	17	100.0%	13	4	30.8%	15	10	66.7%	17	10	58.8%	17	17	100.0%
3人以上 5人未満	32	32	100.0%	5	5	100.0%	28	17	60.7%	5	4	80.0%	33	33	100.0%	5	5	100.0%
5人以上 10人未満	114	97	85.1%	42	23	54.8%	115	83	72.2%	42	24	57.1%	117	100	85.5%	44	36	81.8%
10人以上	47	40	85.1%	32	29	90.6%	47	22	46.8%	32	22	68.8%	47	40	85.1%	32	30	93.8%
不明	44	43	97.7%	17	14	82.4%	47	41	87.2%	17	12	70.6%	47	46	97.9%	17	14	82.4%
合計	254	222	87.4%	113	88	77.9%	250	167	66.8%	111	72	64.9%	261	229	87.7%	115	102	88.7%

精神保健指定医数 (常勤、非常勤の合計) ※	令和元年																	
	0時時点						12時時点						0時または12時時点					
	隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束		
	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)
3人未満	21	18	85.7%	38	38	100.0%	21	11	52.4%	37	19	51.4%	21	18	85.7%	38	38	100.0%
3人以上 5人未満	56	55	98.2%	15	15	100.0%	56	47	83.9%	15	10	66.7%	56	55	98.2%	15	15	100.0%
5人以上 10人未満	175	131	74.9%	87	61	70.1%	174	104	59.8%	87	38	43.7%	176	136	77.3%	87	63	72.4%
10人以上	69	69	100.0%	2	2	100.0%	70	67	95.7%	2	2	100.0%	70	70	100.0%	2	2	100.0%
不明	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
合計	321	273	85.0%	142	116	81.7%	321	229	71.3%	141	69	48.9%	323	279	86.4%	142	118	83.1%

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 106 隔離・身体的拘束指示患者に対して、実施患者の割合（精神保健指定医数の区分別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）

精神保健指定医数 (常勤、非常勤の合計) ※	平成26年																	
	0時時点						12時時点						0時または12時時点					
	隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束		
	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)
3人未満	98	95	96.9%	150	131	87.3%	93	77	82.8%	143	127	88.8%	99	97	98.0%	156	150	96.2%
3人以上 5人未満	189	183	96.8%	145	135	93.1%	179	113	63.1%	141	73	51.8%	193	189	97.9%	146	142	97.3%
5人以上 10人未満	760	756	99.5%	606	588	97.0%	735	570	77.6%	583	453	77.7%	784	780	99.5%	616	604	98.1%
10人以上	555	511	92.1%	286	260	90.9%	536	409	76.3%	282	196	69.5%	565	542	95.9%	288	271	94.1%
不明	42	38	90.5%	36	32	88.9%	42	25	59.5%	35	25	71.4%	43	39	90.7%	36	32	88.9%
合計	1,644	1,583	96.3%	1,223	1,146	93.7%	1,585	1,194	75.3%	1,184	874	73.8%	1,684	1,647	97.8%	1,242	1,199	96.5%

精神保健指定医数 (常勤、非常勤の合計) ※	令和元年																	
	0時時点						12時時点						0時または12時時点					
	隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束		
	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)
3人未満	90	85	94.4%	131	124	94.7%	84	64	76.2%	128	101	78.9%	90	87	96.7%	131	127	96.9%
3人以上 5人未満	197	196	99.5%	143	140	97.9%	192	150	78.1%	142	114	80.3%	206	205	99.5%	151	148	98.0%
5人以上 10人未満	693	683	98.6%	498	472	94.8%	685	513	74.9%	473	382	80.8%	708	698	98.6%	509	494	97.1%
10人以上	768	715	93.1%	269	249	92.6%	764	554	72.5%	272	203	74.6%	772	734	95.1%	272	261	96.0%
不明	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
合計	1,748	1,679	96.1%	1,041	985	94.6%	1,725	1,281	74.3%	1,015	800	78.8%	1,776	1,724	97.1%	1,063	1,030	96.9%

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 107 隔離・身体的拘束指示患者に対して、実施患者の割合（精神保健指定医 1 人当たりの平均受け持ち患者数の区分別、6 月 30 日 0 時・12 時時点、令和元年と平成 21 年の比較）

精神保健指定医(常勤、非常勤の合計) 1人当たりの平均受け持ち患者数※	平成21年																	
	0時時点						12時時点						0時または12時時点					
	隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束		
	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)
15人未満	21	12	57.1%	10	9	90.0%	16	7	43.8%	8	7	87.5%	21	12	57.1%	10	9	90.0%
15人以上 30人未満	50	49	98.0%	34	24	70.6%	50	35	70.0%	34	30	88.2%	50	49	98.0%	34	34	100.0%
30人以上 50人未満	88	74	84.1%	42	34	81.0%	86	51	59.3%	42	17	40.5%	92	78	84.8%	44	37	84.1%
50人以上	51	44	86.3%	10	7	70.0%	51	33	64.7%	10	6	60.0%	51	44	86.3%	10	8	80.0%
不明	44	43	97.7%	17	14	82.4%	47	41	87.2%	17	12	70.6%	47	46	97.9%	17	14	82.4%
合計	254	222	87.4%	113	88	77.9%	250	167	66.8%	111	72	64.9%	261	229	87.7%	115	102	88.7%

精神保健指定医(常勤、非常勤の合計) 1人当たりの平均受け持ち患者数※	令和元年																	
	0時時点						12時時点						0時または12時時点					
	隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束		
	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)
15人未満	13	11	84.6%	12	11	91.7%	13	7	53.8%	12	8	66.7%	13	11	84.6%	12	11	91.7%
15人以上 30人未満	9	6	66.7%	14	14	100.0%	9	6	66.7%	13	7	53.8%	9	6	66.7%	14	14	100.0%
30人以上 50人未満	93	69	74.2%	43	31	72.1%	94	63	67.0%	43	9	20.9%	94	73	77.7%	43	31	72.1%
50人以上	206	187	90.8%	73	60	82.2%	205	153	74.6%	73	45	61.6%	207	189	91.3%	73	62	84.9%
不明	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
合計	321	273	85.0%	142	116	81.7%	321	229	71.3%	141	69	48.9%	323	279	86.4%	142	118	83.1%

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 108 隔離・身体的拘束指示患者に対して、実施患者の割合（精神保健指定医 1 人当たりの平均受け持ち患者数の区分別、6 月 30 日 0 時・12 時時点、令和元年と平成 26 年の比較）

精神保健指定医(常勤、非常勤の合計) 1人当たりの平均受け持ち患者数※	平成26年																	
	0時時点						12時時点						0時または12時時点					
	隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束		
	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)
15人未満	206	200	97.1%	158	155	98.1%	202	163	80.7%	160	134	83.8%	212	209	98.6%	164	163	99.4%
15人以上 30人未満	617	616	99.8%	374	349	93.3%	572	440	76.9%	365	274	75.1%	626	625	99.8%	379	362	95.5%
30人以上 50人未満	593	549	92.6%	419	394	94.0%	595	428	71.9%	400	289	72.3%	616	592	96.1%	426	411	96.5%
50人以上	186	180	96.8%	236	216	91.5%	174	138	79.3%	224	152	67.9%	187	182	97.3%	237	231	97.5%
不明	42	38	90.5%	36	32	88.9%	42	25	59.5%	35	25	71.4%	43	39	90.7%	36	32	88.9%
合計	1,644	1,583	96.3%	1,223	1,146	93.7%	1,585	1,194	75.3%	1,184	874	73.8%	1,684	1,647	97.8%	1,242	1,199	96.5%

精神保健指定医(常勤、非常勤の合計) 1人当たりの平均受け持ち患者数※	令和元年																	
	0時時点						12時時点						0時または12時時点					
	隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束		
	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)
15人未満	74	72	97.3%	38	36	94.7%	78	64	82.1%	44	37	84.1%	79	77	97.5%	45	43	95.6%
15人以上 30人未満	394	389	98.7%	104	96	92.3%	394	299	75.9%	105	85	81.0%	400	396	99.0%	105	151	143.8%
30人以上 50人未満	687	671	97.7%	415	379	91.3%	677	538	79.5%	411	328	79.8%	703	687	97.7%	426	677	158.9%
50人以上	593	547	92.2%	484	474	97.9%	576	380	66.0%	455	350	76.9%	594	564	94.9%	487	794	163.0%
不明	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
合計	1,748	1,679	96.1%	1,041	985	94.6%	1,725	1,281	74.3%	1,015	800	78.8%	1,776	1,724	97.1%	1,063	1,665	156.6%

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 109 隔離・身体的拘束指示患者に対して、実施患者の割合（6月30日の看護職員数（0時）の区分別、6月30日0時時点、令和元年と平成21年の比較）

6月30日の看護職員数 （0時時点）※	平成21年																	
	0時時点						12時時点						0時または12時時点					
	隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束		
	指示あり （人）	うち 実施あり （人）	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合（%）	指示あり （人）	うち 実施あり （人）	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合（%）	指示あり （人）	うち 実施あり （人）	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合（%）	指示あり （人）	うち 実施あり （人）	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合（%）	指示あり （人）	うち 実施あり （人）	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合（%）	指示あり （人）	うち 実施あり （人）	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合（%）
5人未満	51	35	68.6%	24	18	75.0%												
5人以上 10人未満	57	51	89.5%	45	33	73.3%												
10人以上 20人未満	74	65	87.8%	26	19	73.1%												
20人以上	33	32	97.0%	7	7	100.0%												
不明	39	39	100.0%	11	11	100.0%												
合計	254	222	87.4%	113	88	77.9%												

6月30日の看護職員数 （0時時点）※	令和元年																	
	0時時点						12時時点						0時または12時時点					
	隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束		
	指示あり （人）	うち 実施あり （人）	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合（%）	指示あり （人）	うち 実施あり （人）	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合（%）	指示あり （人）	うち 実施あり （人）	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合（%）	指示あり （人）	うち 実施あり （人）	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合（%）	指示あり （人）	うち 実施あり （人）	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合（%）	指示あり （人）	うち 実施あり （人）	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合（%）
5人未満	45	33	73.3%	37	29	78.4%												
5人以上 10人未満	126	100	79.4%	83	71	85.5%												
10人以上 20人未満	100	90	90.0%	19	13	68.4%												
20人以上	50	50	100.0%	3	3	100.0%												
不明	0	0	-	0	0	-												
合計	321	273	85.0%	142	116	81.7%												

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 110 隔離・身体的拘束指示患者に対して、実施患者の割合（6月30日の看護職員数（0時）の区分別、6月30日0時時点、令和元年と平成26年の比較）

6月30日の看護職員数 （0時時点）※	平成26年																	
	0時時点						12時時点						0時または12時時点					
	隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束		
	指示あり （人）	うち 実施あり （人）	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合（%）	指示あり （人）	うち 実施あり （人）	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合（%）	指示あり （人）	うち 実施あり （人）	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合（%）	指示あり （人）	うち 実施あり （人）	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合（%）	指示あり （人）	うち 実施あり （人）	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合（%）	指示あり （人）	うち 実施あり （人）	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合（%）
5人未満	171	166	97.1%	222	216	97.3%												
5人以上 10人未満	480	474	98.8%	446	407	91.3%												
10人以上 20人未満	721	675	93.6%	365	336	92.1%												
20人以上	189	189	100.0%	165	165	100.0%												
不明	83	79	95.2%	25	22	88.0%												
合計	1,644	1,583	96.3%	1,223	1,146	93.7%												

6月30日の看護職員数 （0時時点）※	令和元年																	
	0時時点						12時時点						0時または12時時点					
	隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束		
	指示あり （人）	うち 実施あり （人）	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合（%）	指示あり （人）	うち 実施あり （人）	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合（%）	指示あり （人）	うち 実施あり （人）	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合（%）	指示あり （人）	うち 実施あり （人）	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合（%）	指示あり （人）	うち 実施あり （人）	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合（%）	指示あり （人）	うち 実施あり （人）	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合（%）
5人未満	156	152	97.4%	197	191	97.0%												
5人以上 10人未満	554	542	97.8%	309	287	92.9%												
10人以上 20人未満	693	641	92.5%	351	325	92.6%												
20人以上	345	344	99.7%	184	182	98.9%												
不明	0	0	-	0	0	-												
合計	1,748	1,679	96.1%	1,041	985	94.6%												

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 111 隔離・身体的拘束指示患者に対して、実施患者の割合（6月30日の看護職員数（12時）の区分別、6月30日12時時点、令和元年と平成21年の比較）

6月30日の看護職員数 (12時時点)※	平成21年																	
	0時時点					12時時点					0時または12時時点							
	隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束		
	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)
10人未満						2	1	50.0%	7	2	28.6%							
10人以上 20人未満						20	9	45.0%	11	10	90.9%							
20人以上 30人未満						38	26	68.4%	27	27	100.0%							
30人以上						148	89	60.1%	55	23	41.8%							
不明						42	42	100.0%	11	10	90.9%							
合計						250	167	66.8%	111	72	64.9%							

6月30日の看護職員数 (12時時点)※	令和元年																	
	0時時点					12時時点					0時または12時時点							
	隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束		
	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)
10人未満						29	20	69.0%	30	19	63.3%							
10人以上 20人未満						37	35	94.6%	19	18	94.7%							
20人以上 30人未満						30	19	63.3%	23	10	43.5%							
30人以上						225	155	68.9%	69	22	31.9%							
不明						0	0	-	0	0	-							
合計						321	229	71.3%	141	69	48.9%							

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 112 隔離・身体的拘束指示患者に対して、実施患者の割合（6月30日の看護職員数（12時）の区分別、6月30日12時時点、令和元年と平成26年の比較）

6月30日の看護職員数 (12時時点)※	平成26年																	
	0時時点					12時時点					0時または12時時点							
	隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束		
	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)
10人未満						6	5	83.3%	9	9	100.0%							
10人以上 20人未満						41	39	95.1%	87	81	93.1%							
20人以上 30人未満						134	120	89.6%	142	120	84.5%							
30人以上						1,322	965	73.0%	923	642	69.6%							
不明						82	65	79.3%	23	22	95.7%							
合計						1,585	1,194	75.3%	1,184	874	73.8%							

6月30日の看護職員数 (12時時点)※	令和元年																	
	0時時点					12時時点					0時または12時時点							
	隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束		
	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)
10人未満						129	105	81.4%	219	186	84.9%							
10人以上 20人未満						394	282	71.6%	200	160	80.0%							
20人以上 30人未満						400	277	69.3%	147	111	75.5%							
30人以上						802	617	76.9%	449	343	76.4%							
不明						0	0	-	0	0	-							
合計						1,725	1,281	74.3%	1,015	800	78.8%							

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定



表 113 隔離・身体的拘束指示患者に対して、実施患者の割合（6月30日の看護職員1人当たりの受け持ち患者数（0時）区分別、6月30日0時時点、令和元年と平成21年の比較）

6月30日の看護職員1人当たりの平均受け持ち患者数（0時時点）※	平成21年																	
	0時時点						12時時点						0時または12時時点					
	隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束		
	指示あり（人）	うち実施あり（人）	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合（%）	指示あり（人）	うち実施あり（人）	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合（%）	指示あり（人）	うち実施あり（人）	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合（%）	指示あり（人）	うち実施あり（人）	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合（%）	指示あり（人）	うち実施あり（人）	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合（%）	指示あり（人）	うち実施あり（人）	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合（%）
10人未満	7	7	100.0%	6	6	100.0%												
10人以上 20人未満	38	30	78.9%	12	9	75.0%												
20人以上 30人未満	81	72	88.9%	49	46	93.9%												
30人以上	89	74	83.1%	35	16	45.7%												
不明	39	39	100.0%	11	11	100.0%												
合計	254	222	87.4%	113	88	77.9%												

6月30日の看護職員1人当たりの平均受け持ち患者数（0時時点）※	令和元年																	
	0時時点						12時時点						0時または12時時点					
	隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束		
	指示あり（人）	うち実施あり（人）	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合（%）	指示あり（人）	うち実施あり（人）	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合（%）	指示あり（人）	うち実施あり（人）	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合（%）	指示あり（人）	うち実施あり（人）	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合（%）	指示あり（人）	うち実施あり（人）	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合（%）	指示あり（人）	うち実施あり（人）	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合（%）
10人未満	23	22	95.7%	11	10	90.9%												
10人以上 20人未満	24	19	79.2%	23	23	100.0%												
20人以上 30人未満	232	197	84.9%	78	61	78.2%												
30人以上	42	35	83.3%	30	22	73.3%												
不明	0	0	-	0	0	-												
合計	321	273	85.0%	142	116	81.7%												

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 114 隔離・身体的拘束指示患者に対して、実施患者の割合（6月30日の看護職員1人当たりの受け持ち患者数（0時）区分別、6月30日0時時点、令和元年と平成26年の比較）

6月30日の看護職員1人当たりの平均受け持ち患者数（0時時点）※	平成26年														
	0時時点						12時時点						0時または12時時点		
	隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束			隔離		身体的拘束
	指示あり（人）	うち実施あり（人）	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合（%）	指示あり（人）	うち実施あり（人）	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合（%）	指示あり（人）	うち実施あり（人）	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合（%）	指示あり（人）	うち実施あり（人）	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合（%）	指示あり（人）	うち実施あり（人）	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合（%）
10人未満	133	133	100.0%	145	145	100.0%									
10人以上 20人未満	549	542	98.7%	241	232	96.3%									
20人以上 30人未満	620	575	92.7%	559	514	91.9%									
30人以上	259	254	98.1%	253	233	92.1%									
不明	83	79	95.2%	25	22	88.0%									
合計	1,644	1,583	96.3%	1,223	1,146	93.7%									

6月30日の看護職員1人当たりの平均受け持ち患者数（0時時点）※	令和元年														
	0時時点						12時時点						0時または12時時点		
	隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束			隔離		身体的拘束
	指示あり（人）	うち実施あり（人）	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合（%）	指示あり（人）	うち実施あり（人）	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合（%）	指示あり（人）	うち実施あり（人）	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合（%）	指示あり（人）	うち実施あり（人）	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合（%）	指示あり（人）	うち実施あり（人）	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合（%）
10人未満	240	236	98.3%	151	143	94.7%									
10人以上 20人未満	543	532	98.0%	257	240	93.4%									
20人以上 30人未満	772	722	93.5%	450	434	96.4%									
30人以上	193	189	97.9%	183	168	91.8%									
不明	0	0	-	0	0	-									
合計	1,748	1,679	96.1%	1,041	985	94.6%									

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 115 隔離・身体的拘束指示患者に対して、実施患者の割合（6月30日の看護職員1人当たりの受け持ち患者数（12時）区分別、6月30日12時時点、令和元年と平成21年の比較）

6月30日の看護職員1人当たりの平均受け持ち患者数（12時時点）※	平成21年														
	0時時点					12時時点					0時または12時時点				
	隔離			身体的拘束		隔離			身体的拘束		隔離			身体的拘束	
	指示あり（人）	うち実施あり（人）	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合（%）	指示あり（人）	うち実施あり（人）	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合（%）	指示あり（人）	うち実施あり（人）	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合（%）	指示あり（人）	うち実施あり（人）	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合（%）	指示あり（人）	うち実施あり（人）	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合（%）
5人未満							108	58	53.7%	41	19	46.3%			
5人以上 7人未満							70	47	67.1%	23	9	39.1%			
7人以上 10人未満							26	16	61.5%	21	19	90.5%			
10人以上							4	4	100.0%	15	15	100.0%			
不明							42	42	100.0%	11	10	90.9%			
合計							250	167	66.8%	111	72	64.9%			

6月30日の看護職員1人当たりの平均受け持ち患者数（12時時点）※	令和元年														
	0時時点					12時時点					0時または12時時点				
	隔離			身体的拘束		隔離			身体的拘束		隔離			身体的拘束	
	指示あり（人）	うち実施あり（人）	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合（%）	指示あり（人）	うち実施あり（人）	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合（%）	指示あり（人）	うち実施あり（人）	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合（%）	指示あり（人）	うち実施あり（人）	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合（%）	指示あり（人）	うち実施あり（人）	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合（%）
5人未満							78	34	43.6%	63	22	34.9%			
5人以上 7人未満							48	29	60.4%	21	7	33.3%			
7人以上 10人未満							99	75	75.8%	32	17	53.1%			
10人以上							96	91	94.8%	25	23	92.0%			
不明							0	0	-	0	0	-			
合計							321	229	71.3%	141	69	48.9%			

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 116 隔離・身体的拘束指示患者に対して、実施患者の割合（6月30日の看護職員1人当たりの受け持ち患者数（12時）区分別、6月30日12時時点、令和元年と平成26年の比較）

6月30日の看護職員1人当たりの平均受け持ち患者数（12時時点）※	平成26年																	
	0時時点					12時時点					0時または12時時点							
	隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束		
	指示あり（人）	うち実施あり（人）	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合（%）	指示あり（人）	うち実施あり（人）	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合（%）	指示あり（人）	うち実施あり（人）	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合（%）	指示あり（人）	うち実施あり（人）	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合（%）	指示あり（人）	うち実施あり（人）	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合（%）	指示あり（人）	うち実施あり（人）	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合（%）
5人未満							624	471	75.5%	330	249	75.5%						
5人以上 7人未満							581	443	76.2%	541	382	70.6%						
7人以上 10人未満							278	195	70.1%	238	169	71.0%						
10人以上							20	20	100.0%	52	52	100.0%						
不明							82	65	79.3%	23	22	95.7%						
合計							1,585	1,194	75.3%	1,184	874	73.8%						

6月30日の看護職員1人当たりの平均受け持ち患者数（12時時点）※	令和元年																	
	0時時点					12時時点					0時または12時時点							
	隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束		
	指示あり（人）	うち実施あり（人）	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合（%）	指示あり（人）	うち実施あり（人）	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合（%）	指示あり（人）	うち実施あり（人）	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合（%）	指示あり（人）	うち実施あり（人）	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合（%）	指示あり（人）	うち実施あり（人）	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合（%）	指示あり（人）	うち実施あり（人）	指示が出されていた患者に対して、実施された患者の割合（%）
5人未満							302	249	82.5%	191	152	79.6%						
5人以上 7人未満							367	262	71.4%	132	81	61.4%						
7人以上 10人未満							587	447	76.1%	354	268	75.7%						
10人以上							469	323	68.9%	338	299	88.5%						
不明							0	0	-	0	0	-						
合計							1,725	1,281	74.3%	1,015	800	78.8%						

※ 回答した医療機関の当該指標を小さい順に並べたときに、各カテゴリに含まれる医療機関数が全体の25%ずつになるようにカテゴリを決定

表 117 隔離・身体的拘束指示患者に対して、実施患者の割合（設立主体別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）

設立主体別	平成21年																	
	0時時点						12時時点						0時または12時時点					
	隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束		
	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)
国等設立医療機関	16	9	56.3%	17	17	100.0%	12	3	25.0%	15	9	60.0%	16	9	56.3%	17	17	100.0%
その他の公的医療機関	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
うち 指定病院	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
非指定病院	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
民間、その他医療機関	238	213	89.5%	96	71	74.0%	238	164	68.9%	96	63	65.6%	245	220	89.8%	98	85	86.7%
うち 指定病院	224	199	88.8%	94	69	73.4%	225	157	69.8%	94	62	66.0%	231	206	89.2%	96	83	86.5%
非指定病院	14	14	100.0%	2	2	100.0%	13	7	53.8%	2	1	50.0%	14	14	100.0%	2	2	100.0%
合計	254	222	87.4%	113	88	77.9%	250	167	66.8%	111	72	64.9%	261	229	87.7%	115	102	88.7%

設立主体別	令和元年																	
	0時時点						12時時点						0時または12時時点					
	隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束		
	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出さ れていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)
国等設立医療機関	17	14	82.4%	24	23	95.8%	17	10	58.8%	23	13	56.5%	17	14	82.4%	24	23	95.8%
その他の公的医療機関	0	0	-	1	1	100.0%	0	0	-	1	1	100.0%	0	0	-	1	1	100.0%
うち 指定病院	0	0	-	1	1	100.0%	0	0	-	1	1	100.0%	0	0	-	1	1	100.0%
非指定病院	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
民間、その他医療機関	304	259	85.2%	117	92	78.6%	304	219	72.0%	117	55	47.0%	306	265	86.6%	117	94	80.3%
うち 指定病院	282	238	84.4%	92	67	72.8%	282	205	72.7%	92	42	45.7%	284	244	85.9%	92	69	75.0%
非指定病院	22	21	95.5%	25	25	100.0%	22	14	63.6%	25	13	52.0%	22	21	95.5%	25	25	100.0%
合計	321	273	85.0%	142	116	81.7%	321	229	71.3%	141	69	48.9%	323	279	86.4%	142	118	83.1%

表 118 隔離・身体的拘束指示患者に対して、実施患者の割合（設立主体別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）

設立主体別	平成26年																	
	0時時点						12時時点						0時または12時時点					
	隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束			隔離		身体的拘束			
	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)
国等設立医療機関	351	346	98.6%	148	141	95.3%	339	239	70.5%	132	101	76.5%	355	350	98.6%	150	145	96.7%
その他の公的医療機関	142	138	97.2%	80	79	98.8%	126	98	77.8%	83	80	96.4%	142	140	98.6%	85	85	100.0%
うち 指定病院	115	115	100.0%	63	62	98.4%	100	77	77.0%	66	65	98.5%	115	115	100.0%	68	68	100.0%
非指定病院	27	23	85.2%	17	17	100.0%	26	21	80.8%	17	15	88.2%	27	25	92.6%	17	17	100.0%
民間、その他医療機関	1,151	1,099	95.5%	995	926	93.1%	1,120	857	76.5%	969	693	71.5%	1,187	1,157	97.5%	1,007	969	96.2%
うち 指定病院	1,076	1,027	95.4%	858	811	94.5%	1,048	803	76.6%	835	617	73.9%	1,111	1,083	97.5%	870	837	96.2%
非指定病院	75	72	96.0%	137	115	83.9%	72	54	75.0%	134	76	56.7%	76	74	97.4%	137	132	96.4%
合計	1,644	1,583	96.3%	1,223	1,146	93.7%	1,585	1,194	75.3%	1,184	874	73.8%	1,684	1,647	97.8%	1,242	1,199	96.5%

設立主体別	令和元年																	
	0時時点						12時時点						0時または12時時点					
	隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束			隔離		身体的拘束			
	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)
国等設立医療機関	357	353	98.9%	100	93	93.0%	354	258	72.9%	99	70	70.7%	361	358	99.2%	102	96	94.1%
その他の公的医療機関	148	144	97.3%	62	57	91.9%	138	114	82.6%	66	60	90.9%	153	151	98.7%	68	65	95.6%
うち 指定病院	129	128	99.2%	54	51	94.4%	118	95	80.5%	59	55	93.2%	133	132	99.2%	60	59	98.3%
非指定病院	19	16	84.2%	8	6	75.0%	20	19	95.0%	7	5	71.4%	20	19	95.0%	8	6	75.0%
民間、その他医療機関	1,243	1,182	95.1%	879	835	95.0%	1,233	909	73.7%	850	670	78.8%	1,262	1,215	96.3%	893	869	97.3%
うち 指定病院	1,145	1,086	94.8%	772	731	94.7%	1,141	836	73.3%	743	593	79.8%	1,164	1,119	96.1%	786	763	97.1%
非指定病院	98	96	98.0%	107	104	97.2%	92	73	79.3%	107	77	72.0%	98	96	98.0%	107	106	99.1%
合計	1,748	1,679	96.1%	1,041	985	94.6%	1,725	1,281	74.3%	1,015	800	78.8%	1,776	1,724	97.1%	1,063	1,030	96.9%

表 119 隔離・身体的拘束指示患者に対して、実施患者の割合（病院区分別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成21年の比較）

病院区分別	平成21年																	
	0時時点						12時時点						0時または12時時点					
	隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束		
	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)
総合病院 ※1	16	9	56.3%	17	17	100.0%	12	3	25.0%	15	9	60.0%	16	9	56.3%	17	17	100.0%
その他の医療機関 ※2	238	213	89.5%	96	71	74.0%	238	164	68.9%	96	63	65.6%	245	220	89.8%	98	85	86.7%
合計	254	222	87.4%	113	88	77.9%	250	167	66.8%	111	72	64.9%	261	229	87.7%	115	102	88.7%

病院区分別	令和元年																	
	0時時点						12時時点						0時または12時時点					
	隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束		
	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)
総合病院 ※1	17	14	82.4%	25	24	96.0%	17	10	58.8%	24	14	58.3%	17	14	82.4%	25	24	96.0%
その他の医療機関 ※2	304	259	85.2%	117	92	78.6%	304	219	72.0%	117	55	47.0%	306	265	86.6%	117	94	80.3%
合計	321	273	85.0%	142	116	81.7%	321	229	71.3%	141	69	48.9%	323	279	86.4%	142	118	83.1%

※1 総合病院：「内科、外科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科の全ての科がある」かつ「医療機関全体で100床以上を持つ」病院

※2 その他の病院：精神科病院や、例えば内科と精神科があり病床を持つ病院を含む

表 120 隔離・身体的拘束指示患者に対して、実施患者の割合（病院区分別、6月30日0時・12時時点、令和元年と平成26年の比較）

病院区分別	平成26年																	
	0時時点						12時時点						0時または12時時点					
	隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束		
	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)
総合病院 ※1	110	108	98.2%	129	126	97.7%	105	93	88.6%	122	113	92.6%	112	112	100.0%	135	132	97.8%
その他の医療機関 ※2	1,534	1,475	96.2%	1,094	1,020	93.2%	1,480	1,101	74.4%	1,062	761	71.7%	1,572	1,535	97.6%	1,107	1,067	96.4%
合計	1,644	1,583	96.3%	1,223	1,146	93.7%	1,585	1,194	75.3%	1,184	874	73.8%	1,684	1,647	97.8%	1,242	1,199	96.5%

病院区分別	令和元年																	
	0時時点						12時時点						0時または12時時点					
	隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束			隔離			身体的拘束		
	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)	指示あり (人)	うち 実施あり (人)	指示が出 されていた患 者に対し て、実施さ れた患者の 割合(%)
総合病院 ※1	101	96	95.0%	111	103	92.8%	102	86	84.3%	113	94	83.2%	105	102	97.1%	116	111	95.7%
その他の医療機関 ※2	1,647	1,583	96.1%	930	882	94.8%	1,623	1,195	73.6%	902	706	78.3%	1,671	1,622	97.1%	947	919	97.0%
合計	1,748	1,679	96.1%	1,041	985	94.6%	1,725	1,281	74.3%	1,015	800	78.8%	1,776	1,724	97.1%	1,063	1,030	96.9%

※1 総合病院：「内科、外科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科の全ての科がある」かつ「医療機関全体で100床以上を持つ」病院

※2 その他の病院：精神科病院や、例えば内科と精神科があり病床を持つ病院を含む



## 付録 3

調査票 5: 隔離・身体的拘束を削減する  
組織的な取り組みについて、具体的な取り組み内容

表 1 行動制限最小化のためのシステムづくり

小カテゴリー	定義	具体的な取り組み例
<p>以前からある組織風土の維持</p>	<p>過去に出された行動制限最小化の方針や考え方が維持され、すでに組織に浸透しているもの。</p>	<p>病棟スタッフへ周知し、当院では転倒・転落予防のための身体的拘束は行わないことにしている。</p>
		<p>認知症には身体的拘束をしない方針がある。</p>
		<p>行動制限最小化委員会で不必要な隔離・身体的拘束を行わないよう徹底している。</p>
		<p>身体的な処置以外は、身体的拘束という手段を安易にとらない風土がある。</p>
		<p>看護部の管理職の中で、行動制限最小化に関して共通認識をもっている。</p>
		<p>マンパワーをかけて患者に対応し、安全と安心を提供する事で周知されている。</p>
		<p>開設準備段階から隔離室を設けていない。</p>
		<p>保護室、拘束具を増やさないという歴代の看護部長の考えを維持している。</p>
		<p>行動制限の頻度の増加、代替手段の模索ができなくなるのではとの懸念から、要望があっても保護室や拘束具を増やしていない。</p>
<p>方針の表明</p>	<p>病院(病院長、行動制限最小化委員会)または病棟管理者から、行動制限最小化に関する方針や考え方が表明されているもの。</p>	<p>理事長・院長を中心に、行動制限最小化に向けて、病院全体で考える仕組みの強化を全面的に打ち出している。</p>
		<p>行動制限最小化委員会の委員長は院長が歴任しており、委員会の方針は法人全体での方針であり、取り組みであることを示している。</p>
		<p>病院長より「身体的拘束ゼロを目指す」とメッセージが発信されている。</p>
		<p>病院の方針として「身体的拘束ゼロ」を表明している。</p>
		<p>病院全体で身体的拘束ゼロ運動をしている。</p>
		<p>病院長より、認知症病棟の隔離・身体的拘束を「ゼロ」にする取り組みが指示されている。</p>
		<p>病院の運営方針として行動制限最小化を掲げている。</p>
		<p>病院長名で、行動制限最小化の文面を院内に掲示している。</p>
		<p>病院として、身体的拘束並びに行動制限最小化のための方針を明確化している。</p>
		<p>病院長からトップダウンで、転倒・転落予防のための身体的拘束は禁止するとの方針が表明されている。</p>
		<p>転倒・転落予防のための身体的拘束は禁止している。</p>
		<p>夜間の転落予防のための身体的拘束を廃止している。</p>

小カテゴリー	定義	具体的な取り組み例
		<p>保護衣を廃止した。</p> <p>病院長より、長期の身体的拘束者に対して、代替方法を各部署で検討するように発信している。</p> <p>万が一、転倒によるインシデントが起きても、看護師の個人的責任は追及しないことを保障している。</p> <p>転倒・転落予防のための身体的拘束を身体固定へ変更したこと、赤外線センサーを導入したことを、行動制限最小化委員会より、組織全体に発信した。</p> <p>病棟師長が行動制限をしないという方針を強く打ち出している。</p>
組織全体で取り組む具体的な目標設定	組織全体で具体的な目標を設定しているもの。	<p>安易な車椅子ベルト・ミトンや介護服の使用を止める。</p> <p>車椅子ベルトやミトンなどの実施件数を減らす。</p>
人員配置のマネジメント	人員を増やして、応援体制を整え、人員を確保しているという内容のもの。	<p>入院基本料の基準をあげた(看護師が増えた)。</p> <p>病棟間の連携を充実させ、マンパワー不足を解消している。</p> <p>患者の不穏時等に、病棟間の応援も含めてマンパワーを集中させるなどの柔軟な対応をしている。</p> <p>攻撃性の強い患者の週1回の開錠観察を、他病棟の応援体制を決めて実施している。</p>
実施手順の複雑化	行動制限を減らすために、実施手順を複雑化し、業務量を増やすシステムにしている。	<p>看護記録に詳細な観察項目を設け、行動制限をすることで業務が増加するシステムにしている。</p> <p>チェックシートの記載等、書類上複雑化している。</p>
組織全体における情報共有するための工夫	院内で広く課題や現状を共有するための工夫について記載されているもの	行動制限最小化委員会の下部組織を多職種で構成することにより、広く院内で現状や課題を共有している。
組織全体における行動制限の定例的な検討	各部署の責任者が集まる全体ミーティングなど、組織全体で行動制限について検討しているもの。	<p>毎朝、各部門の管理者が参加する全体ミーティングで、各患者の隔離・身体的拘束の内容・方法・時間・評価・課題・問題点などの妥当性を検討している。</p> <p>医師全員と各部署の責任者が集まる毎朝のミーティングで、行動制限中断規準に基づいて報告している。</p> <p>医師全員と各部署の責任者が集まる毎朝のミーティングで、行動制限者のすべてをリストアップし、行動制限の実施、中断、解除の検討を行っている。</p> <p>身体拘束ゼロに向けた会議を定例化している。</p>
		<p>幹部会の中で、行動制限者について検討された内容を共有、その議事録をもって全職員に伝達している。</p> <p>病院の全体ミーティングで検討された内容は、終了後、印刷して各部署へ配布している。</p>

小カテゴリー	定義	具体的な取り組み例
組織全体での検討内容の病棟へのフィードバック	全体ミーティングなど、組織全体で行動制限について検討したことを病棟へフィードバックしているもの。	病院の全体ミーティングの内容は、ミーティング不参加の職員も含め、各部署で全職員が確認している。
報告システムの構築	行動制限の状況や問題点などの情報が、病院幹部や行動制限最小化委員会などに吸い上げられるようなシステムについて記載されているもの。	幹部会で、毎月ベッドコントロール委員会の取り組みとして隔離・身体的拘束について報告している。
		現場の声を主に行動制限最小化委員会で話し合い、その問題点を病院幹部とも共有している。
		行動制限最小化委員会で話し合ったことは、委員長が、毎月の医療安全管理委員会で報告し周知している。
		行動制限最小化委員会で毎月行動制限に関する報告書の提出を義務付けている。
		隔離・身体的拘束及び行動制限最小化に対する行動制限レポート作成などをシステム化している。
		病棟から提出された行動制限一覧性台帳を検討、その検討から挙げた疑義、改善事項は病院長や病棟管理者に報告している。
		定期的に各病棟の行動制限状況を取りまとめ、病院長や病棟管理者へ報告している。
法的な問題の再発防止にむけた対策	法的な問題が生じた(可能性がある)場合、再発防止に向けて、組織で振り返りをしているもの。	法的に問題があった場合は、院長、管理職主導で情報をオープンにし、同じようなことが起きないように組織で振り返っている。
		ケースカンファレンスなど、臨床現場から挙げた問題点や改善点を集約し、次の実践への取り組みへと修正した。
行動制限最小化委員会の下部組織の設置	行動制限最小化委員会の下部組織(小委員会・部会・分科会・チーム)を設置しているもの。	行動制限最小化委員会の下部組織として推進部会を設置
		行動制限最小化委員会の下部組織として小委員会を設置
		行動制限最小化委員会の分科会を設置
		行動制限最小化委員会内に介入チームを設置
		行動制限最小化委員会内に各病棟の副主任による「看護部会」を設置
		行動制限最小化委員会内に現場レベルで活動する「検討会」を設置
		現場看護師で「行動制限最小化チーム」を発足。
		行動制限最小化委員会とは別に現場チームを設置。

小カテゴリー	定義	具体的な取り組み例
行動制限最小化委員会とは別の実働部会の設置	行動制限最小化委員会とは別に行動制限最小化に向けた実働部会(チーム等)を設置し、取り組んでいるもの。	病棟師長を中心に隔離や身体拘束を最小化するためのケアが検討され、看護師、担当医師たちで現場レベルでの最小化に取り組んでいる。 身体拘束ゼロプロジェクトを発足させている。
行動制限最小化委員会の下部組織の会議の実施	行動制限最小化委員会の下部組織の会議	行動制限最小化委員会の下部組織として医局による小委員会を月2回開催。
行動制限最小化委員会とは別の実働部会の実施	行動制限最小化委員会とは別の実働部会	行動制限最小化委員会とは別の「病棟係会」で、病棟看護師と現場で起こっていることをより議論できるよう月1回開催。
行動制限最小化を担う院内認定看護師制度の創設	看護師による院内認定制度の創設	看護師による行動制限最小化推進を担う院内認定制度の創設。
クロザリル導入	クロザリル導入	クロザリル導入。
身体固定に変更	身体的拘束の定義の変更	転倒・転落予防のための身体的拘束を身体固定へ変更した。

表 2 職員の意識改革に向けた働きかけ

小カテゴリー	定義	具体的な取り組み例
<p>会議・研修・学習会による行動制限最小化に向けた職員への意識づけ</p>	<p>行動制限最小化に向けて職員の意識向上、意識改革を目的として行われている。そのニュアンスが強いものはここに含めた。</p>	<p>病院長が毎回カンファレンスに参加し、行動制限最小化に向けての取り組みについて積極的に意見を述べている。</p>
		<p>身体的拘束最小化に向け、「関心を向ける」「意識を変える」「行動を変える」と意識した改革を実施。</p>
		<p>行動制限解除に向けた意識の向上。</p>
		<p>漫然と隔離が継続されている事例について、行動制限最小化委員会で検討し、多職種に向けて問題提起した。</p>
		<p>身体拘束ゼロに向けたスタッフへの意識向上の為の研修企画</p>
		<p>精神科医長が身体的拘束が解除できれば、退院も早まることを会議の中で伝えていく。</p>
		<p>行動制限最小化委員会の取り組みとして、全体研修を行い、職員の意識改革を行っている。</p>
		<p>委員が、見直したマニュアルを部署で周知するとともに行動制限最小化に向けた意識づけを行った。</p>
		<p>委員が各部署に持ち帰り伝達する事で最小化に対する意識を高めた。</p>
		<p>委員が(病棟の中で行動制限最小化に向けて?)実践する事を一年毎にデータを出し、院内で発表することで最小化に対する意識を高めた。</p>
		<p>勉強会の実施などによる職員の意識づけ。</p>
		<p>行動制限の最小化につながった事例を業務改善発表する。</p>
		<p>行動制限最小化委員会の取り組みとして、各病棟で再度研修を行い、職員の意識改革を行っている。</p>
		<p>各病棟の学習会でスタッフの意識を広める。</p>
		<p>各病棟での職員の意識づけ</p>
		<p>長期身体的拘束者の多い病棟で、看護する側の意識変化を図り、最小化に取り組んでいる。</p>
		<p>病棟師長が行動制限をしないという方針をスタッフと共有している。</p>
<p>病院として、身体的拘束並びに行動制限最小化のための方針という共通認識のもと取り組んでいる。</p>		
<p>行動制限のデータを可視化や数値化し公表することで、身体的拘束並びに行動制限の最小化を病院として職員へ明示している。</p>		
<p>長期の身体的拘束者に対して、代替方法を各部署で検討するよう伝達し浸透させていった。</p>		
<p>病棟スタッフへ啓発し、当院では転倒・転落予防のための身体的拘束は行わないことにしている。</p>		

小カテゴリー	定義	具体的な取り組み例
<p>行動制限最小化委員会での検討内容を病棟へ周知・徹底</p>	<p>行動制限最小化委員会の検討内容を病棟へ周知・徹底させるために工夫について記載されているもの。行動制限基本指針の勉強会について、毎年開催しているという記載があったものは、このカテゴリーに含めた。</p>	<p>毎朝、病棟のミーティングで最小化カンファレンスを行うよう行動制限最小化委員会から定着させた。</p>
		<p>行動制限最小化委員会にて各病棟担当者へ開放時間を段階的に増やす取り組みを徹底した。</p>
		<p>行動制限最小化委員会活動の周知に向けて、職員へ委員会オブザーバーとして参加を呼びかけている。</p>
		<p>患者行動制限の基本指針(手順を含む)の勉強会を毎年開催している。</p>
		<p>当院としての身体的拘束・身体固定の規定を決め、行動制限最小化委員会メンバーを中心に勉強会を実施し周知徹底に努めた。</p>
		<p>病棟に行動制限担当委員を置き、マニュアルの周知徹底している。</p>
		<p>身体的拘束については、時間単位で検討するように周知した。</p>
		<p>行動制限最小化委員会で隔離・身体的拘束共に実施せず経過観察を行う場合、おおむね 2 週間後に解除を検討することを各病棟担当者と共有後、各病棟で対応した。</p>
		<p>行動制限最小化委員会や病棟の代表者だけでなく、多くのスタッフが注目できるよう、行動制限最小化委員会の委員が働きかけている。</p>
		<p>行動制限最小化委員会の取り組みを全病棟へ反映させる為、各病棟に発言力のある職員を配置させた。</p>
		<p>行動制限最小化委員会で検証した内容を各病棟の委員より発信し、反映させた。</p>
		<p>各病棟の行動制限最小化委員がスタッフに開放観察評価シートを周知した。</p>
		<p>病棟の行動制限最小化委員がスタッフに伝達し、具体的な記録の徹底を図った。</p>
		<p>行動制限最小化委員会での検討内容の病棟へのフィードバック</p>
<p>月1回の行動制限最小化委員会での検討結果を病棟へフィードバックしている。</p>		
<p>長期隔離、身体的拘束(1ヶ月以上)者に対して、行動制限最小化委員会からのコメントをフィードバックしている。</p>		

小カテゴリー	定義	具体的な取り組み例
		行動制限最小化委員会のラウンドをもとに、各病棟へフィードバックしている。
		行動制限最小化委員会から、年に1度、病棟別行動制限の推移の資料を配布している。
		行動制限最小化委員会で、病院全体の行動制限の実績を表す表を集計して、病院全体に配布している。
		毎月、各病棟に行動制限最小化委員会の会議録を配布している。



表 3 職員への教育・サポート

小カテゴリー	定義	具体的な取り組み例
教育体制の整備	継続的に教育できるような体制を整備している。継続的に教育を行っているなどの記載があるもの。	新採用者・異動者を対象とする体系的な教育の実施の整備。
		日頃より隔離・身体的拘束の倫理的側面に関する継続的な教育を行っている。
		情報共有と研修会の企画運営を行う行動制限最小化研究会を開催している。
		アンケートを年1回行い、職員の思いを汲み取りながら研修内容を考えている。
		行動制限最小化に対する理解と認識のために新人指導チェックリストの導入。
職員への教育	医療保護入院等診療料に関する施設基準にある年2回の定例的な研修会ではなく、対象者(病棟、新人教育、医師教育など)を限定した研修会(勉強会・学習会も含む)の実施や企画をしているなどの記載があるもの。または、定例的な研修会という記載がないもので、教育的なニュアンスの強いものはこのカテゴリーに含めた。	年3回、弁護士参加による研修会の開催
		精神科病棟所属看護師や精神科医師を対象にした教育を開催している。
		新採用者オリエンテーションに適切な行動制限についての研修(半日)を実施している。
		各病棟の取り組み例を共有している。
		スタッフ自身が身体的拘束を受け、身体的拘束をされることの不快さや恐怖等への理解を深める。
		写真を使って看護職員以外にも身体的拘束体験の研修がどのように行われているかを説明している。
		精神科認定看護師による隔離・身体的拘束最小化についての勉強会を定期的に開催している。
		身体的拘束並びに行動制限をすることの弊害について情報伝達し、教育している。
		隔離・身体的拘束及び行動制限最小化に対する看護師教育。
		CVPPPの普及教育を実施し、患者の暴力に対して適切に対応できる職員を増やしている。
		エンドオブライフケアについての研修の実施
		多飲症の勉強会を開催している。
		拘束帯の使用方法・リスクについての勉強会を開催
		隔離・身体的拘束の要件・精神保健福祉法・緊急の身体的拘束カット法の勉強会の開催
		各病棟で、行動制限についての勉強会を行う。
		各病棟で対象患者による行動制限の勉強会
各病棟での学習会でスタッフの知識を広めている。		
身体的拘束の適応の再学習		
精神科救急患者の隔離・身体的拘束についてのデモンストレーション。		

小カテゴリー	定義	具体的な取り組み例
		年間平均拘束日数、延べ件数、日数のデータを各病棟で分析してもらっている。
		他施設の先駆的な取り組みについて本で学び、研修に盛り込んだ。
スタッフの心理的サポート	心理的なサポートについて記載があるもの。	不安、暴力への恐怖からケアを行うことが出来なくなっている状況を改善するために、行動制限最小化委員が病棟へ足を運び、スタッフと信頼関係を築いた。
行動制限について相談できる体制	行動制限について質問を受け付けている。	法制度について行動制限最小化委員会で質問を受けている。
院内研修会の実施	医療保護入院等診療料に関する施設基準である定例的な研修会について記載があるもの。キーワードとして、「院内研修会」「全職員」「行動制限最小化委員会主催」「年2回以上」「法律」「隔離拘束の早期解除及び危機予防のための介入技術」などがあるもの。	行動制限最小化委員会が主催する年2回の研修会開催。
		隔離、身体的拘束に関する法律についての学習会を年2回以上開催している。
		精神科病棟に関わる職員に対して、年5回程度のCVPPPの普及教育を実施
		CVPPP研修会の実施。
		研修会は、実践について学んでいる。
		隔離、身体拘束に至らない関りや患者の理解を深めるための学習会を年2回以上開催している。
		隔離・身体的拘束の早期解除の研修会の企画
		企業のeラーニングによるサポートシステム導入で、行動制限最小化に関する最新の知識や組織化の醸成のヒントとなる講義の聴講をしている。
		年に2回病院の時間内研修において、行動制限に関する知識の普及を行っている。
		精神保健福祉士を中心として行動制限の研修会の機会を設け、実施している
		行動制限最小化委員会のマニュアルの周知のための研修会
		院内研修会で各部署の車いすベルトや車いすテーブルを外す取り組みを共有した。
		院内研修会で隔離・身体的拘束のカンファレンスの規則化・強化について周知した。
全職員対象の院内研修を通じて、行動制限とその最小化に向けた取り組みや現在行われている行動制限の実際を共有している。		
院内の研修内容を周知させるための働きかけ	組織全体に研修内容が周知させるような工夫について記載があるもの。	勉強会の開催を院内メール・ポスター・口頭にてアナウンスしている
		研修会に参加できなかった職員のために、研修の内容をビデオに収め、必ず閲覧し履修するようにしている
		研修会に参加できない職員に資料を配布し、内容周知徹底している。

小カテゴリー	定義	具体的な取り組み例
		多飲症について、院内研修を段階的に開催して、職員全体への多飲症の対応について周知を図っている
		開催日時を年間で決定し参加しやすいように周知している
院外の研修の機会の活用	院外の研修会に参加	身体的拘束等の研修会への参加
資料の購入	資料の購入	身体的拘束の研修会の資料の購入。

表 4 他施設の先駆的な取り組みの導入

小カテゴリー	定義	具体的な取り組み例
他施設からの情報収集	先駆的な取り組みをしている他施設への訪問、見学等の記載があるもの。他施設の情報収集、調査したもの。	他病院の取り組みなどを調査した。
		行動制限最小化委員会で他病院の情報を集めた
		先駆的な取り組みを行っている病院を見学した。
		病棟開設時、認知症治療の先端病院の見学をした。
他施設と情報共有	他施設と情報共有している	他病院との連携による情報共有。

表 5 行動制限最小化委員会の設置・運用

小カテゴリー	定義	具体的な取り組み例
行動制限最小化委員会の設置	行動制限最小化委員会設置のみの記載があるもの	多職種からなる行動制限最小化委員会を設置している。 行動制限最小化委員会の設置
行動制限最小化委員会の実施	行動制限最小化委員会の実施(開催)の語があるもの。回数、構成メンバーのみも実施に含めた。	月に2回、多職種による行動制限最小化委員会を実施 毎日、行動制限最小化委員会を実施。 行動制限最小化委員会の開催を院内メール・ポスター・口頭にてアナウンスしている
行動制限最小化委員会による検討	行動制限最小化委員会(委員会の記載はないが前後の文章から読み取れるもの)で検討している。話し合っているという記載があるもの。	行動制限最小化委員会において長期隔離・身体的拘束者の名前をあげ、患者のもとへラウンドして、解除に向けて何が出来るかを会議している。 行動制限最小化委員会では、他院の開放観察実施基準を基に開放観察の時間や頻度を検討した。 行動制限最小化委員会で各病棟の行動制限実施者について開放できないか検討 多職種からなる行動制限最小化委員会で、出来るだけ行動制限の時間短縮が図れるよう対策について協議している。 隔離・身体的拘束が長期間に及んだ場合には、その妥当性を検討 行動制限最小化委員会では行動制限全般の実施者について、その妥当性について審査している。 行動制限最小化委員会では、患者の隔離、身体的拘束の処遇であるかを患者の経過記録ごとに精神科に関わるチームでカンファレンスを実施 行動制限最小化委員会では、多職種で、対象者が隔離・身体的拘束が適正に行われているかを検討。 院長を中心に積極的に行動制限最小化委員会で長期隔離・身体的拘束者の解除にむけた検討を行っている。 行動制限最小化委員会で、1ヵ月以上の隔離・身体的拘束者に対し、他職種で解除する為の検証を行っている。 行動制限最小化委員会で長期隔離、身体拘束者の事例検討を行う。 行動制限最小化委員会で症例事にカンファレンスを行う。 行動制限最小化委員会で頻回にケース検討を行った。 漫然と行われている隔離について、行動制限最小化委員会で検討した。 長期の身体的拘束者に対して、代替方法を各部署で検討し、実施するよう行動制限最小化委員会で話しあった。

小カテゴリー	定義	具体的な取り組み例
		行動制限最小化委員会では、患者の隔離、身体拘束の代替の検討を患者の経過記録ごとに精神科に関わるチームでカンファレンスを実施
		月1回の行動制限最小化委員会に精神保健指定医が参加し、削減できそうなケースには助言し、なるべく行動制限を減らせるよう対応の工夫のアイデアを出している。
		行動制限最小化委員会では、患者の隔離、身体的拘束の制限の解除・緩和を患者の経過記録ごとに精神科に関わるチームでカンファレンスを実施
		行動制限最小化委員会にて各病棟でのカンファレンス候補者を選別、病棟カンファレンス後、次回委員会で検討している。
		行動制限最小化委員会での具体的な検討の実施
		行動制限最小化委員会では、問題点、改善点がある場合には検討する。
		行動制限最小化委員会で行動制限が最小化になるような検討を行っている
		行動制限最小化委員会で、毎月1回行動制限を受けている患者について検討
		行動制限最小化委員会で隔離・身体的拘束の必要性について検討。
		行動制限最小化委員会での隔離・身体的拘束の見直し
		月1回の行動制限最小化委員会では、各病棟の委員が行動制限者のレポートを持ち寄り、最小化に向けての取り組みについて検討。
		病棟から提出された行動制限台帳を検討
		長時間の車いす固定について、行動制限最小化委員会で検討した。
		低床ベッドを導入すべきケースがある場合には、行動制限最小化委員会の場で検討
		攻撃性の強い患者の隔離を開放観察に向けた取り組みについて行動制限最小化委員会で話し合った。
		行動制限最小化委員会にて月当たりの隔離率、拘束率を参考にしながら議論を重ねている。
		行動制限最小化委員会では、薬剤調節等について検討を行っている。
		鼻腔経管栄養の患者について、不快な時間を短くし、鼻腔経管栄養実施中はスタッフが見守れば身体的拘束予防になるのではないかと行動制限最小化委員会で話し合った。
		月1回の行動制限最小化委員会で評価を行っている。

小カテゴリー	定義	具体的な取り組み例
行動制限最小化委員会による評価	行動制限最小化委員会で行動制限について評価しているもの。	行動制限最小化委員会では、長期の行動制限者について評価。
		行動制限最小化委員会は回診後に、隔離・身体的拘束の時間の削減や解除を決めている。
		行動制限最小化委員会では、月に一度、隔離・身体的拘束患者の妥当性について評価
		隔離について、月に1回の行動制限最小化委員会で妥当性の評価
		行動制限最小化委員会では、行動制限全般の実施者について、承認、助言付き承認、指導などの評価を行っている。
行動制限最小化委員会の見直し	行動制限最小化委員会の会議内容、構成メンバーなどを見直しているもの。	行動制限委員会では、会議内容を経過報告から症状と取り組んでいる内容へと変更し、翌月に再度結果報告するようにした。
		行動制限最小化委員会の構成メンバーの見直し

表 6 基準・計画の策定管理

小カテゴリー	定義	具体的な取り組み例
基本指針・手順書の策定・整備	院内で行動制限最小化についての指針・規定を策定している。手順書をすぐに使えるよう整備している。マニュアル追加。規則化。明確化も含む。	病院内で、行動制限最小化の基本指針を定めている。
		行動制限最小化委員会規定を整備。
		行動制限最小化委員会のマニュアルの作成
		身体的拘束や隔離の標準化マニュアルを作成。
		車椅子ベルトやミトンによる行動制限について、当院における運用指針の策定を行っている。
		病院全体として、隔離・身体的拘束に関するカンファレンスの内容をカルテに記載し、主治医とも毎日検討できるシステムを作った。
		マニュアルにおいては、行動制限開始の際の評価や毎日のカンファレンスなどを規則化している。
		開放観察の行動制限の細かい対応や指定医・非指定医ができること等の行動制限の細かい対応について、指針を作成し病院全体で統一した対応とした。
		隔離・身体的拘束の看護師判断による一時解除を励行する規則を策定。
		身体的拘束の定義を明確化している。
		生命維持及び身体的治療の点滴・チューブ類の抜管防止、皮膚損傷防止等を目的とする身体的拘束は、身体固定としてマニュアルに追加した。
		隔離・身体的拘束共に実施せず経過観察を行う場合は、おおむね 2 週間後に解除の検討をすることをマニュアル化。
		行動制限最小化委員会において、隔離室を継続利用している事例には、2 週間に一度以上のカンファレンスを行うことにした。
カンファレンスで行動制限の代替手段の検討や行動制限開始の要件を満たすかどうかの検討を徹底させることをマニュアル化。		
認定看護師からの提案があり、ラウンドの手順やチェックリストなどを作成。		
基本指針・手順書の見直し	基本指針・手順書の見直しをしているもの。	内容も一部形骸化していた行動制限最小化委員会の委員会規程改訂
		これまでグレーゾーンと言われ身体的拘束扱いにしていたマニュアルの見直し
		マニュアルの見直し

小カテゴリー	定義	具体的な取り組み例
評価の判断基準の導入	隔離・身体的拘束の判断基準、解除基準、車いす使用基準の作成・設定や院外のものを導入したなどの記載があるもの。	<p>学会の指針に基づく、隔離・身体的拘束の一時中断の導入</p> <p>行動制限最小化委員会において行動制限中断規準を作成。</p> <p>隔離・身体的拘束の評価判断基準表を作成</p> <p>隔離患者に対して、隔離解除に向けた判断基準を統一するためのチェック表を作成し、使用している。</p> <p>隔離処遇レベルの分類を作成。</p> <p>隔離・身体的拘束の最小化に向けたクリニカルパスの導入</p> <p>当院の基準「隔離患者の時間開放のパターン」(開放度 A～E)を設定</p> <p>行動制限最小化委員会で他院の開放観察実施基準を基に評価シートを作成した。</p> <p>隔離・身体的拘束評価表を作成し、認知機能の低下や危険行動のリスクの有無を評価している。</p> <p>観察する看護スタッフの経験や能力により、隔離・身体的拘束の中断・解除の見識が一定ではなかったため、中断規準を作成し、看護スタッフにも判断基準をもってもらったこととした。</p>
評価の判断基準の見直し	判断基準の見直しをしているもの。	車椅子安全ベルトの使用基準の見直しを行った
各病棟の実情に合わせた目標管理	各病棟の実情に合わせた目標管理。	<p>各病棟の実情に合わせた目標管理を実行している</p> <p>病棟によって年度初めに行動制限日数の目標を掲げ、行動制限を安易に行わず、どのように対応すれば行動制限に至らず治療できるかを検討している。</p>



表 7 データの集約と見える化・管理

小カテゴリー	定義	具体的な取り組み例
院外への行動制限データの情報公開	行動制限に関するデータの公開。	行動制限に関する集計結果を病院ホームページに掲載している。
データの可視化	行動制限の状況が見える化しているもの。	<p>行動制限最小化委員会によるデータの可視化</p> <p>身体的拘束をデータ化することで最小化に努めている。</p> <p>レポートで可視化</p> <p>各病棟の隔離・身体的拘束状況の実態の見える化(表集計)を開始</p> <p>病院内の行動制限日数を集計することで行動制限の見える化</p>
隔離を減らした事例の蓄積	隔離を減らした事例を記録に残している。	各病棟の行動制限が減少や削減できた事例を、月1回の行動制限最小化委員会の記録に残している。
行動制限最小化委員会で病棟からの報告内容を共有	病棟や担当医から口頭またはレポートでの報告や委員が直接、ラウンドなどで得た情報を行動制限最小化委員会内で状況を共有しているという記載があるもの。	<p>行動制限全般について減少や削減できた事例を、月1回の行動制限最小化委員会で報告し情報共有している。</p> <p>行動制限最小化委員会では行動制限全般について各担当医より報告を受けている。</p> <p>月1回の行動制限最小化委員会で報告している。</p> <p>行動制限最小化委員会にて各病棟の取り組みを発表してもらい、共有している。</p> <p>行動制限最小化委員会にて長期の隔離・身体的拘束への各病棟の取り組みについて毎回発表するようにしている。</p> <p>行動制限最小化委員会で対象患者の情報共有を行う。</p> <p>隔離・身体的拘束及び行動制限最小化に対する行動制限レポートの情報共有</p> <p>各病棟での取組みについては行動制限最小化委員会にて情報共有している。</p> <p>行動制限最小化委員会で各病棟のカンファレンス候補者を選別。病棟カンファレンス実施後、次回委員会で報告している。</p> <p>行動制限最小化委員会で車いす転落防止ベルトや車いすテーブルを使用している人数や経過を報告している。</p>
行動制限最小化委員会における行動制限の状		<p>月1回の行動制限最小化委員会で、各病棟の委員が行動制限者のレポートを持ち寄り、現状確認を行う。</p> <p>行動制限レポート用紙や行動制限全体数用紙を作成</p>

小カテゴリー	定義	具体的な取り組み例
況を把握するための工夫	行動制限最小化委員会が行動制限の状況を把握するために記録類、ラウンドなど工夫していること。	身体的拘束状況の把握
		行動制限の実施数の把握
		行動制限最小化委員会の中で行動制限が長期になっている患者の把握
		行動制限についての統計調査
		毎月、全国の病院との比較を行っている。
		行動制限一覧性台帳でデータ管理
		隔離、身体的拘束他、車椅子ベルト・ミトンによる行動制限の理由・期間等を入力する行動制限一覧性台帳の内容を簡略化して活用できるように改訂
		行動制限一覧性台帳を見やすい内容にするため、行動制限時間の集計方法を変更した。
		行動制限最小化委員会開催時に重点的に監査する患者を選定し、病棟ラウンド時看護師から状況確認を行う。
		行動制限最小化委員会において、患者のもとへラウンドして、具体的な状況の把握の会議を行っている。
		行動制限最小化委員会の定期ラウンドによる現場の実態確認
		行動制限最小化委員会のラウンドをもとに委員会で報告
行動制限最小化委員会で、行動制限者の状況について説明し、最小化に向けた方法の意見交換を行っている。		

表 8 多角的な視点からの検討・評価

小カテゴリー	定義	具体的な取り組み例
外部評価システム	外部評価(実地指導・弁護士参加の委員会)について記載があるもの。	年3回、弁護士参加の委員会の開催
		保健所の実地指導による指摘事項の検討・改善をしている。
外部評価受審結果を全職員にフィードバック	実地指導・病院機能評価受審結果をフィードバックして、病院全体で共有している。	保健所の実地指導の指摘事項や留意事項の内容を院内研修会で報告
		機能評価の訪問審査などの指摘事項や留意事項の内容を院内研修会で報告
		行動制限が減少し、保健所等よりわずかでもよい評価を得られたときは、フィードバックしている。
データの分析と評価	行動制限最小化委員によるデータの検証・分析	行動制限最小化委員によるデータの検証や行動制限についての分析
安全管理の視点による保護室ラウンドの実施	安全管理の視点によるラウンドの実施	不定期に院長・看護部長・リスクマネージャーらで、安全管理の視点で保護室ラウンドを実施している。
行動制限最小化委員会とは別の委員会による評価	行動制限最小化委員会とは別の委員会による評価	月1回のベッドコントロール委員会で病棟から提出された患者別の「行動制限患者確認表」を評価している。
行動制限最小化委員会とは別の委員会からの指導	行動制限最小化委員会とは別の委員会からの指導	月1回のベッドコントロール委員会では、必要時、病棟へ行動制限について再評価するよう繋げている。
行動制限最小化委員会からの指導	行動制限最小化委員会から病棟へ指導をしている。ラウンドや文書などによる働きかけも含む。	行動制限最小化委員会では病棟からの報告に対して指導を行っている。
		行動制限最小化委員会にて各病棟でのカンファレンス候補者を選別している。
		隔離・身体的拘束が1カ月を超える場合は、行動制限最小化委員会から、2週間以内に主治医を含め多職種でカンファレンスを実施するよう文書で依頼している。
		約1か月の長期行動制限に及ぶ場合は、行動制限最小化委員会より主治医に処遇改善の依頼文を出し、検討してもらっている。
		まずは、5分間でよいので、開放観察を行うよう指導している。
行動制限最小化委員会の定期ラウンドによる現場での指導		

小カテゴリー	定義	具体的な取り組み例
行動制限最小化委員会からの助言	行動制限最小化委員会から病棟へ助言(提案、提言、アドバイスも含む)しているもの。	行動制限最小化委員会で話し合い、改善が必要なケースについては各病棟長へ指示の解除や時間の削減を行うよう提言している。
		行動制限最小化委員会で開放観察を積極的に提案している。
		行動制限最小化委員会では行動制限ラウンド時、最小化に向けたアドバイスを行っている。
		病棟ラウンド時、困難事例への提案をしている。
		2か月以上の行動制限をする場合は、主治医に対して文書で行動制限最小化委員会としての意見を提示している。
行動制限最小化委員会によるラウンドの実施	行動制限最小化委員会がラウンドしているもの。	行動制限最小化委員会の前に、各病棟の行動制限状況や今後の対策についての病棟ラウンドを行う。
		行動制限最小化委員会として複数名で、月1回ラウンドを実施。
		隔月に行動制限最小化委員が病棟ラウンドを実施
		行動制限最小化委員会が行動制限ラウンドを実施
		年2回、行動制限最小化委員会メンバーによる病棟ラウンド
		行動制限最小化委員会による身体的拘束患者の院内ラウンド
		1か月に1回程度、行動制限最小化委員会の看護師による病棟ラウンドを実施している。
		院長及び行動制限最小化委員によって、14日以上隔離・身体的拘束者に対し、月1回院内ラウンドによる診察を行っている。
行動制限最小化委員によるラウンドを不定期に実施		
行動制限最小化委員会の病棟カンファレンスへの参加	行動制限最小化委員会メンバーが病棟カンファレンスに参加し検討しているもの。	必要時は行動制限最小化委員会の担当科長や精神保健福祉士が病棟カンファレンスに参加し、最小化に向けて検討
		行動制限最小化委員会では必要に応じて、現場に出向いて共に改善策を検討する。
行動制限最小化委員会の下部組織による検討	行動制限最小化委員会の下部組織で行動制限最小化にむけて検討や審議しているなどの記載があるもの。	行動制限最小化委員会の下部組織の小委員会で、各主治医から提出された個別報告書をもとに行動制限状況について疑義や改善事項の有無を審議
		行動制限最小化委員会の介入チームが各病棟の長期行動制限者の今後の取り組みについて検討
		転倒・転落予防の身体的拘束禁止について、行動制限最小化委員会の介入チームで検討した。
		月1回の看護部会で行動制限最小化を促進するための討議を行っている。

小カテゴリー	定義	具体的な取り組み例
行動制限最小化委員会の下部組織によるラウンドの実施	行動制限最小化委員会の下部組織によるラウンド。	行動制限最小化委員会の下部組織による回診の実施。
		院内の認定看護師による回診の実施。
行動制限最小化委員会とは別の実働部会からの助言	行動制限最小化委員会とは別の実働部会からの助言	認知症ケアチームのラウンド時に、認知症者への対応について助言している。
		病棟内のことに限定されている認知症専門の実働部会の立ち上げにより、認知症・高齢者の身体的拘束を漫然と行っていないかや解除できる代替案は試しているかを具体的に働きかけている。
行動制限最小化委員会とは別の実働部会によるラウンドの実施	行動制限最小化委員会とは別の実働部会によるラウンド。	看護師による行動制限最小化チームによる病棟ラウンド
		行動制限最小化委員会とは別の「病棟係会」による病棟ラウンド
		各チームは、精神保健指定医を含む医師、看護師で隔離中の患者については1日1回以上、身体拘束中の患者については1日2回以上回診している。
ラウンド時の病棟への助言	ラウンド時に、病棟で行動制限最小化について検討する機会を確保している。	法令的な質問・現場での処遇困難患者への対応方法・行動制限に代わる看護ケアの相談や検討をラウンドメンバーと現場スタッフで検討する時間を設けている。
多職種協働	行動制限最小化にむけて多職種で取り組んでいるもの。多職種連携も含む。	隔離・身体的拘束にかかわる医師、看護師だけでなく、それ以外のメディカルスタッフとも協働している。
		身体的拘束が外せるよう医師から他職種にも働きかけている。
		長期身体的拘束の多い病棟で、主治医と共に全体で最小化に取り組んでいる。
		攻撃性の強い患者の週1回の開放観察を多職種で実施。
		歩ける患者には歩ける環境をつくり、理学療法士や作業療法士によるプログラムへ積極的に参加を促している。
		不安、暴力への恐怖からケアが出来なくなっている状況を改善するために、職種を超えたケアの実践 多職種連携を強化
多職種による事例検討会	多職種による事例検討会	多職種が参加する事例検討会の実施
多職種カンファレンスの実施	多職種による病棟のカンファレンスやミーティングの実施の記載があるもの。	隔離や身体的拘束が患者にとって利益となっているか、適切か、代替方法はないかを医師と看護師でカンファレンスを実施
		毎週1回、医師と看護師で最小化に向けたカンファレンスの実施
		身体的拘束について、医師と看護師で毎日カンファレンスを行っている。

小カテゴリー	定義	具体的な取り組み例
		<p>毎日看護師と主治医で、隔離や身体的拘束についての話し合いを持っている。</p> <p>隔離について、医師と看護師で週1回のカンファレンスを行っている。</p> <p>朝の申し送り時に多職種で、行動制限最小化が可能かどうかのカンファレンスを実施</p> <p>多職種による定期的なカンファレンスの実施</p> <p>毎週1回多職種が集まる合同カンファレンスで、隔離・身体的拘束者のカンファレンスを実施。</p> <p>急性期病棟の行動制限については、週1回、カンファレンスを多職種で行っている。</p> <p>各病棟において、行動制限最小化カンファレンスを他職種で実施している。</p> <p>連日、看護師と精神保健福祉士でカンファレンスを行う。</p> <p>医師や作業療法士等も適宜カンファレンスに参加し、協議する機会を確保している</p>
多職種カンファレンスによる検討	多職種で、病棟のカンファレンスやミーティングで、隔離・身体的拘束最小化に向けて検討している、話し合っているなどの記載があるもの。多職種とは異なる職種(例:医師と看護師)によるものとし、行動制限最小化委員会においての多職種による検討・評価はここに含めない。	<p>毎日、医師とカンファレンスをし、隔離時間の短縮を検討している。</p> <p>時間開放について、主治医と相談し、病棟ミーティングで検討している。</p> <p>毎日の医師・看護師合同カンファレンスで行動制限の時間の削減を検討</p> <p>毎日、医師とカンファレンスをし、隔離時間の解除を検討している。</p> <p>毎日、医師とのカンファレンスにおいて、身体的拘束の見直しを行い代替方法がないかを検討している。</p> <p>各病棟で看護師と主治医が患者の状態を話しあっている。</p> <p>行動制限の継続指示が続いた場合、1週間毎に主治医と看護師で中間検討を実施</p> <p>安易な介護服・ミトン・車椅子ベルトの使用について、主治医と相談し、病棟ミーティングで検討している。</p> <p>毎朝、申し送り時に隔離や身体的拘束の適正について病棟看護師と精神保健福祉士で検討</p> <p>毎日のカンファレンスにおいて、精神科と身体科主治医が、患者の身体治療状況に合わせ、解除できる隔離・身体的拘束はないか確認している</p> <p>個別カンファレンス時に、隔離や身体的拘束の適正について他科主治医も含めて多職種で検討。</p> <p>開放観察時の観察項目チェック表を活用し、毎朝のカンファレンスで現在の行動制限が最小化できないか多職種で検討を行っている。</p> <p>多職種による全体カンファレンスで行動制限実施者の解除の策について検討</p> <p>病棟では、身体的拘束患者は毎日、多職種間で妥当性を検討している。</p>

小カテゴリー	定義	具体的な取り組み例
		<p>毎朝、朝礼で隔離・身体的拘束について多職種で検討している。</p> <p>多職種による検討会で、毎日、個々のケースを検討している。</p> <p>病棟では、隔離患者は週一度、多職種間で妥当性を検討している。</p> <p>隔離について、週1回のカンファレンスで多職種によって検討している。</p> <p>毎朝、多職種にて隔離拘束継続の適宜について検討</p> <p>週1回院長回診時に多職種で行動制限の必要性について協議している。</p> <p>毎週の多職種合同カンファレンスで隔離・身体的拘束最小限化について話し合う。</p> <p>カンファレンスでそれぞれの思い、考え、意見を述べあい、チーム全体で検討している。</p> <p>点滴や尿道バルーンカテーテルを抜去することは可能か、抜去することで身体的拘束が解除できるか等多角的な面から物事を検討</p> <p>各チームは、薬剤師、精神保健福祉士を交えて週に1度のカンファレンスを通して隔離・身体的拘束最小化のための検討を行っている。</p> <p>定期的に行動制限の見直しを多職種で話し合っている。</p> <p>毎週の行動制限カンファレンスでは、プライマリー看護師だけでなくメンバー全員で患者の今後の方向や行動制限軽減について話し合う。</p>
多職種カンファレンスによる評価	多職種で評価しているもの	<p>週1回、多職種の専門職が集まり、意見を出し合うことで、実行中の隔離・身体的拘束が妥当なものかをくり返し評価している。</p> <p>隔離クリティカルパスのアセスメントは病棟医、病棟管理者、隔離担当者で毎日実施</p> <p>病棟では、看護師と主治医で患者の行動制限のレベルを決めている。</p>
患者からの聞き取り	隔離・拘束患者からの聞き取り調査を実施	<p>行動制限最小化委員会開催時に重点的に監査する患者を選定し、病棟ラウンド時患者から状況の確認を行う。</p> <p>隔離・身体的拘束が長期間に及んだ場合には、隔離・身体的拘束患者からの聞き取り調査を実施</p>
プライマリー看護師の複数化	プライマリー看護師を複数化しているもの。	より広い視野で行動制限最小化について考えるためプライマリー看護師を複数化

表 9 病棟における行動制限緩和に向けた取り組み

小カテゴリー	定義	具体的な取り組み例
病棟における情報共有するための工夫	病棟内で行動制限について情報共有するための工夫について記載されているもの。体制を整備しているもの。	可視化したレポートで情報共有を行っている。
		毎朝、申し送り時に隔離や身体的拘束の実施状況の共有
		個別カンファレンス時に、隔離・身体的拘束の実施状況の共有
		多職種による全体カンファレンスで行動制限実施者の状況確認
		毎日のカンファレンスで隔離・身体的拘束の患者をチーム内で共有している。
		開放観察時の観察項目チェック表を活用し毎朝のカンファレンスで精神症状等を共有している。
		毎朝、行動制限について検討した内容を記載する記録用紙を作成し、行動制限の継続、時間短縮、解除等の検討内容、確認サインを残している。
		カンファレンス内容を記載するカンファレンス用紙を作成し記録を残す。
		日々のカンファレンスの行動制限に関する検討内容を議事録として残している。
		カンファレンス用紙には、主治医の見解も記載している。
		行動制限最小化委員会とは別の実働部会がカンファレンスシートを作成し、行動制限カンファレンスを積極的に行うよう働きかけた。
		毎日のカンファレンスで出た意見を主治医および精神科部長に伝え、患者の精神状態の変化を逐一把握できる体制をとっている。
		開放観察の実施結果を記録に残す。
医療安全委員会で転倒防止対策として転倒予防策を詳しく明示し、毎日状態に合わせ更新した情報をベッドサイドに掲示している。		
開放観察を推進する指示	開放観察に向く指示について設定されているもの。	<p>看護判断で行動制限を再開できる「開放観察処置」の設定</p> <p>「適宜開放観察可能」「適宜拘束解除可能」の指示がある。</p> <p>曖昧な指示による行動制限の継続にならないように、開放観察の時間の設定や解除に向くような指示へ変更</p> <p>「見守り下開放可」を「常時観察下開放」に変更</p>
行動制限を緩和するための計画立案	開放観察・解除の計画を立案している。	<p>精神保健指定医を交えながら一時的な開放を具体的に計画している。</p> <p>行動制限が1ヶ月以上続いている患者に対する解除計画作成</p>



小カテゴリー	定義	具体的な取り組み例
定例的な検討機会の確保	病棟カンファレンスなど、定例的に行動制限について検討する場について記載があるもの。	<p>病棟で、毎日、隔離・身体的拘束者のカンファレンスを実施</p> <p>各勤務帯でのカンファレンス</p> <p>毎日看護師カンファレンスを実施</p> <p>看護師によるショートカンファレンス</p> <p>行動制限最小化カンファレンスを症状によって毎日～週1回開催し、早期解除に向けている。</p> <p>定期的なカンファレンスを行い、行動制限最小化に努めている。</p> <p>長期化している患者は、隔離・身体的拘束カンファレンスを原則1回/週の開催。</p> <p>行動制限が1ヶ月以上続いている患者に対するカンファレンス</p> <p>原則、即日から1週間以内の隔離・身体的拘束カンファレンスの開催</p> <p>週1回、各病棟で隔離・身体的拘束についてのカンファレンスを実施</p> <p>朝の申し送りにカンファレンスを組み入れている。</p> <p>行動制限最小化についてのカンファレンスの開催</p> <p>病院全体として、隔離・身体的拘束に関して毎日カンファレンスを行う。</p> <p>病棟で行動制限全般についてカンファレンスの実施。</p> <p>1日1回ペアリングナースで身体的拘束について話し合う。</p> <p>認知症治療病棟でカンファレンスを行い個別に検討している。</p> <p>週に1回、教授回診前に全体でも隔離や身体的拘束についての話し合いを持っている。</p> <p>日々のカンファレンスで行動制限にむけて主治医と意見交換している。</p> <p>毎朝、隔離・身体的拘束患者の行動制限の必要性を看護師間で議論した後、その日のリーダーが主治医と意見交換している。</p>
行動制限に関する検討内容	定例的に行動制限について検討する場で検討している内容について記載されているもの。	<p>毎朝の申し送り時に、隔離・身体的拘束患者の症状や状況から行動範囲拡大が図れるか小カンファレンスを実施</p> <p>今後の方向についての小カンファレンスを実施</p> <p>精神科と身体科の主治医による今後の見通しの話し合いから隔離・身体的拘束を外すタイミングを逃さずに早期解除に努めている</p>

小カテゴリー	定義	具体的な取り組み例
		<p>病棟の行動制限最小化カンファレンスで行動制限時間の削減や最小化等に努めている。</p> <p>部署ごとで長時間車いす固定していることを見直すためのカンファレンスを実施</p> <p>隔離・身体的拘束の解除について、カンファレンスで検討</p> <p>週に1度、定期的に行動制限削減の検討を行っている。</p> <p>病棟カンファレンスで、行動制限を削減できるものはないか話し合っている。</p> <p>日々のカンファレンスで現状から開放観察・解除はできないかやこの隔離や身体的拘束が妥当かを話し合っている。</p> <p>隔離・身体的拘束共に実施せず経過観察を行う場合、おおむね2週間後に解除の検討</p> <p>毎朝、隔離・身体的拘束患者の行動制限の必要性を看護師間で議論している。</p> <p>毎朝のカンファレンスで、看護師が最小化に向けて話し合っている。</p> <p>毎日、2回のカンファレンスで行動制限の妥当性を検討している。</p> <p>病棟において、毎月最低1回の行動制限最小化に向けた話し合いを実施。</p> <p>行動制限が長期化している患者の検討</p> <p>長期身体的拘束の多い病棟で身体的拘束の必要性を見直している。</p> <p>病棟カンファレンスで、代替方法はないか話し合っている。</p> <p>カンファレンスによって行動制限が解除や開放時間の延長ができないか検討する。</p> <p>隔離に関しては、一時開放に繋がるような話し合いをもっている。</p> <p>毎日のカンファレンスで、行動制限を少なくするためのケアの検討を行っている。</p>
ツールの使用による検討・評価	フローシートなどツールを使って検討し、評価しているもの。	<p>隔離、身体的拘束のフローシートを用いてカンファレンスを実施</p> <p>シートを使って受け持ちを中心にカンファレンスを行う。</p> <p>入院時に、必ず医師が行動評価尺度表にチェックをいれている。</p> <p>患者別に「行動制限患者確認表」を作成し、看護師による行動制限解除に向けた具体的な取り組み、評価を記載し、医師が確認しコメントを記載している。</p> <p>毎朝の申し送りの際参加者で隔離・身体的拘束の評価判断基準表を使って対象者の評価を行い(点数化)、低得点が続く場合は解除に向けて医師に進言している。</p>

小カテゴリー	定義	具体的な取り組み例
定例的な評価の機会の確保	病棟カンファレンスなどで、定例的に行動制限について評価する場について記載があるもの。	<p>隔離・拘束解除に向けた、開放観察時の観察項目チェック表を作成した。</p> <p>定期的なカンファレンスで身体的拘束の妥当性、評価を行い、行動制限最小化に努めている。</p> <p>隔離・身体的拘束者は週1回評価することを統一している。</p> <p>週に1度、行動制限に対する評価を実施</p> <p>隔離、身体的拘束の評価を週1回実施</p> <p>最長7日連続で身体的拘束された場合、一時身体的拘束を解除し主治医の診察を受け、継続もしくは解除の評価をする。</p> <p>6か月以上の隔離は、月1回、6か月未満の隔離は、最低月1回、評価している。</p> <p>日々、精神保健指定医立ち合いのもと、評価の見直しを行っている。</p> <p>身体拘束者の状態を適正に評価</p> <p>病棟師長は、隔離・身体的拘束者の評価日を設定し医師と実施している。</p> <p>毎週、定期的に行動制限適正評価会を開催している</p>
行動制限に関する評価内容	定例的に行動制限について評価している内容について記載されているもの。	<p>精神保健指定医を交えながら一時的な開放を評価している。</p> <p>日常的に医療者が介入する中で、開放観察が可能であるかどうか判断し、可能な限り隔離・拘束解除を行っている。</p>
行動制限を緩和するための工夫	開放観察を実施・解除にむけて、さまざまな工夫について記載があるもの。他に、具体的な内容は書かれていないが、開放観察をすすめているなどの記載もここに含む。	<p>病状が軽快し次第、身体的拘束解除や一時的な隔離退室にいち早く取り組んでいる。</p> <p>隔離、身体的拘束の撤廃を目指すため、解放時間をできるだけ長く設けている。</p> <p>積極的に開放を試みて、解除となるよう努めている。</p> <p>隔離に関しては主治医の判断により極短時間開放や個別時間開放から行うようにしている。</p> <p>隔離時間の短縮のため、開放時間を設け、徐々に伸ばしている。</p> <p>段階的な時間開放の拡大や拘束部位の縮小をしている。</p> <p>できるだけ最小・最短になるよう変則的な時間や枠組みを取り入れ、柔軟に運用している。</p> <p>少しでも開放時間を延ばすなどを主治医と相談</p> <p>医師と共同で、身体的拘束解除を実施</p> <p>精神保健指定医を交えながら一時的な開放を実施している。</p>

小カテゴリー	定義	具体的な取り組み例
		<p>複数看護師のかかわりで、身体的拘束解除を実施</p> <p>長期に身体的拘束を実施していた患者に対して、身体的抑制の代替として看護師が付き添う。</p> <p>出来る限り解除できる時間や見守り下での解除であっても取り入れるようにしている。</p> <p>そばに付き添い身体的拘束を解除する時間を作る</p> <p>隔離に関しては、スタッフが付き添い、出来る限り開放時間を確保している。</p> <p>看護師はマンツーマン対応で隔離・身体的拘束を開放している。</p> <p>解放の時間中は職員の付き添いや見守りで対応している。</p> <p>身体的拘束解除で転倒のリスクが高まる患者には、家族から了解を得た上で短時間の試験解縛からスタートしている。</p> <p>行動制限解除が難しい患者でも、その時々状態に応じて時間開放や部分開放を積極的に実施している。</p> <p>車いすを活用して、食事はデイルームで摂るように働きかけ、職員の見守りのもと摂取してもらうよう心掛けている。</p> <p>見守りが可能な時間帯である日中や食事の時間、レクリエーション参加時間は隔離解除し、デイルームで過ごす様にした。</p> <p>代替手段を模索している。</p>
行動制限に係る自主監査	自主監査しているという記載のもの。	病棟にて行動制限が適切に行われているかチェック表を用いて、定期的に自主監査している。
カンファレンスの見直し	カンファレンスについて見直しているもの。	<p>定期カンファレンスの充実</p> <p>身体的拘束に関するカンファレンスを改善した。</p>

表 10 病棟における患者への直接ケア

小カテゴリー	定義	具体的な取り組み例
行動制限中の患者への手厚いケアの提供	行動制限中の患者のケアを充実させているもの。	行動制限中の患者に対するケア時間の充実
		行動制限中の患者を優先的に対応
		患者の行動理由を知ることにおき、かかわるようにしている。
		長期身体的拘束者に対して、精神症状やその行動を密に観察するようにした。
環境調整	行動制限最小化を目的とした部屋の工夫、ベッドの配置、物品の工夫、処置方法の工夫などの記載があるもの。	転倒・転落の恐れのある患者は必ず同室にしている。
		指示が通らず徘徊してしまう患者には、ナースステーションなど目の届くところに座って過ごしてもらう。
		転落予防のためベッドを止めマットを敷き詰めた病室環境を作る
		不穏・多動によるベッドからの転落予防のため、ベッドを最も低い状態にした上で、左右いずれか一方を壁に接するようにし、もう一方の床にセンサーマットを設置
		ドレーン、尿道カテーテル、点滴ラインなど管類に留意し、抜去の危険を考慮しつつ、管類の減少に伴い最小化に取り組んでいる
		点滴の刺入部を工夫している。
		胃チューブの抜去予防で、クッションを工夫している。
		鼻腔経管栄養の患者に対して、時間短縮できる方法に変更した。
道具の導入	行動制限を最小化するために道具を導入しているもの。	身体的拘束に替え、センサーマットを使用
		医療安全委員会で転倒防止対策として離床センサー類を大量に購入した。
		転落予防のための身体的拘束に対して、低床ベッドを導入。
		転倒時の衝撃低減用マットを準備
		環境の整備(ヒッププロテクターや頭部保護帽、超低床ベッド、離床センサー、マット類など)などを行ったうえで、当院では転倒・転落予防のための身体的拘束は行わないことにしている。
多飲症についての心理教育	多飲症についての心理教育	多飲症について心理教育を取り入れる
隔離による早期介入	隔離による早期介入	保護室が多いこと等から、隔離などの早期の介入ができています。

小カテゴリー	定義	具体的な取り組み例
カンフォータブルケアの実施	カンフォータブルケアの実施	カンフォータブルケアの実施
患者・家族への説明と同意	行動制限をしないことで起こる危険性について本人・家族へ説明し、同意を得るなどの記載があるもの。	認知症には、身体的拘束をしないことで転倒・転落の危険もあるので家族に説明を重ねている。
		患者本人・家族への説明と同意を行った上で、当院では転倒・転落予防のための身体的拘束は行わないことにしている。
		身体的拘束解除で転倒のリスクが高まる患者には、事前に家族に主治医から転倒のリスクを説明する。

## 付録 4

本調査でを使用した調査票(調査票 1～5)

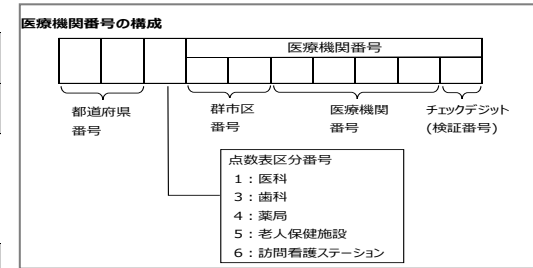
図 1 Sheet [調査票 1] ①

調査票1 調査対象の医療機関情報に関する調査票

※調査票1入力方法の詳細については、「3\_操作手順(事務・看護部門)」シートをご覧ください。

当該病院医療機関情報

1.医療機関名	2.回答担当者氏名	3.連絡先(email)	4.(電話番号)
*氏名、連絡先は任意です。ご記入いただいた場合でも、本調査に関する問い合わせ以外で使用することは一切ありません。			
5.都道府県番号	6.機関種別 * 入力不要	7.医療機関番号 (7桁の半角数字を入れてください) ※各医療機関固有のレセプトの番号です	
	1		



01.北海道 ~ 47.沖縄県

⇒⇒⇒「調査全体の流れ」をご確認いただき、平成21年か平成26年あるいは回答不可を選択してください。⇒⇒⇒

以下、令和元年(2019年)6月30日0時時点でご回答ください。

※選択肢がある欄は選択肢から回答してください。選択肢がない欄は数字を入力して回答してください。

8.病院全般機能	回答
① 医療機関全体で病床はいくつありますか	
② 「内科、外科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科」の全ての科がありますか	
③ 設立主体を教えてください	

・100床以上を持つ病院  
・20-99床を持つ病院

・内科、外科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科の全ての科がある  
・全ての科はない

・国等設立医療機関  
・その他の公的医療機関  
・民間、その他医療機関

※休床しているものも含む。※治験目的のものは除く。※ここは精神病床だけでなく一般病床等を含めすべて計上してください。

※外来のみでも可、休診中でも可。標榜名に「内科」が含まれていれば、内科とみなしてください。

※「国等設立医療機関」とは、「国立」「都道府県立」「都道府県が関与する地方独立行政法人」を指します。

※その他の公的医療機関とは、社会福祉法人恩賜財団済生会、厚生農業協同組合連合会、日本赤十字社等の団体を指します。

9.精神科・心療内科医療機能	回答
① 全病床のうち自治体に許可された精神病床は何床ありますか (許可病床数)	
② 精神病床の病棟数	
③ 措置入院の指定病床数 ※都道府県から指定をうけた病床数	
④ 応急入院の指定の有無	

・有  
・無

※医療法に基づき、都道府県から許可を得た精神病床数。

※院内の内科病棟等は対象外です。

※一棟でその病棟において終日閉鎖と夜間開放が同時に行われている等、開放区分がまたがっている場合、異なる病棟として数えてください。

※また、一つの病棟内で入院料区分が異なっている場合も、異なる病棟として数えてください。

10.職員数	常勤	非常勤
① 精神科医師数		
② 精神科医師数のうち、精神保健指定医数		

※ 精神科医師数、精神保健指定医数は当該年度の6月30日直近のデータでご回答下さい。

▼非常勤職員の常勤換算方法

(1週間の勤務時間/1週間の常勤職員の規定勤務時間)→同じ勤務形態の人が4人いる場合 0.2×4人=0.8

※月に1日等の、1週間単位で考えられない勤務形態については、

月単位で(1か月の勤務時間/1週間の常勤職員の規定勤務時間×4週)と数えてください。

例)1週間の常勤職員の規定勤務時間が40時間。Bさんの1週間の勤務時間が8時間だった場合 8時間/40時間=0.2  
→同じ勤務形態の人が4人いる場合 0.2×4人=0.8



図 2 Sheet [調査票 1] ②

令和元年(2019年)  
6月30日0時 時点でご回答ください。

厚生局に届け出た精神病床数。  
休床中は届出をしていても「0」として  
回答してください。

別の病棟の保護室を借りている場合は、  
もともとの所属病棟の患者として  
回答してください。

「夜間外開放」→少なくとも日中8時間程度以上は、病棟の出入口に施錠していない病棟。  
「終日閉鎖」→原則として終日、病棟の出入口を施錠している病棟。  
「上記以外」→「夜間外開放」「終日閉鎖」に該当しない病棟や、精神保健福祉法の適用を受けない医療観察法による入院施設の病棟や、休床中の病棟。

看護師・准看護師の有資格者の実人数を回答して下さい。  
(常勤換算による人数ではありません)  
0時の看護職員の実人数が、勤務帯交代のため、準夜勤と深夜勤の看護職員が重なる場合は、深夜勤の看護職員数のみ計上してください。

NO.	11.届出病棟入院料	12.病院内での病棟名	13.届出病床数	14.在院患者数	15.開放区分	16. 6月30日0時の看護職員の実人数 (准看護師含む) *看護助手は含めない	17. 6月30日12時の看護職員実人数 (准看護師含む) *看護助手は含めない
1							
2		<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神科救急入院料</li> <li>・精神科救急・合併症入院料</li> <li>・精神科急性期治療病棟入院料(医師配置加算あり)</li> <li>・精神科急性期治療病棟入院料(医師配置加算なし)</li> <li>・精神療養病棟入院料</li> <li>・認知症治療病棟入院料</li> <li>・地域移行機能強化病棟入院料</li> <li>・特殊疾患病棟入院料</li> <li>・児童・思春期精神科入院医療管理料</li> <li>・10対1入院基本料</li> <li>・13対1入院基本料</li> <li>・15対1入院基本料</li> <li>・18対1入院基本料</li> <li>・20対1入院基本料</li> <li>・特別入院基本料</li> <li>・特定機能病院入院基本料(7対1)</li> <li>・特定機能病院入院基本料(10対1)</li> <li>・特定機能病院入院基本料(13対1)</li> <li>・特定機能病院入院基本料(15対1)</li> <li>・医療観察法入院対象者入院医学管理料</li> <li>・その他</li> </ul>					
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
~							
40							

夜間外開放  
終日閉鎖  
それ以外

図 3 Sheet [調査票 1] ③

**入力確認ボタン**

**注！** このボタンを押した後にセルが黄色で表示された場所は、間違いがあります。修正の上、再度このボタンを押してください。

**調査票2作成ボタン**

※下記の表に入力した各病棟分、各年度分の★★調査票2エクセルができます。

・平成21年  
・平成26年  
・回答不可

**回答時期**

※選択肢がある欄は選択肢から回答してください。選択肢がない欄は数字を入力して回答してください。

8.病院全般機能		回答
①	当時の <b>医療機関全体で病床</b> はいくつありましたか	※休床しているものも含む。※治験目的のものは除く。※ここは精神病床だけでなく一般病床等を含めすべて計上してください。
②	当時は「 <b>内科、外科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科</b> 」の全ての科がありましたか	※外来のみでも可、休診中でも可。標榜名に「内科」が含まれていれば、内科とみなしてください。 ・内科、外科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科の全ての科がある ・全ての科はない
③	当時の設立主体を教えてください	※「国等設立医療機関」とは、「国立」「都道府県立」「都道府県が関与する地方独立行政法人」を指します。 ※その他の公的医療機関とは、社会福祉法人恩賜財団済生会、厚生農業協同組合連合会、日本赤十字社等の団体を指します。

・国等設立医療機関  
・その他の公的医療機関  
・民間、その他医療機関

9.精神科・心療内科医療機能		回答
①	当時、全病床のうち自治体に許可された <b>精神病床</b> は何床ありましたか（許可病床数）	※医療法に基づき、都道府県から許可を得た精神病床数。
②	当時の <b>精神病床の病棟数</b>	※院内の内科病棟等は対象外です。
③	当時の措置入院の <b>指定病床数</b> ※都道府県から指定を受けた病床数。	※一棟でその病棟において終日閉鎖と夜間外開放が同時に行われている等、開放区分がまたがっている場合、異なる病棟として数えてください。
④	当時の応急入院の指定の有無	※また、一つの病棟内で入院料区分が異なっている場合も、異なる病棟として数えてください。

・有  
・無

10.職員数		常勤	非常勤
①	当時の精神科医師数		
②	当時の精神科医師数のうち、精神保健指定医数		

※ 精神科医師数、精神保健指定医数は当該年度の6月30日直近のデータでご回答ください。

▼非常勤職員の常勤換算方法

(1週間の勤務時間/1週間の常勤職員の規定勤務時間)×同じ勤務形態の人が4人いる場合 0.2×4人=0.8

※月に1日等の、1週間単位で考えられない勤務形態については、

月単位で(1か月の勤務時間/1週間の常勤職員の規定勤務時間×4週)と考えてください。  
例)1週間の常勤職員の規定勤務時間が40時間。Bさんの1週間の勤務時間が8時間だった場合 8時間/40時間=0.2  
同じ勤務形態の人が4人いる場合 0.2×4人=0.8

図 4 Sheet [調査票 1] ④

NO.	11.届出病棟入院料	12.病院内での病棟名	13.届出病床数	14.在院患者数	15.開放区分	16. 6月30日0時の看護職員数 (准看護師含む) *看護助手は含めない	17. 6月30日12時の看護職員数 (准看護師含む) *看護助手は含めない
1							
2		<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神科救急入院料</li> <li>・精神科救急・合併症入院料</li> <li>・精神科急性期治療病棟入院料(H21)</li> <li>・精神科急性期治療病棟入院料(医師配置加算あり)(H26)</li> <li>・精神科急性期治療病棟入院料(医師配置加算なし)(H26)</li> <li>・精神療養病棟入院料</li> <li>・認知症治療病棟入院料</li> <li>・特殊疾患病棟入院料</li> <li>・小児入院医療管理料3(H21)</li> <li>・小児入院医療管理料5(H26)</li> <li>・児童・思春期精神科入院医療管理料(H26)</li> <li>・医療観察法入院対象者入院医学管理料</li> <li>・10対1入院基本料</li> <li>・13対1入院基本料(H26)</li> <li>・15対1入院基本料</li> <li>・18対1入院基本料</li> <li>・20対1入院基本料</li> <li>・特別入院基本料</li> <li>・特定機能病院入院基本料(7対1)</li> <li>・特定機能病院入院基本料(10対1)</li> <li>・特定機能病院入院基本料(13対1)(H26)</li> <li>・特定機能病院入院基本料(15対1)</li> </ul>					
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
~							
40							

\*医療観察法病棟については、一律「医療観察法入院対象者入院医学管理料」を選択してください。かつ、1つの病棟としてカウントしてください。

厚生局に届け出た精神病床数。休床中は届出をしても「0」として回答してください。

別の病棟の保護室を借りている場合は、もともとの所属病棟の患者として回答してください。

「夜間外開放」一少なくとも日中8時間程度以上は、病棟の出入口に施錠していない病棟。「終日閉鎖」一原則として終日、病棟の出入口を施錠している病棟。「上記以外」一「夜間外開放」「終日閉鎖」に該当しない病棟や、精神保健福祉法の適用を受けない医療観察法による入院施設の病棟や、休床中の病棟。

看護師・准看護師の有資格者の人数を回答して下さい。0時の看護職員の数、勤務交代のため、準夜勤と深夜勤の看護職員が重なる場合は、深夜勤の看護職員数のみ計上して下さい。

- ・精神科救急入院料
- ・精神科救急・合併症入院料
- ・精神科急性期治療病棟入院料(H21)
- ・精神科急性期治療病棟入院料(医師配置加算あり)(H26)
- ・精神科急性期治療病棟入院料(医師配置加算なし)(H26)
- ・精神療養病棟入院料
- ・認知症治療病棟入院料
- ・特殊疾患病棟入院料
- ・小児入院医療管理料3(H21)
- ・小児入院医療管理料5(H26)
- ・児童・思春期精神科入院医療管理料(H26)
- ・医療観察法入院対象者入院医学管理料
- ・10対1入院基本料
- ・13対1入院基本料(H26)
- ・15対1入院基本料
- ・18対1入院基本料
- ・20対1入院基本料
- ・特別入院基本料
- ・特定機能病院入院基本料(7対1)
- ・特定機能病院入院基本料(10対1)
- ・特定機能病院入院基本料(13対1)(H26)
- ・特定機能病院入院基本料(15対1)

- ・夜間外開放
- ・終日閉鎖
- ・それ以外

図 5 Sheet [調査票 2]

調査票2 6月に精神病床で隔離・身体的拘束の指示が出されていた患者の一覧表

※調査票2入力方法の詳細については、「4.調査票2入力方法」シートをご覧ください。

入力確認ボタン

このボタンを押した後にセルが黄色で表示された場所は、間違いがあります。修正の上、再度このボタンを押して下さい。

隔離・身体的拘束が〇の病棟は、Q&Aシートの上の説明文をお読み下さい。⇒⇒⇒⇒⇒ [詳細はこちら](#)

届出病棟入院料	病院内での病棟名	届出病床数	在院患者数	開放区分	6月30日0時の看護師数	6月30日12時の看護師数

調査票3・4作成ボタン

・調査票3・4作成ボタンを押す前に間違いがないかをもう一度ご確認ください。

・調査票3・4は、「★調査票2」エクセルの入力をもとに作成されます。

・調査票3・4の作成後に、「★調査票2」エクセルを修正した場合には、再度「★調査票2」エクセルにある「調査票3・4作成ボタン」を押すところまでさかのぼってやり直しなければなりません。その際には、作成されていた調査票3・4の情報はすべて削除されますのでご注意ください。

注意) 行を空けずに、上から順番にご入力をお願いいたします。一度入力した情報を消去した場合も、行を上 に 詰めて下さい。

1.患者ID	2.参加拒否があった場合にチェック	3.入院年月 (生年月日ではありません)		4.年齢(年代)	5.性別	6.主診断	7.入院形態	8.制限の種別	9.患者の状況											
		年	月						1	2	3	~	28	29	30					
(R1) ・令和元年(2019年) ～・昭和20年(1945年) (H26) ・平成26年(2014年) ～・昭和20年(1945年) (H21) ・平成21年(2009年) ～・昭和20年(1945年) ・不明	・1～12 ・不明			・0歳から4歳 ・5歳から9歳 ・85歳から89歳 ・90歳以上 ・不明	・男性 ・女性 ・不明	・F00 アルツハイマー型認知症 ・F01 血管性認知症 ・F02-09 上記以外の症状性を含む器質性精神障害 ・F10 アルコール使用による精神及び行動の障害 ・覚せい剤による精神及び行動の障害 ・アルコール覚せい剤を除く精神作用物質使用による精神及び行動の障害 ・F2 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害 ・F3 双極性障害 ・F3 その他の気分障害 ・F4 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害 ・F5 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群 ・F6 成人のパーソナリティ及び行動の障害 ・F7 精神遅滞(知的障害) ・F8 心理的発達障害 ・F9 小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害及び特定不能の精神障害 ・てんかん(F0)に属さないものを計上する ・その他	・任意入院 ・医療保護入院 ・緊急措置入院 ・措置入院 ・応急入院 ・鑑定入院 ・医療観察法による入院 ・不明	隔離 拘束 隔離 拘束 隔離 拘束 隔離 拘束 隔離												

**【患者の状況】**

1. 1日中指示継続
2. 指示開始
3. 指示継続のまま(精神病床へ)転入(転入日は指示継続中)
4. 指示継続のまま(精神病床へ)転出(転出日に指示開始を含む)
5. 指示解除(転入日に指示解除含む)
6. 指示開始→解除→再度開始でその日が終わった
7. 指示開始→解除でその日が終わった
8. 指示解除→開始でその日が終わった
9. 指示解除→開始→再度解除でその日が終わった

※わからない場合は診療録等を参照の上、1から9に当てはめてご回答下さい。





## 調査票5 隔離・身体的拘束最小化に影響する組織体制、姿勢、取り組みに関する調査票

### 令和元年時点の病院全体

隔離・身体的拘束を削減するために効果的な取り組みを抽出し、それをより多くの病院と共有したいと考えておりますので、もしありましたら回答にご協力をお願いいたします。なくても構いません。その場合には記入せずにご提出下さい。

■ 回答者の方にお伺いします。

職種： _____ (役職： _____ )
該当する場合には☑して下さい。 <input type="checkbox"/> 行動制限最小化委員会の委員長 <input type="checkbox"/> 行動制限最小化委員会の委員

■ 隔離・身体的拘束を削減する(時間の削減、頻度の削減、隔離・身体的拘束自体の撤廃など)組織的な取り組みについて、実施していることがある場合には下記にご回答下さい。

1-1 その取り組みについて具体的な内容を教えて下さい。

--

1-2 その取り組みを始めたきっかけはありましたか。あればできるだけ具体的にご記入下さい。

--

1-3 その取り組みを始めたのはいつ頃ですか。分かれば教えて下さい。

--

図 9 Sheet [調査票 5] ②

1-4 キーパーソン(リーダーシップをとる人物)はいましたか。該当する方がいる場合には、  
どのような立場の人物がどのように取り組みに関与したのかをできるだけ具体的にご記入下さい。

1-5 その取り組みは、組織全体に浸透して維持されていましたか。  
その場合には、どのような工夫がされたのかを具体的にご記入下さい。

\*この調査にご協力いただいた後に、当研究班では行動制限最小化の取り組みについて事例を作成する予定です。

その際のインタビュー調査にご協力が難しい場合には、以下にチェックをお願いいたします。

注)すべての施設にインタビューを行うわけではありません。

インタビュー調査について **選択**

協力が難しい



## 研究成果の刊行に関する一覧表

## 書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ

## 雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
吉田光爾	精神保健福祉医療資源整備状況のWeb上での「見える化」システム：ReMHRAD(リムラッド)の開発と公表	精神障害とリハビリテーション	23(2)	166-173	2019年
山之内芳雄	地域定着を促すためのデータ活用と医療資源シフトの必要性	PPTS Bulletin	23(1)	3-9	2019年

厚生労働大臣 殿

機関名 国立研究開発法人  
国立精神・神経医療研究センター

所属研究機関長 職 名 理事長

氏 名 水澤 英洋



次の職員の令和元年度厚生労働行政推進調査事業費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 障害者政策総合研究事業

2. 研究課題名 医療計画、障害福祉計画の効果的なモニタリング体制の構築のための研究

3. 研究者名 (所属部局・職名) 精神保健研究所精神医療政策研究部・部長

(氏名・フリガナ) 山之内 芳雄 ・ヤマノウチ ヨシオ

## 4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	国立精神・神経医療研究センター	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

## その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

## 5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

## 6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (有の場合はその内容: 当該法人の利益を優先することなく当該研究が科学的に公正な内容となるよう留意し研究成果公表時にCOI開示を徹底すること。利害関係を有する法人とは契約手続きの透明性、公正性、取引条件の適正性に十分留意して契約を行うこと)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。 ・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣 殿

機関名 国立研究開発法人  
国立精神・神経医療研究センター

所属研究機関長 職名 理事長

氏名 水澤 英洋

印

次の職員の令和元年度厚生労働行政推進調査事業費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 障害者政策総合研究事業
2. 研究課題名 医療計画、障害福祉計画の効果的なモニタリング体制の構築のための研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 精神保健研究所精神医療政策研究部政策評価研究室・室長  
(氏名・フリガナ) 臼杵 理人 ・ウスキ マサト

## 4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

## 5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

## 6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する口にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

2020年 3月 31日

厚生労働大臣 殿

機関名 東洋大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 竹村 牧男



次の職員の令和元年度厚生労働行政推進調査事業費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 1. 研究事業名 障害者政策総合研究事業
- 2. 研究課題名 医療計画、障害福祉計画の効果的なモニタリング体制の構築のための研究
- 3. 研究者名 (所属部局・職名) ライフデザイン学部生活支援学科 教授  
(氏名・フリガナ) 吉田光爾 (ヨシダコウジ)

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。  
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和 2 年 3 月 31 日

厚生労働大臣 殿

機関名 大阪医科大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 大槻 勝紀

印

次の職員の令和元年度厚生労働行政推進調査事業費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 障害者政策総合研究事業

2. 研究課題名 医療計画、障害福祉計画の効果的なモニタリング体制の構築のための研究

3. 研究者名 (所属部局・職名) 神経精神医学 ・ 教授

(氏名・フリガナ) 米田 博 ・ ヨネダ ヒロシ

#### 4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input checked="" type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称: )	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

具体的な研究計画を策定する段階にあり、今後倫理審査を受ける予定である。

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

#### 5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

#### 6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関: )
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由: )
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容: )

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。

・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。